

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(44)

国道269号線高須バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

榎木原遺跡

1987年3月

鹿児島県教育委員会

序 文

この報告書は、鹿児島県教育委員会が国道 269号線高須バイパス建設工事に先立って、昭和60年度に実施した榎木原遺跡発掘調査の記録です。

榎木原遺跡は、縄文時代後期・晩期及び弥生時代中期を中心にした埋蔵文化財包蔵地で、この度の発掘調査によって、縄文時代における瀬戸内地方や西九州との交流をうかがわせる土器・石器等の遺物をはじめとして、弥生時代・その他の時代の遺物・遺構が多数発見されました。

本書は、肝属地域の先史時代の解明に貴重な手掛かりを提供することができるものと考えます。鹿児島県の先史時代の研究や文化財の保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに、この発掘調査に御協力くださった県土木部道路建設課鹿屋市教育委員会並びに地元の方々に心から感謝いたします。

昭和62年 3 月

鹿児島県教育委員会

教 育 長 山 田 克 穂

例 言

1. この報告書は、国道 269 号線高須バイパス建設工事に伴う榎木原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、鹿児島県土木部道路建設課の受託事業として、鹿児島県教育委員会が実施した。
3. 発掘調査や、報告書作成については、鹿児島県考古学会会長河口貞徳氏、別府大学教授賀川光夫氏、北九州市立考古博物館館長小田富士雄氏の指導助言を得た。
4. 放射性炭素測定においては京都産業大学助教授山田治氏に依頼した。
5. 花粉分析においては宮崎大学農学部助教授藤原宏志氏に依頼した。
6. 本遺跡の土層関係は玉龍高校（当時徳之島高校）教諭成尾英仁氏の同定を得、玉稿をいただいた。
7. 本書で用いたレベル数値は海拔絶対高である。
8. 実測、測量、レイアウト、挿図作成、写真撮影、図版作成、編集は弥栄・前迫が行った。なお、執筆分担は下記の通りである。

第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章第1節1、第Ⅲ章第2節1、2-(1) (⑥ を除く)、(2)-⑥、4～7、第Ⅲ章第3節1-(34)~(36)、4、6、第Ⅳ章	弥栄久志
第Ⅲ章第2節2-(1)-⑥、(2)-①~⑤、3、第Ⅲ章第3節1-(1) ~(33)、2、3、5、第Ⅳ章	
第Ⅲ章第1節2	成尾英仁
第Ⅲ章第3節6-(19)	浜崎通

目 次

第 I 章	調査の経過	8
第 1 節	調査に至るまでの経過	8
1	調査の組織	8
2	調査の経過	8
3	日誌抄	9
第 II 章	遺跡の立地と環境	12
第 1 節	遺跡の立地と環境	12
第 2 節	遺跡の環境と周辺遺跡	12
第 III 章	遺跡の概要	18
第 1 節	遺跡の概要および層位	18
1	遺跡の土層	18
2	火山灰堆積物からみた遺跡の特色	21
第 2 節	遺跡の調査	25
1	遺跡の調査概要	25
2	縄文時代の遺構検出・遺物出土状況	25
3	弥生時代の遺物出土状況	47
4	古墳時代～平安時代の遺構検出・遺物出土状況	50
5	中・近世の遺構検出・遺物出土状況	53
6	時期不詳の遺構	57
7	石器の出土状況	59
第 3 節	遺跡の出土遺物	61
1	縄文時代の出土遺物	61
(1)	縄文第 I 類土器	61
(2)	縄文第 II 類土器	65
(3)	縄文第 III 類土器	65
(4)	縄文第 IV 類土器	65
(5)	縄文第 V 類土器	65
(6)	縄文第 VI 類土器	67
(7)	縄文第 VII 類土器	68
(8)	縄文第 VIII 類土器	73
(9)	縄文第 IX 類土器	75
(10)	縄文第 X 類土器	78
(11)	縄文第 XI 類土器	80
(12)	縄文第 XII 類土器	81
(13)	縄文第 XIII 類土器	84
(14)	縄文第 XIV 類土器	86
(15)	縄文第 XV 類土器	86
(16)	縄文第 XVI 類土器	89
(17)	縄文第 XVII 類土器	89
(18)	縄文第 XVIII 類土器	91
(19)	縄文第 XIX 類土器	91
(20)	縄文第 XX 類土器	98
(21)	無文土器 1	103
(22)	縄文第 XXI 類土器	103
(23)	縄文第 XXII 類土器	104
(24)	縄文第 XXIII 類土器	105

(25) 縄文第 XXIV 類土器	117	(31) 円盤状土製加工品	127
(26) 縄文第 XXV 類土器	121	(32) 特殊な底部	127
(27) 縄文第 XXVI 類土器	121	(33) 底部	130
(28) 縄文第 XXVII 類土器	121	(34) 縄文第 XXVIII 類土器	132
(29) 無文土器 2	126	(35) 縄文第 XXIX 類土器	136
(30) 特殊な飾り付けをもつ土器	127	(36) 縄文第 XXX 類土器	165
2 弥生時代の出土遺物	169		
(1) 甕形土器	169		
(2) 壺形土器	175		
3 古墳時代～平安時代の出土遺物	176		
(1) 甕形土器	176		
(2) 壺形土器	176		
(3) その他	176		
(4) 須恵器	181		
4 中・近世の出土遺物	181		
5 その他	181		
6 石器	198		
(1) 石鏃	198	(11) その他の打製石器	212
(2) 異形石器	198	(12) 礫器	212
(3) 石匙	198	(13) 砥石	212
(4) 円孔のある石器	198	(14) 軽石製加工器	214
(5) 円盤状の石器	198	(15) 凹石・敲石・磨石	214
(6) 研磨された石片	198	(16) 石皿	227
(7) 磨製石斧・磨製石器	198	(17) 石錘	227
(8) 打製石斧	199	(18) 特殊な石器	231
(9) 扁平状の石器	199	(19) 石笛状石器について	231
(10) 打製石包丁状の石器	199		
第IV章 まとめ	235		
図版	241		
付篇			
1 榎木原遺跡の液体シンチレーション ¹⁴ C年代測定	268		
2 榎木原遺跡におけるプラントオパール分析	269		

第62図 縄文第XXb類土器(2)……………95	第98図 縄文第XXIX類土器(7)… 143	第134図 石器(1)…………… 200
第63図 縄文第XXc類土器……………97	第99図 縄文第XXIX類土器(8)… 144	第135図 石器(2)…………… 201
第64図 縄文第XXd類土器……………99	第100図 縄文第XXIX類土器(9)… 145	第136図 石器(3)…………… 202
第65図 縄文第XX類土器…………… 101	第101図 縄文第XXIX類土器(10)… 146	第137図 石器(4)…………… 203
第66図 縄文無文土器1…………… 102	第102図 縄文第XXIX類土器(11)… 147	第138図 石器(5)…………… 204
第67図 縄文第XXI類土器…………… 103	第103図 縄文第XXIX類土器(12)… 148	第139図 石器(6)…………… 205
第68図 縄文第XXII類土器…………… 104	第104図 縄文第XXIX類土器(13)… 149	第140図 石器(7)…………… 206
第69図 縄文第XXIII a-1類土器(1)… 106	第105図 縄文第XXIX類土器(14)… 151	第141図 石器(8)…………… 207
第70図 縄文第XXIII a-1類土器(2)… 107	第106図 縄文第XXIX類土器(15)… 152	第142図 石器(9)…………… 208
第71図 縄文第XXIII a-2類土器(1)… 109	第107図 縄文第XXIX類土器(16)… 153	第143図 石器(10)…………… 209
第72図 縄文第XXIII a-2類土器(2)… 110	第108図 縄文第XXIX類土器(17)… 154	第144図 石器(11)…………… 210
第73図 縄文第XXIII b-1類土器…………… 112	第109図 縄文第XXIX類土器(18)… 155	第145図 石器(12)…………… 211
第74図 縄文第XXIII b-2類土器(1)… 113	第110図 縄文第XXIX類土器(19)… 157	第146図 石器(13)…………… 212
第75図 縄文第XXIII b-2類土器(2)… 114	第111図 縄文第XXIX類土器(20)… 158	第147図 石器(14)…………… 213
第76図 縄文第XXIII c類土器他…………… 116	第112図 縄文第XXIX類土器(21)… 159	第148図 石器(15)…………… 214
第77図 縄文第XXIII d類土器…………… 118	第113図 縄文第XXIX類土器(22)… 160	第149図 石器(16)…………… 215
第78図 縄文第XXIV類土器(1)…………… 119	第114図 縄文第XXIX類土器(23)… 161	第150図 石器(17)…………… 216
第79図 縄文第XXIV類土器(2)…………… 120	第115図 縄文第XXIX類土器(24)… 162	第151図 石器(18)…………… 217
第80図 縄文第XXV～XXVI類土器(1) 122	第116図 縄文第XXIX類土器(25)… 163	第152図 石器(19)…………… 218
第81図 縄文第XXV類土器(2)…………… 124	第117図 縄文第XXIX類土器(26)… 164	第153図 石器(20)…………… 219
第82図 縄文第XXV類土器(3)…………… 125	第118図 縄文第XXIX類土器(27)… 166	第154図 石器(21)…………… 220
第83図 縄文無文土器2…………… 126	第119図 縄文第XXIX類土器(28)… 167	第155図 石器(22)…………… 221
第84図 縄文特殊な飾り付け他…………… 128	第120図 縄文第XXIX類土器(29)… 168	第156図 石器(23)…………… 222
第85図 縄文底部(1)…………… 129	第121図 弥生土器(1)…………… 170	第157図 石器(24)…………… 223
第86図 縄文底部(2)…………… 130	第122図 弥生土器(2)…………… 171	第158図 石器(25)…………… 224
第87図 縄文底部(3)…………… 131	第123図 弥生土器(3)…………… 172	第159図 石器(26)…………… 225
第88図 縄文第XXVII類土器(1)…………… 133	第124図 弥生土器(4)…………… 173	第160図 石器(27)…………… 226
第89図 縄文第XXVII類土器(2)…………… 134	第125図 弥生土器(5)…………… 174	第161図 石器(28)…………… 227
第90図 縄文第XXVII類土器(3)…………… 135	第126図 弥生土器(6)…………… 175	第162図 石器(29)…………… 228
第91図 縄文第XXVII類土器(4)…………… 136	第127図 古墳時代の土器(1)…………… 177	第163図 石器(30)…………… 229
第92図 縄文第XXIX類土器(1)…………… 137	第128図 古墳時代の土器(2)…………… 178	第164図 石器(31)…………… 230
第93図 縄文第XXIX類土器(2)…………… 138	第129図 古墳時代の土器(3)…………… 179	第165図 石器(32)…………… 231
第94図 縄文第XXIX類土器(3)…………… 139	第130図 古墳時代の土器(4)…………… 180	
第95図 縄文第XXIX類土器(4)…………… 140	第131図 須恵器…………… 182	
第96図 縄文第XXIX類土器(5)…………… 141	第132図 中・近世の出土遺物… 183	
第97図 縄文第XXIX類土器(6)…………… 142	第133図 土錘…………… 184	

表 目 次

第1表	鹿屋市内の周辺遺跡(1)……………14	第14表	榎木原遺跡出土土器観察表(4)… 188
第2表	鹿屋市内の周辺遺跡(2)……………15	第15表	榎木原遺跡出土土器観察表(5)… 189
第3表	鹿屋市内の周辺遺跡(3)……………16	第16表	榎木原遺跡出土土器観察表(6)… 190
第4表	Pit 計測表(1)……………36	第17表	榎木原遺跡出土土器観察表(7)… 191
第5表	Pit 計測表(2)……………37	第18表	榎木原遺跡出土土器観察表(8)… 192
第6表	Pit 計測表(3)……………38	第19表	榎木原遺跡出土土器観察表(9)… 193
第7表	円盤状土製加工品計測表…………… 127	第20表	榎木原遺跡出土土器観察表(10)… 194
第8表	組織痕土器観察表(1)…………… 165	第21表	榎木原遺跡出土土器観察表(11)… 195
第9表	組織痕土器観察表(2)…………… 165	第22表	榎木原遺跡出土土器観察表(12)… 196
第10表	土錘計測表…………… 184	第23表	榎木原遺跡出土土器観察表(13)… 197
第11表	榎木原遺跡出土土器観察表(1)… 185	第24表	榎木原遺跡出土石器観察表(1)… 233
第12表	榎木原遺跡出土土器観察表(2)… 186	第25表	榎木原遺跡出土石器観察表(2)… 234
第13表	榎木原遺跡出土土器観察表(3)… 187		

図 版 目 次

図版1	榎木原遺跡の遠景・調査風景… 241	図版14	縄文時代の土器(5)…………… 254
2	榎木原遺跡の遺物・Pit …… 242	15	縄文時代の土器(6)…………… 255
3	榎木原遺跡の下層 遺物出土状況と土層…………… 243	16	縄文時代の土器(7)…………… 256
4	榎木原遺跡の縄文時代遺構…………… 244	17	縄文時代の土器(8)…………… 257
5	榎木原遺跡の集石遺構…………… 245	18	縄文時代の土器(9)…………… 258
6	榎木原遺跡の集石遺構と溝…………… 246	19	縄文時代の土器(10)…………… 259
7	榎木原遺跡の中・近世遺構…………… 247	20	縄文時代の土器(11)…………… 260
8	中・近世の遺構内出土遺物…………… 248	21	弥生・古墳時代の土器…………… 261
9	縄文時代の住居跡・ 土壇・埋鉢・遺物出土状況… 249	22	古墳時代の土器…………… 262
10	縄文時代の土器(1)…………… 250	23	紡錘車・土錘 須恵器・磁器・陶器…………… 263
11	縄文時代の土器(2)…………… 251	24	石器(1)…………… 264
12	縄文時代の土器(3)…………… 252	25	石器(2)…………… 265
13	縄文時代の土器(4)…………… 253	26	石器(3)…………… 266
		27	石器(4)…………… 267

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査に至るまでの経過

鹿児島県土木部道路建設課においては、国道 269 号線（指宿市～宮崎市）のバイパスを鹿屋市高須町で建設するにあたり、工事区間に周知の遺跡「掛平遺跡」が所在したため、埋蔵文化財の取扱いについて、鹿児島県教育庁文化課と協議した。県文化課は、昭和58年9月あらためて分布調査を実施し、建設区域内の遺跡を確認した。その結果、昭和59年11月再協議により、県文化課が、発掘調査を受託することとして、昭和60年度実施することになった。

なお、発掘調査にはいる前に小字を確認したところ、小字名は榎木原であったため、登録されている掛平遺跡と切りはなして「榎木原遺跡」として、遺跡に追加した。

1. 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育庁	教 育 長	山田 克穂
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課 長	桑原 一廣
	〃	課長補佐	坂口 肇 (60年度)
	〃	〃	川畑 栄造
	〃	主 幹	中村 文夫
調査企画	〃	主任文化財研究員	向山 勝貞 (60年度)
	〃	主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長	立園多賀生
調査担当者	〃	主 査	弥栄 久志
	〃	文化財調査員	前迫 亮一
調査事務担当	〃	主幹兼管理係長	寺園 晃 (60年度)
	〃	企画助成係長	浜松 巖
	〃	主 査	京田 秀允
	〃	主 事	田中 孝子 (60年度)
	〃	〃	川畑由紀子

なお、当遺跡の調査にあたっては、鹿児島県考古学会会長河口貞徳氏、別府大学教授賀川光夫氏、北九州市立考古博物館館長小田富士雄氏の指導助言を得た。

また、鹿屋市教育委員会及び作業員として地元の方々の協力を得、文化課文化財研究員繁昌正幸、主査新東晃一、主査中村耕治、主事井ノ上秀文に発掘調査及び整理の応援を得た。

2. 調査の経過

当遺跡は昭和60年4月15日より、発掘調査を開始し、同年10月4日まで調査を実施し、ひきつづいて、同年10月7日から昭和61年3月31日まで土器洗い及び注記の作業を行った。報告書作成作業は年度を改めて昭和61年4月から昭和62年3月末まで行った。

3. 日誌抄

昭和60年4月15日(月)～19日(金)

4月15日より、発掘調査開始、プレハブの設置、テントの設営、電話の設置、電気の工事等を行なう。調査は試掘トレンチのためのグリッドを設定し、試掘にはいる。A列・B列・C列。

昭和60年4月22日(月)～26日(金)

A列、B列、C列、D列のトレンチ2×4mの調査、第Ⅵ層に遺物が出土するのでⅥ層でとめる。C列よりグリッドの表土剥ぎにかかる。

昭和60年4月30日(火)、5月1日(水)、2日(木)

C-6～9区、D-5～8区、C-9～10区、D-7～12区の表土剥ぎを行なう。内、C-6～8区、D-5～6区が終了、収蔵庫にて器材の搬入。

昭和60年5月7日(火)～10日(金)

C～E-10～12区、C・D-2～4区の第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層剥ぎ、第Ⅶ層までの線を決める。第Ⅳ層に成川式土器片、須恵器片出土。

昭和60年5月13日(月)～17日(金)

A-2・5区、B-2～5区、C-1～5区、D-2・5区の調査、第Ⅱ～Ⅳ層までの掘り下げを行なう、縄文晩期の土器片が多く出土しはじめる。

昭和60年5月20日(月)～24日(金)

A-3～9区、B-2～7区、C-1～7区、D-1～7・11区の調査でA-8・9、D-11区は表土剥ぎを行ない他の地区は第Ⅵ・Ⅶ層で遺物検出、イモ穴の確認、一部平板で遺物取り上げを行なう。

昭和60年5月27日(月)～31日(金)、6月1日(土)は収蔵庫にて器材の搬入

A-2・3・7・8区、B-2～4・8～10、C-1～10、D-1～3・4・7～12区の調査、カード記入、平板測量、溝1・2の検出、遺物取り上げ、写真撮影。

昭和60年6月3日(月)～7日(金)

A-3～5区、B-2～5区、C-1～5区、D-3～6区の調査、第Ⅵ層・第Ⅶ層を掘り下げる作業を行なう。溝1の実測。

昭和60年6月10日(月)～14日(金)

A-3～6区、B-2～6区、C-1～6、D-1～6・8区の調査、第Ⅵ層・第Ⅶ層の掘り下げ、清掃、溝2の実測、写真撮影。

昭和60年6月17日(月)～21日(金)、22日(土)は収蔵庫にて器材搬入

A-5～7区、B-3・6・7区、C-1～3・6区、D-1～3・6～8区の調査、主に第Ⅵ層・第Ⅶ層を掘り下げる。溝3の検出、C-7区土壌の検出、遺物平板取り上げ、写真撮影、中・近世遺構の検出。

昭和60年6月24日(月)～28日(金)

A-3～6区、B-2～6・8・9区、C-1～6・8・9区、D-2～6・8・9・11区

の調査、主に第Ⅶ層を剥ぎ遺物の測量、取り上げを行なう。C・D-8・9は中世遺構の検出遺物取り上げを行なう、C-9区、D-11区は第Ⅶ層の掘り下げを行なう。

昭和60年7月1日(月)～7月5日(金)

A-3～5区、B-2～6・8・9区、C-1～6・8・9区、D-2～6・8・9区の調査、第Ⅶ層を主に掘り下げ、遺物の平板測量を行なう。

昭和60年7月8日(月)～7月12日(金)

A-3～6区、B-2～5区、C-1～6区、D-2～6区の調査、写真撮影、平板測量、遺物取り上げを行なう。

昭和60年7月15日(月)～7月19日(金)

A-3～6区、B-2～6区、C-1～6区、D-2～6区の調査と中世遺構の調査、平板測量、遺物取り上げ、写真撮影。

昭和60年7月22日(月)～7月26日(金)

A-3～6区、B-2～6区、C-1～6区、D-2～6区、B～D-8・9区の調査、平板測量、遺物取り上げ、写真撮影を行う。

昭和60年7月29日(月)～8月2日(金)

A-3～6区、B-3～6区、C-4～6区、D-2・4～6区の調査、平板測量、遺物取り上げを行なう。8月2日は別府大学教授賀川光夫氏の現地指導。

昭和60年8月5日(月)～8月9日(金)

A-3～6区、B-2～6区、C-1～6・9・10区、D-1～6・8～12区、E-8～12区の調査を行なう。1～6区の地域は第Ⅷ層の調査、8～12区は第Ⅸ層の調査(遺構検出)

昭和60年8月12日(月)・16日(金)

12日は雨のため土器洗い、16日はC-9・10・11区、D-3・8～12区の遺構検出と、平板測量、中世遺構の検出も行なう。

昭和60年8月19日(月)～23日(金)

A-3～7区、B-2～9区、C-1～9区、D-5～12区の調査を行なう。1～5区においては平板測量、遺物取り上げを行ない、5～12区においては遺構検出(pit)を行なう。

昭和60年8月26日(月)～8月31日(土)

A-3・4区、B～D-2～4区、A～D-7～12区の調査を行う。2～5区は平板測量、遺物取り上げ、遺構検出、A-12は遺構検出、E-11区、中世遺構実測、7・8区は断面図作成、31日は台風通過のためプレハブ半壊、テント全壊。

昭和60年9月2日(月)～9月6日(金)

A-3～9区、B-3～8区、C-3～9区、D-1・3～6・8・9区の調査、ベルト実測除去、平板測量、遺物取り上げを行う。4・7区は遺構検出作業を行う。

昭和60年9月9日(月)～9月13日(金)、14日は収蔵庫

A-3・5区、B-2～4・7～9区、C-1～4・6・9～11区、D-1～4・8・12区、

E-11・12区の調査、1～5区はベルト除去・平板測量が主でD-6は住居跡掘り下げ作業を行う。B-3・4区は土壌掘り下げ作業を行う。B-7区はⅡ層まで掘り下げてⅥ層に遺物出土。

昭和60年9月17日(火)～9月21日(土)

A～D-3～8区の遺物取り上げ、コンタ作成、A～D-8～13区のpitの $\frac{1}{20}$ 実測、B-2～6区のpitの $\frac{1}{20}$ 実測、B-2・3区、C-2～7区の実測、集石実測、A-4・7区、B-4・5区B-9・10区、C-4～6・9・11区、D-9・11区の下層確認トレンチを入れる。D-11区に前平式土器出土。

昭和60年9月23日(火)～9月28日(土)

A-4・5区、B-4～7区、C-2～10区、D-2・4～9・11区、E-10・11区の調査断面図作成、pit $\frac{1}{20}$ 実測、集石実測、深掘拡張実測、写真撮影、弥生土器実測、中世遺構実測、第XV層まで掘り下げ第XIV層で遺物を確認する。

昭和60年9月30日(月)～10月4日(金)

A・B-2・3、A～D-7・8区のpit実測、C-2・3区、D-2・3区、C-6・7区D-2・3・6・7・9・10区の下層の調査、D-6は住居跡のpit検出作業、土壌1・2の調査、全体トレンチの平板図作成、C-9区の土層の実測、4日で調査が終了。器材の整理、運搬を行う。

昭和60年10月7日から整理作業にはいる。昭和60年度事業は土器洗い、注記等を実施した。

昭和61年度に改めて報告書作成のための整理を実施した。

昭和60年10月7日(月)～12月27日(金)

土器洗いを行う、注記を始める。

昭和61年1月6日(月)～2月28日(金)

注記をする。

昭和61年3月1日(土)～3月29日(土)

図面整理を行う。

昭和61年4月から61年度事業、昭和60年度事業終了として整理作業を行った。

昭和61年4月2日～昭和62年3月31日

- 遺物の復元・接合作業を行う。
- 遺物の実測を行う。
- 遺物トレースを行う。
- 図面のトレースを行う。
- 報告書のためのレイアウトを行う。
- 報告書の執筆をする。
- 報告書の写真を撮影する。
- 後整理を行う。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地と環境

榎木原遺跡は鹿屋市高須町榎木原に所在する遺跡である。

鹿屋市は鹿児島県の大隅半島の中心部の都市であり、この鹿屋市は東は串良町・高山町、西は錦江湾、南は大根占町、北は垂水市に囲まれた地域である。

市の北部は高隈山系、南部は国見山系が連なり、西部は錦江湾で、市の大半は山と海にかこまれたシラス台地である。シラス台地は鹿児島県下で一般にみられる地形で約21000年前の火山噴出物からできている。このシラス台地は平坦な地形で畑作地帯となり肝属郡から曾於郡・都城市まで続いている。

鹿屋市高須町は鹿屋市の西南部に位置し、榎木原遺跡の南には浜田、西には高須、北東には野里の集落がある。また、榎木原遺跡の北側には野里方面より流れてきた高須川が蛇行し、錦江湾へそそいでいる。

榎木原遺跡の立地しているところは、高須川の南の台地で標高47mのシラス台地である。榎木原遺跡のある台地の東側には、小さな谷があり、谷頭には湧水地点があり、立神と称して、水神が祭られている。

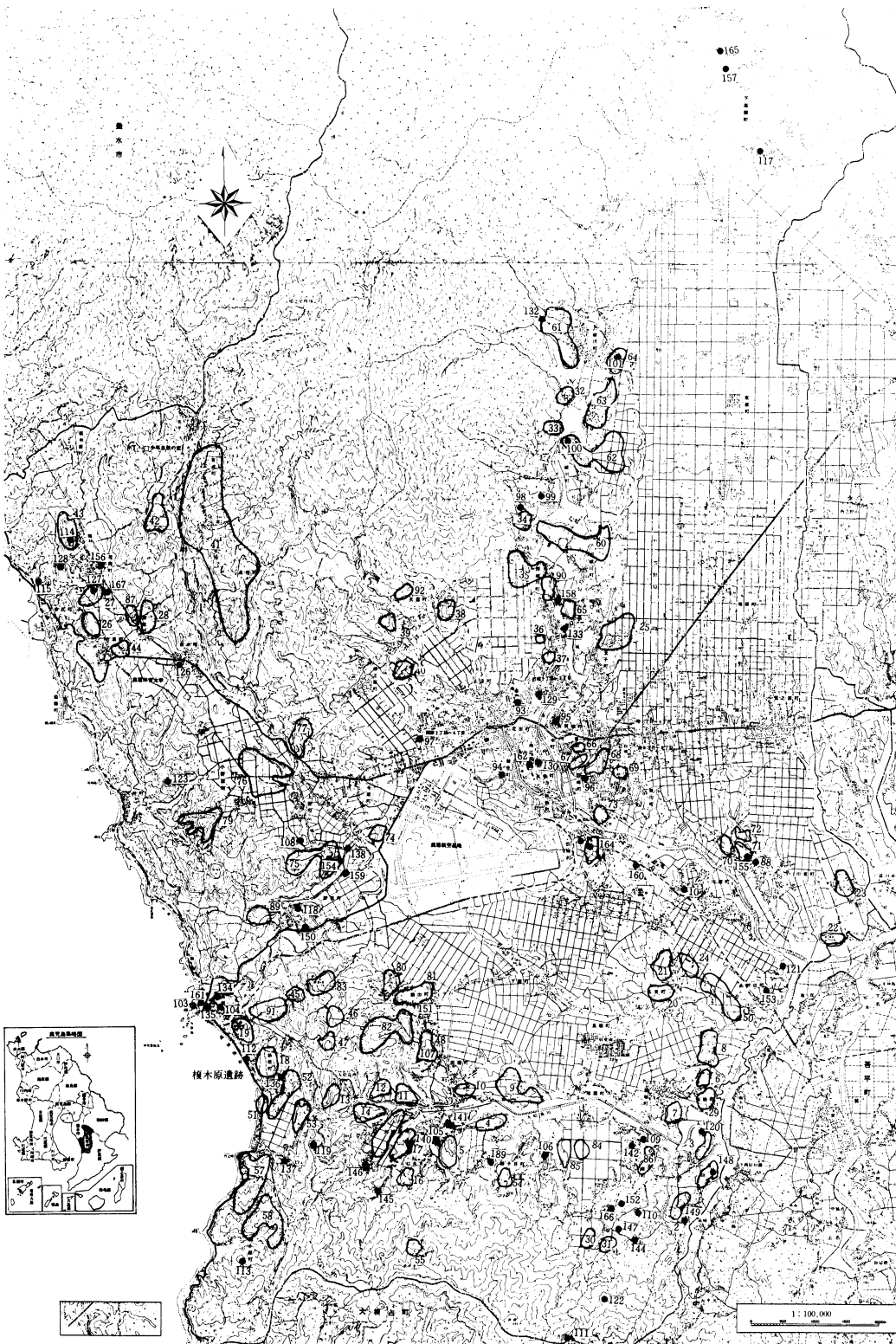
第2節 遺跡の環境と周辺遺跡

鹿屋市内には、王子遺跡をはじめ、高付遺跡、水の谷遺跡等、縄文早期から古墳時代まで多くの遺跡が所在する。王子遺跡は昭和56年～59年に調査された遺跡であり、この遺跡は弥生中期末～後期にかけてのもので、住居跡や、掘立柱遺構等多くの遺構等が検出され注目されたところである。

高須地区の台地にも周知の遺跡が多く、高須地区東側の霧島ヶ丘から海岸にかけて、縄文時代から中世までの遺物が採集される。霧島ヶ丘の谷平遺跡は縄文早期の遺跡で、公園整備事業に関連して昭和61年度に2回の調査が行われている。霧島ヶ丘の遺跡群から西に下る台地には住居跡の断面が畑の土手に見えるところがあり、霧島ヶ丘から榎木原遺跡へ下る台地は遺構等を伴う遺跡であることがわかる。

榎木原遺跡の東側には立神遺跡があり、昭和59年度調査され、縄文後・晩期、古墳時代の遺物・遺構が確認されている。また高須川の対岸で当遺跡より北東方向には昭和61年度に調査した岩ノ上遺跡があり、縄文早期の吉田式等の土器の完形品が出土している。北側には高須城もあり、中世の重要な拠点であったところでもある。本遺跡から中・近世の遺物・遺構が出土、検出しているのは高須城の関係であろう。

第2図は本遺跡の地形と調査グリッド図である。1区画は10mで南北にA～E、東西に1～13のグリッドを組んだ。



第1図 榎木原遺跡の位置と周辺遺跡

第1表 鹿屋市内の周辺遺跡 (1)

番号	遺跡名	時代	遺物	備考	番号	遺跡名	時代	遺物	備考
1	本坊	弥・古・縄	藤目土痕文土器 市来式磨製石斧	鹿埋文調査 報告書 (13)	30	鎮守ヶ迫	古・弥・縄 (早前後)	成川 石包丁	昭和59年調査 (9)
2	島元	弥・古	成川	〃	31	伊敷	弥(中)縄 (前後晩)	組織痕, 黒色研磨 隆帯文, 石斧	昭和53年調査 (9)
3	上原	弥・古	須恵器, 成川, 弥生, 縄(後)	〃	32	山外森	古	土器片	鹿埋文調査 報告書 (23)
4	松尾	弥・古・歴	青磁, 須恵器, 成川, 弥生(中)	〃	33	瀬戸ノ上			〃
5	岡ノ前	古・歴	土師, 成川	〃	34	中野	古	石斧	〃
6	飯隈	弥生	須恵器, 成川, 弥生	〃	35	神野牧	縄(後, 晩)	石器, 石匙, 土器片	〃
7	小牧	弥	土器片	〃	36	打馬	古	土器片	〃
8	菖蒲	弥・古	成川, 縄(晩)	〃	37	平原古墓		5基の墓石と 五輪塔一基	〃
9	暮小牧	弥(中)・古 縄(晩)	成川	〃	38	大浦	古・縄(早)	縄文土器	〃
10	田淵上	古・縄(晩)	成川	〃	39	郷之原	古・縄	土器片, 石器	〃
11	茶園ノ上	古・縄(晩)	成川, 黒色研磨	〃	40	川の上	古	土器片	〃
12	藤崎原	古・縄	土器片, 石斧	〃	41	小薄町遺跡群	古・縄 (早, 前後)		〃
13	瀬筒原	弥古(中) 歴	土器片, 成川	〃	42	紫立	古・縄(後)	条痕文, メンコ 沈線文	〃
14	小永崎	弥歴・古 縄	白磁, 土師, 成川	〃	43	鶴羽城跡	歴・古	有肩石斧, 敲石 丹塗り, 靴形石斧	〃
15	永崎原	弥歴・古 縄	青磁, 成川	〃	44	古里	古・弥・縄 (後)	土器片	〃
16	山神	縄(後)	土器片	〃	45	キタバイ	古・弥(後)	土器片, 石器	〃
17	諏訪尾	古・縄(晩)	成川	〃	46	谷平	古	土器片	住居跡
18	下西原	弥・古・歴	青磁, 成川	〃	47	松の岡	古・歴	土器片	住居跡 昭和24調査
19	榎木原 掛平	縄古・弥 歴	青磁, 成川	〃	48	岡元	古・弥	土器, 石斧	〃
20	湯穴ノ上	弥(中)・古	成川	〃	49	老神	歴		
21	笹ヶ尾	弥(中)		〃	50	早馬原 B	古・歴・弥	土器片	鹿埋文調査 報告書 (23)
22	東田ノ上	弥(中)・古	成川	〃	51	浜田小南	古・弥(後)	土器片(壺)	〃
23	早馬原	弥・古・歴	青磁, 成川	〃	52	宮ノ尾	古・弥	土器片, 石器	〃
24	中牧	弥(中)・歴	青磁	〃	53	浜田	古	土器片	〃 (25)
25	王子	弥(中)・縄	土器片 中期集落跡	昭56~59年調査 〃	54	上田原	古	土器片	〃 (23)
26	枯木ヶ原	弥・古	須恵器, 成川	鹿埋文調査 報告書 (13)	55	本村原	古・弥	土器片	〃
27	早山	古	成川	昭和58年度調査	56	皆倉	弥・古		〃 (23)
28	俣刈	古・縄(前)	成川	鹿埋文調査 報告書 (13)	57	小浜	古	小型壺形土器	〃
29	池ノ迫	古・弥	須恵器, 成川	〃	58	平原	古	篋貫式	昭和56年調査

第2表 鹿屋市内の周辺遺跡 (2)

番号	遺跡名	時代	遺物	備考	番号	遺跡名	時代	遺物	備考
59	平原上	古	土器片	報告書(25)	88	川東の古墳	古		鹿埋文調査報告書 円墳5基
60	堀之牧遺跡群	古・弥(中)	土器片	〃(23)	89	野里の古墳	古		〃 円墳3基
61	上抜川遺跡群	歴・古・縄 (晩) 弥(前, 中)	石器, 土器片	〃 昭58, 59年調査	90	薬師堂の古墳	古・弥(後)		円墳3基 昭和58年調査
62	石仏頭	古・弥	土器	〃	91	立神	古・歴 縄(後, 晩)	土器片, 青磁, 石斧	昭和59年調査
63	大窪(久保)	古・弥・縄 (後)	土器片	〃	92	耳取ヶ丘			
64	芝原	古	土器片, 黒曜石 石斧		93	鹿屋城跡	鎌倉初期～ 南北朝		
65	西抜川	古・弥・縄	土器片	鹿埋文調査報告書 (25) 昭和57年度	94	鹿屋古城跡	南北朝初期	弥生式土器	完消
66	寿三丁目	古	土器片	報告書(23)	95	古前城跡	鎌倉中期～ 南北朝		
67	曾田	古	土器片	鹿埋文調査報告書 昭和57年度調査	96	白崎城跡	南～北 戦国		
68	白崎	古	土器片	〃	97	久恵城跡	南北朝初期 ～ 戦国		
69	寿六丁目	古	土器片	〃	98	鹿屋一谷城跡	南北朝初期 ～ 戦国		
70	川東1	古	土器片	〃	99	長谷城跡	鎌倉～ 南北朝		
71	川東2	古	土器片	〃	100	瀬戸城跡	鎌倉～ 南北朝		
72	川東3	古	土器片	〃	101	日ヶ城跡	南～北 戦国		
73	高付	弥・古	石包丁, 土器片	〃(25) 昭和58年調査	102	船隈城跡	南～北 戦国		
74	野里小西	古・縄(前)	土器片	〃	103	高須城跡	南～北 戦国		
75	大津	弥・古	土器片	〃	104	高須古城跡	南 以北 朝降		
76	小野原	歴・古	土器片	〃 集落遺跡	105	大始良城跡	鎌倉～戦国		
77	高橋	古・弥	土器片	〃	106	志々目城跡	南～北 戦国		
78	天神		土器片	〃	107	横山城跡	南～北 戦国		
79	丸岡	歴・古	土器片, 成川, 鉄滓	〃	108	野里城跡	戦国		
80	横山1	古	土器片	〃	109	西俣城跡	鎌倉, 南北 朝, 戦国末期		
81	横山2	古	土器片	〃	110	茶臼城跡	戦国末期		
82	横山3	古	土器片	〃	111	陣之尾塁跡	南～北 戦国		
83	霧島ヶ丘	縄	吉田式塞ノ神Aa式	〃	112	浜田城跡	南～北 戦国		
84	船ヶ迫	縄・弥・古	成川	〃(9)	113	陣ノ城跡	南～北 戦国		
85	仮屋園	縄・弥	成川, 石皿縄(晩) 黒色研磨, 打製石斧	〃	114	木谷城跡	南～北 戦国		
86	牧之原	縄(晩)・弥	竹管文, 青磁 突帯, あげ底	〃	115	古江城跡	南～北 戦国		
87	本戸口			〃(23)	116	仮屋城跡	南～北 戦国		文禄3年には廃城 とみられる。

第3表 鹿屋市内の周辺遺跡 (3)

番号	遺跡名	時代	遺物	備考	番号	遺跡名	時代	遺物	備考
117	小牧城跡	南北朝 ～戦国			146	浄光寺	不詳		
118	金比羅城跡	〃			147	阿弥陀寺	〃		
119	年貫城跡	〃			148	高野山	〃		
110	繁昌城跡	〃			149	含粒寺	〃		
121	山ヶ城跡	戦国			150	薬師寺	〃		
122	荒平城跡	南北朝 ～戦国			151	阿弥陀寺	〃		
123	竜池山明王院 山島寺	室町 1532		真言宗本尊不動王	152	大中寺	江戸(前) ～明治		
124	円覚寺真如院 法界寺	江戸 1730		天台宗本尊 阿弥陀如来像	153	大剰完	江戸初期		
125	東海山光明寺 禪定寺	不詳		曹洞宗本尊 阿弥陀如来像	154	西福寺			法音寺の末寺
126	豊岳山医王院 富岡寺	〃		真言宗 薬師如来像	155	短甲衝角付冑	5世紀半ば 以前(推定)	短甲衝角付冑	(県)昭41. 3.31
127	池上山安養寺	安土桃山 1597		曹洞宗 阿弥陀如来像	156	野里町の 田の神	江戸 (1751)		(県)昭43. 5.27
128	宝亀山阿弥陀 院神宮寺	不詳		真言宗本尊は釈加 阿弥陀薬師の三尊 像	157	田崎町老神古 銭	江戸	古銭 25,000枚	(市)昭37. 1.15
129	高岳山宝精院 五代寺	〃			158	絨川町の八月 踊	江戸中期頃 より(推定)		(市)昭37. 1.15
130	鹿屋薬師堂	〃			159	大始良町の榊 踊	江戸末		(市)39. 2.15
131	大鷹山蓮台寺	江戸 1850		臨濟宗本尊 阿弥陀如来像	160	田崎町のしか 祭	鎌倉(元 徳3年)		(市)昭41. 4. 1
132	蓬来山光明院 阿弥陀寺	南北朝1347		真言宗本尊不動明 王	161	高須町の板碑	鎌倉 (1328)	山状角柱型	(市)昭43. 5.27
133	呑海庵	不詳		臨濟宗	162	新生町のイヌ マキ	樹令約 300年		(市)昭43. 5.27
134	薬師堂	〃			163	南町の神舞	江戸末		(市)昭46. 4.12
135	光源寺	安土桃山 1573～9ほか		宗旨不明本尊 阿弥陀如来像	164	中津神社本殿	江戸 (1653)	一間社流れ造り檜 皮ぶき	(市)昭47. 3.30
136	大患寺	江戸 1751			165	川東町八月 口説	江戸中期		(市)昭46. 4.12
137	竜翔寺	不詳		臨濟宗	166	田崎町のクス ノキ	樹令約 800年		(市)昭48. 1.16
138	照山寺	〃		真言宗 本尊不動明王	167	観音湖中世 供養塔群	鎌倉時代 ～戦国時代		(市)56. 8.19
139	竜香寺	〃			168	含粒寺石像群	応永年間		(市)昭56. 8.19
140	柘原軽王 砂目寺	室町 1489		不詳	169	花岡、島津氏 歴代墓地	享保12年 江戸		(市)昭56. 8.19
141	山の薬師	宝町 1508			170				
4242	阿弥陀寺	不詳			171				
143	高野山	〃			172				
144	万願寺	〃			173				
145	本房寺	〃			174				



第2図 榎木原遺跡の址



形とグリッド

第Ⅲ章 遺跡の概要

第1節 遺跡の概要および層位

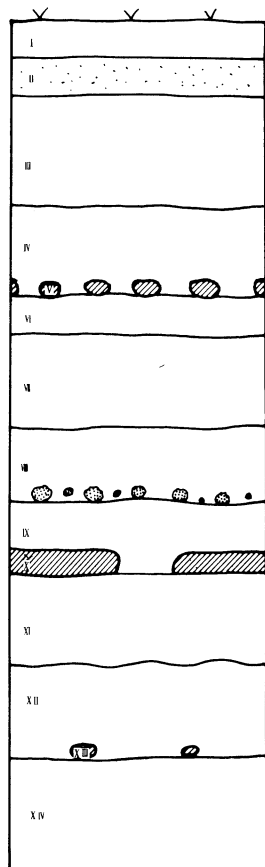
1. 遺跡の土層

榎木原遺跡の土層は東側に傾斜しているため東側の1～3区を標準的な土層にした。

土層が残りの良い1～3区は第Ⅱ層においては近世の桜島の火山灰のほか、開聞岳の噴出物、池田カルデラの噴出物、鬼界カルデラの噴出物、桜島起源の噴出物に比定される火山灰の堆積があり、シラス層までXIV層の確認をした。

包含層については第Ⅰ・Ⅱ層が中・近世の層である。第Ⅳ・Ⅵ層は古墳時代から平安時代までの包含層である。第Ⅶ・Ⅷ層は弥生時代から縄文時代前期の包含層である。第Ⅺ・Ⅻ層は縄文時代早期の包含層である。

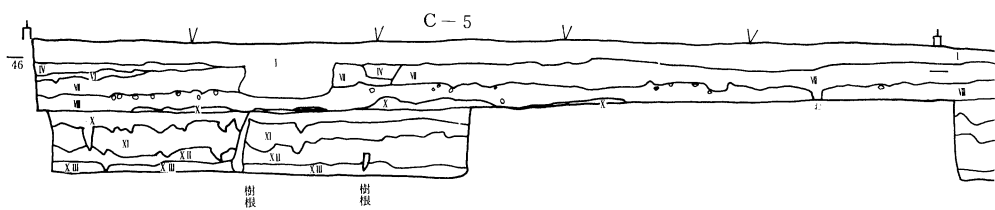
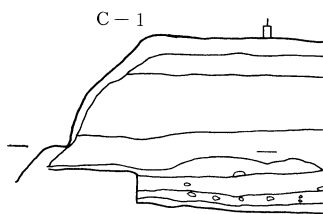
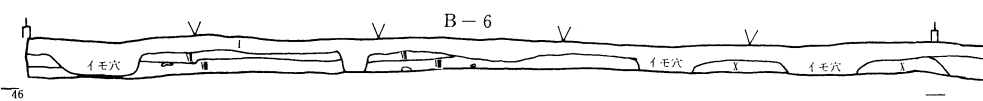
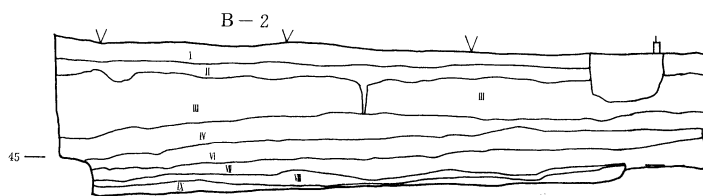
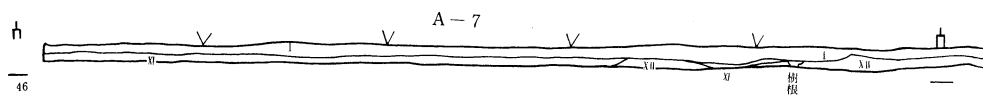
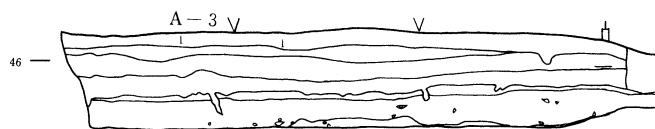
地層の名称は下記のとおりである。



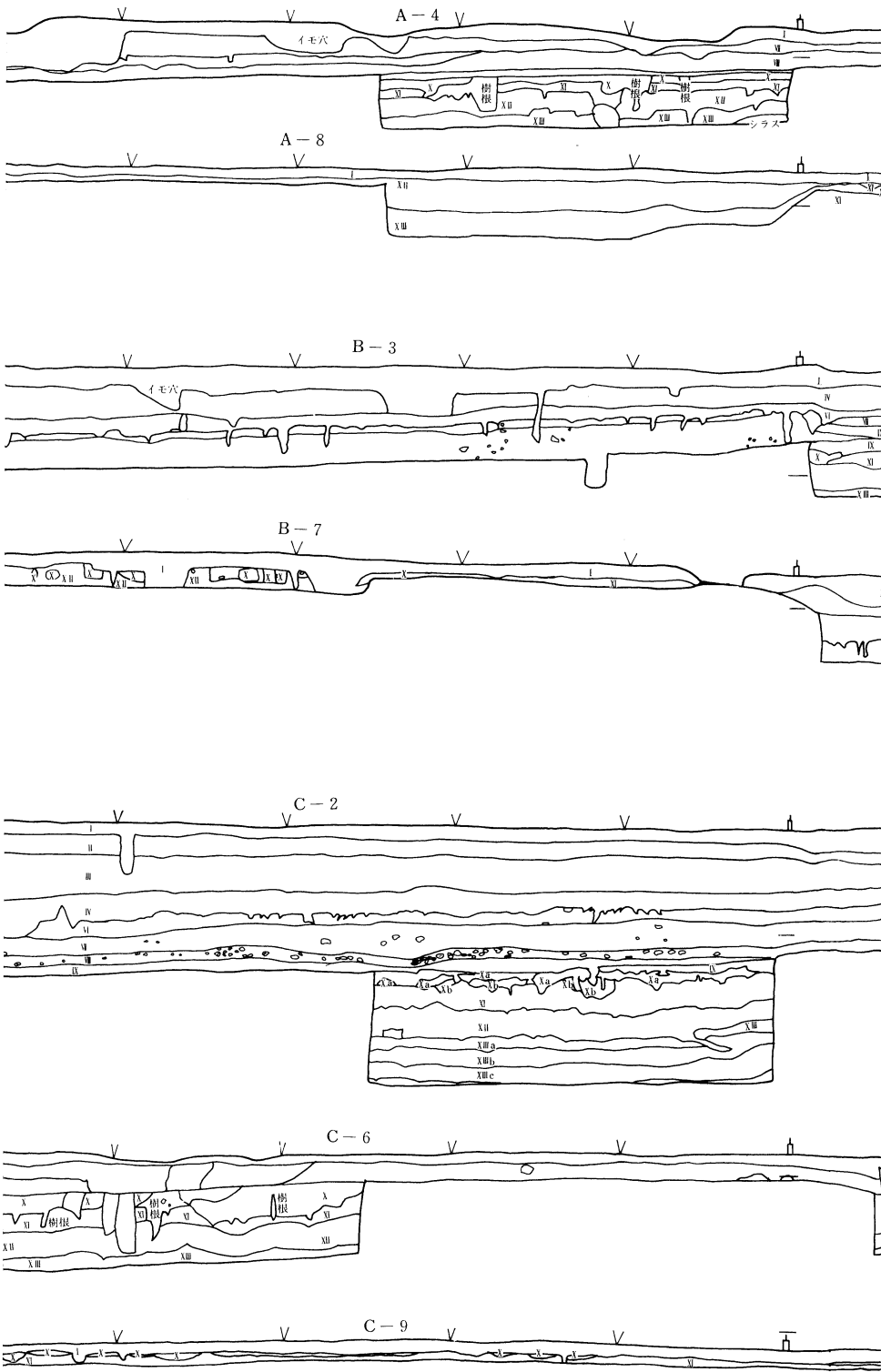
地層の名称

- I 表層 (耕作土)
- II 暗灰褐色硬質土層—白色軽石を含む
- III 暗灰褐色軟質土層
- IV 黒褐色土層
- V 暗青紫色土層 紫ゴラ (開聞)
- VI 茶褐色土層
- VII 暗茶褐色土層
- VIII 黄白色軽石 (池田)
- IX 黄褐色土層 アカホヤ2次
- X 明黄色土層 アカホヤ1次
- XI 暗黄褐色土層
- XII 黒褐色土層 下部に軽石混る (桜島)
- XIII 暗茶褐色粘質土層 チョコ層
- XIV ヌレシラス (始良)

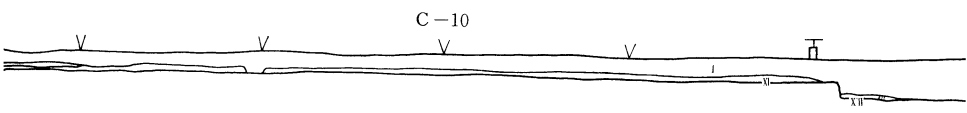
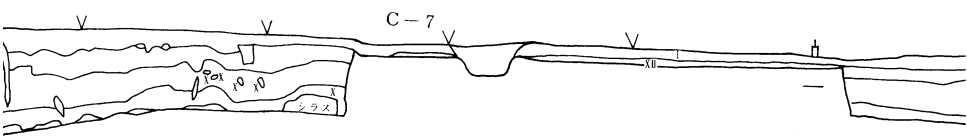
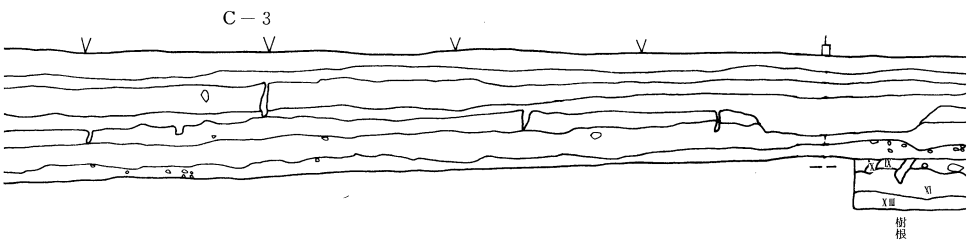
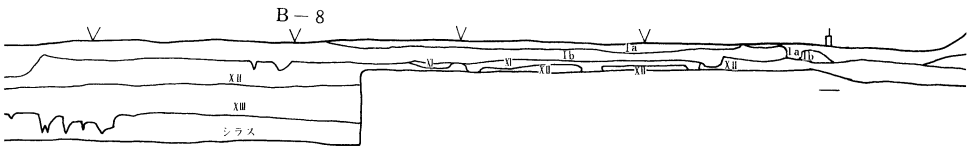
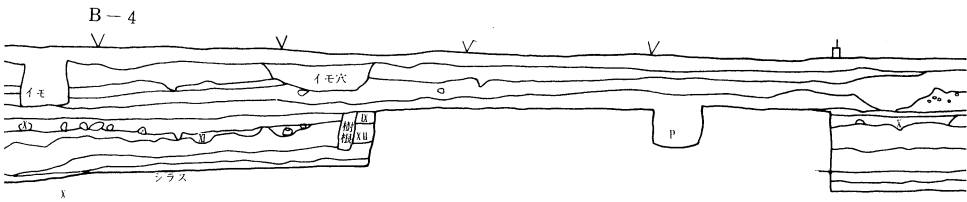
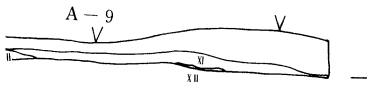
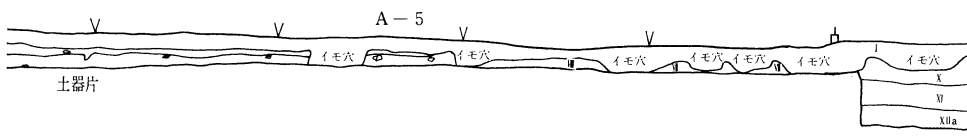
第3図 遺跡の標準土層図

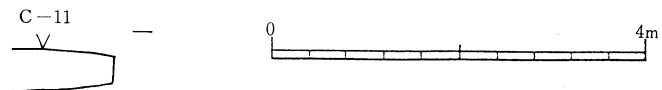
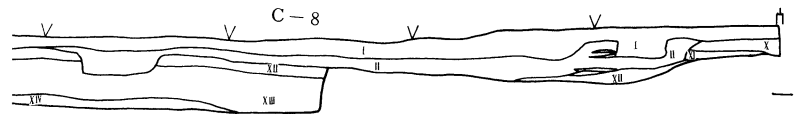
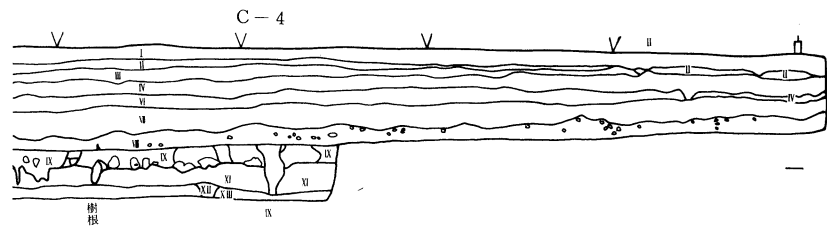
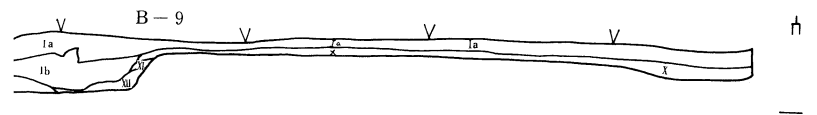
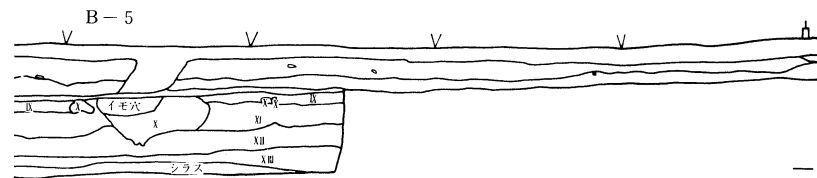
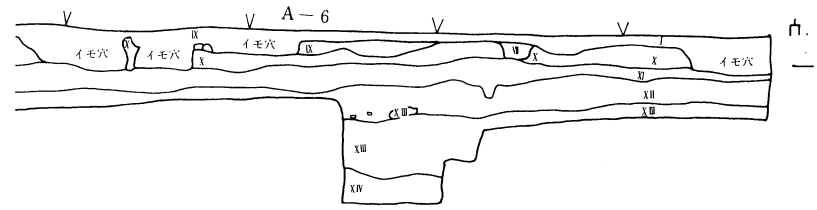


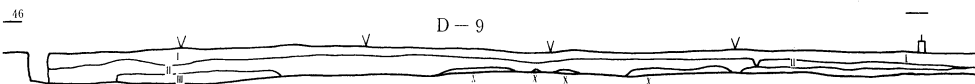
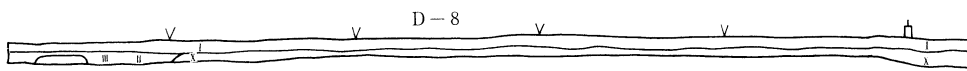
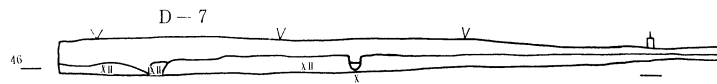
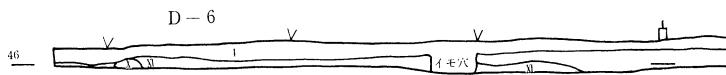
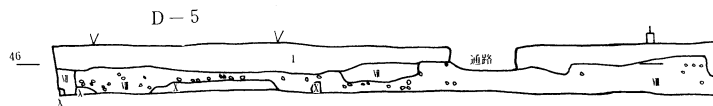
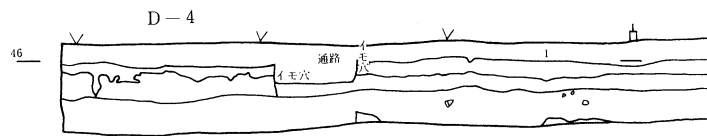
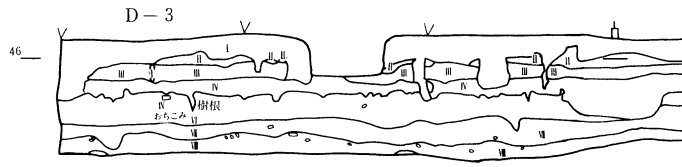
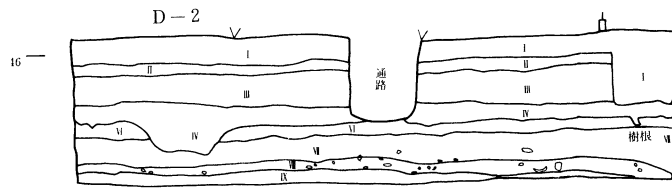
47 — 戶



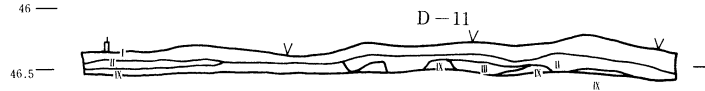
第4図 榎木原遺跡の土層図(1)

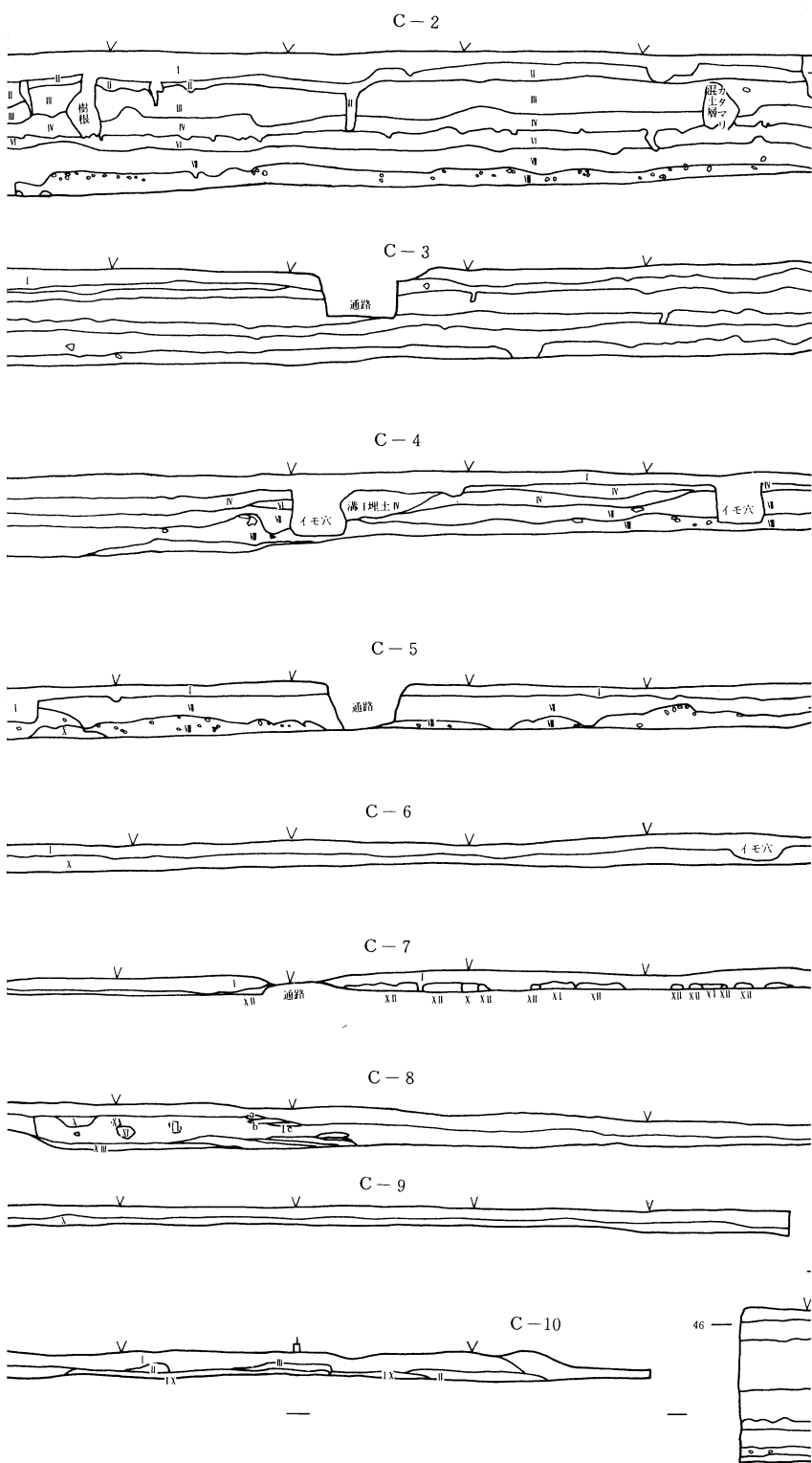




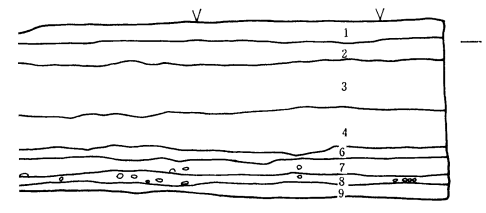
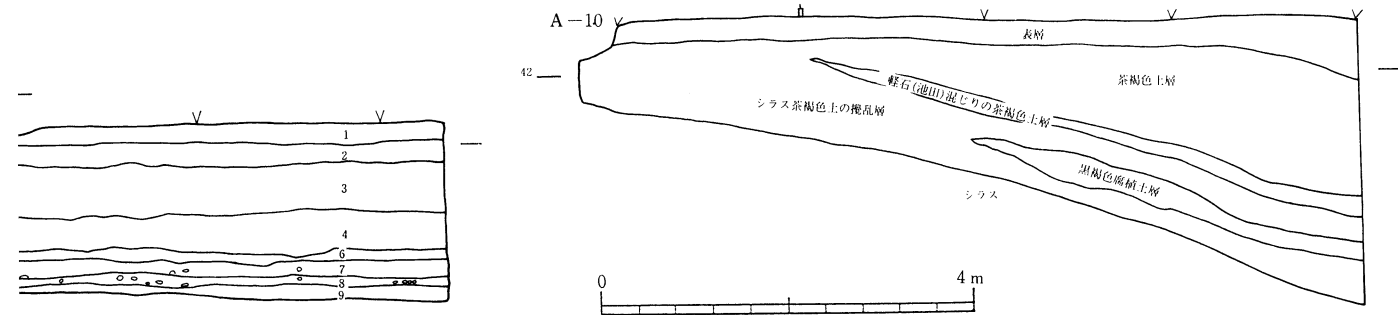
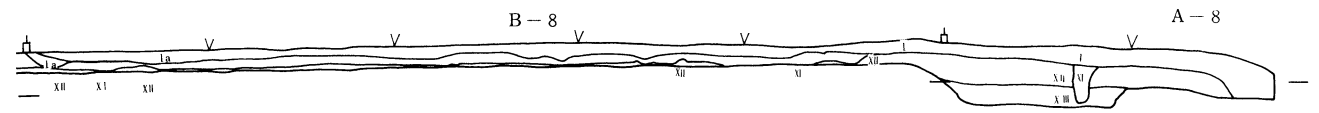
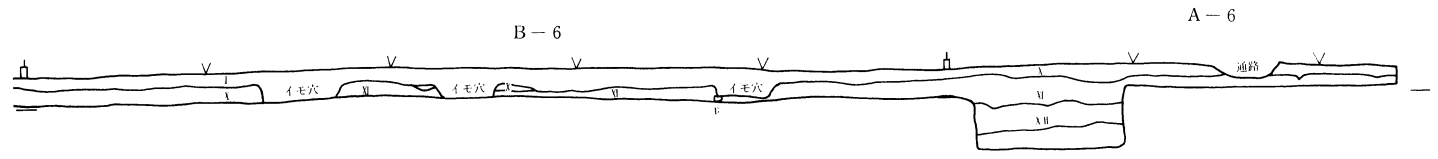
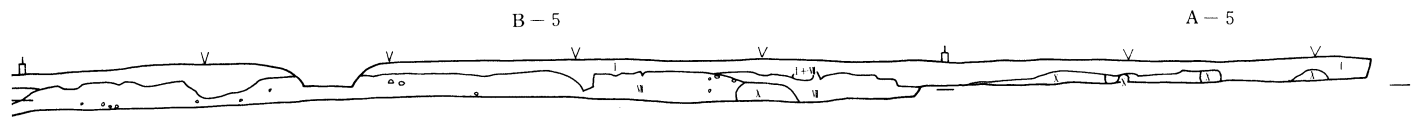
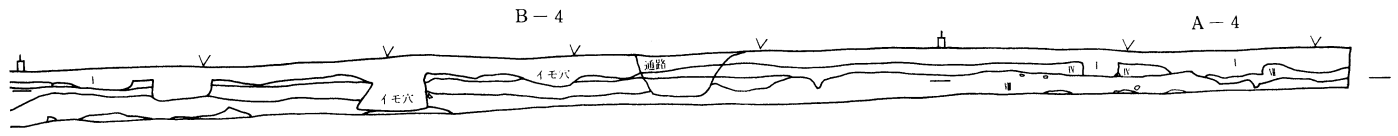
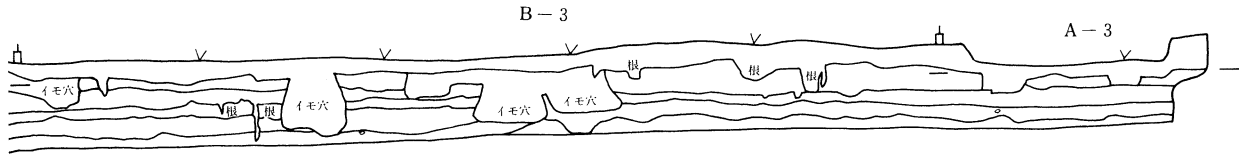
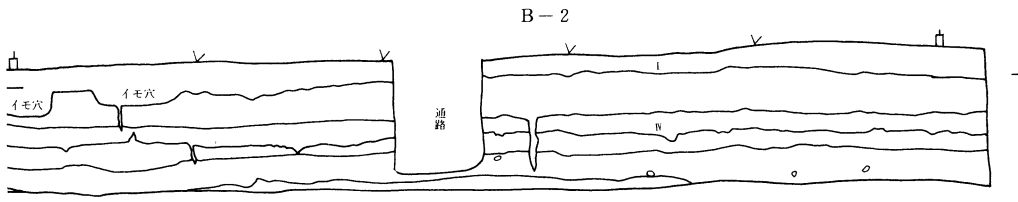


46





第5図 榎木原遺跡の土層図(2)



2. 火山堆積物からみた遺跡の特色

(1) 地形的環境

榎木原遺跡が立地する高須町一帯は、霧島ヶ丘を中心とする小さな山塊とそれをとりまく小規模な台地からなりたっている。山塊は孤立しており、標高約 170m のドーム状をした山体であり、板状節理の発達した輝石安山岩によってつくられている。山体の北側は傾斜が急であるが、西側から南側にかけてはゆるやかな裾野となっている。

台地はこの裾野をとりかこむように分布しており、高須町から浜田町にかけては定高性のある平坦面がみられる。台地は海岸部では垂直な崖により限られており、海岸にそって平行にのびている。台地は南西にのびた細長く深い谷によっていくつかに分断されており、さらに北側では北西にのびるやや幅の広い深い谷によって分断されている。

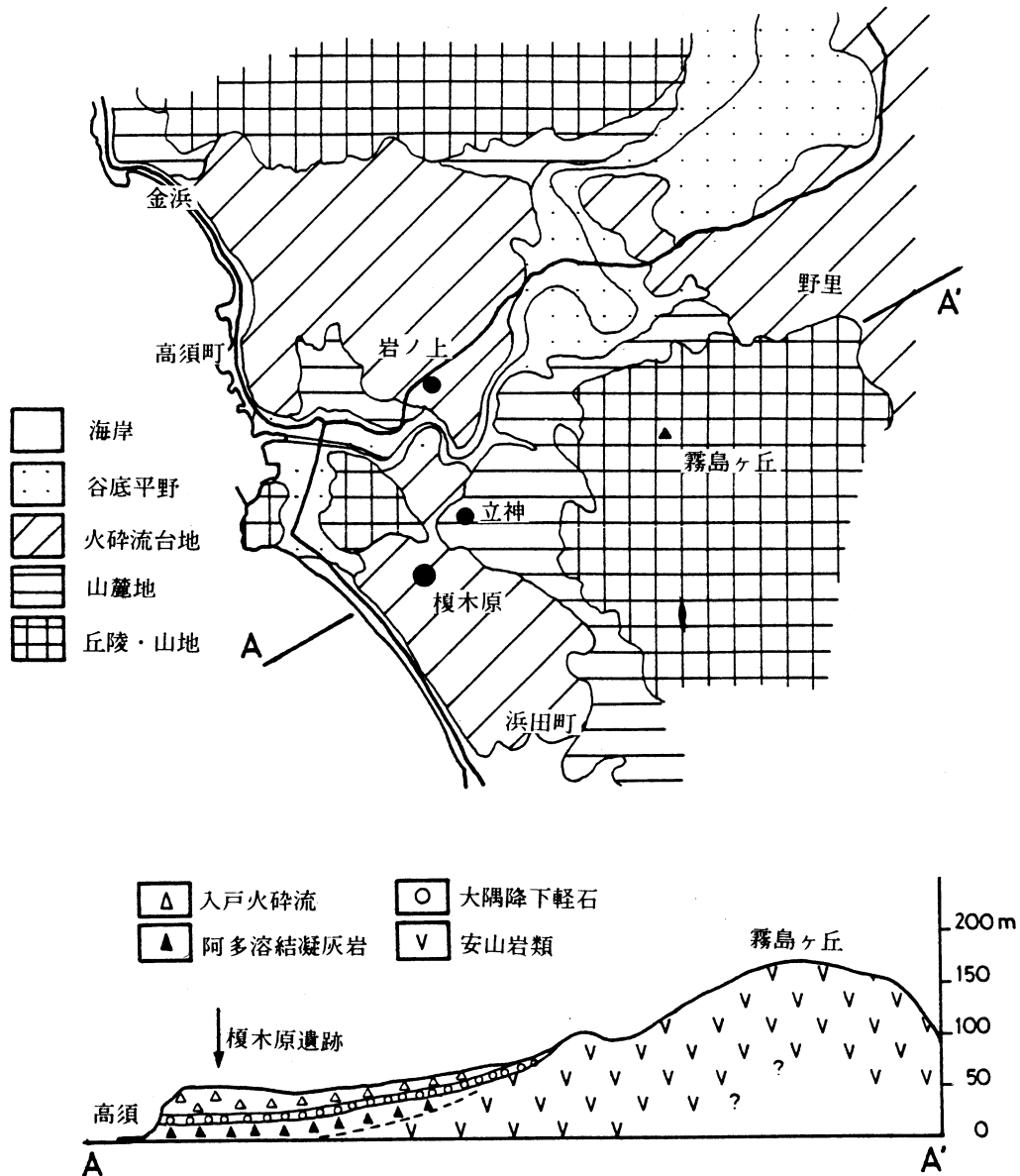
河川は大きく蛇行しながら北東～南西へ流れる高須川があり、これによって比高約50mの細長く深い谷が刻まれており、高須町の台地と野里町の台地とに分けられている。

高須港付近の海岸は紫色をした阿多溶結凝灰岩よりなる岩石海岸であるが、矢筈島より南側は幅の狭い砂浜となって竹之崎まで続いている。

(2) 地質的環境と火山噴出物

① 鹿屋地方の基盤をなす岩石は中生代白亜紀の地層とされる四万十累層群であり、北部の高隈山周辺に広く分布している。これを不整合におおうように霧島ヶ丘などをつくる輝石安山岩類がある。遺跡付近での直接の基盤は阿多溶結凝灰岩であり、この上に大隅降下軽石をほとんど入戸火砕流堆積物（シラス）と、さらにその上をおおう新期の火山噴出物がある。阿多溶結凝灰岩はきわめて強く溶結しており、柱状節理も発達している。堆積物の下半分は海面下に見ることはできないが、上半分は溶結凝灰岩のみで非溶結部はない。大隅降下軽石は旧地形を平行におおって堆積しており、厚さは約 5m に達している。シラスはこの上に連続的に堆積している。第 6 図に示されるようにシラスは台地を構成する地層であり、台地部では厚さ 20～30m で平行に堆積しているが、丘陵地にはいると徐々に薄くなり山地では消滅してしまう。新鮮な部分のシラスは軽石まじりで白色を呈するが、丘陵や山地の高所では黄白色に変化している。遺跡周辺のシラスは一次の堆積相のみを示すものと、上半分が細く成層しているいわゆる二次シラスの堆積相を示すものがある。遺跡北側斜面の露頭観察によれば、厚さ 1.5m 程度で大きく波うって堆積しており、単層の厚さは 10cm 程度でありその中に径 2 cm 前後の火山豆石が含まれている。薄層の互層の上にはやや硬質で黄橙色をした無層理の細粒火山灰層があり、下にはいわゆるシラスがありその境界は明瞭である。火山豆石のみられる場所は谷部からその周辺にかけての狭い地域である。（第 7 図の第 15・16 層）。

② シラスの上には新期火山噴出物と埋没土壌が平行に堆積しており、それらの厚さは場所にもよるが平均 2m 程度である。各層はそれぞれ下位の地層に平行に堆積しており、平坦面での厚さは一定となっているが、傾斜地や小谷の部分では厚くなっている。



第6図 榎木原遺跡周辺の模式地質図

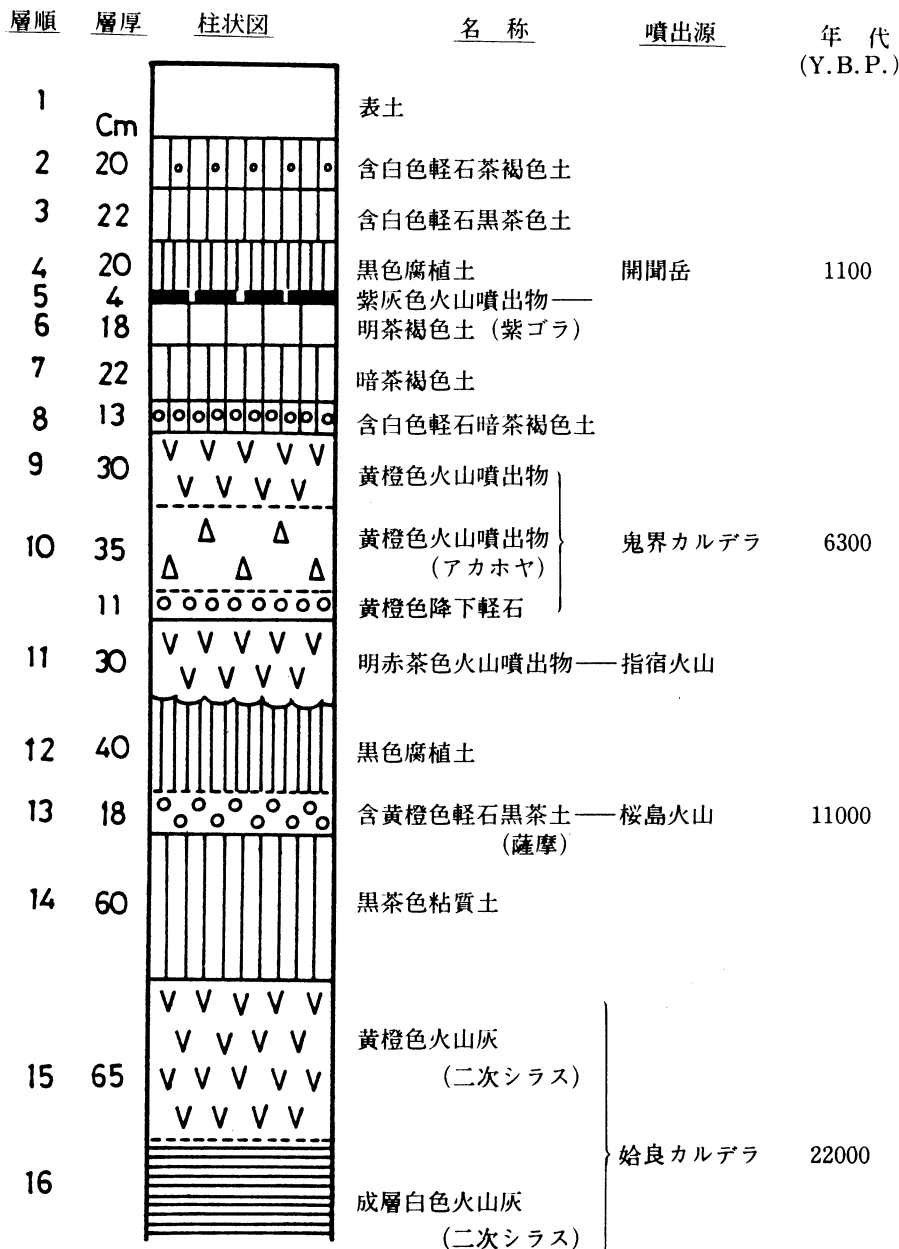
第1層 表土

第2層 含白色軽石茶褐色土，軽石は白色できわめて新鮮であり，大部分は2～3mm大であるがまれに15mm程度のものが点在する。20cm×20cmの断面に50個位である。基地の茶褐色土は粘質はなくサラサラしており，まれに5mm前後の安山岩レキが点在する。

第3層 含白色軽石黒茶色土，わずかに白色の軽石を含む黒茶色土で，軽石の大きさは10mm前後で，20cm×20cmの断面に15個位である。粘質はなくサラサラしておりよくしまっている。上下の地層との境界は不明瞭で漸移している。

第4層 黒色腐植土、真黒色土で粘質はなくサラサラしており、その中にブロック状に開聞岳起源火山噴出物が点在している。白色の軽石は全く含まれず、上下の地層との境界は明瞭でありよく目立つ層である。

第5層 紫灰色粗粒火山噴出物、遺跡東端の全体的に層が厚くなっている場所ではよく残っており、ブロック状に薄く平行に堆積している。遺構内にもわずかに点在している。1mm大の粗



第7図 遺跡の模式地質柱状図

粒火山砂とその間をうめるきわめて細粒の火山灰とからなり、それらが互いに固着してやや硬くなっている。鏡下においてはシソ輝石やカンラン石・磁鉄鉱などが認められることから、開聞岳火山起源の火山噴出物であると考えられ、指宿地方での分布の傾向とその下に成川式土器があることより平安時代の噴出物（紫ゴラ）に相当する。

第6層 明茶褐色土 遺物包含層、全体にやわらかく粘質もなくサラサラしており、径2～3mm大の安山岩レキが点在している。下位の層との境界は不明瞭で漸移している。

第7層 暗茶褐色土 遺物包含層、上位の層に性質がよく似ているが、それよりやや硬質で黄白の卵大の軽石が点在している。粘質は弱くサラサラしており、小レキも点在している。

第8層 含白色軽石暗茶褐色土 やや離れた所から見ると卵大の軽石が一層をなしてほぼ水平に堆積しているように見えるが、実際には上下20cm程度の幅で暗茶褐色土中に点在している。暗茶褐色土はやや粘質を帯びべとつく。軽石は平均して卵大であるがまれに10cm以上のものもあり、軽石中に黒色長柱状のカクセン石が多く認められる。このような特徴を持つ軽石は池田火山起源の池田降下軽石である。

第9層 黄橙色火山噴出物 よごれた黄橙色を呈し、やや粘質のある粗粒のガラス質火山灰である。まれに1cm位の安山岩レキを含んでいる。一部は上位の8層中にもはいりこむ。

第10層 黄橙色火山噴出物 あざやかな黄橙色を呈しており、下位に米粒大の降下軽石をともなっている。本体はガラス質の火山灰であり、軽石まじりの火砕流堆積物は失なわれている。場所によっては軟かくフカフカしているが、全体的には硬質でよくしまっている。鏡下においてはシソ輝石・フツウ輝石・茶褐色パブルウォール型ガラスを含んでおり、これらの特徴と色調とからアカホヤ（幸屋火砕流）である。

第11層 明赤茶色火山噴出物 遺物包含層、明るい肌色を呈する硬質の火山灰で粘質があり、安山岩の小レキや赤橙色の風化スコリアを含むためザラザラしている。下位の層との境界はやや波状となっており、場所によっては火山灰がコブシ大のダンゴ状になっている。

第12層 黒色腐植土 遺物包含層、粘質を帯びた黒色の腐植土で、まれに赤色～赤橙色の風化粒子を含むが小レキはほとんど点在していない。下位の層との境界はやや波状である。

第13層 含黄橙色軽石黒茶土 やや明るい黒茶色土で火山灰をつくる結晶が目立ち、その中に梅干し大の軽石が点在している。遺跡近隣においては約20cmの厚さの黄橙色軽石のみの層となっている。鏡下においてはシソ輝石・フツウ輝石が認められ薩摩火山噴出物に相当する。

第14層 黒茶色粘質土 きわめて粘質の強い土で、下部ほど黒色が強くなっている。乾くとクラックが発達する。岩片や軽石等は認められない。

③ 遺跡内の地層はほぼ水平に堆積しているが、その中で降下軽石が上下に広く移動していることや異なる時代の遺物が同一層内に混在していることなどから、地層の堆積後若干の攪乱を受けていると考えられる。しかし住居址などの遺構が存在することやラミナなどの堆積構造が顕著でないこと、地層が水平であることなどからごく小規模な流水や風の影響などによるものと考えられる。

第2節 遺跡の調査

1. 遺跡の調査概要

(1) 遺構の検出状況 (第8図)

遺構は住居跡1基、土壙8基、溝状遺構4条、集石遺構5基、Pit642個が検出された。この遺構の検出面は第X層であった。

(2) 遺物の出土状況 (第9図)

遺物の出土状況はA～D-6、B～D-8・9区の2ヶ所に分けられる。遺物は両地区より出土しているがA～D-6区の方が多量に出土している。

A～D-6区に於いてはB-2区、D-2・3区、D-4・5区、C-4区等に集中して遺物が出土している。なお、D-3、C-5区の遺物の集中は集石遺構を表わしている。

A-0、B-0区の遺物は東側へ流れこんだ傾斜層より、出土した遺物でA-0・B-0区は畑地造成で削平されてシラス層になっている。なお、A・B-0・1区とB～D-1、2区の間は深い道路になっている。

A～D-6区においては、B～D-6区、A-5区より南東の方に遺物の残りが良い。

A～D-8～12区においては遺物の残りが少なく、C・D-9・10区を中心に遺物が出土している状況である。

2. 縄文時代の遺構検出・遺物出土状況

(1) 遺構の検出状況

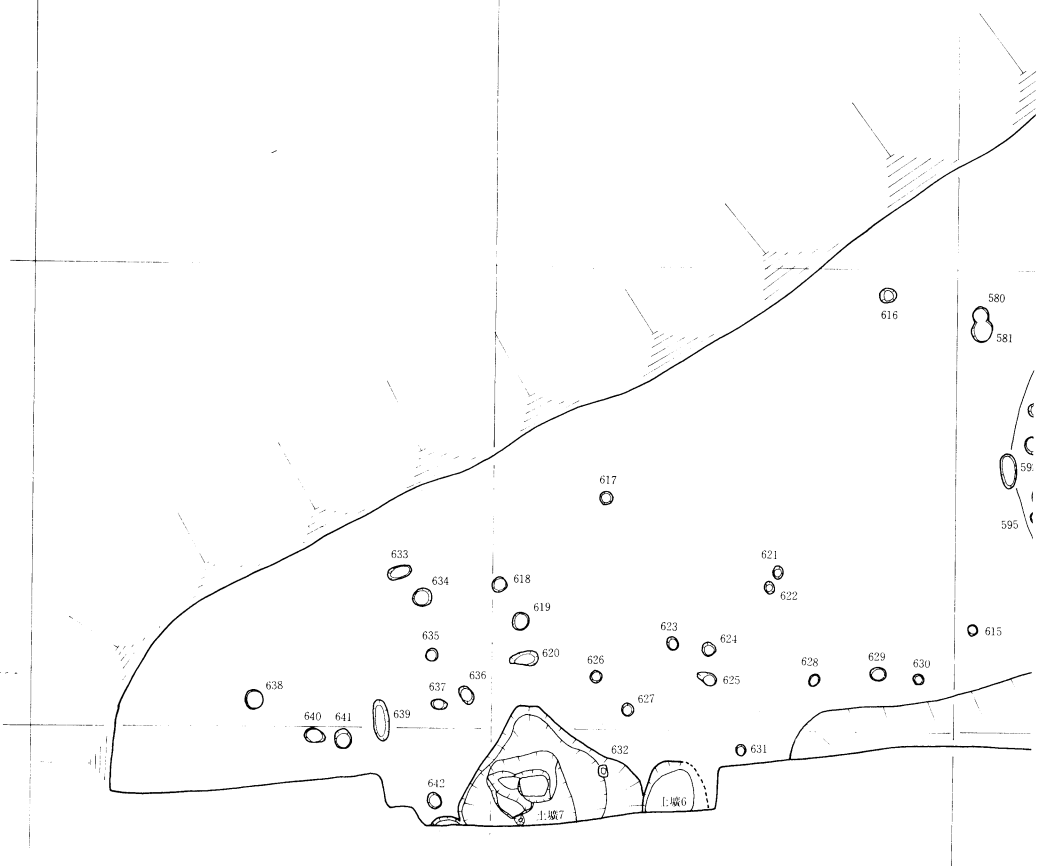
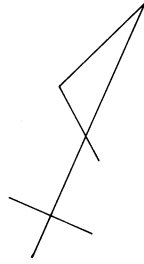
① 竪穴住居跡 (第10図)

D-6区に住居跡を検出した。第X層の面で色調の変化がとらえられた。遺物は住居跡の南側に多く出土している。その中には深鉢や精製・粗製の浅鉢がみられた。中央部近くのは口縁部に沈線を施す深鉢である。また中央のPitの西側にあるのは精製浅鉢である。遺物の出土状況は床面よりやや上部であった。

この住居跡は東南側が不鮮明であった。後の削平等で一部乱されている状態であったが円形プランの住居跡と思われる。直径は3m、深さは最も深い器壁が20cm確認できる。住居跡内には8箇のPitがあり、P₁～P₈まで数えられる。中央には40cm×50cm、深さ50cmのPit1がある。その周りにはP₂～P₈がある。この中で柱穴として利用されたと思われるものはP₂・P₄・P₇が考えられ、4本柱の住居跡が想定される。その他のPitは不明である。P₁は40×50×50cm、P₂は21×20×40cm、P₃は20×20×30cm、P₄は22×23×40cm、P₅は22×23×40cm、P₆は18×18×30cm、P₇は40×38×40cm、P₈は15×15×44cmの規模をもつ。

出土遺物 (第11図 1～14)

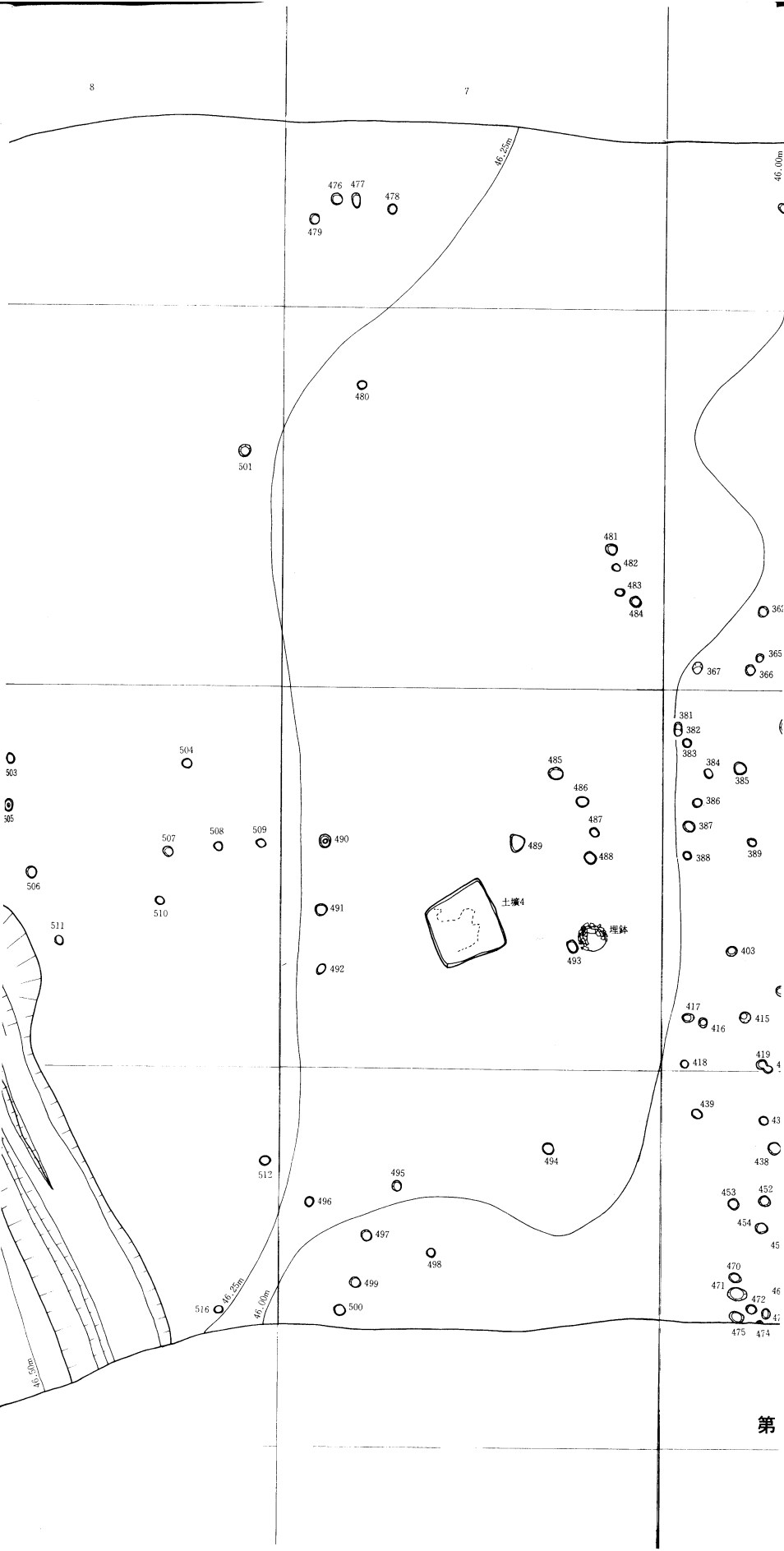
1は深鉢である。口縁部は外反し、頸部で「く」字状に折れ、段をもつ。肩部は長く胴部が張っている器形である。口縁部の沈線は5～6本を横位に雑に施されている。内外面の調整はヘラナデで丁寧に施されている。器壁が薄く暗茶褐色を呈する。2・3は口縁部で沈線を施している土器である。1～3は第XXVIII類の土器の深鉢Iに比定される。4は口縁部でやや外反して

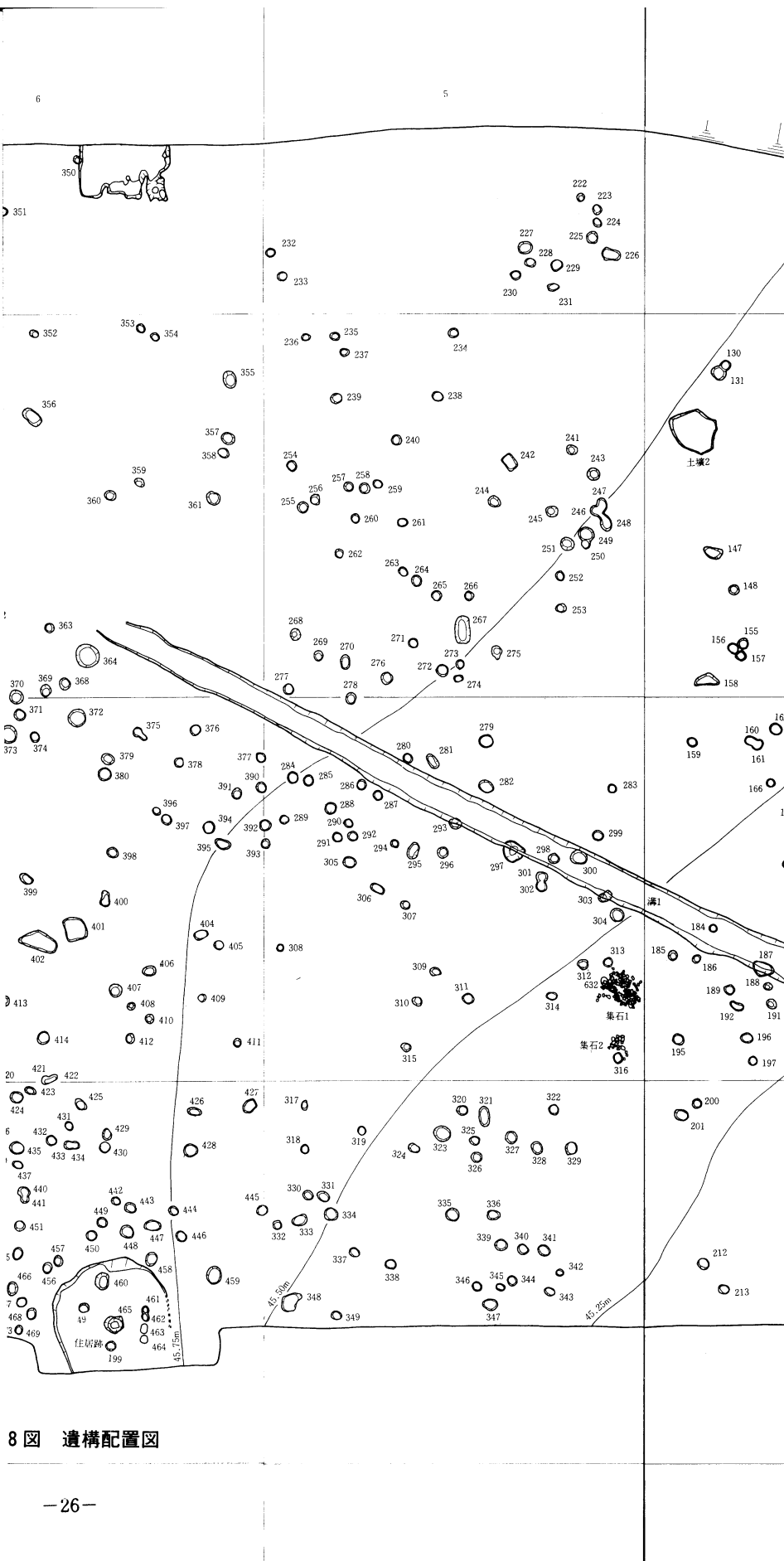




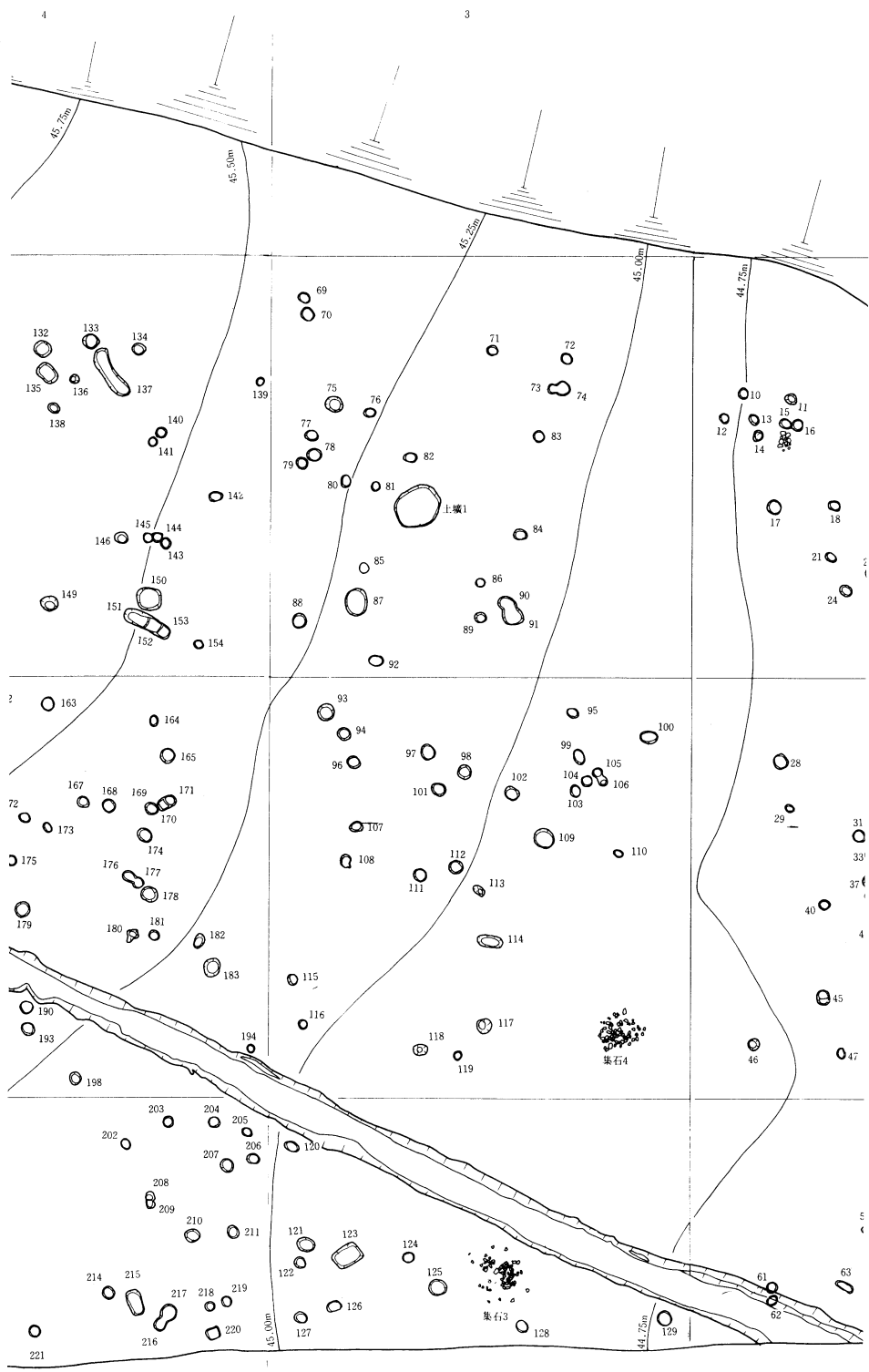
8

7





8 遺構配置図



2

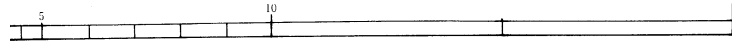
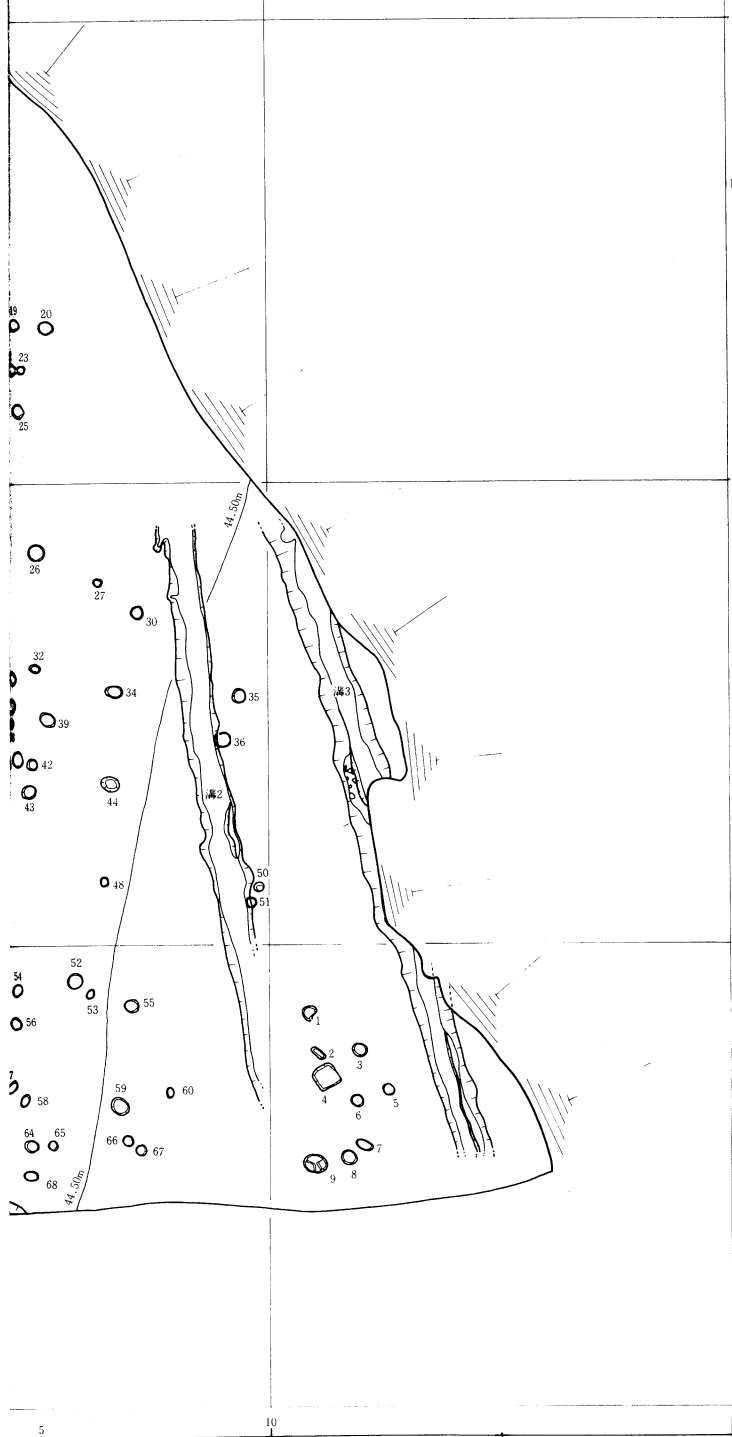
1

A

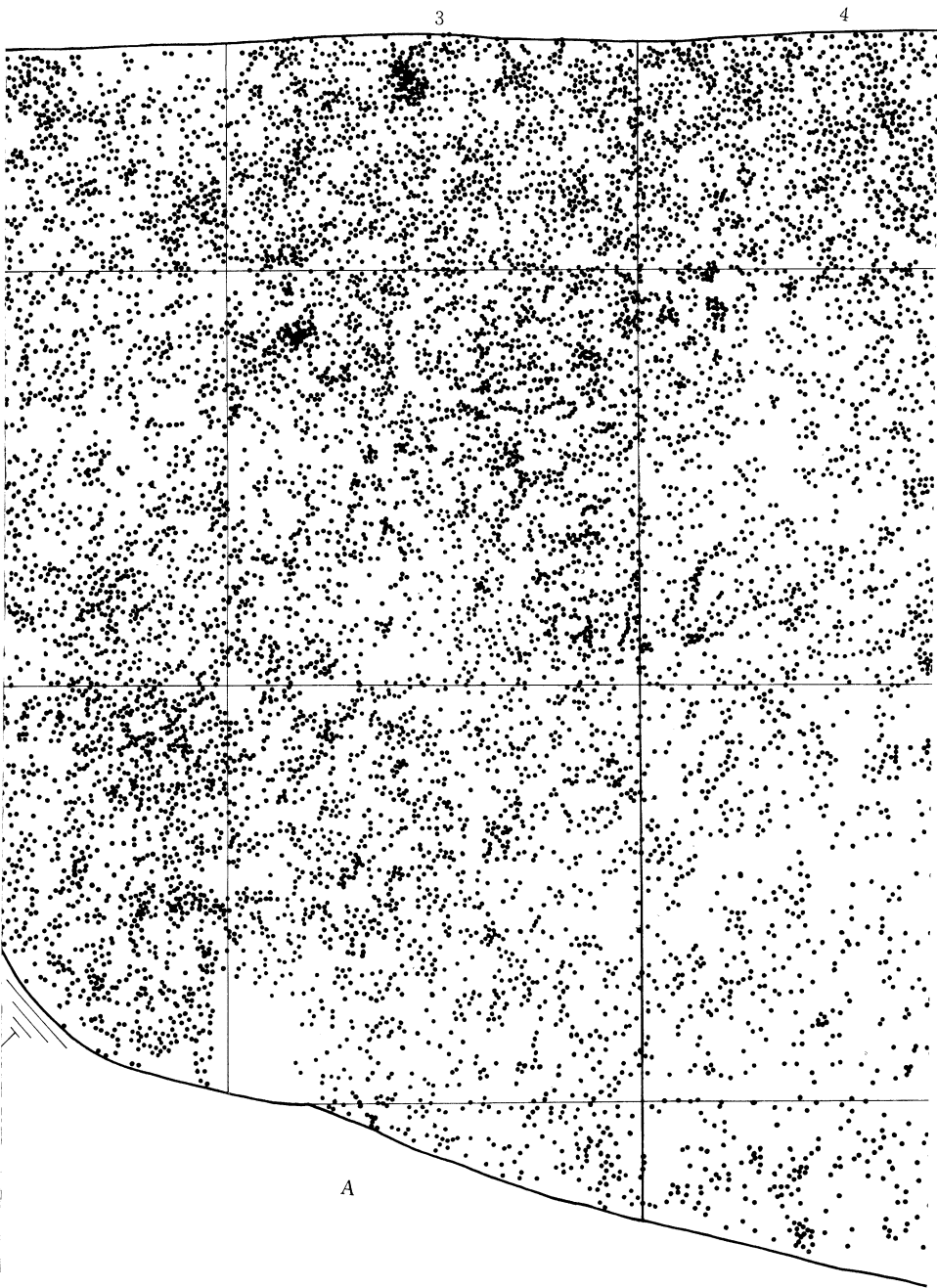
B

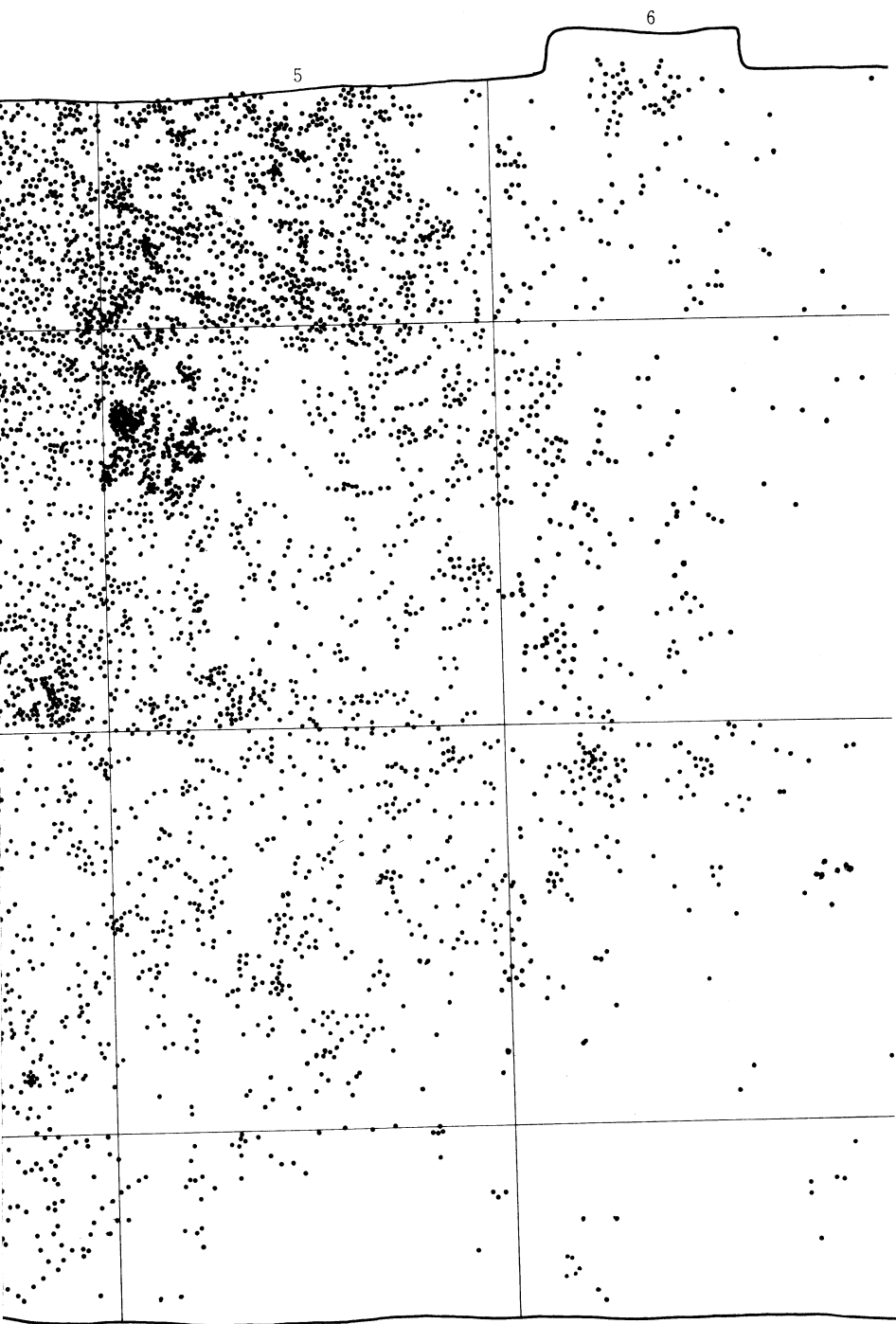
C

D

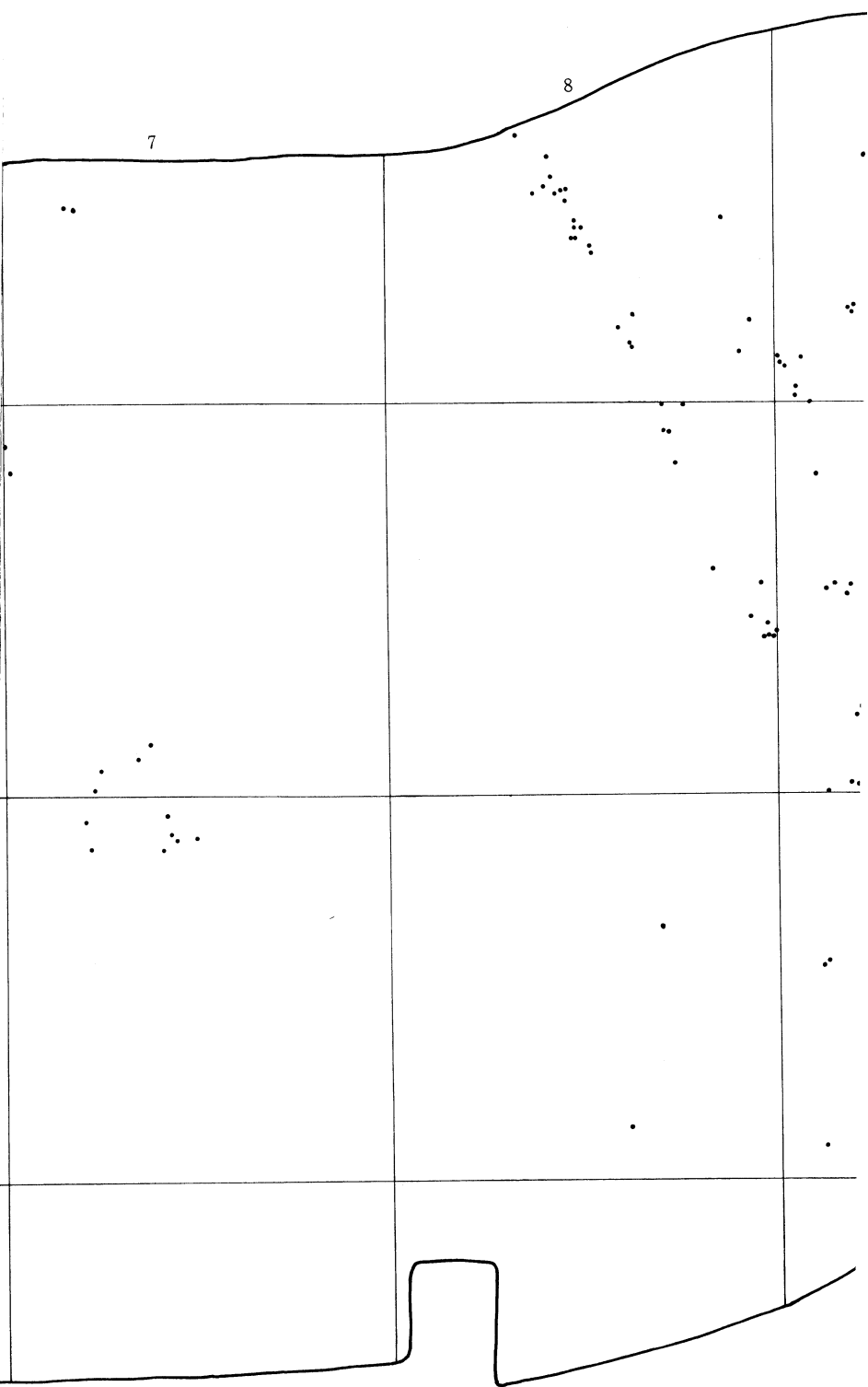


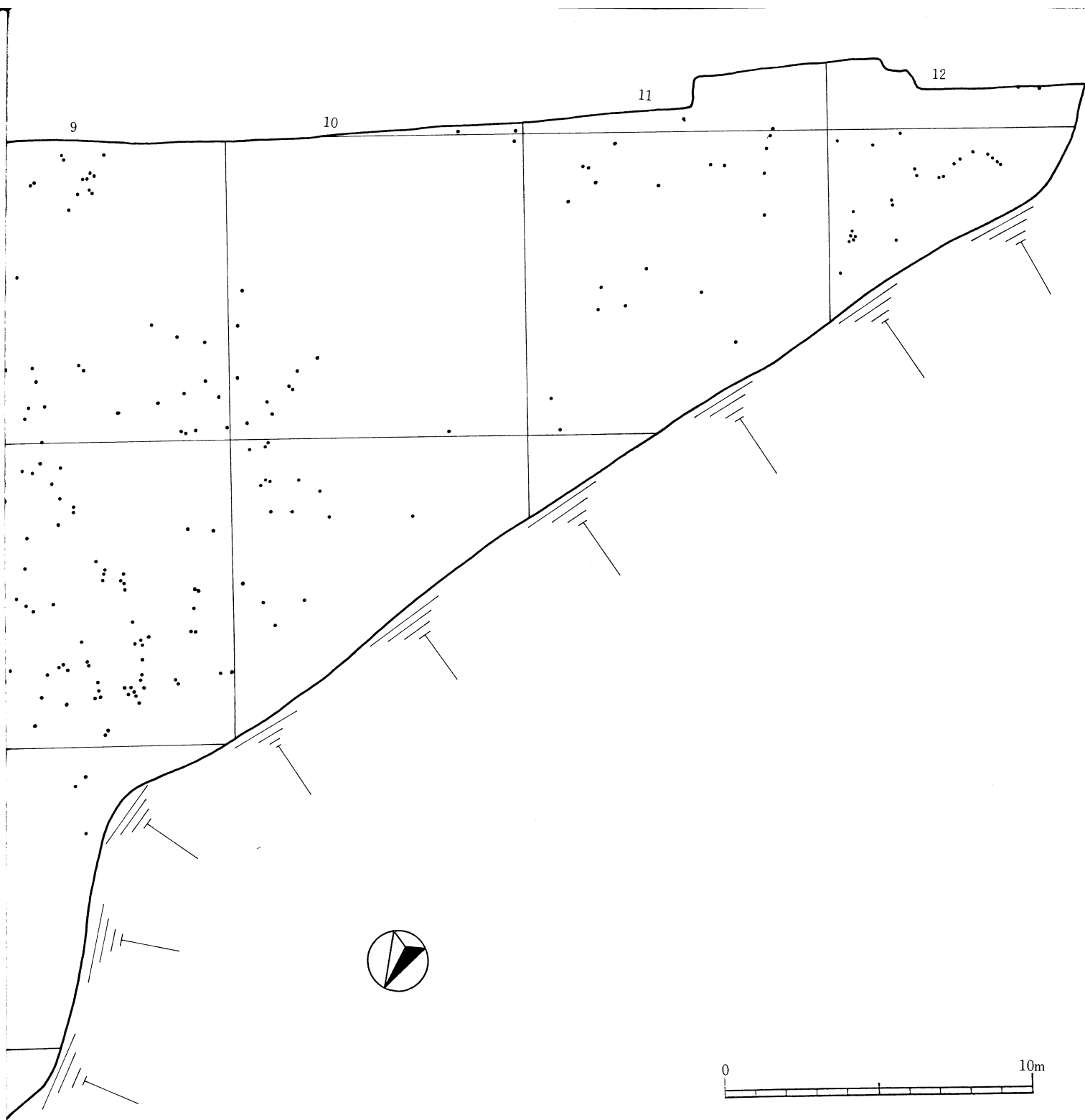


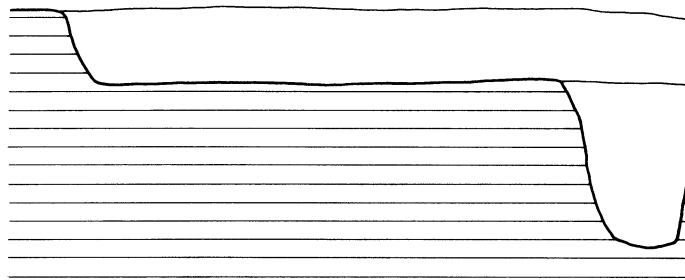




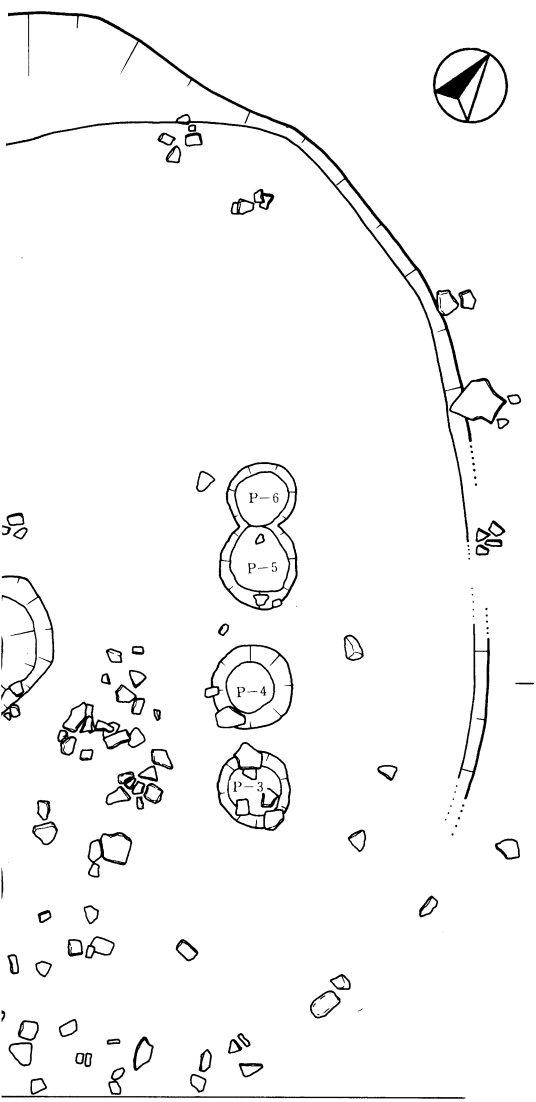
第9図 遺物分布全体図





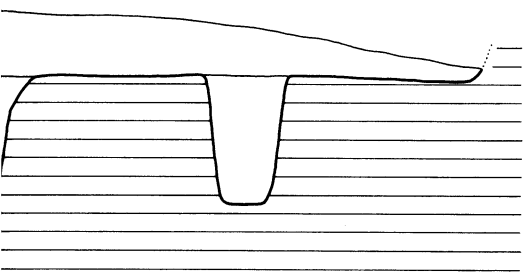


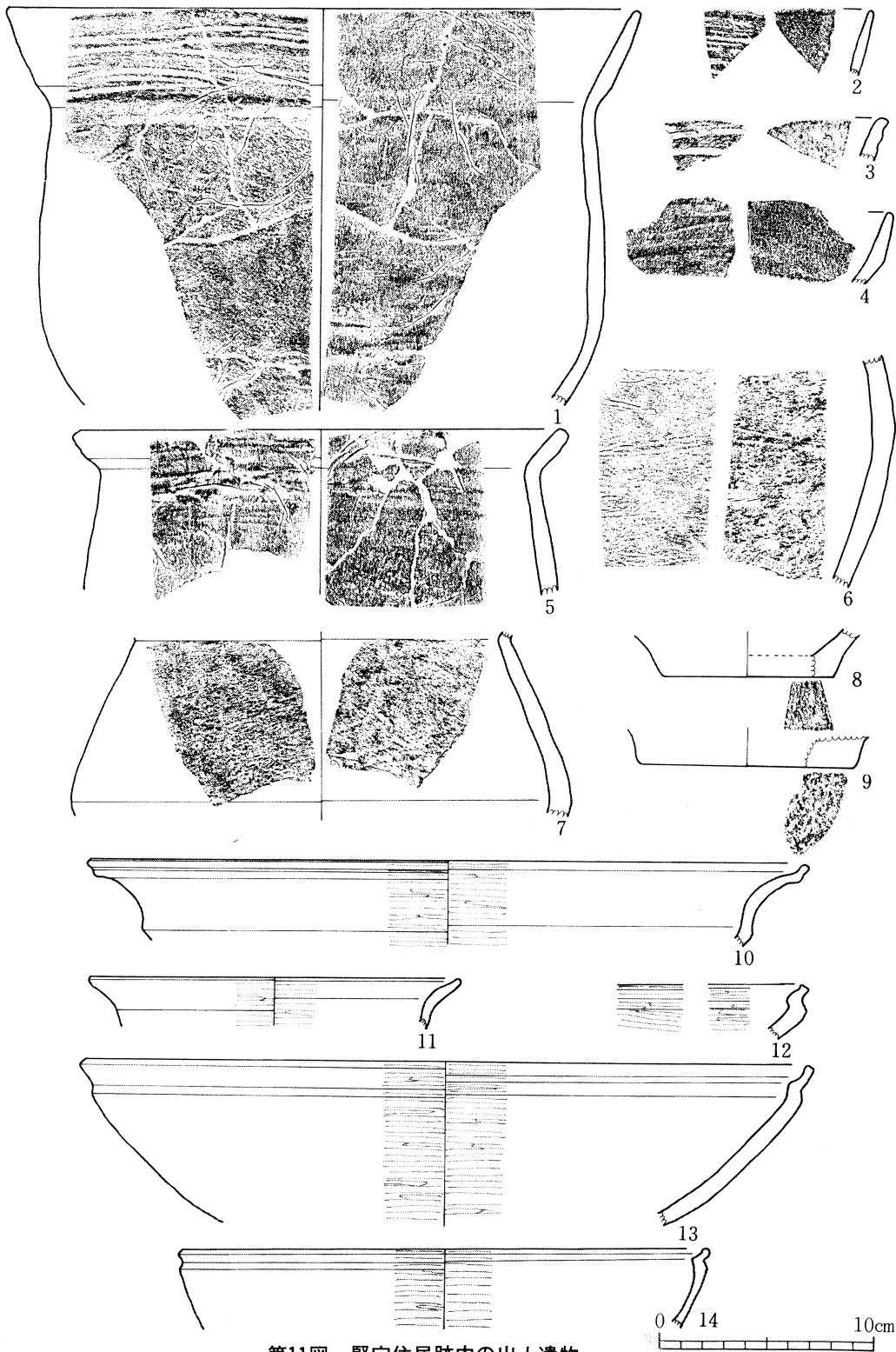
第10図 豎穴住居跡



路線外

46m 80cm





第11図 竪穴住居跡内の出土遺物

ナデ調整がなされている。5は口縁部が外反しナデ調整をした黒茶褐色の色調をもつ土器である。調整は半研磨状で非常に良い。6は胴部である。胴の張りは丸味をもっている。7は肩の部分である。頸部より胴部にかけて張り、やや稜線がみられる。器面調整はヘラナデである。8・9は底部で張り出しはない。10は精製浅鉢である。口縁部は立ち上り頸部が長く、胴部で「く」字に折れる器形である。器面調整は横位のヘラ研磨調整である。色調は黒褐色、11は10と類似しているが口縁部の立ち上りが無い。12~14は口縁部が短い精製浅鉢である。口縁部が短いために内側は段状になっている。器形は頸・肩部で「く」字状に2回折れて胴部は湾曲している。色調は黒褐色を呈し、器面調整は横位のヘラ研磨である。口径は1が29.5cm、5が22.5cm、10が34cm、11が17.5cm、12が24.5cm、14が25cmである。この住居跡は第XXVIII類が主体に出土しているのでこの住居跡は第XXVIII類の時期と考えられる。

② 土壌1 (第12図)

土壌1はB-3区に第X層で検出された。規模は115×90cm、深さ50cmで、この中は、三ヶ月状の浅い段があり、中央は90cmの円形である。遺物は中央上部より下部まで混入しているが一部を除いて埋土に出土している。

出土遺物 (第13図 15~24)

15は外反する口縁部である。内面はナデ調整で外面はやや粗い調整である。器壁は薄い。16は内面は丁寧なヘラナデで外面は粗いヘラナデで斜行に調整している。器壁は胴部にしては薄手である。色調は暗灰茶褐色~黒茶褐色を呈す。17も内側は丁寧な調整で外側は粗い。18・19は底部で19は平底を呈す。18は金雲母が多く混入して色調も赤褐色であるため他の土器と異なる。15~19は深鉢の形態に属する。20~22は精製浅鉢である。20は口縁部に玉縁状の立ち上りがあり、頸部と胴部で屈曲する。21は口縁部に沈線がある土器である。22は口縁部が外反し、玉縁状口縁である。これらはいずれも横位の研磨がみられる。色調は黒褐色を呈す。23は粗製浅鉢の底部である。内側の調整は良く、外側は粗い。24は円筒形の深鉢で外面は口縁部に貝殻押し引きと胴部は横位の貝殻条痕である。内側は下部からのヘラ押し上げによる調整をされている。色調は外面が茶褐色、内面が灰茶褐色である。この土器は第Ia類に属すると思われる。

土壌1は第XXIX類を主体に第XXVIII類と第XXX類が混在している遺構である。この土壌は第XXIX類期のもので一番新しいので第XXX類の時期のものであろう。

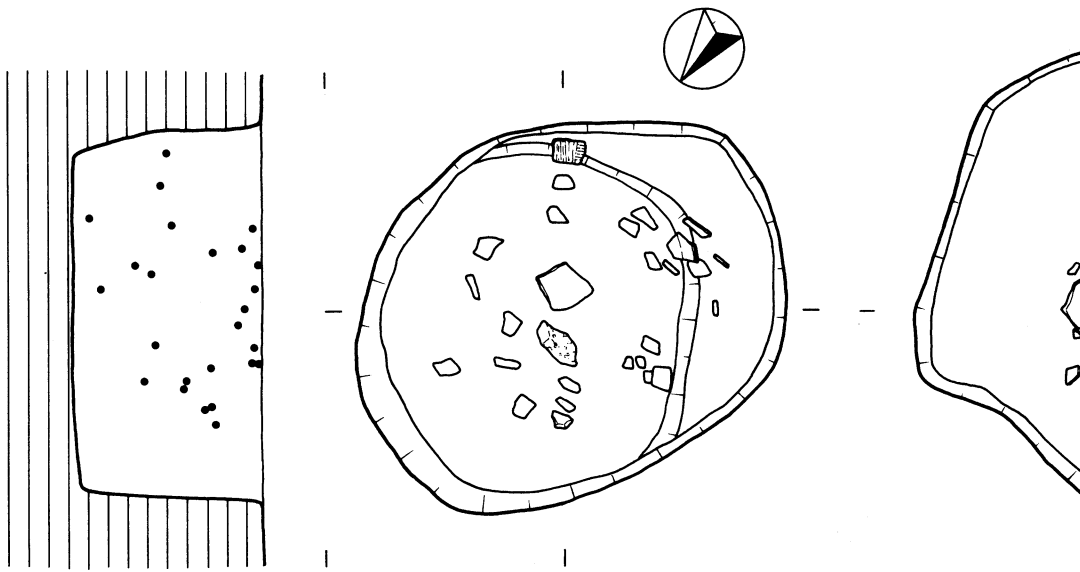
③土壌2 (第12図)

土壌2はB-4区に第X層で検出した。120×120cmの不定形をした土壌で深さは25cmである。

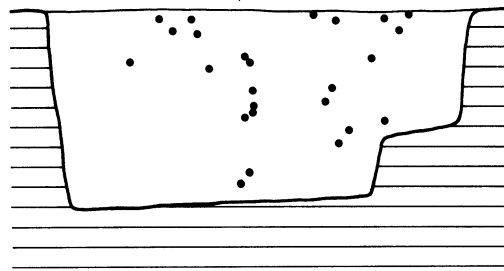
遺物は中央部の上部から下部に出土し、床面にも多く出土した。床面はフラットで安定性があった。

出土遺物 (第14図 25~39)

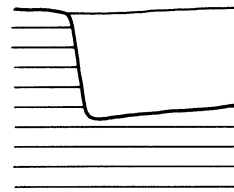
25~29は深鉢である。25は口縁部が外反し、頸・肩部で短く屈折し、やや丸味をもった胴部をもつ器形である。口唇部には箱状の突起を付けている。器面調整はやや粗い。色調は茶褐色を呈す。26は沈線のある口縁部である。27は平底の底部である。28・29は口縁部で29には帯状



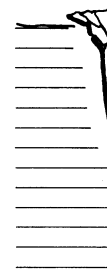
45.2M-



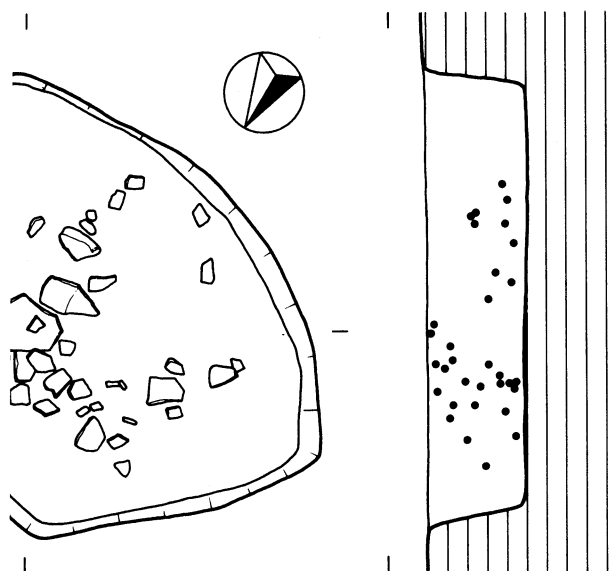
土城1



45.2M-



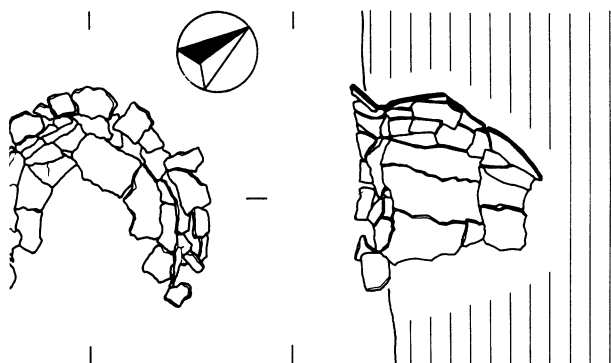
第12図 土城1・2及び埋鉢



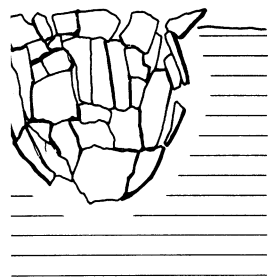
-45.2M



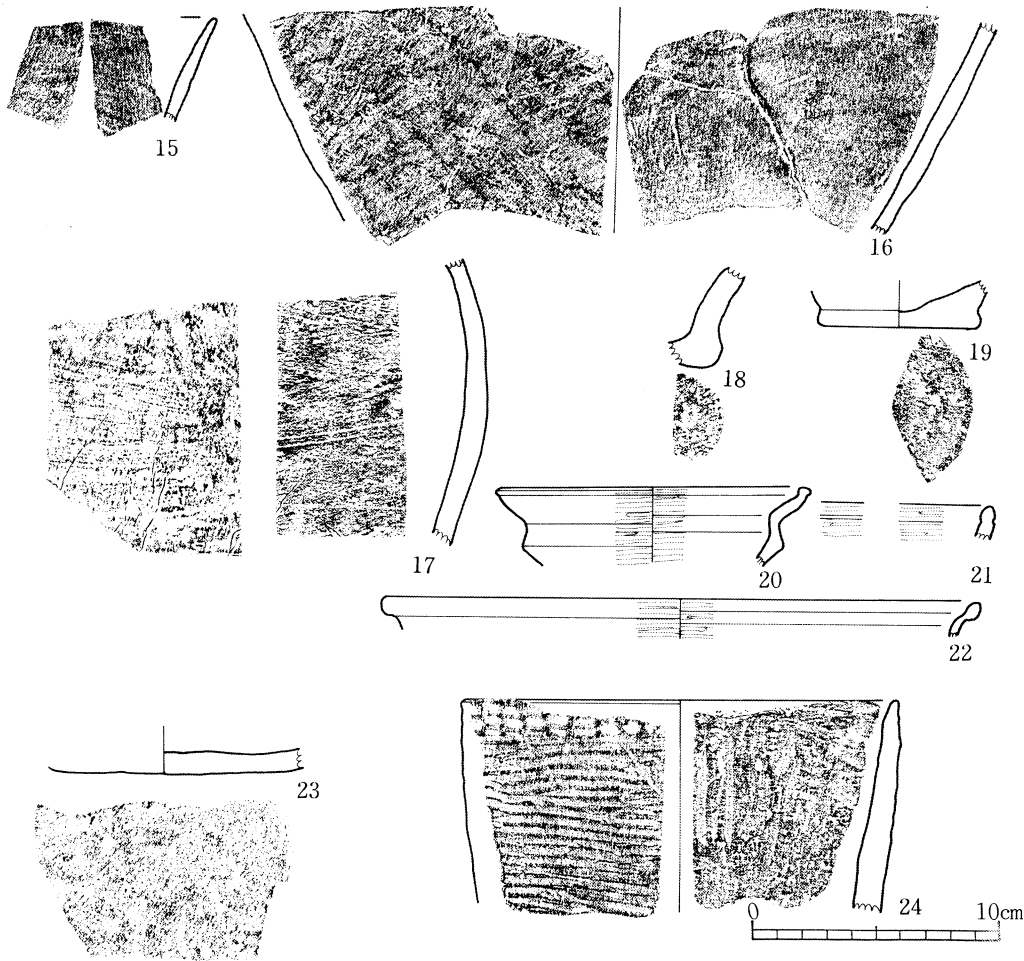
土坑2



埋鉢



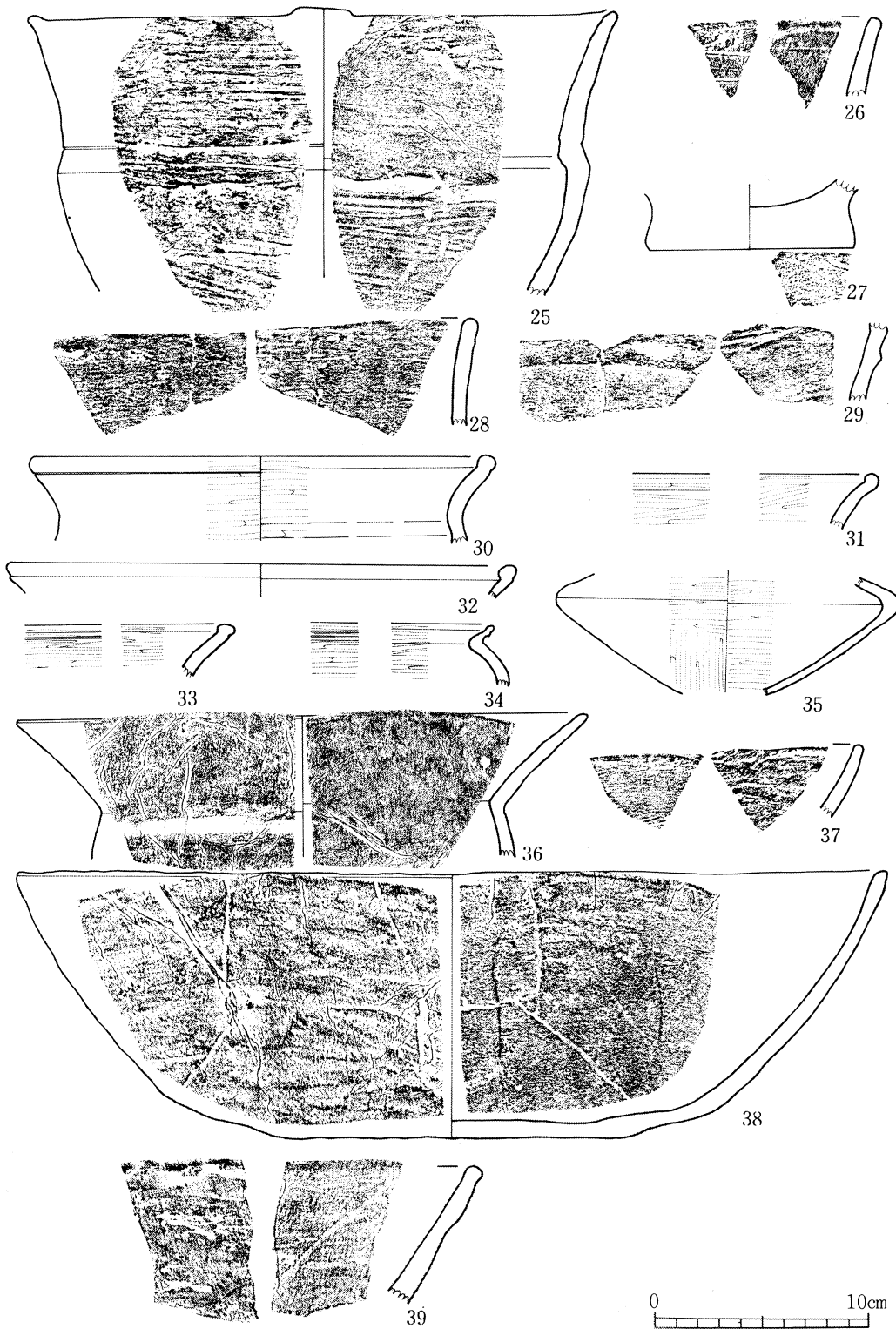
0 50cm



第13図 土壌1内の出土遺物

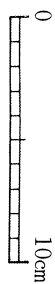
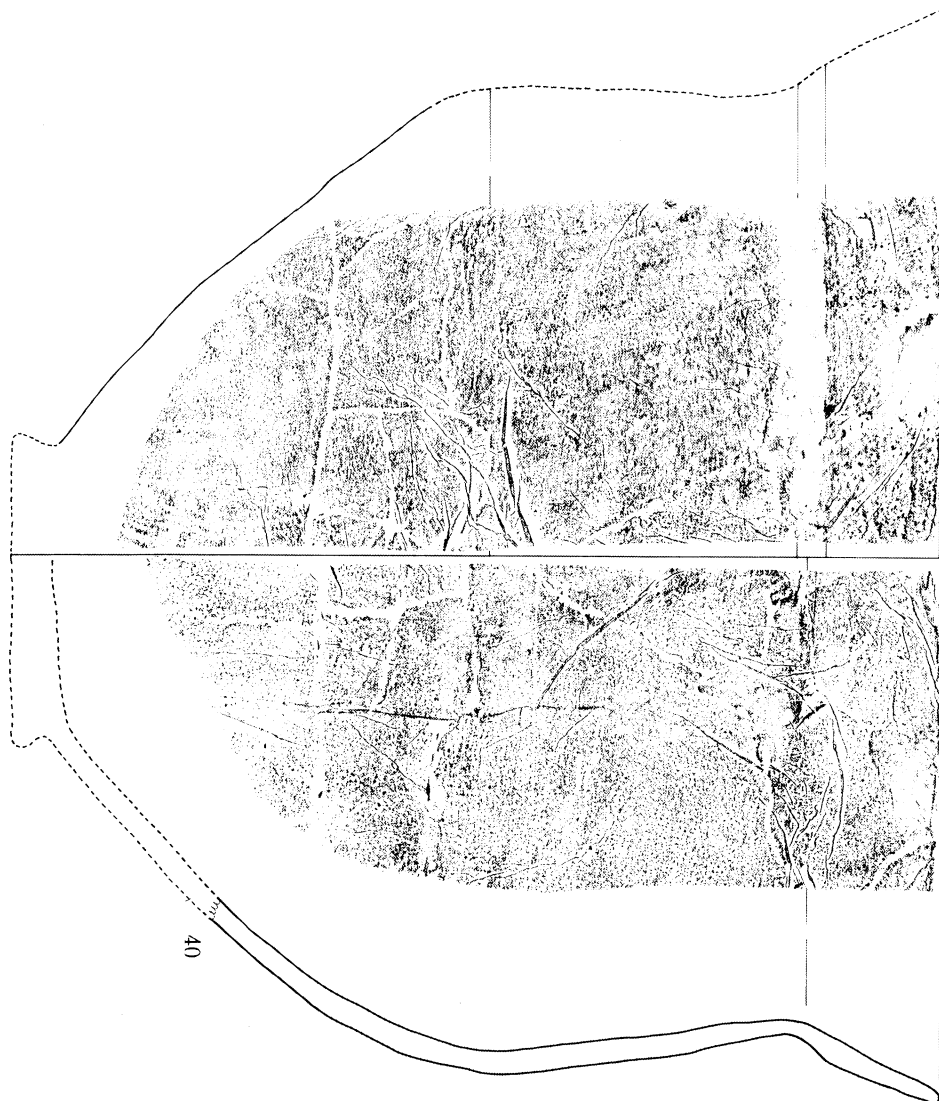
に肥厚帯がついている。器面調整は粗い。色調は黒褐色から茶褐色を呈す。

30~35は精製浅鉢である。30~34は口縁部から胴部にかけての土器の破片で、35は胴部から底部にかけてのものである。すべて研磨調整されている。30は頸部が浅く「く」字状に曲り、口唇部は玉縁状口縁である。30~33は口縁部が長く、34は短い。34は胴部が丸く湾曲し、35は鋭く湾曲している。36は頸部で「く」字状に折れ、口縁部は直線的に外反した器形の土器である。内外面暗赤茶褐色で研磨土器である。37~39は粗製浅鉢である。37・39は口縁部で灰茶褐色と黒茶褐色を呈す。38は口径46cm、高さ12.5cmの大きさで完形品である。内面は研磨調整で外面はヘラナデ調整が横位に施されている。色調は灰茶褐色を呈し、底部は赤茶褐色を呈している。これはここでの粗製浅鉢Iに当たる。この土壌は第XXIX類が主体をしめ、一番新しいので第XXIX類の時期のものであろう。



第14図 土壙2内の出土遺物

第15図 埋 鉢



④ 埋鉢 (第12図, 第15図 40)

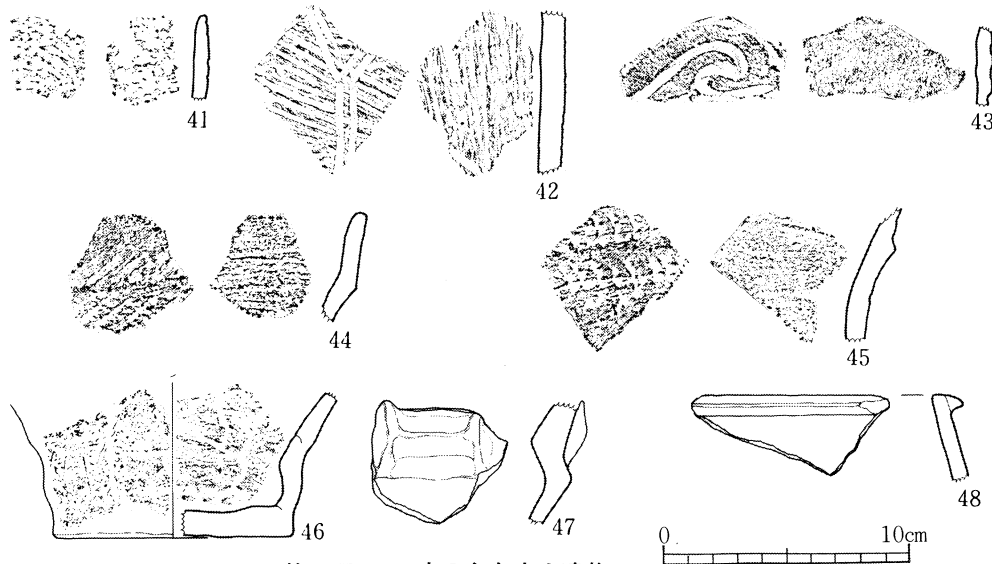
埋鉢はC-6区で検出した。深鉢が半欠の状態縦に埋めこまれていた。この埋鉢の土壌の線は深鉢がはいる程度で広くはなかった。その半欠は東の方で掘り込みの線は深鉢の大きさ程度であった。なお底部も欠損していた。埋土の中には何も入っていなかった。口縁部は上を向いた状態で検出されたが口縁部は整然とした状態であり、乱れは少なかった。

この埋鉢の性格は貯蔵用か埋葬用かと考えられるがここでは不明である。

40は埋鉢遺構の土器で深鉢である。口縁部が外反し、頸部で段がつき「く」字状に折れ、胴部は丸味を持ちながら張り、底部近くまでである。器面調整はヘラのナデ調整で外面は口縁部が横位、頸部から胴部は縦位である。内面は胴部より上が横位で底部近くが縦位である。色調は茶褐色の土器である。この土器は第XXVIII類にあたる。

⑤ Pit群 (第8図, 第16図 41~48, 第4表~第6表)

Pitは642個検出した。0~6区のもの縄文前期~古墳時代のものが主で、8~12区の中・近世のPitが主である。



第16図 Pit内の主な出土遺物

⑥ 集石遺構 (第17図)

集石遺構は5基検出した。いずれも第VII, VIII層の検出で、縄文時代の所産と考えられる。

1号, 2号はC-5区の第VII層中で検出した。1号は拳大の円礫約150個を使用した不定形の集石であり、底面には小児頭大の円礫が三個置かれていた。しかし明確な掘り込みは確認できなかった。2号は略方形を呈し、拳大の円礫約20個, 約40cm四方の小型の集石である。この二つの集石は約1mしか離れておらず、また周囲には礫や縄文後・晩期該当の遺物が散乱していた。1号の610は第XXIIIa類の, 847は無文土器の口縁部片である。

3号はD-3区の第VIII層上部で検出した。円礫約90個を使用し、平面形は長楕円形を呈す。

第4表 Pit計測表 (1)

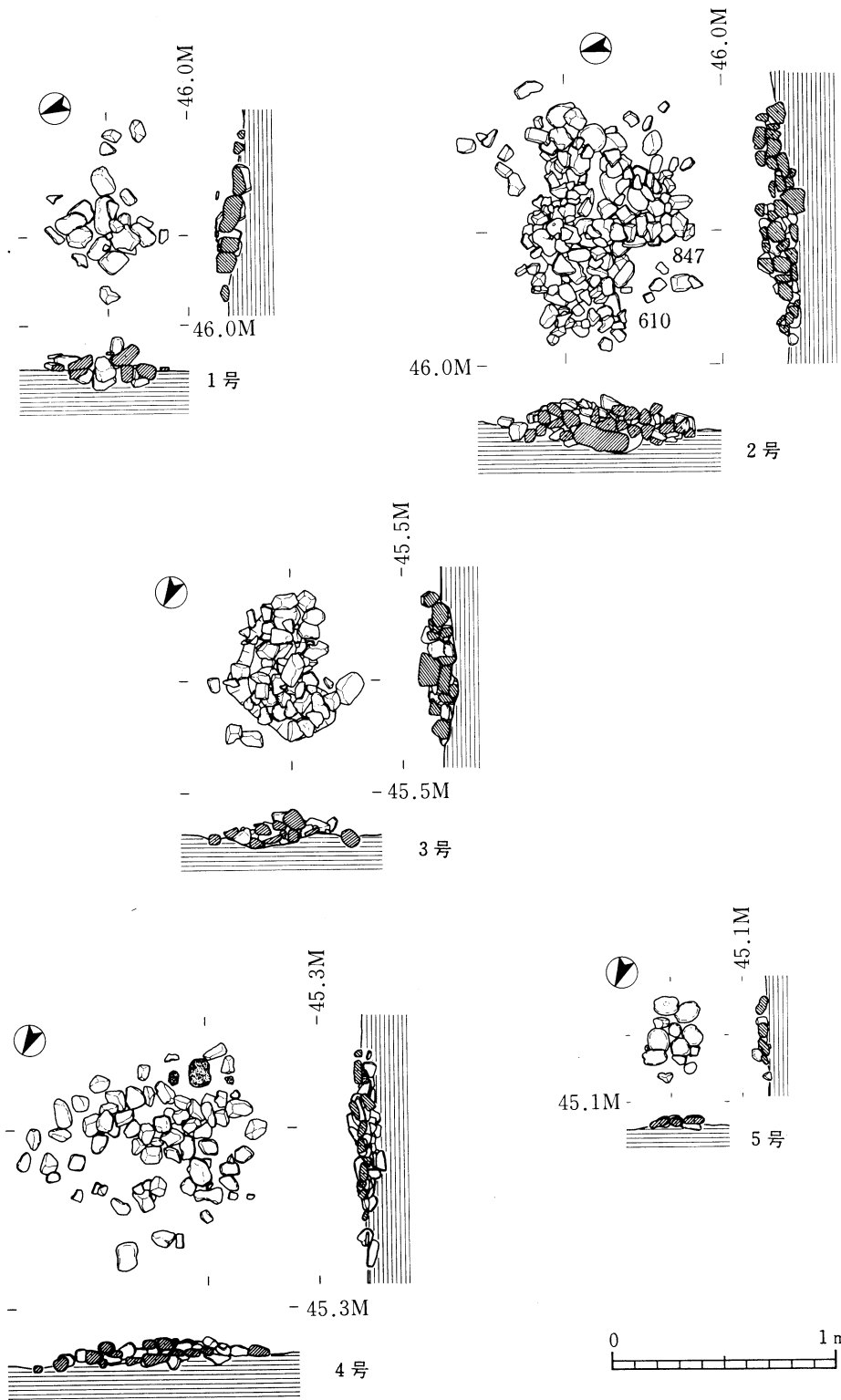
形態				出土遺物				形態				出土遺物											
円形	楕円形	A形	隅丸方形	E形	縄文	早期	A形	晚期	E形	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物		
		B形	長方形	F形	前期	B形	弥生	F形	107	C-3	34	25	32.5	B		165	C-4	36	35	50.5	A		
		C形	隅丸長方形	G形	中期	C形	古墳~平安	G形	108	C-3	24	18	40	H		166	C-4	24	19	26.5	B		
		D形	不定形	H形	後期	D形	中・近世	H形	109	C-3	48	44	30	B		167	C-4	30	25	34.5	B		
区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物
1	D-1	38	26	27.5	H	54	D-2	33	23	56	B	112	C-3	35	30	38	B	170	C-7	29	29	18	F+H
2	D-1	36	15	35	F	55	D-2	34	29	22	B	113	C-3	32	20	37.5	B	171	C-7	30	26	22	F+H
3	D-1	33	18	43	B	56	D-2	33	25	22.5	F	114	C-3	60	25	44.5	C	172	C-4	29	22	21.5	B
4	D-1	51	50	40	D	57	D-2	35	20	23	B	115	C-3	25	24	34	A	173	C-4	25	20	20.5	B
5	D-1	27	22	59	B	58	D-2	30	18	56.5	C	116	C-3	22	21	43	A	174	C-4	36	30	32	B
6	D-1	30	25	34.5	B	59	D-2	40	34	59	B	117	C-3	35	34	39.5	A	175	C-4	30	26	34	B
7	D-1	40	22	35.5	F	60	D-2	21	17	26	B	118	C-3	36	25	40.5	B	176	C-4	28	23	23	B+H
8	D-1	38	31	31	B	61	D-2	27	23	41	B	119	C-3	20	19	36	A	177	C-4	26	25	19	A+H
9	D-1	51	38	36.5	C	62	D-2	28	22	36	B	120	D-3	36	24	33.5	C	178	C-4	41	35	49	B
10	B-2	24	23	36	A	63	D-2	46	19	33	C	121	D-3	43	32	42	B	179	C-4	39	36	24.5	B
11	B-2	30	24	46	B	64	D-2	35	24	44	B	122	D-3	29	25	37	B	180	C-4	39	21	28	H
12	B-2	23	24	42.5	A	65	D-2	23	20	34	A	123	D-3	65	48	49	F	181	C-4	27	22	23.5	B
13	B-2	28	25	44.5	B	66	D-2	25	23	40	A	124	D-3	28	23	30	B	182	C-4	34	22	33.5	C
14	B-2	26	24	38.5	B	67	D-2	24	21	28	B	125	D-3	45	35	51	B	183	C-4	42	39	33.5	B
15	B-2	30	21	40.5	B	68	D-2	36	20	50	C	126	D-3	36	22	30	B	184	C-4	23	19	34.5	B
16	B-2	26	24	26	B	69	B-3	30	25	44.5	B	127	D-3	33	25	32	B	185	C-4	26	25	33	A
17	B-2	33	34	43.5	A	70	B-3	32	30	40.5	B	128	D-3	30	25	42	B	186	C-4	22	20	35	B
18	B-2	29	22	46.5	F	71	B-3	27	24	19.5	B	129	D-3	34	32	47	B	187	C-4	59	38	24	H E-1
19	B-2	32	25	45	B	72	B-3	28	25	33	B	130	B-4	26	25	24	A+H	188	C-4	25	17	30	B
20	B-2	32	26	42	B	73	B-3	24	21	36	B+H	131	B-4	38	36	39	B+H	189	C-4	30	26	13	B E-1
21	B-2	29	21	29	B	74	B-3	35	30	38.5	B+H	132	B-4	40	39	30	D	190	C-4	35	29	23	B
22	B-2	30	21	29	B+H	75	B-3	45	35	50	B	133	B-4	41	36	10	D	191	C-4	28	22	59	B
23	B-2	20	17	31	B+H	76	B-3	28	22	41	B	134	B-4	34	27	27	B	192	C-4	39	17	34	H E-1
24	B-2	30	25	30.5	B	77	B-3	33	24	38	B	135	B-4	54	38	30	F	193	C-4	34	27	30	B E-1
25	B-2	35	30	30.5	B	78	B-3	35	29	51	B	136	B-4	22	21	26	D	194	C-4	19	19	19	A D-2
26	C-2	36	36	27	A	79	B-3	31	26	50.5	B	137	B-4	112	30	23	C	195	C-4	30	27	10.2	B D-1, E-1
27	C-2	23	19	19	B	80	B-3	31	22	33	B	138	B-4	28	23	21.5	B	196	C-4	35	24	32	B
28	C-2	35	34	10	A	81	B-3	33	21	31.5	B	139	B-4	19	18	29	A	197	C-4	25	22	20	B
29	C-2	22	19	34	B	82	B-3	32	24	53	B	140	B-4	28	26	45	B	198	C-4	27	27	15	A
30	C-2	29	26	17.5	B	83	B-3	27	25	48	B	141	B-4	23	22	38	A	199	D-6	44	43	42.5	A
31	C-2	34	30	27.5	B	84	B-3	33	25	49.5	B	142	B-4	32	21	37	B	200	D-4	25	25	51.5	A
32	C-2	26	18	21	C	85	B-3	24	21	47	B	143	B-4	27	23	28	B	201	D-4	37	30	33	B
33	C-2	30	27	26.5	B	86	B-3	25	20	34.5	B	144	B-4	26	22	27.5	H	202	D-4	28	23	48	B
34	C-2	37	26	30	G	87	B-3	70	52	44	B	145	B-4	25	21	30	B	203	D-4	26	24	26	A
35	C-2	34	28	18	E	88	B-3	30	32	41	A	146	B-4	31	26	43	B	204	D-4	27	24	28.5	B
36	C-2	39	32	26	B	89	B-3	30	23	37	B	147	B-4	47	29	22.5	G	205	D-4	25	18	24.5	B
37	C-2	34	27	31.5	B	90	B-3	43	33	28.5	B+H	148	B-4	29	25	21	B	206	D-4	29	21	47	B
38	C-2	20	19	19.5	B	91	B-3	50	45	30	B+H	149	B-4	41	34	55	B	207	D-4	34	31	44.5	B
39	C-2	36	29	25.5	B	92	B-3	35	25	37.5	B	150	B-4	65	56	31	E	208	D-4	22	21	59	A+H
40	C-2	29	26	28.5	B	93	C-3	42	40	32.5	A	151	B-4	44	35	38	G+H	209	D-4	23	21	59	B+H
41	C-2	34	32	33	B	94	C-3	32	28	35	B	152	B-4	45	34	20	G+H	210	D-4	37	29	47.5	B
42	C-2	26	26	30.5	A	95	C-3	31	22	39	A	153	B-4	38	32	14	G+H	211	D-4	31	25	39	B
43	C-2	36	27	39.5	B	96	C-3	34	27	33	B	154	B-4	26	22	33	B	212	D-4	33	26	50	B
44	C-2	41	30	27	B	97	C-3	36	35	34.5	A	155	B-4	29	27	25	B	213	D-4	29	23	35	B
45	C-2	33	29	33	F	98	C-3	32	32	33.5	A	156	B-4	28	26	26	B	214	D-4	30	28	37	B
46	C-2	28	27	25.5	A	99	C-3	37	26	40	B	157	B-4	28	23	21.5	B	215	D-4	60	33	28	C
47	C-2	27	21	40	B	100	C-3	47	27	34	B	158	B-4	60	31	46.1	G	216	D-4	32	28	30	B+H
48	C-2	21	19	26	A	101	C-3	38	31	30.5	B	159	C-4	27	20	24.5	B	217	D-4	40	38	31.5	B+H
49	D-6	32	31	36.5	A	102	C-3	36	34	37	B	160	C-4	25	24	22	A+H	218	D-4	25	21	41	B
50	C-2	20	25	27	B	103	C-3	29	25	36.5	B	161	C-4	30	29	24	A+H	219	D-4	26	24	31	B
51	C-2	25	24	43	A	104	C-3	29	26	37.5	B	162	C-4	34	27	28.5	B	220	D-4	34	29	34.5	F
52	D-2	35	34	28	A	105	C-3	26	25	39	A+H	163	C-4	32	31	23.5	A	221	D-4	30	27	37	B
53	D-2	24	16	35	B	106	C-3	24	21	38.5	B+H	164	C-4	25	23	39	B	222	A-5	23	22	46	A

第5表 Pit計測表 (2)

№	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物	№	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物	№	区	長径	短径	深さ	形態	出土遺物							
223	A-5	25	25	3.9	A		281	C-5	41	22	31.5	C		339	D-5	34	27	4.5	B		397	C-6	28	25	5.25	B	
224	A-5	25	23	4.2	B		282	C-5	40	28	37.5	C		340	D-5	30	25	3.9	B		398	C-6	30	25	3.9	B	
225	A-5	30	30	3.9	A		283	C-5	25	21	33.5	B		341	D-5	32	25	3.2	B		399	C-6	35	29	6.15	B	
226	A-5	50	26	2.6	C		284	C-5	30	27	30.5	B		342	D-5	21	18	30.5	B		400	C-6	36	20	4.15	H	
227	A-5	36	33	40.5	B		285	C-5	28	26	37.5	B		343	D-5	30	22	3.4	B		401	C-6	61	60	3.1	D	
228	A-5	38	24	36.5	B		286	C-5	25	24	4.1	A		344	D-5	27	24	37.5	B		402	C-6	100.5	50	35.5	C	
229	A-5	32	29	3.1	B		287	C-5	26	23	3.9	B		345	D-5	25	20	39.5	B		403	C-6	30	29	5.5	A	
230	A-5	26	23	3.8	B		288	C-5	29	29	44.5	A		346	D-5	26	23	30.5	B		404	C-6	38	27	4.6	F	
231	A-5	32	25	33.5	B		289	C-5	24	22	31.5	A		347	D-5	40	28	3.1	B		405	C-6	26	21	44.5	B	
232	A-5	25	23	2.9	D		290	C-5	25	20	3.1	B		348	D-5	60	38	51.5	H		406	C-6	36	25	3.0	B	E-1, G-1
233	A-5	26	23	33.5	D		291	C-5	28	22	3.9	B		349	D-5	30	21	27.5	B		407	C-6	33	30	5.7	B	
234	B-5	26	24	37.5	B		292	C-5	28	23	4.4	B	D-1, E-4	350	A-6	25	23	4.0	B		408	C-6	21	20	5.0	A	
235	B-5	26	21	22.5	B		293	C-5	35	25	35	C		351	A-6	34	26	24.5	B		409	C-6	21	21	4.8	A	
236	B-5	23	18	22.5	B		294	C-5	21	19	3.7	B		352	A-6	25	19	2.9	B		410	C-6	24	23	3.9	A	E-1
237	B-5	25	20	38.5	B		295	C-5	45	24	4.0	C		353	B-6	24	22	35.5	B		411	C-6	24	21	2.9	B	
238	B-5	32	23	3.1	B		296	C-5	25	25	3.0	A		354	B-6	24	20	3.4	B		412	C-6	26	24	4.2	B	
239	B-5	30	26	42.5	B		297	C-5	59	57	40.5	B		355	B-6	45	33	43.5	B		413	C-6	37	25	5.7	B	
240	B-5	26	25	5.2	A		298	C-5	28	25	4.3	B		356	B-6	53	33	4.2	G		414	C-6	32	32	3.8	A	
241	B-5	29	25	5.0	B		299	C-5	31	28	47.5	B		357	B-6	36	35	5.0	A		415	C-6	30	29	5.0	A	
242	B-5	40	30	4.5	F		300	C-5	45	36	74.5	B		358	B-6	30	23	5.0	B		416	C-6	25	23	4.1	B	
243	B-5	29	29		A		301	C-5	30	29	3.9	A		359	B-6	35	20	4.7	B		417	C-6	33	24	4.7	B	
244	B-5	33	27	43.5	B		302	C-5	30	30	4.0	A		360	B-6	29	26	3.3	B		418	C-6	20	20	3.0	A	
245	B-5	34	27	5.4	B		303	C-5	40	25	6.6	G+H		361	B-6	36	32	4.5	B		419	C-6	27	26	2.2	A+H	E-1
246	B-5	26	22	4.0	B		304	C-5	37	36	48.5	A		362	B-6	28	28	4.4	A		420	C-6	25	21	2.2	B+H	
247	B-5	30	25	48.5	A+H		305	C-5	35	27	34.5	B		363	B-6	24	22	41.5	B		421	C-6	23	20	2.9	B+H	
248	B-5	44	25	46.5	C+H		306	C-5	40	22	37.5	C		364	B-6	62	60	2.7	B		422	C-6	18	18	2.8	A+H	
249	B-5	39	39	55.5	A+H		307	C-5	25	21	2.9	B		365	B-6	20	18	4.1	B		423	D-6	31	25	33.5	C	
250	B-5	25	22	7.6	B+H		308	C-5	19	18	3.6	A		366	B-6	29	26	4.7	B		424	D-6	35	26	36.5	G	
251	B-5	36	33	4.0	B		309	C-5	30	19	3.2	B	E-1	367	B-6	30	28	3.9	B		425	D-6	35	23	32.5	H	
252	B-5	25	22	42.5	B		310	C-5	26	20	5.7	B		368	B-6	30	26	4.0	B		426	D-6	36	20	3.4	C	
253	B-5	30	21	4.2	B		311	C-5	29	28	6.5	A		369	B-6	30	28	3.0	B		427	D-6	40	29	39.5	B	
254	B-5	27	26	3.3	A		312	C-5	31	27	7.6	B	D-2, E-3	370	C-6	37	34	3.1	B		428	D-6	38	32	4.0	B	
255	B-5	31	28	3.7	B		313	C-5	26	24	4.4	B	D-1, E-3	371	C-6	30	30	4.5	A		429	D-6	28	25	36.5	H	
256	B-5	27	26	3.9	A		314	C-5	29	20	3.3	C	D-1, E-1	372	C-6	49	44	4.5	B		430	D-6	29	27	5	E	
257	B-5	25	22	5.7	B		315	C-5	25	20	4.4	B		373	C-6	46	45	4.7	A		431	D-6	22	19	3.2	B	
258	B-5	28	25	4.3	B		316	C-5	28	25	5.1	B		374	C-6	28	25	48.5	B		432	D-6	29	26	3.0	H	
259	B-5	27	22	4.4	B		317	D-5	23	15	33.5	H		375	C-6	37	12	4.6	A+H		433	D-6	24	23	3.0	A+H	
260	B-5	24	22	4.5	B		318	D-5	24	21	3.7	B		376	C-6	28	27	44.5	A		434	D-6	20	20	3.0	A+H	
261	B-5	26	20	46.5	B		319	D-5	21	19	20.5	B		377	C-6	28	23	40.5	B		435	D-6	41	30	3.1	B	
262	B-5	22	22	32.5	A		320	D-5	30	22	4.3	B		378	C-6	25	24	35.5	A		436	D-6	25	22	2.7	B	
263	B-5	27	20	3.6	B		321	D-5	53	26	4.3	C		379	C-6	36	28	4.7	B		437	D-6	30	19	3.8	B	
264	B-5	30	25	3.9	B		322	D-5	30	26	31.5	B		380	C-6	36	32	50.5	B		438	D-6	37	33	2.4	H	
265	B-5	27	25	3.8	B		323	D-5	44	38	3.4	B		381	C-6	21	20	14.5	A+H		439	D-6	29	25	3.2	B	
266	B-5	24	22	35.5	B		324	D-5	30	23	4.5	B		382	C-6	22	21	22.5	A+H		440	D-6	32	30	2.3	A+H	
267	B-5	69	39	4.3	G		325	D-5	25	22	36.5	B		383	C-6	24	23	2.3	A		441	D-6	22	22	20.5	A+H	
268	B-5	29	25	3.5	B		326	D-5	30	25	41.5	B		384	C-6	26	21	36.5	B		442	D-6	23	20	3.5	H	
269	B-5	25	24	4.6	A		327	D-5	33	30	37.5	B		385	C-6	34	31	28.5	B		443	D-6	30	25	3.4	H	
270	B-5	38	25	3.5	F		328	D-5	33	28	38.5	A		386	C-6	25	24	26.5	A		444	D-6	26	22	3.8	B	
271	B-5	36	25	2.9	B		329	D-5	35	31	2.2	B		387	C-6	30	25	4.2	B		445	D-6	30	25	3.4	B	
272	B-5	31	31	4.1	A		330	D-5	28	22	3.5	B		388	C-6	24	20	43.5	B		446	D-6	30	25	41.5	B	
273	B-5	25	22	3.7	B		331	D-5	32	25	37.5	B		389	C-6	23	20	4.2	B		447	D-6	45	27	44.5	C	
274	B-5	28	19	33.5	B		332	D-5	25	22	3.8	B		390	C-6	30	26	36.5	B		448	D-6	37	34	43.5	H	
275	B-5	35	25	4.1	A+H		333	D-5	42	26	43.5	C		391	C-5	30	27	2.4	B		449	D-6	28	25	41.5	B	
276	B-5	33	31	3.3	B		334	D-5	39	31	49.5	B		392	C-5	34	30	5.7	B		450	D-6	29	25	30.5	B	
277	B-5	29	27	3.0	B		335	D-5	35	30	37.5	B		393	C-5	25	25	31.5	A		451	D-6	28	27	22.5	A	
278	C-5	29	25	3.5	B		336	D-5	33	23	31.5	B		394	C-5	31	30	6.0	A		452	D-6	37	31	3.6	B	
279	C-5	36	31	3.8	B		337	D-5	28	22	2.9	B		395	C-5	40	26	4.6	B		453	D-6	31	26	3.2	B	
280	C-5	27	23	31.5	B		338	D-5	34	22	39.5	B		396	C-6	21	19	37.5	B		454	D-6	33	24	38.5	C	

第6表 Pit計測表 (3)

坑	区	長	短	深	形	出土遺物	坑	区	長	短	深	形	出土遺物	坑	区	長	短	深	形	出土遺物	坑	区	長	短	深	形	出土遺物
455	D-6	32	27	42	B		502	C-8	29	25	23	B		549	D-9	38	34	46	B		596	D-10	24	20	33	B	
456	D-6	29	24	29	B		503	C-8	32	28	18.5	B		550	D-9	34	34	34	A	D-1, E-2	597	D-10	26	22	24	B	E-1
457	D-6	26	25	34	A		504	C-8	28	26	13	B		551	D-9	33	26	40	B	E-1	598	D-10	41	37	31	B	D-1, E-1
458	D-6	38	36	40	B		505	C-8	31	28	23	B		552	D-9	40	32	38	B	E-1	599	D-10	40	32	35	B	D-2, E-2
459	D-6	45	38	46	B		506	C-8	32	31	16.5	A		553	D-9	24	20	57	B		600	D-10	34	33	41	A	D-4, E-2
460	D-6	91	74	40.5	G		507	C-8	28	26	20.5	B		554	D-9	30	25	44	D		601	D-10	29	27	42	A	
461	D-6	37	35	32	B+H		508	C-8	25	23	24.5	B		555	D-9	40	32	68	B+H	E-1	602	D-10	26	24	36	D	
462	D-6	45	42	31.5	A+H		509	C-8	28	23	29	B		556	D-9	33	31	70	B+H		603	D-10	42	38	6	B	
463	D-6	47	46	38.5	A		510	C-8	26	21	17	B		557	D-9	45	36	49	B		604	D-10	26	17	6	B	
464	D-6	41	40	23	A		511	C-8	26	24	16.5	B		558	D-9	36	34	50	B	D-1, E-2	605	D-10	28	27	45.5	A	D-4, E-3
465	D-6	109	87	48	H		512	D-8	32	28	23	B		559	D-9	41	34	42	B	D-1, E-2	606	D-10	28	26	29	A	D-1, E-3
466	D-6	34	28	27	B		513	D-8	43	25	71	C		560	D-9	34	30	42	A		607	D-10	21	16	27	B	
467	D-6	28	24	34	B		514	D-8	30	25	41	B	E-1	561	D-9	28	23	44	B	D-1, E-8	608	D-10	27	24	15	B	
468	D-6	30	24	39	B		515	D-8	28	25	56	B		562	D-9	32	31	46	A		609	D-10	22	19	34	B	
469	D-6	23	20	30	B		516	D-8	25	20	24.5	B		563	D-9	35	33	49	A	D-1, E-2	610	D-10	26	23	22	B	
470	D-6	33	24	36	B		517	C-9	25	25	30	A		564	D-9	35	29	32	B		611	D-10	26	22	37	B	
471	D-6	51	33	36	C		518	C-9	39	35	45	B	A-1, E-1	565	D-9	20	18	47	B	D-2, E-4	612	D-10	36	34	7	B	
472	D-6	28	25	49	B		519	C-9	36	31	61	B	H-1, E-1	566	D-9	52	37	8	H	E-2	613	D-10	21	16	39	B	
473	D-6	28	21	30	B		520	C-9	30	31	42	A		567	D-9	39	35	51	B		614	D-10	26	24	35	B	E-1
474	D-6		22		A		521	C-9	32	27	57	B	E-5	568	D-9	36	30	73	B		615	D-10	24	23	25	A	
475	D-6	40	27	31	C		522	C-9	25	23	42	D		569	D-9	49	46	26	F	E-1	616	D-11	39	30	38	B	
476	A-7	31	30	20.5	A		523	C-9	28	26	11	B	D-1, E-1	570	D-9	27	24	39	B		617	D-11	30	26	31	B	E-1
477	A-7	40	24	13	B		524	C-9	23	20	5	B		571	D-9	73	56		B		618	D-11	33	31	37	B	E-1, D-1
478	A-7	27	25	6.5	B		525	C-9	45	42	52	B	D-1, E-2	572	D-9	36	33	46	A	E-1	619	D-11	41	36	32	B	H-1, E-1
479	A-7	29	29	16.5	A		526	C-9	35	32	69	B		573	D-9	29	26	42	A		620	D-11	65	33	30	C	F-1
480	B-7	26	25	23.5	A		527	C-9	30	24	58	B+H		574	D-9	35	19	40	B		621	D-11	30	25	28	B	
481	B-7	31	25	28.5	H		528	C-9	34	32	38	B+H		575	D-9	43	29	58	B+H	G-1	622	D-11	27	24	30	B	
482	B-7	23	19	29	B		529	C-9	29	29	47	A	E-1	576	D-9	35	33	50	G		623	D-11	30	26	22	B	
483	B-7	25	21	48.5	B		530	C-9	23	22	41	A		577	D-10	55	50	26	F	D-1	624	D-11	31	30	31	A	
484	B-7	30	25	34.5	B		531	C-9	28	27	48	A	E-1, D-1	578	D-10	27	26	41	A	D-3, E-2	625	D-11	45	25	29	B	
485	C-7	40	21	29	B		532	C-9	29	21	39.5	B	E-1	579	D-10	25	21	40	B	E-5	626	D-11	26	26	30	A	
486	C-7	33	26	15.5	B		533	C-9	29	26	50	B		580	D-10	38	37	11	A		627	D-11	28	28	34	A	
487	C-7	26	24	43.5	B		534	C-9	29	28	55	A	D-3	581	D-10	48	46	11	B+H	E-1	628	D-11	28	25	39	B	
488	C-7	34	31	37.5	B		535	C-9	32	30	38	B	A-1, D-1	582	D-10	70	32	20	C		629	D-11	36	28	35	B	
489	C-7	45	38	17.5	H		536	D-9	22	20	42	B		583	D-10	39	35	37	A	D-2, E-8	630	D-11	25	24	36	A	
490	C-7	37	32	48	D		537	D-9	22	21	51	A		584	D-10	47	25	30	C	D-2, E-2	631	D-11	24	22	47	B	
491	C-7	32	31	24.5	A		538	D-9	25	21	52	B		585	D-10	60	25	7	C		632	C-5	25	23	55	A	
492	C-7	31	21	13	B		539	D-9	28	28	40	A		586	D-10	29	26	33	A		633	D-12	55	26	74	B	
493	C-7	35	28	19	B		540	D-9	20	20	18	A		587	D-10	38	38	39	A	D-1, E-2	634	D-12	48	38	52	B	
494	D-7	28	22	22.5	B		541	D-9	30	25	41	B		588	D-10	20	19	28	A		635	D-12	28	26	58	B	
495	D-7	26	24	18	B		542	D-9	29	29	38	A		589	D-10	27	25	7	B		636	D-12	42	38	34	C	
496	D-7	26	24	28.5	B		543	D-9	39	38	49	A		590	D-10	32	21	26	C		637	D-12	39	22	42	C	
497	D-7	31	30	21	A		544	D-9	33	29	57	B	E-1	591	D-10	33	32	20	A	D-2, E-1	638	D-12	40	42	63	B	
498	D-7	26	25	44	A		545	D-9	64	59	39	F		592	D-10	76	34	6	C		639	D-12	99	34	75	C	D-1, G-1
499	D-7	30	30	39.5	A		546	D-9	40	35	78	A	E-2, D-1	593	D-10	22	22	7	A		640	E-12	49	30	46	C	D-1, E-1
500	D-7	33	29	26.5	B		547	D-9	39	29	44	B		594	D-10	58	55	7	B		641	E-12	40	37	43	B	A-1, D-1
501	B-8	32	30	37.5	A		548	D-9	33	27	62	A	E-1	595	D-10	24	19	25	B	D-1, E-1	642	E-12	35	30	31	B	



第17図 集石遺構

底面には深さ5cm程度の浅い掘り込みがあったが、特にその掘り込みに合せて礫が配置されたような状況ではなかった。検出面とほぼ同レベルで出土した土器は第Ⅷb-1類があるが、詳細な共伴関係はつかめなかった。なお遺構内からの炭化物は検出されなかった。

4号はC-3区第Ⅷ層上部で検出した。約60個の円礫を使用した不定形のものである。炭化物の粒子を若干含んでいた。詳細な時期は不明である。

5号はB-2区の第Ⅷ層中で検出した。磨石や凹石を転用した石錘6個を集積したもので、1~4号とは全く様相を異にするものである。周辺からは第Ⅳ類土器等が出土しているが、詳細な時期は不明である。また、他の遺構に伴うような状況も無かった。

(2) 遺物の出土状況 (第18図~第23図)

① 第Ⅰ類~第Ⅵ類土器の出土状況 (第18図)

第Ⅰ類~第Ⅵ類土器は第Ⅹ層(アカホヤ)下の第Ⅺ,Ⅻ層から出土したものである。

分布は、発掘区域の中央部でも若干出土しているが、大きくC-2区, C-9区を中心とした二区域に集中している。このうちC-2区を中心とした区域には、第Ⅹ層を中心に第Ⅰa,Ⅳ類が、第Ⅺ層下部を中心に第Ⅴa類が出土した。また、C-9区を中心とした区域には、第Ⅺ層下部を中心に第Ⅰb,Ⅴb類が、第Ⅺ層中から下部にかけて第Ⅱb類が出土した。

第Ⅱa,Ⅲ類については、それぞれ第Ⅷ層下部,第Ⅳ層下部からの出土であるが、本来このタイプの土器が包含される層位は第ⅪあるいはⅩ層と思われ、何らかの影響で浮き上がったものと判断し、分類した。

第Ⅵ類は、二個体出土しているが、それぞれB-3, B-8区の第Ⅺ層からの出土で、約60mの間隔がある。

② 第Ⅶ類~第Ⅸ類土器の出土状況 (第19図)

第Ⅶ類~第Ⅸ類土器は第Ⅶ~Ⅷ層を中心に出土した。すべて発掘区域の北東部からの出土である。

第Ⅶ類は、文様の特徴からa~d類の四つに細分した。

第Ⅶa類はB~D-2~6区に散在していた。層位は第Ⅶ,Ⅷ層である。

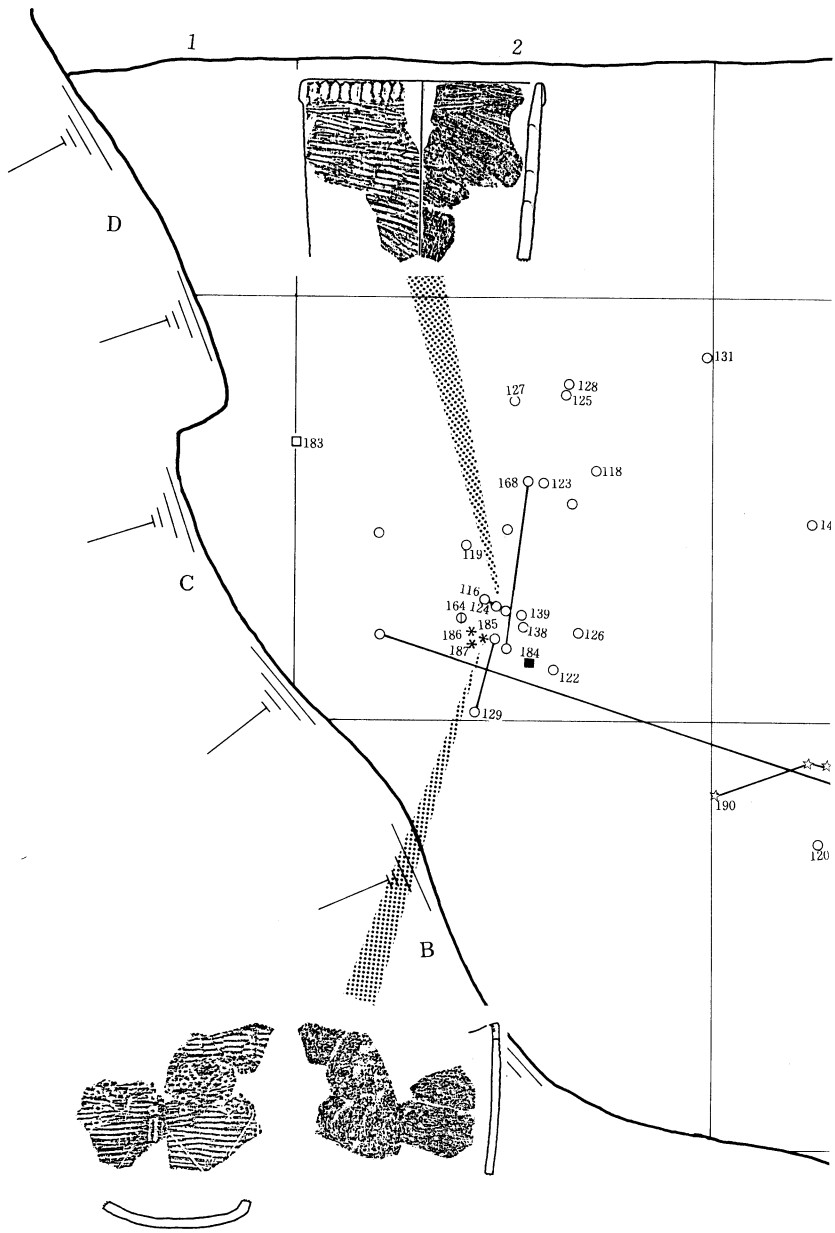
第Ⅶb類はさらに1~3に細分したが、第Ⅶb-1類はD-3区の第Ⅷ層, b-2類はD-4区の第Ⅷ層, b-3類はC・D-3・4区の第Ⅶ,Ⅷ層をそれぞれ中心として出土した。

第Ⅶc類はB-4区の第Ⅶ層を中心に出土した。第Ⅶd類はD-5区の第Ⅶ層から一点出土したのみである。第Ⅷ類の三点はそれぞれタイプの違う土器であるが、B・C-2・3区の第Ⅶ~Ⅸ層からの出土である。

第Ⅸ類は四個体出土しているが、C・D-2・3区の第Ⅶ,Ⅷ層に集中している。特に第45図の280は完形に復元できたもので、その接合資料はほぼC-3区の第Ⅷ層の中で収まるが、第43図271のように約22.5m離れて接合したものもある。

③ 第Ⅹ類~第ⅩⅧ類土器の出土状況 (第20図)

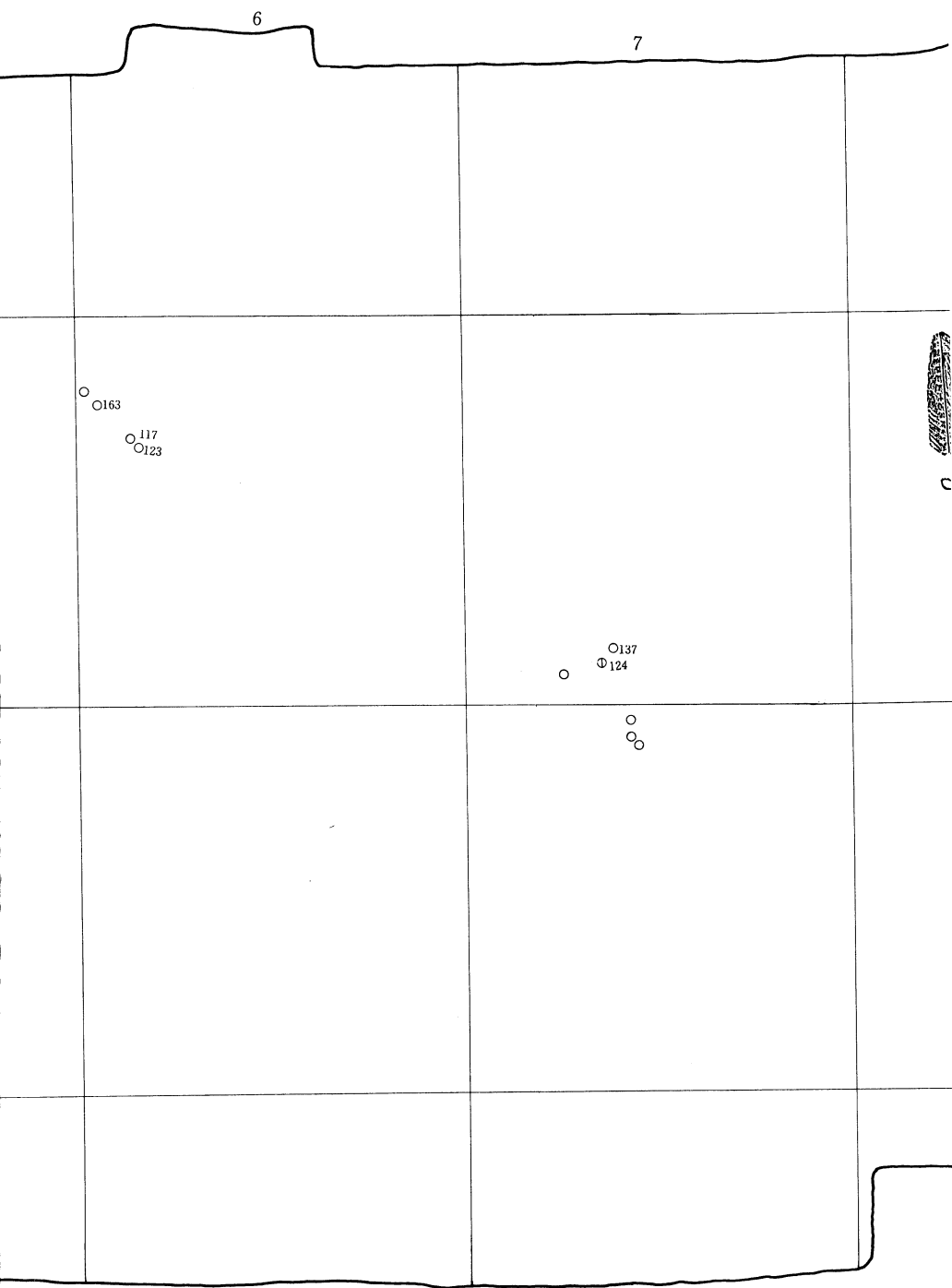
第Ⅹ類~第ⅩⅧ類土器は第Ⅶ~Ⅷ層を中心に出土した。すべて発掘区域の北東部からの出土



Tato

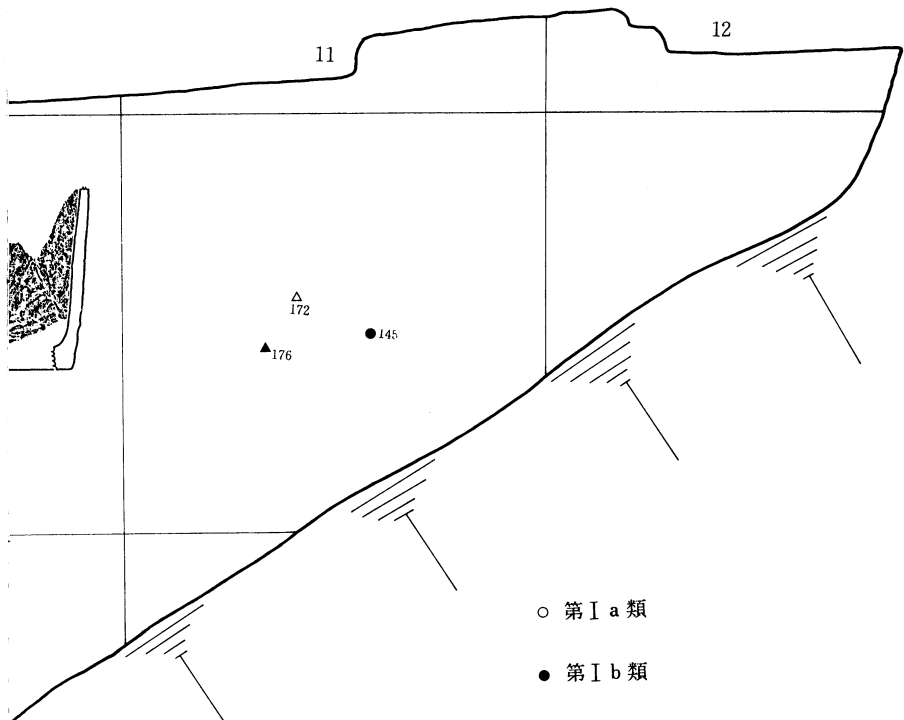


第18图 ;

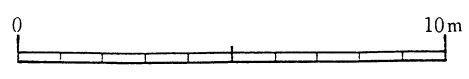


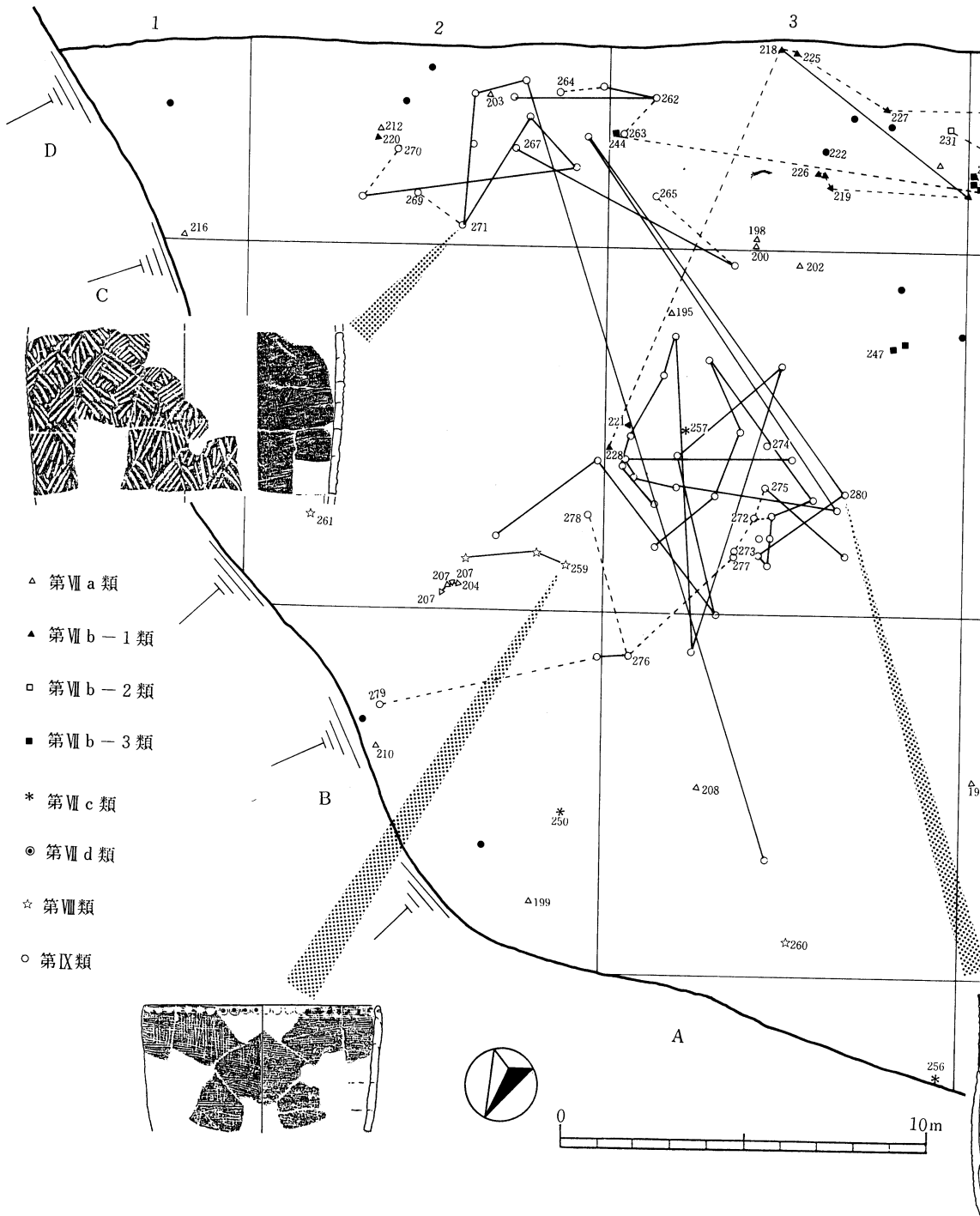
縄文第I類～第VI類土器の出土状況

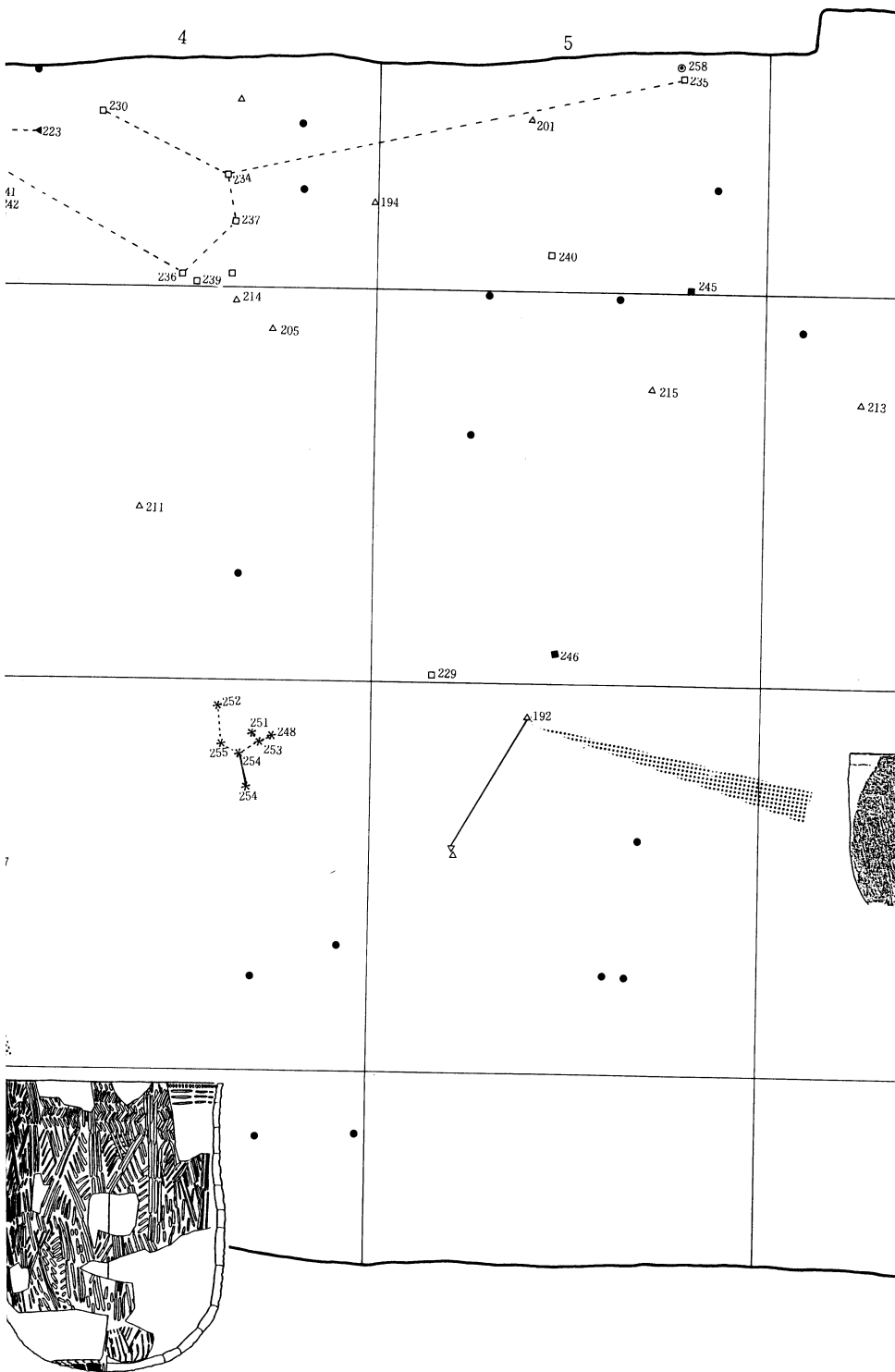




- 第Ⅰ a類
- 第Ⅰ b類
- ⊙ 第Ⅰ類
- △ 第Ⅱ a類
- ▲ 第Ⅱ b類
- 第Ⅲ類
- 第Ⅳ類
- * 第Ⅴ a類
- ⊗ 第Ⅴ b類
- ☆ 第Ⅵ類



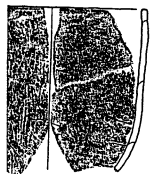


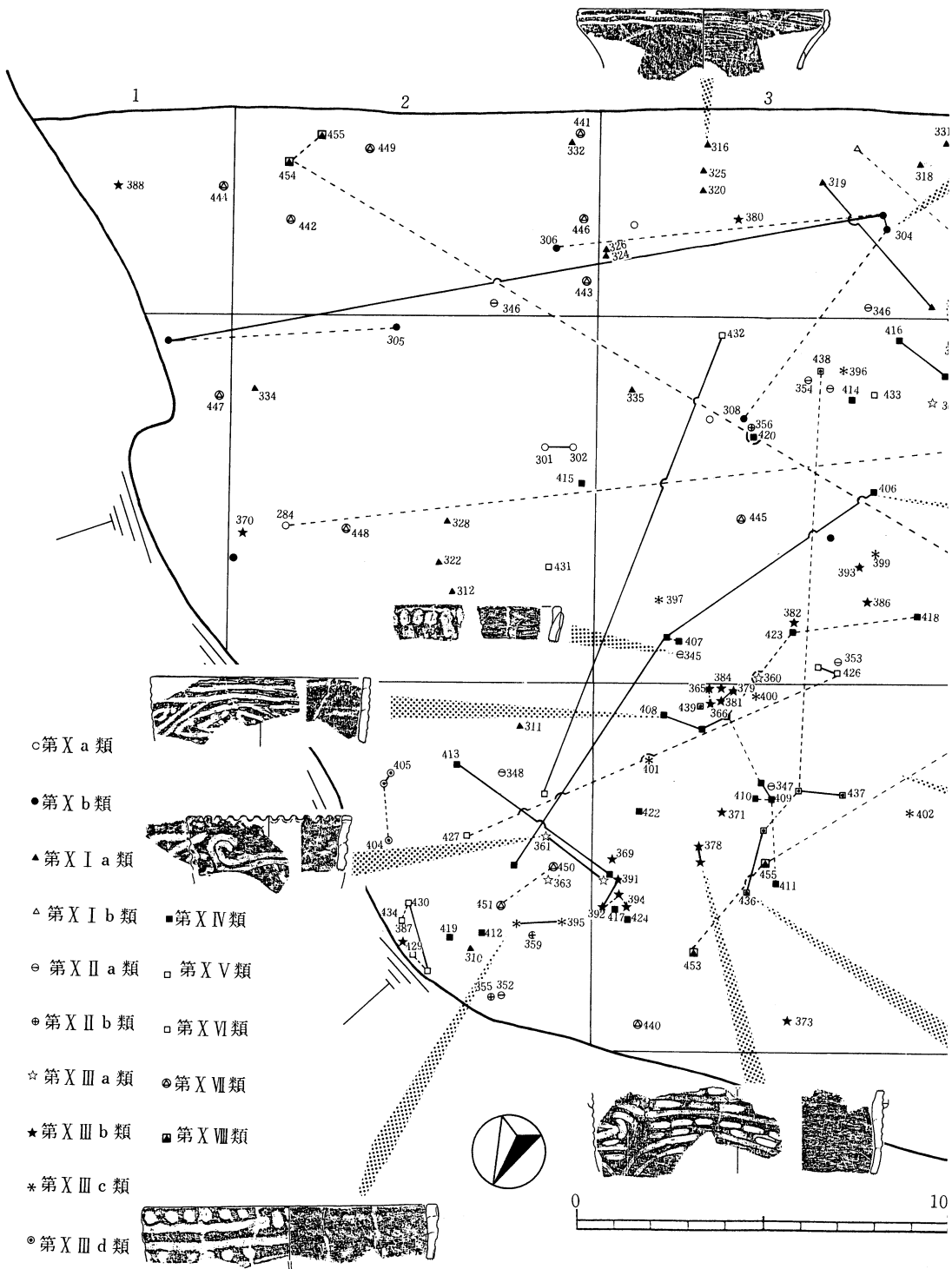


19図 縄文第Ⅶ類～第Ⅸ類土器の出土状況

6

7





第20図 縄文第X類～第X

であるが、分布の中心の在り方には大きく二つのパターンがある。一つは第Ⅹ・Ⅺ・ⅩⅦ類のようにC・D-2～5区の中にほぼ収まるもの。もう一つは第Ⅻ～ⅩⅥ類のようにB・C-2・3区に収まるものである。後者はほぼ分布内で混在しているが、前者はさらに小刻みな集中を見せ、第Ⅹa類がD-5区、第Ⅹb類がC・D-3区、第Ⅺa類がD-3区、第Ⅺb類がC-4区、第ⅩⅦ類がD-2区にそれぞれ分布の中心をもっている。層位的に大きな時間枠では捉え得るものの、詳細な時期についての把握は不可能である。しかし、このような平面分布の相違は、時間的相違も含めて何らかの相互関係を検討する資料には成り得ると思われる。

また、なかには第Ⅻ類のように散在するものや、第ⅩⅧ類のようにC-4区で一個体中の四片が出土するもの、B-3、D-2区に同一個体と思われる土器が出土している例もある。

④ 第ⅩⅨ類～第ⅩⅩⅡ類土器の出土状況 (第21図)

第ⅩⅨ類～第ⅩⅩⅡ類土器は第Ⅶ～第Ⅷ層を中心に出土した。これらは発掘区域の北東部及び南西部からの出土であったが、そのほとんどは北東部のB～D-2・3区に集中していた。

第ⅩⅨ類土器はa～d類に細分した。C-3区を中心にほぼ似たような分布状況を示しているが、b類はB-2・3区にも比較的多く出土している。

第ⅩⅩ類土器は、B～D-2・3区と5区の二ヶ所に分布が分かれている。これは同様な形態を有する土器として同類で取り扱ったものの、型式の異なる土器が含まれていることを示唆している結果とも考えられる。

第ⅩⅩⅠ類～第ⅩⅩⅡ類土器のいずれかに伴うと思われる無文土器の分布状況も示したが、C-3区の第Ⅶ層に集中した分布を示している。同様にC-3区の第Ⅶ層に集中する有文土器に伴う可能性が高いが、接合状況を考慮すると、偶然に一個体がまぎれこんだことも想定され、個体数の少ない調査結果で判断するのは危険かも知れない。

第ⅩⅩⅠ類土器は、C-3区を中心に出土しているものの、出土数が少ないために、集中していると言えるほどではない。

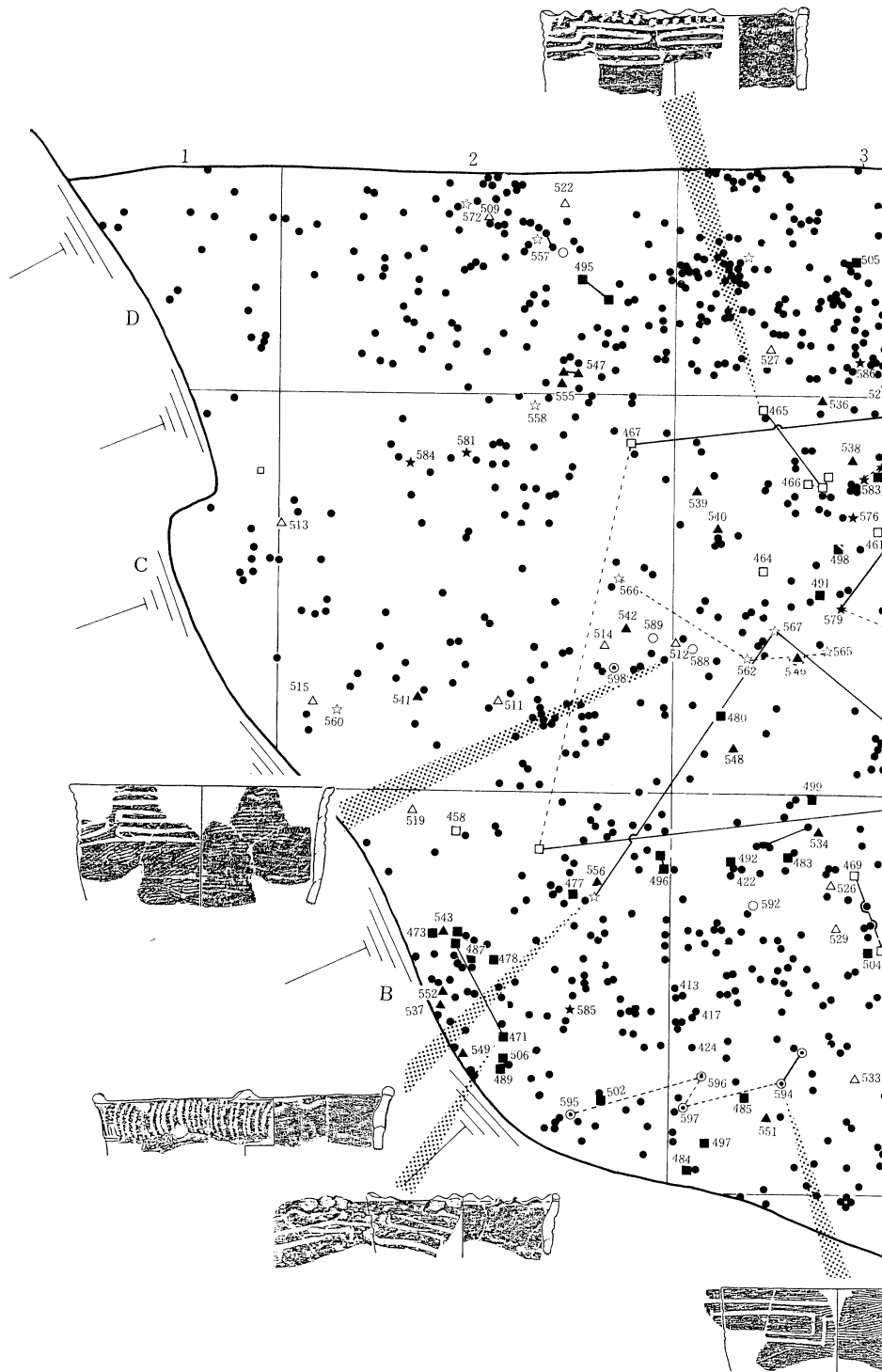
第ⅩⅩⅡ類土器は、B-3区を中心に出土しているが、B-2・3区出土の5点は同一個体と思われる土器片であり、本遺跡では個体数の少ない土器型式の一つである。

⑤ 第ⅩⅩⅢ類～第ⅩⅩⅦ類土器及びその他の縄文時代後期該当遺物の出土状況 (第22図)

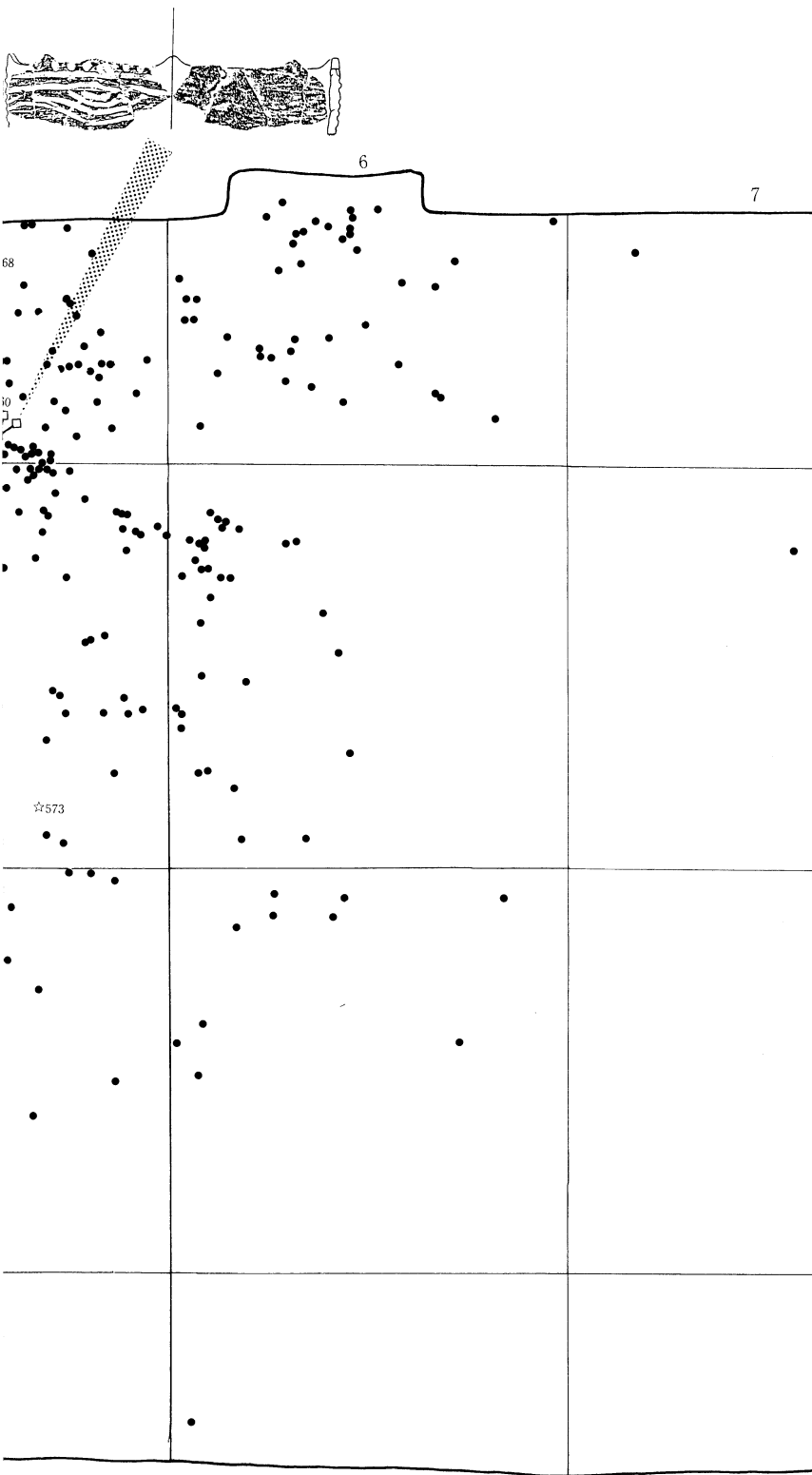
第ⅩⅩⅢ類～第ⅩⅩⅦ類土器は、発掘区域の北東部及び南西部の第Ⅶ～Ⅷ層を中心に出土した。発掘区域の中央部は空白になっているが、これは遺物包含層が既にカットされていたため、表土中に、本来ならば下層で出土すると思われる土器が数多く含まれていることから、中央部にも分布が広がっていた可能性が高い。

第ⅩⅩⅦ類土器は、さらに六つに細分したが、a、b類は広がり若干相違があるものの、ほぼC-4区に集中のピークがある。c類はC-5区、d類はD-2・3区にそれぞれ集中し、a、b類とは異なった分布状況を示している。しかし、全般的にC・D列に偏って出土する傾向が見られた。また、a-1類・d類は、南西部のD-12区でも出土した。

接合状況をみると、全てではないが、ある一定の方向性を看取することができる。それは、

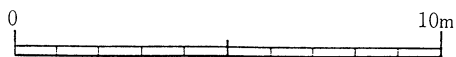




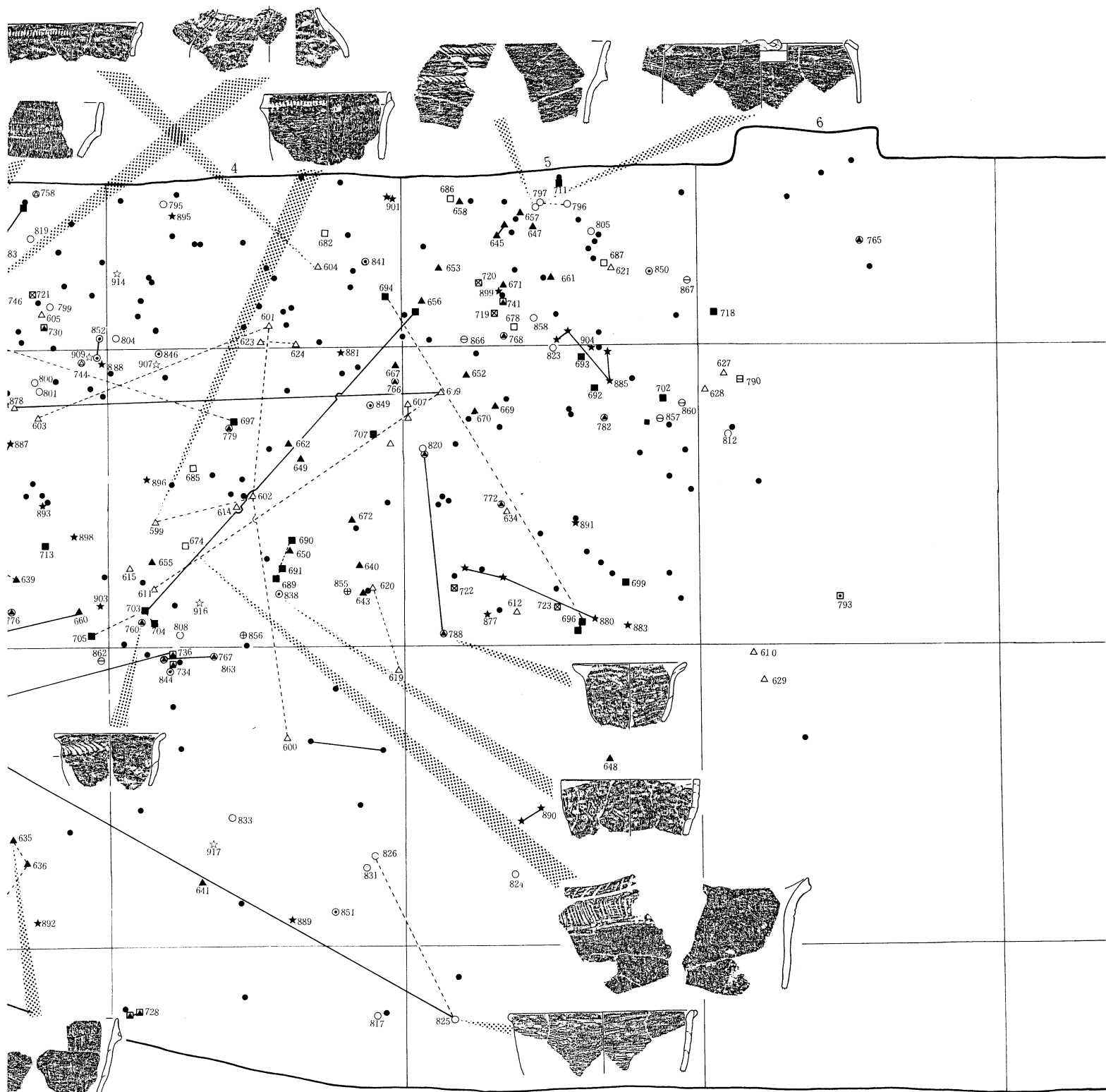


第21図 縄文第X区類~第XXII類土器の出土状況



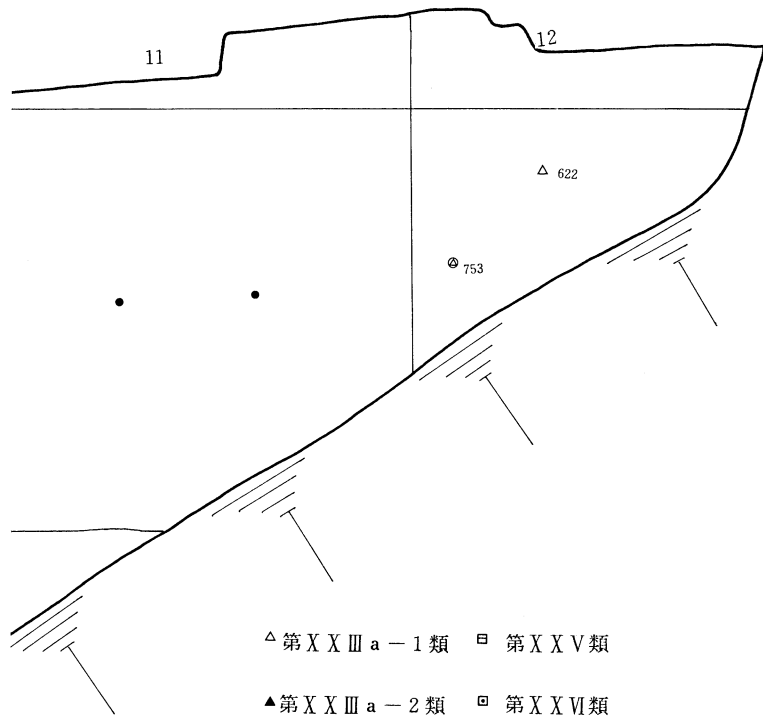




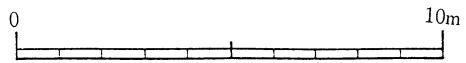


第22図 縄文第XXⅢ類～第XXⅦ類土器の出土状況





- | | |
|--------------------------|---------------|
| △ 第 X X III a - 1 類 | □ 第 X X V 類 |
| ▲ 第 X X III a - 2 類 | ▣ 第 X X VI 類 |
| □ 第 X X III b - 1 類 | ○ 第 X X VII 類 |
| ■ 第 X X III b - 2 類 | ◎ 無文土器 2 |
| ▣ 第 X X III c 類 | ⊕ 特殊な飾り付け |
| ▣ 第 X X III 類底部 | ⊖ 円盤状土製品 |
| ⊙ 第 X X III d 類 | * 特殊な底部 |
| ● 第 X X III 類
その他の土器片 | ★ 底 部 |
| ⊙ 第 X X IV 類 | ☆ 底部 (圧痕有) |



遺跡の傾斜にそった接合である。この結果は遺物の平面移動を考慮する際に、当然考えられることであるが、他の型式土器も同様な状況が見られることから、その土器文化の本来の“面”はどこなのかを検討する際には、地形を十分に考慮する必要があることが理解できる。

第XXIV類土器は、C・D-1・2区を中心に出土した。第XXV類土器は、C-6区第Ⅷ層から一点出土したのみであった。また、第XXVII類土器は、三点出土した。B-5・C-6区からの出土であったが、型式不明の土器を一括した第XXVI類土器と同様に出土点数が少ないために、他の型式との関係を検討する材料とするには危険すぎると言えよう。ただ、一点あるいは数点の出土ではあっても、存在したことは事実であり、それを包括するように分布する他型式の土器との相互関係を検討する参考程度の資料には成り得るかも知れない。

⑥ 第XXVI類～第XXX類土器の出土状況（第23図）

これらの類は3類まとめて記載した。その中の第XXIX類は遺物が少量で、第XXX類は1点であった。その第XXX類の1点はB-5区、第Ⅷ層に出土している。

第23図はその分布状況を示した図である。この中には深鉢・粗製浅鉢A・B（組織痕）と精製浅鉢が記載されている。深鉢はB-2区、C-3・5区、D-2区、D-3区、D-3～4区に集中箇所がみられる。粗製浅鉢Bの集中箇所はないがD-3・4区にわりとみられる。粗製浅鉢AはB・C-2・3区、C・D-3・4区に集中し、その他は疎に出土している。

精製浅鉢は全体的に出土しているが、A～C-1～3区、C・D-3・4区に目立っている。土器片が接合した距離をみると57mが最も長く、次に23m、22m、10m前後の順に接合している。

3. 弥生時代の遺物出土状況（第24図）

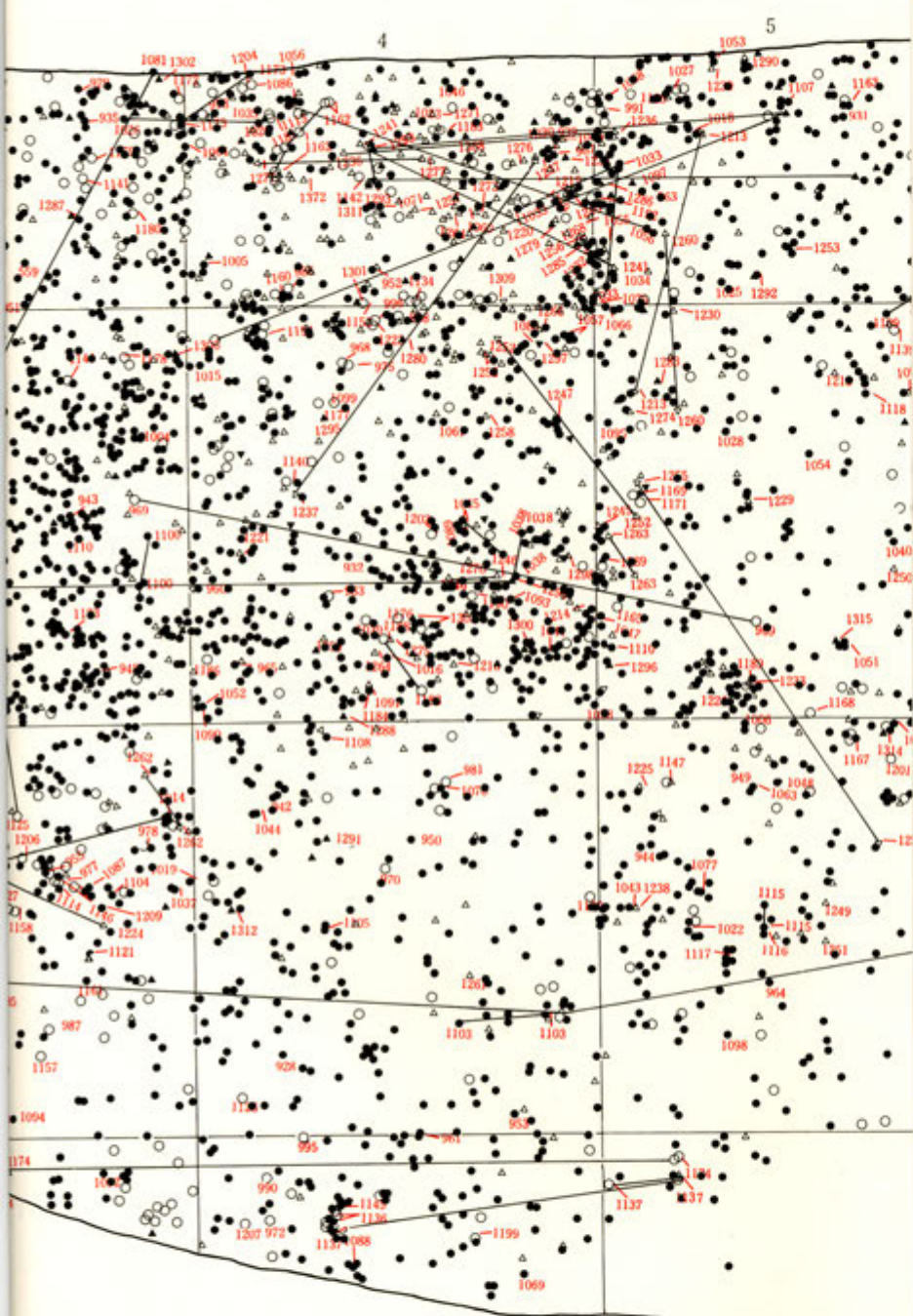
弥生時代の遺物は、発掘区域の北東部、第Ⅷ層を中心に出土した。なかでもB・C-2・3区に集中していた。

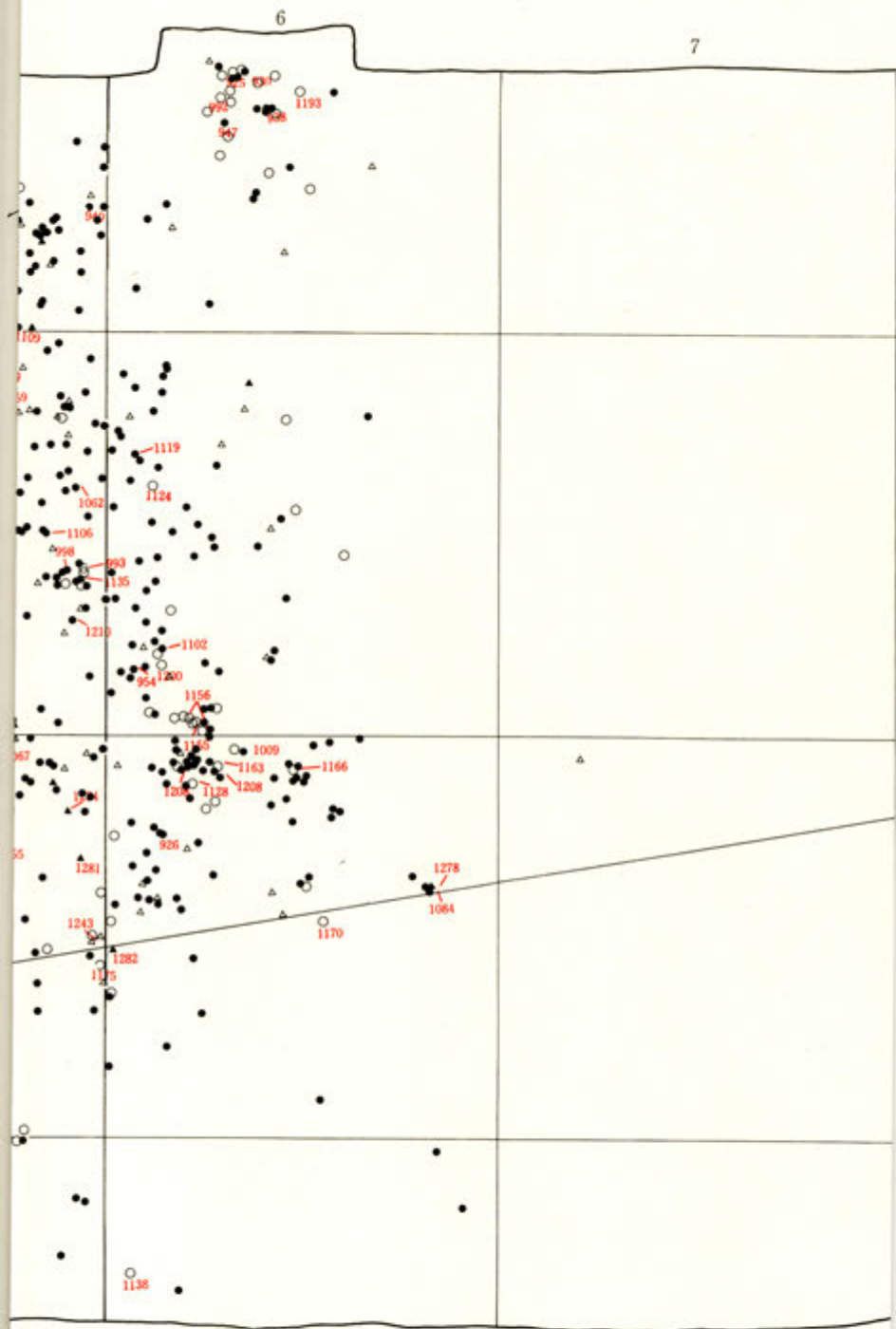
出土遺物には、甕形土器、壺形土器があり、それぞれ第Ⅰ～Ⅶ類土器、第Ⅰ・Ⅱ類土器に分類したが、いずれの土器も出土点数は少ない。

縄文時代の遺物がそうであったように、遺跡の傾斜にそった接合状況がみられるが、1328や1381のように、集中して出土したケースもあった。

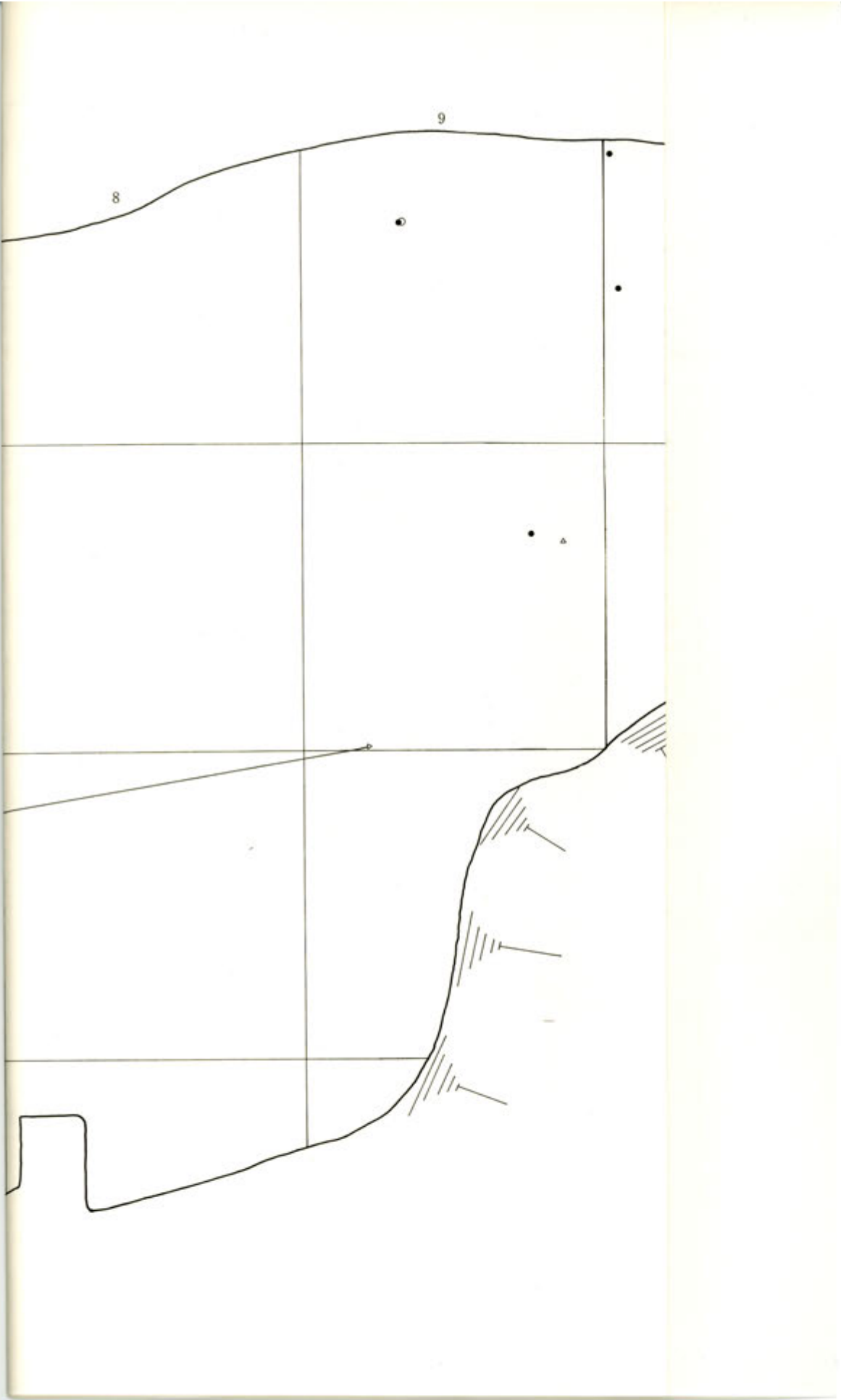
甕と壺の相互関係を、平面分布から検討すると、甕の第Ⅳ・Ⅴ類と壺の第Ⅰ類、甕の第Ⅵ・Ⅶ類と壺の第Ⅱ類は比較的似たような分布を示している。しかし、前述したように、出土点数が少ないこと、かつ出土点数＝個体数にはならないことを考慮すると、平面分布の類似性が即同時性を示しているとは限らない。ただ、1327や1346～1348などのように、ほぼ同様な遺物の移動を示す例をみると、それぞれが、時間的に同じあるいは酷似した環境の下で存在していた可能性も考えられる。

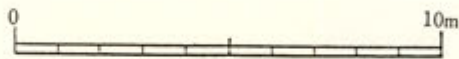
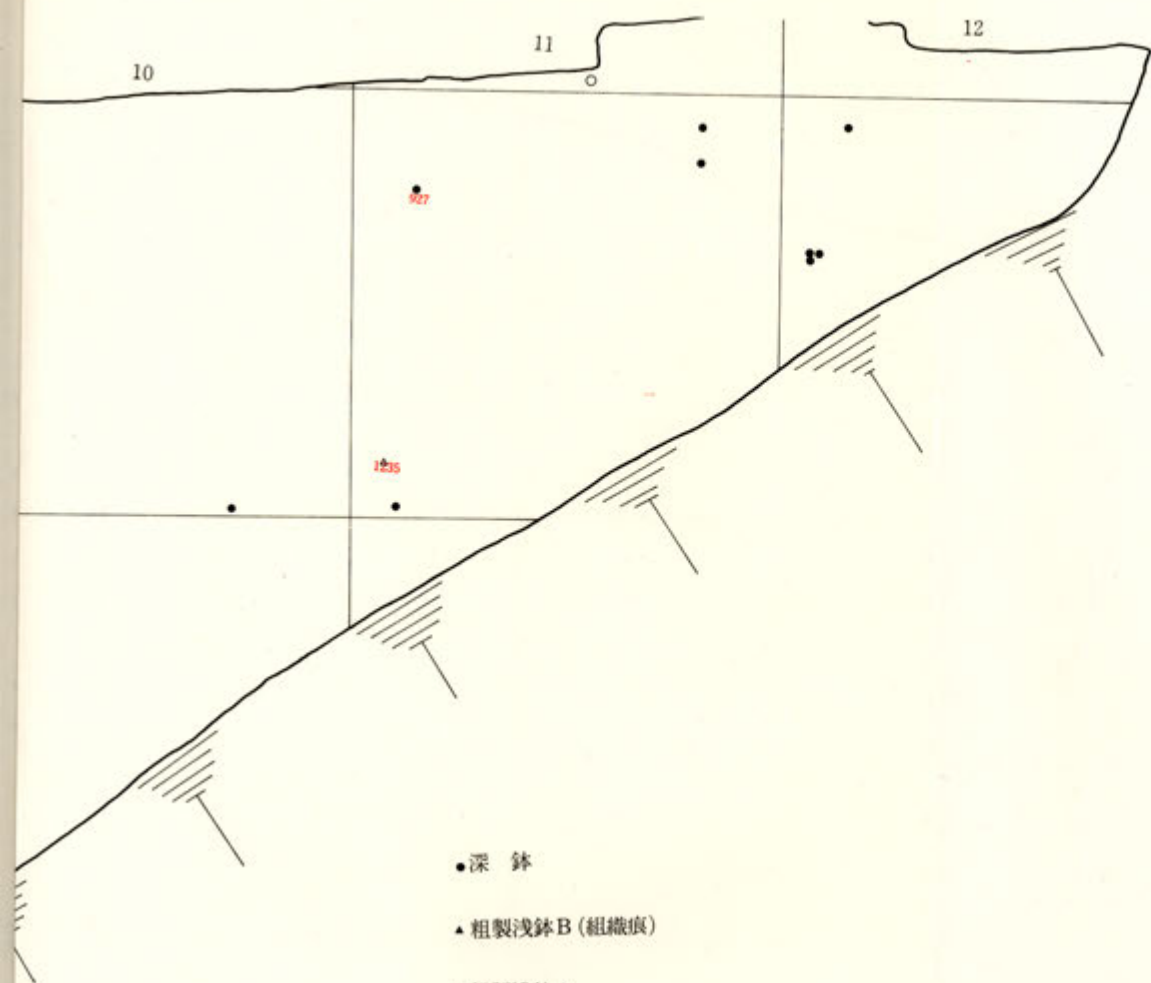
また、C-9区においても一点出土している。この付近は表土を剥ぎ取ると既に第Ⅹ層（アカホヤ）が露出するところもあり、当然弥生時代の遺物包含層もカットされているか、非常に貧弱な残存状況であった。しかし後世の遺構内や、表土中、さらには連続する台地（路線外）

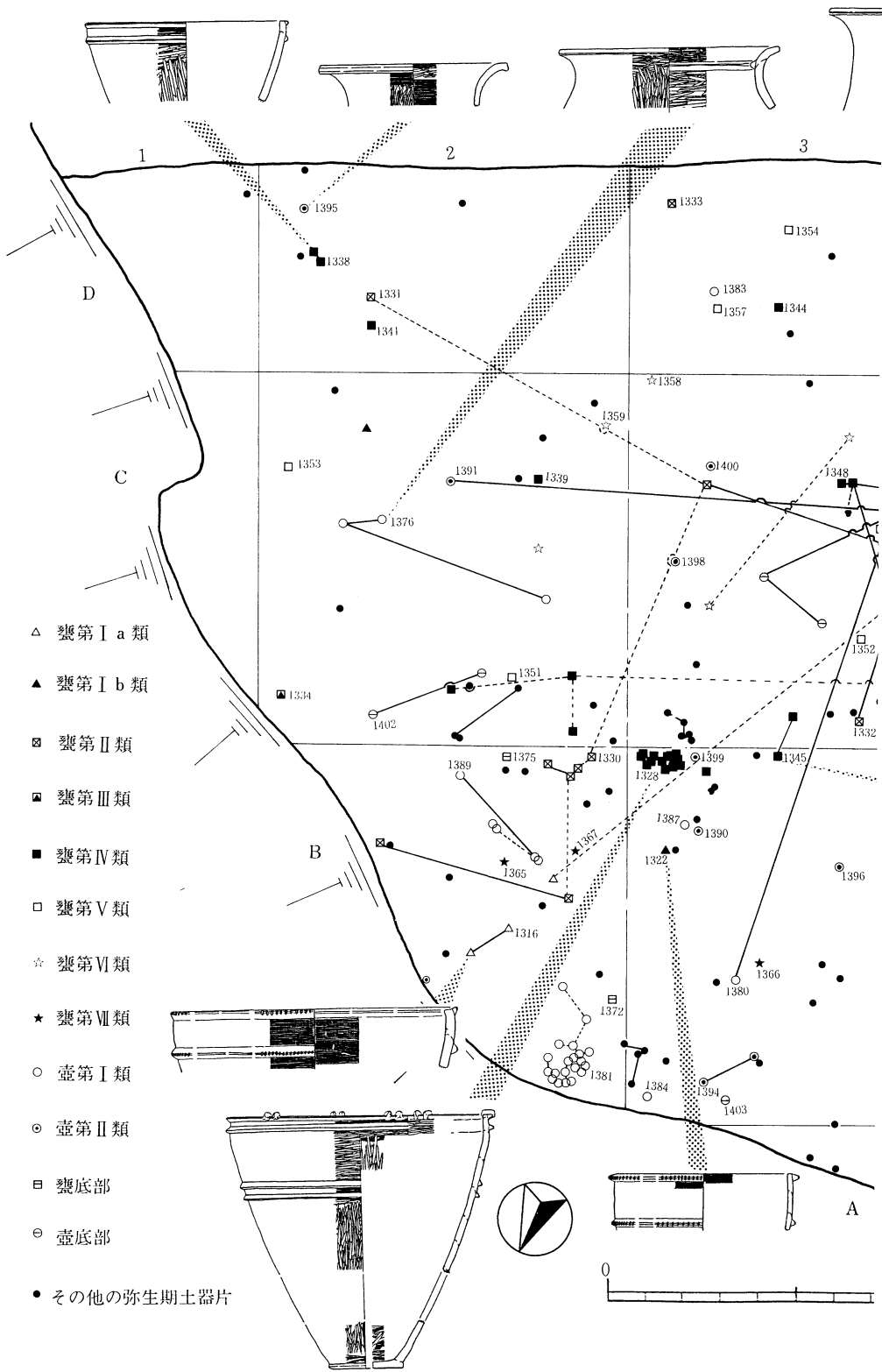


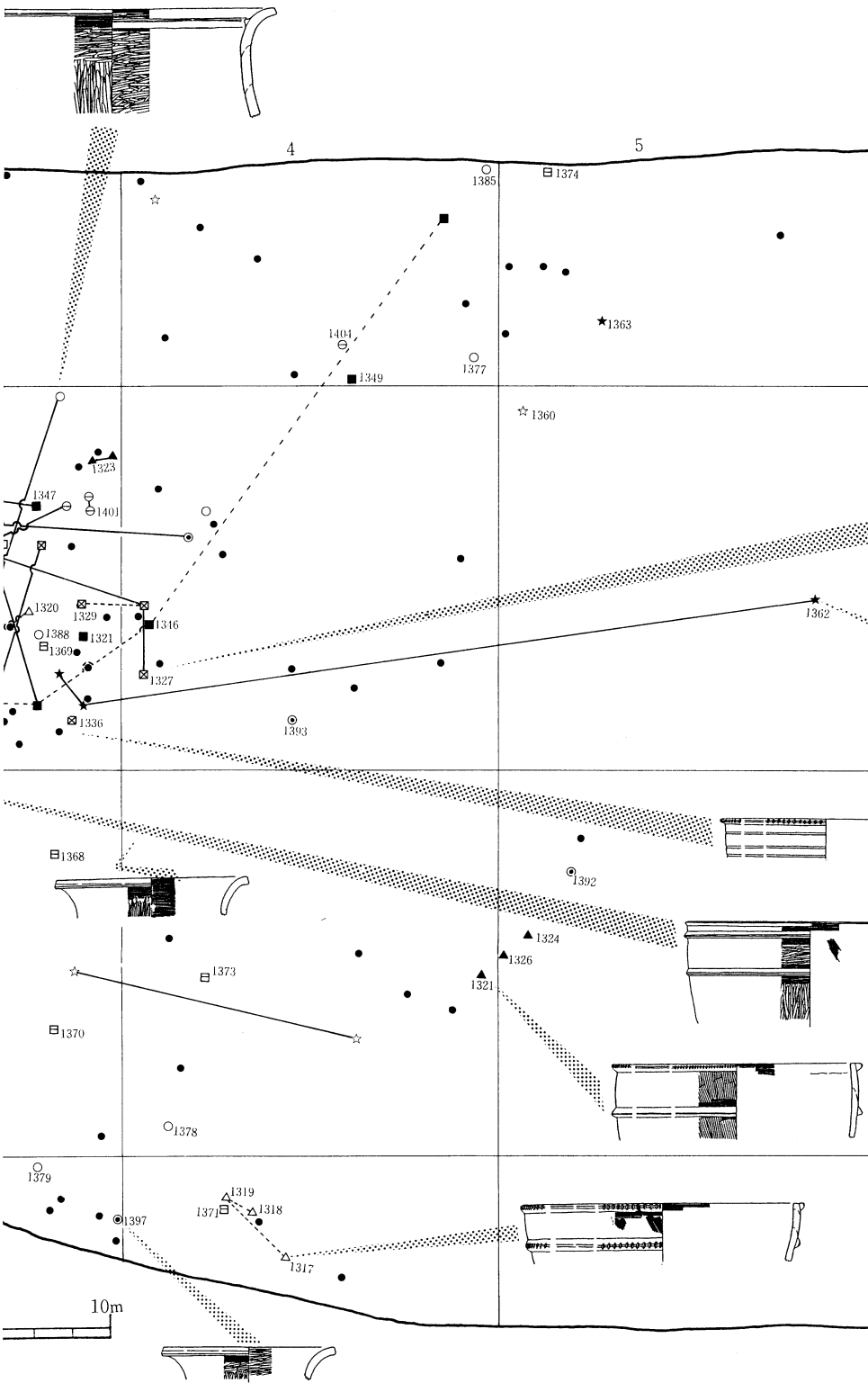


第23図 縄文第XXXⅧ類～第XXX類土器の出土状況





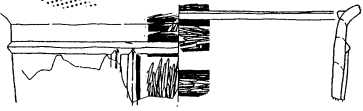
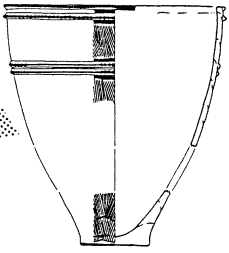




第24図 弥生時代の遺物出土状況

6

7



☆ 1361





の表面に弥生期の遺物が存在することから、本来の弥生文化の面は発掘区域の中央から南西にかけて、つまり台地の錦江湾側にも広がりをもっていたと推定される。

4. 古墳時代～平安時代の遺構検出・遺物出土状況

(1) 遺構の検出状況 (第26図)

遺構としては溝状遺構が3条、第Ⅶ層で検出された。

① 溝状遺構 1

溝1はD-2～B-6区に検出し、これは長さ48m、最大幅1m25cm、深さ20～10cmの規模の溝である。この溝は直線で東西に検出された。

遺物の出土状況の特徴としては、須恵器が底面に出土したことで、開聞岳の噴出物である「コラ」が底面近くに堆積していたことが上げられる。

② 溝状遺構 2

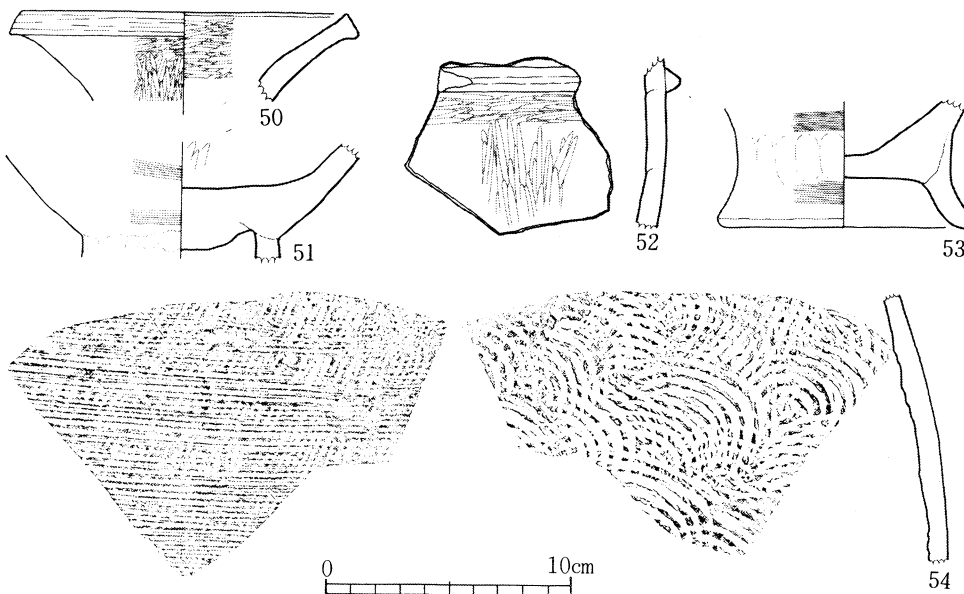
溝2はC・D-2区に検出した。これは長さは20m50cm、最大幅90cm、深さ10～12cmの規模の溝であった。この溝は南東～北西に直線状に検出した。

遺物の出土状況としては、遺物の量は少なく、まばらに出土した。

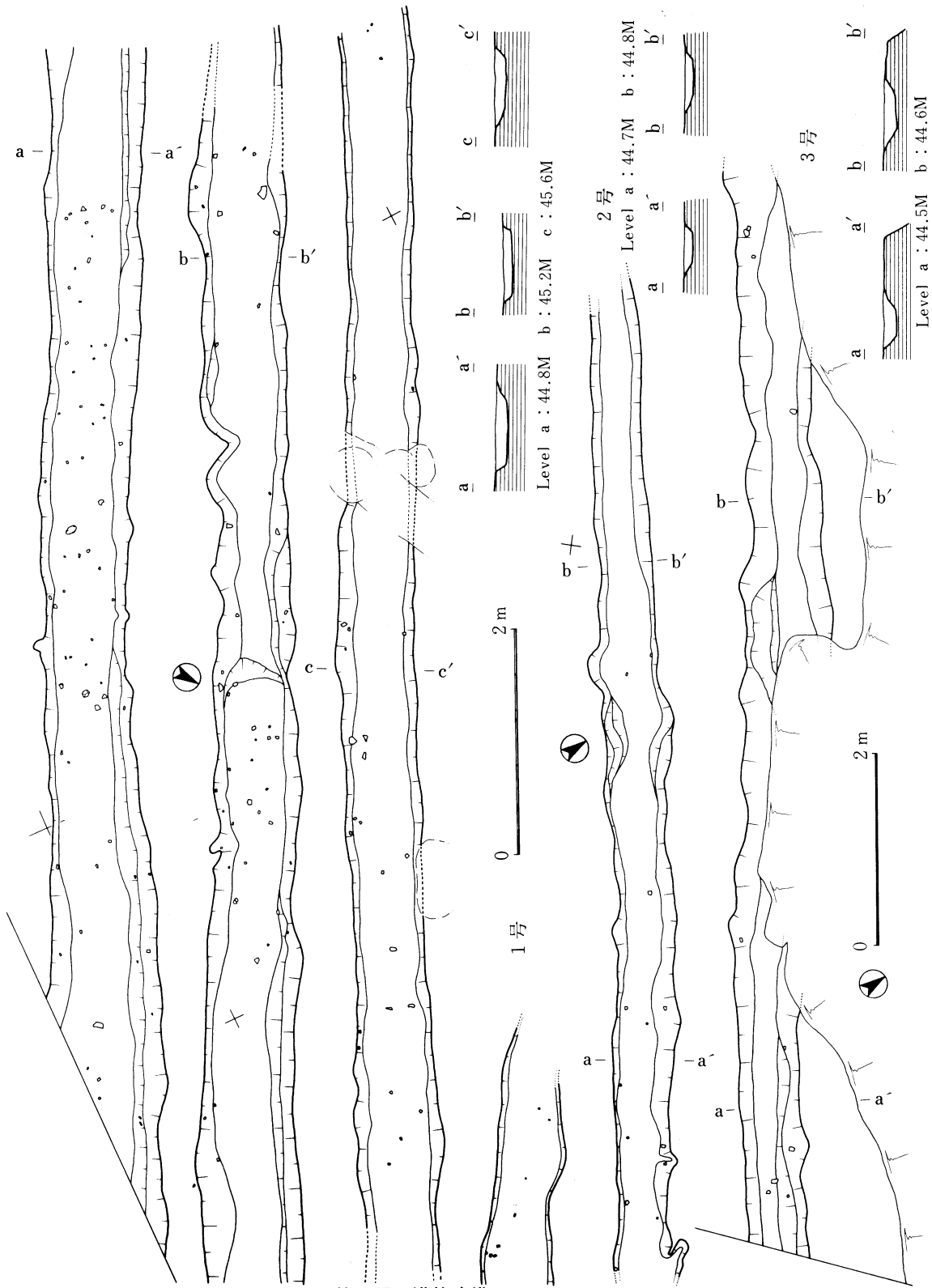
③ 溝状遺構 3

溝3はC・D-1区に検出した。調整地区の縁で部分的に削られていた。長さは20m80cm、最大幅1m5cm、深さ20cmの溝であった。この溝は南東～北西に直線状に検出した。

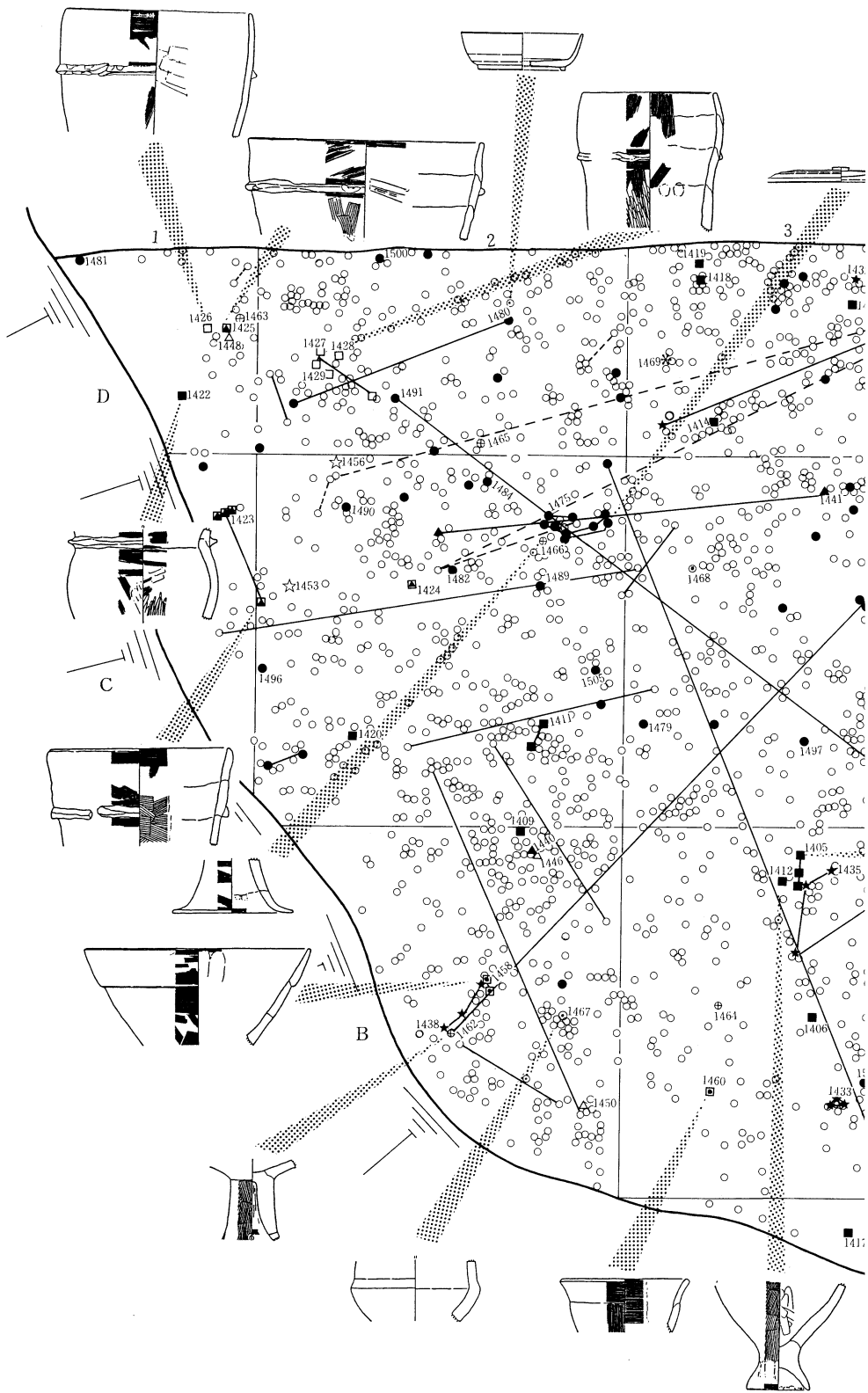
遺物の出土状況としては、遺物の量が少なく、まばらに出土した。



第25図 溝状遺構 1 内の出土遺物

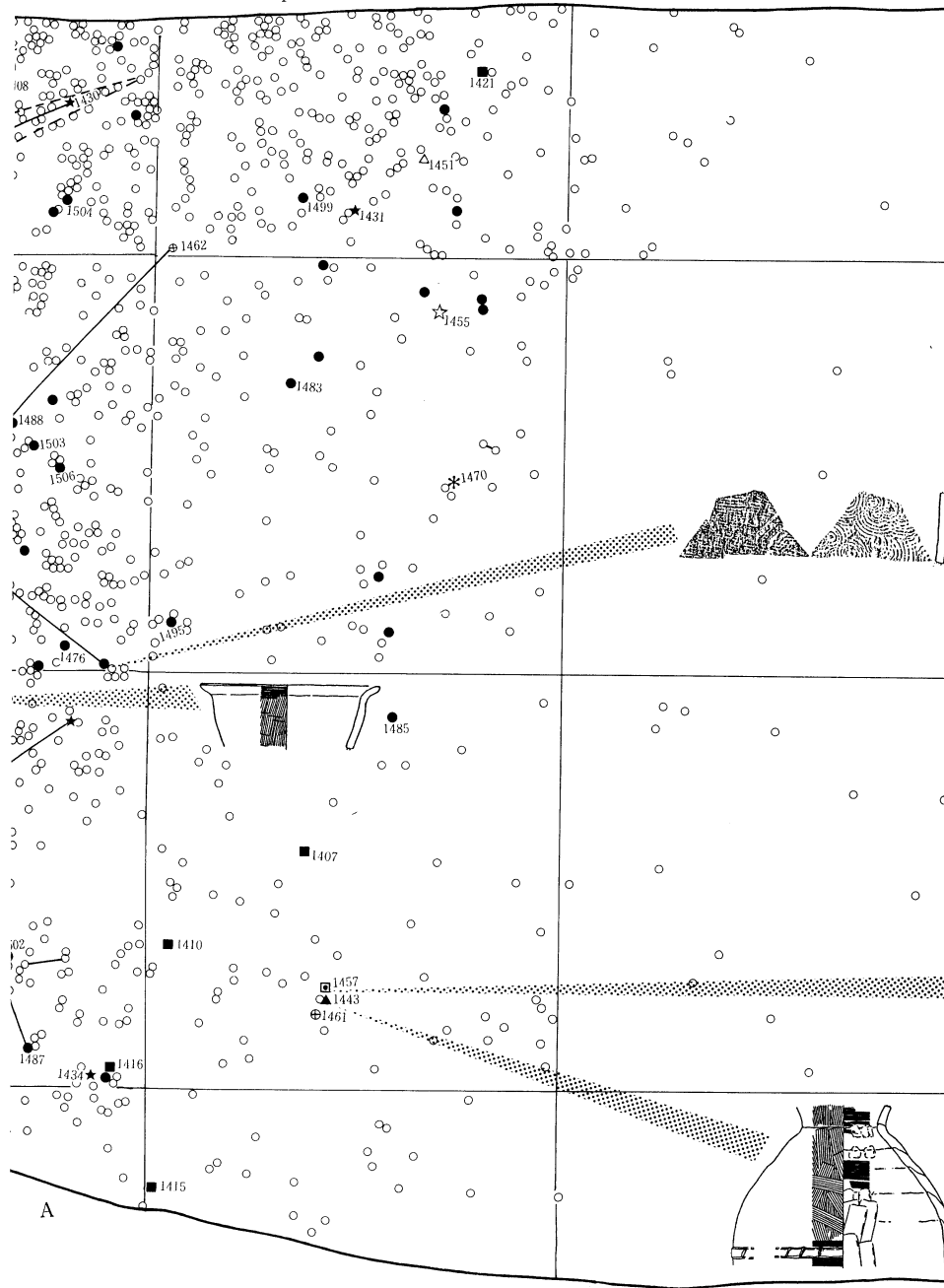


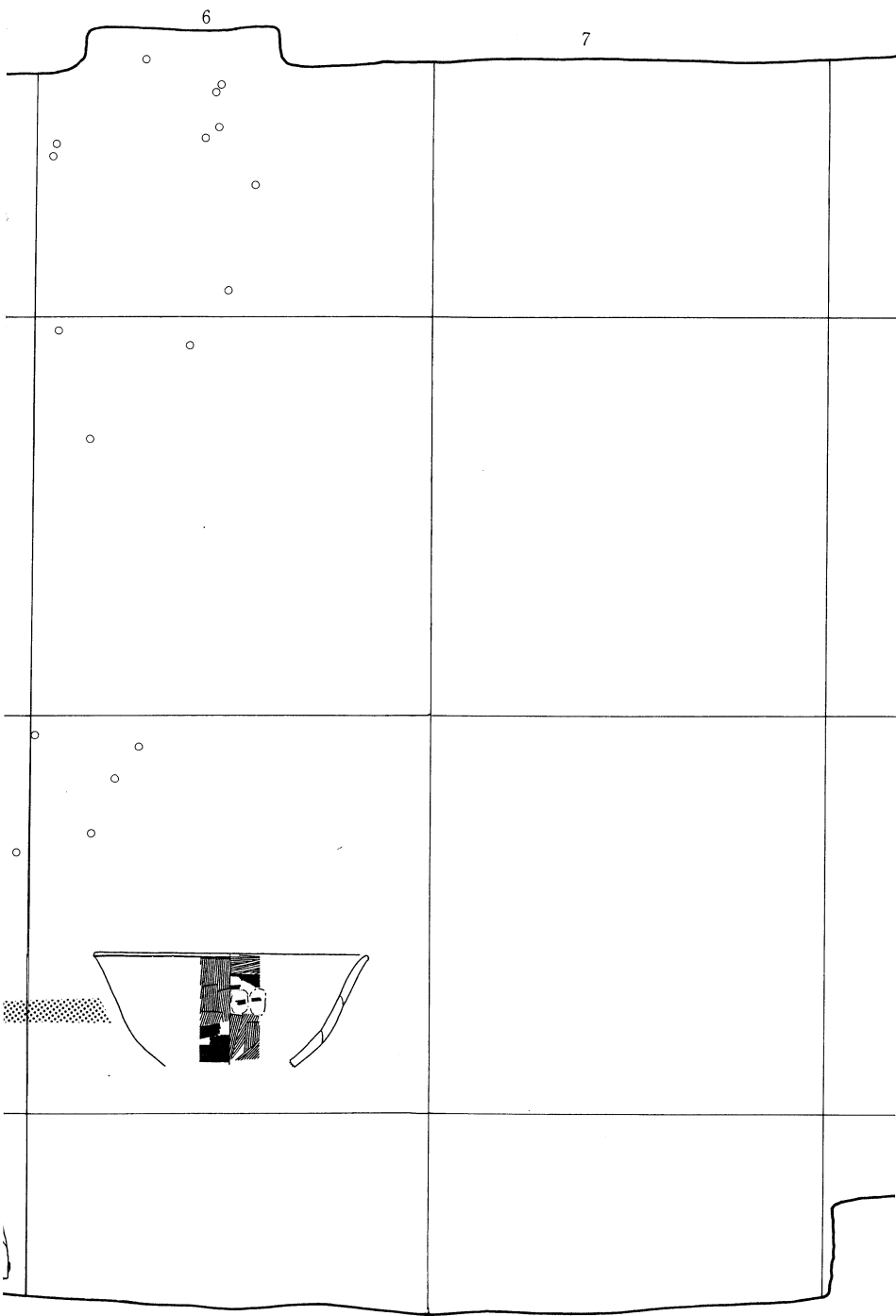
第26図 溝状遺構 1・2・3



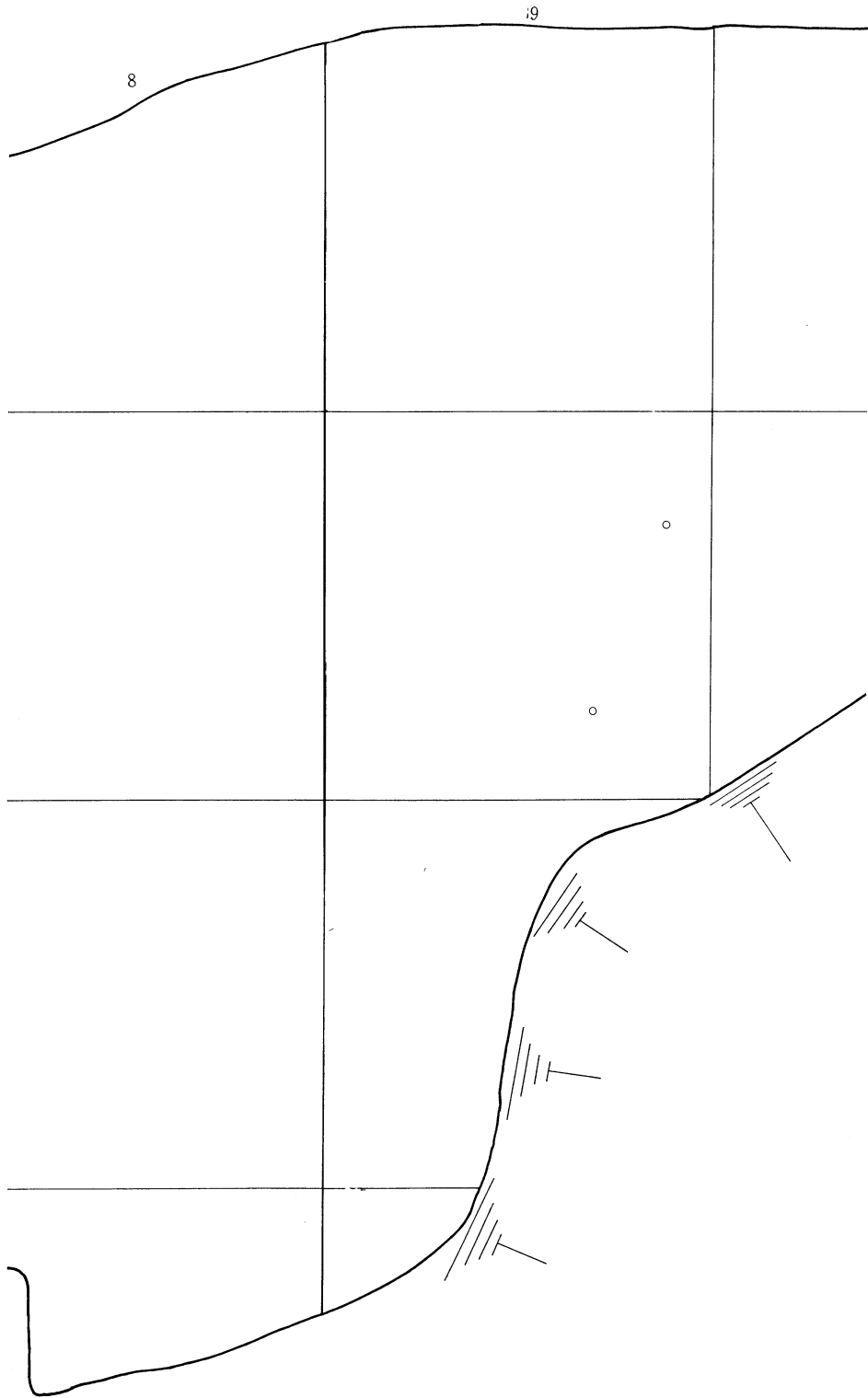
4

5



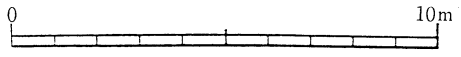


第27図 古墳時代～平安時代の遺物出土状況





- 甕第Ⅰ類 ☆ 壺底部
- ▣ 甕第Ⅱ類 □ 鉢
- 甕第Ⅲ類 ⊕ 高 坏
- ★ 底 部 ⊙ 埴
- ▲ 壺第Ⅰ類 * ミニチュア土器
- △ 壺第Ⅱ類 ○ 他の古墳時代土器片
- 須恵器



(2) 遺物の出土状況 (第27図)

古墳時代～平安時代の出土遺物の状況は第27図に示したとおりである。出土遺物はC・D-2・3・4区を中心に出土している。この時代の遺物が出土する層位は第Ⅵ層であった。

古墳時代の遺物は成川式土器が主で、平安時代の遺物は須恵器であった。成川式土器の中には高坏の脚部を利用したふいごの羽口が出土している。

5. 中・近世の遺構検出・遺物出土状況**(1) 遺構の検出状況** (第28図・第29図)

中・近世期の遺構は土壌が5基、溝状遺構が1条、Pitが多数検出された。

① 土壌3 (第28図)

D-9区に検出した。規模は3cm×70cmの長方形で深さ50cmであった。遺物は5点出土している。埋土は柔い土であった。

② 土壌4 (第28図・第30図 55～57)

土壌4はC-7区に検出した。規模は186×175cm、深さ30cmのもので、土壌内には南側に45cm～20cm位の礫が重って検出した。土壌の中部は炭が多く、その炭は南側と南東側へ広がっている。埋土は他の土壌2～5と同じようなしまりのない柔い土であった。

遺物は縄文晩期の土器と近世の陶器56が1点埋土上部に出土している。この近世の陶器は薩摩焼に比定される。

なおこの土壌の炭の年代測定結果は390±50B. P. Yの数値が出た。この年代は絶対年代におきかえるとAD1560±50年にあたる。

③ 土壌5 (第28図・第30図 73)

土壌5は、直径50cm、深さ25cmのもので、底面近くに青磁の皿(73)が出土した。

④ 土壌6 (第29図)

D・E-12区に検出した。規模は調査地区内で半円形に検出した。この土壌は直径が1m45cm、深さは50cmであった。

遺物は2点出土し、埋土は柔い土であった。

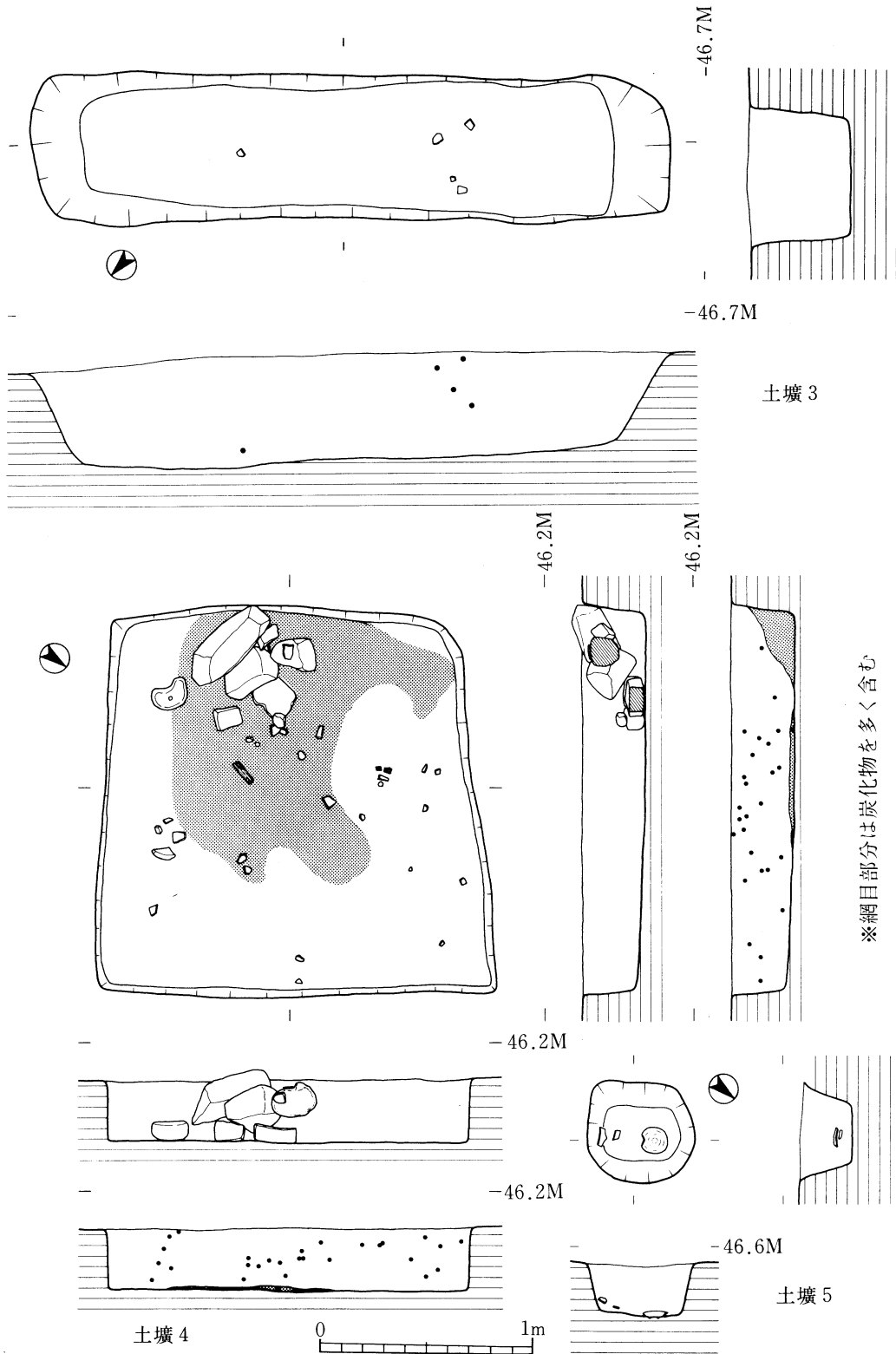
⑤ 土壌7 (第29図・第30図 58～72)

D・E-11区に検出した。規模は調査地区内で3cm×3cm50cmの三角形に検出した。中央部は深さ65cmの窪になっている。その中央部の窪は三段の段差があり、中心は70×60cmの方形になっている。他にPitが三個検出された。埋土は柔い土であった。

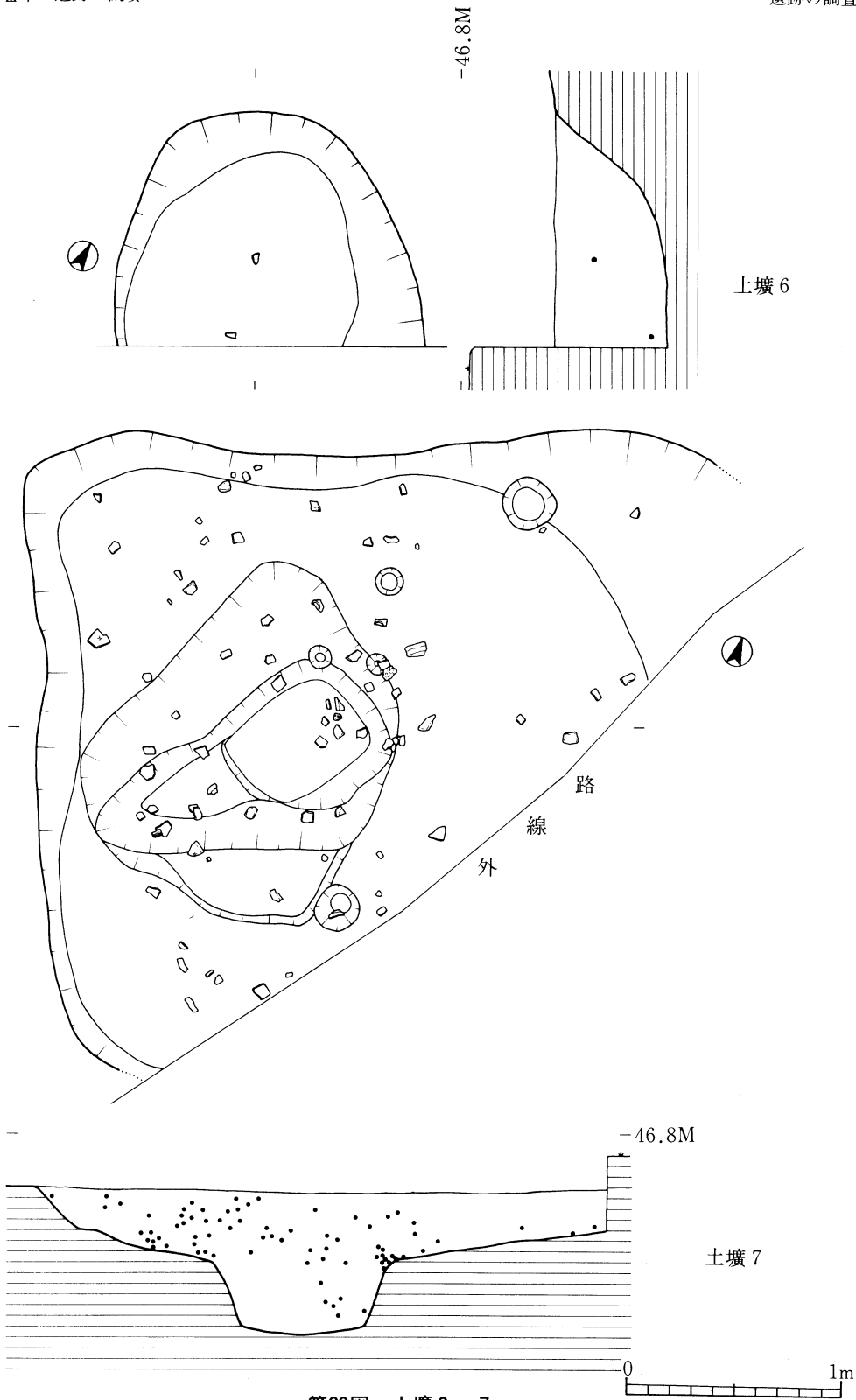
遺物は縄文時代のものから中・近世期のものまで埋土中に出土し、遺物の包含されている埋土は上部であった。

⑥ 溝状遺構4 (第8図・第32図 88～115)

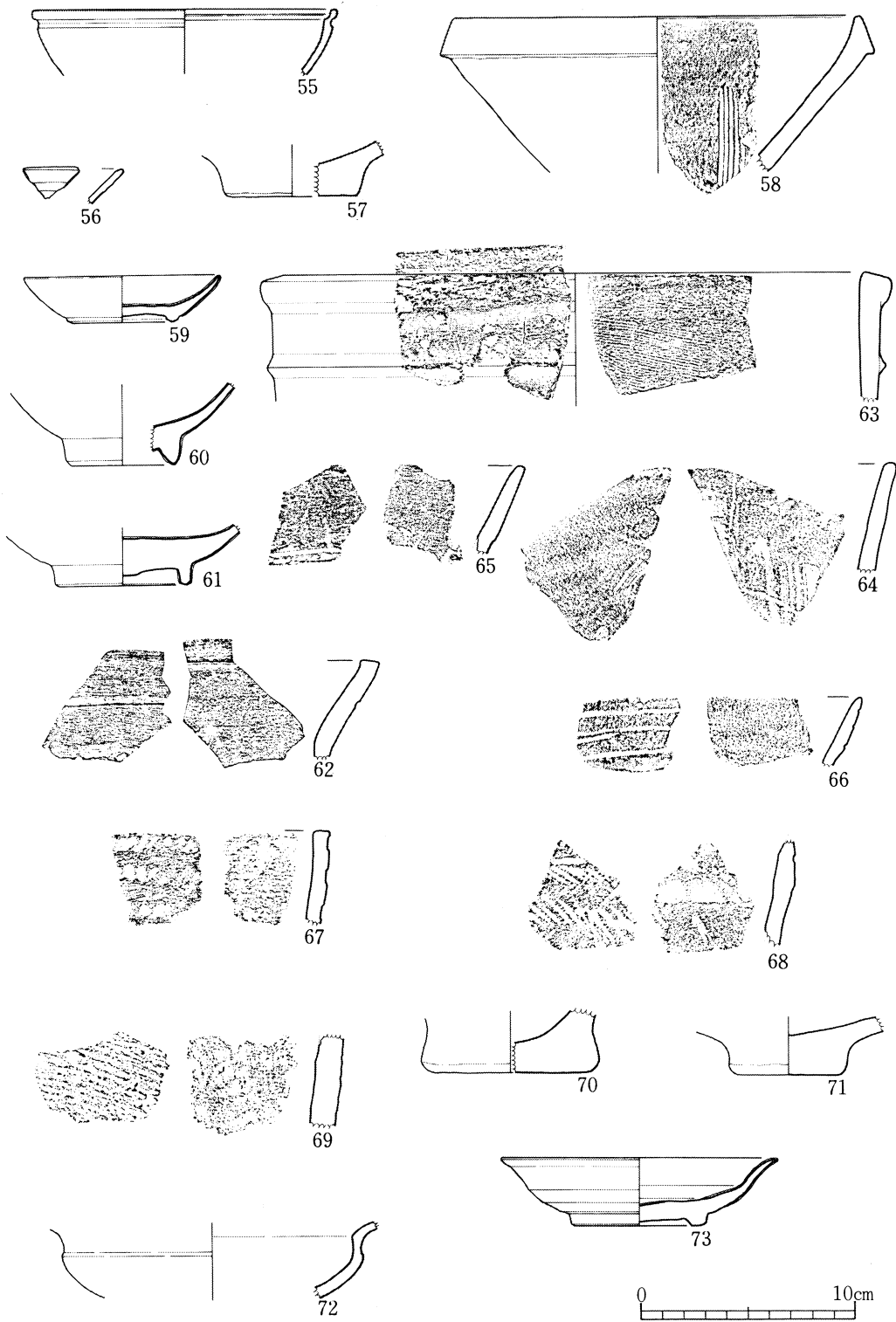
溝状遺構4は、B-9区からD-8区にかけて、ほぼ東西にのびるもので、第Ⅹ層上面で検出された。幅約2.5m、長さ約23.0m、深さ約0.8mを測るものであるが、検出区周辺は、第Ⅹ層及び第Ⅺ層まで削平されており、本来の規模及び性格については不明である。



第28図 土壌 3・4・5



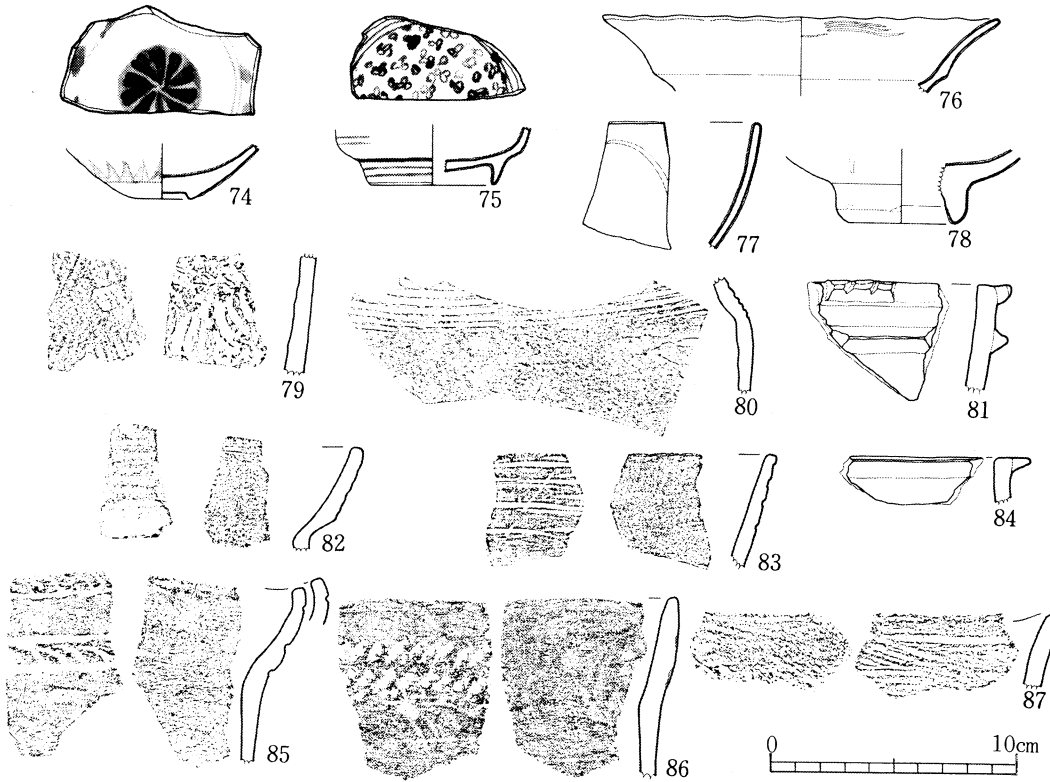
第29図 土壌6・7



第30図 中・近世の遺構内出土遺物(1)

⑦Pit群 (第8図：第4表～第6表)

本遺跡において検出されたPit群については、前述(35頁)のとおりである。規模及び形状については、第4表～第6表に記載した。



第31図 中・近世の遺構内出土遺物(2)

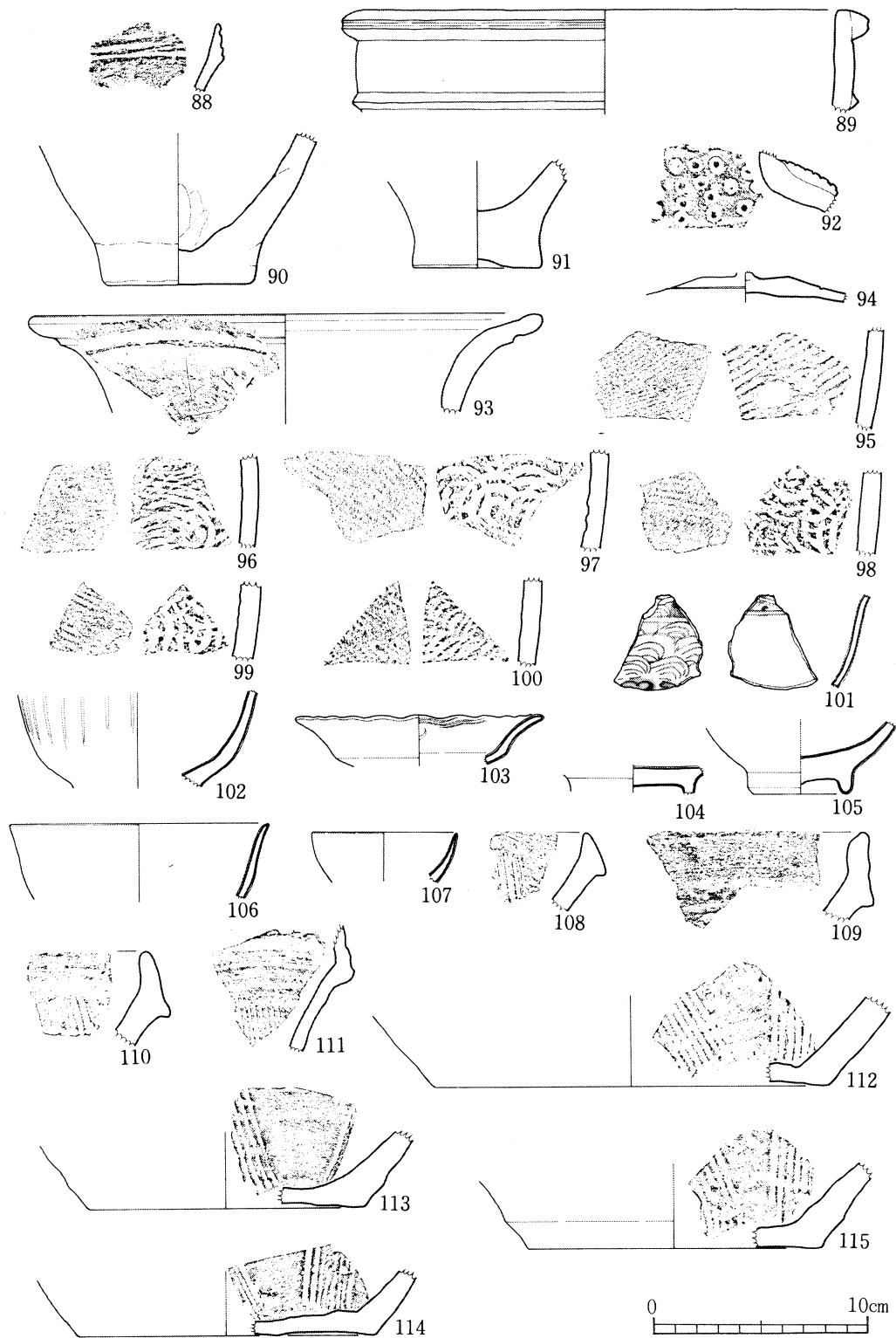
(2) 遺物の出土状況

遺物は、青磁・白磁・染付・備前焼・薩摩焼等が出土している。これらは、第Ⅲ層及び第Ⅳ層からの出土であるが、点数は少なかった。これは、包含層である第Ⅲ層及び第Ⅳ層が、1～4区付近までしか残っていなかったこととも関係があると考えられる。この時期の遺構は、むしろ発掘区域の南西部に集中しており、中・近世の主体は、溝状遺構4から南西部にあったと考えられる。

6. 時期不詳の遺構 (第8図)

土壇8

この土壇はA-6区より検出された。調査区域では東西が2m50cm、南北が1m30cm、深さ40cmの方形であった。この土壇の東南部の角は不定形で土壁がみられる。埋土には焼土が多く赤褐色のかたまりが多量に出土した。床面は不定形で凹凸がみられた。遺物としては磨製石斧が出土した。



第32図 中・近世の遺構内出土遺物(3)

7. 石器の出土状況 (第33図)

石 鏃

石鏃は出土量が少ないせいか、B-2区に隣り合って出土している2点の他は目立って出土していない。それにB-6区、D-5区等はなれて出土している。

石 匙

石匙も数が少ないため、出土状況には特徴がない。

石 皿

石皿は完形品がB-3区に出土している。この石皿は楕円形で形が整っているもので、凹部が下を向いて裏返し状態で出土していた。D-5区にも完形に近いものが出土しているがこれは扁平の石皿であるが出土の特徴はなかった。他にD-2区とか、B-2区等にも大きい石皿が出土している。

小さく割れた石皿の破片は広範囲に出土している。まとめると言って良いほどではないが、A・B-3・4区、C・D-2・3区、C・D-5区等が目立つほどである。

石 錘

石錘はB-2区において集石遺構(5号)の中に6点集中して出土している。この集石遺構は前の項で説明したように石錘が主で他は少量であった。他にはC・D-4・5区で5点がグループを形成する程度で疎に出土していて、目立ったところはない。

軽石加工品

軽石ないし軽石加工品は大小合せて疎に出土している。これと言った特徴はない。

磨製石斧

磨製石斧は疎に出土してこれといったところはないが、B・C-2・3区、D-5区が若干まとまっている状況に近いところがある。

砥 石

砥石は磨製石斧と製作上セットと思われるが、B-2・4区に2点ずつ近くに出土している。しかし磨製石斧の製作途中のものが出土していないので、ここではその特徴ははっきりしない。

磨石・敲石・凹石類

この類の石器は量が多く、まとまった地域はつかめない状態で全体に出土している。石皿との関係もみあたらない。ただこの類の石器は10cm前後以上からのものと5cm前後以下の大・小2つのものが出土している。そして大形のものには凹石・敲石・磨石があるが小形のものには凹石がなかった。

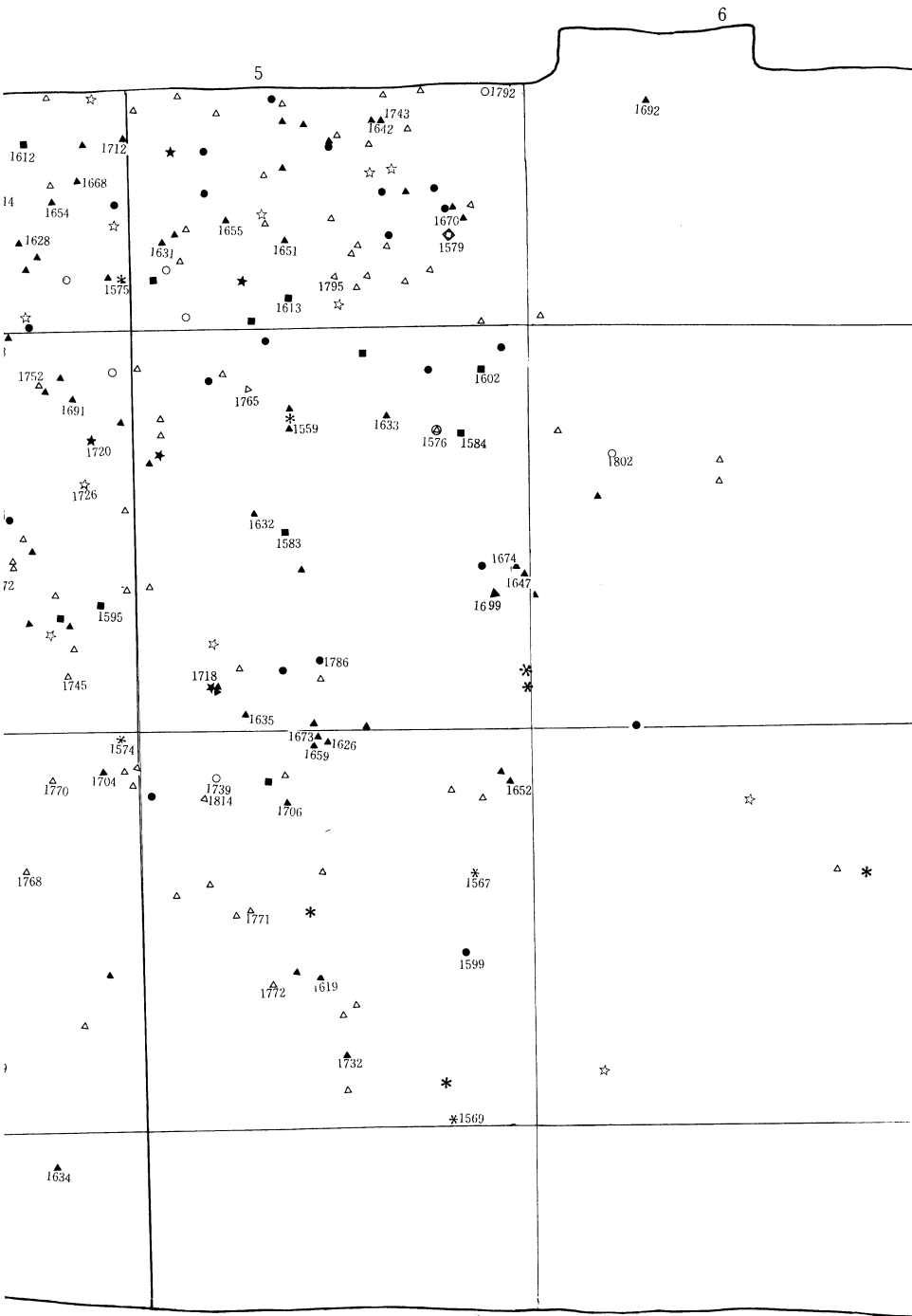
打製石斧

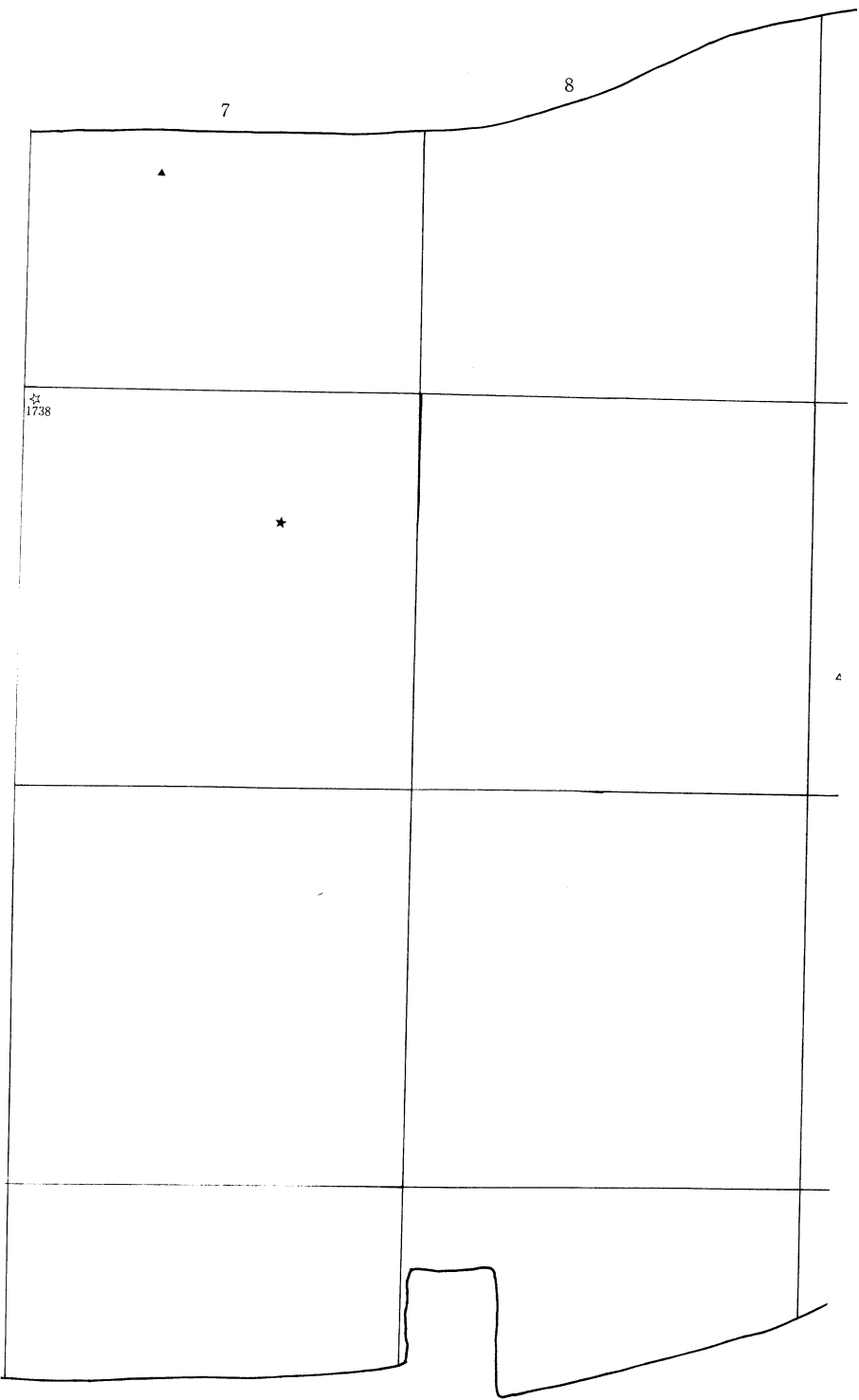
打製石斧は目立った出土状況はみあたらない。他の遺物と同じような分布の状況であったが一つ上げるとしたらC・D列に割と出土している。

他の石器

他の石器(剥片石器等)は目立ったところはない。







7

8

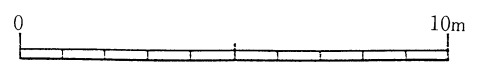


1738





- 石 皿
- ▲ 磨 石
- 石 錘
- ☆ 輕石加工品
- * 石 鏃
- ⊙ 石 匙
- ▲ 打製石斧
- 磨製石斧
- ★ 砥 石
- 特 殊



第3節 遺跡の出土遺物

1. 縄文時代の出土遺物

(1) 第Ⅰ類土器 (第34図～第36図 116～171)

第Ⅰ類土器は、貝殻文円筒土器の一群で、第Ⅹ層（アカホヤ）下の第Ⅺ～Ⅻ層を中心に出土したものである。さらに円筒形土器を a 類、角筒形土器及びそれに類するものを b 類とした。

分布状況はⅠ a 類が C-2 区を中心とした遺跡の東側、Ⅰ b 類が C-9 区を中心とした遺跡の西側から出土している。

① 第Ⅰ a 類土器 (第34図 116～139)

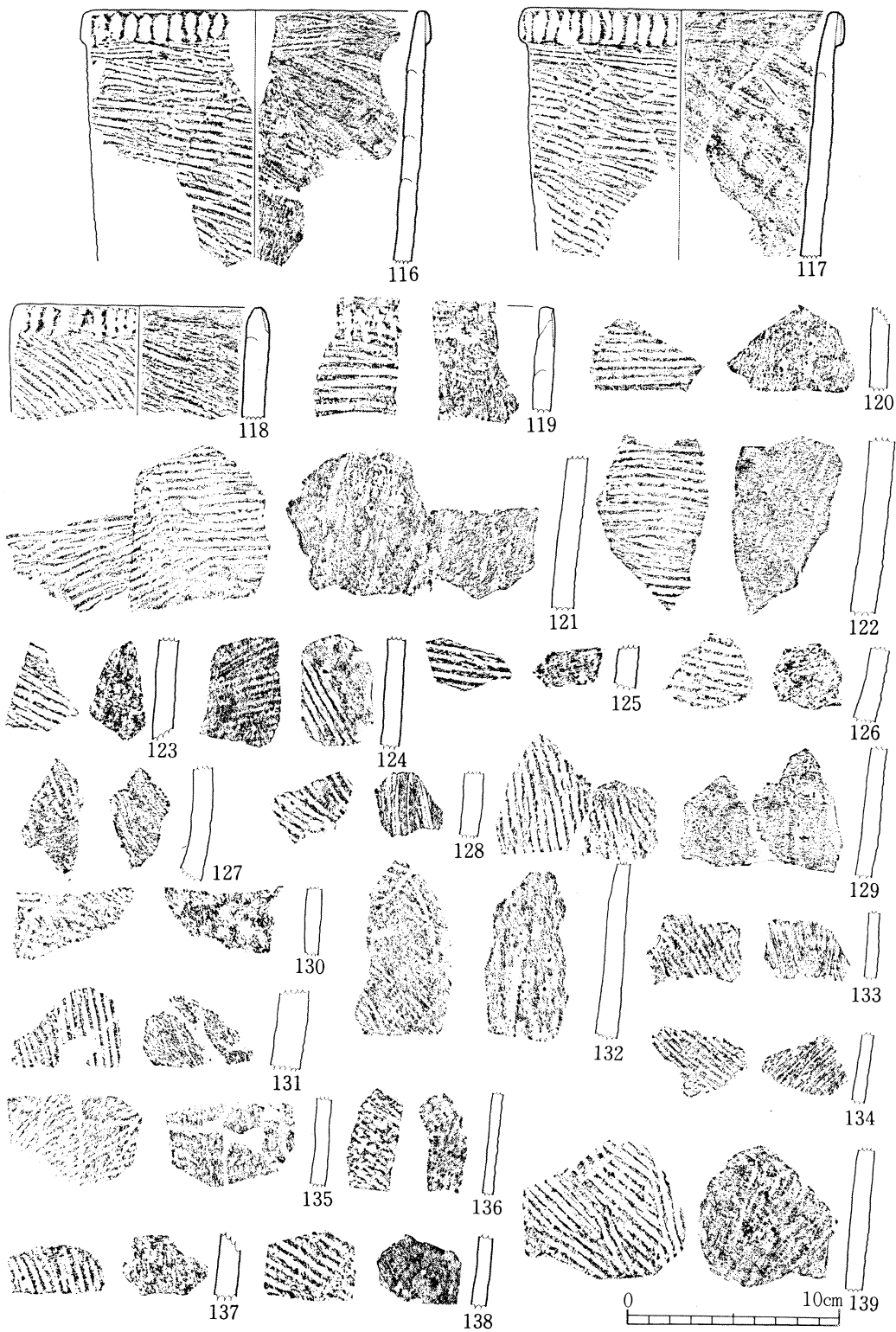
第Ⅰ a 類土器は、口縁がほぼ直行する円筒形土器である。口縁端部外面にヘラ状施文具または貝殻腹縁による刺突文をめぐらし、胴部は横位または斜位の貝殻条痕を強く残している。

116・117は、それぞれ復元口径16.4cm、15.4cmを測る円筒形土器である。口縁端部外面に幅約1.5cmの粘土帯を貼り付け、ヘラ状施文具による縦位の刺突文をめぐらしている。胴部は横位または斜位の貝殻条痕を強く残している。内面の整形は、若干荒いヘラ削り状の器面調整を施している。118は復元口径11.6cmを測るもので、器壁が1.1cmと比較的厚い。口縁端部外面に貝殻腹縁による縦位の刺突文を施し、胴部は斜位の貝殻条痕を残している。119は口縁端部外面に貝殻腹縁による斜位の刺突文を施し、胴部は横位のやや浅い貝殻条痕を残している。口唇部は、116～118がやや丸みを帯びているのに対し、119はフラットである。120～139は第Ⅰ a 類土器の胴部片と思われるものである。外面は横位または斜位の貝殻条痕を残し、内面はヘラ削り状の器面調整を行っている。

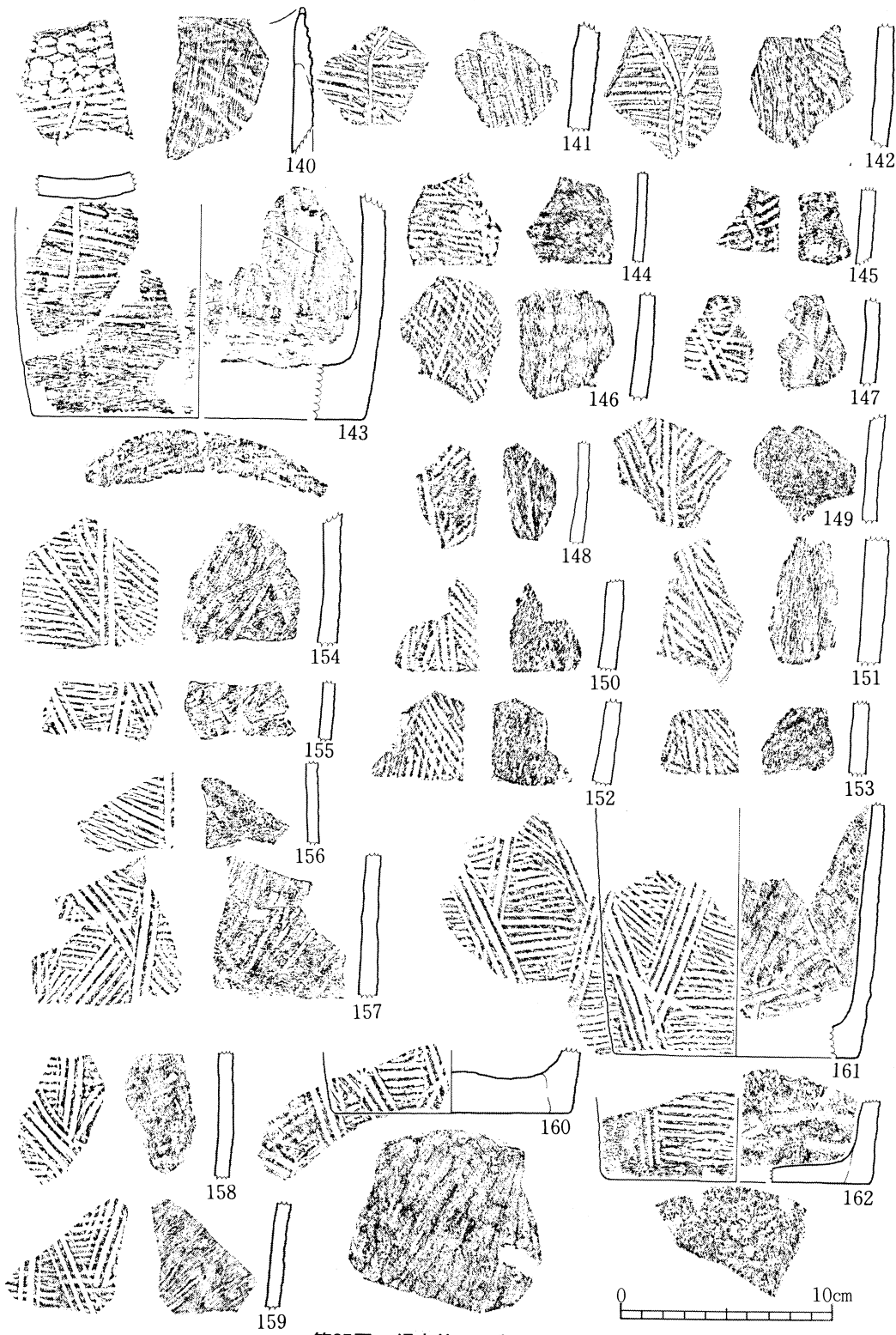
② 第Ⅰ b 類土器 (第35図 140～162)

第Ⅰ b 類土器は、ほぼ横走る貝殻条痕の上に縦位、斜位の貝殻条痕を重ね、文様の効果の見られる胴部をもつものである。140のように四隅が山形になる角筒形土器も存在する。この種の土器は、口縁部が角筒形で底部になると円筒形になるものがあるため、141～162の口縁部形態が角筒をなすかどうかは不明である。

140は若干内湾気味に立ち上がる器形をもつ角筒形土器の口縁部片である。口縁部下に二又状施文具による横位の連続刺突文を三段施し、胴部は横位の貝殻条痕に二又状施文具による斜位の沈線を重ねて施している。内面はヘラ磨き状の丁寧な器面調整を行っている。141・142は横位の貝殻条痕の上に一本及び二本単位の沈線を「Y」字形に施す胴部片で、140と同様の口縁部をもつものと思われる。143は141・142と同一個体と思われる底部である。底径15.6cmで底部厚が2.6cmと厚手である。外面は横位の貝殻条痕の上に一条の縦位の沈線を施しているが底部付近はやや粗い磨きにより整形している。内面も部分的に剝落が見られるが、縦位の磨きにより整形している。144・145は横位あるいは縦位の貝殻条痕を地文とし、その上から連続刺突文を縦位に施す胴部片である。146～153は貝殻条痕を重ねてはいるが、その規則性は不明確である。154～161は同一個体と思われるもので、横位の貝殻条痕を施し、さらにその上から「X」字状に連続して条痕を重ねるものである。条痕は底端部まで丁寧に施している。器壁は胴部が薄い



第34図 縄文第I a類土器

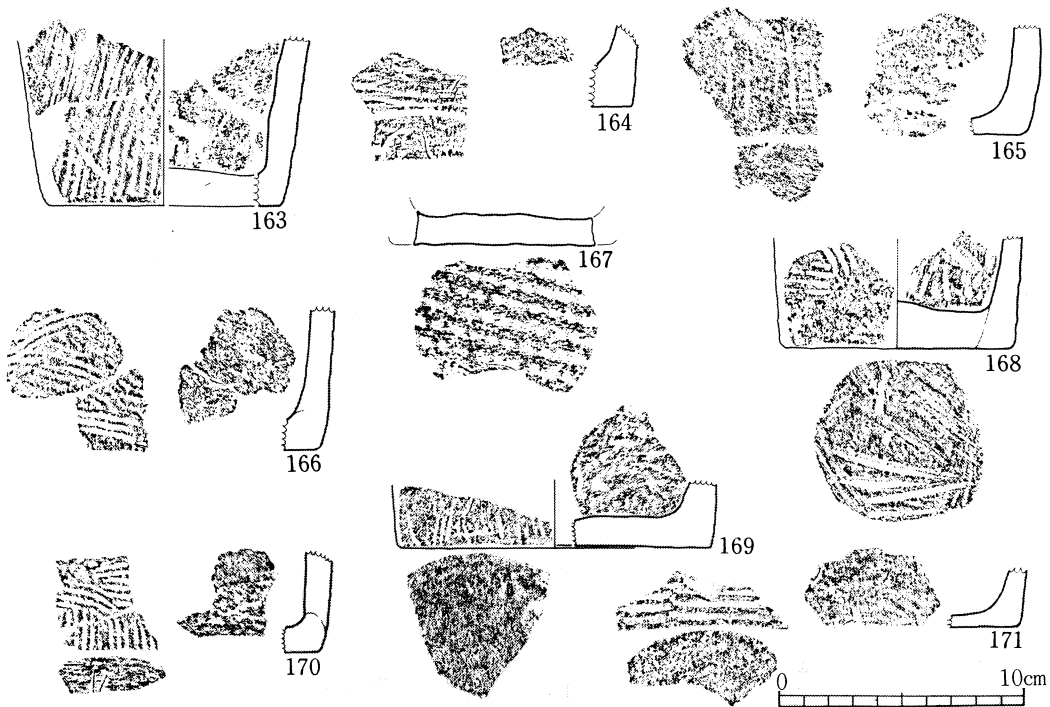


第35図 縄文第 I b 類土器

ところで0.7 cm程度であるが、底部になると1.7~2.0cmと厚くなる。160・161にみられるように、底部は円盤状の粘土をはめ込んだ形状を呈す。底面及び内面調整はヘラ削り状の仕上げを行っている。162は表層出土のため若干風化しているが、底端部まで横位の貝殻条痕を施しさらに縦位の貝殻条痕を重ねていることから、第I b類に属する底部と思われる。底径は11.6 cmで、器壁は胴部、底部共に1.0 cm内外と比較的薄手のものである。

③ 底部 (第36図 163~171)

第I類土器の底部と思われるものを一括して取り扱った。163は斜位の貝殻条痕を底端部まで施すもので、底径9.6 cmを測る。底部円盤部分は欠落し、底部端から胴部へ立ち上がる部分である。胴部の器壁は1.2 cmである。164・166・171は、胴部を斜位、底部付近を横位にそれぞれ貝殻条痕を施すものである。164・166は163と同様に底部の円盤部分が欠落している。165・169・170は底端部に縦位の条痕あるいは沈線を施すものである。165は風化が激しいため詳細は不明である。169は底径12.8 cmで、底端部に斜位の浅い貝殻条痕を施しているものである。底部厚は1.2 cmである。170は横位の貝殻条痕を施し、底端部に縦位の貝殻条痕を刻み目状に施している。横位の貝殻条痕を、そのまま底端部まで縦位にのびた部分もある。167は円盤状に剥落した底部片である。底面には網代底状の圧痕が見られる。底部厚は1.2 cmである。168は底径9.4 cmの比較的小型の土器で、167同様円盤状の接合部剥落がみられ、立ち上がる胴部との接合時に施されたとされる指頭圧痕が底部内面に明瞭に残っている。底面は粗い削り状の仕上げを行っている。



第36図 縄文第I類土器 底部

(2) 第Ⅱ類土器 (第37図 172~182)

第Ⅱ類土器は四隅に稜をもち、胴部から口縁部へわずかに開く角筒形土器と、これと同時期と思われるクサビ形突帯をもった円筒形土器からなる。このタイプの土器は、器壁が非常に薄く、焼成も良好で、完成度の高いものと言える。また角筒形土器のほとんどが、角筒の角付近で割れており、粘土の接合状況が伺える。出土層は、第Ⅹ層（アカホヤ）下の第Ⅺ層を中心としている。分布状況は182を除いてすべてC-9区を中心とした遺跡の西側にあたる。円筒形土器をa類、角筒形土器をb類と細分した。

① 第Ⅱa類土器 (172)

172は土器片のカーブから円筒形土器と思われる。貼り付けによるクサビ形突帯を有する。突帯の両端は楕状の施文具で刺突を行い、連点文様を呈している。器壁は0.5cmと薄い。内面はナデ状の仕上げで平滑である。

② 第Ⅱb類土器 (173~182)

173は一辺が推定12.4cmの角筒形土器である。器壁は0.5cm前後で非常に薄い。口唇部はフラットで連続した刻みをもつ。また角筒の角の部分にも貝殻腹縁による連続した刻みがみられる。外面は地文に斜位の浅い貝殻条痕をもち、口縁部下に横位の貝殻腹縁による連続刺突文を三段施している。さらにその三段目から胴部にかけて縦位及び斜位に貝殻腹縁による連続刺突文を施している。内面はヘラ削り状の調整が明瞭である。174~178も同様な角筒形の口縁部片である。179~182は胴部片である。特に180を除く四点は角筒の角の部分であり、このタイプの土器の残存状況をよくあらわしている。文様は前出の口縁部と同様であるが、178のみ先端の鋭い施文具による縦位の連続刺突を施している。

(3) 第Ⅲ類土器 (第37図 183)

第Ⅲ類土器は山形押型文土器である。第Ⅳ層から出土した胴部一片のみである。本来の包含層はアカホヤ層下の第Ⅺ層か第Ⅻ層と思われるが、何らかの影響で下層から浮き上がってきたものと思われる。そのためか風化の進みが激しい。山形の高さは0.6cmで波長（山形の頂部の間隔）は、1.0cmを測る。器壁は1.6cmと非常に厚い。

(4) 第Ⅳ類土器 (第37図 184)

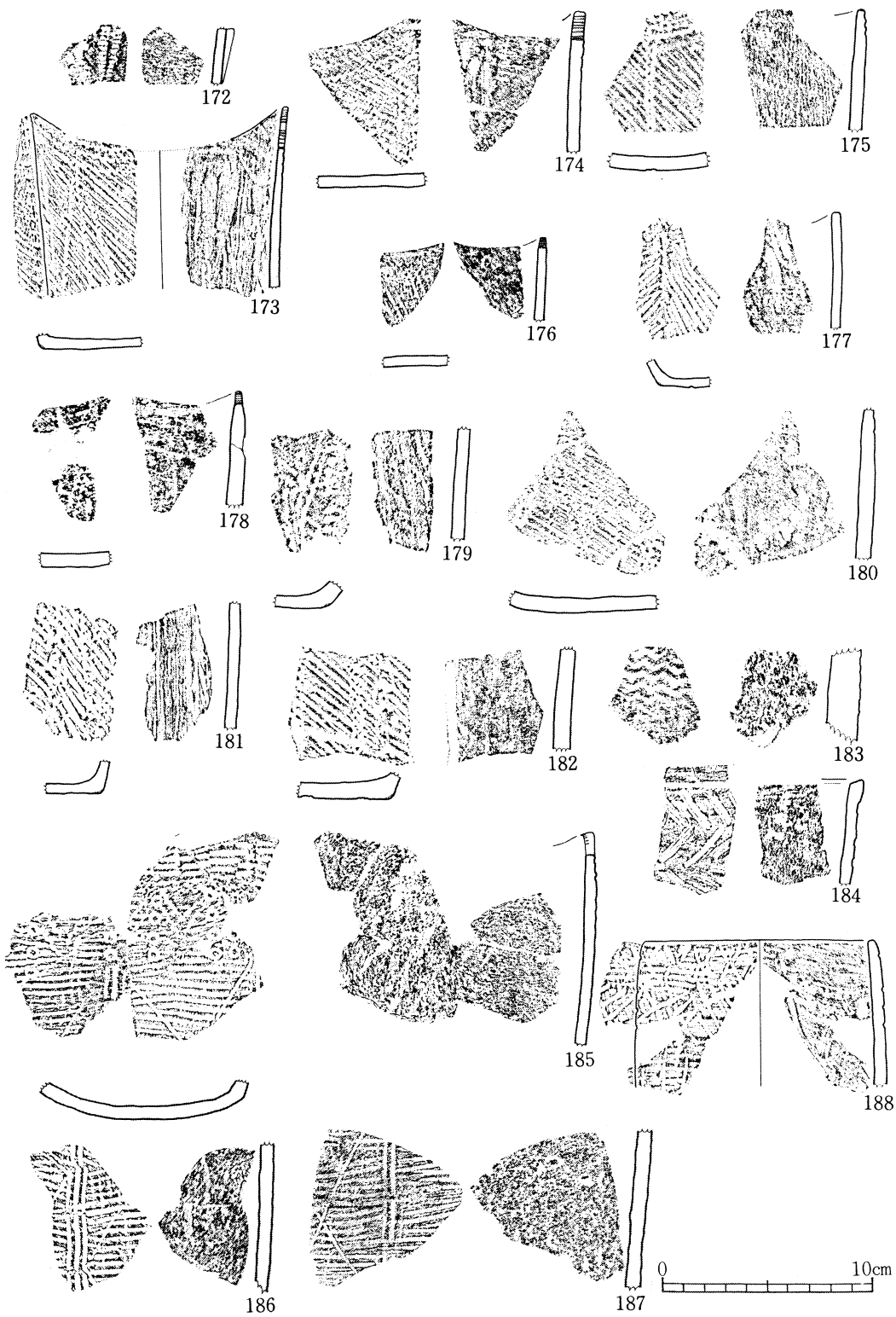
第Ⅳ類土器は、胴部から若干開く口縁部をもち、胴部に先端がふぞろいのクシ状施文具で羽状文を施すものである。フラットな口唇部はやや内傾し、その内面側は、明瞭な稜をもつという特徴を有する。器壁は、胴部は0.5cmと薄いだが、口唇部付近になると、0.7~0.8cmとやや厚くなる傾向がある。内面は、ヘラ磨き状の丁寧な整形を行っている。

(5) 第Ⅴ類土器 (第37図 185~188)

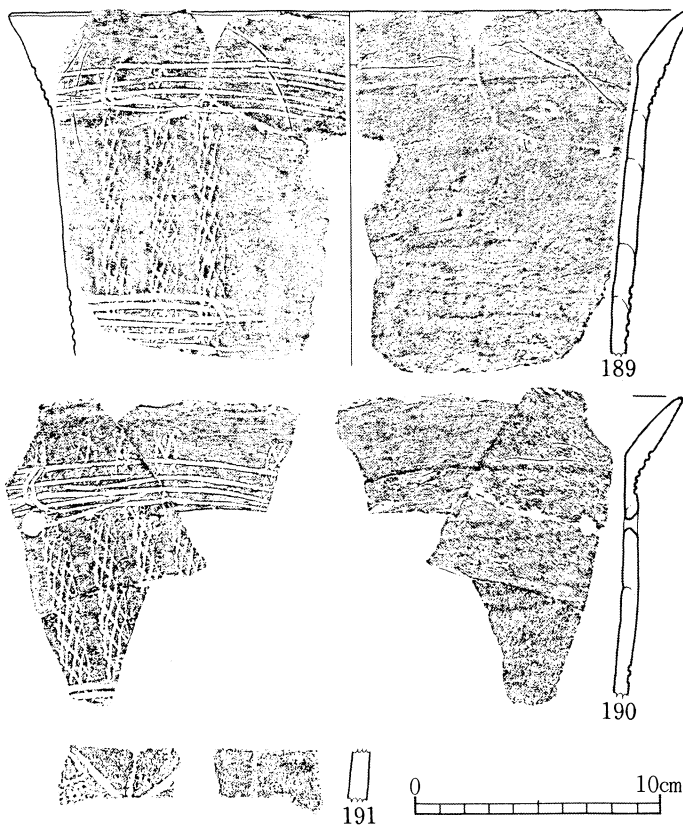
第Ⅴ類土器は、アカホヤ層下から出土し、これまで類例のないものを一括して扱った。二個体出土し、それぞれをa類、b類とした。

① 第Ⅴa類土器 (185~187)

第Ⅴa類土器は、口縁部が四隅に稜をもち角筒形を呈し、胴部から底部にかけては円筒形と



第37図 縄文第Ⅱ類～第Ⅴ類土器



第38図 縄文第Ⅵ類土器

なる土器である。そのためか口縁部から底部まで角筒形となる第Ⅱb類土器に比べ、角の部分になめらかである。口唇部はフラットで、稜の部分のみ浅い刻みを施している。文様は、まず口縁部下に四本単位の横位の沈線を押し引き状に連続して施す。それ以下地文に貝殻条痕をもち、押し引き状沈線下に貝殻腹縁による二段から三段の刺突文を施し、さらにそれ以下に二段の貝殻腹縁による刺突文を鋸歯状に施している。またそれぞれの鋸歯の山の部分から下に竹管状工具による刺突文を四個、稜に近い部分は、二列の計八個施文してる。胴部には角筒の角の部分とその中間に二本

ないし三本の沈線を約2.5cm単位で縦位に施し、さらにその間を一本ないし二本の沈線で「X」字状に結んでいる。内面はヘラ削り状の仕上げを行っている。186・187は、同一個体の胴部である。これらはいずれもC-2区第Ⅸ層下部からの出土である。

② 第Ⅴb類土器 (188)

第Ⅴb類土器は、復元口径11cmの小型の円筒形土器である。口唇部は舌状を呈し、口縁部は若干内湾する。横位の貝殻条痕を地文とし、文様は先端のやや鋭いヘラ状施文具で、まず口縁部下に山を接する形で二段の鋸歯文をめぐらし、その下に左右にのびる斜位の沈線を重ねて横位に数条施す。さらに、それ以下は縦位の沈線を約1cm間隔で施している。器壁は0.5mmと非常に薄い。内面はヘラ磨き状の丁寧な仕上げである。C-9区第Ⅺ層下部から出土した。

(6) 第Ⅵ類土器 (第38図 189~191)

第Ⅵ類土器は撚糸文系の土器である。189・190は同一個体と思われるもので、「く」の字に外反する口縁部をもつ。口唇部には刻みを有する。文様は口縁部屈曲部と底部近くに四条ないし六条の横位の沈線を、それ以前に施された幅1.5cmで縦位に延びる撚糸文帯に重ねて施している。沈線及び撚糸文帯は頸部より上に延びるものもある。内面は丁寧なナデ調整である。191は沈線による区画内に撚糸文を施すものである。いずれも第Ⅺ層からの出土である。

(7) 第Ⅶ類土器 (第39図～第42図 192～261)

第Ⅶ類土器は、器面の内外に貝殻条痕を顕著に残すもので、いわゆる轟式系統の土器と思われるものを一括した。B～D-3～5区の第Ⅶ、Ⅷ層を中心に分布している。これらはさらに、貝殻条痕だけのもの、突帯を有するもの、連点文を施すもの、貝殻腹縁による相交弧文をもつものの四つに分類し、それぞれ a, b, c, d 類とした。

①. 第Ⅶ a 類土器 (第39図・第40図 192～217)

直行及び若干内湾する口縁部をもち、尖底あるいは尖底に近い丸底を呈する土器で、一般的に器面の内外に貝殻条痕を顕著に残し、文様は施されていない。

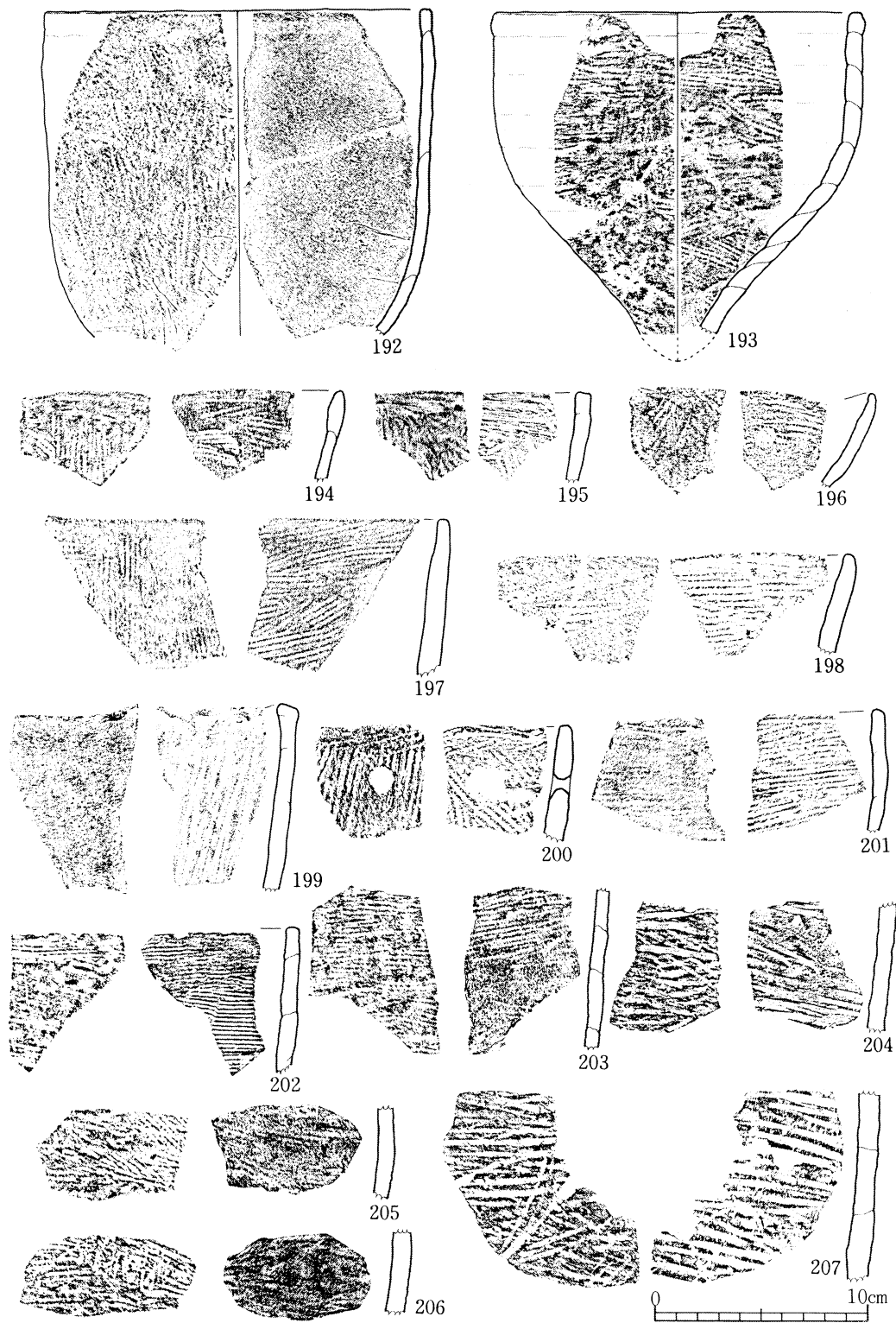
192は復元口径18.4cmの深鉢で、若干内湾する口縁部をもち、ごくわずかに膨らむ胴部を経て底部へとカーブしていくが、底部は接合していない。外面は縦位の貝殻条痕を残しているが、内面は貝殻条痕による整形の後、丁寧なナデ調整を行っている。器壁は0.6cmと非常に薄い。193は復元器高約16.5cmの小型の深鉢で、直行気味に立ち上がる口縁部から、なめらかに屈曲する胴部を経て、底部へと続く土器である。底部は接合していないが、残存状況から尖底気味になると思われる。復元口径は17.4cmで、器壁は0.7cmと薄い。幅1～2cmの粘土帯を接合した状況が明瞭に残っている。194～202も内外面に貝殻条痕を残す口縁部片である。ただ199のみ外面をナデ整形している。200は口縁部下に両面穿孔による円形の補修孔がみられる。器壁は0.4～0.9cmである。203～208は胴部片である。前出の口縁部片を含めて貝殻腹縁の肋の比較的細かな調整具が多い中で、204や207のように荒い貝殻条痕を施すものもある。208は大型の深鉢胴部片である。外面は縦位、内面は横位に貝殻条痕を施している。幅5cm内外の粘土帯を厚さ0.7～0.9cmに接合整形している。C-5区の第Ⅷ層上部からそのまま割れるかたちで出土した。209は底部付近、210～217は尖底の底部である。胴部まで残る217は、内外面共に横位、縦位の貝殻条痕を施し、底部及びその付近をナデ消して整形している。これは底部のみ出土の210～216にもみられる。底部の器厚は1～2cmと様々である。

②. 第Ⅶ b 類土器 (第41図 218～247)

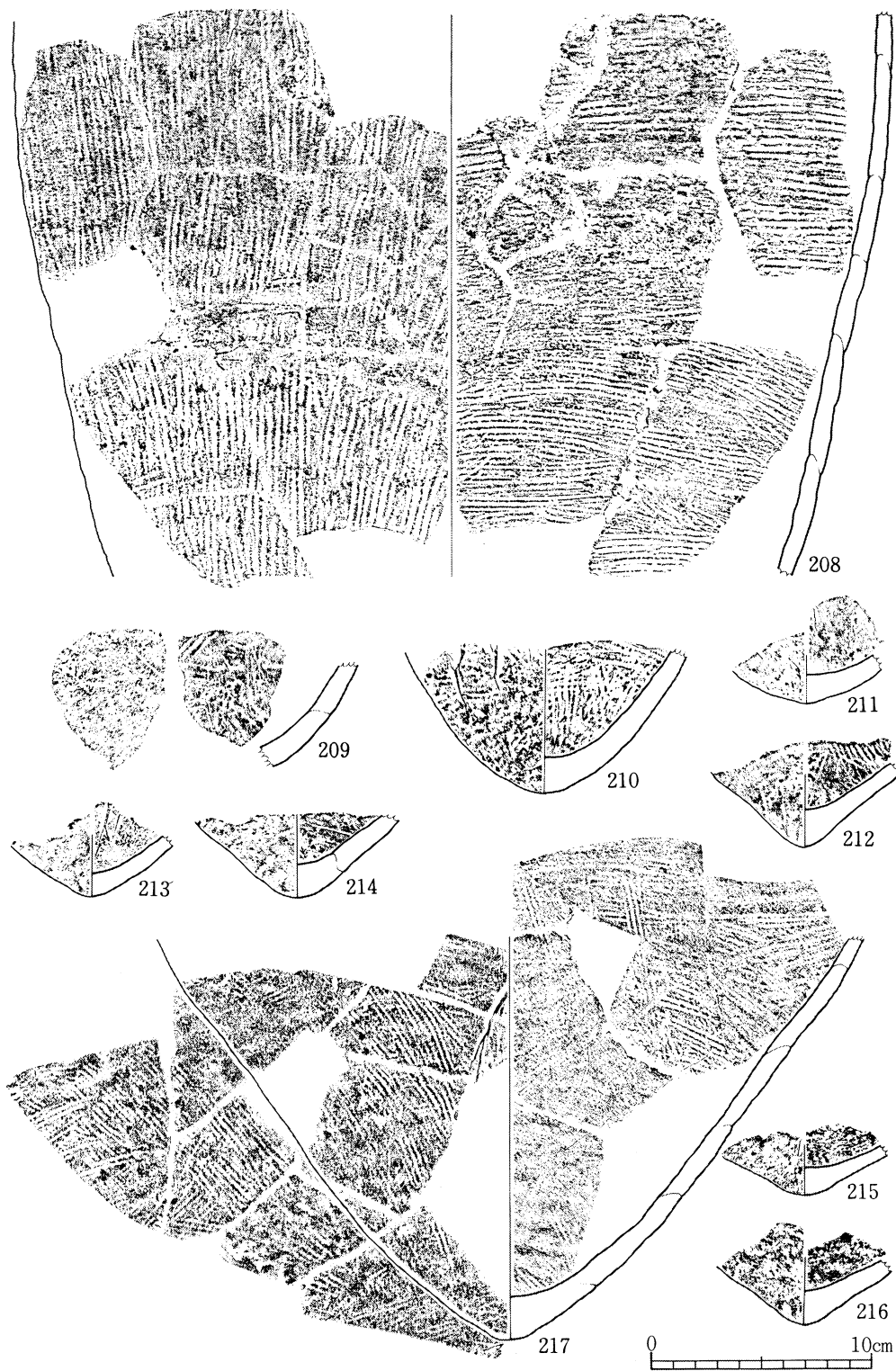
突帯を有する土器の一群で、その突帯の状態から、さらに三つに分類し、それぞれ b-1, b-2, b-3 類とした。

a) Ⅶ b-1 類 (218～228)

口縁部下に断面三角形の横走及び縦走する突帯をもち、三角形の山をつぶすようにヘラ状施文具で、連続した刻みを施すものである。218・220はほぼ直行する口縁部片である。口唇部はフラットでヘラ状施文具による連続した刻みをもつ。口縁部下に断面三角形の突帯を貼り付け、口唇部刻みと同じ施文具で刻みを施している。器壁は0.6cmと薄い。内面には貝殻条痕を顕著に残すが、外面は貝殻条痕による整形の後、丁寧なナデ仕上げを行っている。特に突帯の両側は、突帯を貼り付ける際のナデ調整が明瞭である。突帯は横走するのみでなく、226及び227の様に縦走あるいは斜走するものもある。218～227は同一個体と思われる。228は先端の鋭い施文具で刻みを施し、胴部にくい込んでいる。



第39図 縄文第Ⅶa類土器(1)



第40図 縄文第Ⅶa類土器(2)

b) VII b—2類 (229~240)

口縁部下にミミズ腫れ状、あるいはそれに類する突帯を数条もつものである。

229は、口唇部から下へ湾曲する貼り付け突帯をもつ。焼成不良のため詳細は不明であるが突帯上に先端の丸い施文具による凹点らしきものも観察される。口唇部は舌状を呈し、器壁は0.5cm前後で薄い。内外面共に貝殻条痕を施しているが、外面はナデ消している。また内面には粘土の接合部が明瞭である。230~238は同一個体と思われるもので、ミミズ腫れ状の突帯をもつ。230・231・233は若干外反する口縁部片である。口縁部直下に横走する一条の突帯をもち、それ以下に蛇行しながら横走する三ないし四条の突帯を貼り付けている。内外面共に貝殻条痕を施した後、ナデ仕上げを行っている。232・234~238は胴部片である。239は、小破片のため詳細は不明であるが、口縁部は波状を呈するものと思われる。口縁部直下から胴部へ四ないし五条の微隆起突帯を貼り付けるものである。240は、外傾する口縁部である。口縁部下に二条の横走するミミズ腫れ状突帯をもつ。舌状を呈する口唇部には先端の鋭い施文具により刻みを施している。

c) VII b—3類 (241~247)

口縁部下に断面三角形ないし台形の突帯を貼り付けるものである。241~244は、同一個体と思われる。241・242は、外傾する口縁部である。241は、口唇部から「ノ」の字にカーブして横走する断面三角形の突帯を二条貼り付けている。242は、口縁部下に横走する二条の断面三角形の突帯を貼り付けている。243・244は、胴部片である。241~244の内外面は、まず、貝殻条痕を横位に施し、次に縦位に間隔をおいて施している。245は断面三角形の突帯をもつ胴部片である。246は若干内湾する口縁部をもち、口縁部下に断面台形状の突帯を貼り付けるものである。その貼付状況は、横位を基本とするものの、不規則である。内外面共に貝殻条痕による器面調整がみられる。247は外傾する口縁部で、口縁部直下から、横走する五条の微隆起突帯をもつ。口唇部はフラットである。内外面共にナデによる調整を行っている。

③ 第VII c 類土器 (第42図 248~257)

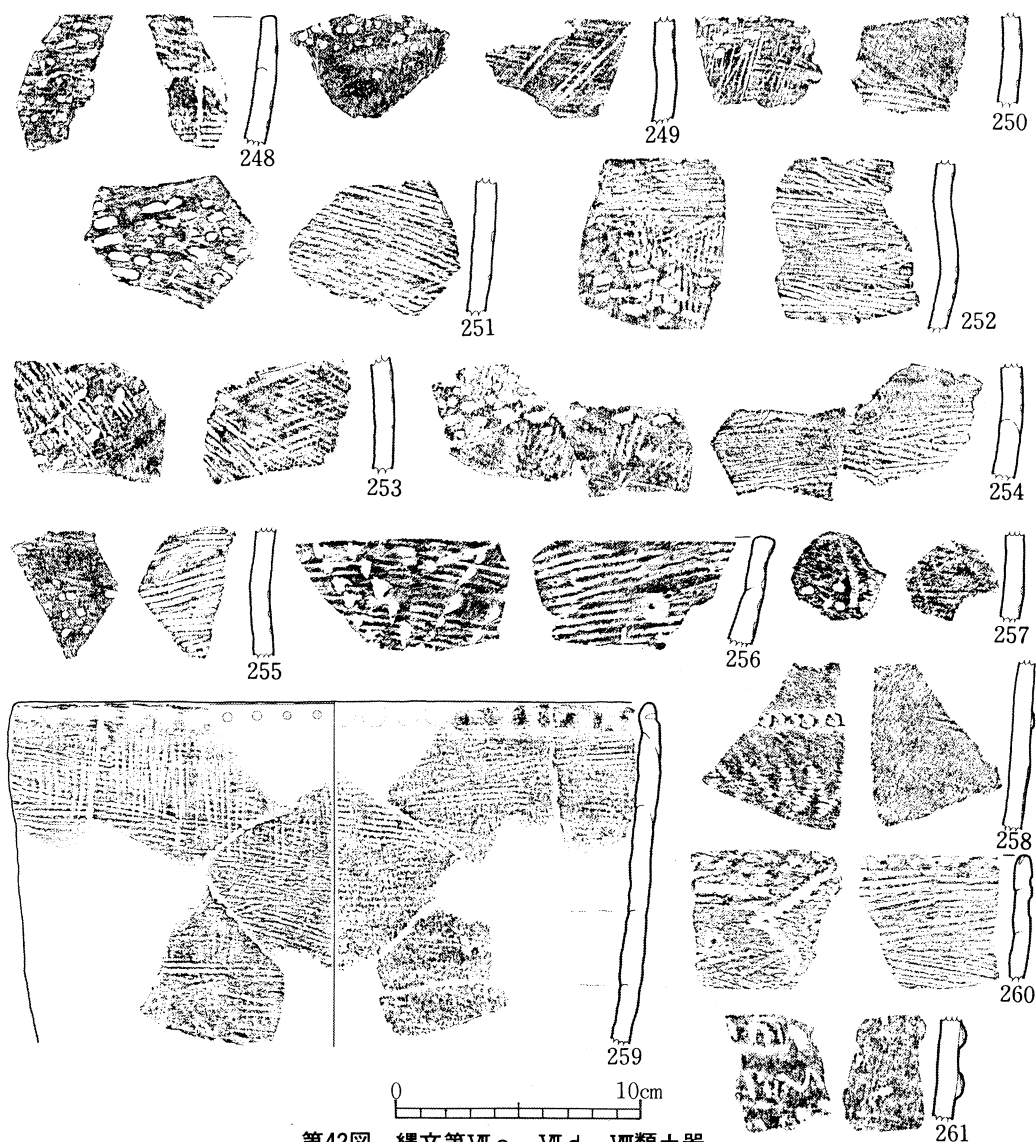
内外に貝殻条痕を残し、連点により文様を形成する土器の一群である。248~255・257は先端に丸みのある施文具で連点を施している。連点の形状は様々で、円形、楕円形のほか、短沈線のように引き延ばすものもある。出土した土器片からは、連点による文様がどのように展開していくのか、明確でない。248は若干外傾する口縁部である。口唇部は比較的フラットである。外面に短沈線様の連点と、円形の連点がみられるが、規則性は把握できない。内外面共に貝殻条痕を地文とするが、簡単なナデ調整を行っている。256は外傾する口縁部で内外面に貝殻条痕を施した後、簡単なナデ調整を行っている。文様は、口縁部下に先端が数個に分かれた鋭利な施文具(巻き貝?)による二条の連点文を鋸歯状に施文している。

④ 第VII d 類土器 (第42図 258)

貝殻腹縁による相交孤文をもつもので、258はその胴部片である。竹管状施文具による連続刺突文をもつ微隆帯の下位に、貝殻腹縁による相交孤文を施している。



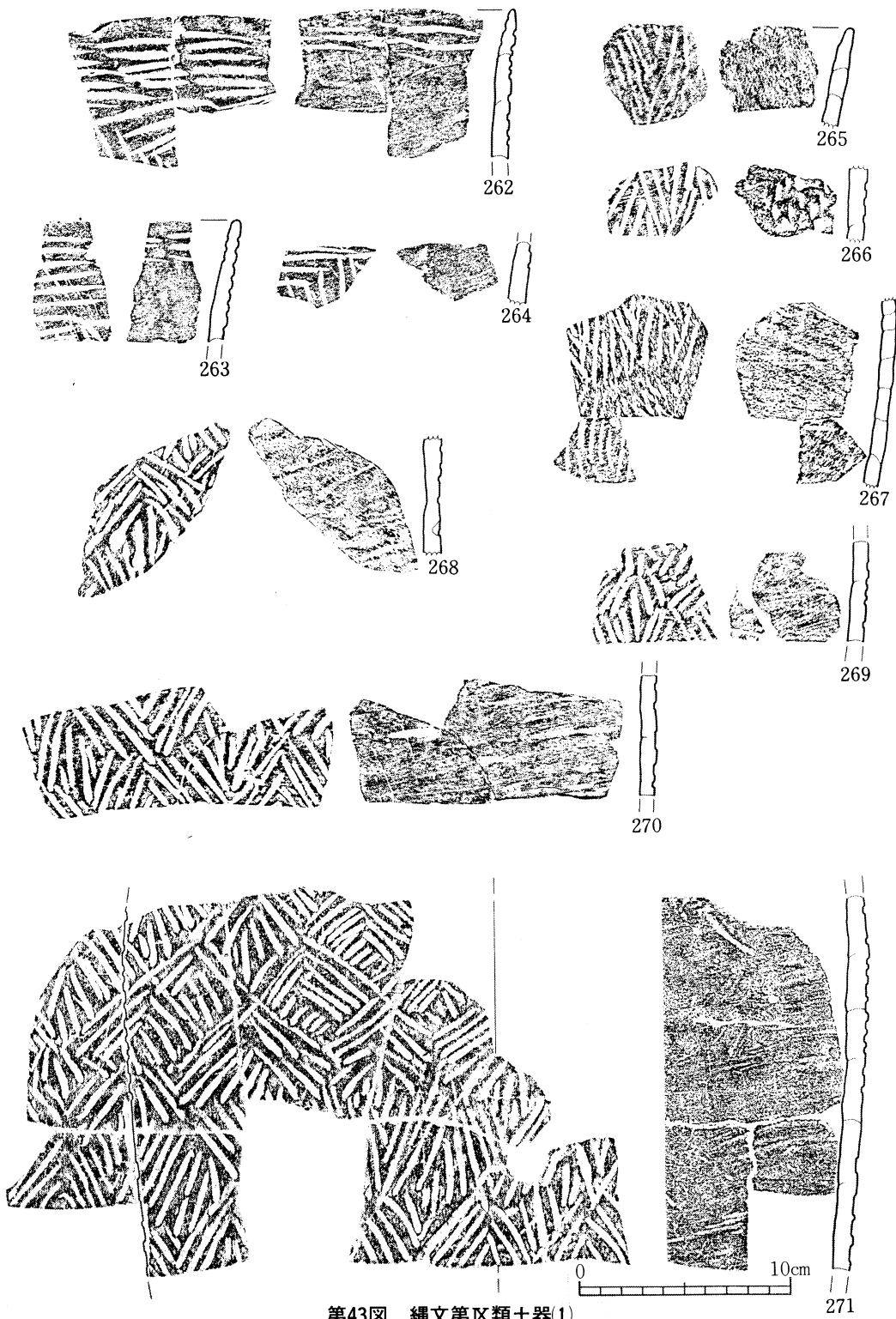
第41図 縄文第VIb類土器



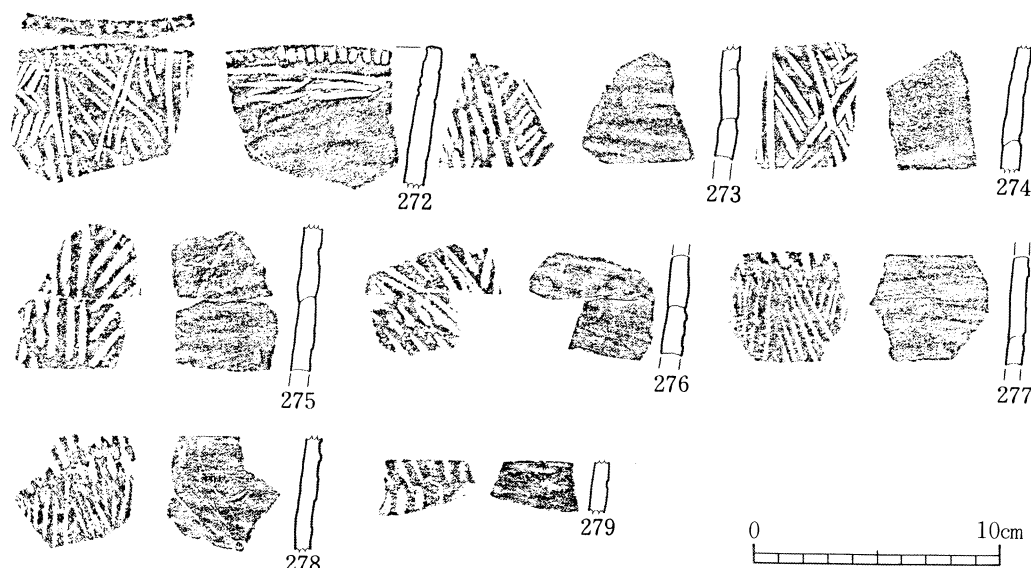
第42図 縄文第Ⅶc・Ⅶd・Ⅷ類土器

(8) 第Ⅷ類土器 (第42図 259～261)

第Ⅶ類土器とほぼ同時期と思われるものを一括した。259は復元口径26cmの土器で、外傾気味にたちあがり、口唇部付近でわずかに内傾するものである。内面は横位、外面は横位の後、縦位に貝殻条痕を施している。口縁部直下に、先端が細くて丸い施文具による横位の刺突連点文を一段施している。内面には刺突による凹凸が残されている。260は直行する口縁部で、内外面に貝殻条痕を施し、文様付近はナデ消している。文様は口縁部直下に横・斜位の押し引き文をもつ。斜走する方は「く」の字に屈曲しながら沈線様に変化する。口唇部は、ヘラ状施文具による連続刺突文を施す。261は、胴部片で二条の刻目突帯を有する。下位の突帯は途中で途切れ、ヘラ状施文具による波状の沈線となる。内面はヘラ削り状の整形を行っている。



第43図 縄文第Ⅱ区類土器(1)



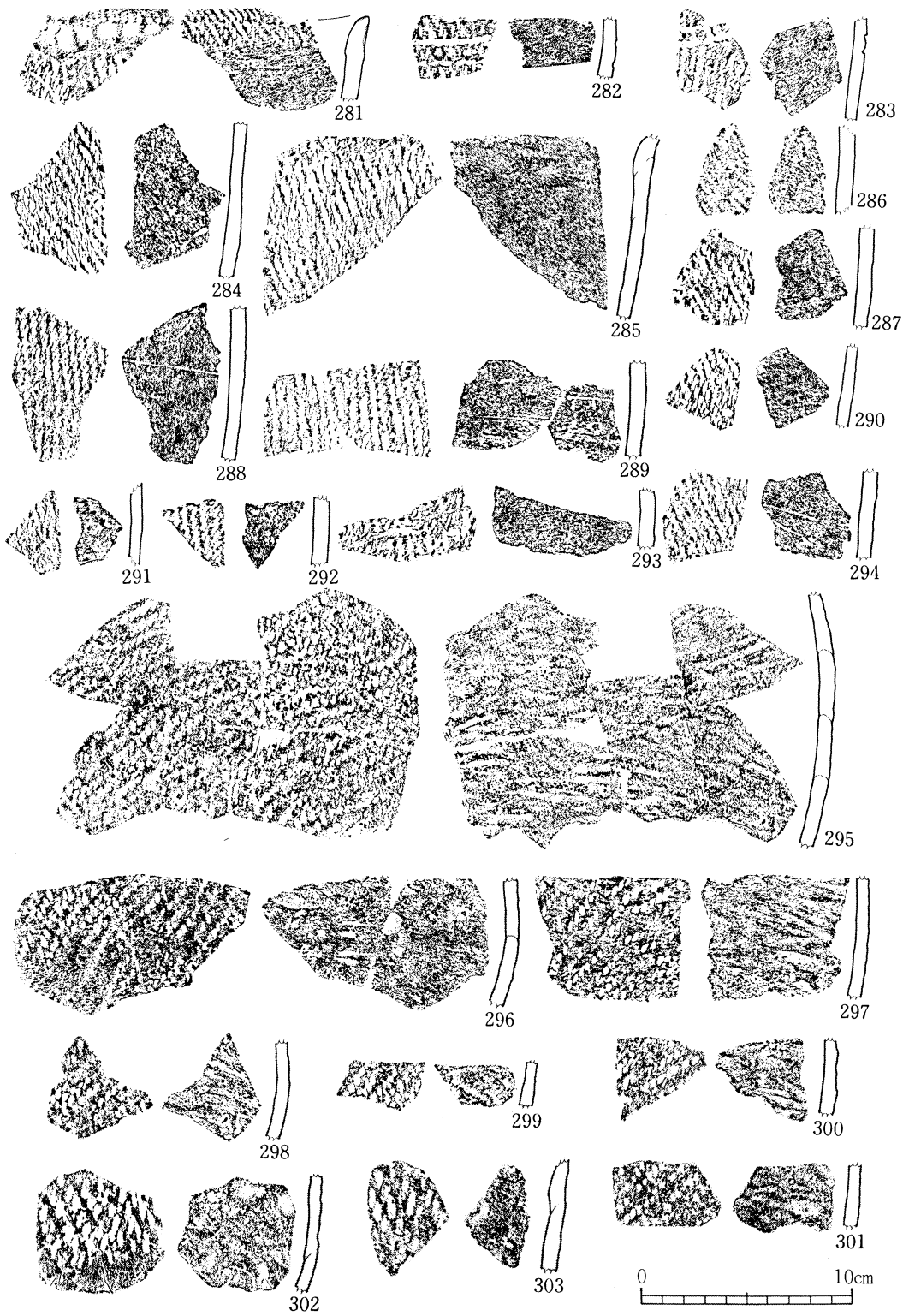
第44図 縄文第Ⅸ区類土器(2)

(9) 第Ⅸ区類土器 (第43図～第45図 262～280)

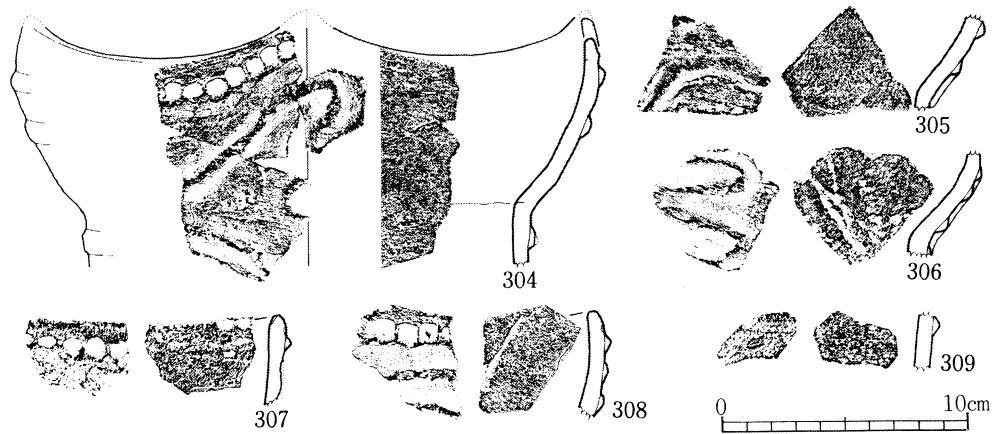
第Ⅸ区類土器は、わずかに外傾する口縁部から円筒状の胴部を経て丸底に終わる土器である。胴部外面には、先端にやや丸みのあるヘラ状施文具による短沈線の組合せ文様をほぼ全面に施している。また、口縁部内面にも短沈線を施すものもある。第Ⅶ層及び第Ⅷ層を中心に出土した。分布はC、D-2、3区に集中している。262～264は同一個体である。262はやや外傾する口縁部である。文様は口縁部下外面に横位の短沈線を五段施し、それ以下は「く」の字状に短沈線を施している。また口縁部内面にも短沈線を三段施している。胴部器壁は0.8cmで、口唇部付近になるとしだいに細くなり、口唇部は舌状を呈する。265～267も同一個体である。文様は口縁部直下から胴部にかけて浅い短沈線を綾杉状に施している。口唇部は舌状を呈する。267のように幅約1.5cmの粘土帯を小刻みに接合しているのが特徴である。268～271は同一個体と思われる胴部片である。短沈線による斜位の文様を組み合わせ、胴部全面を飾っている。268には、胴部外面に穿孔途中の穴がみられる。補修孔であろう。272～280は同一個体と思われるもので、第45図のように接合するもののみで完形に復元できた。口径23.2cm、器高29.8cmの深鉢で、やや外反する口縁部からわずかに膨らむ胴部をへて丸底となる器形である。胴部文様は、先端にやや丸みのあるヘラ状施文具による短沈線文の組み合わせであり、まず三本単位の短沈線を縦位に連続して施すことにより区画をつくり、その区画内に短沈線による羽状文、「X」字状文等を施している。底部に近づくにつれ区画は乱れ、沈線も細くなる。底部は二本単位の短沈線で二ないし四分劃し、空隙をさらに短沈線でうめている。口縁部内面にも横位の連点文、三本単位の平行短沈線文を施している。またフラットな口唇部には連続刺突文がみられる。器壁は0.8cm前後でほぼ均一である。第Ⅸ区類土器全般に、粘土の接合部からの剥落が目立つ。また内面も丁寧なナデ調整が一般的である。



第45図 縄文第Ⅱ区類土器(3)



第46図 縄文第Xa類土器



第47図 縄文第X b類土器

(10) 第X類土器 (第46図・第47図 281～309)

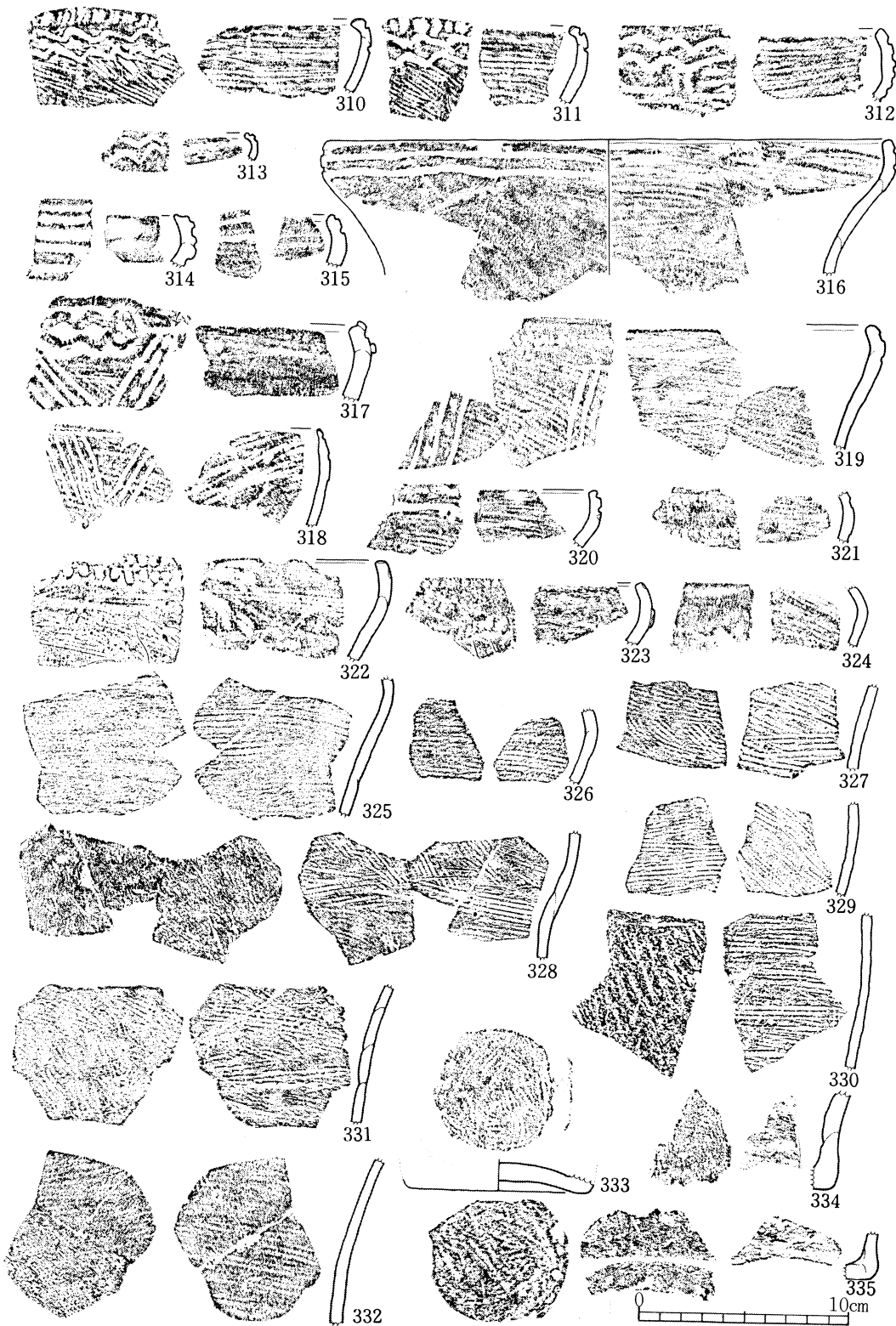
第X類土器は器面に縄文を施すものと、キャリパー状の器形を有し、突帯を文様化して器面に貼り付けるものである。前者をa類、後者をb類と細分した。

① 第X a類土器 (第46図 281～303)

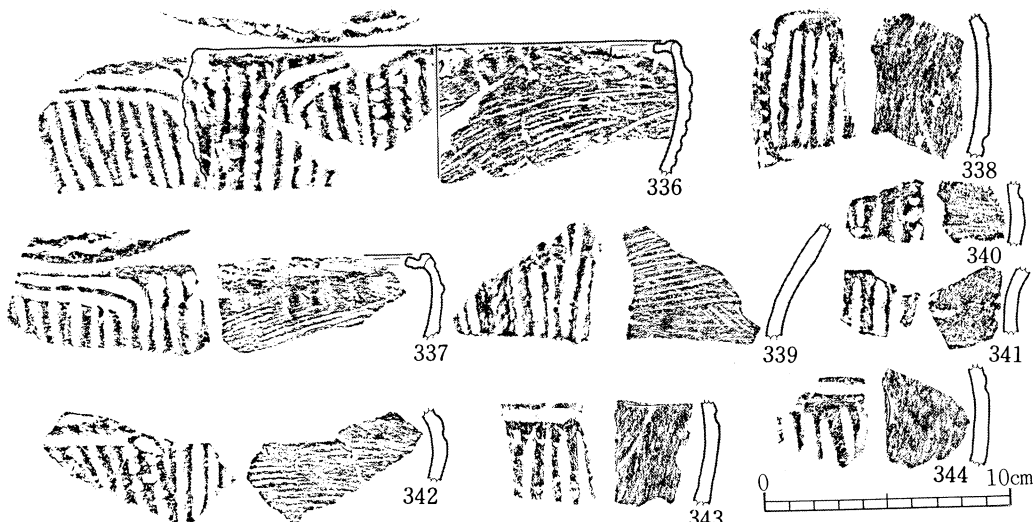
第Xa類は器面に縄文を施すもので、D-5, 6区の第Ⅶ, Ⅷ層を中心に出土した。281～294は粗く硬い繊維によるRLの縄文原体を回転押捺したものである。281はやや外傾し、波状を呈する口縁部片である。口唇部は断面三角形状を呈し、爪形の刻みをもつ。外面はまず口縁部直下に先端のなめらかな施文具で連続刺突文を一段、次に二枚貝の背部による連続押圧文を一段、それぞれ横位に施している。下位には粗い縄文を施しているが、先端の鋭い施文具による連続刺突文もみられる。また口縁部内面にも段状に縄文帯をもうけている。282の胴部には先端の鋭い施文具による連続刺突文を平行して施している。283は縄文地に半載竹管状の施文具で爪形状の連続押圧文を施している。これらの土器は一般的に白色系の砂の粒子を多く含み、ナデ整形による粒子の移動を観察できる。295～301はすべて胴部片でLRの縄文を施している。角セン石を多く含む特徴をもつ。302・303はRLの縄文をもつ胴部片である。

② 第X b類土器 (第47図 304～309)

断面略三角形の突帯を有するものである。C, D-2, 3区の第Ⅶ, Ⅷ層を中心に出土した。304はキャリパー状の口縁部から屈曲する頸部まで推定復元したものである。口径約23cmで、四隅に山をもつ波状口縁を呈すると思われる。やや丸みをもつ口唇部から外面へ約1.5cm下位に突帯をもうけ、その間にあたかも突帯の接着を補強するかのように、二枚貝の背部による連続押圧文を施している。口縁部から頸部まではナデ整形の無地に断面略三角形の突帯を貼り付け、波状口縁の頂部をピークとする曲線文様を形成している。突帯は頸部以下に延びる部分もあるが、胴部が縄文地になるかどうかも含めて詳細は不明である。307の口縁部のように、二枚貝の背部による押圧を内面に施す部分もある。a類同様、胎土に白色系の粒子が目立つが、金雲母も極く少量ではあるが観察される。内面は比較的丁寧なナデ調整で平滑である。



第48図 縄文第X I a類土器



第49図 縄文第XI b類土器

(II) 第XI類土器 (第48図・第49図 310~344)

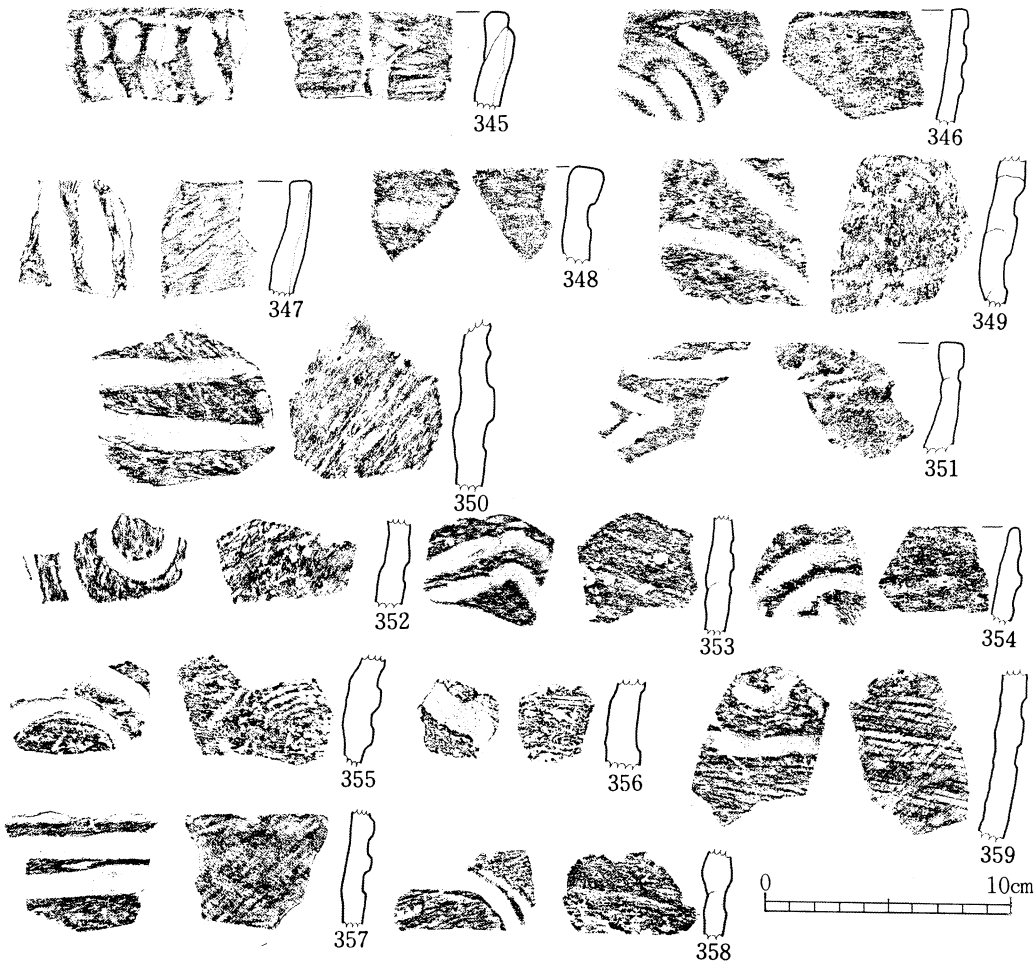
第XI類土器は、キャリパー状の器形をもち、貝殻条痕で器面調整を行っている土器である。胎土に滑石を含まないものをa類、含むものをb類とした。

① 第XIa類土器 (第48図 310~335)

310~324は、キャリパー状に内湾する口縁部及びその付近である。これらは細沈線文だけのもの(310~316・318)、細沈線文と連点文のもの(317・319・320)、連点文だけのもの(321・322)、突帯をもつもの(317・323)、無文のもの(324)などに細分できるが、部分的に施される文様もあり、小片では詳細不明である。文様帯は口縁部上位に集約されているのが一般的であるが、317~319のように細沈線及び連点による文様を下位まで鋸歯状に施すものもある。また310・311・322のように口唇部に刻みを有するものもある。325~332は胴部片、333~335は底部片である。底部は333のように、わずかに上げ底となる。内外面に浅い貝殻条痕を残し、器壁は0.5cm前後と非常に薄いのが一般的な特徴である。C、D-2~4区の第VII、VIII層を中心に出土した。

② 第XIb類土器 (第49図 336~344)

a類同様、キャリパー状の器形をもつ土器であるが、滑石を多量に含んでいる。また沈線の幅も大きく、文様帯も広い。336は復元口径19.8cmを測る土器で、キャリパー状の口縁部をもち、口唇部は「フ」の字に屈曲する。「フ」の字の上面には刺突連点文を施す。文様は、まず口縁端部から下位に延びる二列の連続刺突文を数ヶ所施し、その空隙をうめるように縦位の沈線文を施す。さらに口縁部下に二条の平行沈線文を施している。ただしこの平行沈線文は、二列の連続刺突文の部分では刺突文にそって緩やかにカーブして下位にのびている。地文に浅い貝殻条痕をもつ点は、a類と同じである。D-4区、第VIII層を中心に出土した。すべて同一個体と思われる。



第50図 縄文第XⅡ類土器

(12) 第Ⅱ類土器 (第50図 345～359)

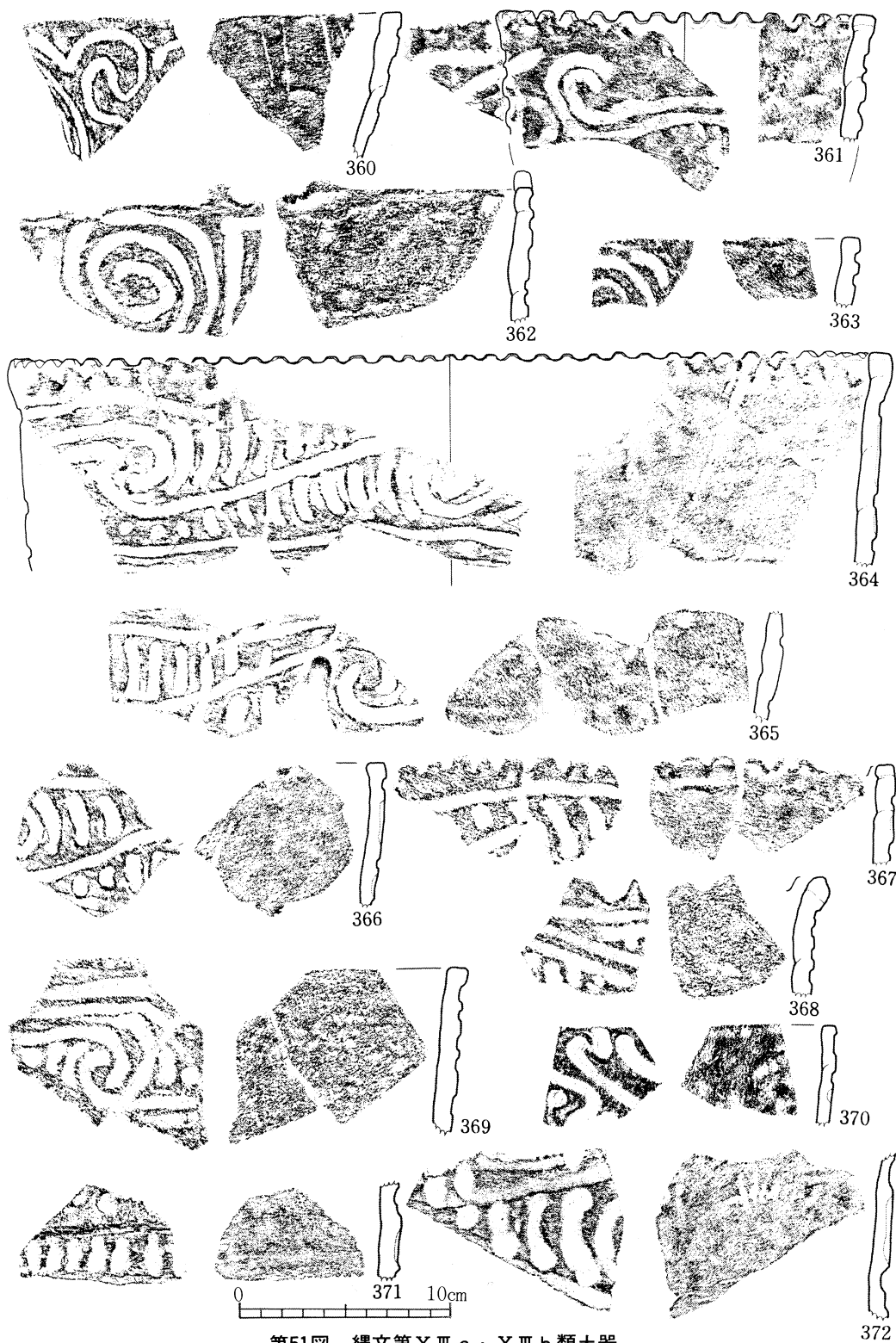
第Ⅱ類土器は、太形凹線による文様をもつもので、その文様は胴部まで及んでいる。器面をナデ整形している a 類と、貝殻条痕を残す b 類に細分した。

① 第Ⅱ a 類土器 (345～354)

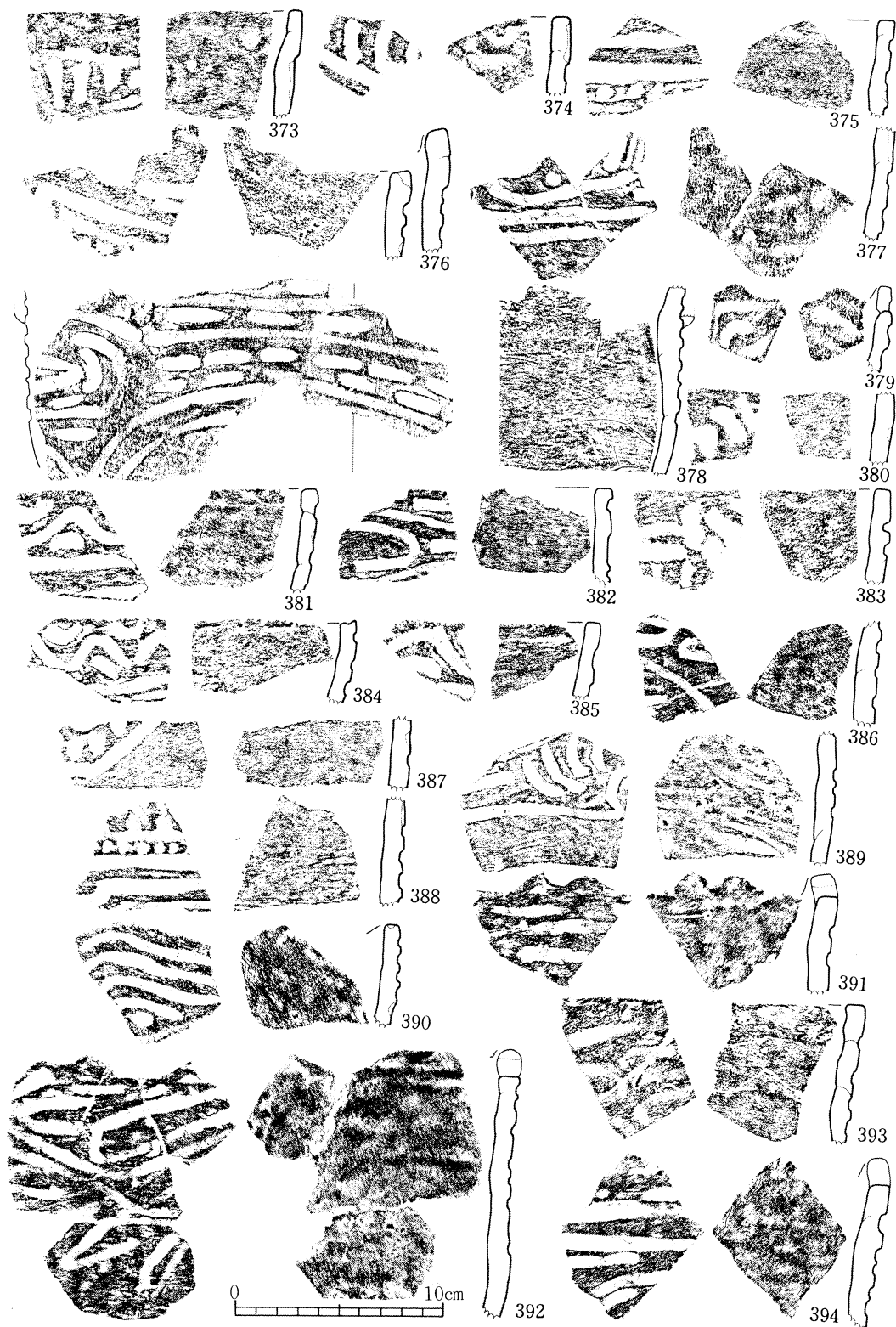
345はやや外傾する口縁部片で、フラットな口唇部をもつ。口唇部粘土帯は内傾する接合状況を示すが、外面の接合部にそって指頭状の押圧痕を有し補強している。さらにその押圧痕から下位に太形凹線文を施している。346～348もやや外傾する口縁部である。フラットな口唇部をもち、外面に太形凹線文を施している。B、C-2、3区の第Ⅶ、Ⅷ層を中心に出土した。

② 第Ⅱ b 類土器 (355～359)

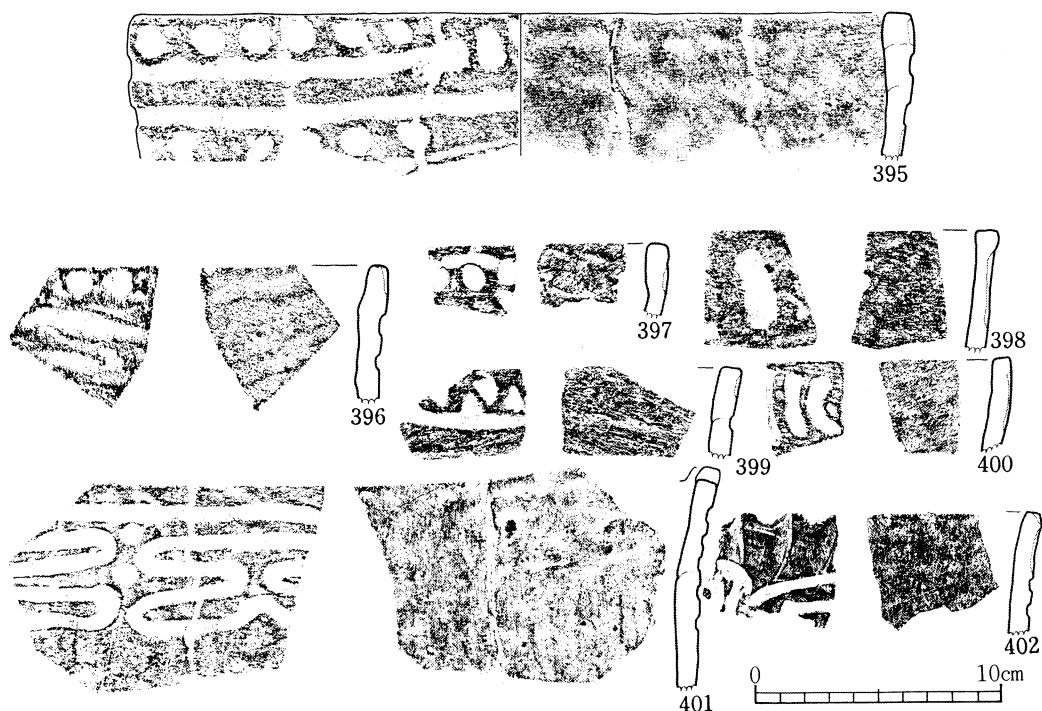
地文に貝殻条痕を残し、外面に太形凹線文を施す胴部片である。357のように施文による膨らみを内面に残すものもある。B、C-2、3区の第Ⅶ、Ⅷ層を中心に出土した。



第51図 縄文第XIII a・XIII b類土器



第52図 縄文第XⅢb類土器



第53図 縄文第XⅢc類土器

(13) 第ⅩⅢ類土器 (第51図～第54図 360～405)

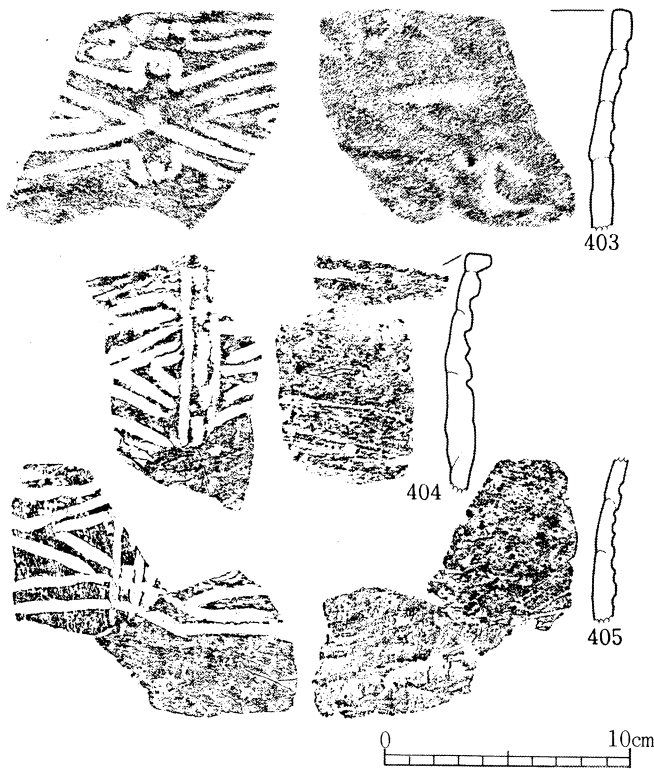
第ⅩⅢ類土器は、口縁部下を凹線、あるいは凹線と凹点によって飾る土器の一群である。凹線のみをa類、凹線と凹点の組み合わせで曲線文を主体とするb類、比較的整然とした凹線と凹点で文様をつくるc類、縦位の凹点を中心に文様を展開させるd類に細分した。

① 第ⅩⅢa類土器 (第51図 360～363)

ほぼ直行する口縁部をもち、口縁部下に凹線による曲線文を施すものである。360は複雑な曲線文によって胴部まで文様を施している。361の口唇部は断面円形の棒状施文具で連続して凹凸をつくり波状をなしている。362は口縁直下に渦巻文を施している。器面はすべてナデ整形である。B, C-2, 3区の第Ⅶ, Ⅷ層からの出土である。

② 第ⅩⅢb類土器 (第51図～第52図 364～394)

直行及びやや外傾する口縁部をもち、口縁部下に凹線と凹点の組み合わせによる文様を施すものである。364は復元口径41.8cmの土器で口唇部は凹凸をもち波状を呈す。鉤手状の繋ぎ文と短凹線で文様を構成している。365～367は364と同一個体である。368～372も同様な文様をもつ。372は指頭太形凹線、及び短凹線による文様をもつ。短凹線の始点と終点は強く押圧してアクセントをつけている。373～375口縁部下に凹線と凹点を組み合わせて施文している。376は口唇部に瘤状の隆起部をもち、凹線と凹点を施文している。378は胴部片であるが、口縁部付近と思われる。直線及び曲線間に短凹線を連続して横位に施すものである。また口縁部直下に瘤状突起痕が観察される。381～385はやや外傾する口縁部でフラットな口唇部をもつ。381・



第54図 縄文第ⅢⅠd類土器

384・385は口縁部下に波状の凹線と勾玉状の凹点を施文している。390は山形の口縁部下に四条の波状凹線を施し円形の凹点と組み合わせている。フラットな口唇部にはヘラ状施文具で連続刺突を施している。

391・392は同一個体と思われるもので、直行する口縁部をもつ。口唇部には部分的に二条から三条の波状隆起部をもつ。隆起部はやや内湾気味に接合している。口縁部下の文様帯は比較的広く、横に展開する蕨手文状の文様を施しているが、凹線は浅く、やや雑然としている。b類は、内外面ともナデ整形を行い、B-3区第Ⅶ、Ⅷ層を中心に出土した。

③ 第Ⅱc類土器 (第53図 395~402)

比較的整然とした凹線と凹点で文様を構成するものである。395は復元口径31.8cmを測る土器で、直行する口縁部をもつ。口唇部はフラットで器壁1.8cmと厚く、胴部になるとしだいに薄くなっている。文様は口縁下に二条の太形凹線を横位に施文、さらにその上下に円形の凹点を連続して施している。396~400は口縁部直下に円形凹点、太形凹点を施している。401はやや外傾する口縁部をもち、直曲線と凹点で左右対象となるとされる文様を構成している。402の口縁直下には「ノ」の字を呈する浅い凹点がみられる。c類は、内外面ともナデによる器面調整を行い、B、C-3区の第Ⅷ層を中心に出土した。

④ 第Ⅱd類土器 (第54図 403~405)

d類は、縦位の凹点を中心に文様を展開させるものである。403はやや外傾する口縁部をもち、縦位の凹点四個を軸にして、左右対象に三角文を施すものである。内面には幅2cm前後の粘土帯の接合部が明瞭に観察される。404・405は同一個体である。やや外傾する口縁部をもち、文様は断面円形の棒状施文具で縦位の凹点を六個、さらに左右に縦位の凹線を施す文様部を軸にして、左右対象に三角文を展開させている。胎土に砂礫を多く含み、内面の器面調整も雑で粘土帯の接合部が明瞭であるが、焼成は良好である。402はD-4、403・404はB-2区のそれぞれ第Ⅷ層から出土した。

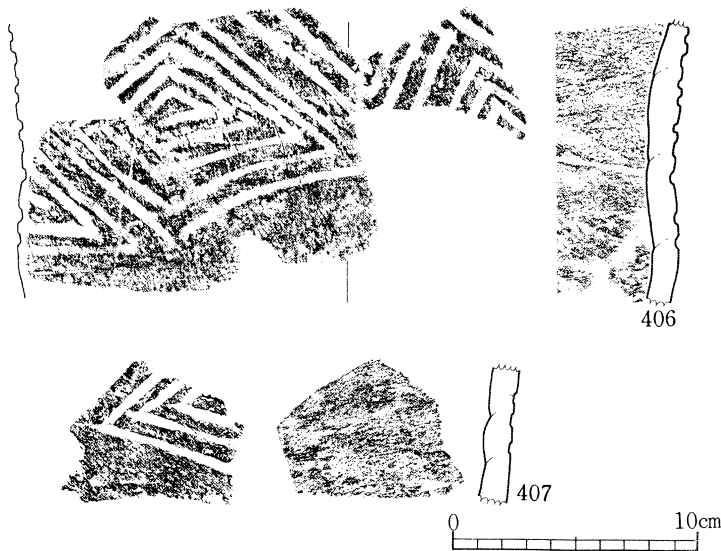
(14) 第XIV類土器 (第55図・第56図 406~425)

第XIV類土器は、口縁部下に沈線による直曲線文、三角文等の文様を施すものである。第XIII類土器に比べ、凹線の幅がやや狭い。文様帯も狭くなる傾向がある。406・407は同一個体である。胴部のみ出土であるが、406などは口縁部に近い部分と思われる。文様は多重の菱形文を横位に展開するものである。胎土に金雲母を多く含んでいる。整形は雑で粘土帯の接合状況を観察することができる。器壁は1.1cm前後と比較的厚い。408は復元口径24cmの土器で、やや外傾する口縁部をもつ。文様は口縁直下に二条の平行沈線を施し、それ以下を三角文状の文様で飾っている。408~412は同一個体と思われる。411のように口唇部に山形隆起部をもつ部分もある。413~425も同様な文様をもつものである。413~416・422・425のようにフラットな口唇部をもつものと、421のように口唇部に連続押圧を施し、波状口縁を呈しているものもある。また、425の口唇部には、貝殻腹縁による連続刺突文がみられる。内外面ともナデ調整を行っている。B、C-2、3区第Ⅶ層を中心に出土した。

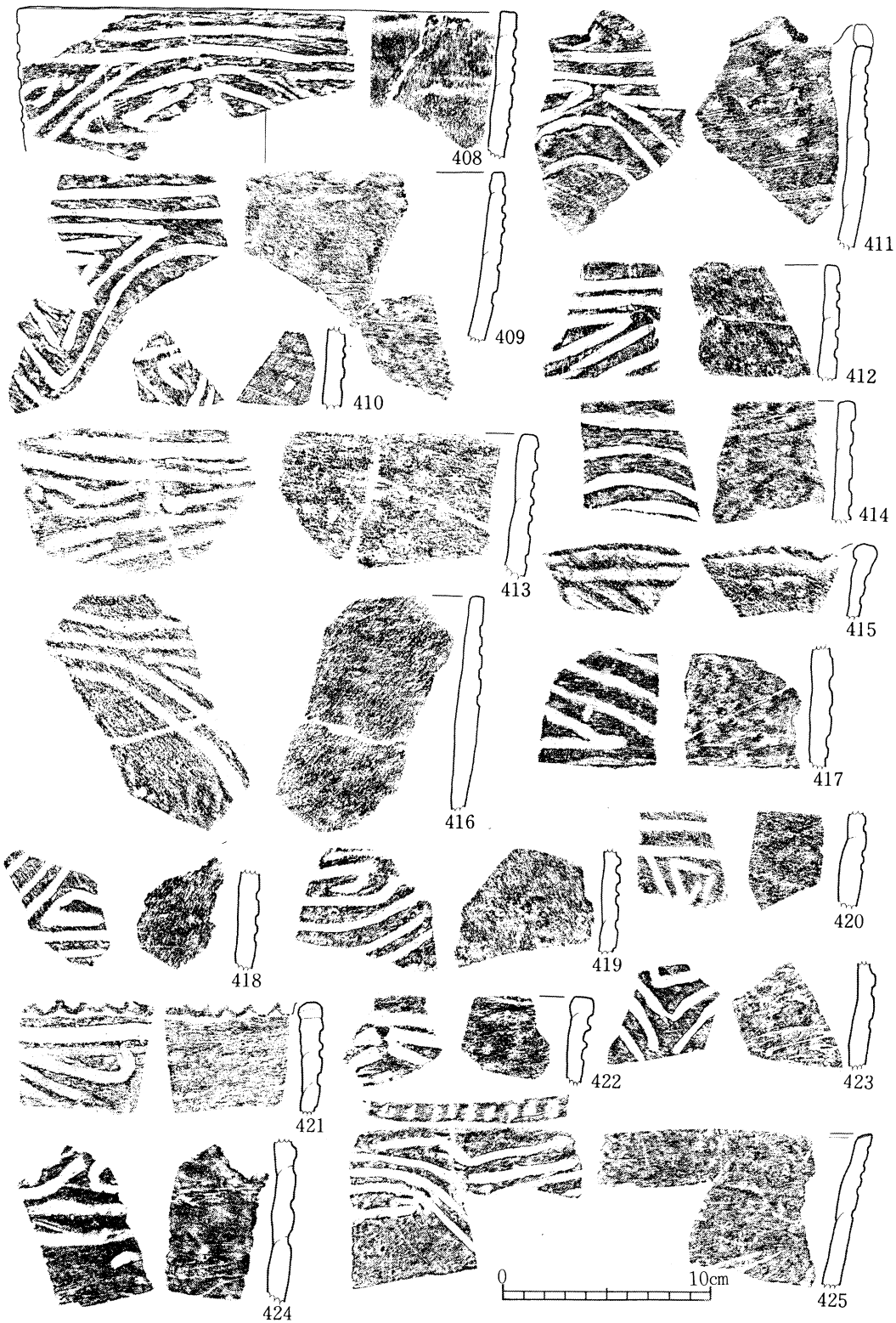
(15) 第XV類土器 (第57図 426~435)

第XV類土器は、直線文を主体とする文様を施すものである。文様帯は、口縁部下に集約されている。426は復元口径33.4cmを測る土器で、やや内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。口唇部はフラットで口縁部内湾の結果、内側に稜を有する。文様は、連続する「己」の字状の文様を口縁部下に施している。内外面とも横方向のナデ調整を行っているが、内面には、粘土の接合部を明瞭に残す部分もある。器壁は口唇部から胴部まで約0.8cmとほぼ均一である。427も同一個体である。428はやや外傾する口縁部であるが、凹凸による波状口縁を呈すると思われる口唇部の凸部が欠落している。また口縁端部が同じレベルで欠落していることは、粘土の接合部剥落によるものであろう。文様は、長靴形の沈線文を観察することができるが、全体の展開

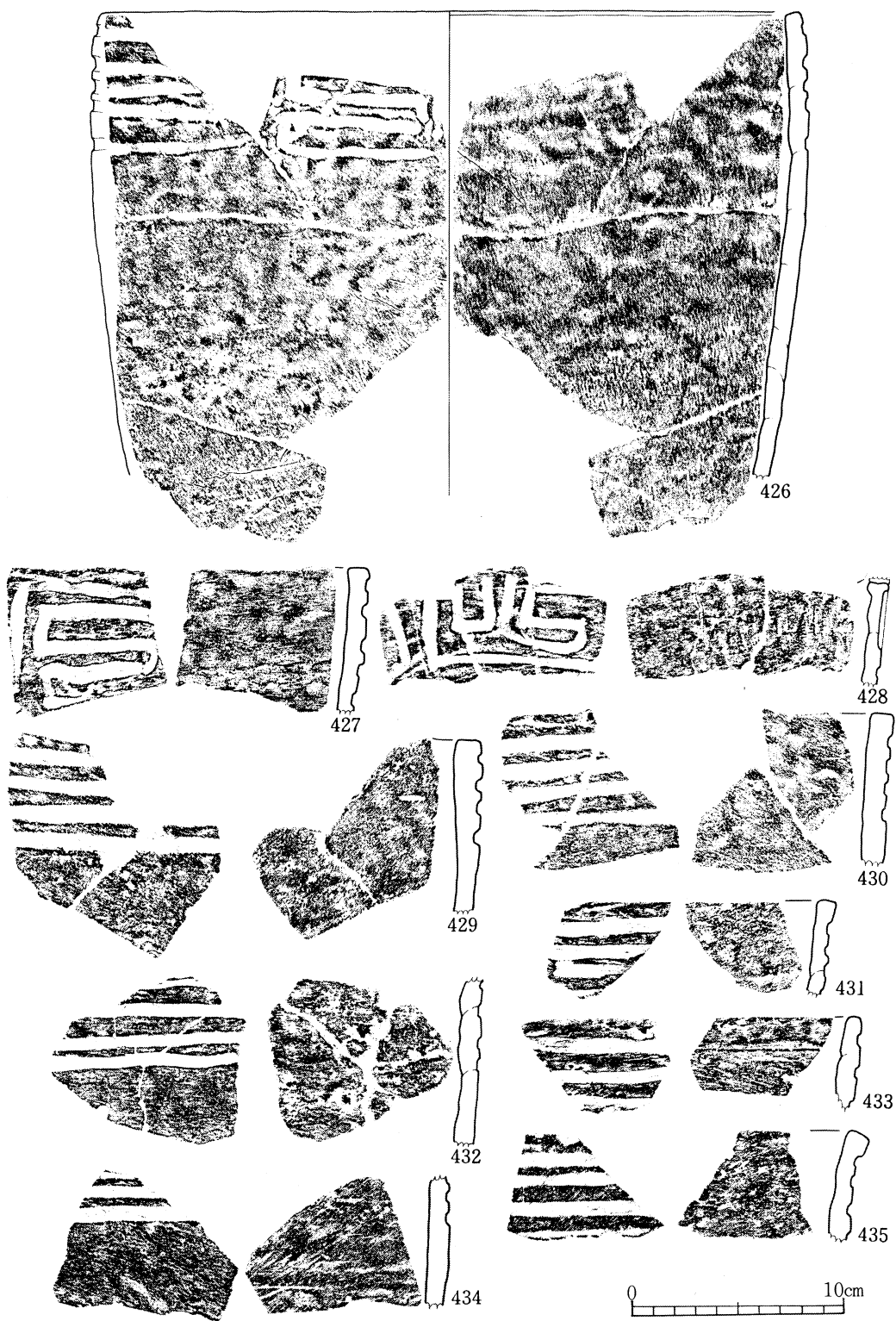
がどのようになるか是不明である。429~435は口縁部下に数条の沈線を横位に施すものであるが、426のような文様展開をもつ土器の一部である可能性もある。直行、あるいはやや外傾する程度の口縁部をもち、口唇部はフラットである。内外面ともナデ調整による整形が顕著である。B、C-2、3区第Ⅶ層を中心に出土した。



第55図 縄文第XIV類土器(1)



第56図 縄文第XIV類土器(2)



第57図 縄文第XV類土器

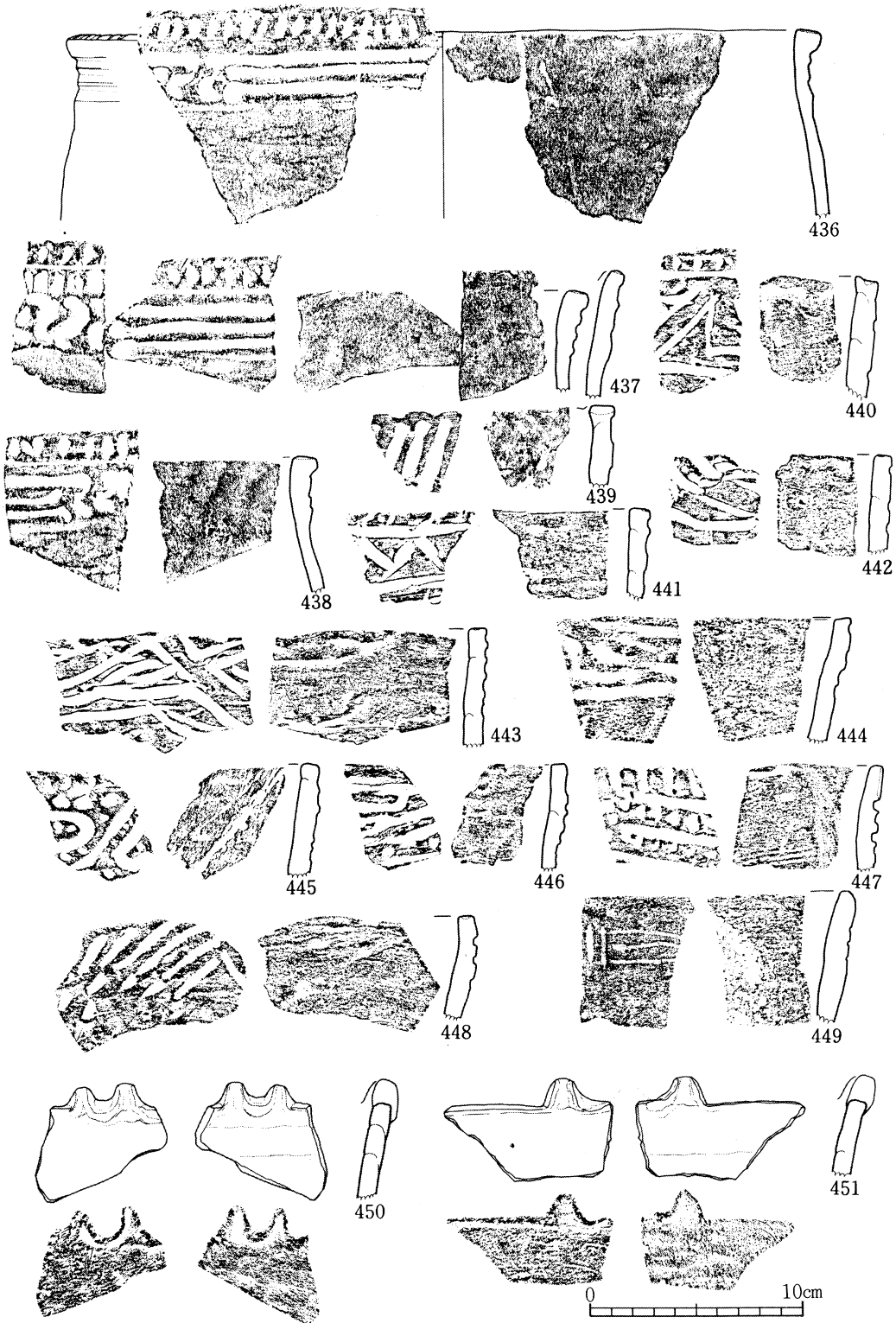
(16) 第XVI類土器 (第58図 436~439)

第XVI類土器は、若干肥厚する口縁部をもち、その肥厚帯に文様を施す土器である。

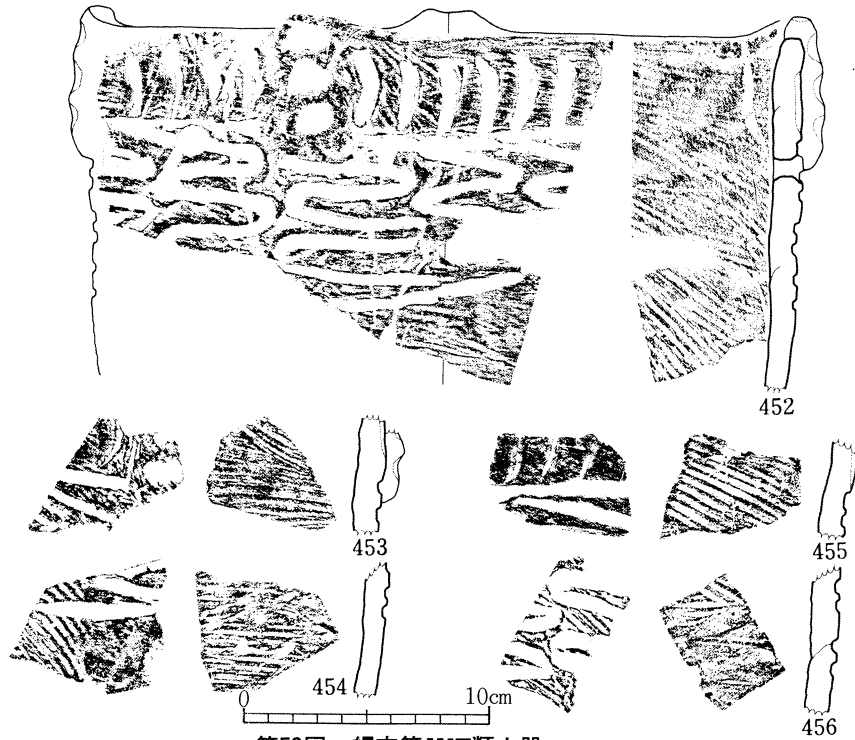
436は復元口径35.8cmを測る土器である。器形は、若干内傾気味に立ち上がり、口縁部肥厚帯はやや外傾する。口唇部はフラットで、ヘラ状施文具により連続刺突文を施している。文様は、口縁部下に、逆「S」字文を二列施し、断面に角のあるヘラ状施文具による三条の凹線を左右に施している。胴部外面は、丁寧なヘラ磨きを行い、光沢がある。内面も丁寧なナデ整形を行い、平滑である。437・438も同一個体と思われるが、437は口唇部が隆起して、同時に文様もピークとなっている。隆起部下に逆「S」字文を三列施し、さらに口唇部との空隙をヘラ状施文具による横位の刺突連点文でうめている。439はほぼ直行する口縁部片で、口唇部に断面円形の棒状施文具で刻みを施し、波状口縁を呈している。口縁部下には口唇部と同じ施文具で、斜位の凹線を三条以上施している。B-3区第VII層を中心に出土した。

(17) 第XVII類土器 (第58図 440~451)

第XVII類土器は、第XVI類土器と同様、口縁部を若干肥厚させ、そこを文様帯としているが、凹線の幅がやや狭く、かつ文様も短沈線、凹点等の組み合わせとなる。440はやや外傾する口縁部片である。口唇部はフラットで先端の鋭いヘラ状施文具で連続刺突文を施す。口縁部下には口唇部と同じ施文具による短沈線を繋いで文様を施している。441は直行する口縁部片である。口縁端部には貝殻腹縁状施文具による連続刺突文を施す。文様は横位の沈線と鋸歯状に施す短沈線との組み合わせである。442の口縁部片も横位の沈線と短沈線の組み合わせで、文様を構成している。フラットな口唇部には浅い連続刺突文を有する。443も同一個体と思われる。内外面ともナデによる調整を行ってはいないものの、内面には粘土の接合部を明瞭に残している。444は外傾する口縁部片である。フラットな口唇部はやや内傾して内側に稜をもつ。文様は沈線と短沈線の組み合わせである。445は若干外傾する口縁部片で、フラットな口唇部には断面円形の棒状施文具で連続刺突文を施している。文様はまず口縁直下に口唇部と同じ施文具で二段の連続刺突文を施している。上段と下段は施文具をそれぞれ逆にして刺突を行っている。446はほぼ直行する口縁部片で、フラットな口唇部をもつ。文様は横位を基本とする沈線と、凹点との組み合わせで構成している。447は若干外反する口縁部片である。口唇部はやや丸みをもつ。文様はまず口縁直下に縦位の短沈線を巡らし、それ以下を半載竹管状施文具による深い沈線及び連続刺突文で飾っている。448は若干内湾しながら外傾する口縁部片で、半載竹管状施文具により連続刺突文の施されたフラットな口唇部をもつ。口縁部下に短沈線+凹点を一セットとする文様を斜位に連続して施している。449は若干外傾する口縁部片で、丸みのある口唇部をもつ。文様は口唇部よりやや下に、縦位の細沈線を二条、横位の細沈線を三条施している。他の土器に比べ、沈線が幅0.2cmと極端に細いのが特徴である。450・451は第XVII類土器の無文土器の思われるものである。フラットな口唇部には、数ヶ所の山形隆起部をもうけている。隆起部は中央を指頭で押圧し、波状を呈している。B~D-2, 3区の第VII, VIII層を中心に出土した。



第58図 縄文第XVI・XVII類土器



第59図 縄文第XⅧ類土器

(18) 第XⅧ類土器 (第59図 452～456)

第XⅧ類土器は、内外面に貝殻条痕を強く残し、凹点及び沈線文で文様を構成する土器である。452は復元口径29.8cmを測るもので、ほぼ直行する口縁部をもつ。口唇部はフラットであるが、山形隆起部を形成する瘤状突起の部分のみ凹点を施している。瘤状突起は、幅4cm弱、長さ6cm強で、口唇部から下位に伸びる縦長のものである。この部分の器壁は2.2cmにも達する。突起部には円形の凹点を縦位に三点施している。文様は、まず口縁部下に縦位の短沈線状凹点を巡らし、瘤状突起とともに第一文様帯を形成する。次にその直下に横位の沈線を施し、さらに第二文様帯には、間延びした蛇行曲線（S字状）を施文し、胴部を飾っている。内外面とも貝殻条痕を強く残し、器壁は約1cmと分厚い。第一文様帯下には両面穿孔の補修孔がみられる。453～456は胴部片である。いずれも内外面に貝殻条痕を強く残している。453は瘤状突起部である。B-3, D-2区第Ⅶ層を中心に出土した。

(19) 第XⅨ類土器 (第60図～第64図 457～556)

第XⅨ類土器は、直線文、曲線文、及び凹点文、刺突文等を組み合わせて文様を構成する土器の一群である。沈線の形態を主に次のように細分した。

- a類 口縁部下凹点文、刺突文 + 直・曲線文
- b類 口唇部凹点文、刺突文 + 直・曲線文 凹点文、刺突文は無いが同様な直・曲線文
- c類 口縁部下凹点文、刺突文 + 直線文
- d類 口唇部凹点文、刺突文 + 直線文 凹点文、刺突文は無いが同様な直線文

① 第X区a類土器 (第60図 457~470)

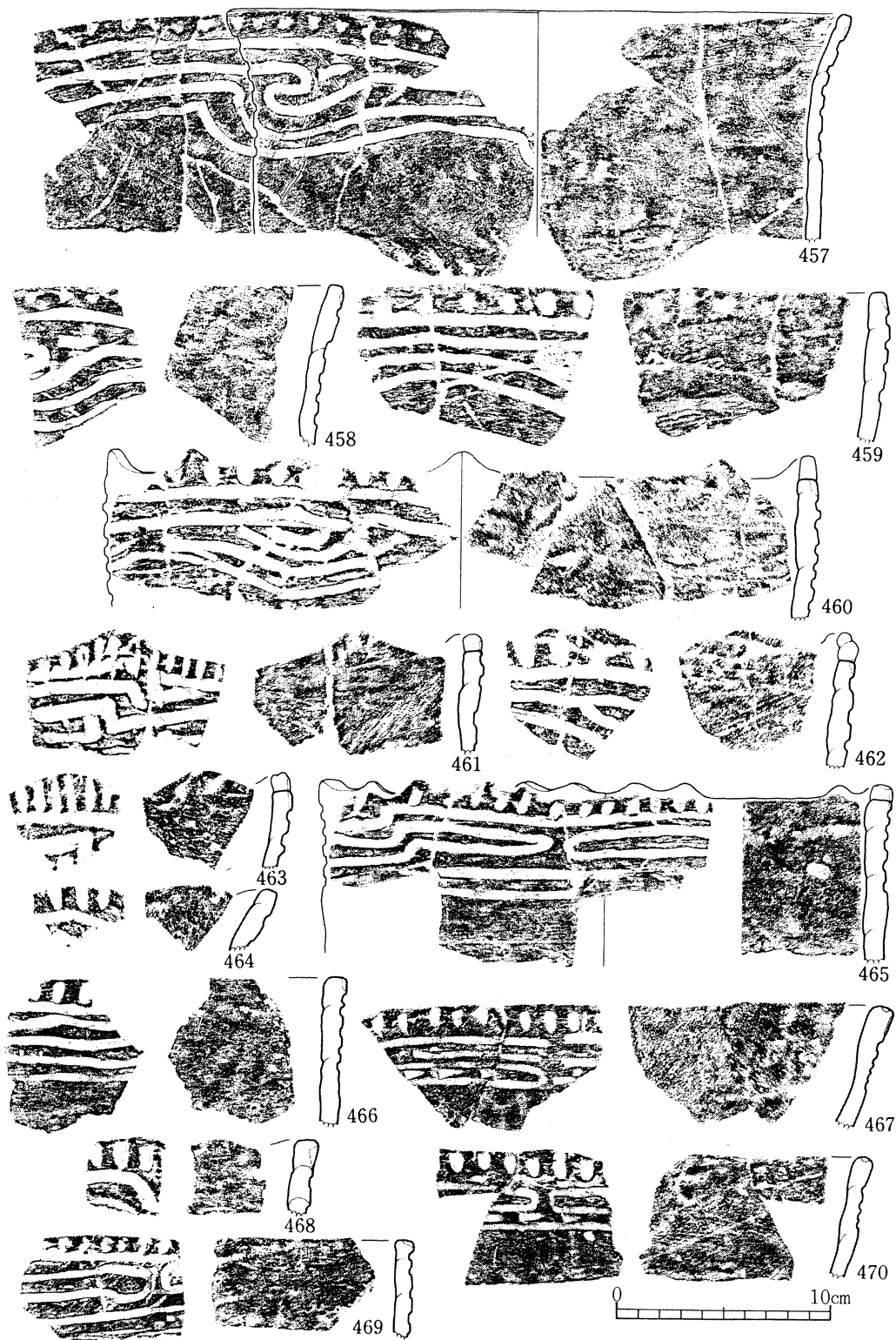
a類は、口縁部下に凹点文あるいは刺突文をもち、胴部に直線及び曲線の文様を施すものである。

457は復元口径29.2cmを測る土器で、外反する口縁部をもつ。口縁部下には半載竹管状の施文具で、横位の連続刺突文を一段施している。また下位に横位の一条沈線、さらに入組文をなす沈線により鉤手状の文様を生みだしている。器壁は0.5~0.7cmと比較的薄い。458も同一個体である。459は若干外傾する口縁部である。口縁部下に半載竹管状の施文具により横位の連続刺突文を施し、下位に四条の横位の沈線を施している。上二条は直線、下二条は下方へ湾曲する曲線である。460も同一個体と思われる。口径は推定33.4cmである。459の文様とは逆に下二条の沈線は上方に湾曲し、さらに上二条の沈線との空隙を二本の短沈線でうめている。短沈線の始点、終点は、強く押圧してアクセントをつけている。また、口唇部には部分的に山形隆起部をもうけている。461はほぼ直行する口縁部をもつ。口縁部下に断面三角形のヘラ状施文具で連続刺突文を施し、下位の沈線は鉤手状の文様をなしている。またフラットな口唇部は一部隆起し、ねじりを加えた粘土紐を貼り付けている。同様な貼付文は、462・463にもみられる。465は復元口径26.8cmの土器で、ほぼ直行する口縁部をもつ。口唇部はフラットであるが、四つの山をもつ波状口縁部を四ヶ所もつと思われる。口縁部直下に断面円形の棒状施文具で連続刺突文を施し、下位には横位の直・曲線を施している。内面はナデによる整形を行ってはいないが、粘土帯の接合部が明瞭な部分もある。466は五条の平行沈線であるが、465と同様な展開をなすと思われる。467は外傾する口縁部である。口縁部下に半載竹管状の施文具で横位の刺突連点文を施している。下位には沈線と刺突の組み合わせ文様をもつ。土器片二点による接合資料であるが、外面の色調が黒色と明茶褐色と極端に違っている。黒色のほうはスス状の付着物がある。二次的に加熱を受けたものかも知れない。なおこの土器は口唇部にも半載竹管状の施文具による連続刺突文を施している。470も同一個体と思われる。468・469はそれぞれ外傾、直行する口縁部で、口縁部下の連続刺突文と直・曲線で文様を構成している。B、C-2、3区の第Ⅶ、Ⅷ層を中心に出土した。

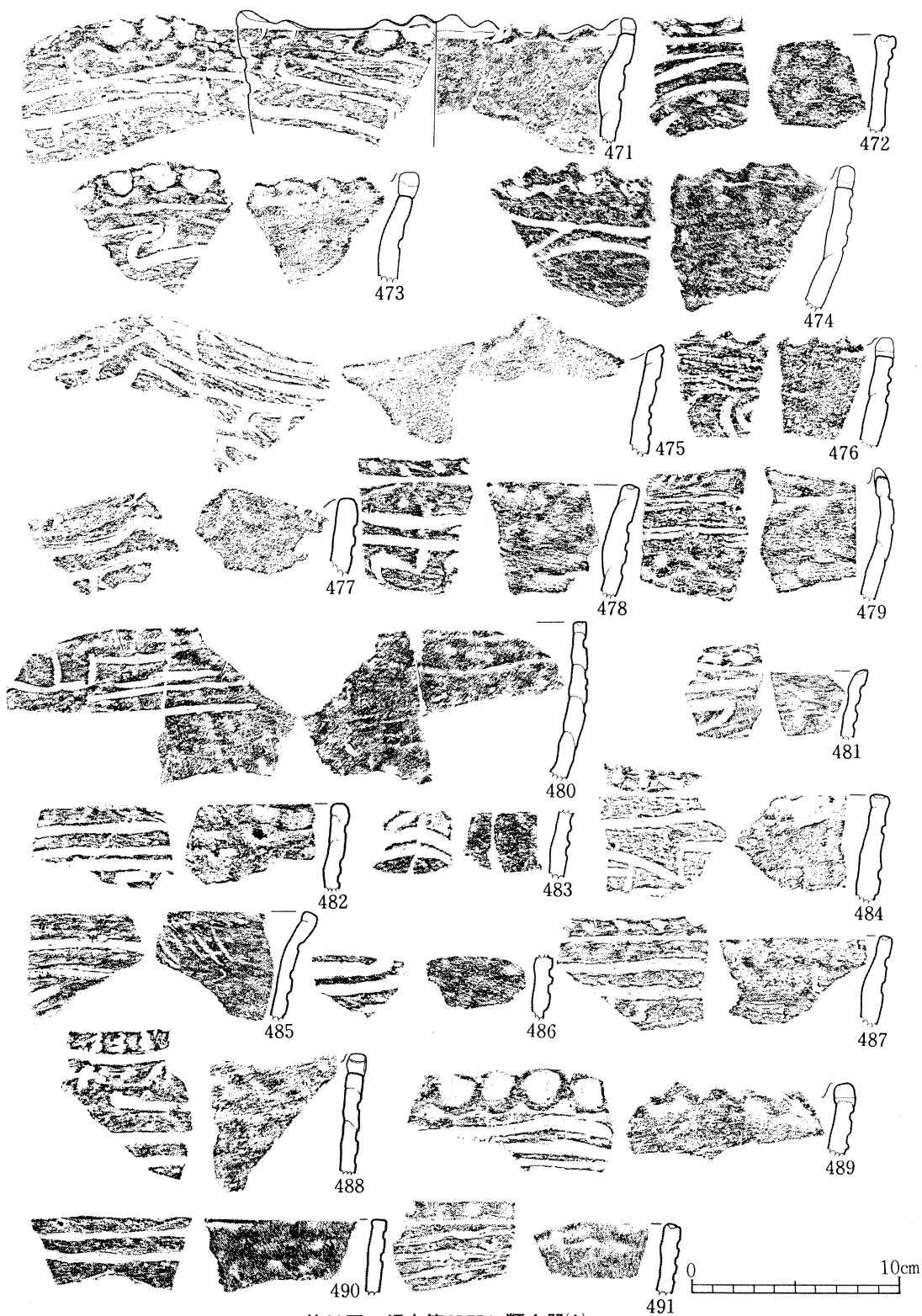
② 第X区b類土器 (第61図・第62図 471~508)

b類は直・曲線による文様をもつもので、口唇部に凹点ないし刺突文をもつものと、もないものがある。a類に比べ沈線の幅がやや狭く、文様も単純である。

471は復元口径19.2cmを測るもので、外傾する口縁部をもつ。口唇部はフラットで、半載竹管状の施文具による連続刺突文を施している。また、四つの山をもつ波状口縁部を四ヶ所もっている。文様は二条ないし三条の沈線を横走させている。472は外傾する口縁部で、口唇部には半載竹管状施文具で連続刺突文を施している。口縁部下に施される文様はやや幅の狭い沈線による直・曲線である。473・474は口唇部に粘土を貼り付け、さらに指頭による凹凸部をもうけ波状口縁部を呈している。文様は直線ないし曲線文で構成している。475は口縁部に三角形の山形隆起部をもつもので、やや外傾する器形をもつ。口唇部はフラットで、内傾する。文様は口縁



第60図 縄文第X区a類土器



第61図 縄文第X区b類土器(1)



第62図 縄文第X区b類土器(2)

部器形にそって二条の沈線を施し、下位には曲線文が続いている。476は胎土に金雲母を多量に含むもので、473同様、波状の口唇部をもつ、文様は口縁部下に二条の平行沈線を施し、さらに下位に曲線文を施している。477・478も同様に、口縁部下に二条の平行沈線を施している。477は丸みのある山形口縁を呈し、478はフラットな口唇部に半載竹管状の施文具で連続刺突文を施している。479は内湾する口縁部をもつ土器である。一部山形隆起部をもつ。フラットな口唇部は隆起部では舌状を呈す。また口唇部には先端の鋭い施文具により刻みが施される。

口縁部下に施された二条の平行沈線は二叉状施文具、あるいは半載竹管状施文具先端の弧の部分の浮かせて施されたものである。480も若干内湾気味に立ち上がる口縁部片である。フラットな口唇部には半載竹管状の施文具で連続刺突文が施されている。文様は浅くて細い沈線で直線文、一部曲線文を施している。481は若干外反する口縁部片で、口唇部には指頭状のもので浅い連続押圧文を施している。482はほぼ直行する口縁部をもち、直下に三条の平行沈線を施している。483・486は胴部片である。484はやや外傾する口縁部片で、直下に一条の沈線を施し、下位の直・曲線文へと続いている。口唇部には二種類の凹点による連続刺突文がみられるが、おそらく施文具の部位を替えて施したものであろう。485は外反する口縁部片で直下に二条の沈線を施している。口唇部はフラットで無文である。487も同様な器形を呈するが、口唇部に断面円形を呈する棒状施文具で連続刺突文を施している。488は外傾する口縁部片である。口唇部には鱗状の突起をもち、上面及び外面に貝殻腹縁による連続刺突文を施している。489は口唇部に指頭で押圧を施した粘土帯を貼り付け、波状口縁を呈している。490は二本、491は三本の沈線を施している。口唇部はいずれもフラットであるが、490は無文で、491は円形の凹点を連続して施している。492は内湾気味に立ち上がる口縁部片である。文様は口縁部下に三条の浅い沈線が弧状に展開していくものと思われる。口唇部はやや丸みをもち無文である。内外面共にナデによる調整を行ってはいるが、整形時の凹凸をなくすまでには至っていない。493も若干内湾する口縁部片である。文様は直線文及び緩やかにカーブする曲線文と斜位の短沈線で構成している。沈線はやや幅が狭く浅い。口唇部には半載竹管状の施文具で連続刺突文を施しているが、刺突の反作用で口縁端部側面は内外面とも波状の膨らみをもつ。494は緩やかにカーブする曲線文をもつ胴部片である。495の胴部片は1.1cmの器壁をもち比較的厚手の土器である。495・496の胎土には金雲母を多量に含んでいる。495～497の文様は直線及び曲線文を施しているが、どのように展開していくかは不明である。497の器面調整はナデを基本とするが、内外面に凹凸を多く残し、雑な仕上げとなっている。498・499は、直行気味の口縁部小片である。直線及び曲線文や短沈線文で文様を構成している。498の口唇部はフラットであるが、499の口唇部外側は舌状を呈する。500～508は直線及び曲線文による文様を施した胴部片である。503・505の文様は先端がふぞろいの施文具のため、沈線内に数条の筋を残している。B～D-3区の第Ⅶ、Ⅷ層を中心に出土した。

③ 第XIXc類土器 (第63図 509～533)

c類は、口縁部下に凹点文あるいは刺突文をもち、胴部に直線を主体とする文様を施すものである。509は若干外傾する口縁部片で、口縁直下にへら状施文具による横位の連続刺突文を施し、下位に直線文及び三条の階段状沈線文を施している。内外面共にナデ調整である。510も外傾する口縁部片で、口縁直下にへら状施文具による横位の連続刺突文を施している。下位には三条の浅い平行沈線がみられる。口縁は山形を呈し、口唇部はフラットである。胎土に砂粒を多く含んでいる。511の口縁も同様な文様をもつが、内面に貝殻条痕による調整痕を残す。また胎土に金雲母を多量に含んでいる。512も同様な文様構成をもつ。513は若干外反する口縁



第63図 縄文第X区c類土器

部片で、ヘラ状施文具で凹凸を施す口唇部は波状を呈す。514～516は口縁部直下に貝殻腹縁による連続刺突文を施している。文様は、514が階段状になる沈線文、515は横位の直・曲線文、516は横位の沈線文と凹点の組み合わせである。516は若干内湾する器形をもち、胎土に金雲母を多量に含んでいる。517は口縁端部に連続して凹点を施すもので、下位には同様な先端の丸い棒状施文具で横位に平行沈線を施している。518は口縁部直下に貝殻腹縁による縦位の刺突文をめぐるし、以下に三条の沈線文を施している。519～522も同様に文様を構成したものである。521は復元口径21.2cmを測る土器で、口唇部には四ヶ所の山形隆起部をもつものと推定される。口縁端部に断面円形のヘラ状施文具により連続した刻みを施している。以下には二条の深い沈線を施している。器面はナデ調整を行っているが、内面には粘土帯接合時の凹凸が明瞭に残されている。523は口縁端部に、524・526・527は口縁部下にそれぞれヘラ状施文具による連続刺突文を施している。528は口縁端部に粘土帯を貼り付け先端に刻みを施している。525・529・530は口縁部下に半載竹管状施文具により三段の刺突連点文を施すものである。それ以下には同様な施文具で横位の沈線文を数条施している。529・530共に口唇部はフラットである。531・532は同一個体と思われるもので、口唇部と口縁部下に刺突連点文を施している。下位には横走する平行沈線がみられる。532は両面穿孔の補修孔をもつ。533は口縁端部に貝殻腹縁による連続刺突文を施すが、それ以下は無文である。B、C—2～4区の第Ⅶ層を中心に出土した。

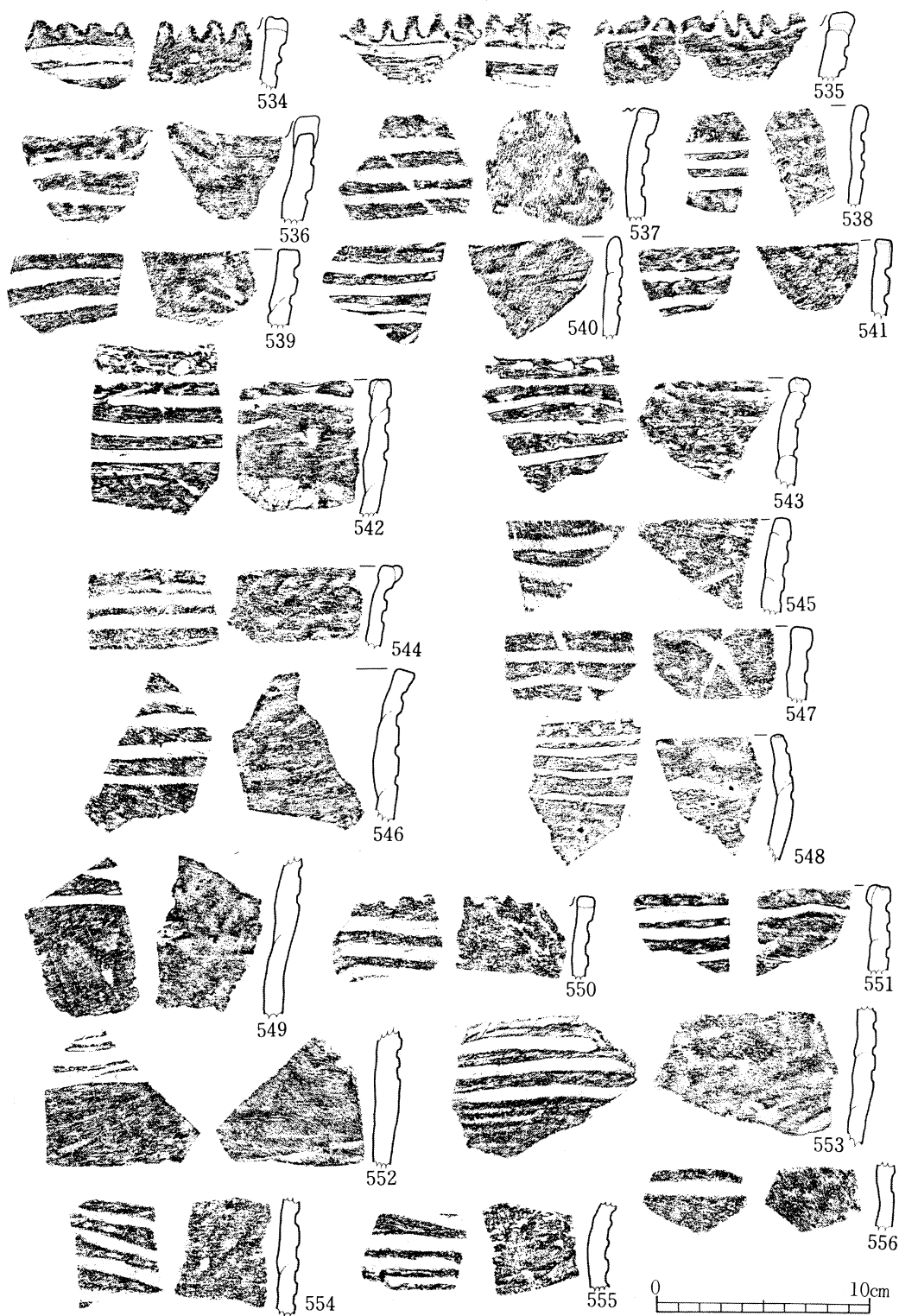
④ 第XIXd類土器 (第64図 534～556)

d類は直線を主体とする文様をもつもので、口唇部に凹点文ないし刺突文をもつものと、もないものがある。

534・535は外傾する口縁部片であるが、口唇部に粘土帯を貼り付け、断面円形のヘラ状施文具で連続押圧文を施し、波状口縁を呈している。下位には横位の平行沈線文を施している。536は部分的に山形隆起部をもつもので、下位に二条の平行沈線文を施している。口唇部は胴部に比べてやや薄い、フラットな面を残す。537は口唇部に断面円形のヘラ状施文具による連続押圧文を施し、やや外反気味に立ち上がる口縁部片である。口縁部下には三条の平行沈線がみられる。538～540は外傾気味に立ち上がる口縁部をもつもので、口縁部下に二条ないし三条の平行沈線文を施している。541～543はフラットな口唇部にそれぞれ指頭状のもの、ヘラ状施文具、半載竹管状施文具により連続押圧、刺突文を施している。口縁部下には二条ないし三条の平行沈線文を施している。544は口縁端部に粘土帯を貼り付け、胴部の器壁より幅広い口唇部を形成している。544～546は外傾あるいはやや外反する口縁部片で、文様は口縁部下に二条から三条の平行沈線文を施している。548は内湾する口縁部をもち、口唇部には竹管状施文具により、連続刺突文を施している。550・551はそれぞれ、口唇部に連続押圧文、連続刺突文を施している。549・552～556は平行沈線文をもつ胴部片である。内外面はナデ調整を行っているが、粘土帯の接合部をそのまま残すものもある。B～D—2、3区の第Ⅶ層を中心に出土した。

(20) 第XX類土器 (第65図 557～574)

第XX類土器は口縁部直下あるいは口縁部よりやや下位に突帯を貼り付け、さらにその突帯上に



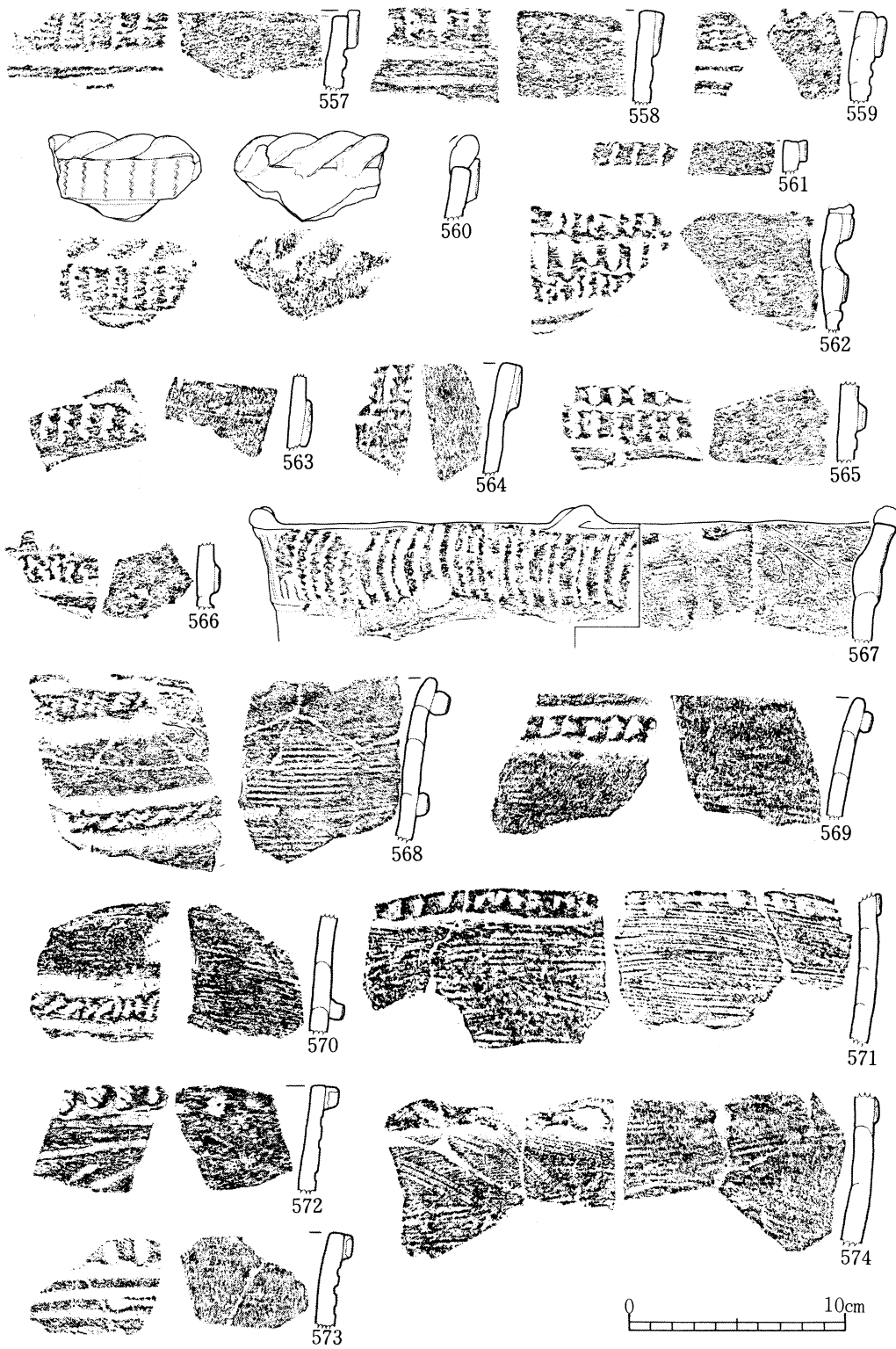
第64図 縄文第X区d類土器

貝殻腹縁等の施文具で連続刺突文を施すものである。557はやや外傾する口縁部片で、厚さ0.5cm、幅1.7cmの突帯を口縁端部に貼り付けている。この時、突帯は口唇部よりやや上方にずらして貼り付け、内面から外面に上がる階段状口唇部を形成している。突帯には貝殻腹縁による縦位の刺突文を連続して施している。下位には二条の平行沈線がみられる。558も同様な器形と文様をもつが、突帯は口縁端部に揃えて貼り付けている。559は口唇部にヘラ状施文具による連続押圧文を施し波状口縁を呈している。突帯は口唇部よりやや下位に貼り付け、貝殻腹縁による連続刺突文を施している。また下位には三条の平行沈線を施している。560も同様な突帯文様をもつが、口唇部にねじりを加えた粘土紐を貼り付けている。561は口縁部上部のみの土器片である。厚さ0.4cm、幅0.9cmの突帯を貼り付け、貝殻腹縁による連続刺突文を施している。突帯と本体の間は凹線状にやや窪んでいる。562はやや外傾する口縁部で口縁直下とそれよりやや下位にそれぞれ突帯を貼り付け、貝殻腹縁による連続刺突文を施している。また突帯間には棒状施文具で凹点を横位に連続して施している。また下位の突帯下には二条の沈線がみられる。口唇部はフラットであるが、山形隆起をもつ部分もある。563は貼り付け突帯をもつ胴部片である。突帯には貝殻腹縁による連続刺突文が施されている。564の突帯文様も同様である。565・566は562と同一個体と思われるもので、口縁直下の突帯部位から剥落している。567は復元口径30.2cmの土器で、突帯はもたないが口縁部下に突帯状に肥厚帯をつくることから本類の範疇でとらえた。中窪みの肥厚帯には、貝殻腹縁による縦位の刺突文を連続して施している。口唇部はフラットであるが、ねじりを加えた粘土紐を貼り付け、隆起部をつくる部分もある。実測図では四ヶ所の隆起部を想定した。

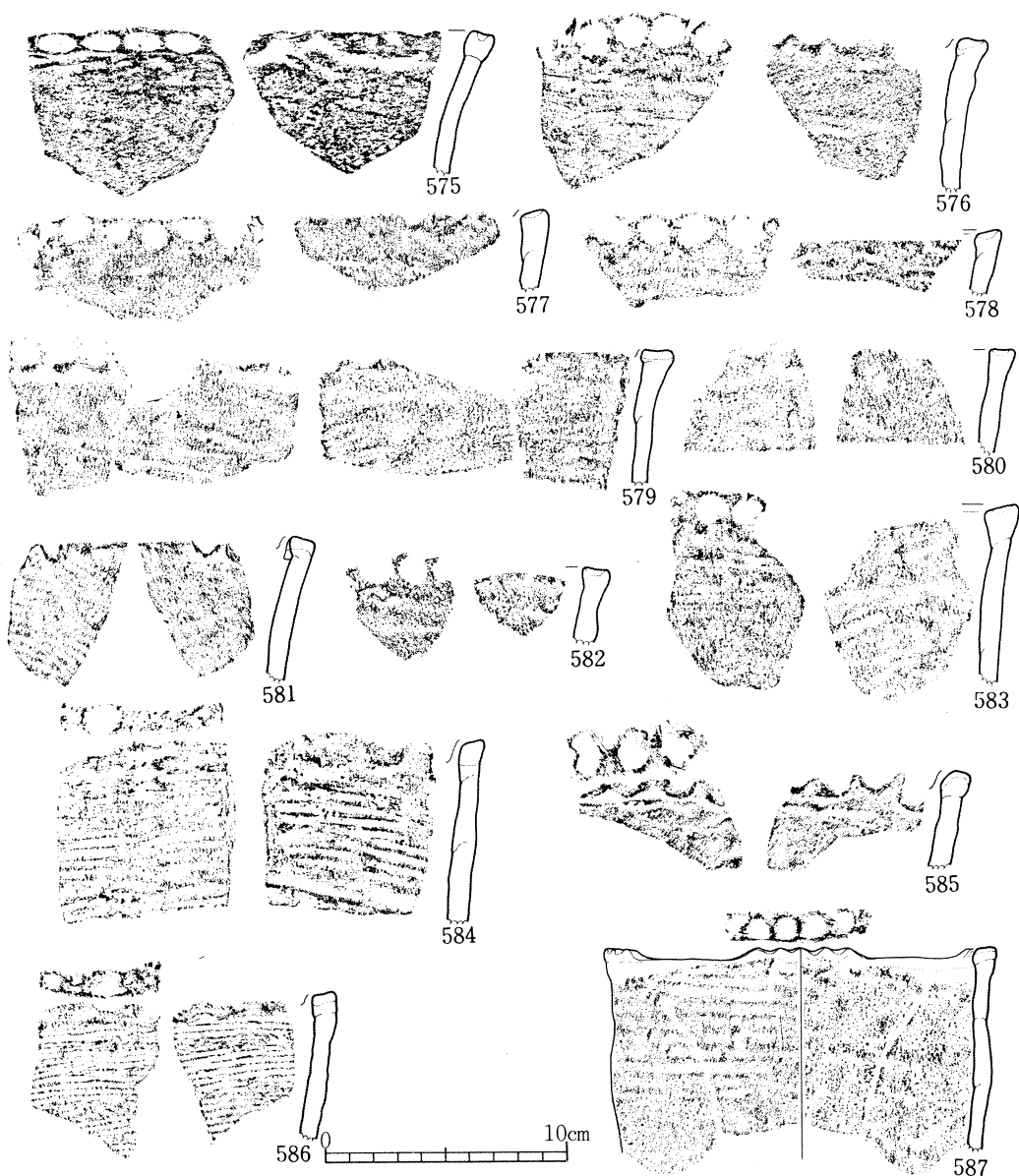
568～570は同一個体と思われる。やや外反して開く口縁部をもつ。口縁部下に二段の突帯を約3.5cmの間隔をおいて貼り付け、貝殻腹縁により連続刺突文を施している。また、上段の突帯は口縁端部ではなく、やや丸みをおびる口唇部より約0.5cm程度下位に貼り付けている。突帯の最大幅は、本体との接着部よりも広く、浮き上がったように貼り付けている。内外面とも貝殻腹縁による器面調整の後、丁寧なナデ仕上げを行っているが、内面には貝殻条痕を残す部分もある。569は下段の突帯部を、570は上段の突帯部をそれぞれ欠いている。

571は内外面にきめの細かい貝殻条痕を残す胴部片である。厚さ0.3cm、幅1.0cmの突帯を貼り付け、先端あるいは側面に数条の筋をもった棒(?)状施文具で、連続刺突文を施し突帯部の内外面には指頭押圧痕と思われる凹凸が観察されるが、その凹凸の対応状況から、突帯貼付の際に、二本の指で押圧した痕跡であろう。このことから突帯部は比較的口縁に近い部分であると推定される。

572は口縁端部に突帯をもつもので、やや外傾する器形をもつ。突帯部を包括した口唇部は無文でフラットである。突帯には側面に細かな数条の筋をもつ施文具で、断面「V」字状の刻みを連続して施している。また突帯下には非常に浅い沈線による文様を施している。573はやや外傾する器形をもち、口縁端部に貼付された突帯には、半載竹管状施文具により連続押圧文を施している。口唇部はフラットである。突帯下には数条の平行沈線を施している。574は内外面



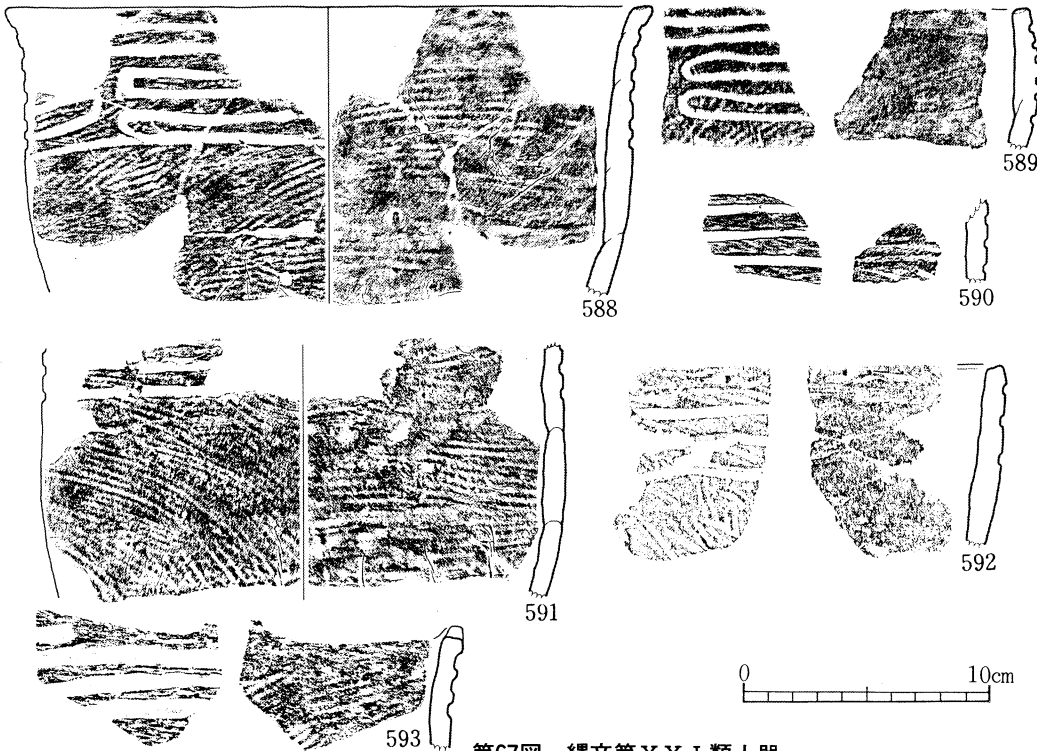
第65図 縄文第XX類土器



第66図 縄文無文土器 1

に比較的きめの細かい条痕を残す胴部片で、一条の突帯を貼り付けている。突帯には先端が数状に分かれたヘラ状施文具で連続押圧文を施している。570や571・574のように突帯部付近で欠落しているものが多いが、このことは土器本体の粘土帯接合と突帯の貼付部位との間には何らかの関係があるようにも思われる。

本類は、胎土に角セン石を多く含むものが多い。B～D-3, 5区の第Ⅶ, Ⅷ層を中心に出土した。



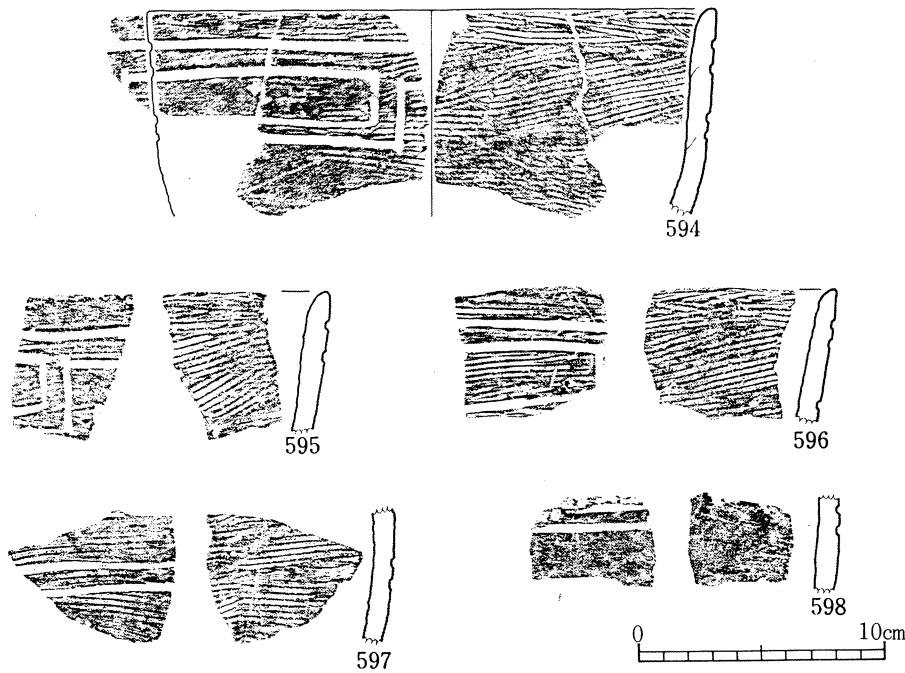
第67図 縄文第XXI類土器

(1) 無文土器1 (第66図 575~587)

胴部には文様をもたず、口唇部に指頭状施工具で連続押圧文を施すもので、波状口縁をなすものもある。第XII類から第XX類土器のいずれかに伴うものと思われる。575はやや外反する口縁部片である。口唇部には楕円形の凹点を連続して施している。576は外傾する口縁部片で、口唇部には円形の凹点を連続して施している。口縁端部の断面は凹点施文の反作用で若干肥厚している。577~580も口唇部に円形の連続押圧文を施している。581・584は部分的に凹点を施すものである。581の凹点は断面円形の棒状施工具によるものである。582・583は若干外傾するもので、口唇部に円形の凹点を連続して施している。583は口縁部に胴部器壁よりも厚い粘土帯を貼り付け、口唇部は逆三角形状に肥厚している。585は口唇部押圧を内面から外面へ連続して行うことにより、波状口縁を呈している。586はほぼ直行気味に立ち上がる口縁部片で、口唇部は押圧文により波状を呈する。胎土には金雲母を多量に含み、内外面には貝殻条痕が顕著に残る。587は復元口径16.2cmの小型の土器である。口唇部に四個の凹点をもつ隆起部を全体では四ヶ所もつものと思われる。外面には浅い沈線状の条痕を残している。C-3区第Ⅶ層を中心に出土した。

(2) 第XXI類土器 (第67図 588~593)

第XXI類土器は、やや外反気味に立ち上がる口縁部をもち、内外面に貝殻条痕を残し、口縁部下に直線、あるいは曲線で沈線文様を展開させるものである。588は復元口径26.4cmの深鉢で、



第68図 縄文第XXII類土器

口縁部はやや外反気味に立ち上がる。文様帯は口縁部下に集約され、直線と曲線を組み合わせた単純な沈線文様を施している。沈線の幅は0.4cm前後で比較的狭く浅い。口唇部には指頭状の施文具による連続凹点文を施している。内外面に地文の貝殻条痕を残すが、文様帯、口縁内面等ナデ消している部分もある。589は内湾気味に立ち上がる口縁部である。地文に貝殻条痕をもつが内外面共にナデ調整を行っている。文様は588とほぼ同様である。591の胴部片も内外面共にナデ調整を行っているものの、地文の貝殻条痕をよく残している。592は若干外傾する口縁部片で口縁部下に三条の沈線文をもつ。外面に貝殻条痕を若干残すが、内面はよくナデ消している。胎土に多量の金雲母を含んでいる。593は外反気味に立ち上がるもので、口唇部には山形状の隆起部をもつ。文様は口縁下に横位の凹線を数条施している。592と同様に胎土に金雲母を多く含んでいる。C-3区第VII層を中心に出土した。

(23) 第XXII類土器 (第68図 594~598)

第XXII類土器は、わずかに開き気味に立ち上がる口縁部をもち、内外面に貝殻条痕を残し、口縁部下に二本の平行沈線による文様を展開させるものである。594は復元口径23.2cmを測る土器で、やや開き気味に立ち上がる口縁部をもつ。文様はまず口縁部下に一条の沈線を巡らし、さらに下位に二本の平行沈線で、長靴形を呈する直線文を横位に連続して展開させている。口唇部は若干外反して断面舌状を呈する。内外面に貝殻条痕を残すが、文様帯の周辺のみ一部ナデ消している。しかし、無文部と画するほどのものではない。胴部器壁は0.5cm程度である。594~597の口縁部片及び胴部片は同一個体と思われる。598は二本の平行沈線文をわずかに残す胴部片であるが、内外面とも貝殻による器面調整の後、丁寧にナデ消している。B-3区の第VII層を中心に出土した。

(24) 第XXIII類土器 (第69図～第77図 599～759)

第XXIII類土器は、やや外反気味に立ち上がる器形をもつ深鉢で、口縁部を断面三角形に肥厚させ、その部分に沈線文、連点文等を施し、文様帯をつくるものである。口縁部形態と文様部位の関係から大きく以下の四つに分類した。なお、断面三角形の稜線を境にして口唇部に近い部分を第一文様帯、下位の方を第二文様帯と便宜上呼ぶことにする。

- a類 口縁部を断面三角形に肥厚させ、文様は第一文様帯のみ施されるもの。
- b類 口縁部を断面三角形に肥厚させ、文様は第一、第二の両方に施されるもの。
- c類 口縁部を断面三角形に肥厚させるが、文様は施されないもの。(無文土器)
- d類 口縁部の肥厚化傾向が衰退するもので、「く」の字を呈するものもある。文様は第一第二の両方に施される。

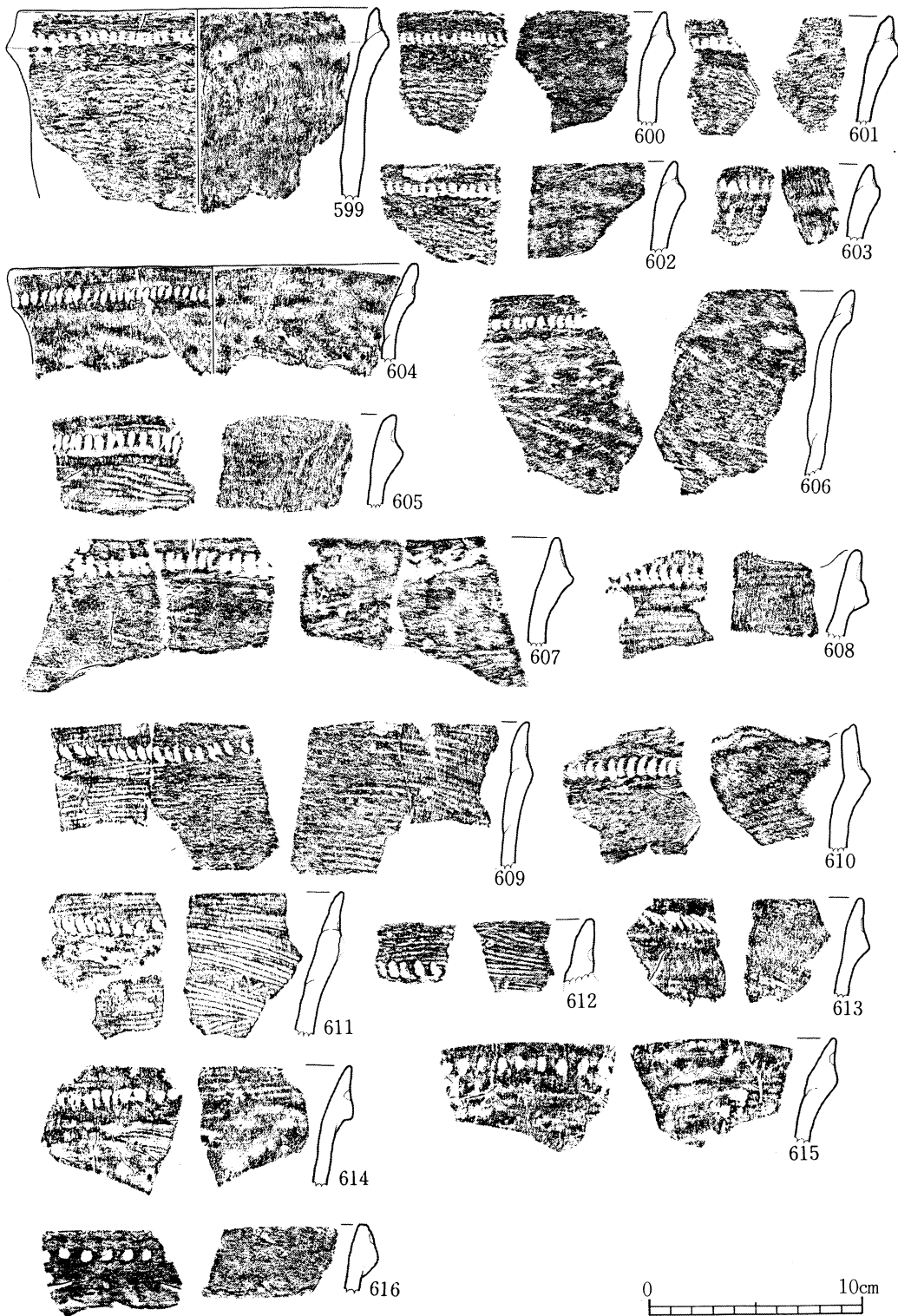
① 第XXIII a類土器 (第69図～第72図 599～673)

口縁部を断面三角形に肥厚させ、文様は第一文様帯のみ施されるものであるが、文様が単独なものをa-1類、複数の構成によるものをa-2類とさらに分けた。

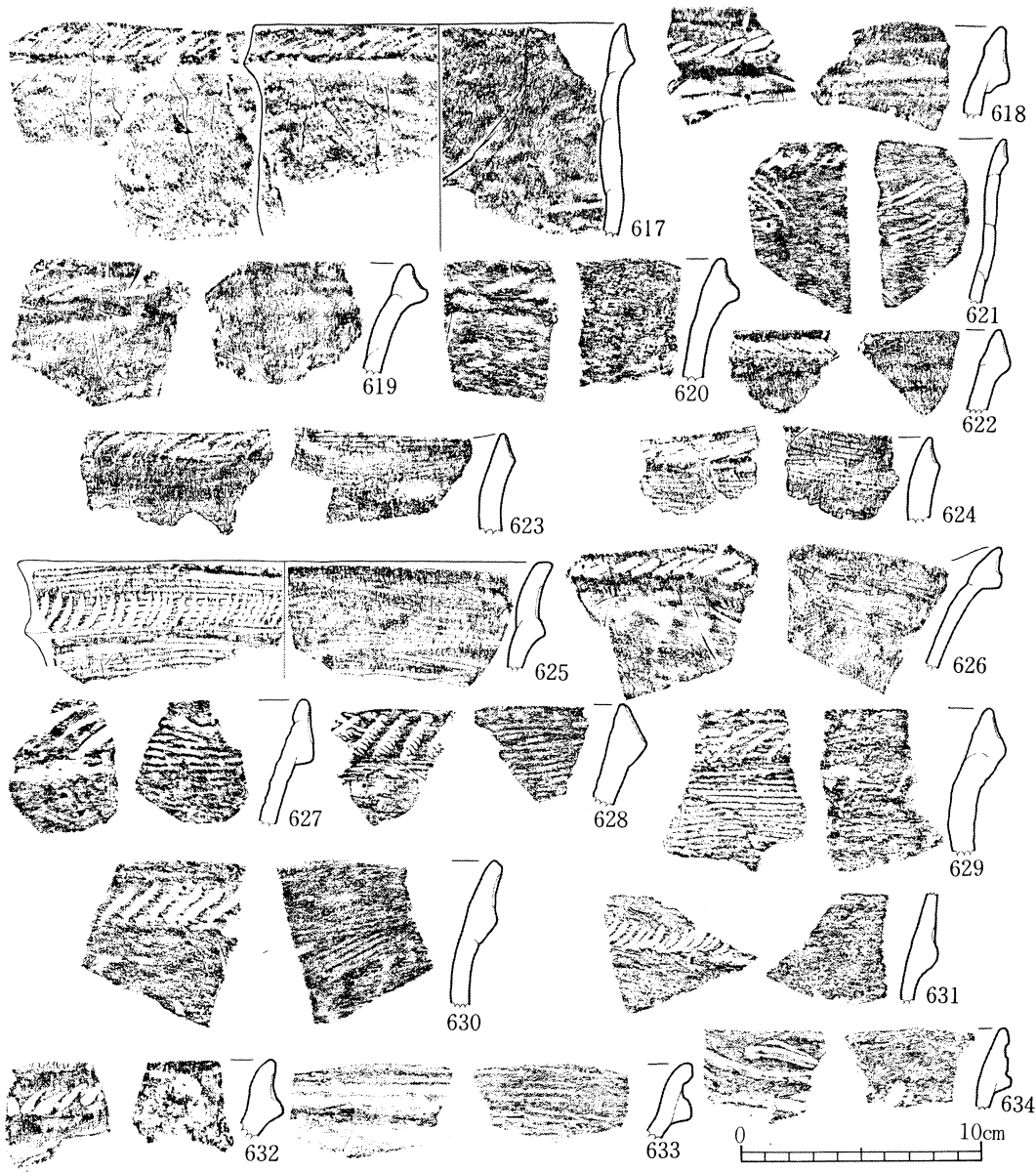
a) 第XXIII a-1類 (第69図・第70図 599～634)

599～632は第一文様帯に貝殻腹縁あるいはヘラ状施文具で連続刺突文を施すものである。599は復元口径16.8cmを測るものである。口縁部は断面三角形に肥厚し、口唇部は舌状を呈する。文様は口縁部下に貝殻腹縁の一部による連続刺突文を施している。600～603も同様な文様構成をもつ。604～612は口縁部下に先端のややカーブしたヘラ状施文具により連続刺突文を施し、爪形状を呈する。613は貝殻腹縁による連続刺突文を施し、胎土には金雲母を多く含んでいる。614～616は略円形を呈する連点文を施している。

617は復元口径15.6cmを測るもので、口縁部は断面三角形を呈し、口唇部はシャープである。文様は口縁部下に先端の細く尖ったヘラ状施文具による斜位の連続刺突文を施している。618～622も口縁部下にヘラ状施文具による連続刺突文を施すものである。619・620は、同一個体と思われる。他の土器に比べて口縁部外反の度合いが強い。621は器壁が0.5cmと非常に薄い土器で、口縁部直下に幅1cm程度の文様帯をもうけ、ヘラ状施文具による連続刺突文を施している。622は胎土に金雲母を多く含んでいる。623・624は第一文様帯に貝殻腹縁による連続刺突文を施すものであるが、この第一文様帯は口縁部下というよりも、むしろ口唇部の延長状という感じが強い。625は復元口径22.4cmを測るもので、やや間延びした第一文様帯には、先端が爪形状にカーブしたヘラ状施文具による連続刺突文が施されている。胎土には金雲母を多く含んでいる。626は大きく外反し、ごくわずかに波状を呈する口縁部片である。632と同様に文様はヘラ状施文具による連続刺突文である。627～631は貝殻腹縁による連続刺突文を施すものである。628はわずかに肥厚する第一文様帯の口唇部と「く」の字の稜の部分とを繋ぐように貝殻腹縁を刺突している。629・630はやや外反する口縁部片で、口唇部は丸みをもつ。632の口縁部片は、ヘラ状施文具により連続刺突文を施している。633・634は、第一文様帯に沈線を施すものである。633は横走る沈線を一条施している。沈線は、幅0.8cmとやや広い。634は



第69図 縄文第XXIII a - I 類土器(1)



第70図 縄文第XXIII a - I類土器(2)

第一文様帯に数条の沈線を曲線文状に施している。a-1類の文様は、貝殻腹縁あるいはヘラ状施文具による連続刺突文を施すものが多いが、沈線だけのものは二点出土したのみであった。器面調整は、609~612, 623~629などのように、内外面に貝殻条痕を残すものもあるが、多くは、条痕をわずかに残す程度のナデ仕上げか、丁寧なナデ調整を行っている。また、626のように若干波状口縁を呈するものもあるが、ほとんどが平縁口縁で、比較的小型のものが多い。

C, D-4, 5区を中心に分布し、第VII層から第VIII層にかけて出土した。

b) 第XXⅢ a—2類 (第71図・第72図 635～673)

635～645は第一文様帯に二種類の連続刺突文を同時に上下二段に施すものである。635～643は上段に貝殻腹縁の刺突をやや間隔をおいて施し、下段には先端の鋭いヘラ状施文具で連続刺突文を施している。断面三角形の口縁部はやや外反し、口唇部は舌状を呈している。644の口縁部は逆に上段にヘラ状施文具による連続刺突文を、下段に貝殻腹縁の連続刺突文を施している。645は上下二段とも貝殻腹縁による連続刺突文を施しているが、上段は斜位にかつ間隔をおいて、下段は横位に連続してそれぞれ施している。また口唇部はフラットである。646～654はヘラ状施文具や貝殻腹縁による連続刺突文を上下に施し、さらにその中間に一条から三条の沈線を施文するものである。646～651は一条、652・653は二条、654は三条それぞれ施している。上下の連続刺突文は、647、652～654がヘラ状施文具のみ、650・651が貝殻腹縁のみで施し、648は上段が貝殻腹縁、下段がヘラ状施文具によっている。652・654などは、沈線の始点及び終点を押圧してアクセントをつけている。655の口縁部は上下にヘラ状施文具による連続刺突文を施し、中間に太形凹点及び比較的幅の広い沈線を施している。656の口縁部は波状を呈し、第一文様帯の上下にヘラ状施文具による連続刺突文を、中間に貝殻腹縁による連続刺突文をそれぞれ施している。

657～662は外反する口縁部をもち、間延びした第一文様帯には、上下にヘラ状施文具による連続刺突文を、中間に太形凹線をそれぞれ施している。657は外反する口縁部をもち、口唇部はフラットな面を部分的にもっている。幅約5cmの第一文様帯の上下にはヘラ状施文具による連続刺突文を、中間には二条の太形凹線文を施している。また太形凹線上には凹線と同じ施文具による凹点を上下二個ずつ施し、アクセントをつけている。胎土に金雲母を多量に含んでいる。658も同一個体と思われるが、口縁部内面にもヘラ状施文具による二段の連続刺突文を部分的に施している。659も657と同様な器形、文様構成をもつ口縁部であるが、中間の太形凹線文は、口唇部に平行せず斜走する。また凹線の始点、終点は爪形状に深い凹点を施し、アクセントをつけている。さらに丁寧なナデ調整をおこなっている657と違い、内外面に貝殻条痕を残している。660は山形口縁の山の部分であるが、口唇部は欠落している。663は上下に貝殻腹縁による連続刺突文を施し、その中間にはハケ状の施文具で浅い凹線を施している。

664～670は第一文様帯の上下に連続刺突文、中間に凹・沈線というパターンに貝殻腹縁による幅の広い刺突文が加わるものである。665は山形口縁の山の部分である。第一文様帯の上下にヘラ状施文具による連続刺突文を、中間に始点及び終点にアクセントのついた沈線をそれぞれ施し、さらに空隙には貝殻腹縁の刺突文が施されている。口縁部内面にも無秩序な刺突文が施されている。また波状口縁の山の部分の第二文様帯部には簡単な突帯を貼り付け、その上にヘラ状施文具による連続刺突文を施している。胎土に金雲母と白い砂粒を多く含んでいる。

器面調整は、内外面に貝殻条痕を残すもの、内面のみナデ消すもの、丁寧なナデ仕上げを行うものなどがある。

B～D—2～5区の第Ⅶ、Ⅷ層を中心に出土した。



第71図 縄文第XⅢa-2類土器(1)



第72図 縄文第XXIII a - 2類土器(2)

② 第XXⅢb類土器 (第73図～第75図 674～718)

口縁部を断面三角形に肥厚させ、文様は胴部にもおよび、第二文様帯を形成する。第一文様帯の文様が単独なものをb-1類、複数の構成によるものをb-2類とした。

a) 第XXⅢb-1類 (第73図 674～687)

674～677は第一文様帯に貝殻腹縁及びヘラ状施文具で連続刺突文を施し、かつ胴部にまで文様を施し、第二文様帯を形成している。674は大きく外反する口縁部片で波状口縁を呈す。表面が摩滅しているため詳細は不明であるが、第一文様帯と第二文様帯の上位にはヘラ状施文具による連続刺突文を施している。また、第二文様帯の下位には二本の平行沈線を施している。胎土に砂粒を多く含んでいる。675・676は第一文様帯に貝殻腹縁による連続刺突文を、第二文様帯には横位の沈線を数条施し、同じ文様構成をもつが、第一文様帯の器形に相違がある。675の方は胴部器壁の延長上を呈し、676の方は断面三角形をなす。677は第一、第二の両方の文様帯に貝殻腹縁による連続刺突文を施すもので、それぞれ斜位、縦位に刺突している。他の土器に比べて器壁も薄く、小型の土器である。

678～687は第一文様帯に沈線及び短沈線を施すものである。678は大きく外反する土器で波状口縁を呈する。第一文様帯は、波状の山の部分のみの施文で、始点及び終点にアクセントのついた短沈線を横位に施し、第二文様帯には貝殻腹縁による連続刺突文を施している。679も同様な山形口縁と短沈線による第一文様帯を形成している。第二文様帯は上位より貝殻腹縁の連続刺突文、三条の平行沈線、再び貝殻腹縁による連続刺突文と三段階に文様を構成している。胎土には金雲母を多量に含んでいる。680の口縁部は丸みのある山をもち波状口縁を呈する。第一文様帯に短沈線による文様を施し、第二文様帯には貝殻腹縁による連続刺突文を施している。681～683、686・687も同様な文様構成を呈している。684・685の第二文様帯には貝殻腹縁による連続刺突文に加えて横位の短沈線を施している。

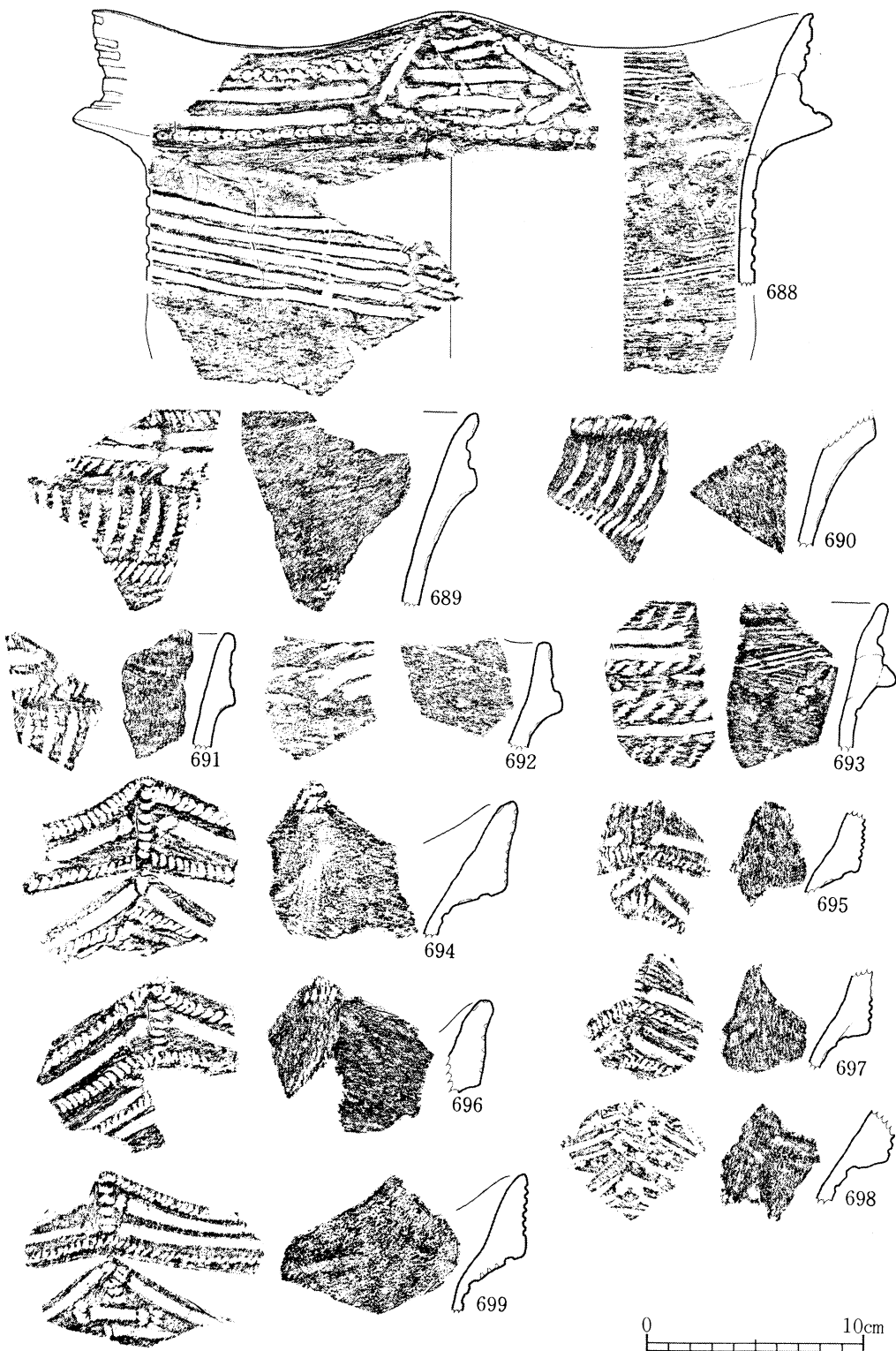
B～D-1～5区の第Ⅶ、Ⅷ層から出土している。

b) 第XXⅢb-2類 (第74図・第75図 688～718)

688は復元口径33.2cmを測るもので、口縁部は外反して波状口縁を呈する。第一文様帯は上下に竹管状施文具による連続刺突文を、中間に同じ施文具による平行沈線文を施している。また山形の部分には横位あるいは斜位の短沈線により、文様を施している。上下の連続刺突文は同じ施文具によるものと思われるが、施文時の角度の違いで異なった形状をなしている。第二文様帯には横走する五条の平行沈線を施している。外面は丁寧なナデ調整を行っているが、内面には貝殻条痕を残している。689～691は同一個体である。口縁部は外反して開いている。第一文様帯は上下にヘラ状施文具による連続刺突文、中間に二本の平行沈線を施している。第二文様帯には縦位の貝殻腹縁による連続刺突文と、ヘラ状施文具による連続刺突文を施している。692は第一文様帯にヘラ状施文具による連続刺突文、竹管状施文具による沈線文を施している。第二文様帯は欠落のため、一部沈線が残るのみである。693は第一、第二とも貝殻腹縁による連続刺突文と横走する沈線文とで文様帯を構成している。断面三角形に肥厚する稜の部分は貼



第73図 縄文第XXIII b - I類土器



第74図 縄文第XXIII b - 2類土器(1)



第75図 縄文第XXIII b - 2類土器(2)

り付け突帯状の形態をなす。694～699は波状口縁の山の部分である。694と696は同一個体と思われる。第一文様帯は、上下にヘラ状施文具による連続刺突文、中間に一条の沈線を施している。山形部の稜にはヘラ状施文具による縦走の連続刺突文が施されている。沈線の始点ないし終点には押圧によりアクセントをつけている。第二文様帯も同様に、ヘラ状施文具による連続刺突文と沈線との組み合わせである。また山形口縁の内面頂部には、ヘラ状施文具による刺突文が施されている。胎土には金雲母を多く含んでいる。695、697～701も同様な文様構成をもつ。ただ698の第一文様帯の沈線は細沈線と、699の沈線は、二本の平行沈線となる。702はやや外傾する口縁部である。第一文様帯は上下にヘラ状施文具による連続刺突文を、中間に一条の沈線を施している。刺突文は長さ0.4cm程度で細かいものである。第二文様帯にはその刺突文を横位に連続して施すものと、孤状に施すものがあり、一条の沈線と共に文様を構成している。703～705は同一個体と思われる。外傾する口縁部をもつもので、口唇部はやや丸みを帯びている。第一文様帯は上下に貝殻腹縁による連続刺突文を、中間に太めの沈線を施している。また、勾玉状の凹点も一部施されている。第二文様帯は「く」の字の稜直下には施されず幅2.5cm程度の無文帯をおいて、貝殻腹縁による横位の連続刺突文を施している。706～718は口唇部欠落のため詳細は不明であるが、第二文様帯まで文様が及ぶものである。716は両文様帯に二又状施文具でひっかくように短沈線を施したものである。

C、D-2～5区の第Ⅶ、Ⅷ層を中心に出土した。

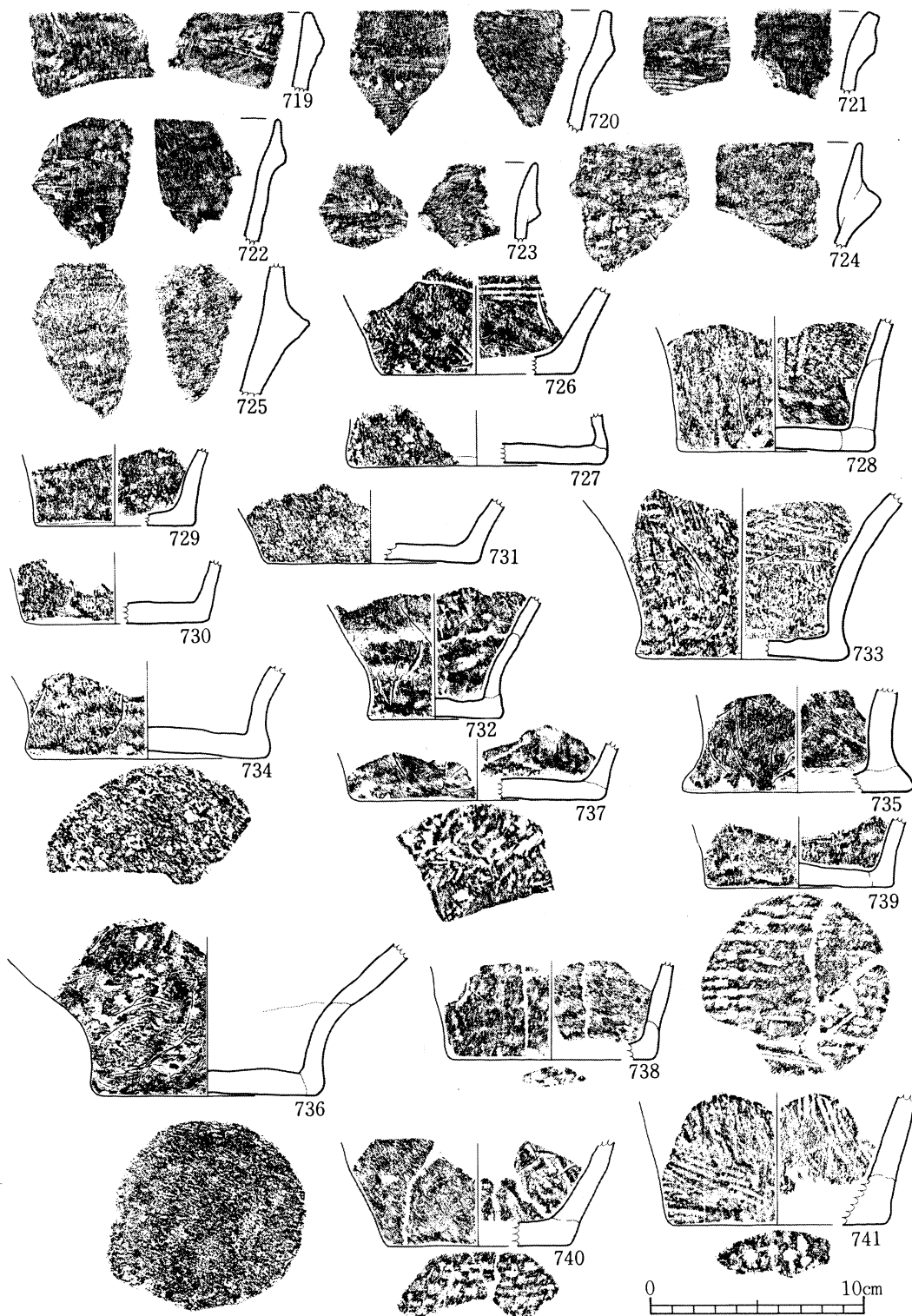
③ 第ⅩⅩⅢc類土器 (第76図 719～725)

口縁部を断面三角形状に肥厚させるものの、第一、第二の文様帯共に文様をもたないいわゆる無文土器である。すべて外傾気味に立ち上がる口縁部片である。口唇部は舌状を呈するものが多いが、720はフラットな口縁部をもつ。719～723の第一文様帯の幅は2cm弱で屈曲部からの立ち上がりなどはa類と類似している。724・725の第一文様帯は屈曲部から大きくカーブして間延びしている。器面はほとんどがナデ調整である。C-5区の第Ⅶ層を中心に出土した。

④ 底部 (第76図 726～741)

第ⅩⅩⅢa～c類の底部と思われるものを一括した。726～731・737～741のように直線的に開くタイプと、732～736のように内湾気味に立ち上がりながら大きく外反していくタイプがある。また、平底が一般的であるが、733や734のように若干上げ底状を呈するものもある。726・733・741のように器面に貝殻条痕を残すものもあるが、ほとんどがナデ消している。底端部の形状は727・734のように丸みを帯びるものや、735のようにシャープなもの等がある。736は円盤はめ込みの形態を明瞭に示すものである。底径は、732のように6.2cmと小型のものから、727のように12.0cmと大型のものまでであるが、ほぼ8.5cmから10.5cmの間に収まる。

737～741は網代底である。これまで、明らかに第ⅩⅩⅢ類土器の網代底として確認された例はないが、本例も器形等から推測したもので、確証はない。



第76図 縄文第XXIIIc類土器他

⑤ 第XXⅢ d類土器 (第77図 742～759)

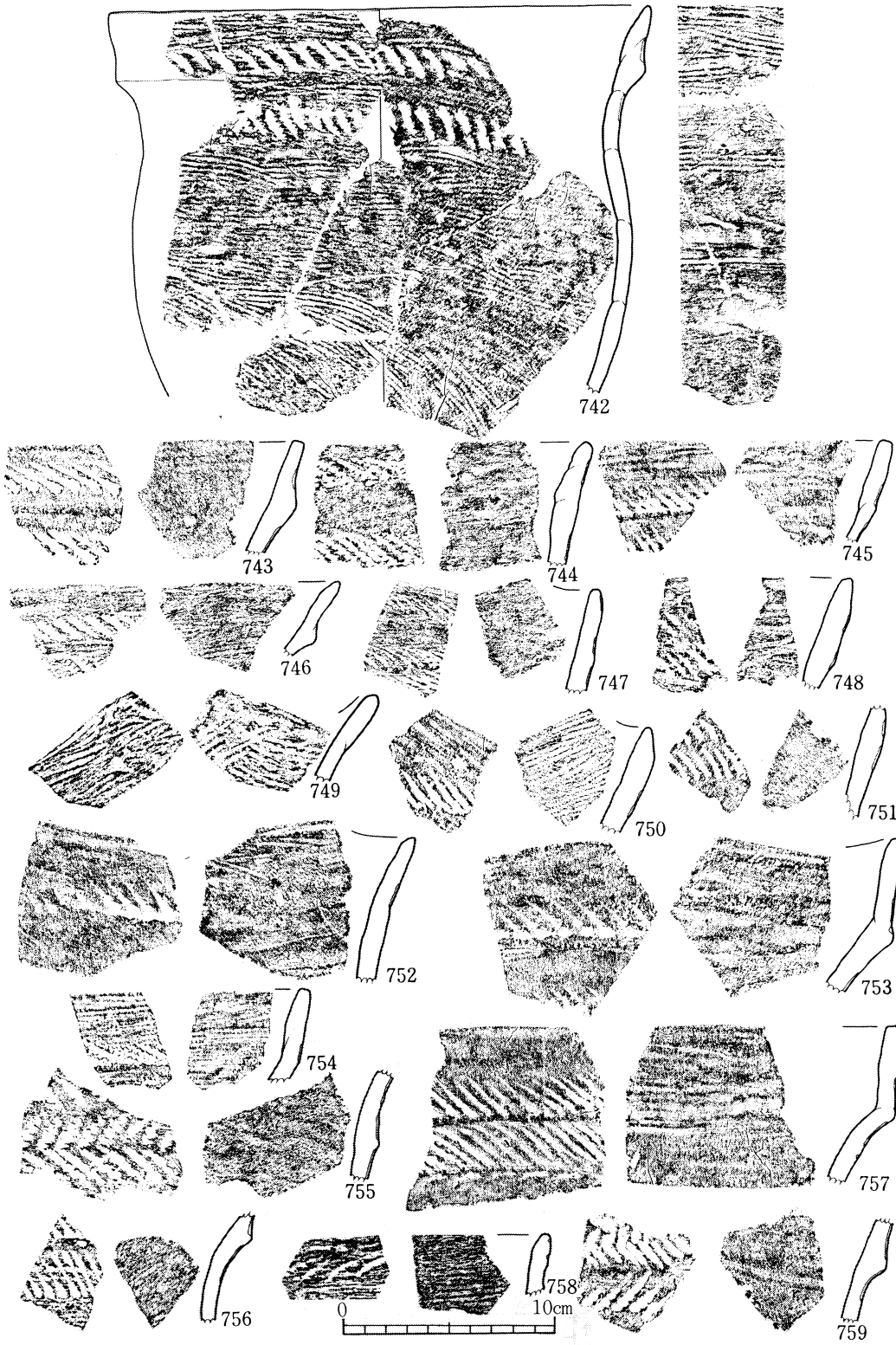
口縁部の肥厚化傾向が衰退するもので、「く」の字形口縁を呈するものや、直線的に立ち上がるものなどがある。

742は復元口径25.5cmを測るもので、若干開き気味に立ち上がる口縁部と、丸く膨らむ胴部をもっている。口縁部断面形はかろうじて三角形状をなす程度で、第一、第二の両方の文様帯に貝殻腹縁による連続刺突文を施している。内外面には貝殻条痕をよく残している。743も同様に、わずかに断面三角形状を呈するが、742の口唇部が舌状を呈するのに対して、フラットな面をもっている。744はやや外反する口縁部で、口縁部内面にやや段をもつ。745はほぼ直線的に開く口縁部であるが、内面にやや屈曲部をもつ。746はわずかに断面三角形状を呈する口縁部である。743～746は第一、第二それぞれの文様帯に貝殻腹縁による連続刺突文を一段ずつ施している。747は波状を呈すると思われる口縁部で、口縁部断面形は若干「く」の字形を呈する程度で、肥厚しない。文様は第一文様帯の上下に二段、第二文様帯に一段の貝殻腹縁による連続刺突文を施している。748はやや肥厚気味の口縁部片であるが、断面三角形状にはならず第一、第二の文様帯の区別はできない。文様は口縁部下に二段の貝殻腹縁による連続刺突文を施している。749～753は波状を呈する土器片である。749は波状口縁の山形の部分である。750とともに、内外面に貝殻条痕を残している。752はわずかに外反しながら立ち上がる口縁部片で、波状口縁を呈している。口唇部は舌状を呈する。文様は口縁部下に貝殻腹縁による連続刺突文を横位に施している。753は断面「く」の字形の口縁部で、波状口縁をなしている。文様は第一、第二文様帯にそれぞれ貝殻腹縁による連続刺突文を施している。同様な器形をもつ754は第一文様帯に貝殻腹縁による連続刺突文を施している。755・756・759は断面「く」の字形を呈する口縁の屈曲部分で、第一、第二文様帯の両方に貝殻腹縁による連続刺突文を施しているが、756・759の第一文様帯の連続刺突文は二段にわたり、羽状をなしている。757も断面「く」の字形の口縁部で、やや開き気味に立ち上がる。口唇部はフラットを呈している。文様は第一文様帯に貝殻腹縁による連続刺突文を斜位に、第二文様帯には貝殻腹縁による連続刺突文を上位は斜位に、下位は横位にそれぞれ施している。d類のほとんどの土器が胎土に金雲母を含んでいる。D-2, 3区の第Ⅶ, Ⅷ層を中心に出土した。

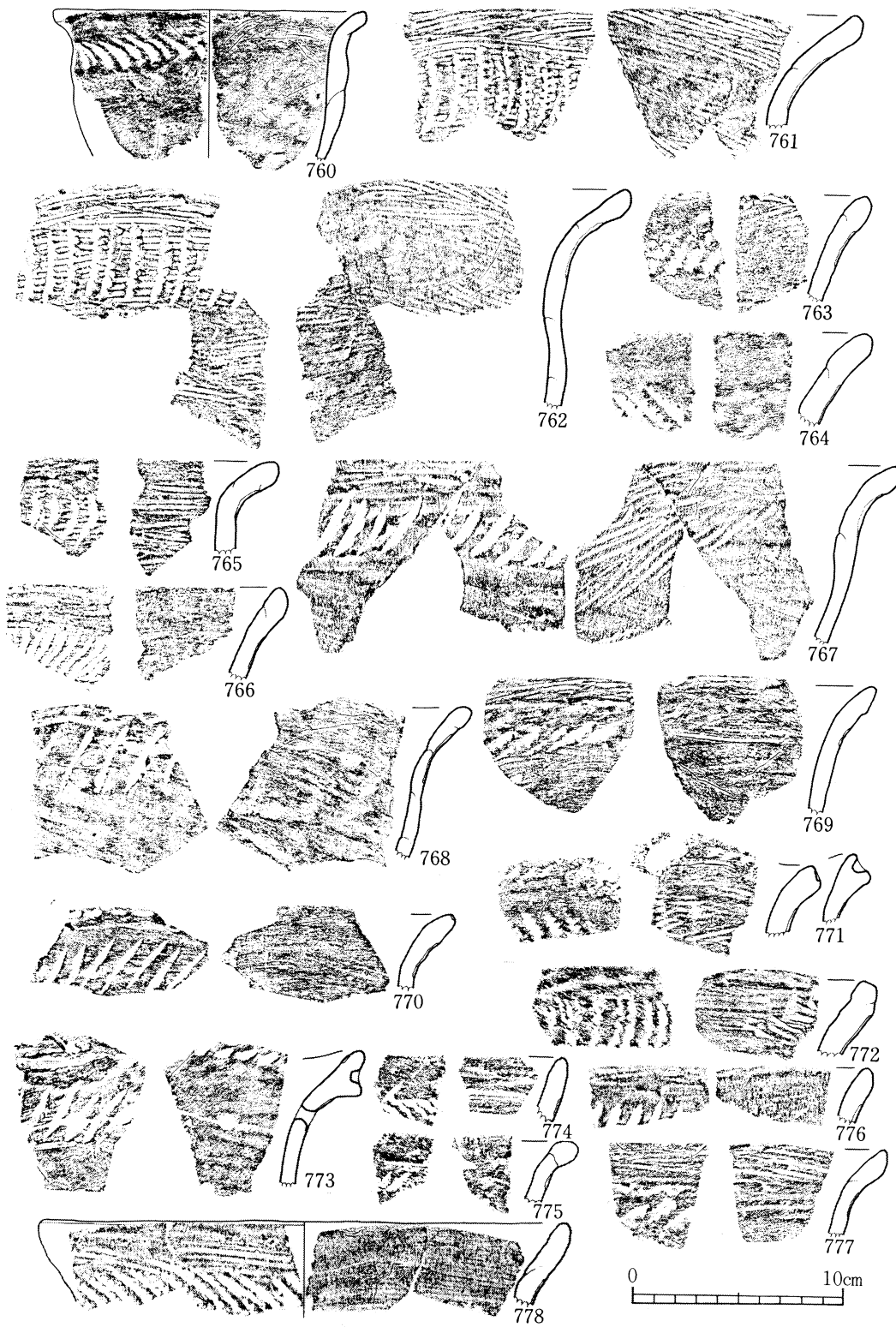
(25) 第XXⅣ類土器 (第78図・第79図 760～789)

第XXⅣ類土器はやや肥厚させながら大きく外反する口縁部をもち、口唇部は蒲鉾状に丸みを帯びるもので、そのほとんどが平縁口縁を呈する深鉢であるが、なかには壺状の器形をもつものもある。文様は、口縁部下に貝殻腹縁やヘラ状施文具による連続刺突文を施すものが一般的である。

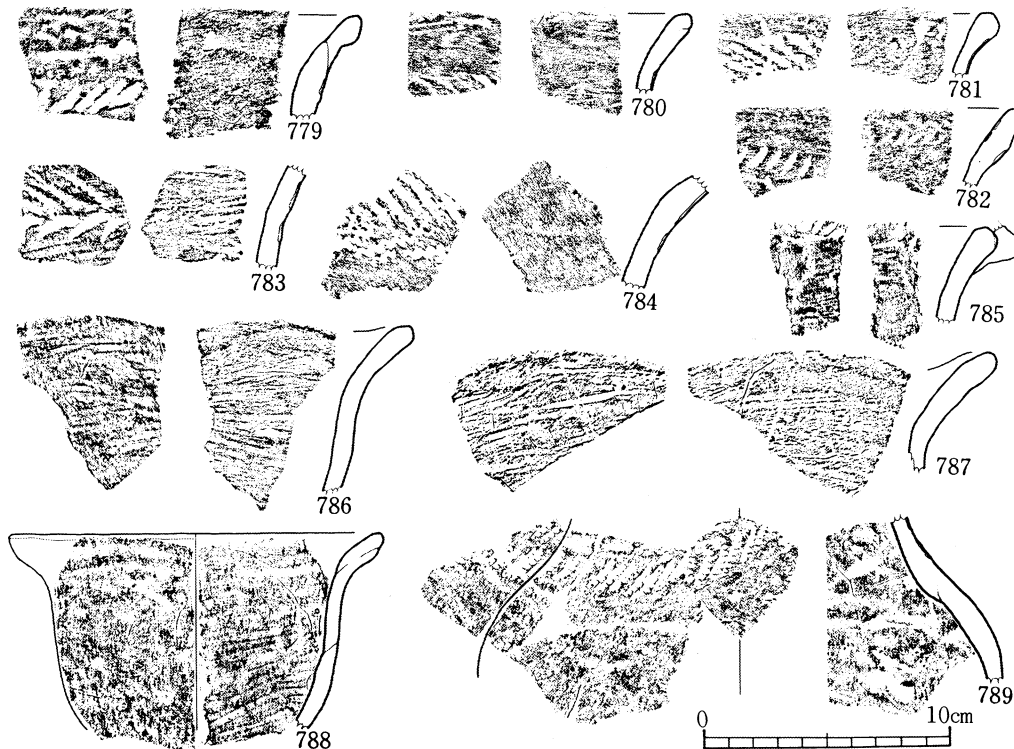
760は復元口径15.8cmを測る小型の土器である。口縁部は大きく外反して平縁口縁を呈している。胴部上半は肥厚して粘土接合時の痕跡をとどめている。文様は口縁部下にヘラ状施文具による連続刺突文を施している。761と762は同一個体で、口縁部は大きく外反し、口唇部は舌状に肥厚している。口縁部下の文様は地文である貝殻条痕の上から貝殻腹縁による連続刺突文



第77図 縄文第XXIII d類土器



第78図 縄文第XXIV類土器(1)



第79図 縄文第XIV類土器(2)

を施している。また文様には爪形状の押圧痕が観察されるが、文様として意図的につけたものか、施文時の副産物として残ったものかは不明である。763～767は外反する口縁部片で、口唇部はいずれも蒲鉾状を呈する。口縁部下の文様は、貝殻腹縁による連続刺突文で、765・766は胎土に金雲母を含んでいる。768も同様な器形、文様を呈するが、幅の狭い粘土帯を細かく積み上げて接合したもので、口唇部外面にはその痕跡を明瞭に残している。769・772・774～778は外反する口縁部の上半部で、貝殻腹縁によって施された連続刺突文をもつ。770と773は同一個体と思われる。大きく外反する口縁部で、ヘラ状施文具による連続刺突文を施している。またやや舌状を呈する口唇部には長楕円形の押圧文を連点状に施している。773は口唇部に突起をもつもので、その部分のみやや山形口縁となり、内面には口唇部と同様な連点文を施している。また文様帯の中央には両面穿孔による円形の補修孔がみられる。

779～782も外反する口縁部、貝殻腹縁による連続刺突文をもつが、782は口縁内面にも貝殻腹縁による羽状文を施している。783・784は頸部の文様部分で、貝殻腹縁による連続刺突文が施されている。785はやや外反する口縁部で瘤状の突起をもつ。文様は口唇部のみでヘラ状施文具による連続刺突文である。786～788は無文土器で、788は復元口径15.3cmの小型土器である。789は口径より胴部最大径の方が大きく、壺形の器形を呈する。頸部に貝殻腹縁による二段の連続刺突文を施している。

C, D-2, 3区の第Ⅶ, Ⅷ層を中心に出土した。

(26) 第XXV類土器 (第80図 790)

790はやや外反気味に開く口縁部で、断面三角形を呈する。第XXIII類土器に類似しているが、口唇部が文様帯となっている。文様は一条の沈線をはさむようにして、先端の鋭い楕状施文具による連続刺突文を両端に施している。C-6区第Ⅷ層からの出土である。

(27) 第XXVI類土器 (第80図 791~793)

791~793は同一個体と思われるもので、いずれも口縁が欠落している。文様は先端が四本に分かれた楕状施文具で横位の波状文を数段施している。791の一部は若干肥厚しているが、頸部付近と思われる。C-6区第Ⅷ層からの出土である。

(28) 第XXVII類土器 (第80図~第82図 794~837)

第Ⅶ・Ⅷ層から出土したもので、これまでの分類の範疇で捉えられないものを第XXVII類土器として一括した。

794・795は、磨消縄文の手法をもつものである。794は把手状の突起をもつ口縁部片で、突起には生乾きの時点で施された円孔を二ヶ所もうけている。また突起の側面と口唇部内面の屈曲部にはヘラ状施文具による連続刺突文を施している。また口縁部の文様は、三本沈線内にRLの縄文をおさめたもので、周囲を磨き無文化している。器壁は1.3cmと厚手である。795はやや外反する口縁部片で、口縁部下に施された三本の沈線内にRLの縄文を残し、文様化している。794は角セン石を、795は金雲母をそれぞれ多く含んでいる。

796・797は同一個体と思われるもので、断面三角形を呈する口縁部は、大きく内湾する。文様は施さないが、口縁端部に粘土紐を「W」字状に貼り付けている。胎土には金雲母を多量に含んでいる。

798は若干外傾する頸部と、弧状に内湾して立ち上がる口縁部をもつもので、内湾部分に文様を施している。文様は幅0.2cm程度の沈線で、多重の三角文状を呈している。胎土には茶褐色の砂粒を多く含んでいる。

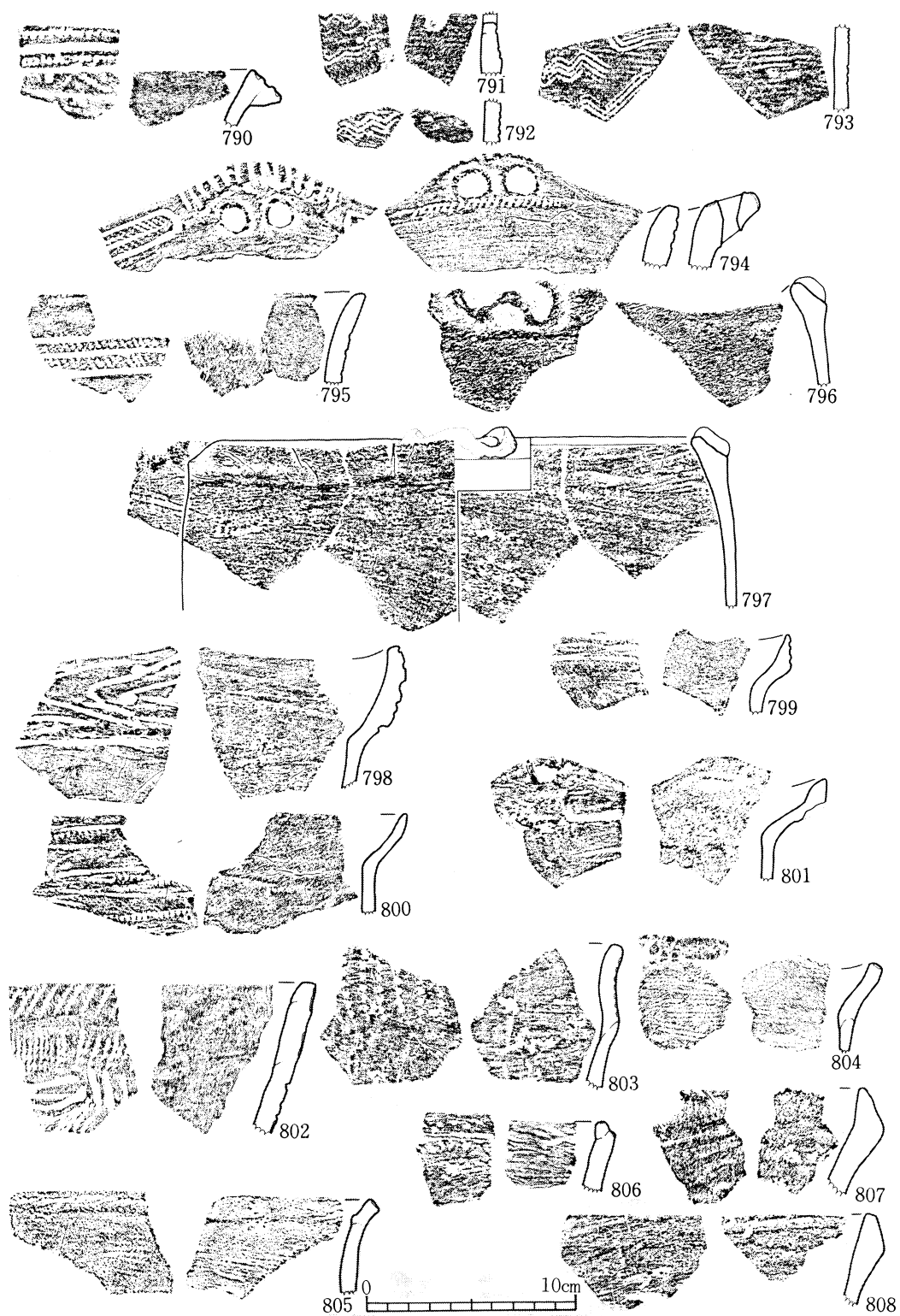
799は大きく外反する口縁部で、断面三角形状を呈し外面に稜をもつ。口縁端部に二本から三本の沈線が施されている。

800・801は同一個体と思われるもので、器形は直行して立ち上がる頸部から外反する口縁部へと続くが、口縁端部は若干立ち上がる。文様は口縁部屈曲部と胴部に貝殻腹縁による浅い連続刺突文を施すものである。801のように口縁端部が肥厚し山形口縁を呈する部分もある。

802は外傾する口縁部で、口唇部はフラットな面をもつ。文様は貝殻縁による連続刺突文と短沈線との組み合わせである。胎土には金雲母を多く含んでいる。

803は断面「く」の字状を呈する口縁部で、口縁直下に縦位にあてた貝殻腹縁を連続して刺突している。802・803は貝殻を施文具とすることや器形等から第XXIII d類と類似している。

804・805は共に口唇部を文様帯とするもので、口縁部は外反して開いている。804は若干肥厚する山形部をもつ波状口縁で、口唇部に貝殻腹縁による刺突文を横位に（山形部のみ縦位に）施している。805の方も貝殻腹縁による連続刺突文を口唇部に施すものであるが、口縁内面に



第80図 縄文第XXV~XXVII類土器(1)

突帯状の微隆起部をもうけ段を形成している。胎土には金雲母を多く含んでいる。

806はやや外傾する口縁部片で、内面側の口縁端部に断面略円形の粘土帯を貼り付け、口唇部をつくり、その部分に先端の鋭いヘラ状施文具で連続刺突文を施している。

807・808は断面三角形を呈する口縁部片で、口縁部下に貝殻腹縁による刺突文を観察することができるが、文様帯の部分がほとんど欠落しているために詳細は不明である。

809は浅鉢状の器形を呈するもので、口縁部下と思われる部分に沈線文と連点文を組み合わせて文様を構成している。

810は頸部片で先端の鋭いヘラ状施文具で縦横に平行沈線を施し、さらに横位の沈線間には貝殻腹縁による連続刺突文を羽状に施している。

811は弧状に湾曲した土器片である。文様は鋸歯状に施された短沈線と、断面円形の棒状施文具による刺突文からなる。胎土に砂粒を多く含んでいる。

812はヘラ状施文具による横位の連続刺突文をもつ胴部片である。

813の胴部片は、縦位に施された二本の平行沈線内に、棒状施文具で二列の連続刺突文を施すものであるが、刺突の間隔は不規則である。

814はやや内湾して立ち上がる口縁部片である。文様は口縁部下に四本の平行沈線を施し、さらに下位の二本間には縦位の短沈線を連続して施している。またフラットな面をもつ口唇部には半載竹管状施文具で連続刺突文を施している。

815は外反する口縁部片で、頸部との境には沈線を施している。舌状を呈する口唇部には爪形文状の連続刺突文が施されている。また口縁部内面には中央を窪ませた楕円形の粘土を貼り付け、その端部にはヘラ状施文具により刻みを施している。

816は内外面に貝殻条痕を強く残す口縁部片で、口縁端部から胴部へ斜位の沈線を施している。やや丸みを帯びる口唇部にはヘラ状施文具で連続した刻みを施している。

817はやや外傾する口縁部片で、口縁部下には浅い沈線で曲線文を描いている。

818は縦位の細沈線をもつ胴部片である。

819は二本の平行沈線を横位あるいは斜位に施した胴部片であるが、文様がどのように展開していくかは不明である。

820は内外面に貝殻条痕を強く残す胴部片である。文様は先端の鋭いヘラ状施文具で横位あるいは斜位に数条の沈線を施すものである。胎土には金雲母を多く含んでいる。

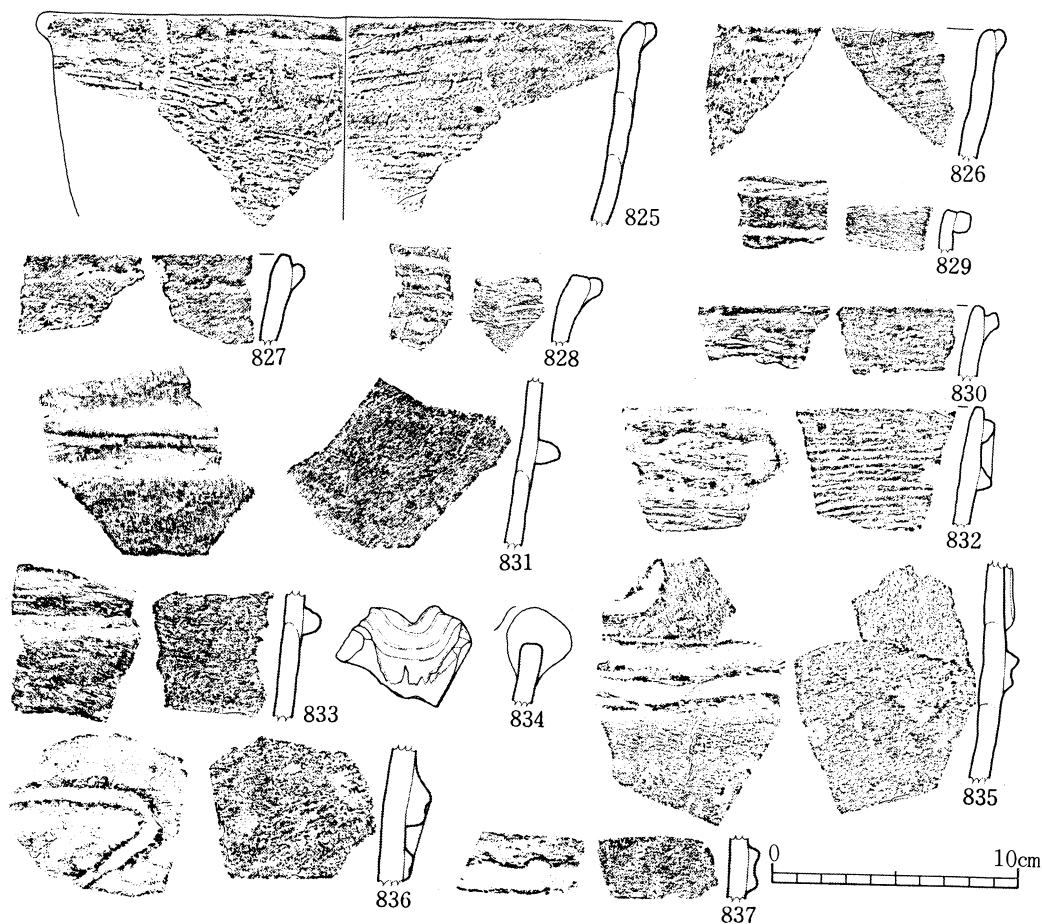
821・822はともに屈曲して大きく外反する口縁部片である。821は口縁部直下に貝殻腹縁による連続刺突文を、屈曲部以下には沈線を施している。822は山形に隆起する部分で口縁部直下にはヘラ状施文具で短沈線状に連続押圧文を施している。

823は波状に貼り付けた横走する微隆起突帯をもつ胴部片で、確認できるだけで七条の突帯をもつ。

824は半載竹管状施文具による押し引き文と、同施文具による連続刺突文を施す胴部片である。



第81図 縄文第XVII類土器(2)



第82図 縄文第XXVII類土器(3)

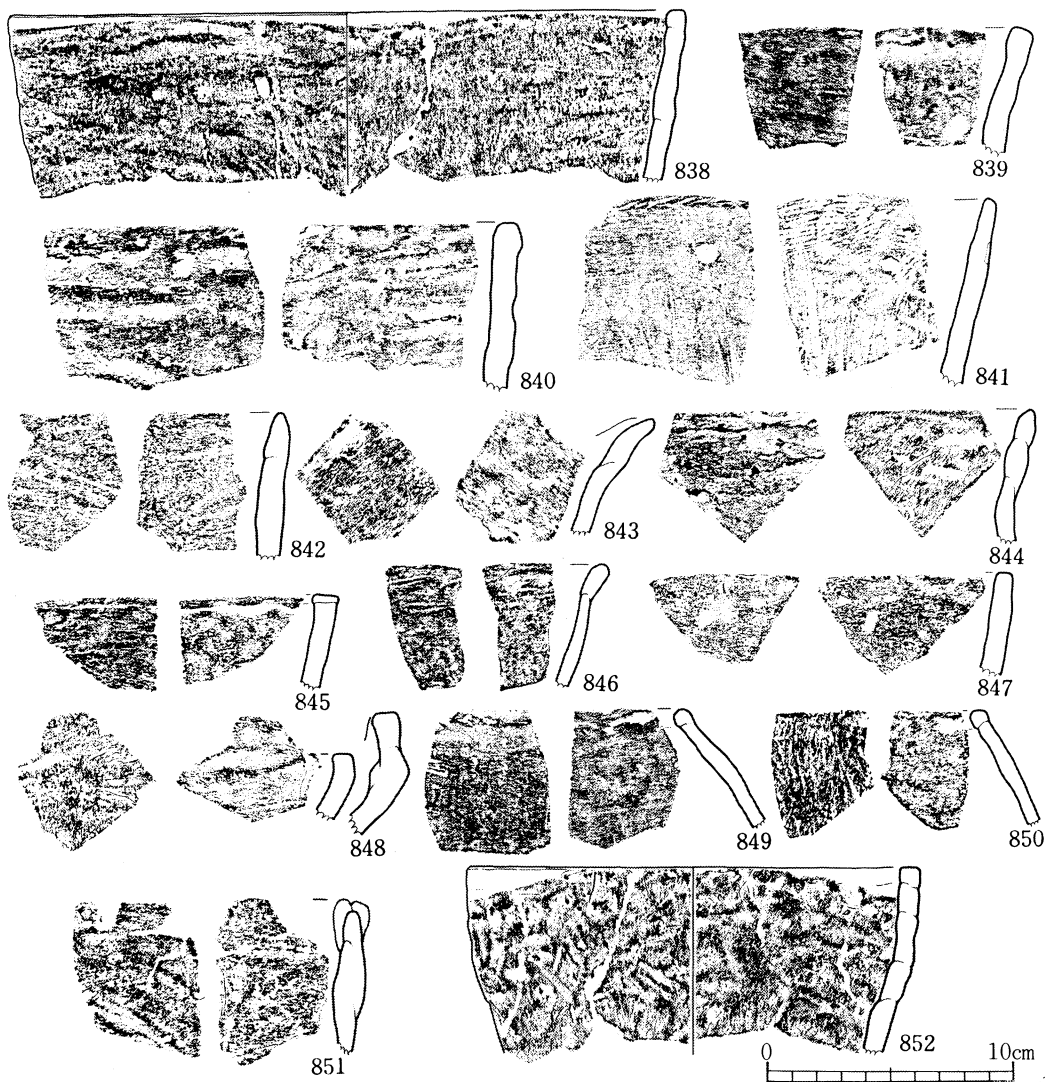
825は復元口径25.3cmを測るもので、口縁端部に粘土帯を貼り付け、二重口唇状を呈するものである。内外面共に貝殻による器面調整の後、ナデ仕上げを行っている。文様は施されていない。826～830も同様な器形をもつ口縁部片である。

831・833は断面略台形状の貼り付け突帯をもつ胴部片である。口縁形態がどのようなかは不明である。

832は、口縁部直下に断面三角形の突帯を、「U」の字を左に90度倒したような形に貼り付けたものである。内外面には貝殻条痕を強く残している。全体的に作りが粗く、突帯貼付も雑な仕上げである。

834～837は外面に幅広の突帯を貼り付け、さらに突帯の中央部に溝状の太形凹線を施すものである。834は口縁端部に、中央に溝のある幅広突帯を「V」字状に貼り付けるものである。

835～837は同様な突帯で直線文あるいは曲線文を形成する胴部片である。これらの突帯がどのように展開していくのか、また口縁部の形態はどのようなのか詳細は不明である。内外面ともにナデによる器面調整を行っているが、832と同様に突帯の整形は非常に粗いもので、突帯の幅断面形は不規則な仕上げとなっている。



第83図 縄文無文土器 2

(29) 無文土器 2 (第83図 838~852)

第Ⅶ,Ⅷ層より出土した無文土器を一括して扱った。

838は復元口径27.7cmを測るもので、若干外傾する口縁部をもつ。口唇部はやや丸みを帯びている。内面は丁寧なナデ仕上げであるが、外面は粗く、ススが付着している。839・840は若干外傾する口縁部片で、口縁端部をわずかに肥厚させている。内外面とも仕上げが粗く、凹凸が激しい。841は外傾する口縁部片で、舌状を呈する口唇部の外面には、ヘラ状施文具による非常に浅い連続刺突文が施されている。842は舌状を呈する口唇部をもつもので、金雲母を多量に含んでいる。843は大きく外反する口縁部で、波状口縁を呈する。口唇部は細く、舌状をなす。844は若干外傾する口縁部片で、内外面に粘土の接合状況を明瞭に残している。845はほぼ直行する口縁部片で、口唇部はフラットである。846はやや外反する口縁部片で、口唇部

はわずかに肥厚し、丸みを帯びている。器壁は0.5cm弱と非常に薄い。847はやや外傾する口縁部片で、内外面とも非常に雑な仕上げである。848は若干内湾気味に立ち上がる口縁部片で、「く」の字に屈曲する突起部をもつ。849・850は大きく内傾する口縁部片で、無頸壺状の器形を呈する。口唇部は若干肥厚する。851はほぼ直行する口縁部片で、口縁端部の内外面に粘土を貼り付け、肥厚させている。852は復元口径18.4cmを測るもので、口縁部はわずかに外傾し、口唇部はフラットを呈する。幅2cm弱を一単位とする粘土帯を積み重ねた痕跡が明瞭に観察される。

(30) 特殊な飾り付けをもつ土器 (第84図 853～856)

853・854は同一個体と思われるもので、ほぼ直行する口縁部片である。フラットな口唇部には、半載竹管状施文具で連続刺突文を施している。口縁部下には三本の平行沈線と、縦位の短沈線による文様が施されている。口唇部には長方形の粘土帯を覆うようにして貼り付け、半載竹管状施文具により刺突文が施されている。855はほぼ直行する口縁部片で、波状を呈する口縁部の山の先端部に幅0.8cm、厚さ0.4cm程度の粘土帯を巻き付けている。口唇部にはヘラ状施文具による刻みを、口縁部下には浅くて細い沈線を施している。856も直行する口縁部片でやや隆起させた口唇部分を包むように、二本の細い粘土帯を貼り付けている。

(31) 円盤状土製加工品 (第84図 857～867, 第7表)

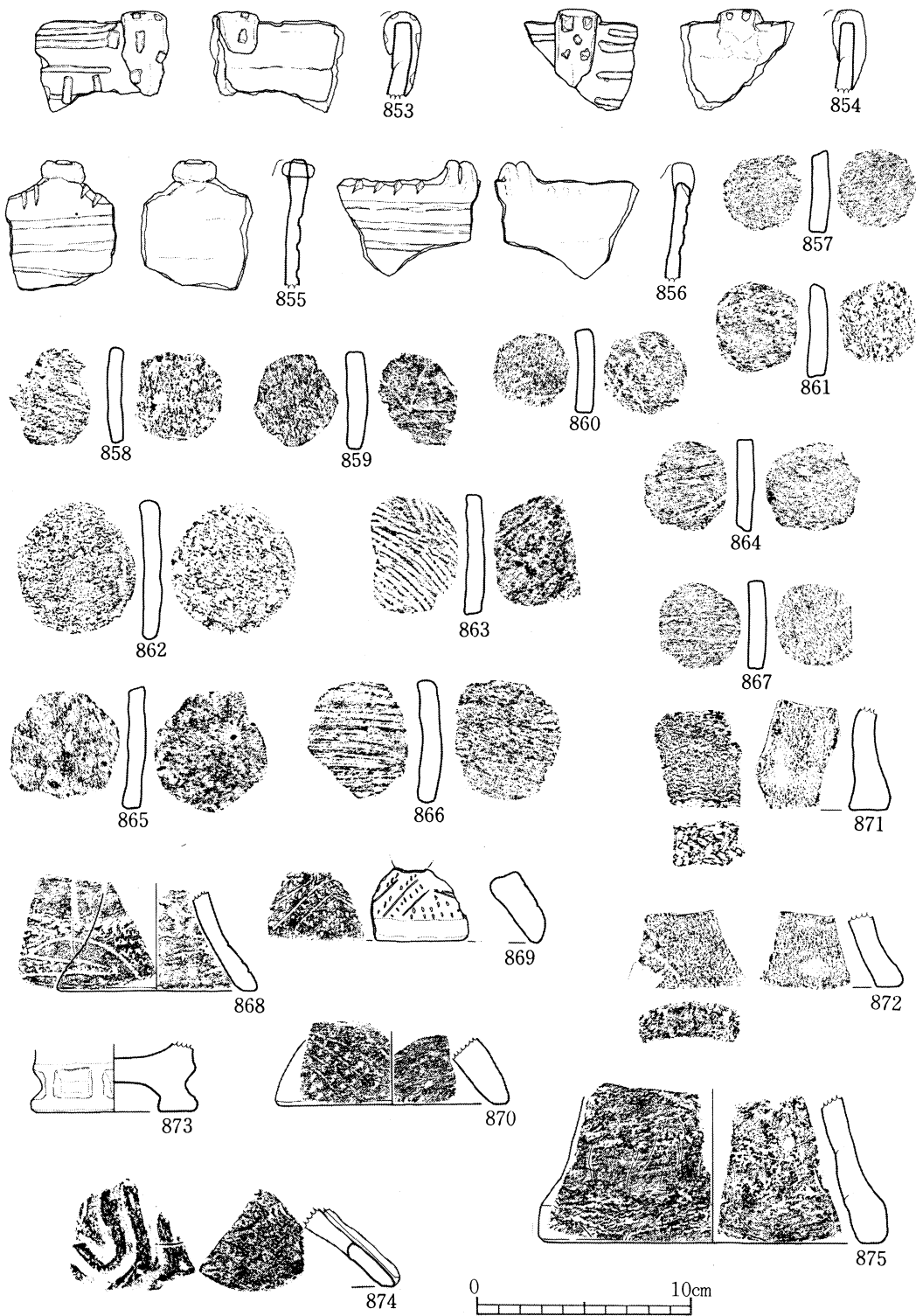
土器片の側面を加工して円盤状に仕上げるもので、通称メンコと呼ばれるものである。総数11点の出土であったが、すべて土器片の無文部を加工したものであった。詳細は第7表参照。

(32) 特殊な底部 (第84図 868～875)

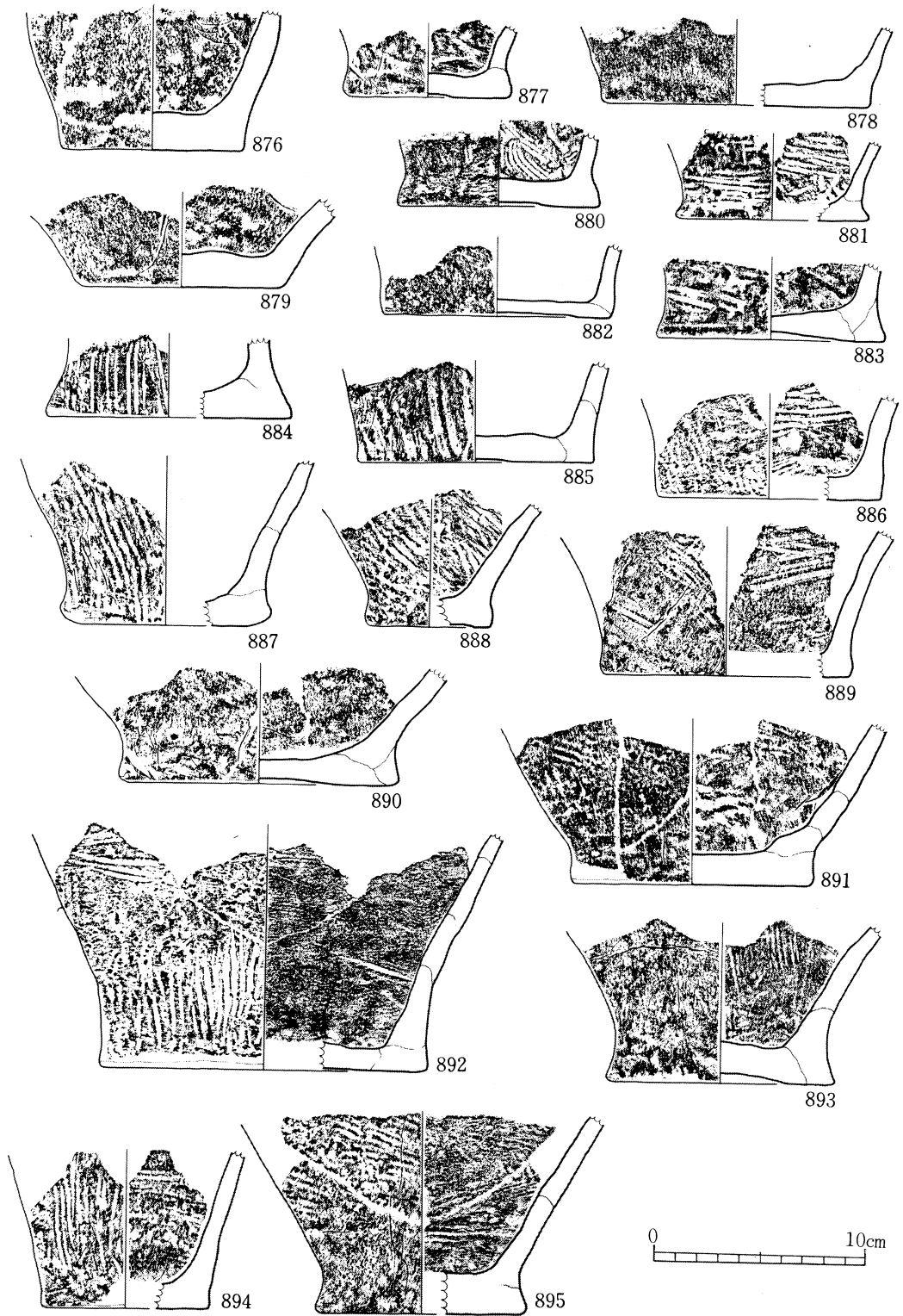
868～875は脚台である。868はやや屈曲して開くもので、ヘラ状施文具による細沈線や連続刺突文、貝殻腹縁による連続刺突文等で文様を構成している。869・870は同一個体と思われるもので、底端部はやや丸みを帯びる。平行して鋸歯状に施す細沈線と先端の鋭いヘラ状施文具による連続刺突文とで文様を構成している。869には透かし孔の痕跡もみられる。871・872はフラットな底面をもつ脚台である。871の底面には網代の圧痕が残っている。873は上げ底で側面に凹凸をもつ。凹部の形状は不規則で、上げ底のつくりも非常に雑である。874は大きく開く脚台である。破片のために全体の展開は不明であるが、外面には「J」字状に突帯を貼り付け、さらに突帯中央部には溝状の沈線を施している。透かし孔の痕跡もみられる。胎土には金雲母を多く含んでいる。875は比較的丈の高い脚台で、底端部は肥厚して外側に段をもつ。肥厚部には貝殻腹縁による連続刺突文を施している。

第7表 円盤状土製加工品計測表

遺物番号	最大長(cm)	最大幅(cm)	器壁(cm)	重量(g)	備 考
857	3.9	3.6	0.8	17.1	胎土に石英を多く含む
858	4.4	(4.0)	0.7	18.1	若干外側にカーブする
859	4.6	4.0	0.9	23.9	内外面とも丁寧な調整である
860	4.0	3.8	0.8	17.2	ほぼ円形である
861	4.3	3.8	0.9	22.0	胎土に金雲母を多く含む 第X X III類か?
862	6.5	5.5	0.8	42.5	胎土に金雲母を多く含む底部片である 第X X III類か?
863	5.7	(3.9)	0.8	27.8	内面に斜位の貝殻条痕を残す
864	4.4	3.8	0.8	23.8	胎土に金雲母を多く含む 第X X III類か?
865	5.7	5.0	0.8	37.5	若干内側にカーブする
866	5.7	(4.7)	0.9	39.6	内面に横位の貝殻条痕を残す
867	4.1	3.8	0.8	19.5	ほぼ円形で胎土に金雲母を多く含む 第X X III類か?



第84図 縄文特殊な飾り付け，円盤状土製加工品他

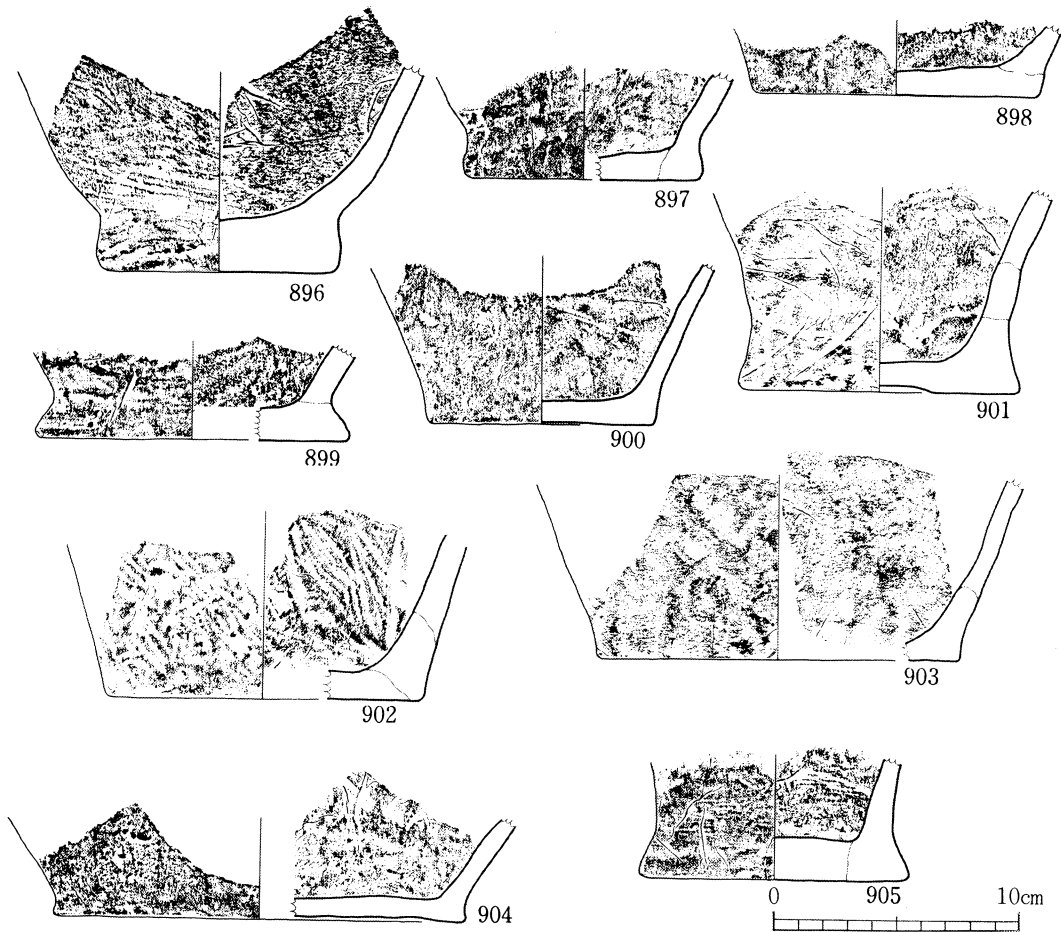


第85図 縄文底部(1)

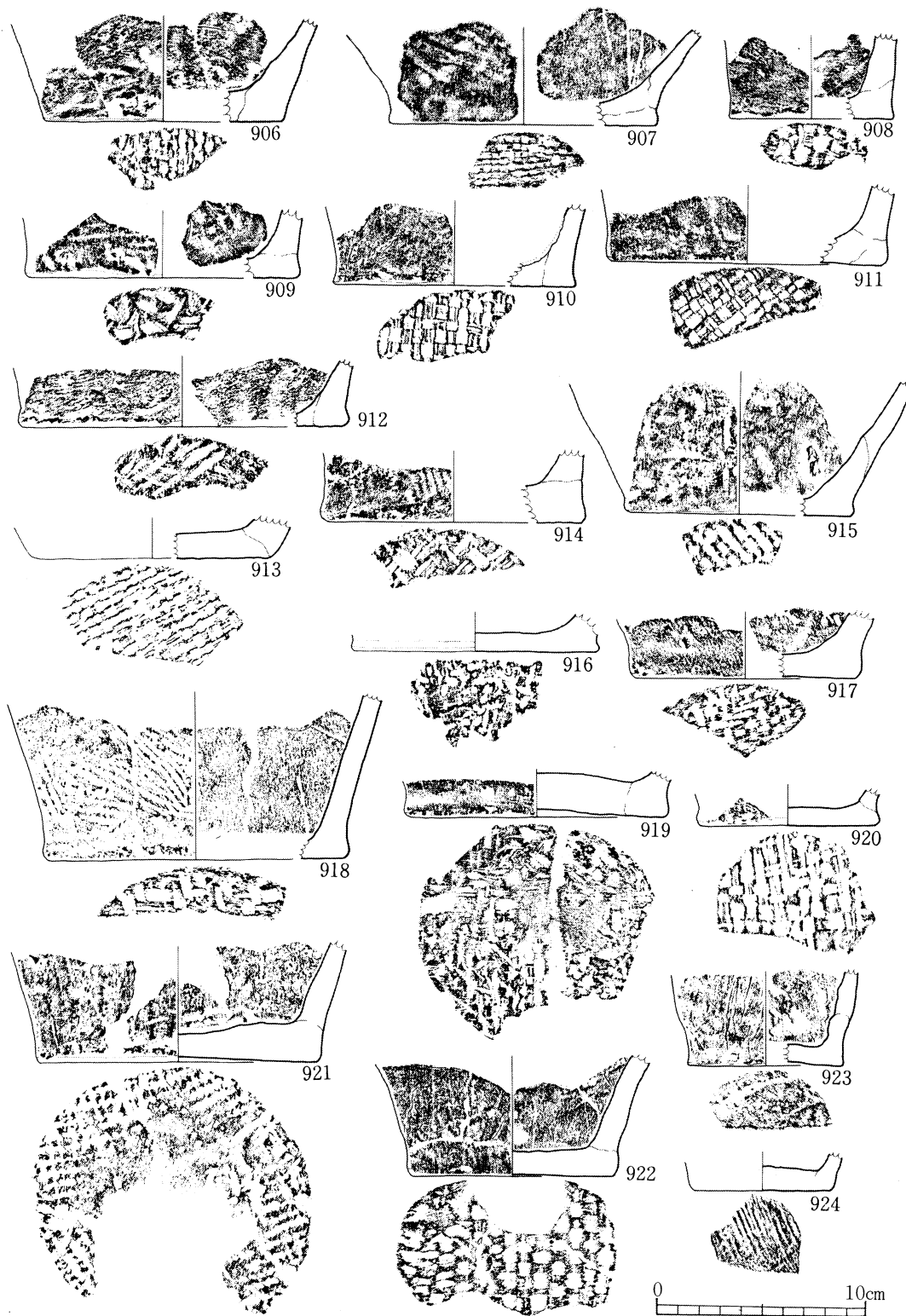
(3) 底部 (第85図～第87図 876～924)

第Ⅶ, Ⅷ層より出土した底部を一括して扱った。ただし第ⅩⅩⅢ類土器の底部と思われるものは、115頁で扱った。

876～905は底面をナデ整形したもの、906～924は底面に圧痕及び条痕を残しているものである。底面は平底のものや中央がわずかに窪むものがある。また底部の器形は、底端部から直接開くものや、わずかにくびれて開くもの、やや直行してから開くものなどがある。また底端部形状は、シャープなもの、わずかに丸みを帯びるものなどがある。底径は最大が904の16.8cm、最小が888の5.8cmであるが、ほぼ8cm～14cmの中で収まり、11cm内外のものが最も多い。器面調整は内外面共に丁寧なナデ調整を施すものもあるが、902のように内外面に貝殻条痕を残すものや、884・885・892のように底端部に縦位の貝殻条痕を刻み状に施しているものもある。906～922は網代底である。平編み、綾編み等がみられる。923は木葉底の一部である。924の小型土器の底面には貝殻条痕が施されている。また明瞭に鯨底と確認できるものはなかった。



第86図 縄文底部(2)



第87図 縄文底部(3)

(34) 第XXVIII類土器 (第88図～第91図 925～997)

この土器類は深鉢(925～967)と精製浅鉢(968～997)の2種類が出土している。

深鉢は925～944が口縁部で945が頸部から胴部にかけてのもので945～967は底部である。

この土器類は口縁部が外反し、頸部と胴部で「く」字状に折れる器形をもつものである。

925は雑な沈線を横位に施した口縁部である。その沈線は浅く10本前後あり、重り合っている部分が多い。頸部は口縁部の厚味より薄いため段がみられる。内側の器面調整はヘラナデで丁寧に仕上げている。926は沈線が4条横位にみられ、口縁部は内湾しながら外反している。口縁部から頸部にかけては段差が少ない。内面の調整は良い。927は内湾しながら外反する口縁部で沈線は2条ある。口縁部と頸部の境は段差がみられる。928は外反する口縁部で5条の沈線を横位に施して、内外面とも丁寧に器面を仕上げている。口縁部と頸部は段差がみられる。

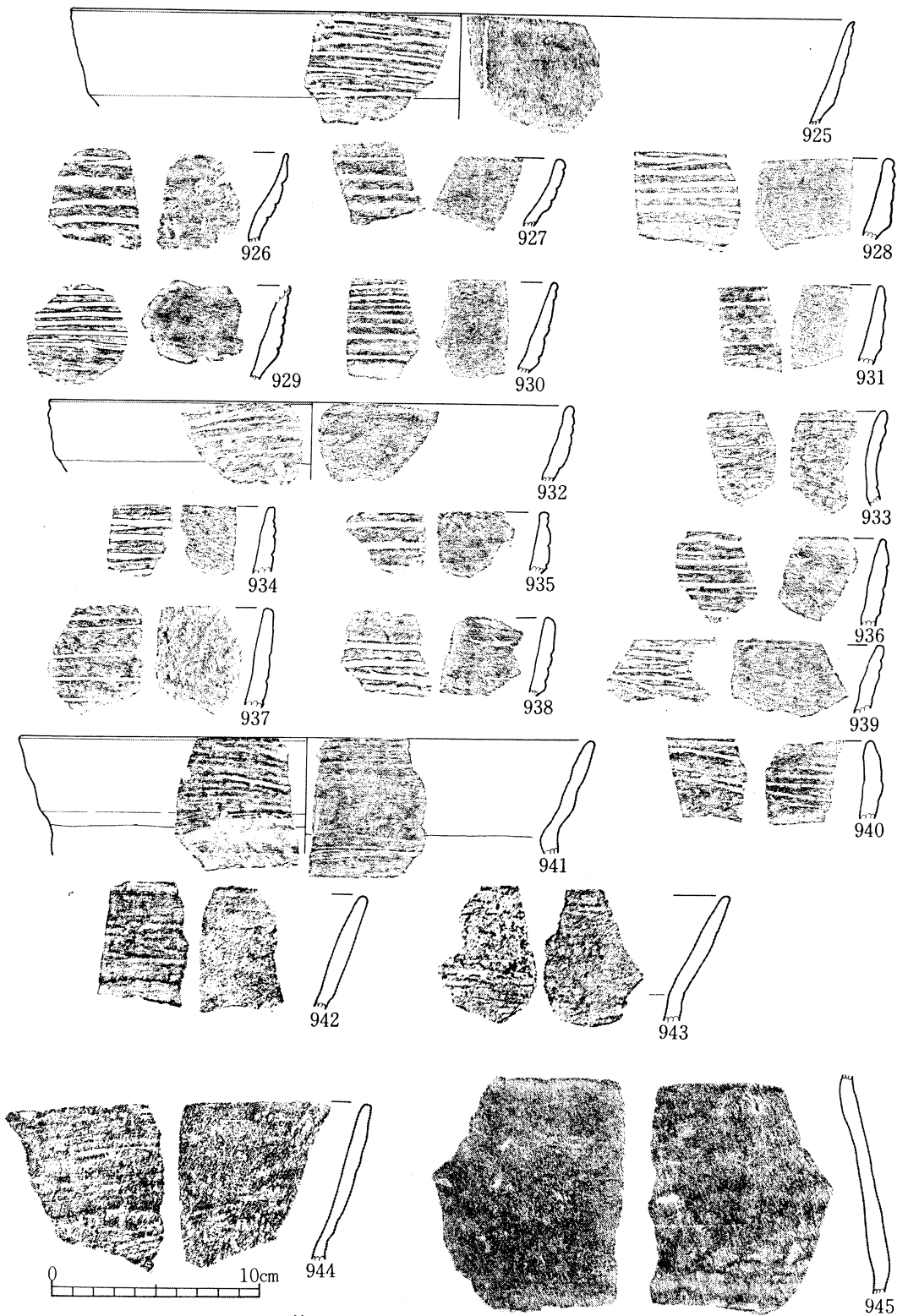
929は外反する口縁部で6条以上の沈線を施し、頸部には段差があり、内外面とも器面調整はよい。これは土器片加工品(メンコ)と思われる。930は10条の沈線が施され925と同じような器形である。931は3条の沈線を浅く施し、930と同じ様な器形である。932は雑な浅い沈線を5条施し925と同じ器形である。933は5条の細い沈線が施されているもので外湾気味に口縁部が外反している。934は4条以上の沈線をもつ口縁部である。935は3条以上の沈線をもつ口縁部である。936は4条以上の沈線で937は5条以上、938は3条以上みられる口縁部である。939は条痕気味の荒い沈線である。940は雑な沈線を施し頸部の段差は緩やかである。内側には条痕がみられる。以上が沈線を口縁部にもつものである。

941～944は器形は同じだが口縁部に沈線が施されていない土器群である。941は口縁部が外反し、頸部で段差がつく土器である。942も同じ様な土器で943・944は頸部で段差がつかない土器である。すべて口縁部の外面の調整は横位にヘラで施している。

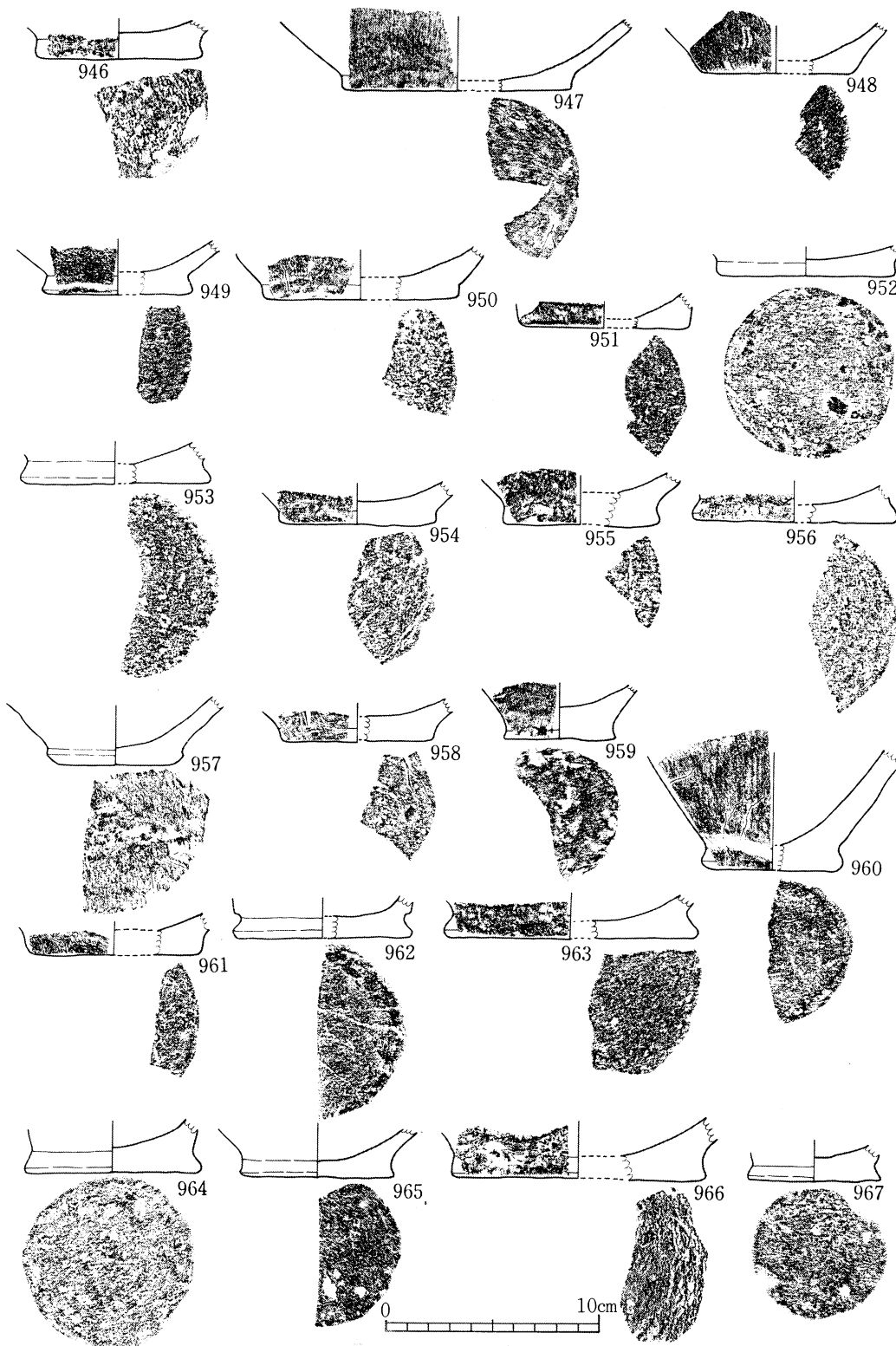
945は頸部から胴部にかけてのもので頸部と胴部に稜線がつく器形である。

946～967は底部である。平底で底の高さが低い。946・949・953・956・962・963・964・967は底部の張り出しが大きく、947・950・951・952・954・955・957・958・959・960・961・965・966は底部の張り出しが小さい。948は底部の張り出しがない形態である。また、946・952・962・960は胎土の色が黒色を呈し、他は茶褐色を呈している。この中で949と952・960は黒色研磨に類似した器面調整をしているのが目立つ。

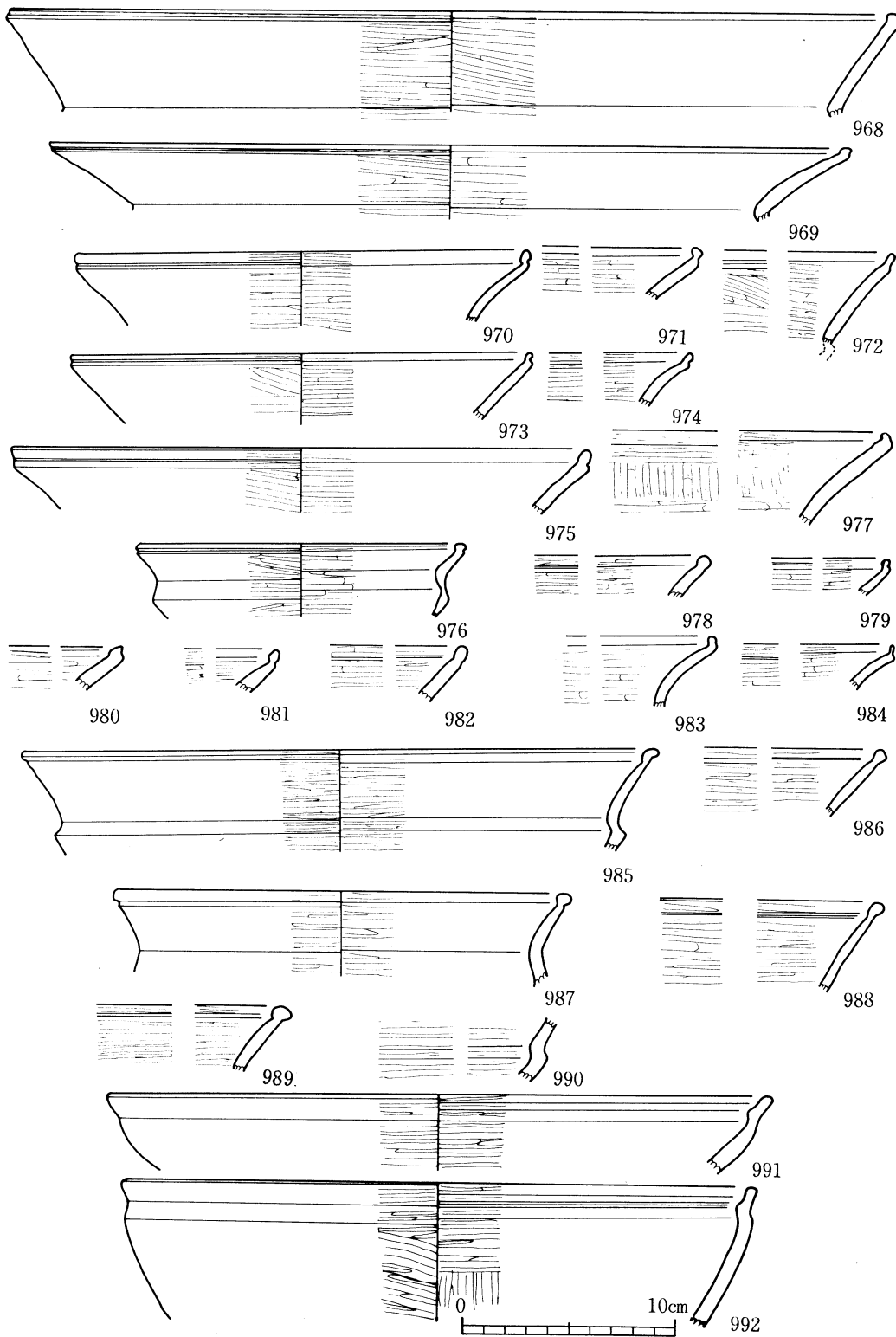
968～997は精製浅鉢である。口縁部が外反し、頸部・胴部が「く」字状に折れ、口縁部が玉縁状になる器形で内外両面はヘラ研磨をした精製浅鉢である。この種の浅鉢を精製浅鉢としたのは浅鉢でも外面をヘラナデやヘラケズリ調整をしたものや組織痕がみられる浅鉢と区別したためである。この精製浅鉢は968～984と985～989に分けられる前者を精製浅鉢IAa、後者を精製浅鉢IAbとして区別した。その理由は口縁部の造りで前者は外器面に沈線を持ち、沈線の下に角をもつもので、後者は沈線の下に角がみられないものである。968～984の中では976が研磨の方向が若干異なるがだいたい横位のヘラ研磨の調整である。985～989の調整は横位のヘラ研磨調整である。なお990は頸部であるためどちらに属するか不明である。



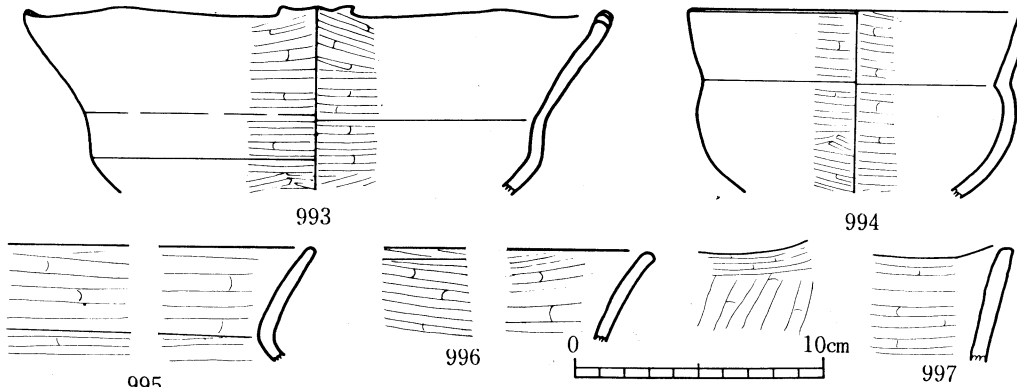
第88図 縄文第XXVIII類土器(1)



第89図 縄文第XXVIII類土器(2)



第90図 縄文第XXVIII類土器(3)



第91図 第XXⅧ類土器(4)

(35) 第XXⅧ類土器 (第92図～第120図 998～1314)

この土器類は、深鉢(998～1123)と精製浅鉢(1124～1212)・粗製浅鉢(1213～1314)と1210の特殊土器の3形態に分類した。なお浅鉢を精製と粗製に分けた理由としては前の項でも述べたように両面研磨した浅鉢と内面だけ研磨を行い、外面は組織痕やヘラナデ・ヘラケズリ調整を行う浅鉢があるために、前者を精製浅鉢とし、後者を粗製浅鉢とした。そして精製浅鉢の中には皿形土器、マリ形土器も含めた。

① 深鉢 (第92図～第102図 998～1123)

深鉢はⅠ・Ⅱ・Ⅲに大きく分け、Ⅲはその中でAとBに分類した。深鉢Ⅰは(998～1022)で深鉢Ⅱは1023～1037、深鉢ⅢAは1038～1061、深鉢ⅢBは1062～1071である。1072～1123は深鉢Ⅱ・Ⅲの胴部・底部である。

a) 深鉢Ⅰ (第92図・第93図 998～1022)

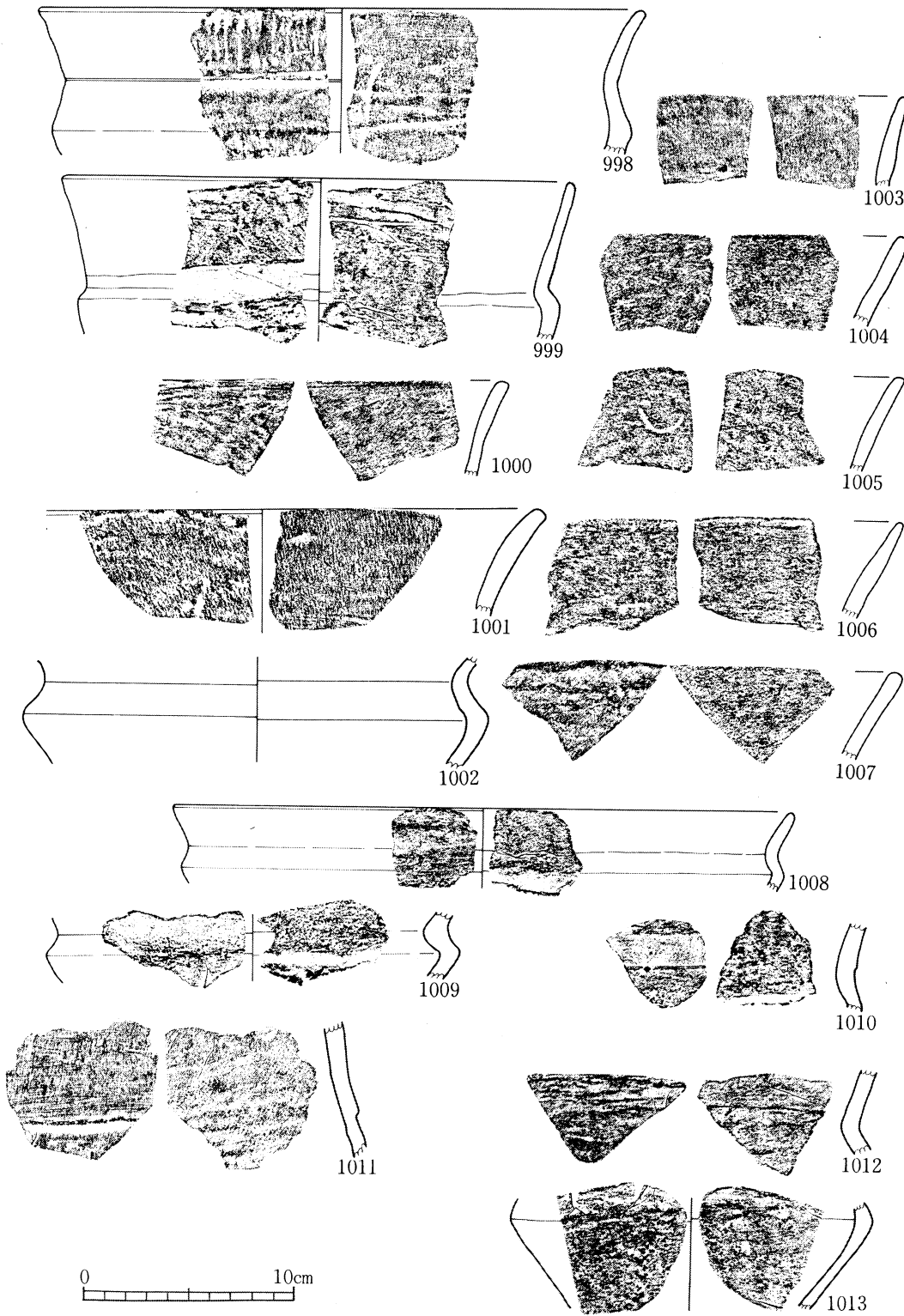
この土器は口縁部が外反し、頸部と肩部で「く」字状に折れる器形をもつ深鉢である。器面調整はヘラナデが主である。998は口縁部から頸部までが短く、頸部から肩部までが長い。口縁部と胴部の器面調整は縦ナデである。999は頸部から肩部までが短く横ナデの器面調整である。1000～1007は外反する口縁部で器面調整は横位のヘラナデで丁寧に施している。1008は口縁部から肩部まで短い土器である。1009～1013までは頸部から胴部にかけてのものである。この中で1011は段差のある頸部である。器面調整はヘラナデで横位に施している。

1014～1022は頸部にリボン状貼付けがあるものである。器形は前の土器と同じである。器面調整は1014と1017がヘラナデの荒い調整痕が残る、他は丁寧にヘラナデ調整痕が残っている。1022は縦位の調整痕もみられる。挿図では4ヶ所のリボン貼付けを表わしているが2ヶ所か4ヶ所かまたはそれ以外かは不明である。なおリボン貼付けは1014・1021・1022は小さく1015・1016は大きく、1018は細長い。

b) 深鉢Ⅱ (第94図・第95図 1023～1037)

この土器は口縁部が若干内湾しながら肩部から内反・直行・外反し、肩部で「く」字状に折れる深い器形の鉢である。

1023～1030は内反ないし、直行する器形で1031～1037が直行ないし外反する口縁部をもつ深鉢である。器面調整はすべてヘラナデの横位痕がある。



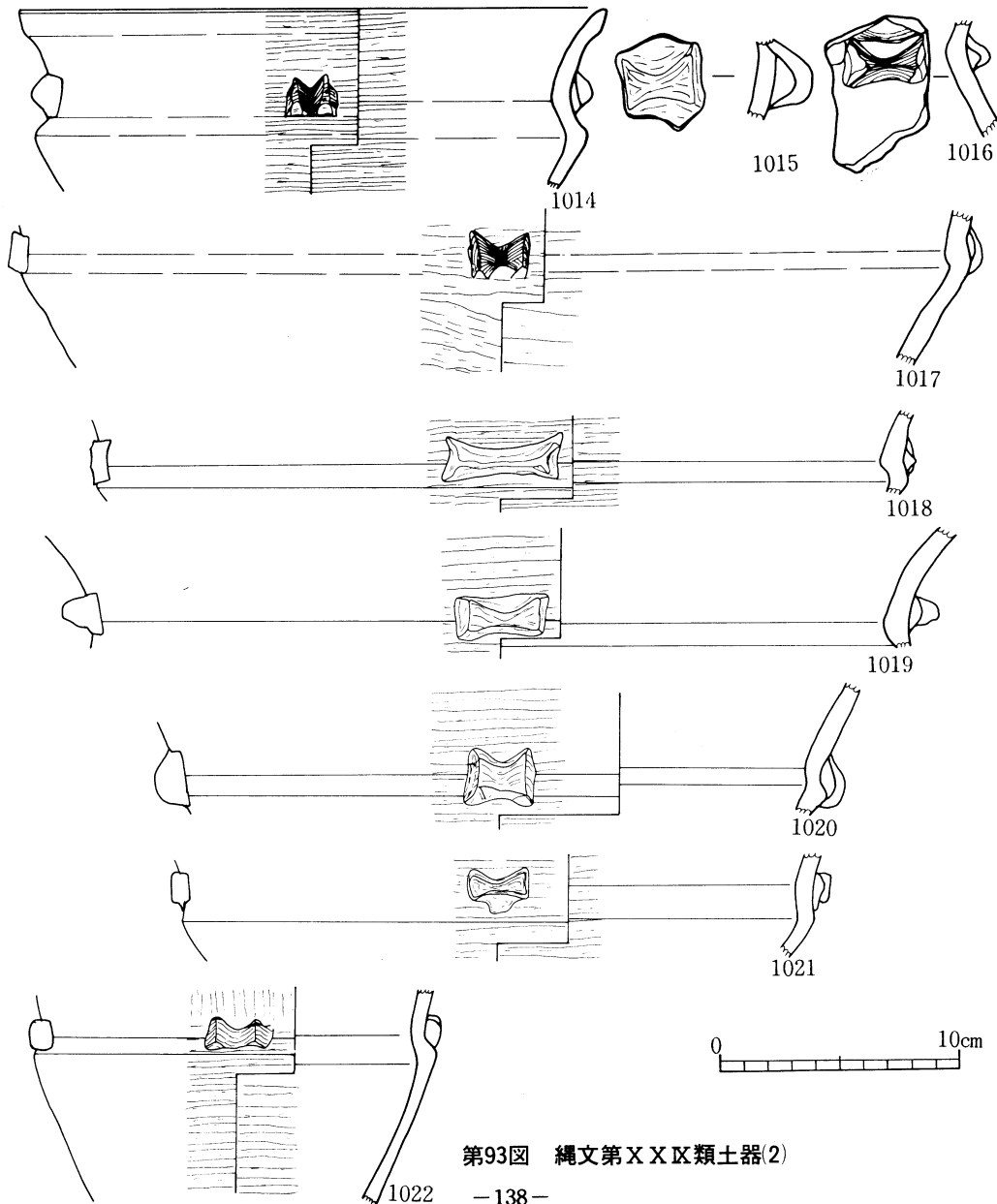
第92図 縄文第XX区類土器(1)

1023・1026は口縁部が内行する器形で肩部があり、他は肩部のところで破損している。1031
1032・1033は口縁部が外反する器形で肩部まであり、他はない。また1027は口縁部が直行する器
形である。

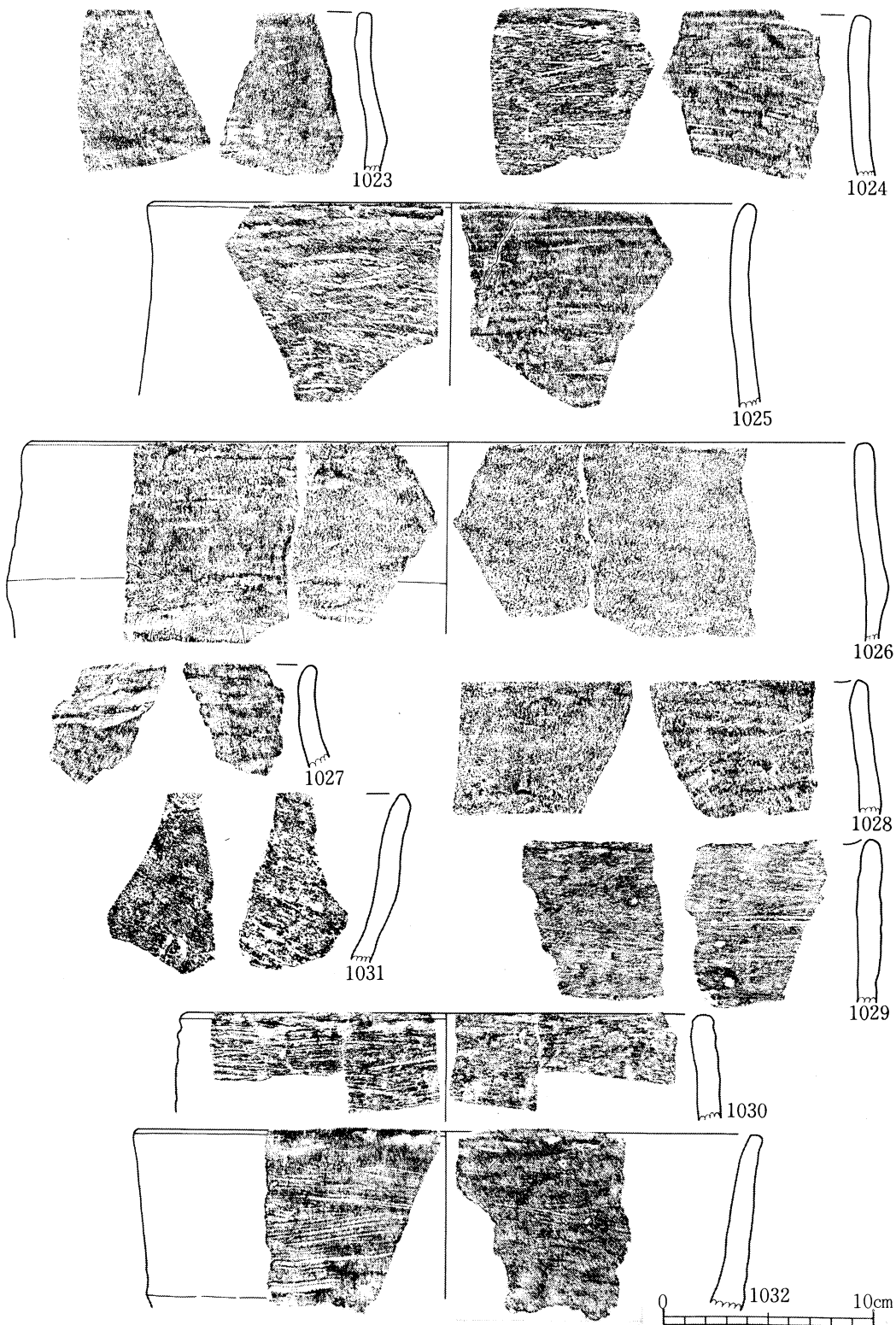
この土器は深鉢Ⅰと対比すると、深鉢Ⅰでは頸部に「く」字状の折れ線が付くのに対して、
この土器は付かずに、肩部の稜線がみられるだけの形態である。また深鉢Ⅰは器壁がやや薄手
であるのに対して厚手である。

c) 深鉢Ⅲ (A—第96図・第97図 1038~1061) (B—第98図 1062~1071)

この土器は口縁部に粘土帯をはり付けたもので口縁部は直行ないしやや外反する器形である。



第93図 縄文第XX区類土器(2)

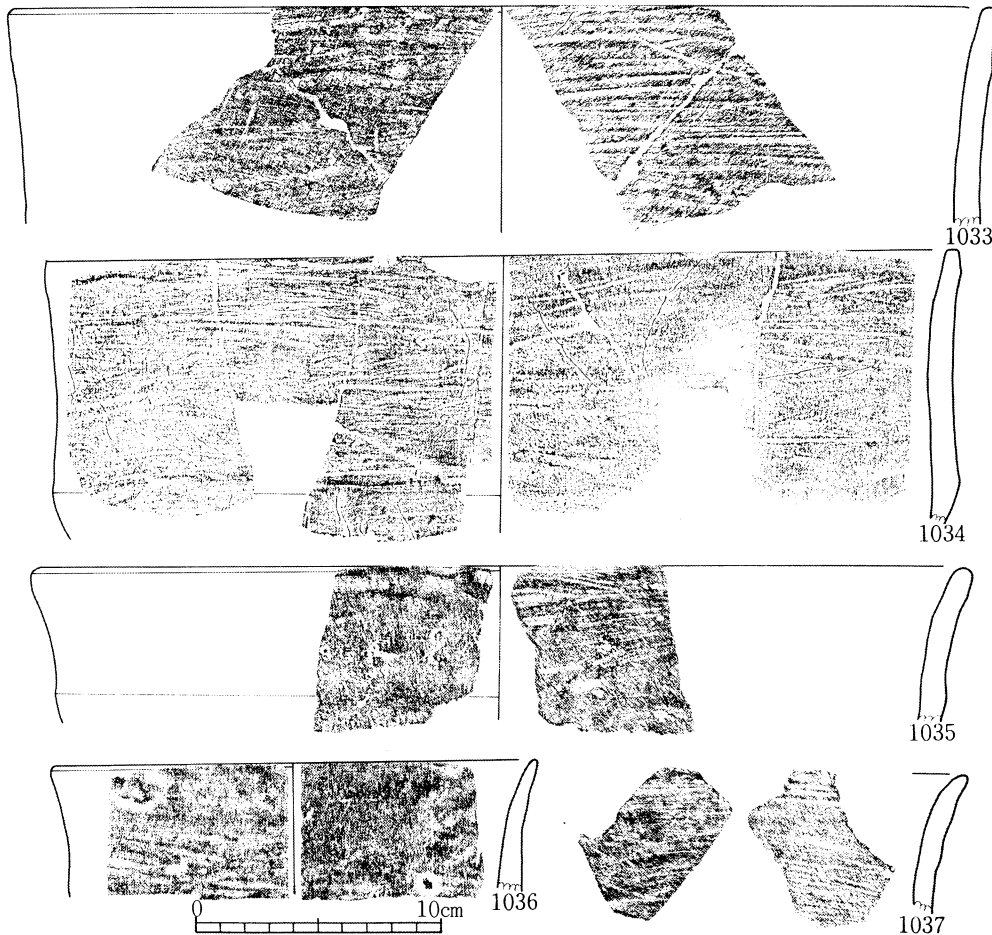


第94図 縄文第XX区類土器(3)

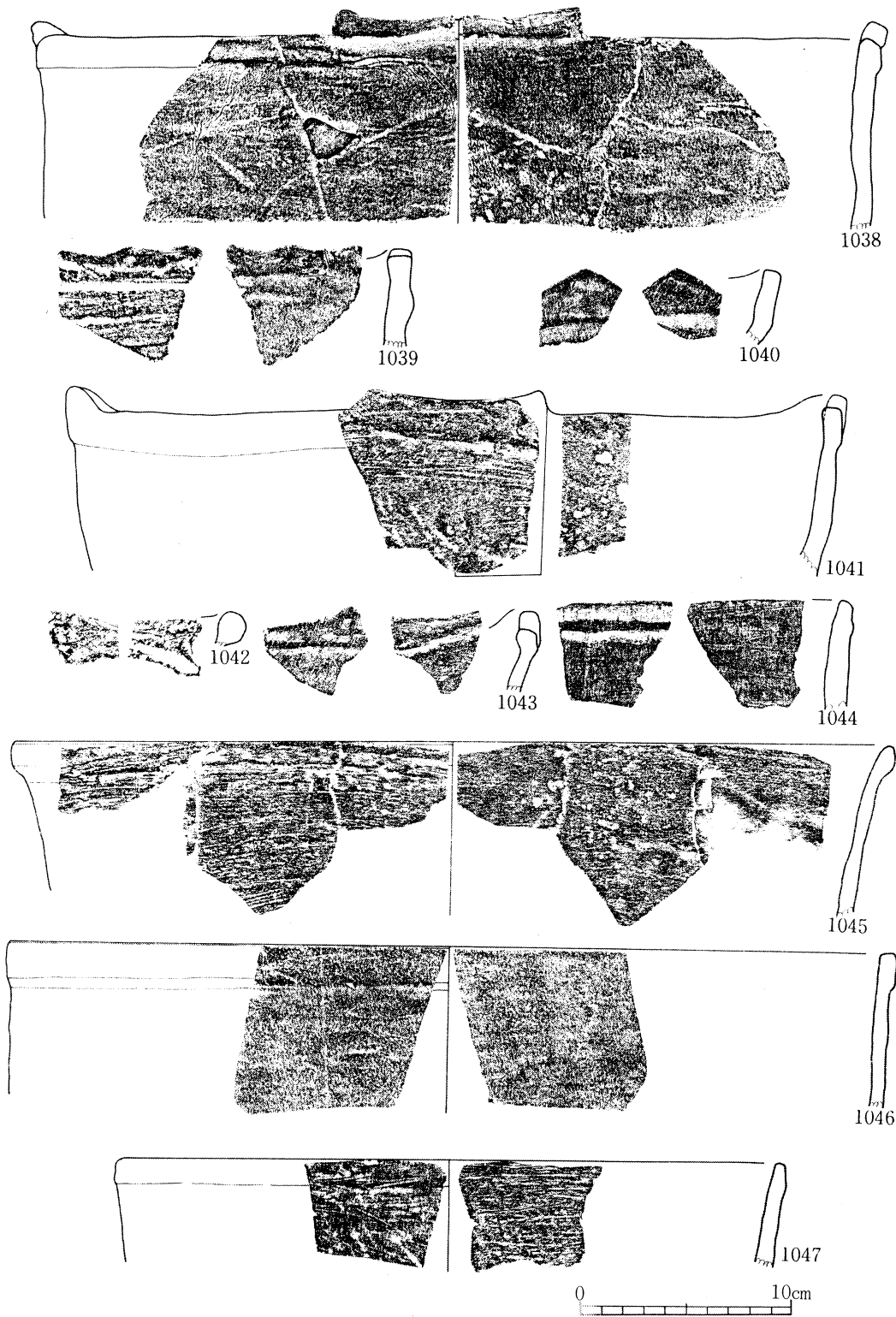
これをAとBに区別した理由は、Bには棒状の施文具で刺突された孔があり、Aには孔が無いものをさしている。

深鉢Ⅲ類Aは1038～1061である。器面調整は丁寧なヘラナデで横位に施こしている。とくに内面の器面調整は丁寧であり、深鉢Ⅱ類とは異なる。1038～1043は口縁部に帯状の肥厚をもち（以下これを有帯と称す）、口唇部に鱗状の突起をつけた部分である。1038・1040は鱗状の突起の中央部に盛り上がりがあり、1042はない。また有帯文の幅は比較的大きなものが1038～1054で1055～1061が狭いものである。これらは焼成が良く比較的硬質である。なお1061には楕円状の突起が付いてある。

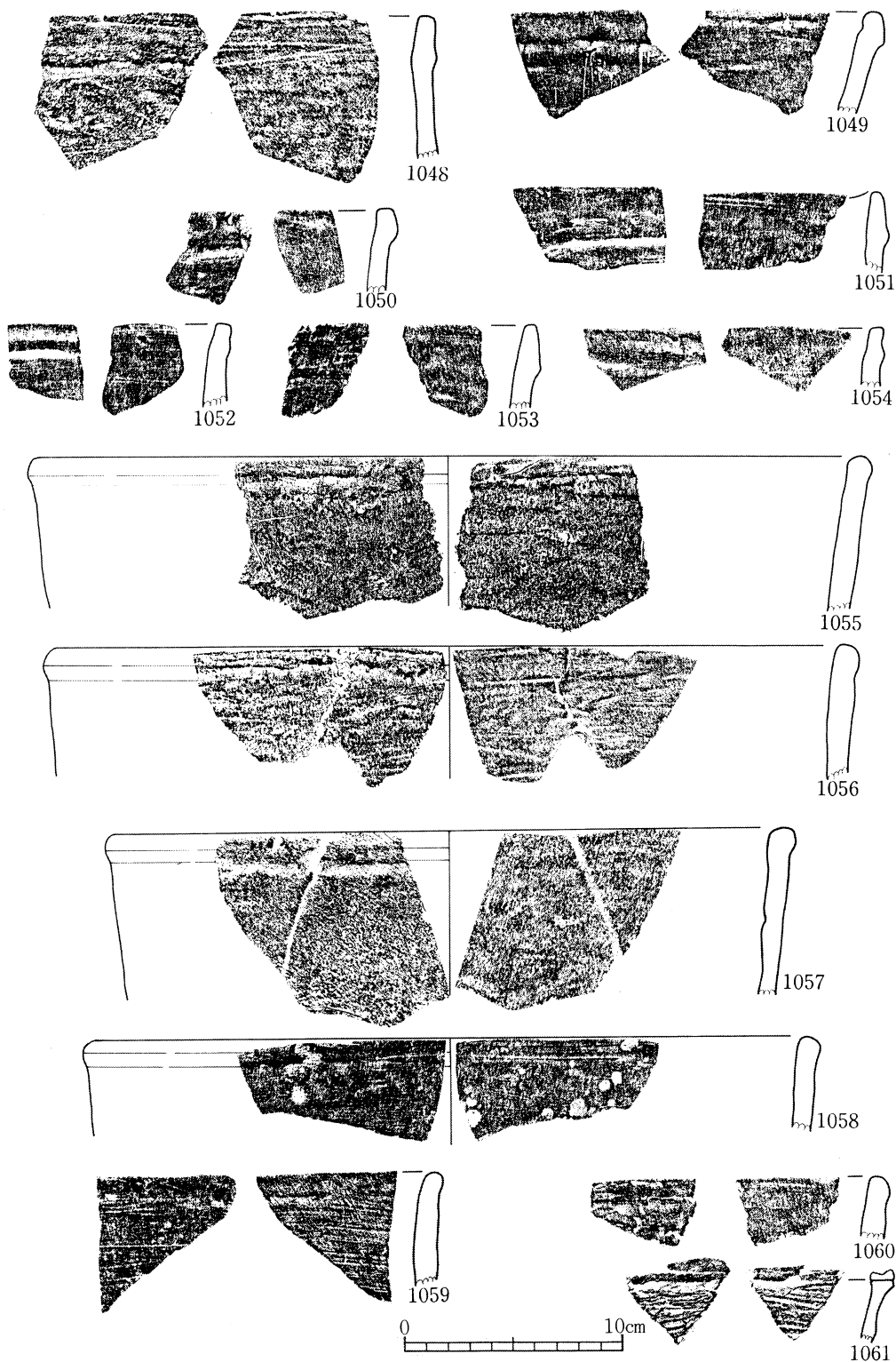
深鉢Ⅲ類Bは1062～1071である。この土器は有帯の深鉢に棒状の施文具で口縁部に刺突したものである。1062は幅の広い有帯の下位に先の尖った施文具で小さな刺突痕が2点みられ、貫通していない。1063は幅の広い有帯の下位に先の尖った施文具で小さな刺突痕が3点みられ、貫通していない。口唇部は山形を呈し、口縁部には縦に沈線を施している。1064は器面調整が荒く、刺突具は棒状で大きく、貫通していないものが2点ある。1065は大きな刺突痕が1点あり貫



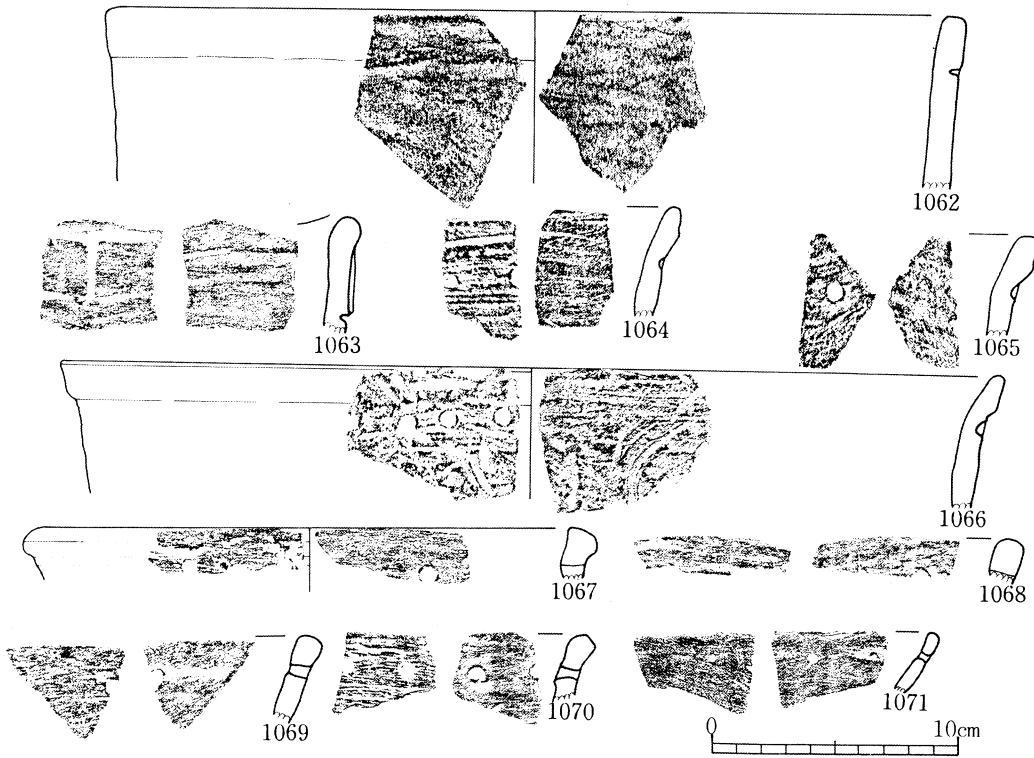
第95図 縄文第XX区類土器(4)



第96図 縄文第XXIX類土器(5)



第97図 縄文第X X区類土器(6)



第98図 縄文第XX区類土器(7)

通していない、1066は大きな刺突痕が4点みられ、貫通していない。以上が幅の広い有帯で、1067～1070は幅の狭い有帯で孔が施されている。

d) 深鉢Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの頸部～底部 (第99図～第102図 1072～1123)

1072～1089は深鉢のⅠ・Ⅱ・Ⅲ類の頸部～胴部にかけてである。器面調整はヘラナデを横位に、内外面ともに、条痕を施している。1072～1079は頸部から肩部がみられ、1080～1089は胴部である。1090～1123は深鉢Ⅱ・Ⅲ類の底部である。底部は厚味があり、張り出しがないものが1090～1100で、張り出しがあるものが1101～1123である。

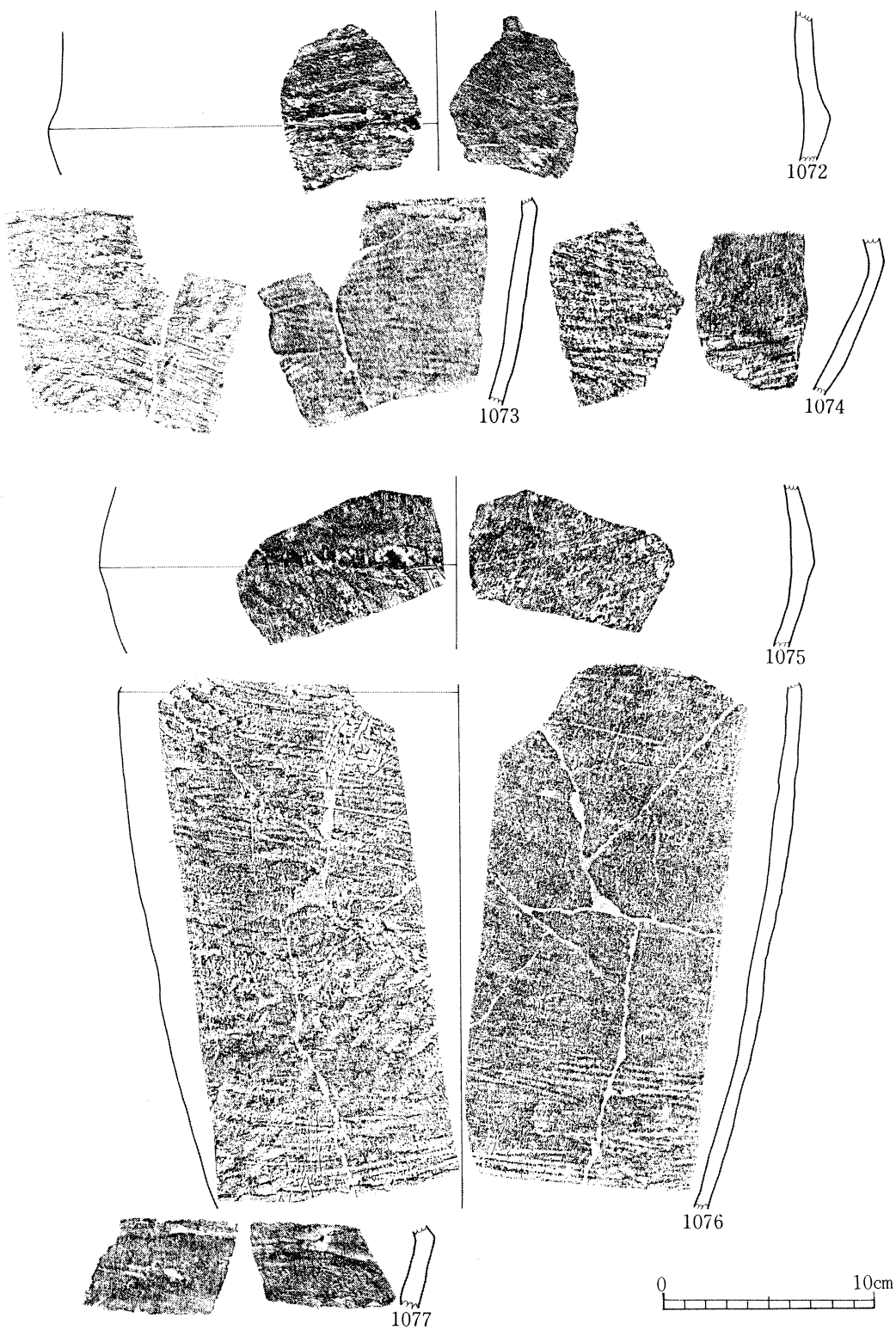
② 精製浅鉢 (浅鉢) (第103図～第109図 1124～1212)

a) 精製浅鉢Ⅰ (第103図 1124～1142)

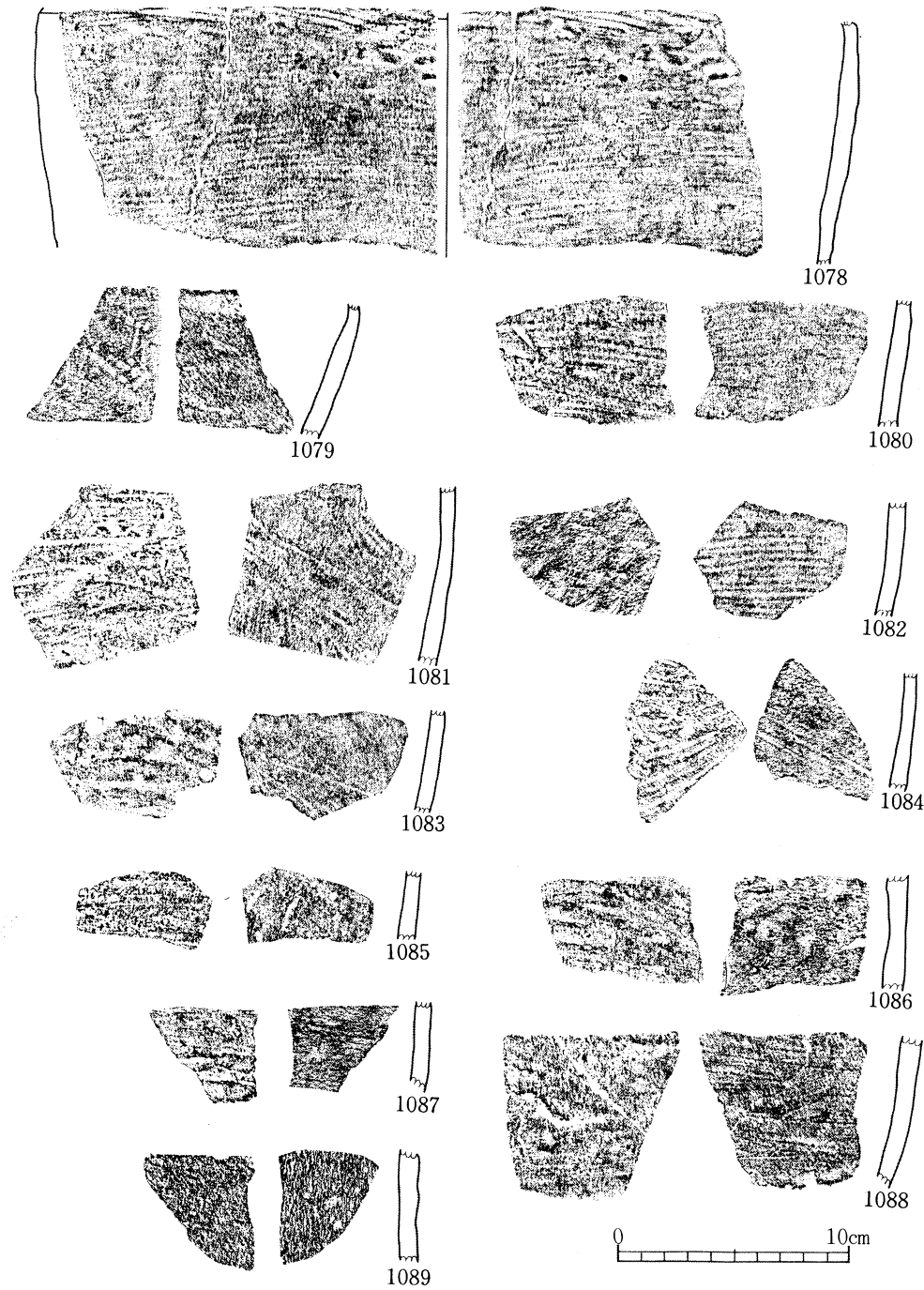
口縁部は比較的短く、頸部で「く」字状に大きく折れ、肩部から胴部にかけては大きく湾曲し、胴部で最大の径がつく器形である。器面は黒色研磨土器特有のヘラ研磨で、横位の調整痕である。口縁部は玉縁状の断面をもち内外に沈線をもっている。

1124は口縁部から胴部まであり精製浅鉢Ⅰの典型的なものである。1124～1128は口縁部外面の内に沈線があり、1129～1135、1139・1140・1142は口縁端部外面の沈線から頸部につながるもので、沈線で段をつくっている土器である。1136～1138は頸部から胴部にかけてである。1141はこの形態の特殊なもので、口唇部が平坦で頸部は「L」字状に折れ、胴部は湾曲している。

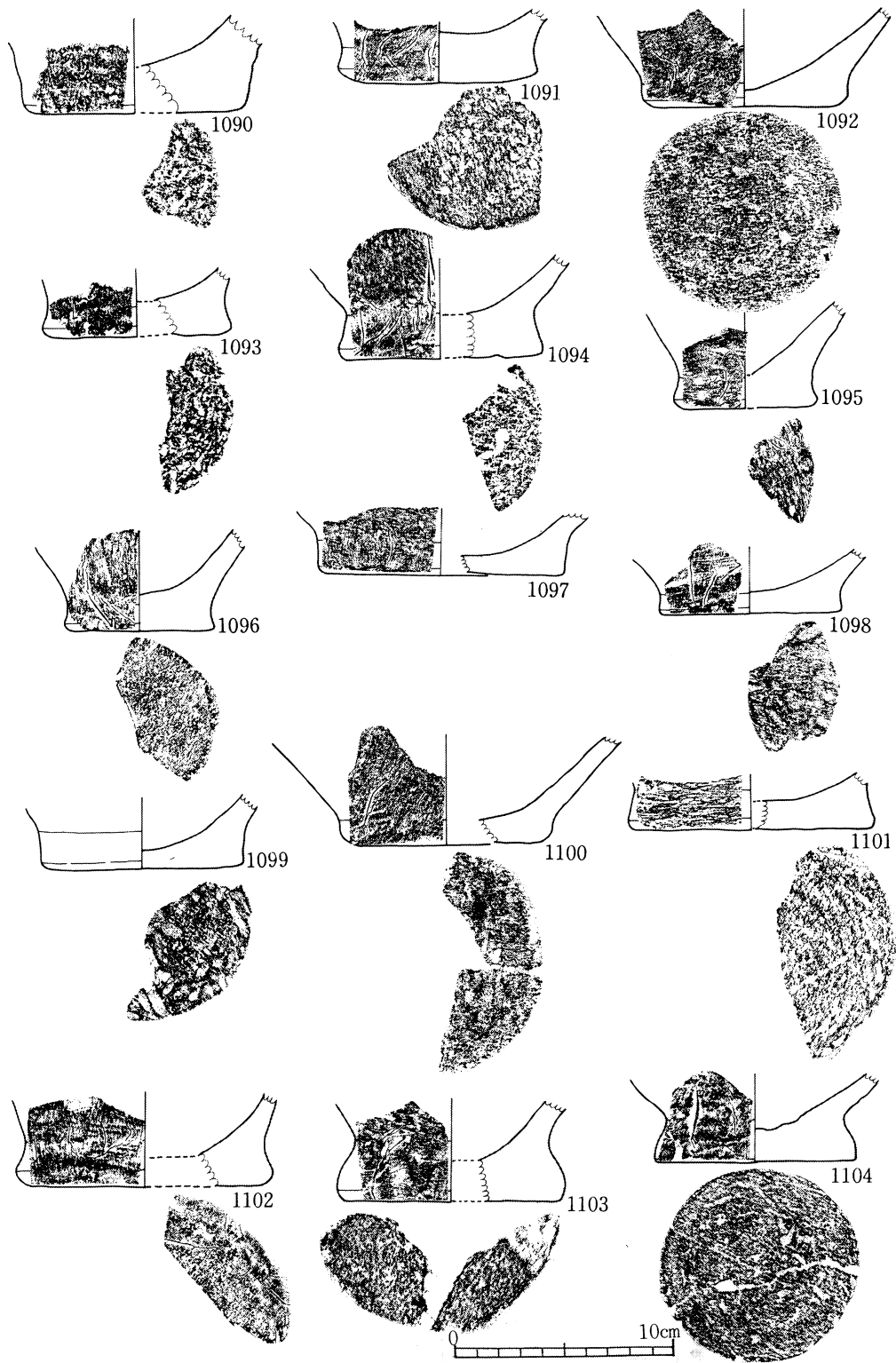
b) 精製浅鉢Ⅱ (第104図 1143～1153)



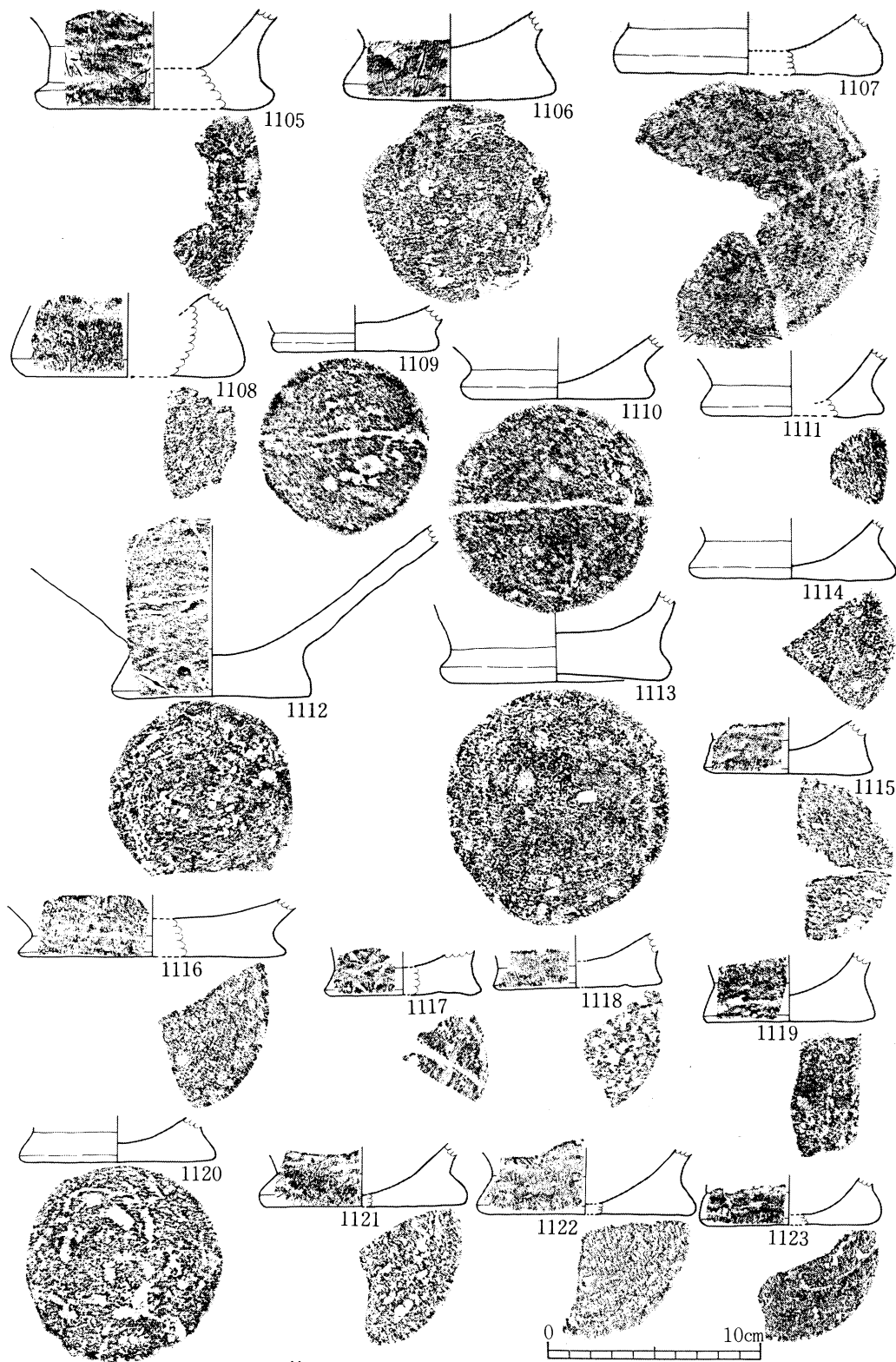
第99図 縄文第XX区類土器(8)



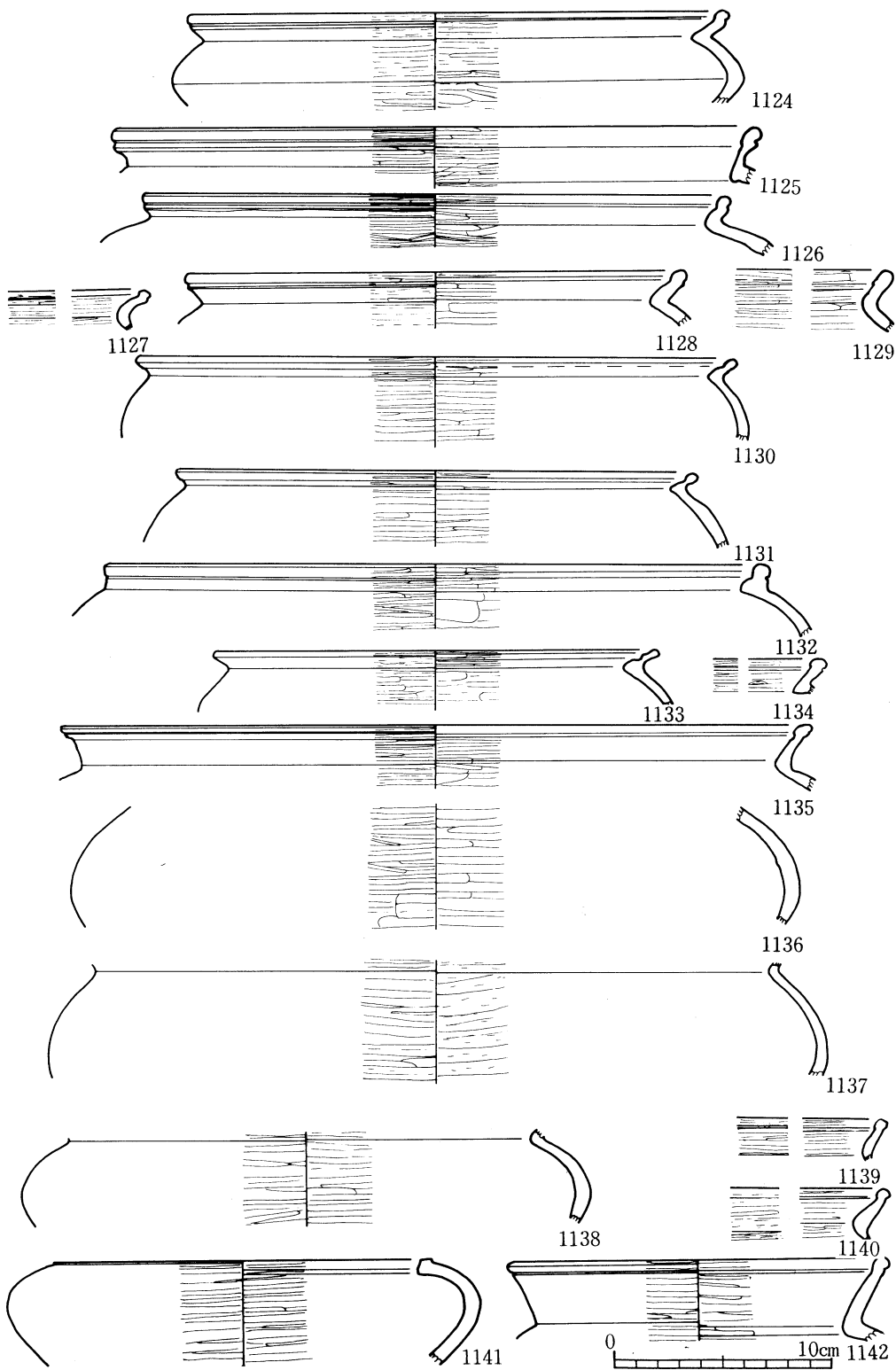
第100図 縄文第XX区類土器(9)



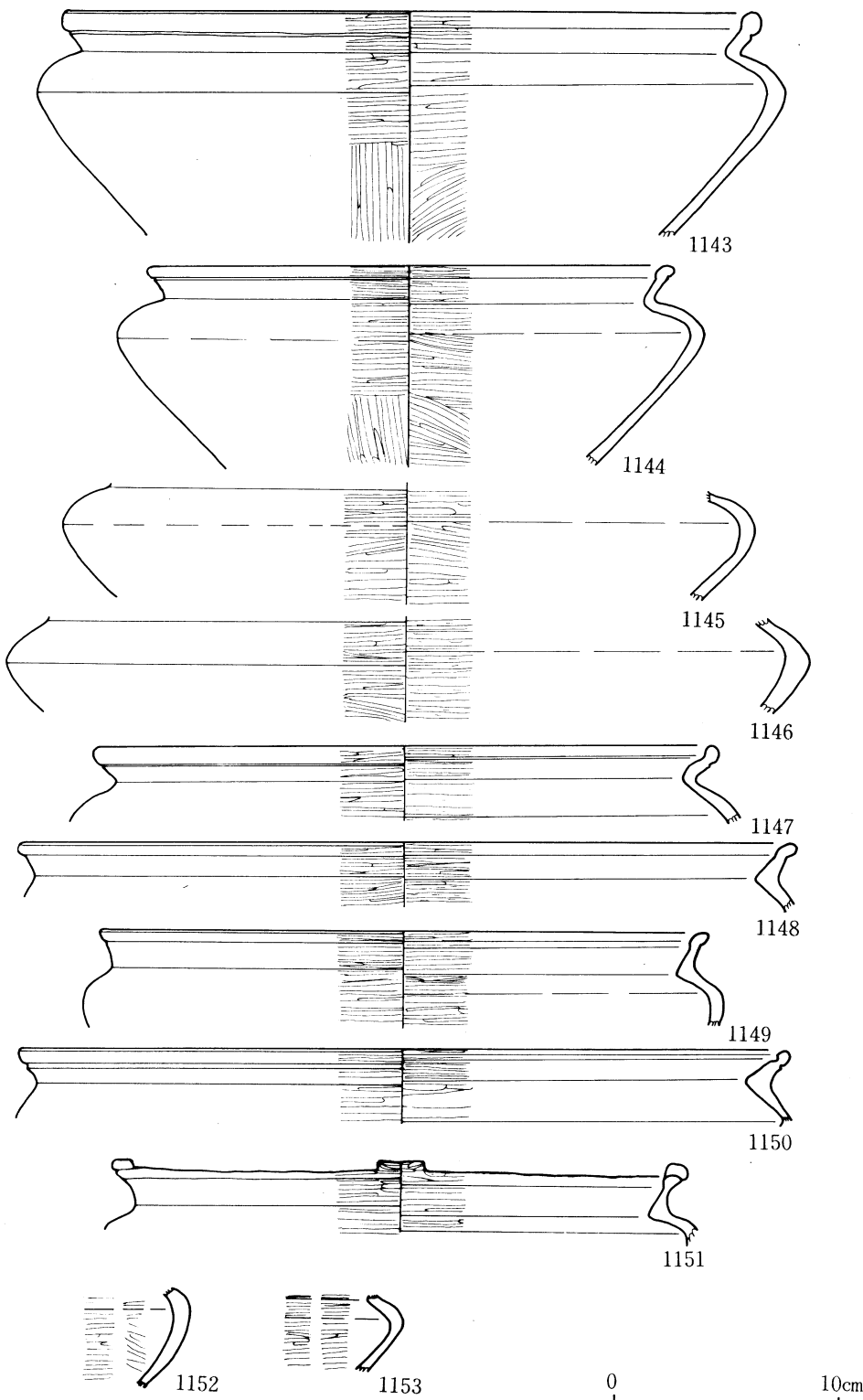
第101図 縄文第XX区類土器(10)



第102図 縄文第XX区類土器(1)



第103図 縄文第XX区類土器(12)



第104図 縄文第XXIX区類土器(13)

この土器は外反する短い口縁で頸部が「く」字状に屈接し、肩部で最大径をもつ土器群である。口縁部は玉縁状の断面をもち、内外面に沈線をつけ頸部との段差をつけている。器面は横位のヘラ研磨で口縁～肩部まで行い、胴部から下へは縦研磨をしている土器もある。この研磨は黒色研磨である。

1143・1144は口縁から胴部までであるもので、1145・1146・1152・1153は、肩部・胴部で1147～1151までは口縁部～肩部までである土器である。この中で1143・1144・1147と1146～1151は頸部のつくりが異なる。前者は屈接部が同一厚味に対して後者は断面三角状になっている。また肩部も前者は曲線的で後者は直線的である。1151は口唇部に鱗状突起を付けている。

c) 精製浅鉢Ⅲ (第105図 1154～1161)

この土器は口縁部は外反ないし直行し、頸部と肩部で短く屈接した土器群である。器面はヘラ研磨で横位が主である。器面の色調は暗茶色ないし茶褐色が主である。この土器の並べかたは番号の少ない方ほど口縁部が外反し長く、多いほど直面して短くした。

1154は口縁部に玉縁状断面が若干残っている形態で外面には浅い沈線がみられる。1155は、口縁部だけで外器面に沈線がない。1156は口縁部の内外面に沈線がなく、内面に若干段がある。内面は黒色研磨を施しているが外面は研磨だけである。1157は、口縁部が短く、内面に沈線が施されている。1158はやや外反する口縁部であり、土器の断面は直線的である。1159は口縁部が直行し口縁部と肩部が非常に近く内面には頸部で突帯状になっている。1160は口縁部が直行し、外器面に沈線が1本、内器面には頸部で突帯状になっている。1161は口縁部が内反気味に直行し口縁部から肩部まで直線状になっている。口縁部の内面は若干盛り上った程度である。

d) 精製浅鉢Ⅳ (第106図～第107図 1162～1185)

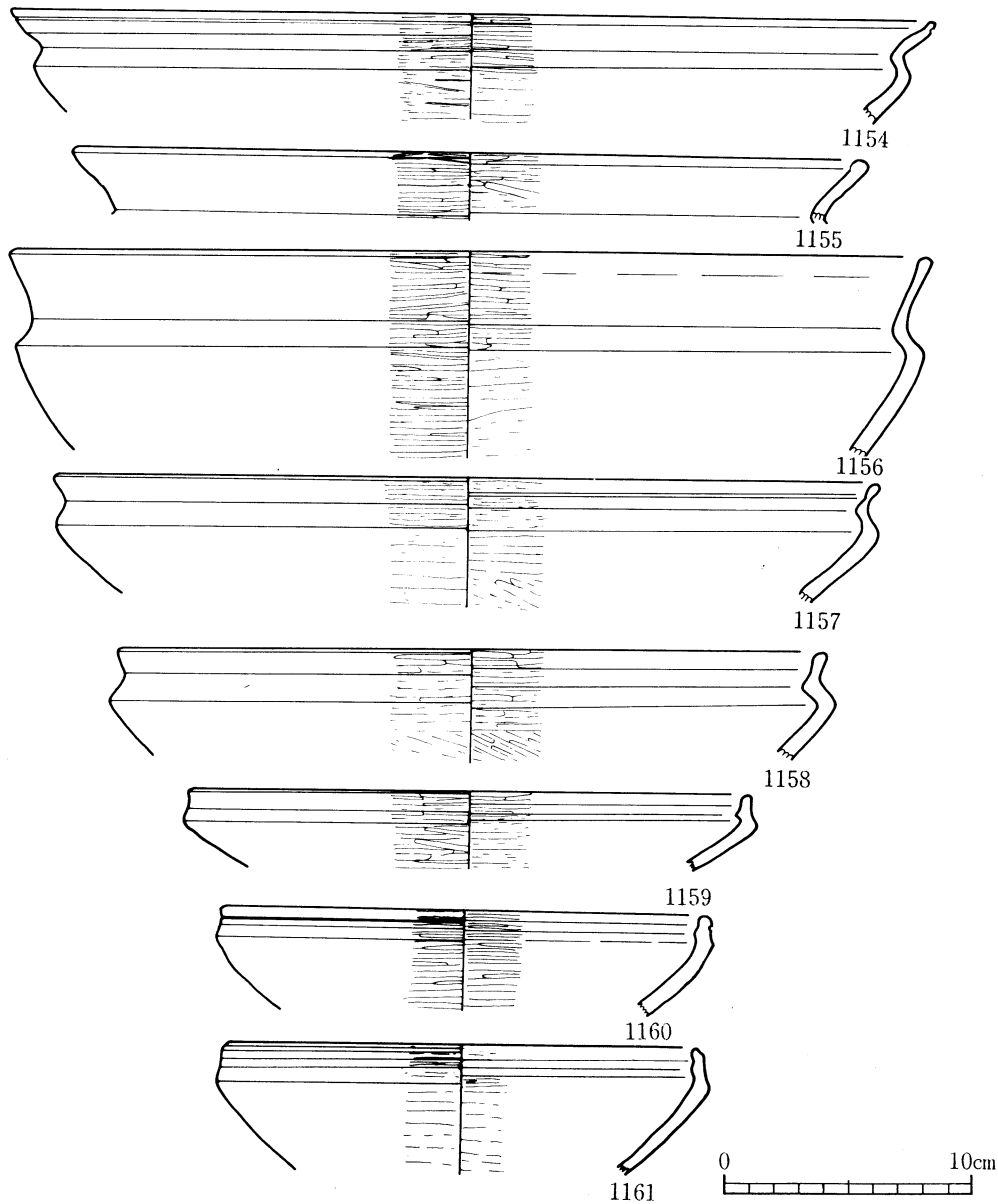
この土器は口縁部が大きく外反し、頸部で「く」字状に折れる浅鉢であり、他の精製浅鉢と比較すると全体的に大形であるものと小形や鱗状突起をもつものもある。内外面とも研磨を施している。1172と1173はこの土器と同じ器形であるが外器面が粗製である。口縁上部は外器面に沈線を施して玉縁状の断面をもつ形をしている。肩部には沈線を施すもので1162・1163・1166と1170の突帯を貼り付け、その中に沈線を施しているものがある。色調は茶褐色と、1163・1174の黒色の二通りがある。1170は外器面の研磨痕が風化している。

1174は口縁部に鱗状突起を付け、若干山形口縁で、胴部と底部に2条の沈線を施した平底の土器である。内外両器面はヘラ研磨で調整した土器で、色調は暗灰茶褐色である。なお上下は完全に接合してはいない。1175は、口縁部が肥厚した山形を呈し、その上に1条の沈線を施すもので横位の黒色研磨を施している。1176は山形の口縁部を呈し、1条の沈線を施す浅い土器である。1177は肩部から胴部にかけてであり、肩部に1本の突帯を施している。1178・1179は口縁部に1本の突帯を施している土器である。1180～1181は研磨の痕跡の残りが少ない。1180～1185は底部で、すべて平底を呈し、研磨されている。その内1180・1183は沈線を施している。

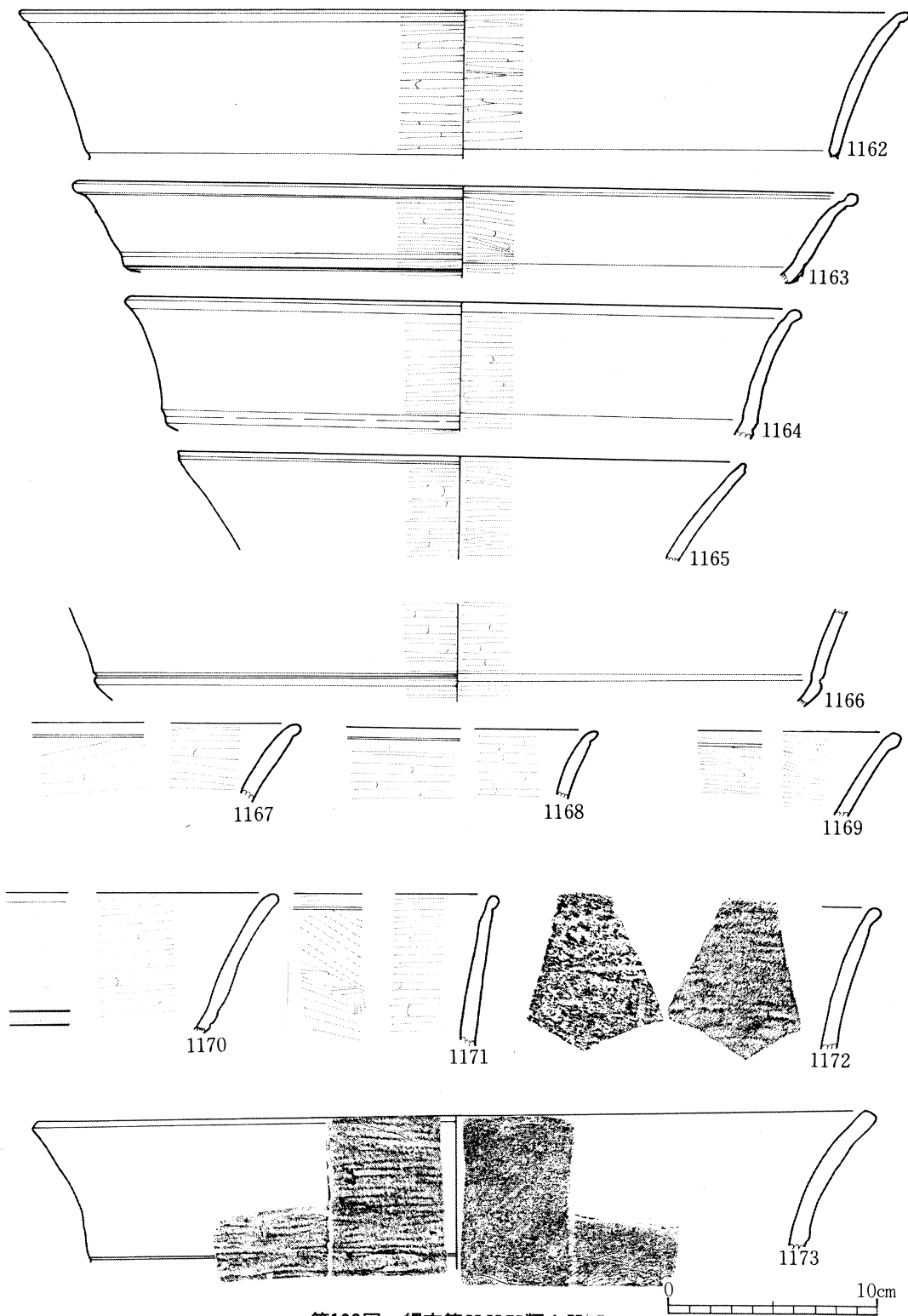
e) 精製浅鉢Ⅴ (第108図 1186～1203)

この土器はマリ状の器形にあたるものと皿状の器形である前者をAとし後者Bとした。Aは

1186~1201, Bは1202・1203である。両面とも研磨されており, 1203だけが茶褐色で他は黒色研磨土器に属する。1186は口縁内側に一本の沈線を施し, 半球状の器形である。1187~1189, 1195・1201は口縁部に低い突帯を貼り付けた土器で半球状を呈す。1190・1191は半球以上の容量をもつ形態の器形で口縁部に有帯をもつ。1194・1196・1198~1200は口縁部の内側に沈線で段をつけ外側には沈線を施している。器形は半球でも浅い方の形態である。1191・1193は口縁部が外側に張り出した形で器形は半球状になる。1191は内側に沈線があり, 1193は頸



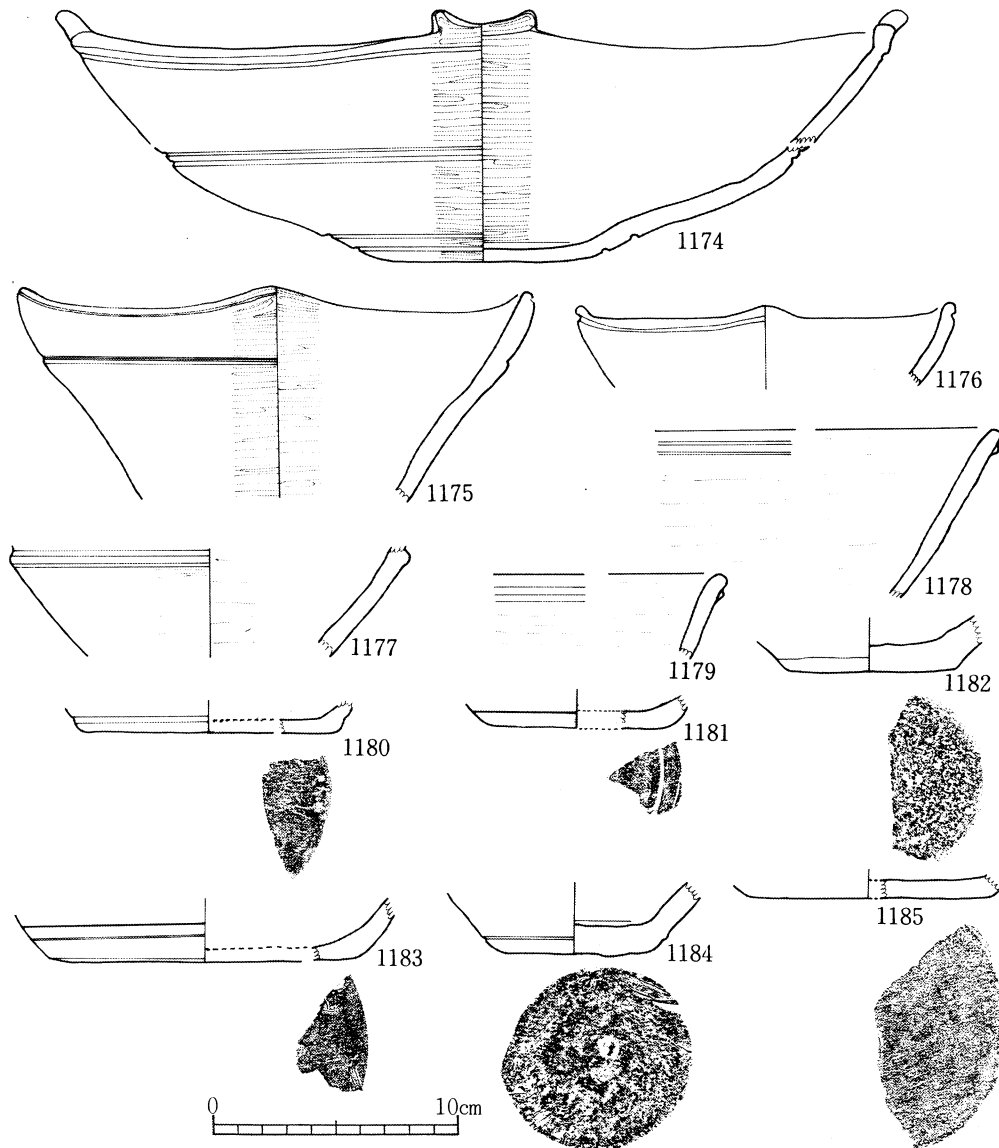
第105図 縄文第XX区類土器(4)



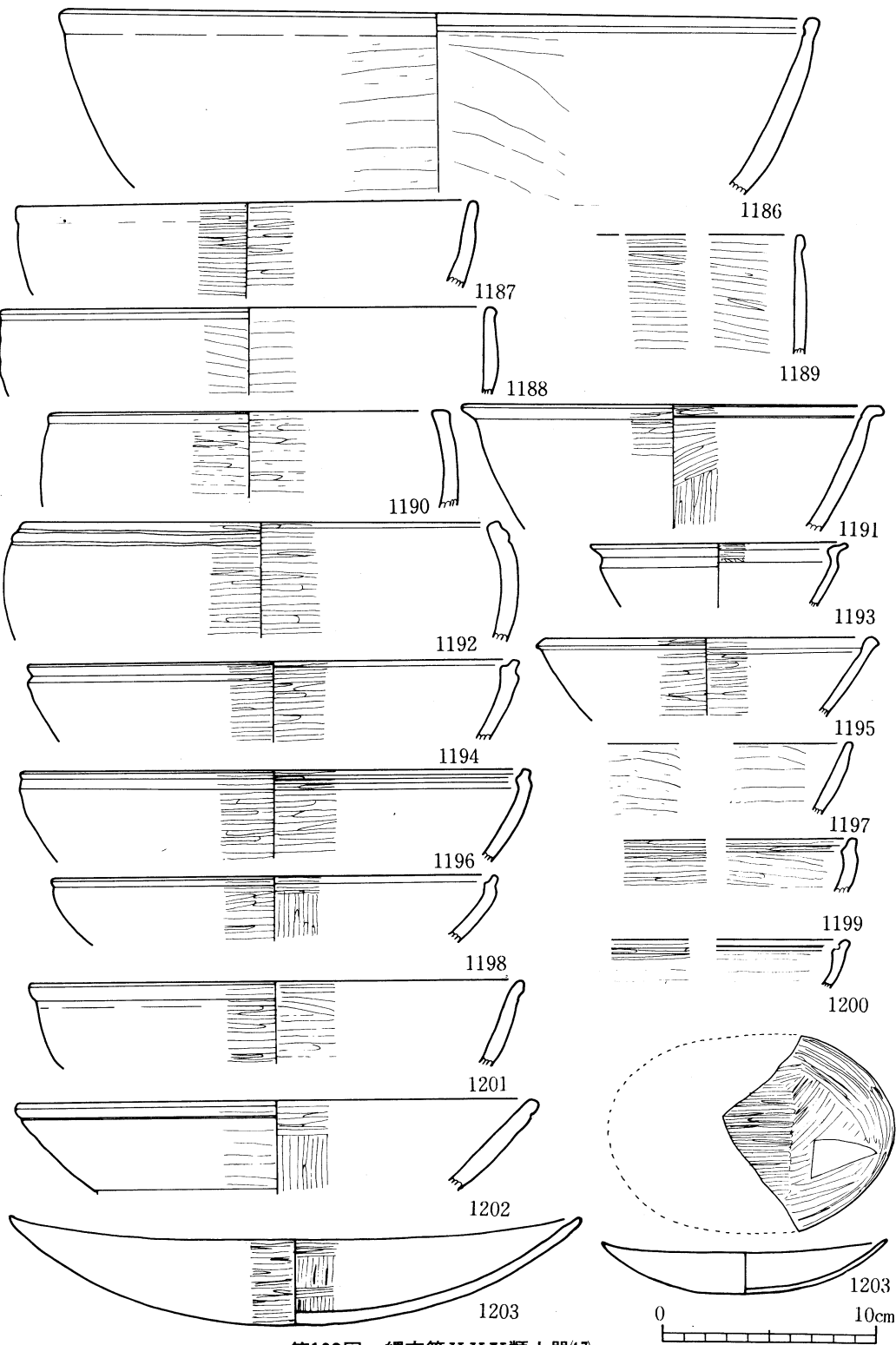
第106図 縄文第XX区類土器(15)

部である。この2個の土器は本来ならば別類に別けた方が良いと思われるが、器形が半球状を呈しているためこの類に含めた。

Bは1202と1203である。1202は外側に口縁部と底部近くに一本の沈線を施し、皿状の器形を呈する土器である。内器面調整は横位と縦位の黒色研磨であり、外器面調整は横位の研磨である。1203は完形品ではなく、左は土器の右側を反転して復元したが、形態も不明のため便宜上図のようになった。右はそれをきにして研磨の状況を出した。黒色研磨土器の皿状の器形で両端が高い土器である。



第107図 縄文第XX区類土器(16)



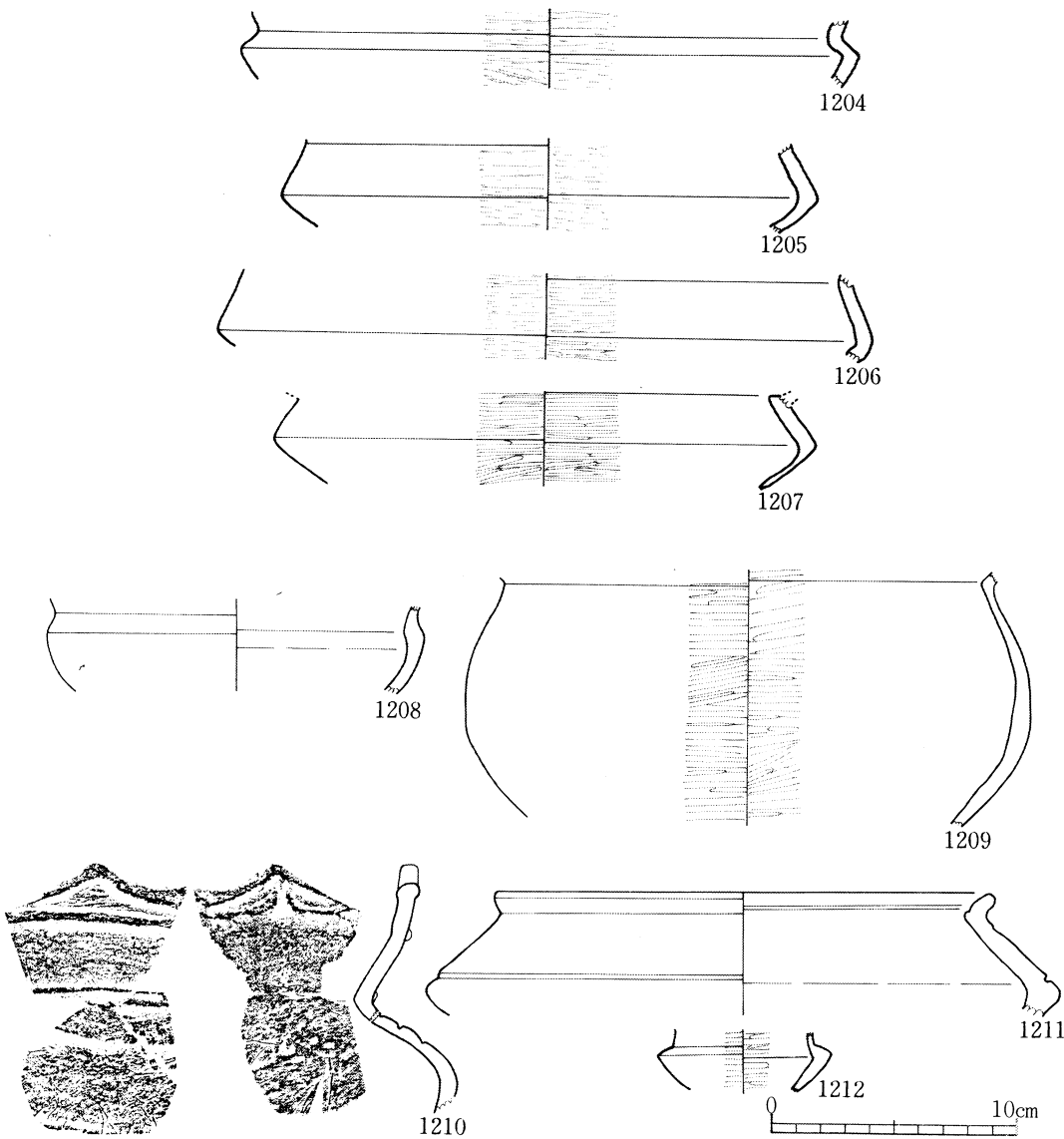
第108図 縄文第XX区類土器(17)

f) 精製浅鉢Ⅵ (第109図 1204~1207)

この土器は頸部と肩部が「く」字状に直線的に折れるもので精製浅鉢Ⅲと類似している。その違いは精製浅鉢Ⅲは肩部が上位にあり、この土器は下位にあるために別の形態としたが、同じ形態の中に入るかもしれない。色調は灰茶褐色で研磨されている。1203は肩部が短い。1204~1207は肩部が長く胴部に稜線がつき、内外面研磨をしている。

g) その他の精製浅鉢 (第109図 1208~1212)

1208は研磨の良くないもので胴部が球状を呈す。1209は研磨の良いもので球状の胴部である。1210は胴部が球状で二条の沈線を付け、口縁部はやや外反し、外側に突帯を付けている。1211は



第109図 縄文第XX区類土器(8)

また、口縁部には山形の突起をつけ、内外面は削り込んで文様を付けている。色調は黒茶褐色と明茶褐色で、研磨は良くない。1211は口縁部は短く、肩部が長く、胴の角張った厚手の土器である。研磨は良くない。1212は口縁部がなく頸部から胴部までであるが頸部から胴部が90度近くに折れ、胴の張った形態である。

③ 粗製浅鉢 (第110図～第120図 1213～1314)

この土器は、今まで組織痕土器を含めた鉢形土器と称してきた土器類である。ここで粗製浅鉢と称した。組織痕土器の系統は全体的に背が低く、口が大きく、ボール(食器洗い用)や洗面器や鍋、または、ざる・おけの形をした器形である。そしてこの土器片には外側にススがよく附着していることが多く、鍋等の役目をしている可能性が強いと考えられる。またこの土器は外面はヘラナデやヘラケズリ等で荒く器面調整をして、内面は丁寧なナデ調整やヘラ研磨調整をしている。器形も浅い容器である。よってここではこの類の土器を外面が粗いため、粗製浅鉢としてあげた。そして両面研磨するものを精製浅鉢にした。

1213～1277は粗製浅鉢の中で組織痕のないもので1278～1314は組織痕のあるものである。前者をA、後者をBとした。

a) 粗製浅鉢A (第110図～第117図 1213～1277)

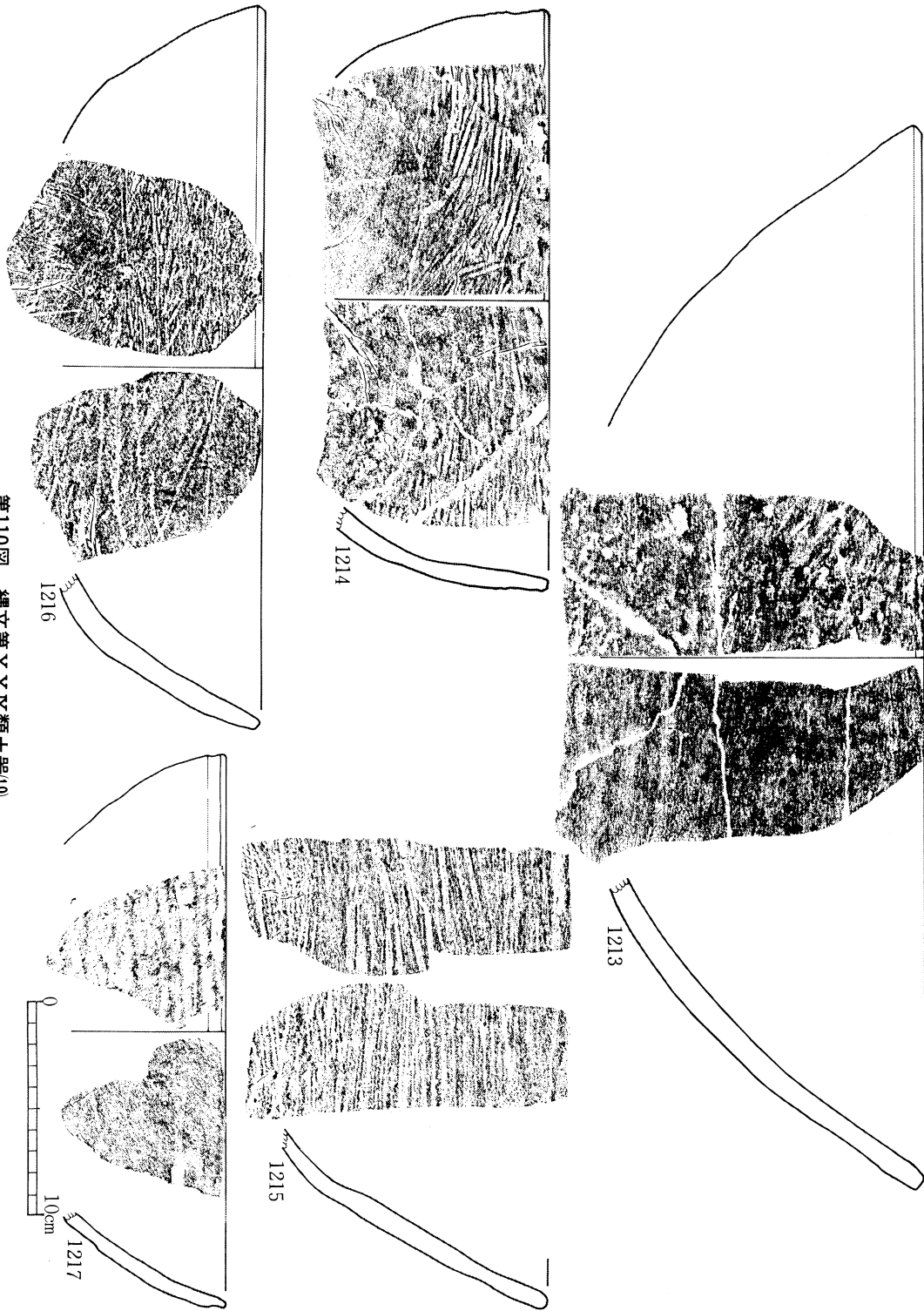
この土器群は1213～1227と、1228～1243と1244～1262に分けられる。

1213～1227は器形は口縁部が若干内湾しながら外反するものである。1213は内側はヘラ研磨で外側も丁寧に仕上げている。口径は50cmにもおよび、高さは15cm位である。1214は口径27cm高さ約10cm位で口縁部は直行に近い。器面調整は内・外面ヘラナデ調整である。1216は口径34cm高さ10cm位で、外面・内面は丁寧なヘラナデ調整とヘラ研磨調整である。1217は口径26cmで外面はヘラナデ調整、内面はヘラ研磨調整である。1218～1222は口径が38.5cm, 32cm, 32cm, 28.5cm, 16cmで外面がヘラナデ調整、内面がヘラ研磨調整である。1223～1227は外面がヘラナデ調整で、内面がヘラ研磨調整である。

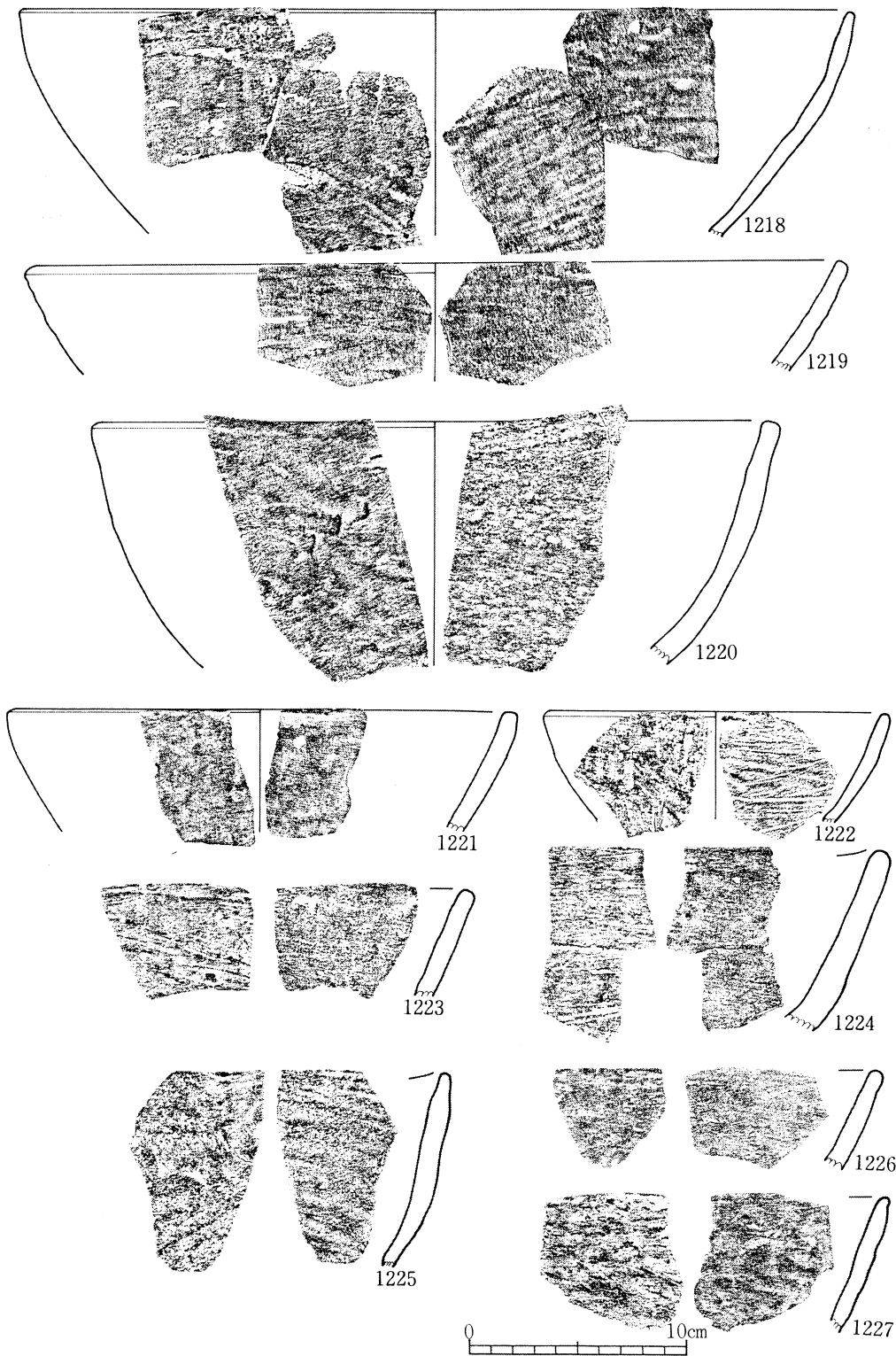
1228～1243は口縁部が直線的に外反する器形である。1228～1233は口径が41cm・41cm・41cm 34cm・35cm・31cm・31cmで外面は丁寧なヘラナデ調整、内面はヘラ研磨調整をしている。1236, 1237, 1239～1241は口径が52cm・46.5cm・49.5cm・46cm・39cmで、外面がヘラナデ、内面がヘラ研磨の調整をしている。1235・1236・1237・1238・1242は口縁下位に隆起帯が横位にみられる。

1244～1262は口縁部が帯状に肥厚するものである。1244～1251は口縁に幅の広い帯がつき、1252～1262は幅の狭い帯がつき、広いものは3～5cmである。1244～1247は口径が50cm・44cm・40cm・39cmで1248～1251の径は不明。いずれも外面がヘラナデの調整で内面はヘラ研磨の調整である。1252・1255・1256, 1260～1261は口径が49cm・30cm・22cm・40cm・25cm・38cmである。他は径不明であるがすべて外面がヘラナデ調整で、内面がヘラ研磨調整である。なお1260は粘土帯の輪積の一部がわかり、1261は有帯ににせて口縁部を曲げている。(口径は堆定口径である)

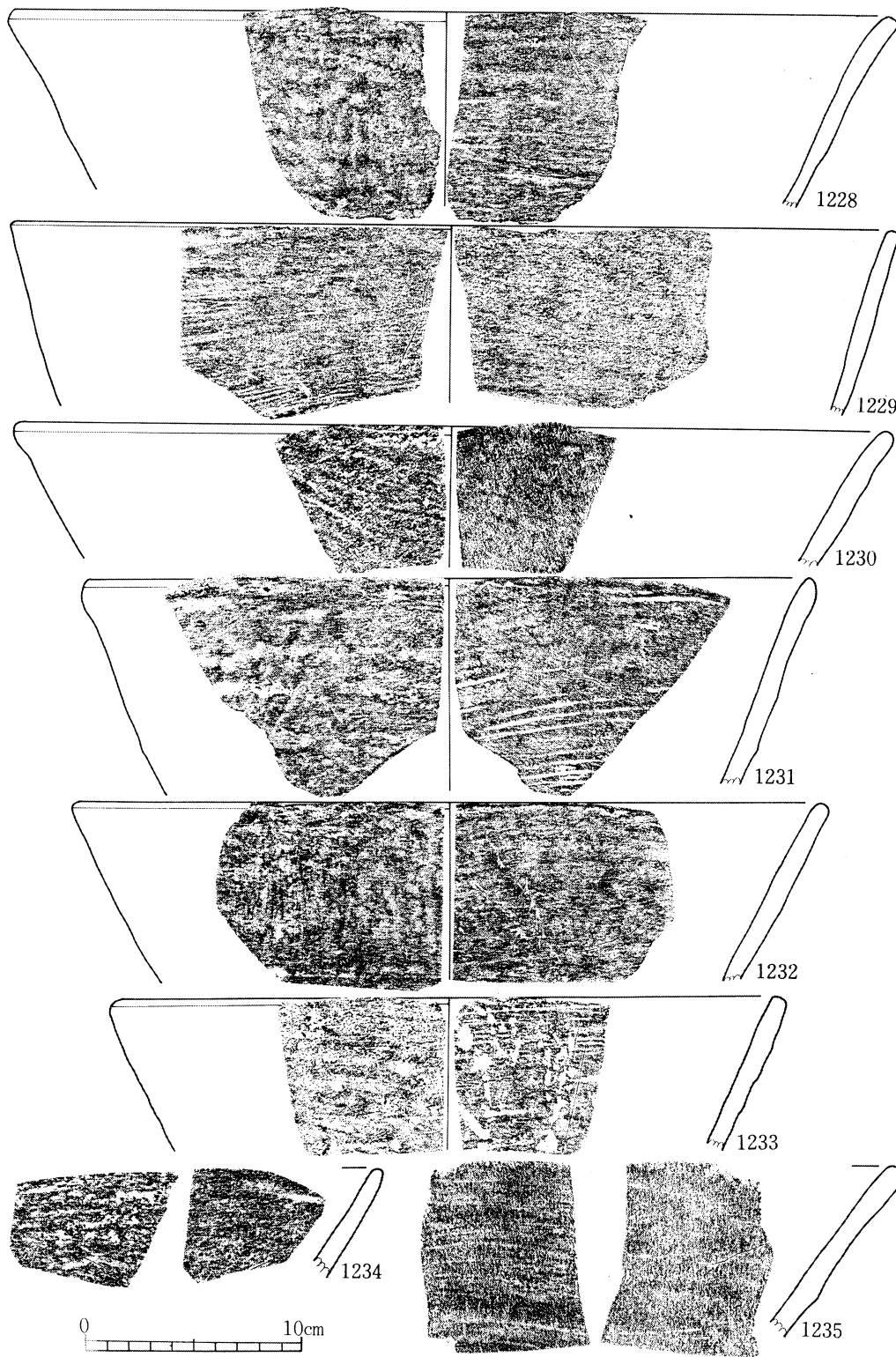
1263～1277は胴部から底部である。1263は隆起帯のあるもので1264・1265は口縁部と底部が



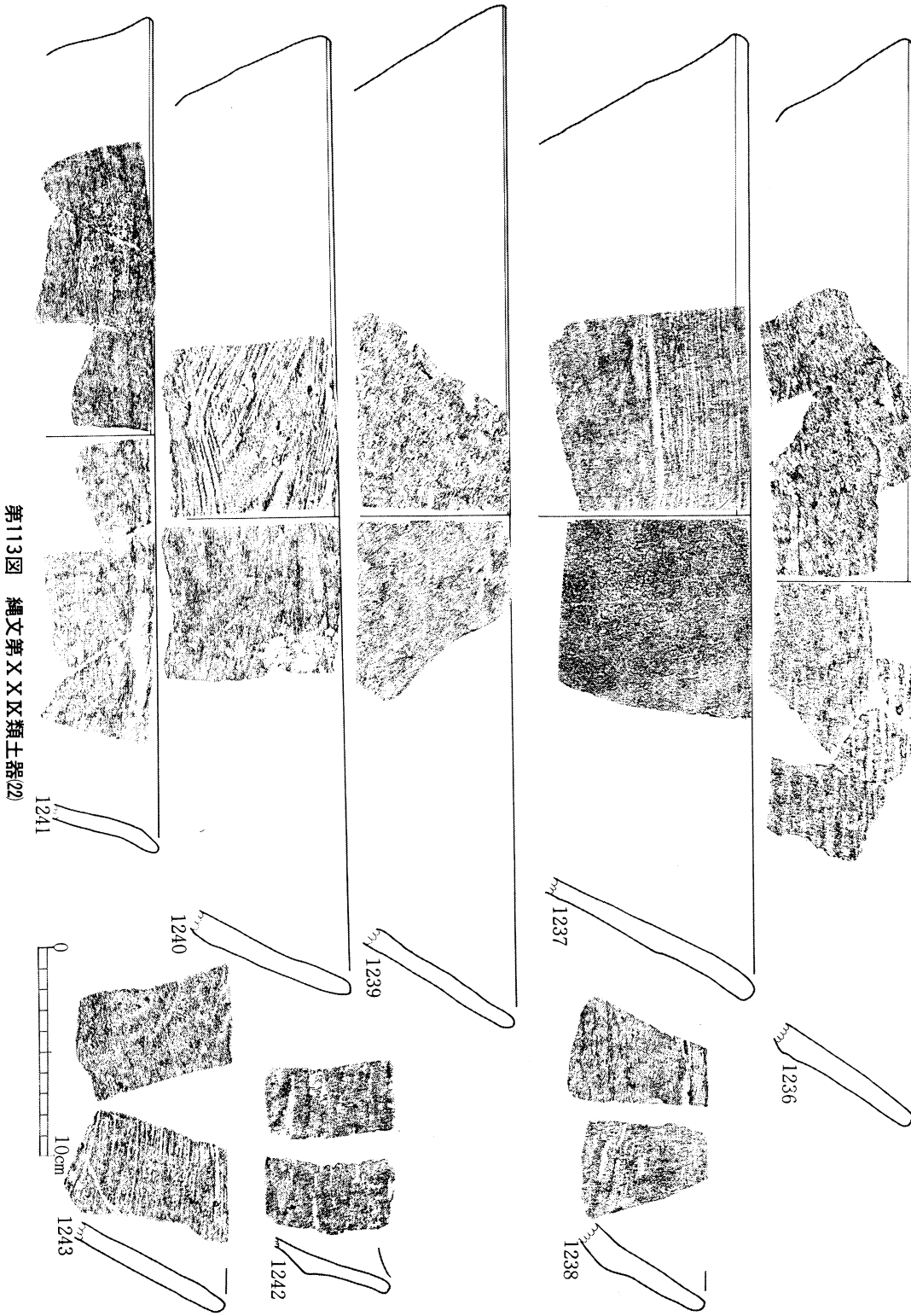
第110図 縄文第XX区類土器(9)



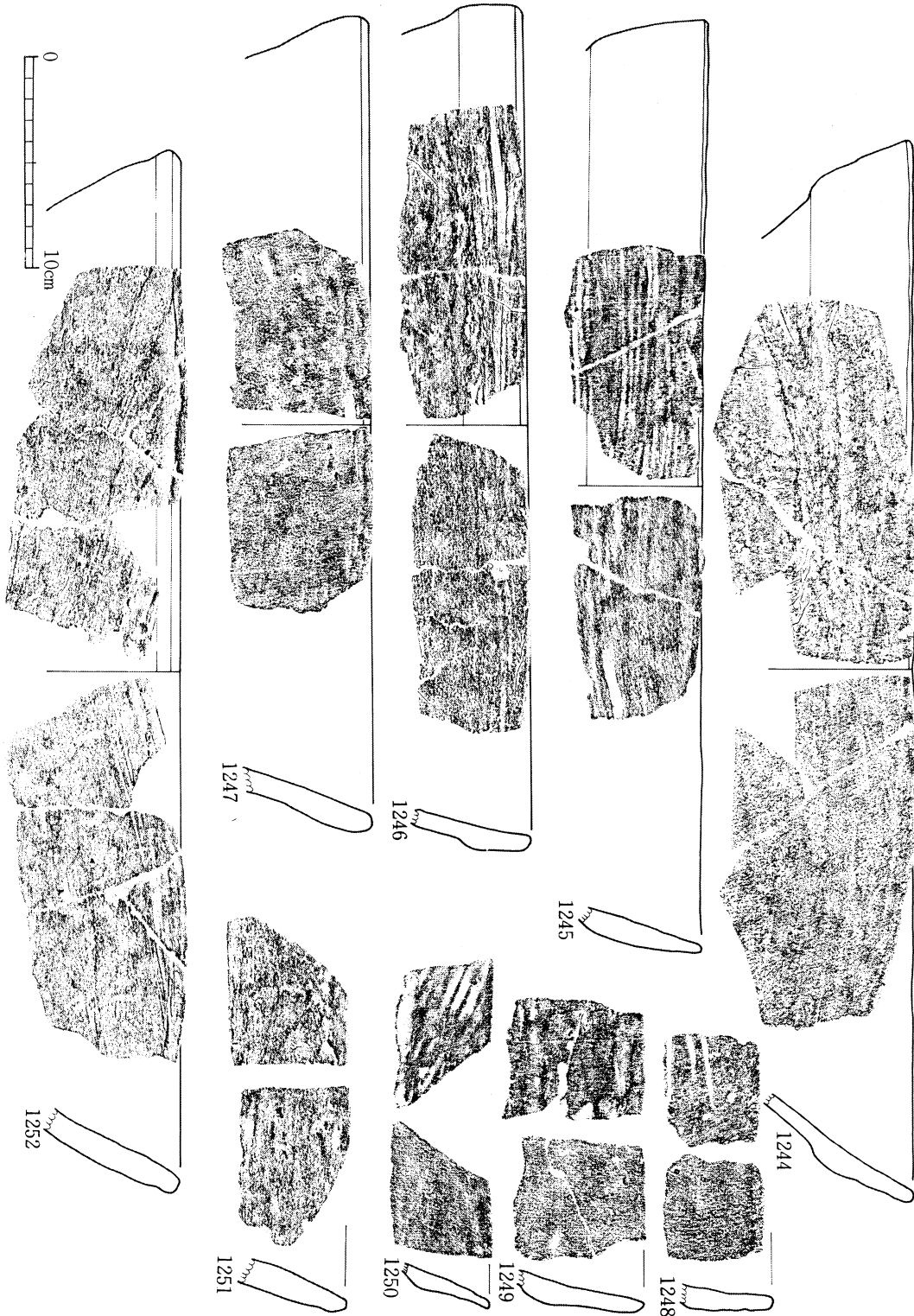
第111図 縄文第XX区類土器(20)



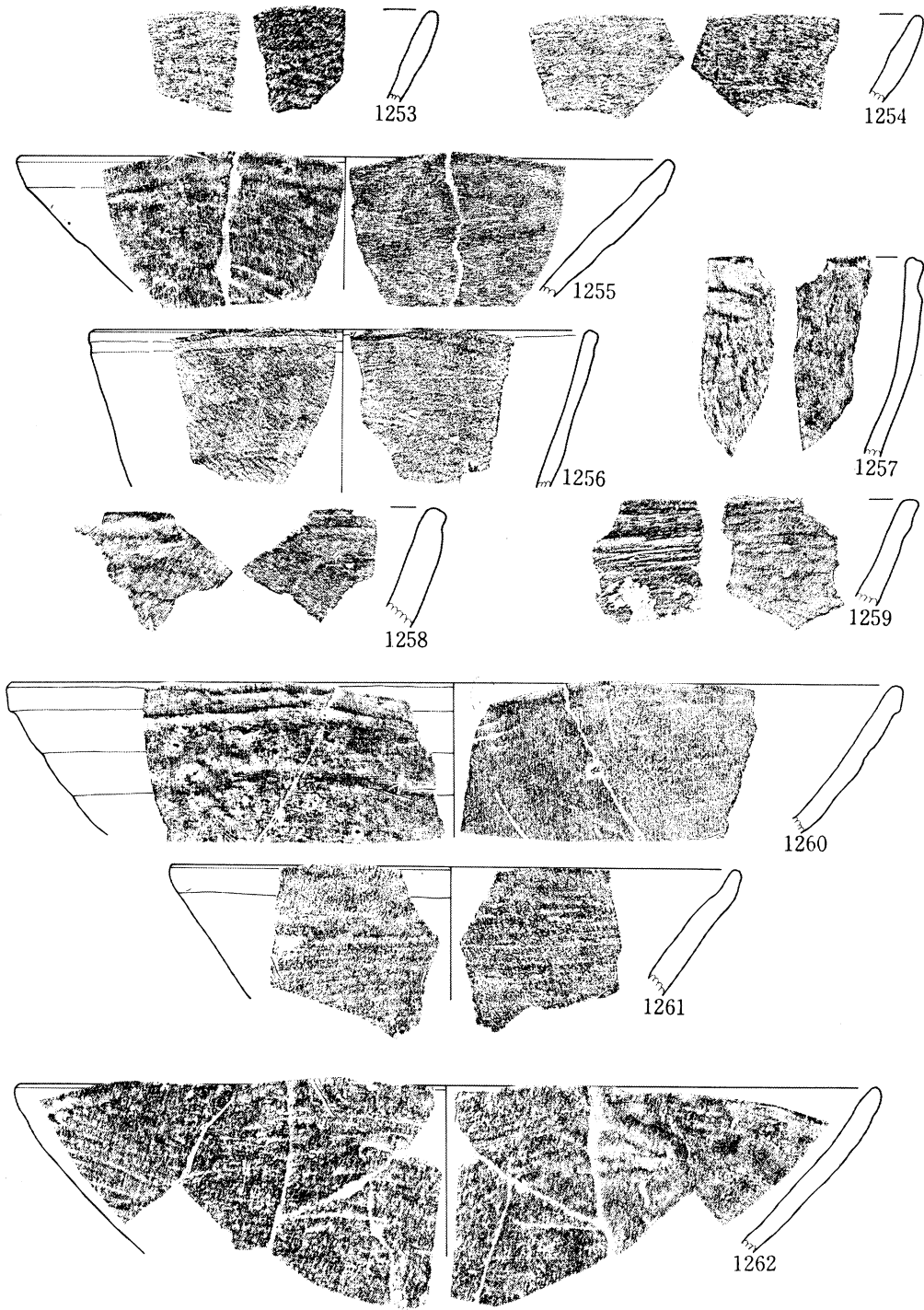
第112図 縄文第XX区類土器(2)



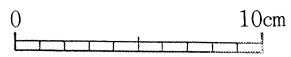
第113図 縄文第XXX区類土器(2)

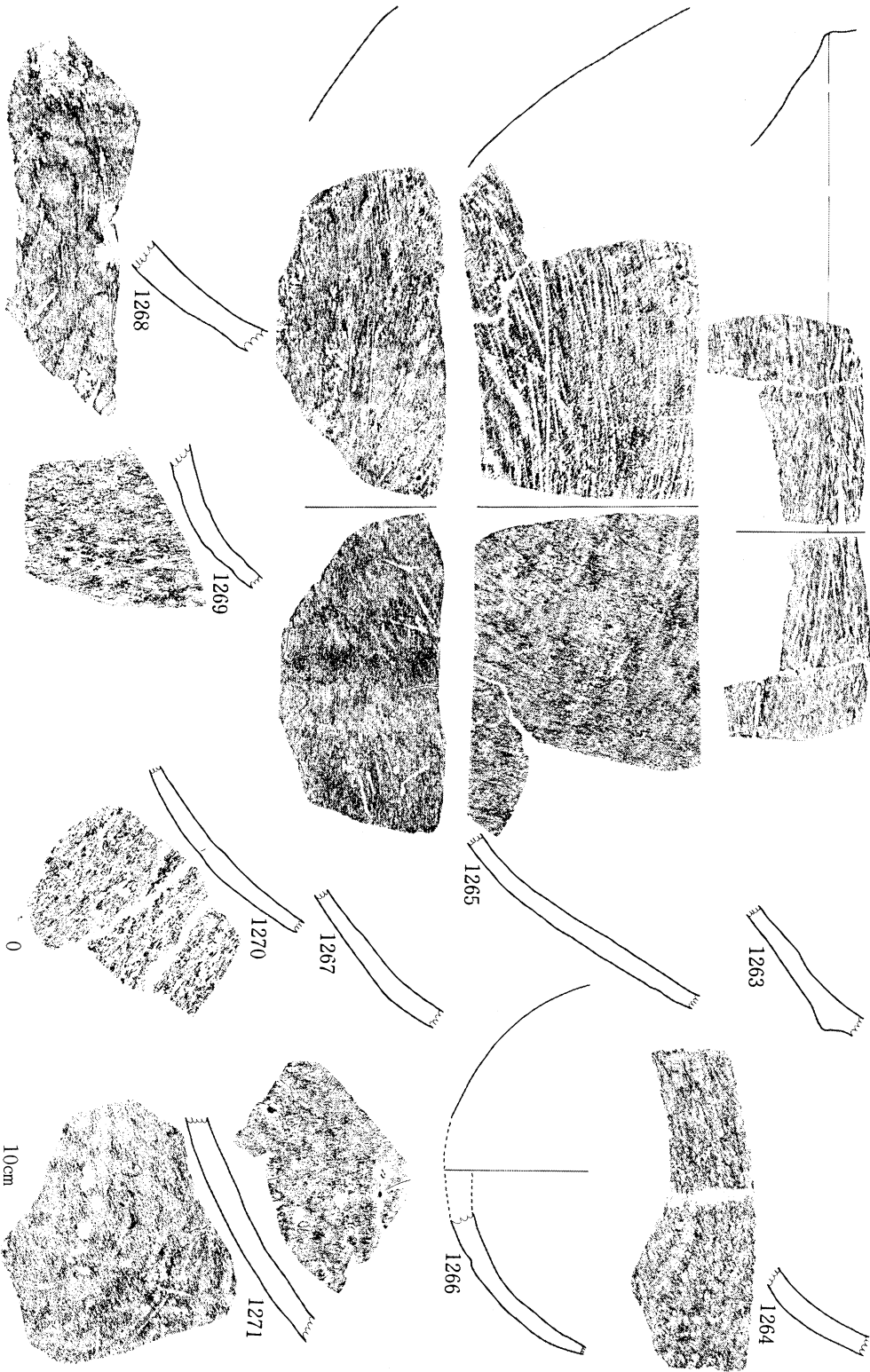


第114図 縄文第XXX区類土器(23)



第115図 縄文第XX区類土器(24)





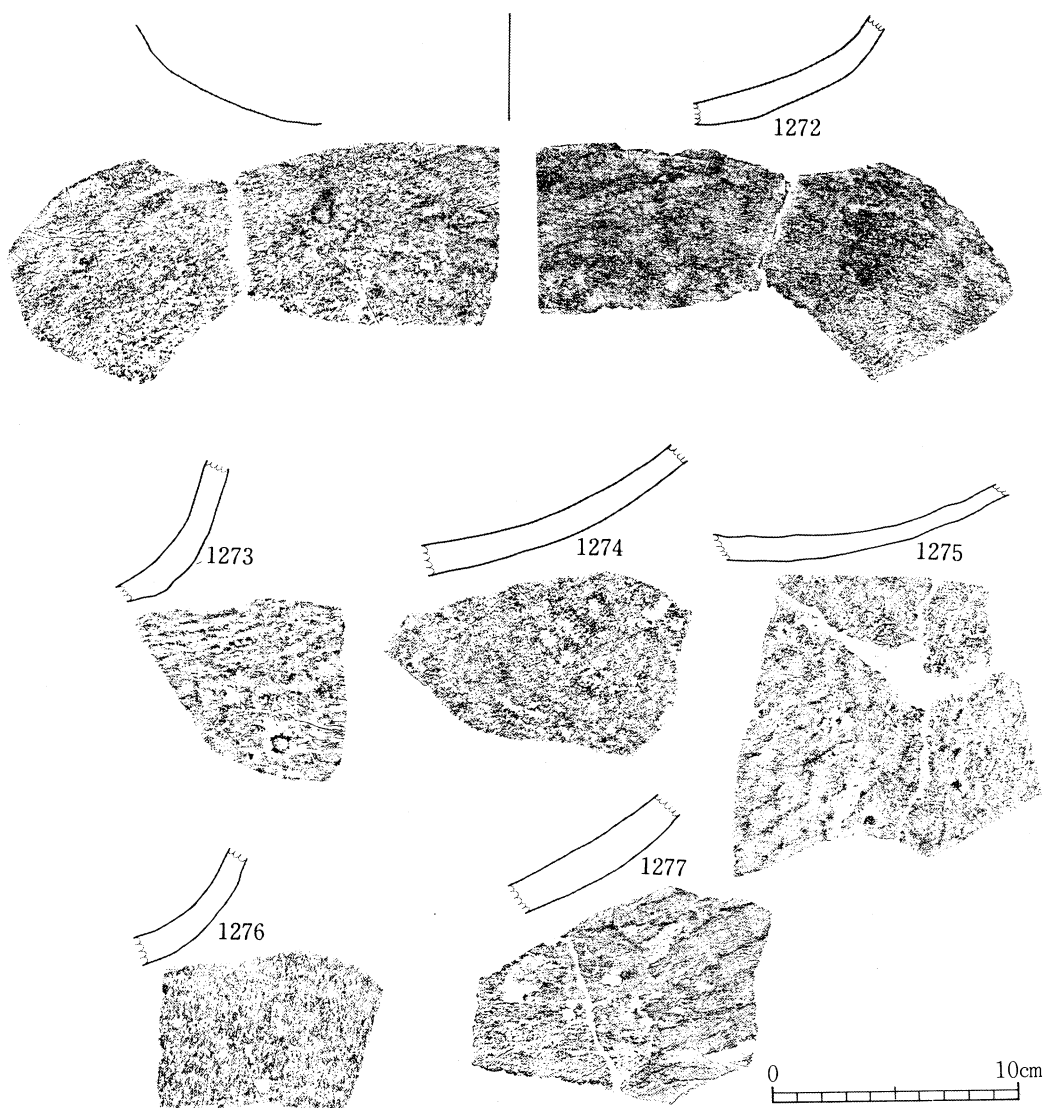
第116図 縄文第XXX区類土器(2)

ないものである。1266は球状の底部である。1267～1277は胴部から底部に移るところである。いずれも内面は研磨されており、外面はヘラナデ調整である。

b) 精製浅鉢B (第118図～第120図 1278～1314)

この土器はいわゆる組織痕土器をさしている。

1278は口径34cm、高さ20cmの完形に近い土器である。口縁部は6cmの肥厚帯で胴部に席目圧痕がついている。底部はヘラナデ調整痕があり、席目圧痕の境は強く押しナデている。内面はヘラ研磨である。1279は肥厚帯の口縁部で下位に組織痕がある。1280～1304は席目圧痕のある胴部ないし底部である。第8表は縦系の幅と特徴である。



第117図 縄文第XX区類土器(26)

第8表 組織痕土器観察表 1

番号	幅	備考	番号	幅	備考	番号	幅	備考
1278	1.0cm		1287	不明	乱れている	1296	1.2cm	
1279	0.5cm		1288	1.0cm		1297	1.0cm	底部のため消されている
1280	2cm		1289	1.0cm		1298	0.8cm	〃
1281	0.7cm		1290	不明	風化している	1299	0.4cm	
1282	不明	乱れている	1291	0.8cm		1300	0.8cm	
1283	0.8cm		1292	0.9cm		1301	不明	乱れている
1284	1.0cm	風化している	1293	1.0cm	乱れている	1302	0.8cm	
1285	0.7cm	乱れている	1294	0.6cm, 1.2cm	交互にある	1303	0.4cm	
1286	0.4cm, 3.5cm	3.5cmの間がある	1295	0.7cm, 2.9cm	2.9cmの間がある	1304	0.3cm	

※ なお、1280～1292・1303は胴部に近い部分で他は底部である。

1305～1312は網目圧痕の組織痕土器である。1305は口径が28cmで口縁部が肥厚し、底部近くに網目の組織痕がついている。1306は口縁上部はないが径は43cm以上の口径をもつ土器である。底部の網目の組織痕と口縁部の境は隆起している。1307～1312は底部である。網目の一節の長さはつぎのとおりである。

第9表 組織痕土器観察表 2

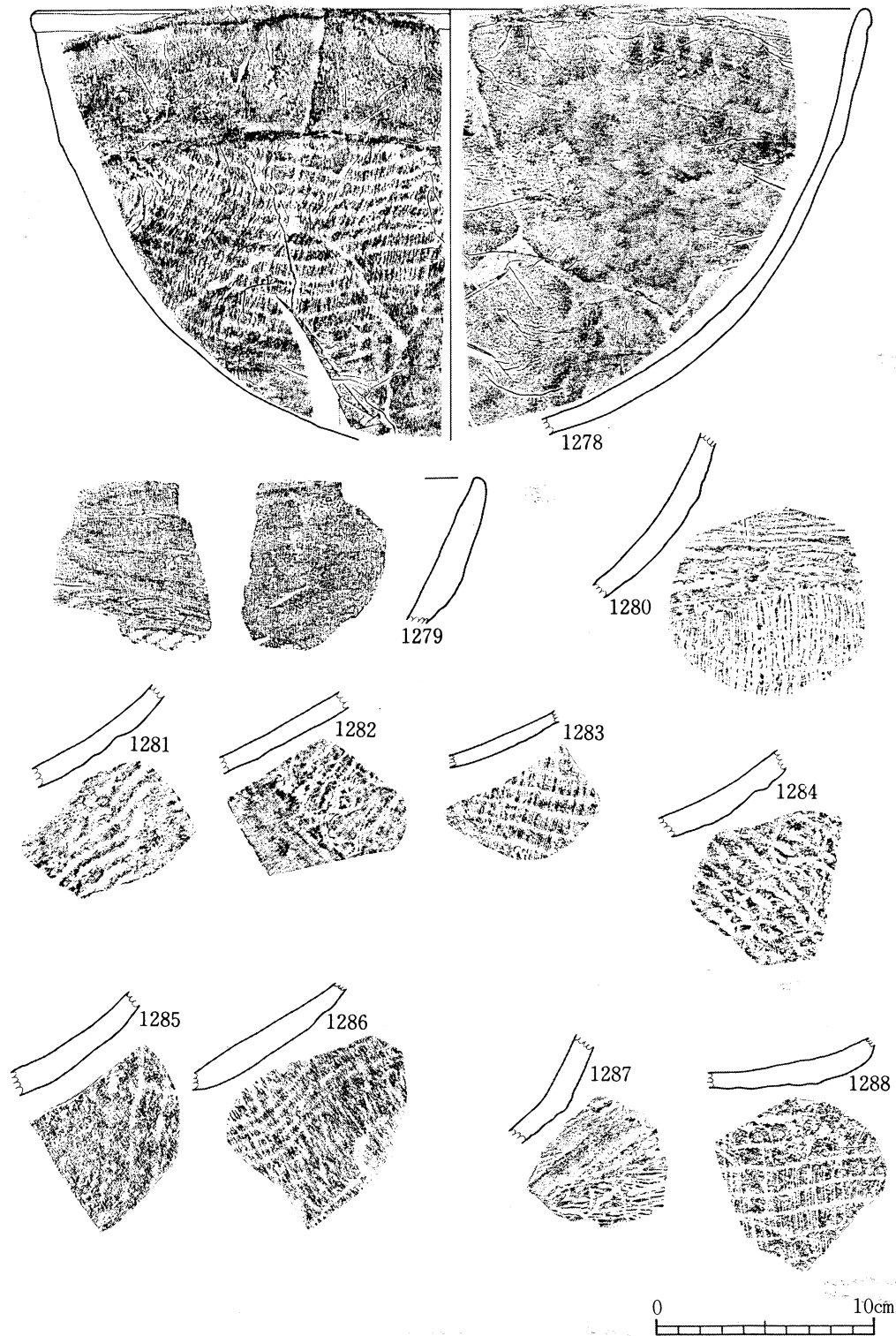
番号	長さ	備考	番号	長さ	備考	番号	長さ	備考
1305	0.4×0.3cm	菱形	1308	0.5×0.4cm	菱形	1311	0.4×0.3cm	菱形
1306	0.6×0.5cm	菱形	1309	0.4×0.4cm	柀形	1312	0.7×0.3cm	菱形
1307	0.7×0.5cm	菱形	1310	0.4×0.4cm	柀形			

1313～1314は布目の組織圧痕土器である。いずれも底部で糸の幅は約1mmで縦糸の間隔は約2mmである。

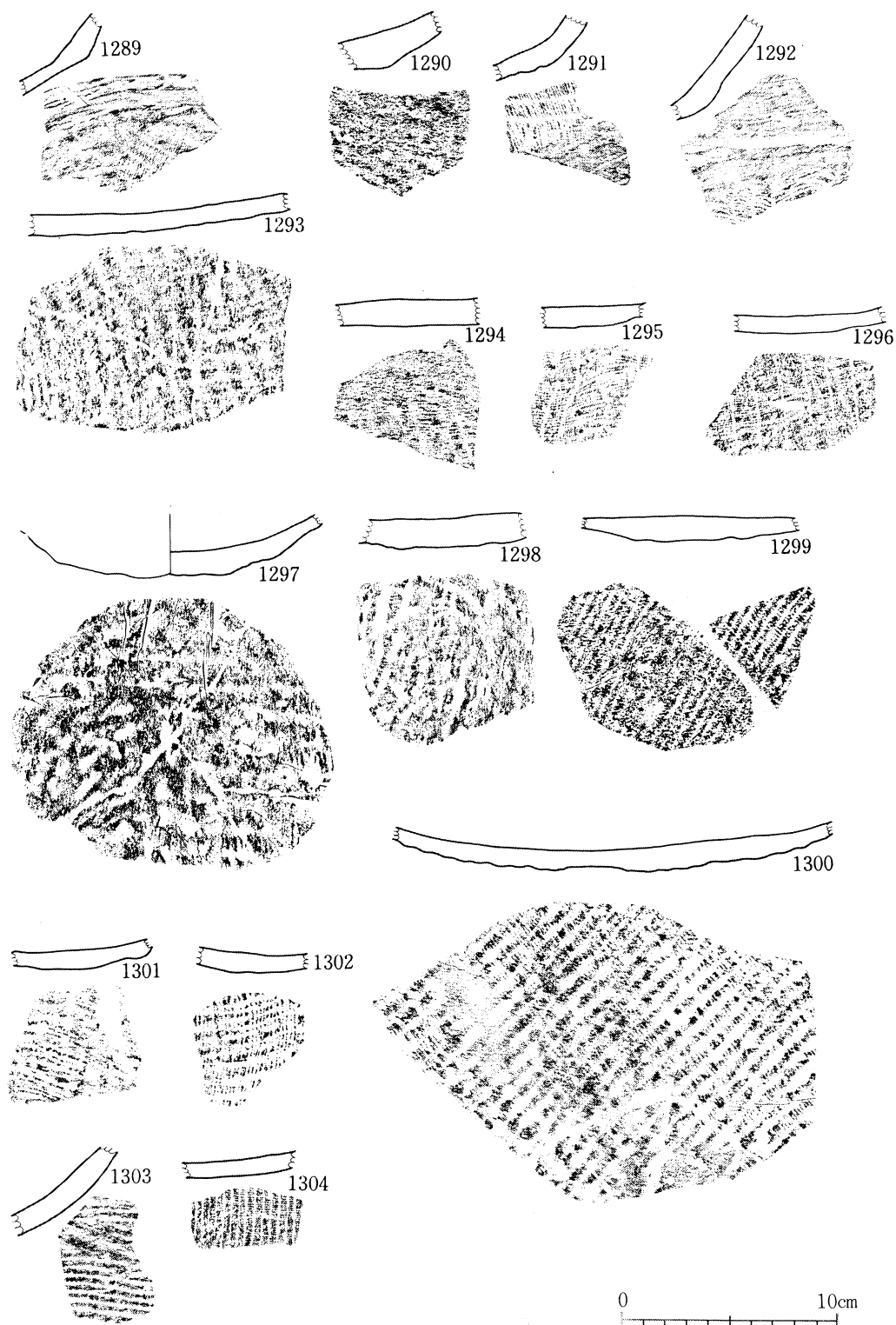
以上が組織痕土器である。すべてとって良いほど器面調整は内面がヘラ研磨で外面が組織痕とヘラナデ調整である。

(36) 第XXX類土器 (第120図 1315)

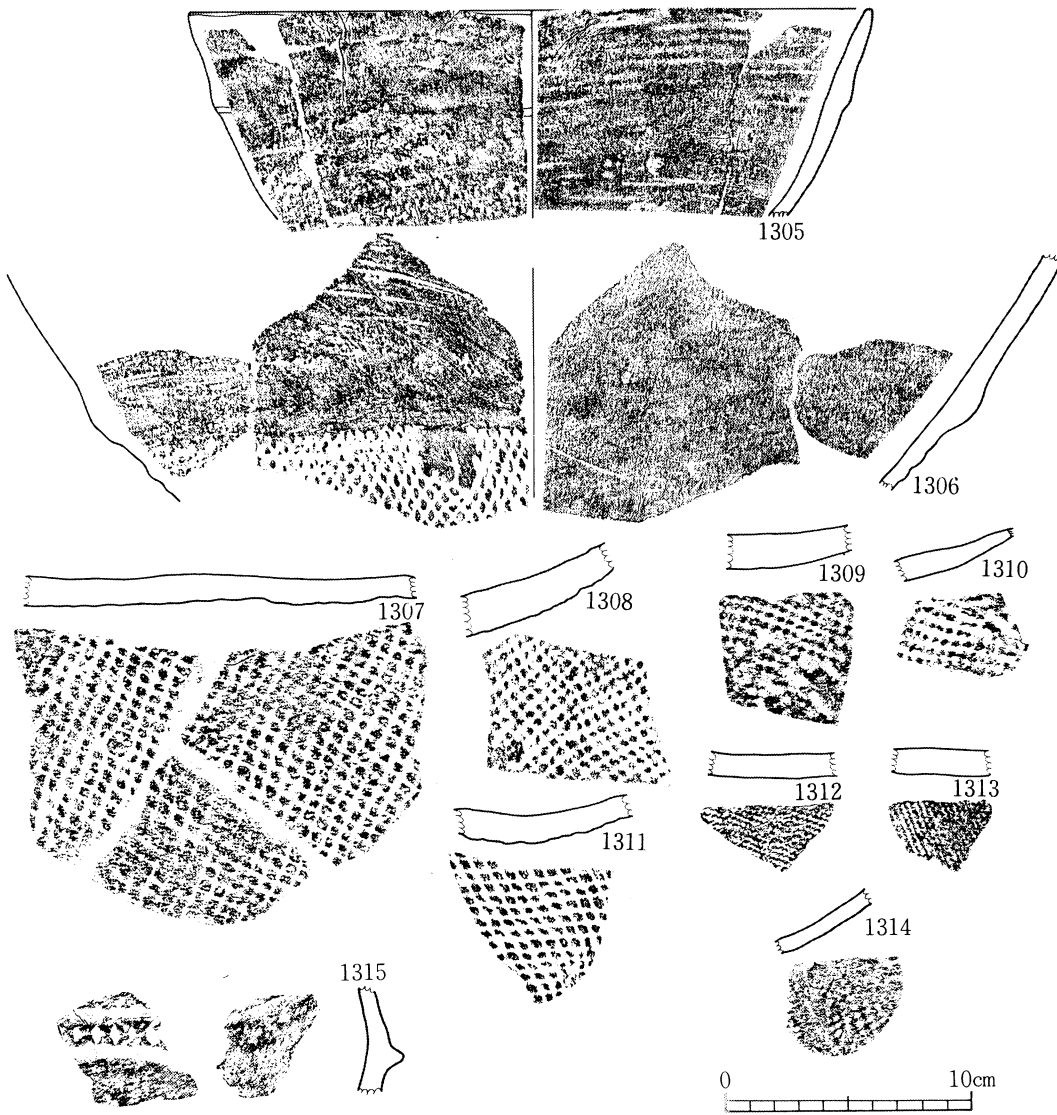
1315は刻目突帯文土器である。肩部でヘラ刻の刻目突帯がみられる。器形は甕形土器である。色調は暗茶褐色が外側で、内側は茶褐色である。



第118図 縄文第XX区類土器(27)



第119図 縄文第XX区類土器(28)



第120図 縄文第XX区類土器(29)

2. 弥生時代の出土遺物 (第121図～第126図 1316～1404)

弥生時代の遺物としては、甕形土器、壺形土器等があり、第Ⅶ層を中心に出土した。そのほとんどが1～5区の間で、特にB・C-2・3区に集中していた。

(1) 甕形土器 (第121図～第124図 1316～1375)

甕形土器は、その形態の特徴から第Ⅰ～Ⅶ類に分類した。

① 第Ⅰ類 (第121図 1316～1326)

第Ⅰ類は、ほぼ直行する口縁部をもち、口縁端部と口縁部下にそれぞれ一条の突帯を有する土器で、そのほとんどにヘラ状施文具による刻みが付されている。口縁端部突帯の状態からさらにa, bの二つに細分した。

a) 第Ⅰa類 (1316～1320)

a類は、口縁端部の突帯が、やや上向きに付けられ、口唇部内側との間に若干の段を有する土器である。突帯にはすべてヘラ状施文具による刻みが施されている。

b) 第Ⅰb類 (1321～1326)

b類は、口縁端部の突帯が、ほぼ水平に付けられ、口唇部はフラットな面をもっている。外面には縦位のハケ目調整が顕著である。上位の突帯には、全面にヘラ状施文具による刻みを施しているが、下位の突帯には、刻みのあるものと無いものがある。

② 第Ⅱ類 (第122図 1327, 第123図 1329～1335)

第Ⅱ類は、口縁端部と胴部上半にそれぞれ二条の刻目突帯を有する土器である。1327は推定復元した土器で、口径30.2cm, 器高32.3cmを測るものである。第Ⅰb類と同様に、外面には縦位のハケ目調整が顕著である。

③ 第Ⅲ類 (第123図 1336・1337)

第Ⅲ類は、口縁端部に突帯をもち、胴部には数条の沈線を施す土器である。突帯にはヘラ状施文具による刻みを施すものと、施さないものがある。

④ 第Ⅳ類 (第122図 1328, 第123図 1338～1350)

第Ⅳ類は、口縁端部と胴部上半に突帯を有するもので、口縁部は「L」字をなす。上下の突帯は、それぞれ一条ないし二条であるが刻みは施されていない。1328は推定復元した土器で、口径41.2cm, 器高38.7cmを測るものである。口縁端部と胴部上半にそれぞれ三角突帯をもち、さらに口唇部には二個一組の貼り付け突起を四ヶ所に配している。1348・1349の口唇部にも同様な突起を貼り付けている。外面は横位ないし縦位のヘラミガキを施しているものが多い。

⑤ 第Ⅴ類 (第124図 1351～1357)

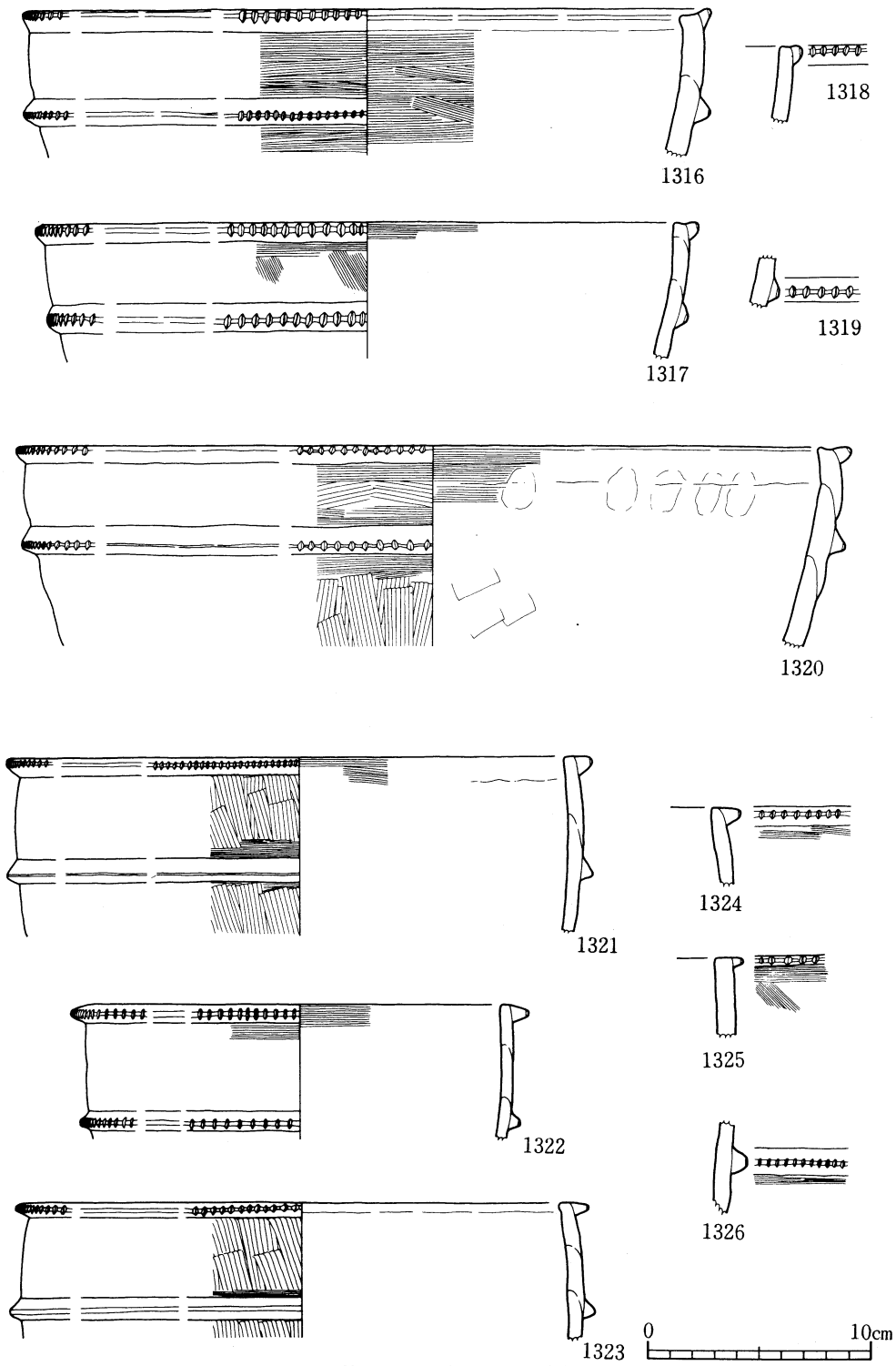
やや垂れ下がり気味の「L」字口縁をもつ土器である。口縁端部のみの出土であった。

⑥ 第Ⅵ類 (第124図 1358～1361)

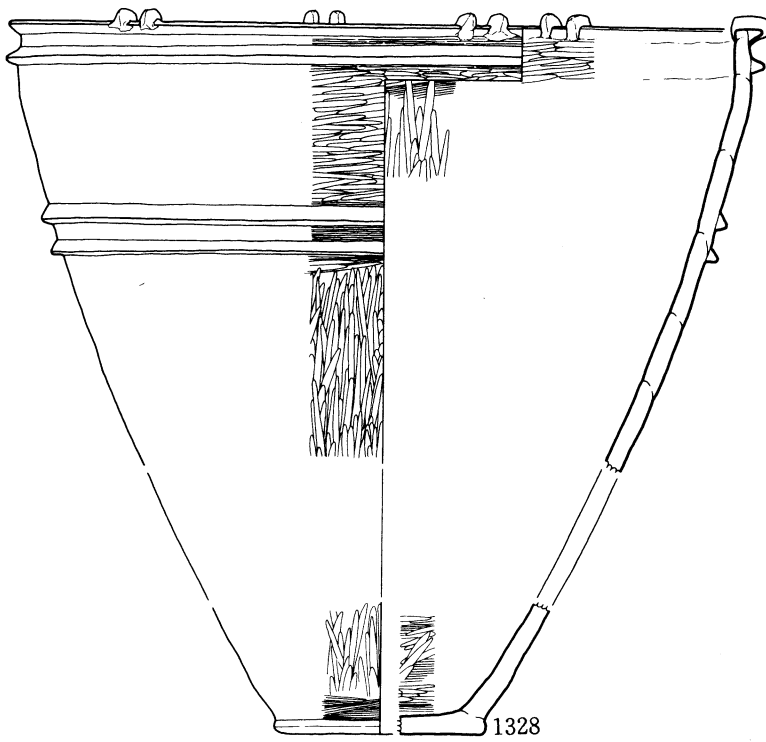
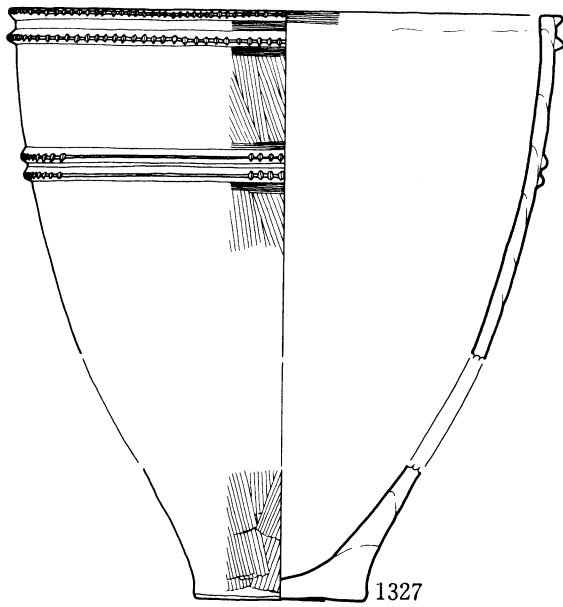
「く」の字口縁を呈するもので、胴部には三角突帯を有する土器である。

⑦ 第Ⅶ類 (第124図 1362～1367)

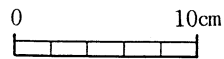
「く」の字口縁を呈し、胴部に横位ないし縦位の三角突帯を有する土器である。

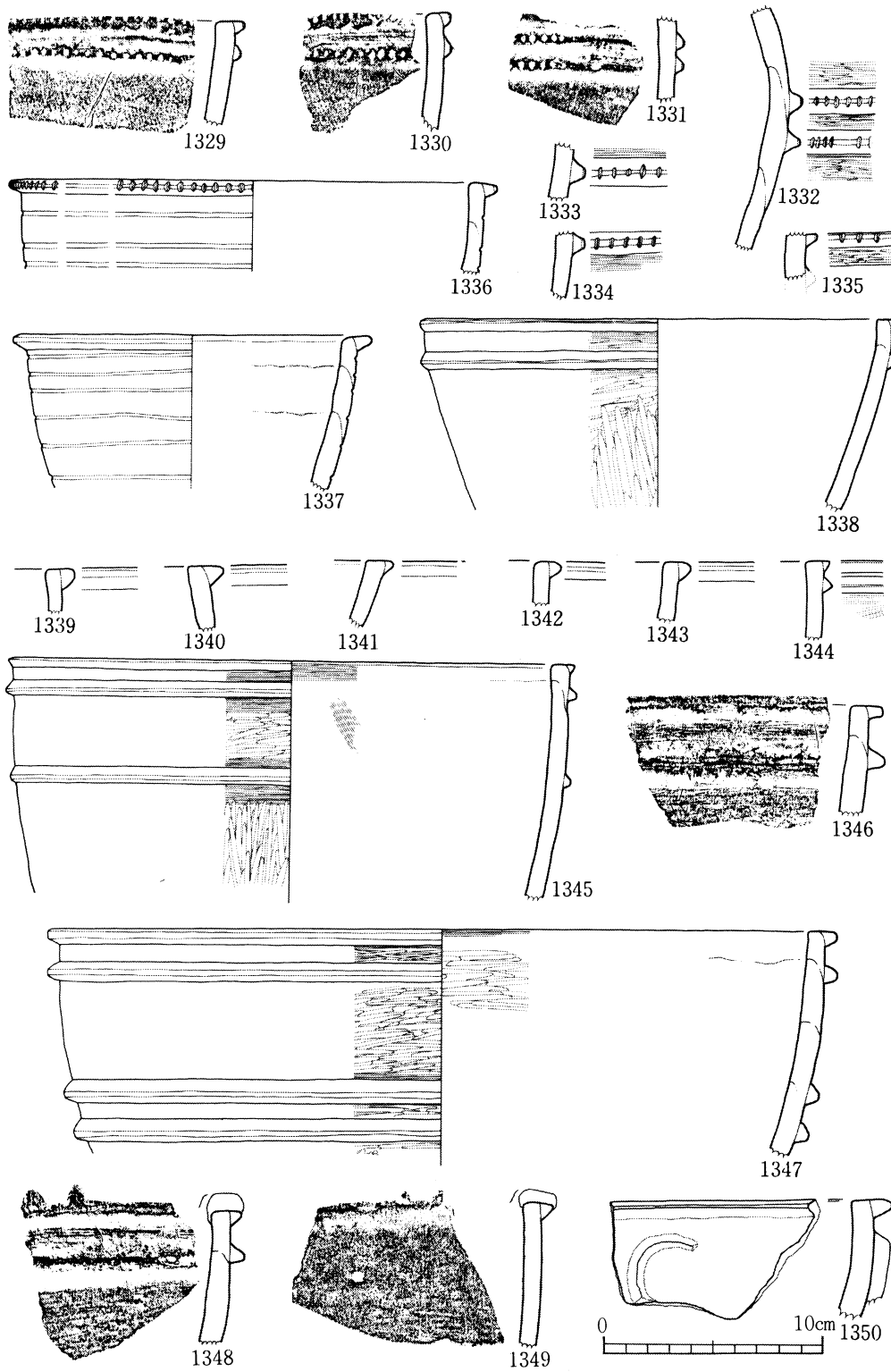


第121図 弥生土器 (1)

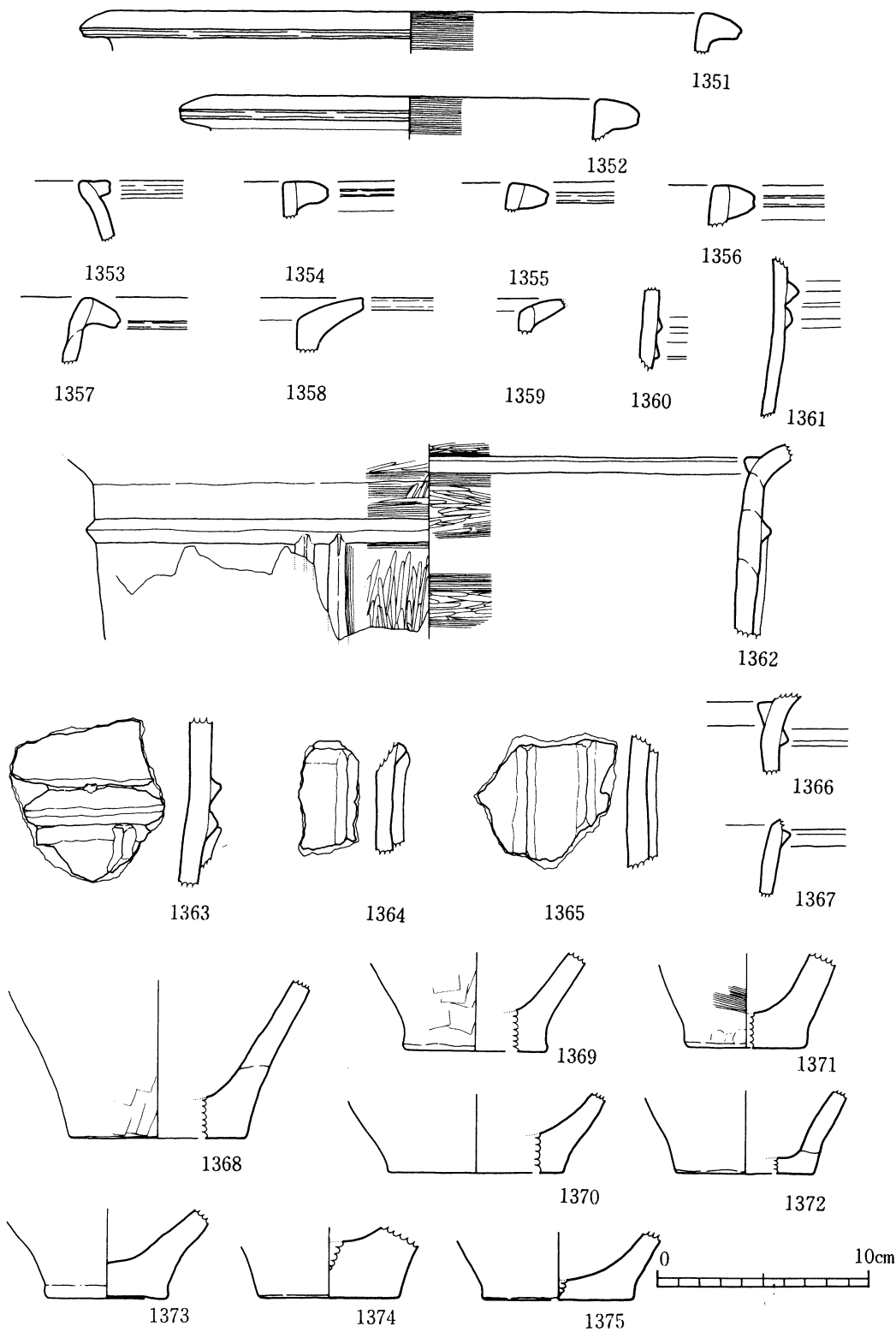


第122図 弥生土器 (2)

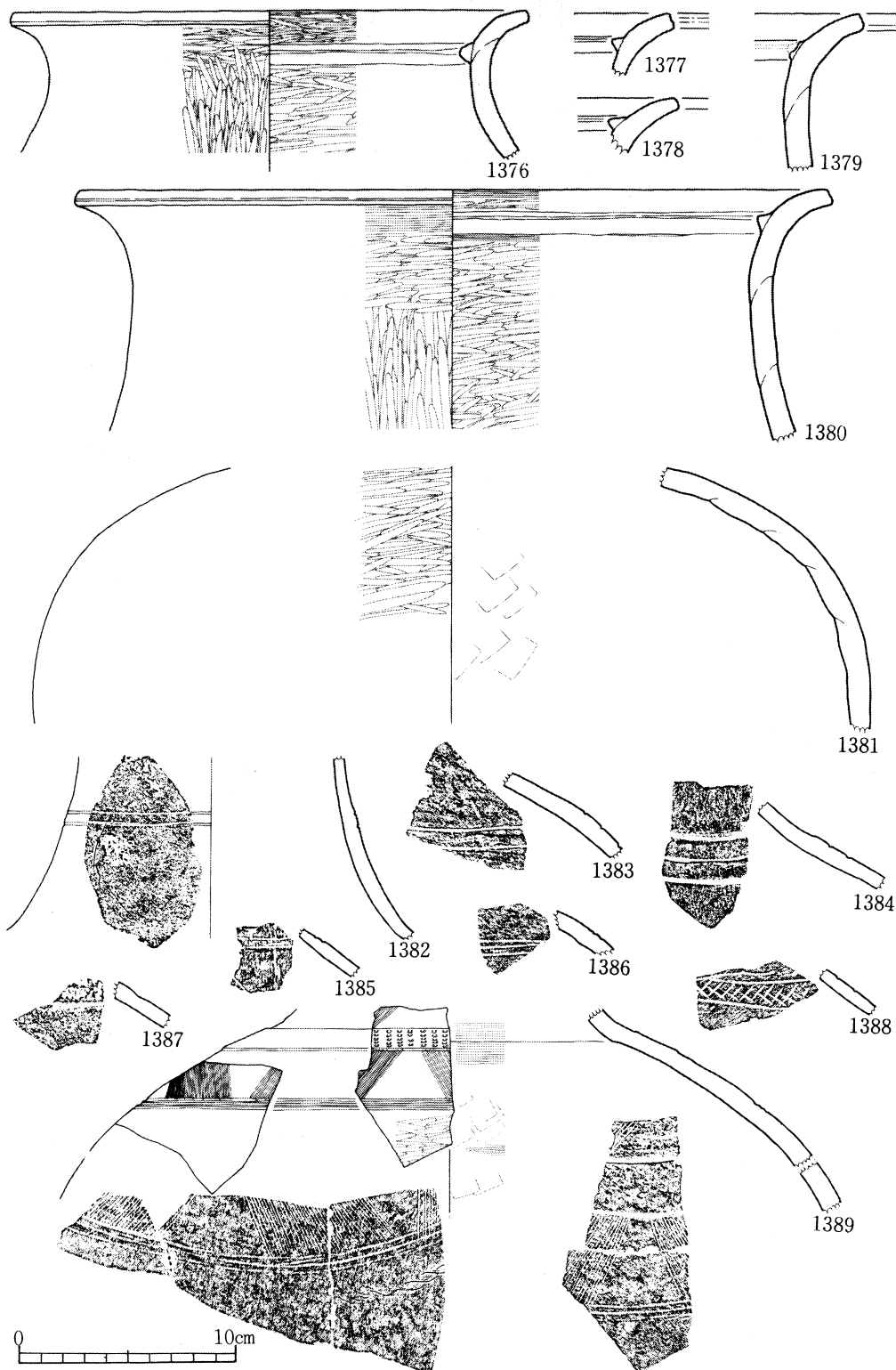




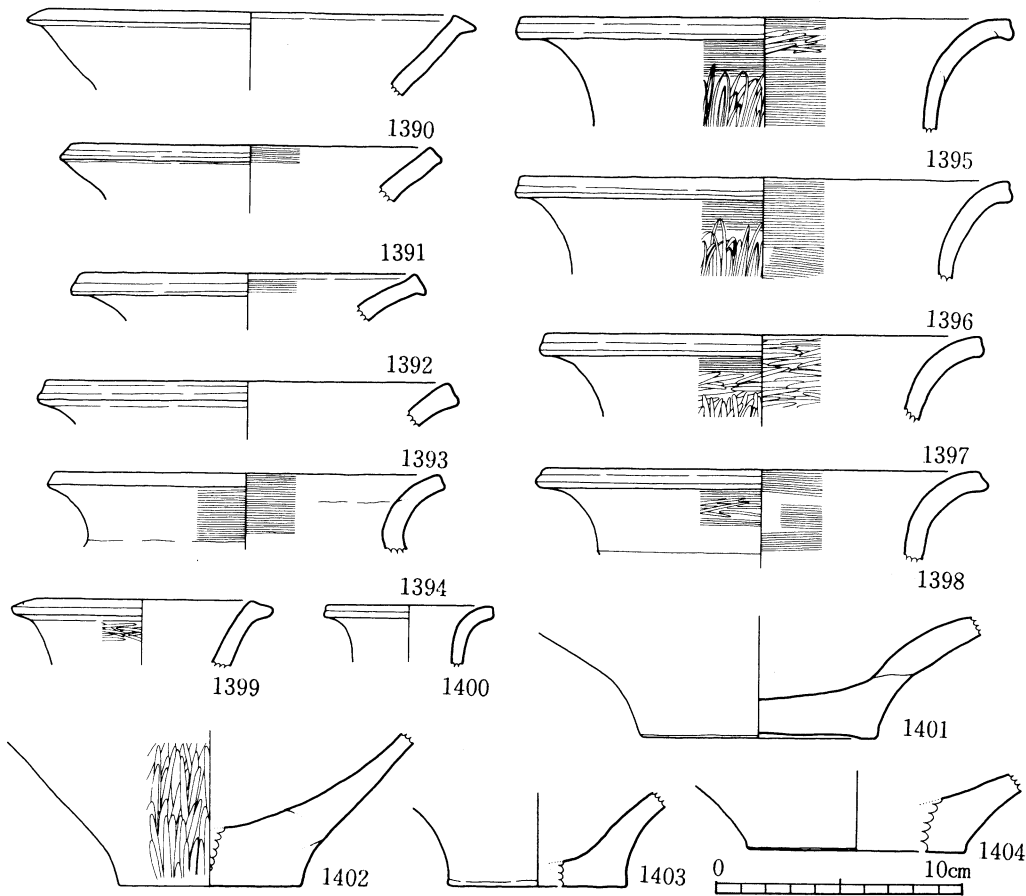
第123図 弥生土器 (3)



第124図 弥生土器 (4)



第125図 弥生土器 (5)



第126図 弥生土器 (6)

(2) 壺形土器 (第125図・第126図 1376~1404)

壺形土器は、その形態の特徴から第Ⅰ、Ⅱ類に分類した。

① 第Ⅰ類 (第125図 1376~1389)

第Ⅰ類は大きく張る胴部から、やや内傾気味に立ち上がる頸部を経て、大きく外反する口縁部に至る土器である。口縁部内面には一条の三角突帯を巡らしている。1276~1380は口縁部、1381~1389は胴部であるが、丁寧なヘラ磨きによる器面調整が顕著である。また1382~1389は肩部に沈線文、刺突文等を施すものである。特に1389は、先端の細いヘラ状施文具による横位ないし斜位の平行沈線文や、半載竹管状施文具による連続刺突文を組み合わせ文様化したもので、本遺跡の出土土器の中では異質な感じを受けるものの一つである。

② 第Ⅱ類 (第126図 1390~1400)

大きく外反する口縁部をもつ土器で、フラットな口唇部をもつ。口縁部付近のみの出土であるが、おそらく短頸になると思われる。内外面ともに丁寧なヘラ磨き、ナデ調整がみられる。

3. 古墳時代～平安時代の出土遺物 (第127図～第131図 1405～1506)

古墳時代の遺物としては、甕形土器、壺形土器、高坏、鉢形土器、埴形土器、ミニチュア土器、ふいごの羽口等があり、第Ⅳ層及び第Ⅵ層を中心に出土した。該当層の残る部分では、ほぼ出土しているが、特にB～D-2～4区に集中していた。

(1) 甕形土器 (第127図～第128図 1405～1439)

甕形土器は、その形態の特徴から第Ⅰ類～第Ⅲ類に分類した。

① 第Ⅰ類 (1405～1422)

第Ⅰ類は、「く」の字に外反する口縁部をもつ土器である。口縁屈曲部の内面には、稜を明瞭にもつものと、退化して部分的にしか残らないものがある。また口縁屈曲部の外面には、突帯（絡縄、刻目他）を貼り付けるものもある。中空の脚台を有する。

② 第Ⅱ類 (1423～1425)

第Ⅱ類は、やや外傾して開く口縁部をもつ土器で、口縁部下には、やや雑な形状の突帯が付く。1423・1425のように、内面に粘土帯の接合部を明瞭に残すものもある。

③ 第Ⅲ類 (1426～1429)

第Ⅲ類は、若干内湾する口縁部をもつ土器である。口縁部下には、突帯を有し、突帯部を境に、大きく内湾して立ち上がる1427・1428のような土器もある。

④ 底部 (1430～1439)

底部は上げ底を呈し、脚台となる。脚部と胴部の屈曲部に突帯を貼り付けるものもある。また、上げ底の中央部には、垂下する瘤状の突起をもつものもある。

(2) 壺形土器 (第129図 1440～1456)

壺形土器は、その形態の特徴から第Ⅰ類～第Ⅱ類に分類した。

① 第Ⅰ類 (1440～1443)

第Ⅰ類は、外反する口縁部をもち、肩部から胴部にかけて大きく膨らみ、胴部最大径が中位にくる土器である。

② 第Ⅱ類 (1444～1451)

第Ⅱ類は、直行及び外反する口縁部をもつ土器で、1444、1447は、胴部の上位に最大径がく。また、1444は頸部に勾玉状の刻みを有する突帯を貼り付けるものもある。

③ 第Ⅲ類 (1452)

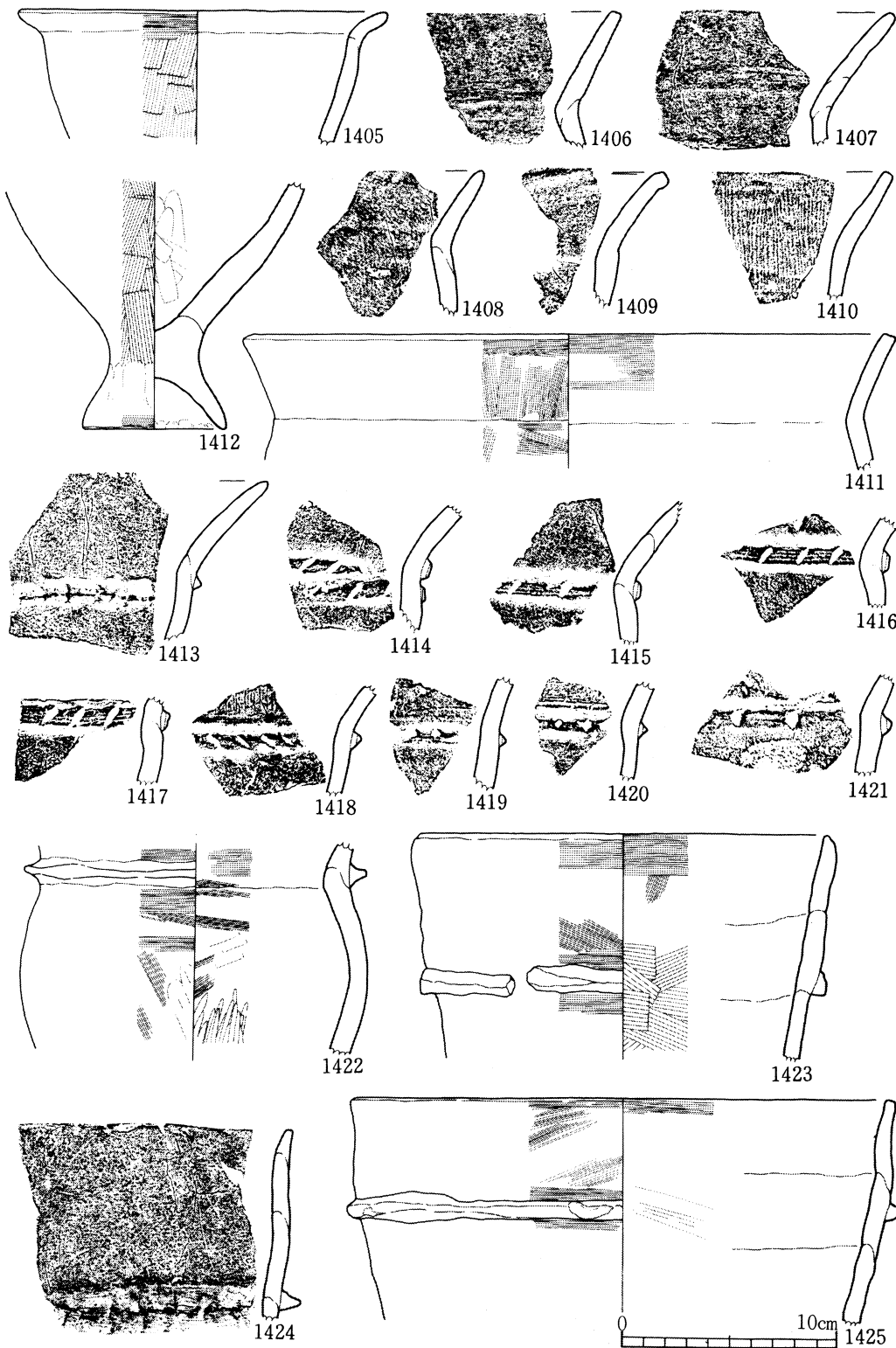
第Ⅲ類は、無頸壺で、推定復元した1452は口径8.8cmを測り、胴部は大きく膨らむ。

④ 底部 (1453～1456)

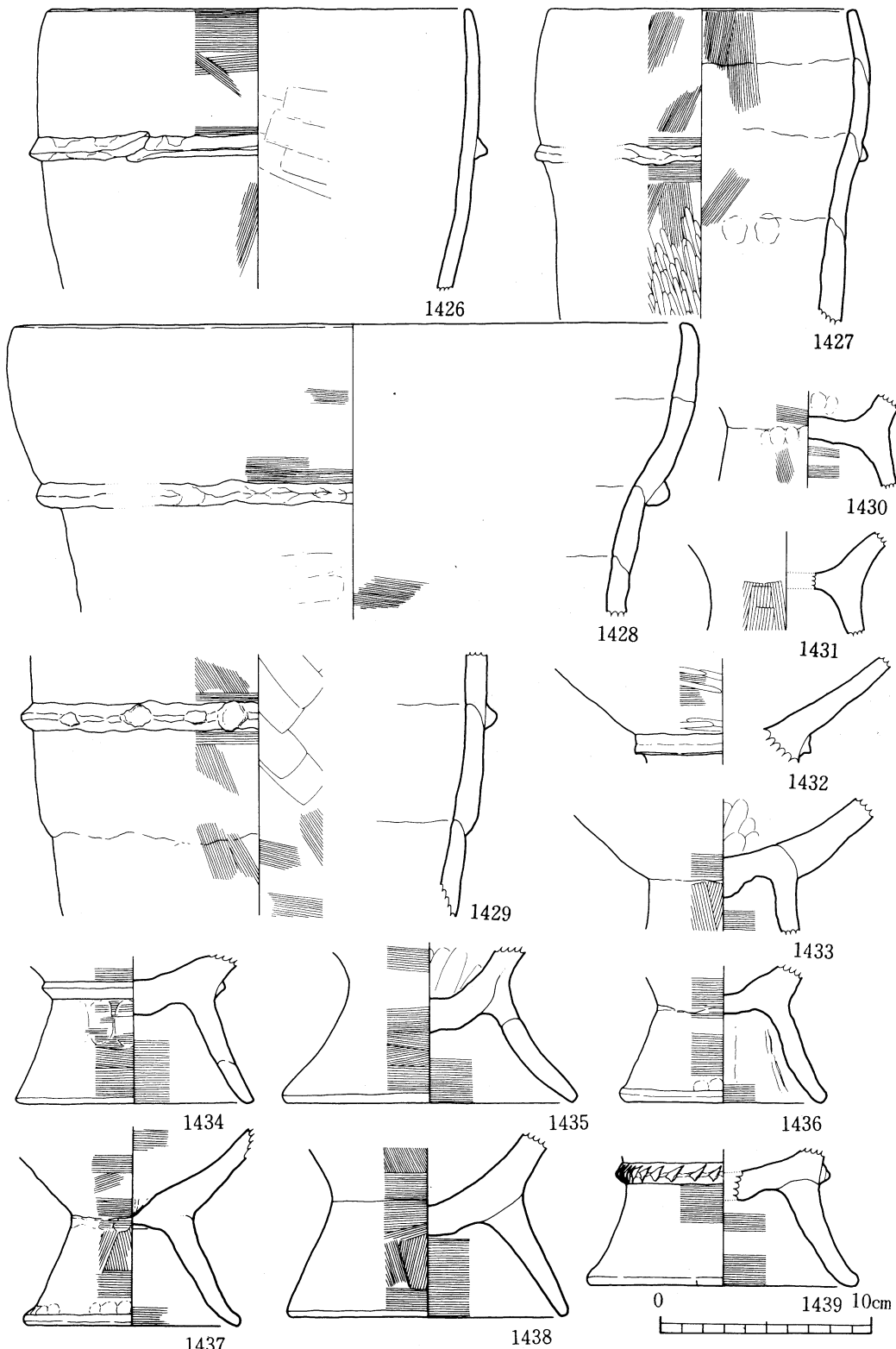
底部は、平底を呈する。

(3) その他 (第130図 1454～1474)

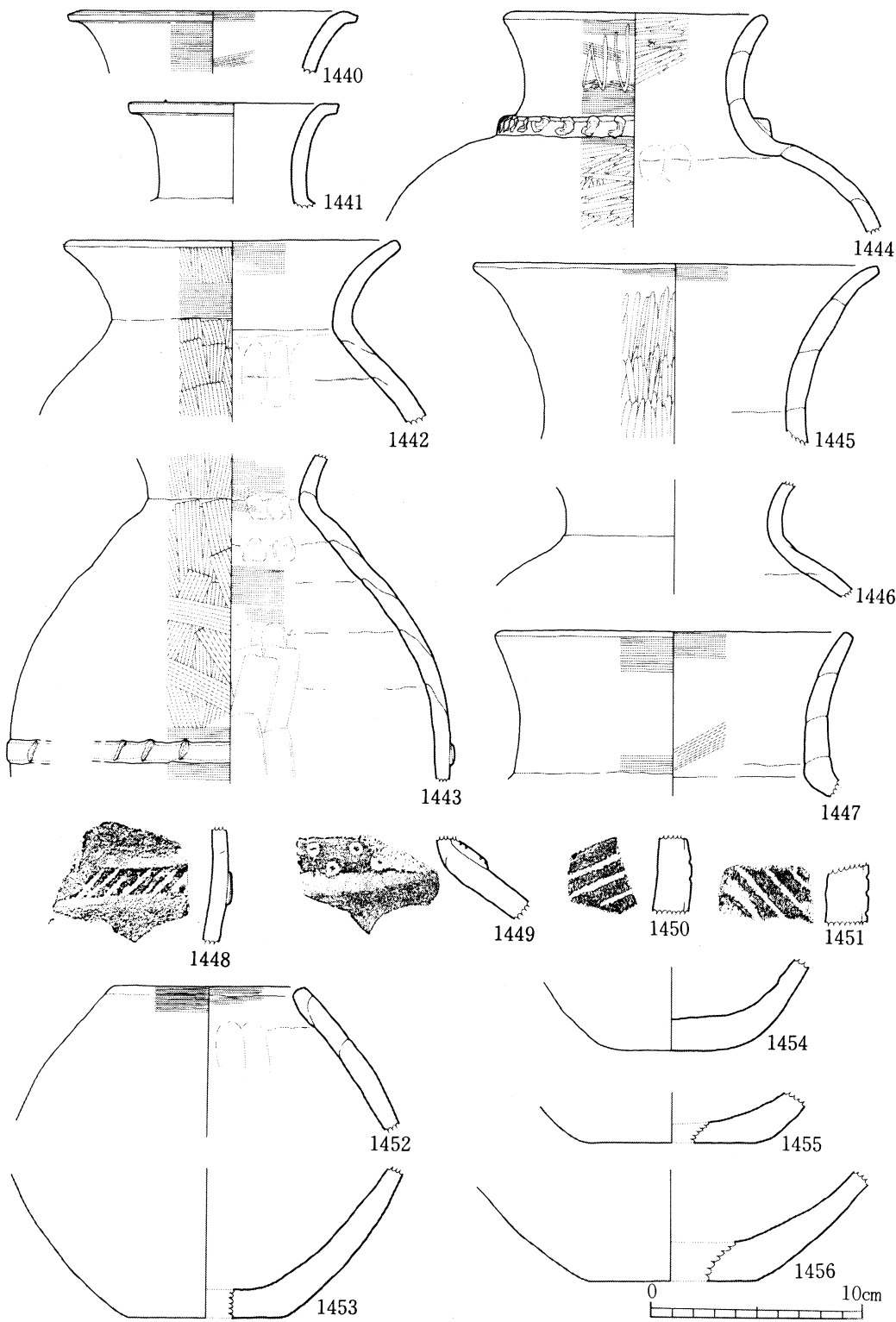
その他に鉢形土器(1457～1460)、高坏(1461～1466)、埴形土器(1467・1468)、ミニチュア土器(1469・1470)、ふいごの羽口(1471～1473)、紡錘車(1474)が出土した。1471は高坏の脚部を利用したふいごの羽口である。



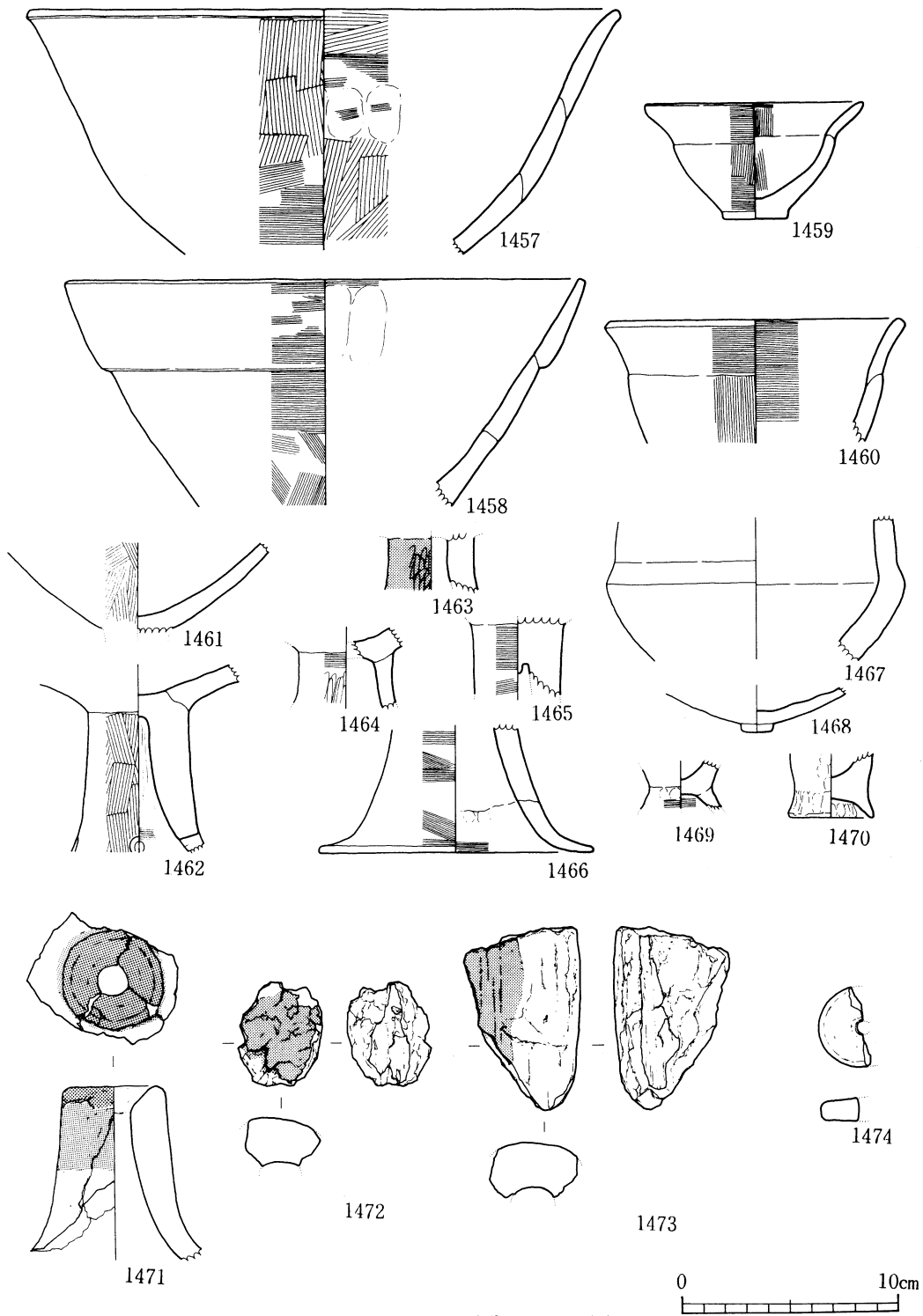
第127図 古墳時代の土器 (1)



第128図 古墳時代の土器 (2)
-178-



第129図 古墳時代の土器 (3)



第130図 古墳時代の土器 (4)

(4) 須恵器 (第131図 1475～1506)

須恵器は、蓋(1475～1479)、坏(1480～1482)、甕(1483～1506)が出土した。これらはC・D-2・3区の第Ⅳ層及び第Ⅵ層を中心に出土したものである。詳細は第23表参照。

4. 中・近世の出土遺物 (第132図 1507～1541)

中・近世の出土遺物としては青磁(1507～1522)、白磁(1523～1526)、染付(1527～1534)、陶器(1535)、摺鉢(1536～1540)が出土している。

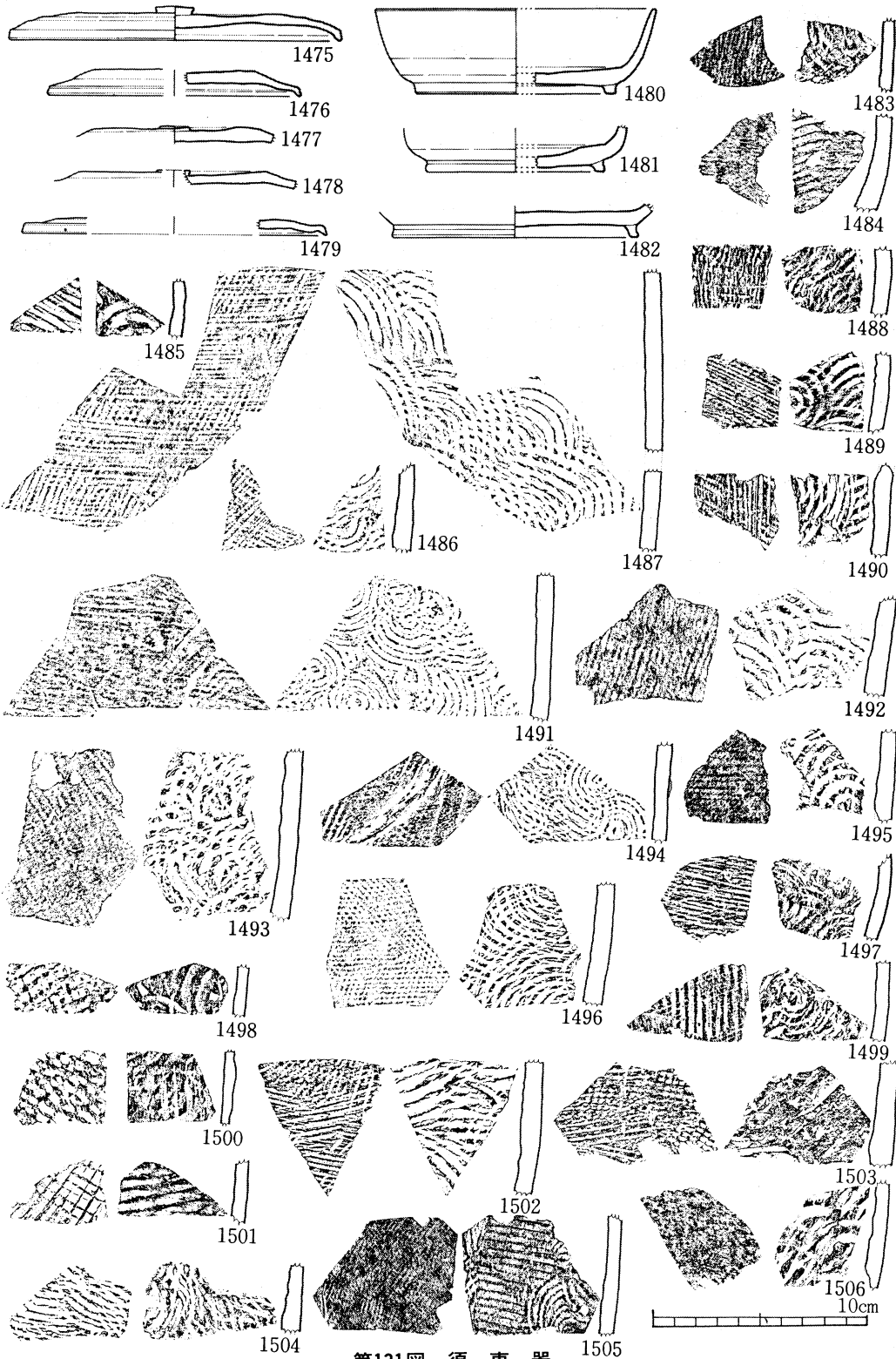
1507～1520までは碗、1521～1523までが皿(1522は稜花皿)である。1507～1511、1513は無文である。1512が見込みに花印があり、1514・1515・1520は広幅の連弁があり、1516～1519には細幅の連弁がみられる。底部の釉は高台までかかっている。また1511は切り高台で他は丸味をもった高台である。皿は全体に釉がかかり、1521は厚手の磁器で、1522は稜花皿である。1524は薄手の磁器である。1523は白磁の皿で1524は碗である。1526は底部だけである。釉は1524が底部までかからずに、1525が一部までかかっている。1527～1534は染付である。

1535は陶器で薩摩焼の堅野焼の蓋である。

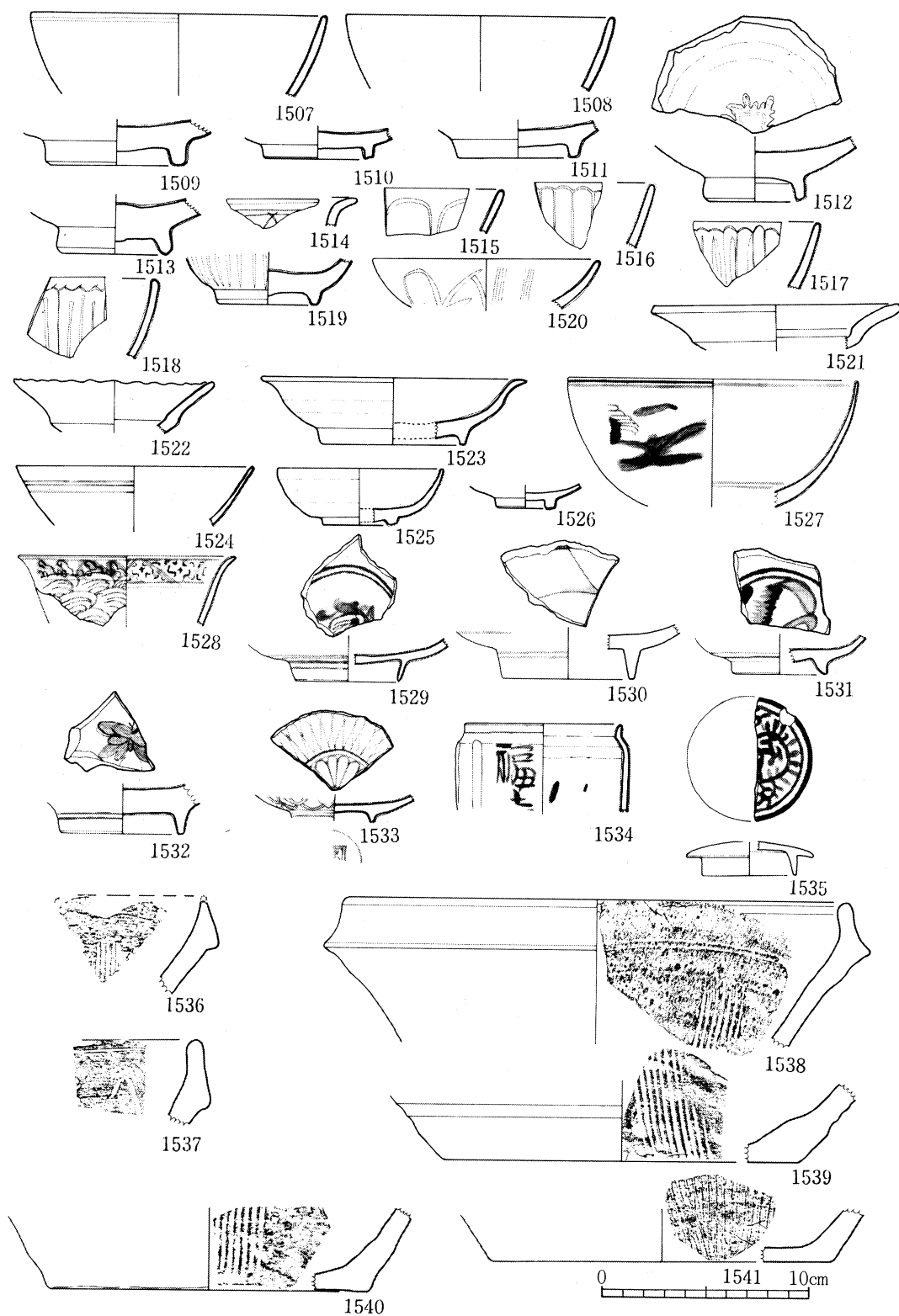
1536～1541は備前焼の摺鉢と思われる。1536～1538は口縁部で、1539～1541は底部である。

5. その他 (第133図 1542～1559)

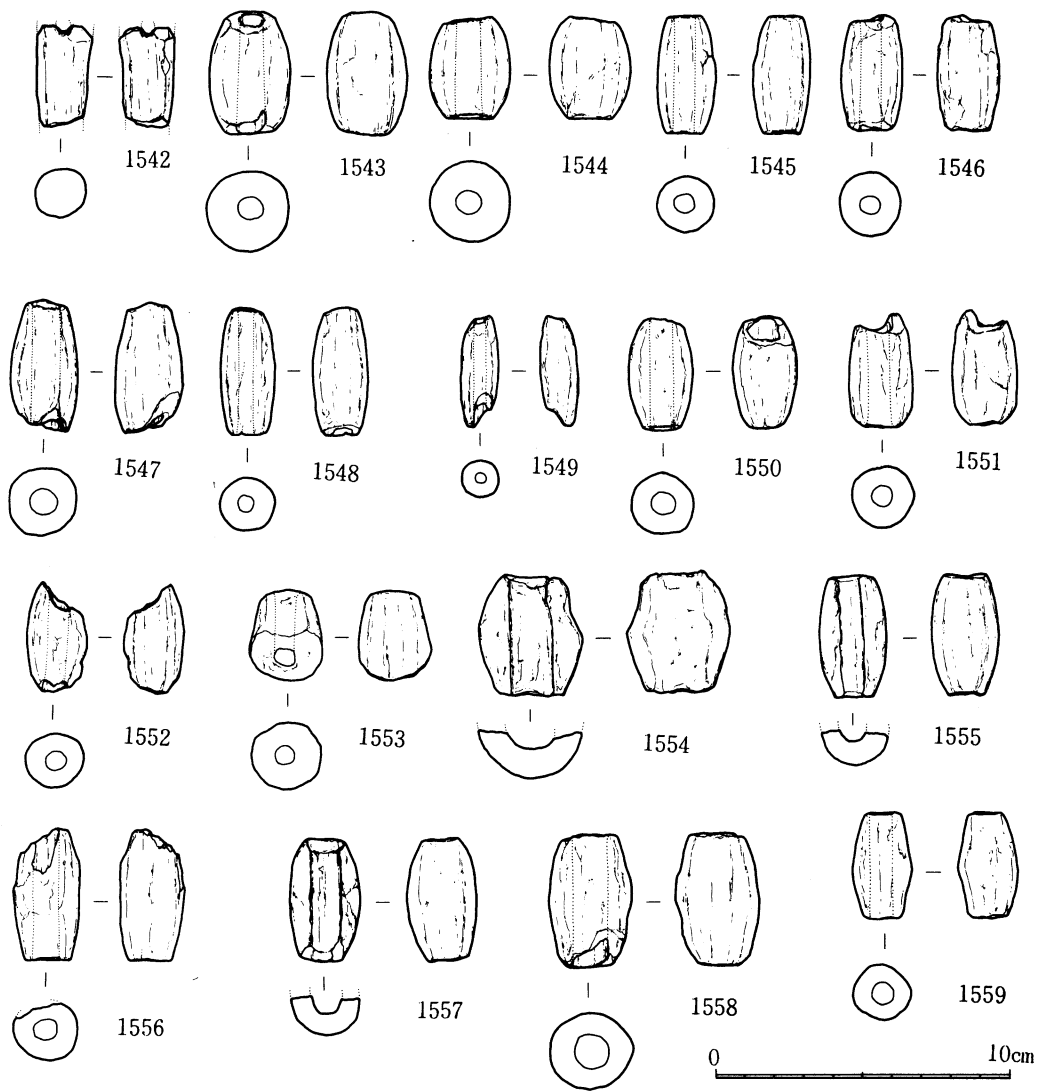
その他、時期を明確に把握できない遺物として、総数18点の土錘が出土している。これらは第Ⅲ層から第Ⅵ層にかけて出土したもので、1542が双孔棒状土錘、1543～1559が管状の土錘である。詳細は第10表参照。



第131図 須恵器



第132図 中・近世の出土遺物



第133図 土 錘

第10表 土錘計測表

遺物番号	出土区層	最大長(cm)	最大幅(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)	
1542	C2IV下	(3.4)	1.9	(0.3)	(12.9)	双孔棒状土錘
1543	D2III	4.2	2.8	0.9	27.25	
1544	D8I	3.5	2.8	0.9	27.6	
1545	C4表採	4.0	2.0	0.7	25.95	
1546	C3III	3.9	2.1	0.7	16.3	
1547	C2表採	(4.4)	2.4	1.0	(15.7)	
1548	C2表採	4.4	1.9	0.5	14.2	
1549	B3VI	(3.8)	1.4	0.4	(5.3)	
1550	C8I	3.9	2.2	0.8	(12.85)	
1551	D10IV	(3.8)	2.2	0.7	(9.35)	
1552	D7I	(3.7)	2.2	0.7	(9.5)	
1553	C3I	(3.1)	2.2	0.6	(12.65)	
1554	C2III	4.2	2.0	(1.5)	(19.8)	
1555	C6I	4.1	2.5	0.8	(11.3)	
1556	D2IV	(4.4)	2.2	0.8	(18.3)	
1557	D5VI	4.2	2.5	1.0	(14.45)	
1558	D8I	(4.5)	2.9	1.2	(27.0)	釉有り
1559	D9I	3.6	2.0	0.8	11.95	釉有り

第11表 榎木原遺跡出土土器観察表(1)

器種	部位	胎土	焼成	色調	番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調					
深鉢…A 鉢…I	口縁部…A	石英…Q	良…A	黒色…A 灰茶褐色…G	60	中世土 7	L	E	青磁		A	L					
精製浅鉢…B 坩…J	頸部…B	長石…PL	普通…B	黒褐色…B 黄茶褐色…H	61	"	L	E	青磁		A	L					
粗製浅鉢…C 蓋…K	肩部…C	金雲母…M	粗悪…C	黒茶褐色…C 橙茶褐色…I	62	"	E	A	須恵器		A	L					
皿…D 甕…E 碗…L	胴部…D	角閃石…H		暗茶褐色…D 赤茶褐色…J	63	"	火舎	A		Q, H	B	D					
壺…F 環…G 摺鉢…M	底部…E	滑石…Ta		茶褐色…E 灰褐色…K	64	"	I	A	土師器	Q	B	F					
高坏…H	完形…F			明茶褐色…F 青灰色…L	65	"	A	A	XXIII	Q	B	F					
					66	"	A	A	XXIII	Q	B	D					
					67	"	A	A	XXIII	Q	B	F					
番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考									
1	竪穴住居跡	A	ABCD	XXIII	Q, PL, H	B	C/C		68	"	A	A	XXIII d	P, L, M	B	D/F	
2	"	A	A	XXIII	Q, PL, H	B	D/E		69	"	A	D	I a	Q	B	J/D	
3	"	A	A	XXIII	Q, PL, H	B	E		70	"	A	E	XXIII	Q	B	C/E	
4	"	A	A	XXIII	Q, PL, H	B	D		71	"	A	E		Q	B	F	
5	"	A	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	D		72	"	B	A	XXIII	Q	A	B	
6	"	A	D	XXIII	Q, PL, H	B	D/G		73	中世土 5	L	F	青磁		A		
7	"	A	D	XXIII	Q, PL, H	B	E/B		74	中世落	L	E	染付		A		
8	"	A	E	XXIII	Q, PL, H	B	D		75	"	L	E	染付		A		
9	"	A	E	XXIII	Q, PL, H	B	E		76	"	L	A	青磁		A		
10	"	B	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		77	"	L	A	青磁		A		
11	"	B	AB	XXIII	Q, PL, H	B	C		78	"	L	E	青磁		A		
12	"	B	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		79	"	E	D	須恵器		A	L	
13	"	B	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		80	"	E	D	陶器		A	D	
14	"	B	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		81	"	E	A	弥生IV	Q, H	B	E	
15	晩期1号土	A	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		82	"	A	A	XXIII	Q	A	D/F	
16	"	A	D	XXIII	Q, PL, H	B	C		83	"	A	A	XXIII	Q	A	F/A	
17	"	A	D	XXIII	Q, PL, H	B	C		84	"	A	A	弥生IV	Q	A	H	
18	"	A	E	XXIII	Q, PL, H	B	C		85	"	A	A	XXIII	Q, H	A	H	
19	"	A	E	XXIII	Q, PL, H	B	E		86	"	A	A	XXIII d	Q, PL	B	D	
20	"	B	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		87	"	A	A	XXIII d	P, L, M	B	B/D	
21	"	B	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		88	中世 溝	A	A	XXIII	Q, H	B	D/F	
22	"	B	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		89	"	E	A	弥生V	Q, PL	B	F	
23	"	A	E	XXIII	Q, PL, H	B	A/F		90	"	E	E	弥生	Q	A	F	
24	"	A	A	I a	Q, PL, H	B	E		91	"	E	E	弥生	Q	A	H	
25	晩期2号土	A	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		92	"	F	C	古甕II	Q	B	F	
26	"	A	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		93	"	F	A	須恵器		B	L	
27	"	A	E	XXIII	Q, PL, H	B	E		94	"	K	D	須恵器		A	L	
28	"	A	A	XXIII	Q, PL, H	B	E		95	"	E	D	須恵器	P, L	A	B/L	
29	"	A	CD	XXIII	Q, PL, H	B	C		96	"	E	D	須恵器		A	L	
30	"	B	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		97	"	E	D	須恵器		A	L	
31	"	B	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		98	"	E	D	須恵器		A	L	
32	"	B	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		99	"	E	D	須恵器		A	L	
33	"	B	A	XXIII	Q, PL, H	B	C/B		100	"	E	D	須恵器		A	L	
34	"	B	A	XXIII	Q, PL, H	B	G		101	"	L	A	染付		A		
35	"	B	CD	XXIII	Q, PL, H	B	C		102	"	L	D	青磁		A		
36	"	A	ABC	XXIII	Q, PL, H	B	C		103	"	D	A	青磁		A		
37	"	C	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		104	"	L	E	青磁		A		
38	"	C	F	XXIII	Q, PL, H	B	C		105	"	L	E	青磁		A		
39	"	C	A	XXIII	Q, PL, H	B	C		106	"	L	A	白磁		A		
40	埋鉢	B	F	XXIII	Q, PL, H	B	E		107	"	L	A	白磁		A		
41	D11P103	A	A	I a	Q, PL	B	H		108	"	M	A	陶器	Q	B	H	
42	D8 P125	A	D	I b	Q	A	D/B		109	"	M	A	陶器		A	D	
43	P236	A	D	XXIII	Q, H	A	D		110	"	M	A	陶器		A	D	
44	D11P93	A	A	XXIII d	M	A	B/H		111	"	M	A	陶器		A	G	
45	"	A	A	XXIII d	M	A	B/F		112	"	M	E	陶器		B	D	
46	D10P47	A	E	Q	B	F	XXIII類?		113	"	M	E	陶器		B	D	
47	D10P63	A	C	XXIII	Q	A	D		114	"	M	E	陶器		B	D	
48	D9 P53	E	A	弥生IV	Q, H	A	H		115	"	M	E	陶器		B	D	
49	欠								116	C 2 Ⅲ	A	A	I a	Q, PL, H	A	H/B	2点接合
50	溝 1	F	A	弥生II	P, L	A	E		117	C 6 Ⅲ	A	A	I a	Q, PL, H	A	H/B	
51	"	E	E	古甕	Q, PL, H	B	E		118	C 2 Ⅲ	A	A	I a	Q, H	A	H	
52	"	E	D	弥生IV	Q, PL, H	B	D		119	C 2 Ⅲ	A	A	I a	Q	A	B/E	
53	"	E	E	古甕	Q, PL, H	B	D		120	B 3 Ⅲ下	A	D	I a	Q, PL	A	H/G	
54	"	E	D	須恵器	黒曜石	A	L		121	C 2 Ⅲ	A	D	I a	Q, PL	A	H/B	2点接合
55	中世土 4	B	A	XXIII	Q, PL, H	B	D		122	C 2 Ⅲ	A	D	I a	Q, PL, H	A	H/B	
56	"	L	A	陶器		A	K		123	C 6	A	D	I a	Q, PL	A	B/C	
57	"	A	E	Q		B	F		124	C 7 Ⅲ下	A	D	I a	Q	A	D/E	
58	中世土 7	M	A	陶器	Q, PL	B	D		125	C 2 Ⅲ	A	D	I a	Q, H	A	E	
59	"	L	F	白磁		A	K		126	C 2 Ⅲ	A	D	I a	Q	A	F	
									127	C 2 Ⅲ	A	D	I a	Q, H	B	B/E	

第12表 榎木原遺跡出土土器観察表(2)

番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考
128	C2Ⅱ	A	D	Ia	Q	B	B/D		196	D6Ⅱ	A	A	Ⅱa	Q	A	F	
129	C2Ⅱ	A	D	Ia	Q	B	B/D	2点接合	197	B4Ⅱ	A	A	Ⅱa	Q	A	F	
130	C9Ⅱ	A	D	Ia	Q, H	B	G/D		198	D3Ⅱ上	A	A	Ⅱa	Q, PL	A	D	
131	C2Ⅱ	A	D	Ia	Q	B	D/E		199	B2Ⅱ	A	A	Ⅱa	Q, PL, M	A	B/D	
132	C9Ⅱ下	A	D	Ia	Q, DL	B	H/B		200	C3Ⅱ	A	A	Ⅱa	Q	A	D	補修孔有
133	C9Ⅱ下	A	D	Ia	Q	A	D/A		201	D5Ⅱ	A	A	Ⅱa	Q	A	B/C	
134	C9Ⅱ下	A	D	Ia	Q	A	D/A		202	C3Ⅱ	A	A	Ⅱa	Q, PL	A	B	
135	C9Ⅱ下	A	D	Ia	Q, H	B	H/C		203	A0	A	D	Ⅱa	Q	A	F/D	
136	C9Ⅱ	A	D	Ia	Q	B	E/C		204	C2Ⅱ	A	D	Ⅱa	Q, PL	A	F	
137	C7Ⅱ上	A	D	Ia	Q	A	F/C		205	C4Ⅱ	A	D	Ⅱa	Q	A	C/D	
138	C2Ⅱ	A	D	Ia	Q, H	A	F/B		206	D4Ⅱ上	A	D	Ⅱa	Q	A	C/D	
139	C2Ⅱ	A	D	Ia	Q	B	F/B		207	C2Ⅱ	A	D	Ⅱa	PL	A	B	3点接合
140	C3Ⅱ	A	A	Ⅱ	PL, H	A	E/D		208	B3Ⅱ上	A	D	Ⅱa	PL	B	F/B	
141	D10Ⅱ下	A	D	Ib	Q	A	G		209	D4Ⅱ	A	D	Ⅱa	Q, PL	A	B/D	
142	D9Ⅱ下	A	D	Ib	Q	A	H/F		210	B2Ⅱ	A	E	Ⅱa		A	H/E	
143	D9Ⅱ下	A	E	Ib	Q	A	H	3点接合	211	C4Ⅱ	A	E	Ⅱa	Q	A	C/H	
144	B3Ⅱ	A	D	Ib	Q	B	B/C		212	D2Ⅱ	A	E	Ⅱa	Q, PL, H	A	H/A	
145	D11Ⅱ	A	D	Ib	Q, H	A	F		213	C6Ⅱ	A	E	Ⅱa	Q	A	H	
146	B9Ⅱ下	A	D	Ib	Q, PL	A	F/B		214	C4Ⅱ	A	E	Ⅱa	PL, M	A	C/E	
147	D10Ⅱ下	A	D	Ib	Q	B	F/D		215	C5Ⅱ	A	E	Ⅱa	Q, PL	B	D	
148	C9Ⅱ下	A	D	Ib	Q	B	G		216	C3Ⅱ下	A	E	Ⅱa	Q, PL	B	H	
149	C10Ⅱ下	A	D	Ib	Q	B	C/E		217	C2Ⅱ	A	E	Ⅱa	Q, PL	A	C	6点接合
150	C10Ⅱ下	A	D	Ib	Q, H	B	B/E		218	D3Ⅱ	A	A	Ⅱb		A	F/G	2点接合
151	C9Ⅱ下	A	D	Ib	Q	B	H		219	D3Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q	A	E/B	
152	C9Ⅱ	A	D	Ib	Q, PL, H	B	C/E		220	DⅡ	A	A	Ⅱb	Q	A	C/B	
153	C9Ⅱ下	A	D	Ib	Q	A	H		221	C3Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q	B	G/C	
154	D9Ⅱ下	A	D	Ib	Q, PL	A	C/D		222	D3Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q	A	E/C	
155	表探	A	D	Ib	Q, PL	A	B/E		223	D4Ⅱ下	A	D	Ⅱb		A	G/C	
156	D9Ⅱ下	A	D	Ib	Q, PL	A	D/E		224	D3Ⅱ下	A	D	Ⅱb	Q, PL	A	H/G	2点接合
157	D9Ⅱ下	A	D	Ib	Q, PL	A	E/C	2点接合	225	D3Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q	A	E/C	
158	D9Ⅱ下	A	D	Ib	Q, PL	A	C/E		226	D3Ⅱ	A	D	Ⅱb		A	C	
159	C10Ⅱ下	A	D	Ib	Q, PL	A	B/E		227	D3Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q	A	G	
160	B9Ⅱ下	A	E	Ib	Q, PL	A	E/C		228	C3Ⅱ下	A	D	Ⅱb		A	D	
161	C9Ⅱ下	A	E	Ib	Q, PL	A	C/D	2点接合	229	C6Ⅱ上	A	A	Ⅱb	Q	A	B	
162	A9表	A	E	Ib	Q, M	B	G		230	D4Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q, PL	B	F	
163	C6Ⅱ上	A	E	I	Q, H	B	E		231	D3Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q, PL	B	F	
164	C2Ⅱ	A	E	I	Q	A	B/F		232	D4Ⅱ	A	D	Ⅱb		B	F	
165	C9Ⅱ下	A	E	I	Q, PL	B	F		233	D4Ⅱ上	A	A	Ⅱb	Q, PL	B	F	
166	B3Ⅱ	A	E	I	Q	B	H/E		234	D4Ⅱ下	A	D	Ⅱb	Q, PL, M	B	F	
167	C10Ⅱ下	A	E	I	Q	A	E/B		235	D5Ⅱ上	A	D	Ⅱb	Q, PL, M	B	F	
168	C2Ⅱ	A	E	I	Q	B	B/E	2点接合	236	D4Ⅱ下	A	D	Ⅱb	PL, M	B	F	
169	B9Ⅱ下	A	E	I	Q	B	E		237	D4Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q, PL, M	B	F	
170	C9Ⅱ下	A	E	I	PL	A	D/E		238	D4Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q, PL	B	F	
171	B9Ⅱ	A	E	I	Q, PL, H	B	E		239	C4Ⅱ下	A	A	Ⅱb	Q, PL	B	C	
172	D3Ⅱ下	A	D	Ⅱa	Q	A	F		240	D4Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q, PL	B	E/C	
173	D11Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q	A	B		241	D4Ⅱ下	A	A	Ⅱb	Q, PL	B	C	
174	C9Ⅱ	A	A	Ⅱb	PL	B	H		242	D3Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q, H	B	F	
175	C9Ⅱ下	A	A	Ⅱb	Q, PL, H	A	H/E		243	D3Ⅱ上	A	D	Ⅱb	Q, PL	B	D	
176	D11Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q	A	D		244	D5Ⅱ上	A	D	Ⅱb	Q, PL, M	A	F	
177	C9Ⅱ下	A	A	Ⅱb	H	A	B/H		245	D5Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q, M	B	C/B	
178	C9Ⅱ下	A	A	Ⅱb	PL	A	H/C		246	C5Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q	B	B/G	
179	C9Ⅱ	A	D	Ⅱb	Q	B	B/E		247	C3Ⅱ	A	A	Ⅱb	Q	A	G	
180	B9Ⅱ	A	D	Ⅱb	HQ	A	F/D	2点接合	248	B4Ⅱ	A	A	Ⅱc	Q	A	C	
181	C9Ⅱ下	A	D	Ⅱb	H	A	B/E		249	B4Ⅱ	A	D	Ⅱc		B	D	
182	C9Ⅱ下	A	D	Ⅱb	Q	A	G/F		250	B2Ⅱ	A	D	Ⅱc	Q	A	C/E	
183	C2Ⅱ下	A	D	Ⅱ	Q	B	C		251	B4Ⅱ	A	D	Ⅱc	Q	B	D	
184	C2Ⅱ	A	A	Ⅱ	Q	A	G/C		252	B4Ⅱ	A	D	Ⅱc	Q	B	D/C	
185	C2Ⅱ	A	A	Ⅱa	PL	B	C	4点接合	253	B4Ⅱ	A	D	Ⅱc	Q	B	D	
186	C2Ⅱ下	A	D	Ⅱa	PL	B	C		254	B4Ⅱ	A	D	Ⅱc	Q	B	D	2点接合
187	C2Ⅱ下	A	D	Ⅱa	PL	B	C		255	B4Ⅱ	A	D	Ⅱc		B	D	
188	C9Ⅱ下	A	A	Ⅱb	Q	A	C/E	3点接合	256	A3Ⅱ上	A	A	Ⅱc		A	D	
189	B3Ⅱ	A	A	Ⅱ	Q	A	H	2点接合	257	C3Ⅱ下	A	D	Ⅱc	Q, PL	A	D	
190	B3Ⅱ	A	A	Ⅱ	Q	A	H	3点接合	258	D5Ⅱ	A	D	Ⅱd	Q	A	D/B	
191	B8Ⅱ	A	D	Ⅱ	Q	A	G/C	2点接合	259	C2Ⅱ	A	A	Ⅱ	H	A	B	4点接合
192	B5Ⅱ	A	A	Ⅱa	Q, PL	B	B/D	3点接合	260	B3Ⅱ下	A	A	Ⅱ	H	A	F	
193	A0	A	A	Ⅱa	Q	B	F/D	5点接合	261	C2Ⅱ	A	D	Ⅱ	Q, M	A	G	
194	D4Ⅱ上	A	A	Ⅱa		B	C		262	D2Ⅱ下	A	A	Ⅱ	Q, H	A	F	3点接合
195	C3Ⅱ	A	A	Ⅱa		A	B/D		263	D3Ⅱ	A	A	Ⅱ	Q, H	A	G/H	

第13表 榎木原遺跡出土土器観察表(3)

番号	出土区層	器種	器部	分類	胎	台	焼成	色調	備考	番号	出土区層	器種	器部	分類	胎	土	焼成	色調	備考
264	D2	A	A	IX	Q		A	C/H		332	D2	A	D	Ⅱa	Q		A	D/C	
265	D3	A	A	IX	Q, PL, H		A	D		333	D4	A	E	Ⅱa	Q, PL		A	F/D	
266	C3	A	D	IX			A	C/B		334	C3	A	E	Ⅱa	Q, M		A	B/C	
267	C3	A	D	IX	Q, PL, H		A	D	2点接合	335	C3	A	E	Ⅱa	Q, M		A	B/D	
268	不明	A	D	IX			A	C/B		336	C4	A	A	Ⅱb	Ta		A	B/C	2点接合
269	D2	A	D	IX			A	C		337	D4	A	A	Ⅱb	Ta		A	B/C	
270	D2	A	D	IX			A	C	2点接合	338	C4	A	D	Ⅱb	Ta		A	G	
271	D2	A	D	IX	Q		A	D	9点接合	339	D4	A	D	Ⅱb	Ta		A	B/C	
272	C3	A	A	IX	Q, PL, H		A	E/C		340	D4	A	D	Ⅱb	Ta		A	B/G	
273	C3	A	D	IX	Q, PL		A	C/E		341	C4	A	D	Ⅱb	Ta		A	G/C	
274	C3	A	D	IX	Q, PL		A	C		342	D4	A	D	Ⅱb	Ta		A	B/E	2点接合
275	C3	A	D	IX	Q, PL		A	B/D		343	D4	A	D	Ⅱb	Ta		A	C/G	
276	B3	A	D	IX	Q, PL		A	B/D	2点接合	344	D4	A	D	Ⅱb	Ta		A	C/G	
277	C3	A	A	IX	Q, PL		A	C/D		345	C3	A	A	Ⅱa	Q		A	D	
278	C2	A	D	IX	Q, PL		A	B/D		346	D3	A	A	Ⅱa	Q, PL, H		B	C/D	
279	B2	A	D	IX	Q, PL, H		A	C/D		347	B3	A	A	Ⅱa	Q		A	C	
280	C3	A	F	IX	Q, PL, H		A	C/D	完形	348	B2	A	A	Ⅱa	Q, H		B	G	
281	C5	A	A	Ⅱa	Q, PL		A	D		349	B0	A	D	Ⅱa	M, PL		B	C	
282	D5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D/B		350	B0	A	D	Ⅱa	M, PL		B	D	
283	D6	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	F/D		351	D5	A	A	Ⅱa	Q, PL		A	C/B	
284	D2	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D/B		352	B2	A	D	Ⅱa	M, PL		A	C	
285	D5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D		353	C3	A	D	Ⅱa	H, PL		B	D	
286	D5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D		354	C3	A	D	Ⅱa	PL		B	D	
287	D6	A	D	Ⅱa			A	D/H		355	B2	A	D	Ⅱb	M, PL		A	C/F	
288	D6	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D/B		356	C3	A	D	Ⅱb	M, PL		A	D	
289	D5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D	2点接合	357	B0	A	D	Ⅱb	Q, PL		A	H	
290	D5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D/B		358	C3	A	D	Ⅱb	M, PL		A	C/F	
291	C3	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D/B		359	B2	A	D	Ⅱb	M, PL		A	D	
292	C5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	F		360	C3	A	A	Ⅱa	Q, PL		A	F/B	
293	D5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D		361	B3	A	A	Ⅱa	Q		A	F/C	2点接合
294	D5	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	D/B		362	C3	A	A	Ⅱa	Q, H		B	C/D	
295	D5	A	D	Ⅱa	H, Q		A	C/B	6点接合	363	B2	A	A	Ⅱa	Q, H		B	C	
296	D5	A	D	Ⅱa	H, Q		A	B		364	B3	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	C	2点接合
297	D5	A	D	Ⅱa	H, Q		A	D/B		365	B3	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	C	3点接合
298	D5	A	D	Ⅱa	H, Q		A	D/B		366	B3	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	C/D	
299	D5	A	D	Ⅱa	H, Q		A	D/B		367	B3	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	C	
300	D5	A	D	Ⅱa	H, Q		A	D/C		368	C4	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	C/D	
301	D5	A	D	Ⅱa	H, Q		A	C/D		369	B3	A	A	Ⅱb	Q, PL, H		B	D	2点接合
302	C2	A	D	Ⅱa	Q		A	C		370	C2	A	A	Ⅱb	PL, H		A	F/G	
303	C2	A	D	Ⅱa			A	C		371	B3	A	D	Ⅱb	M, PL		A	B/D	
304	D3	A	A	Ⅱb	Q, PL, M		A	D/C	3点接合	372	C4	A	A	Ⅱb	Q		A	B/D	
305	C2	A	B	Ⅱb	Q, PL, M		A	C		373	B3	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	D	
306	D2	A	B	Ⅱb	Q, PL, M		A	D/C		374	C4	A	A	Ⅱb	Q, H		B	D/C	
307	D4	A	A	Ⅱb	Q, PL, M		A	D/B		375	不明	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	B/D	
308	C3	A	A	Ⅱb	Q, PL, M		A	D/C		376	C4	A	A	Ⅱb	Q, H		B	B/D	
309	B4	A	D	Ⅱb	Q, PL, M		A	C		377	B3	A	D	Ⅱb	PL, H		B	B/C	
310	B2	A	A	Ⅱa	Q		A	E/C		378	B3	A	D	Ⅱb	Q, PL, M		B	C/F	2点接合
311	B2	A	A	Ⅱa	Q		A	C		379	B3	A	A	Ⅱb	PL, H		B	C/D	
312	D2	A	A	Ⅱa	Q		C	C/E		380	D3	A	A	Ⅱb	Q, H		B	C/B	
313	C2	A	A	Ⅱa	Q		B	G/C		381	B3	A	A	Ⅱb	Q		A	C/F	
314	C6	A	A	Ⅱa			A	G		382	C3	A	A	Ⅱb	PL		A	F/B	
315	D5	A	A	Ⅱa	Q, H		A	G		383	C4	A	A	Ⅱb	Q, H		B	B/F	
316	D3	A	A	Ⅱa	Q, H		B	G/C	2点接合	384	B3	A	A	Ⅱb	Q, PL		B	C/H	
317	D4	A	A	Ⅱa	Q		A	G		385	不明	A	A	Ⅱb	Q, PL		A	C	
318	D3	A	A	Ⅱa	Q, PL		B	C		386	C3	A	A	Ⅱb	PL		A	G	
319	D3	A	A	Ⅱa	Q		A	H/C	2点接合	387	B2	A	D	Ⅱb	Q, PL		A	D	
320	D3	A	A	Ⅱa	Q, M		B	G/C		388	D1	A	D	Ⅱb	Q, H		A	B/D	
321	D4	A	A	Ⅱa	H		B	G/C		389	B0	A	D	Ⅱb	Q		A	C/D	
322	D2	A	A	Ⅱa	Q, M		A	C/B		390	D3	A	A	Ⅱb	PL, H		B	C	
323	B6	A	A	Ⅱa	Q, H		C	G/C		391	B3	A	A	Ⅱb	Q		A	G	
324	D3	A	A	Ⅱa	Q		B	C		392	B3	A	A	Ⅱb	Q		A	G	3点接合
325	D3	A	D	Ⅱa	Q		A	C/D		393	C3	A	A	Ⅱb	Q, H		B	C	
326	D3	A	D	Ⅱa			A	C		394	B3	A	A	Ⅱb	Q, H		B	G	
327	B3	A	D	Ⅱa			A	D		395	B2	A	A	Ⅱc	Q, H		B	C	2点接合
328	D2	A	D	Ⅱa	Q		B	H	3点接合	396	C3	A	A	Ⅱc	PL		B	C/F	
329	D4	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	C/D		397	C3	A	A	Ⅱc	Q, PL		B	C	
330	D4	A	D	Ⅱa	Q, PL		A	E/B	2点接合	398	B0	A	A	Ⅱc	Q, PL, H		B	B/C	
331	D4	A	D	Ⅱa	PL		A	C		399	C3	A	A	Ⅱc	Q, H		B	C/B	

第14表 榎木原遺跡出土土器観察表(4)

番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考
400	B3Ⅲ	A	A	XⅢc	Q, H	B	C/G		468	D4Ⅳ	A	A	XⅢa	Q	A	H	
401	B3Ⅲ上	A	A	XⅢc	H	B	B/D		469	B3Ⅲ上	A	A	XⅢa	Q, PL	A	B	
402	B3Ⅲ	A	A	XⅢc	PL	A	D		470	B3Ⅲ	A	A	XⅢa	Q, PL	A	F	2点接合
403	D4Ⅳ	A	A	XⅢd	Q, PL, H	B	B/G		471	B2Ⅲ下	A	A	XⅢb	Q, PL	A	C/D	2点接合
404	B2Ⅲ上	A	A	XⅢd	Q	A	F		472	C4Ⅳ	A	A	XⅢb	Q	A	C/B	
405	B2Ⅲ	A	D	XⅢd	Q	A	F	2点接合	473	B2Ⅲ	A	A	XⅢb	Q, PL	A	B/C	
406	C3Ⅲ	A	D	XⅢ	M	B	C	3点接合	474	C4Ⅳ上	A	A	XⅢb	Q, H	A	C	
407	C3Ⅲ	A	D	XⅢ	M	B	C		475	Ⅲ	A	A	XⅢb	M	A	C	2点接合
408	B3Ⅲ上	A	A	XⅢ	H, Q	A	C/F	2点接合	476	C3Ⅲ	A	A	XⅢb	M	A	F	
409	B3Ⅲ下	A	A	XⅢ	H	A	C/F	2点接合	477	B2Ⅲ下	A	A	XⅢb	M	A	C	
410	B3Ⅲ上	A	D	XⅢ	H	A	C/F		478	B2Ⅲ	A	A	XⅢb	PL	A	F	
411	B3Ⅲ下	A	A	XⅢ	H	A	B/F		479	D3Ⅲ上	A	A	XⅢb	Q, PL	A	F/D	
412	B2Ⅲ	A	A	XⅢ	PL, H	A	B/F		480	C3Ⅲ	A	A	XⅢb	PL	A	F/D	2点接合
413	B3Ⅲ下	A	A	XⅢ	Q, PL	A	C/D	2点接合	481	C3Ⅲ	A	A	XⅢb	Q	A	C	
414	C3Ⅲ上	A	A	XⅢ	H	A	F/C		482	C3Ⅲ	A	A	XⅢb	PL	A	C	
415	C2Ⅲ	A	A	XⅢ	H	B	F		483	B3Ⅲ上	A	A	XⅢb	Q	A	B	
416	C3Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, PL, H	B	B/D		484	B3Ⅲ	A	A	XⅢb	Q	A	D	
417	B3Ⅲ	A	D	XⅢ	Q	A	G		485	B3Ⅲ上	A	A	XⅢb	Q, PL	A	B	
418	C3Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, H	A	D		486	C4Ⅳ上	A	A	XⅢb	M, PL	A	D	
419	B2Ⅲ上	A	D	XⅢ	Q, PL	B	C/D		487	B2Ⅲ	A	A	XⅢb	Q	A	D/C	
420	C3Ⅲ	A	D	XⅢ	Q, PL, H	B	C/F		488	A5Ⅴ	A	A	XⅢb	Q, PL	A	C	
421	C4Ⅳ上	A	A	XⅢ	Q, PL	A	B/C		489	B2Ⅲ	A	A	XⅢb	Q	A	B/F	
422	B3Ⅲ	A	A	XⅢ	PL	A	B/D		490	D4Ⅳ	A	A	XⅢb	Q, H	A	B	
423	C3Ⅲ	A	D	XⅢ	Q	A	D		491	C3Ⅲ	A	A	XⅢb	Q	A	B	
424	B3Ⅲ下	A	D	XⅢ	Q	A	G		492	B3Ⅲ下	A	A	XⅢb	Q	A	F	
425	D5Ⅴ	A	A	XⅢ	Q	A	C	2点接合	493	C3Ⅲ	A	A	XⅢb	Q	A	F/D	
426	C3Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, H	A	C		494	C3Ⅲ	A	A	XⅢb	Q, H	B	B/D	
427	B2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, H	A	C		495	D2Ⅲ上	A	D	XⅢb	M	B	B/D	2点接合
428	B2Ⅲ上	A	A	XⅢ	Q, H	A	G		496	B2Ⅲ上	A	D	XⅢb	M	B	C	
429	B2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, H	B	F		497	B3Ⅲ	A	D	XⅢb	Q	A	B/D	
430	B2Ⅲ	A	D	XⅢ	Q, PL	B	F	2点接合	498	C3Ⅲ上	A	A	XⅢb	Q	A	B/C	
431	C2Ⅲ	A	A	XⅢ	H	A	B		499	B3Ⅲ下	A	A	XⅢb	Q, H	B	B/F	
432	C3Ⅲ	A	D	XⅢ	H	B	C	2点接合	500	C3Ⅲ	A	D	XⅢb	Q	A	F/B	
433	C3Ⅲ	A	A	XⅢ	Q	A	D		501	C3Ⅲ	A	D	XⅢb	Q	A	F/B	
434	B2Ⅲ上	A	D	XⅢ	Q, H	A	F		502	B2Ⅲ上	A	D	XⅢb	Q, PL, H	B	F	
435	C3Ⅲ	A	A	XⅢ	H	A	H		503	B0	A	D	XⅢb	Q, H	B	B/D	
436	B3Ⅲ下	A	A	XⅢ	Q, PL	A	F	2点接合	504	B3Ⅲ上	A	D	XⅢb	Q	A	D/B	
437	B3Ⅲ上	A	A	XⅢ	Q, PL	A	F	2点接合	505	D3Ⅲ	A	D	XⅢb	Q, H	B	B/D	
438	C3Ⅲ上	A	A	XⅢ	Q, PL	A	F		506	B2Ⅲ上	A	D	XⅢb	Q	B	F	
439	B3Ⅲ	A	A	XⅢ	Q	A	G		507	D3Ⅲ	A	D	XⅢb	Q, H	A	F	
440	B36	A	A	XⅢ	PL	A	D/C		508	C3Ⅲ上	A	D	XⅢb	M	A	D	
441	D2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q	A	B		509	D2Ⅲ	A	A	XⅢc	Q	A	B/F	
442	D2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q	A	C/D		510	D3Ⅲ	A	A	XⅢc	Q, PL	B	B	2点接合
443	D2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q	A	D		511	C2Ⅲ	A	A	XⅢc	M	A	F	
444	D1Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, H	B	F		512	C3Ⅲ下	A	A	XⅢc	H	B	F/C	
445	C3Ⅲ上	A	A	XⅢ	PL	A	H/C		513	C2Ⅲ	A	A	XⅢc	M	A	C	
446	D2Ⅲ上	A	A	XⅢ	Q, H	A	D		514	C2Ⅲ	A	A	XⅢc	PL, H	B	D	
447	C1Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, PL, H	B	D/H		515	C2Ⅲ	A	A	XⅢc	Q	A	D	
448	C2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, PL	A	F/B		516	B0	A	A	XⅢc	M, Q	A	B	
449	D2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, PL, H	B	F		517	C3Ⅲ	A	A	XⅢc	Q, H	B	C/D	
450	B2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, PL, H	A	F		518	不明	A	A	XⅢc	Q, PL, H	B	B	
451	B2Ⅲ	A	A	XⅢ	Q, PL, H	A	F		519	B2Ⅲ	A	A	XⅢc	Q	A	F	
452	C4Ⅳ	A	A	XⅢ	Q, PL	A	D/F	4点接合	520	B3Ⅲ上	A	A	XⅢc	Q	A	B/D	
453	B3Ⅲ下	A	D	XⅢ	Q, PL	A	D/F		521	C4Ⅳ上	A	A	XⅢc	PL, H	A	G/B	2点接合
454	D2Ⅲ上	A	D	XⅢ	Q, PL	A	C/F		522	D2Ⅲ	A	A	XⅢc	Q	A	D	
455	B3Ⅲ	A	D	XⅢ	Q, PL	A	C/F		523	D3Ⅲ下	A	A	XⅢc	Q, H	B	B/D	
456	D2Ⅲ	A	D	XⅢ	Q, H	A	C/F		524	C4Ⅳ	A	A	XⅢc	M	B	F	
457	B4	A	A	XⅢa	Q, PL	A	C/D	2点接合	525	C4Ⅳ上	A	A	XⅢc	Q	B	B/D	
458	B2Ⅲ	A	A	XⅢa	Q, PL	A	B/C		526	B3Ⅲ	A	A	XⅢc	Q, H	A	C	
459	D4Ⅳ	A	A	XⅢa	Q	A	D		527	D3Ⅲ	A	A	XⅢc	H	A	G	
460	D5Ⅴ	A	A	XⅢa	Q	A	D/H	3点接合	528	C4Ⅳ上	A	A	XⅢc	Q	A	H	
461	C3Ⅲ上	A	A	XⅢa	Q	A	B/H	2点接合	529	B3Ⅲ上	A	A	XⅢc	Q	B	B/D	
462	D4Ⅳ	A	A	XⅢa	Q	A	D		530	C4Ⅳ	A	A	XⅢc	PL	A	B/F	
463	C3Ⅲ上	A	A	XⅢa	Q, PL	A	D		531	C3Ⅲ	A	A	XⅢc	Q, PL	B	B/F	
464	C3Ⅲ	A	A	XⅢa	PL	A	B/D		532	C3Ⅲ上	A	A	XⅢc	Q, PL	B	B/F	
465	C3Ⅲ	A	A	XⅢa	PL	A	F	3点接合	533	B3Ⅲ下	A	A	XⅢc	Q	A	B/F	
466	B3Ⅲ	A	A	XⅢa	PL	A	D/F		534	B3Ⅲ	A	A	XⅢd	Q	A	C	
467	C2Ⅲ	A	A	XⅢa	Q, PL	A	H	2点接合	535	C3Ⅲ下	A	A	XⅢd	Q, H	A	C	2点接合

第15表 榎木原遺跡出土土器観察表(5)

番号	出土区	層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区	層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考
536	C3	Ⅲ	A	A	XRd	H	A	B/F		604	D4	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q	A	D	
537	B2	Ⅲ	A	A	XRd	Q, H	B	D	2点接合	605	D3	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D	
538	C3	Ⅲ上	A	A	XRd	Q	A	C/D		606	D4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D/B	
539	C3	Ⅲ上	A	A	XRd	Q	B	D		607	C5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	B	E	2点接合
540	C3	Ⅲ下	A	A	XRd	H	A	F		608	C2	Ⅲ	A	A	XX#a	M, PL	A	E	
541	C3	Ⅲ	A	A	XRd	Q, PL	A	B/C		609	C5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	B/G	2点接合
542	C2	Ⅲ	A	A	XRd	Q, H	A	D		610	B6	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q	A	D	
543	B2	Ⅲ	A	A	XRd	Q	A	C		611	C4	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q	A	D	
544	C3	Ⅲ上	A	A	XRd	Q, PL, H	B	D		612	C5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D	
545	C3	Ⅲ	A	A	XRd	Q, PL	B	F		613	D2	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, M	A	B/D	
546	C3	Ⅲ	A	A	XRd	Q, H	B	H		614	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, H	A	G	
547	D2	Ⅲ	A	A	XRd	Q, H	B	D	2点接合	615	C4	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q	A	G	
548	C3	Ⅲ	A	A	XRd	Q	A	B/E		616	C3	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q, PL	A	G	
549	B2	Ⅲ	A	D	XRd	PL, H	A	B/F		617	B3	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, PL, H	B	D	
550	C3	Ⅲ上	A	A	XRd	PL	B	F		618	D2	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q	B	D	
551	B3	Ⅲ	A	A	XRd	H	A	B		619	B4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, PL, M	A	E	
552	B3	Ⅲ	A	A	XRd	Q, H	A	B/F		620	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, PL, M	A	E	
553	不明		A	D	XRd	Q, PL	B	C		621	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, H	B	D/B	
554	C3	Ⅲ	A	D	XRd	Q, PL, H	B	B/H		622	D2	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	E	
555	D2	Ⅲ	A	D	XRd	PL, M	B	D/C		623	D4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D	
556	B2	Ⅲ	A	D	XRd	Q, PL	B	E		624	D4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D	
557	D3	Ⅲ	A	A	XX	H, Q	B	D		625	B3	Ⅲ下	A	A	XX#a	M	A	C	
558	Ⅲ		A	A	XX	Q, PL	B	B/C		626	B3	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q, PL	B	E	
559	不明		A	A	XX	H, Q	B	C		627	C6	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	H	
560	C2	Ⅲ	A	A	XX	H, Q	B	F/C		628	C6	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	H	
561	C3	Ⅲ	A	A	XX	H, Q	B	B/D		629	B6	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	B	E	
562	C3	Ⅲ上	A	A	XX	H, Q	B	B/D		630	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	B	E	
563	C3	Ⅲ	A	D	XX	H, PL	B	G		631	C2	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	E	
564	C3	Ⅲ	A	A	XX	Q, H	B	D		632	B3	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	E	
565	C3	Ⅲ	A	D	XX	Q, H	B	B/D		633	C3	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	B/D	
566	C2	Ⅲ	A	D	XX	Q, H	B	A/B		634	C5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, H	A	C	
567	B2	Ⅲ	A	A	XX	Q, H	B	B/D	3点接合	635	B3	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q, M	A	C	
568	D5	Ⅲ上	A	A	XX	Q, H	A	F		636	B3	Ⅲ下	A	A	XX#a	M	A	D/F	
569	D5	Ⅲ	A	A	XX	Q, H	A	F		637	B3	Ⅲ	A	A	XX#a	M, PL	A	B/D	
570	D5	Ⅲ	A	D	XX	Q, H	A	F		638	C3	Ⅲ上	A	A	XX#a	M	A	B	
571	B3	Ⅲ上	A	D	XX	Q	A	F/B	2点接合	639	C3	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	B	
572	D2	Ⅲ	A	A	XX	H, Q	B	B		640	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, PL	A	F	
573	C5	Ⅲ	A	A	XX	H, Q	B	D		641	B4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, H	A	B/H	
574	B5	Ⅲ	A	D	XX	Q, PL, H	A	B/F	2点接合	642	D3	Ⅲ上	A	A	XX#a	Q, PL	A	D/H	
575	C3	Ⅲ	A	A		Q, H	A	C/D		643	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D	
576	C3	Ⅲ	A	A		Q, PL, H	B	B/G		644	B2	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	B/F	
577	C3	Ⅲ	A	A		Q, PL, H	B	B/D		645	D5	Ⅲ上	A	A	XX#a	M, Q	A	D	2点接合
578	C3	Ⅲ	A	A		Q, PL, H	B	B/D		646	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, PL, M	A	D/C	
579	C3	Ⅲ下	A	A		Q, PL, H	B	B/G	2点接合	647	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	DL	A	H	
580	C3	Ⅲ	A	A		Q, PL, H	B	D/C		648	B5	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	F	
581	C2	Ⅲ	A	A		Q	A	D		649	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D/F	
582	C3	Ⅲ上	A	A		Q, PL, H	B	B/G		650	C4	Ⅲ上	A	A	XX#a	M, PL	A	D	
583	C3	Ⅲ	A	A		Q, PL, H	B	B/G		651	D4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, H	B	D	
584	C2	Ⅲ	A	A		H	A	D		652	C5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D/H	
585	B2	Ⅲ	A	A		Q, H	A	A/D		653	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	F	
586	D3	Ⅲ下	A	A		M	A	A/D		654	C3	Ⅲ下	A	A	XX#a	Q	A	D	
587	B0		A	A		Q, PL, H	B	B	2点接合	655	C4	Ⅲ上	A	A	XX#a	M	A	H	
588	C3	Ⅲ	A	A	XX	Q	A	C		656	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D/H	
589	C2	Ⅲ	A	A	XX	PL	A	F		657	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	H	3点接合
590	C3	Ⅲ上	A	D	XX	Q	A	C		658	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	H	
591	C3	Ⅲ上	A	D	XX	Q, PL	A	D		659	C2	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	F	
592	B3	Ⅲ下	A	A	XX	M, PL	B	D		660	C2	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	F	2点接合
593	D3	Ⅲ上	A	A	XX	M, PL	A	F		661	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, H	A	H	
594	B3	Ⅲ上	A	A	XX	M, PL	A	F	2点接合	662	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	B/H	
595	B2	Ⅲ上	A	A	XX	Q	A	F		663	D3	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, H	A	H	
596	B3	Ⅲ	A	A	XX	Q	A	F		664	C2	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	F	
597	B3	Ⅲ下	A	D	XX	Q, PL	A	F/D		665	C2	Ⅲ	A	A	XX#a	M	A	B/D	
598	C2	Ⅲ上	A	D	XX	Q	A	F		666	B3	Ⅲ下	A	A	XX#a	M	A	F	2点接合
599	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, M, PL	A	D/C		667	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	M, PL	A	B/F	
600	B4	Ⅲ	A	A	XX#a	M, PL	A	D/C		668	D3	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	B/F	
601	D4	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, M, PL	A	D/C		669	C5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, PL	A	F	
602	C4	Ⅲ	A	A	XX#a	M, PL	A	C		670	C5	Ⅲ	A	A	XX#a	M, Q	A	F	
603	C3	Ⅲ	A	A	XX#a	Q, PL, M	A	D/C		671	D5	Ⅲ	A	A	XX#a	Q	A	D	

第16表 榎木原遺跡出土土器観察表(6)

番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考
672	C4Ⅱ	A	A	XXⅡa	M, PL	A	F		740	B3Ⅱ下	A	E	底部	Q	B	H/F	
673	C2Ⅱ	A	A	XXⅡa	M, PL	A	F		741	D5Ⅱ	A	E	底部	Q	A	C	
674	C4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q, PL	B	B/F		742	D2Ⅱ	A	A	XXⅡd	Q	B	F	3点接合
675	C2Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	B	B/D		743	D1Ⅱ	A	A	XXⅡd	M, PL	A	E	
676	B3Ⅱ上	A	A	XXⅡb	Q, PL	B	F/H		744	C3Ⅱ	A	A	XXⅡd	M, PL	A	E	
677	不明	A	A	XXⅡb	M	A	D/B		745	D2Ⅱ	A	A	XXⅡd	Q, PL	A	E	
678	B5Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	F		746	D3Ⅱ	A	A	XXⅡd	Q, PL	A	C	
679	B3Ⅱ下	A	A	XXⅡb	M, PL	A	B/D	3点接合	747	B3Ⅱ下	A	A	XXⅡd	Q, PL	A	C	
680	C2Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	A	H	2点接合	748	D2Ⅱ	A	A	XXⅡd	M, PL	A	D	
681	C1Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	A	H		749	D2Ⅱ	A	A	XXⅡd	Q	A	D	
682	D4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	B/D		750	D2Ⅱ	A	A	XXⅡd	PL, H	A	D	
683	D3Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q, H	A	B/F		751	D2Ⅱ	A	B	XXⅡd	Q	B	H	
684	B0	A	A	XXⅡb	Q	A	F		752	不明	A	A	XXⅡd	Q	A	B/E	
685	C4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	C/H		753	D12Ⅱ下	A	A	XXⅡd	Q, H	A	F	
686	D5Ⅱ上	A	A	XXⅡb	M, PL	A	D		754	D2Ⅱ	A	A	XXⅡd	Q	A	F	
687	D5Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q, PL	A	F/C		755	D2Ⅱ	A	B	XXⅡd	M, Q	A	C/E	
688	C2Ⅱ	A	A	XXⅡb	H	A	B/F	3点接合	756	D3Ⅱ	A	B	XXⅡd	M	A	E	
689	C4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	D		757	D3Ⅱ	A	A	XXⅡd	Q	A	F	
690	C4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	D		758	D3Ⅱ	A	A	XXⅡd	M	A	F	
691	C4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	D		759	C2Ⅱ	A	B	XXⅡd	M, Q	A	C	
692	C5Ⅱ上	A	A	XXⅡb	Q, PL	A	D		760	C4Ⅱ上	A	A	XXⅡ	Q	A	F	
693	C5Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	D/F		761	C2Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	F	
694	D4Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	A	D		762	C2Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	F	2点接合
695	D3Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	A	D		763	B0	A	A	XXⅡ	Q, PL	A	B/E	
696	D5Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	A	C	2点接合	764	C2Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q	B	H	
697	D4Ⅱ上	A	A	XXⅡb	M, PL	A	C		765	D6Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, Q	A	F	
698	C4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q, PL	A	D/B		766	C4Ⅱ下	A	A	XXⅡ	M, PL	A	C/E	
699	C5Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q, M	A	D		767	B4Ⅱ	A	A	XXⅡ	PL	A	C	2点接合
700	D2Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	B	C/G		768	D5Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q	A	B	
701	D4Ⅱ上	A	A	XXⅡb	Q	A	D		769	D3Ⅱ	A	A	XXⅡ	PL	A	B	
702	C5Ⅱ	A	A	XXⅡb	M	B	B		770	C2Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q, H	B	E	
703	C4Ⅱ上	A	A	XXⅡb	Q	B	B/D	2点接合	771	D2Ⅱ下	A	A	XXⅡ	Q	B	F	
704	C4Ⅱ上	A	A	XXⅡb	Q	B	D	2点接合	772	C5Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, H	B	B	2点接合
705	C2Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	B	D		773	C3Ⅱ	A	A	XXⅡ	H	B	F	
706	D2Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	B	F/D		774	C3Ⅱ下	A	A	XXⅡ	Q	B	H	
707	C4Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q, PL	B	B/D		775	D3Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	D	
708	D2Ⅱ上	A	A	XXⅡb	M, PL	B	B/D		776	C3Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q	B	B/F	
709	C3Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	B	D		777	D2Ⅱ上	A	A	XXⅡ	Q, PL	B	B	
710	D4Ⅱ	A	A	XXⅡb	M	B	D		778	D2Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	B/D	2点接合
711	D5Ⅱ上	A	A	XXⅡb	M, PL	B	D		779	C4Ⅱ上	A	A	XXⅡ	Q, H	B	D	
712	D3Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	B	B/G		780	D2Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q	A	B/D	
713	C3Ⅱ下	A	A	XXⅡb	Q	B	F/B		781	D3Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	F	
714	D3Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	A	F		782	C5Ⅱ	A	A	XXⅡ	PL	B	F	
715	C2Ⅱ	A	A	XXⅡb	M, PL	A	C/F		783	D3Ⅱ上	A	B	XXⅡ	Q, PL	A	F	
716	D6Ⅱ	A	A	XXⅡb	M	A	F	2点接合	784	D4Ⅱ	A	B	XXⅡ	M, Q	A	B/F	
717	B2Ⅱ	A	A	XXⅡb	Q	A	F		785	D2Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q	A	D	
718	C2Ⅱ	A	A	XXⅡb	H	B	H		786	C2Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, Q, PL	A	B	
719	C5Ⅱ	A	A	XXⅡc	Q	A	C/H		787	C2Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	B	
720	C5Ⅱ	A	A	XXⅡc	Q	A	H/C		788	C5Ⅱ	A	A	XXⅡ	PL	A	B	2点接合
721	C5Ⅱ	A	A	XXⅡc	Q	A	H		789	D3Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	F	2点接合
722	D3Ⅱ	A	A	XXⅡc	Q	A	F		790	C6Ⅱ上	A	A	XXⅡ	Q	A	H	
723	C5Ⅱ	A	A	XXⅡc	Q	A	H		791	B5Ⅱ	A	D	XXⅡ	Q	B	D	
724	D4Ⅱ	A	A	XXⅡc	M	A	H		792	C6Ⅱ	A	D	XXⅡ	Q	B	D	
725	C1Ⅱ	A	A	XXⅡc	Q, PL	B	C/F		793	C6Ⅱ	A	D	XXⅡ	Q	B	D	
726	D3Ⅱ下	A	E	底部	Q	A	H		794	D2Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q, H	A	C	
727	C3Ⅱ上	A	E	底部	M, PL	A	F/B		795	D4Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q, PL, M	A	F	
728	A4Ⅱ	A	E	底部	Q, H	B	D	2点接合	796	D5Ⅱ	A	A	XXⅡ	M	A	F	
729	C4Ⅱ	A	E	底部	Q, PL	B	H		797	D5Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	F	
730	D3Ⅱ	A	E	底部	Q, H	B	F/B		798	D2Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q, H	A	G/C	
731	D5Ⅱ上	A	E	底部	M, Q, PL	B	H		799	D3Ⅱ下	A	A	XXⅡ	Q, H	A	D	
732	C2Ⅱ	A	E	底部	M	A	F		800	C3Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q, H	A	F/D	
733	D3Ⅱ下	A	E	底部	Q	B	H		801	C3Ⅱ上	A	A	XXⅡ	Q, H	A	F/D	
734	B4Ⅱ上	A	E	底部	Q	A	D		802	D2Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	D	
735	C5Ⅱ	A	E	底部	Q	B	G		803	D2Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q, H	B	D/C	
736	B4Ⅱ	A	E	底部	Q, H	B	H	2点接合	804	D4Ⅱ上	A	A	XXⅡ	Q	B	F/C	
737	B2Ⅱ	A	E	底部	Q, H	A	H		805	D5Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, Q	A	D/B	
738	D2Ⅱ上	A	E	底部	Q	B	H		806	D3Ⅱ	A	A	XXⅡ	Q	A	D	
739	B3Ⅱ上	A	E	底部	Q, H	B	H		807	B2Ⅱ	A	A	XXⅡ	M, PL	A	H	

第17表 榎木原遺跡出土土器観察表(7)

番号	出土区	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考
808	C4Ⅱ	A	A	XXⅦ	M, PL	A	H		876	D2Ⅱ	A	E	底部	Q, PL	B	D/C	
809	D2Ⅱ	A	D	XXⅦ	PL	B	D	接	877	C5Ⅱ	A	E	"	Q	A	H	
810	D2Ⅱ	A	B	XXⅦ	Q	B	D		878	C3Ⅱ上	A	E	"	Q, H	B	D/C	
811	B3Ⅱ	A	D	XXⅦ	Q	A	D/C		879	D2	A	E	"	Q, H	B	F	
812	C6Ⅱ	A	D	XXⅦ	Q	B	B/F		880	C5Ⅱ	A	E	"	Q	B	D	3点接合
813	B3Ⅱ下	A	D	XXⅦ	Q	A	F/H		881	C4Ⅱ	A	E	"	Q	A	H/B	
814	C2Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, H	A	D		882	D3Ⅱ	A	E	"	Q	B	F	
815	D9Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	D		883	C5Ⅱ	A	E	"	Q	B	C/B	
816	C1Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	F		884	D4Ⅱ	A	E	"	Q	B	B	
817	A4Ⅱ下	A	A	XXⅦ	Q	A	C		885	D5Ⅱ	A	E	"	Q	B	D/C	
818	C3Ⅱ上	A	D	XXⅦ	Q, PL	A	B/F		886	A3Ⅱ下	A	E	"	Q	A	F/B	
819	D3Ⅱ下	A	D	XXⅦ	Q	A	F		887	C3Ⅱ	A	E	"	Q	A	F/B	3点接合
820	C5Ⅱ	A	D	XXⅦ	PL, M	B	C		888	C3Ⅱ下	A	E	"	Q	A	F/H	3点接合
821	D2Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	B	B/H		889	B4Ⅱ	A	E	"	Q	A	F	
822	C3Ⅱ	A	A	XXⅦ	H	B	B		890	B5Ⅱ	A	E	"	Q	A	D/B	6点接合
823	C5Ⅱ上	A	D	XXⅦ	Q, H	B	F/D		891	C5Ⅱ	A	E	"	Q	A	F/B	3点接合
824	B5Ⅱ	A	D	XXⅦ	Q, PL	B	H		892	B3Ⅱ下	A	E	"	Q	A	F/B	
825	B2Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL	A	B/H	2点接合	893	C3Ⅱ	A	E	"	Q, H	A	G/B	
826	B4Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	B/F		894	C3Ⅱ	A	E	"	Q, PL	A	F/B	
827	B2Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	D/F		895	D4Ⅱ下	A	E	"	Q	A	F/G	
828	C2Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	D		896	C4Ⅱ	A	E	"	Q, PL	A	F/C	
829	B3Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	D		897	D2Ⅱ	A	E	"	Q, PL	A	C/F	2点接合
830	C3Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	C/H		898	C3Ⅱ	A	E	"	H	B	D/F	
831	B4Ⅱ	A	D	XXⅦ	Q	B	C/H		899	D5Ⅱ	A	E	"	Q	A	D/C	
832	D3Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q	A	B		900	B3Ⅱ上	A	E	"	Q	A	F/B	
833	B4Ⅱ上	A	D	XXⅦ	Q	B	D/B		901	C4Ⅱ下	A	E	"	Q, PL, H	A	F/H	2点接合
834	B2Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, H	B	H/B		902	C3Ⅱ	A	E	"	Q	A	F/B	
835	B2Ⅱ	A	D	XXⅦ	Q, H	B	B/H	2点接合	903	C3Ⅱ下	A	E	"	Q, H	A	D/H	
836	B2Ⅱ	A	D	XXⅦ	Q	B	B/H		904	D4Ⅱ	A	E	"	Q, PL	A	F	
837	B0	A	D	XXⅦ	Q	B	C/H		905	D3Ⅱ	A	E	"	Q, H	A	F/C	
838	C4Ⅱ	A	A	無文	Q	A	C/G	2点接合	906	B2Ⅱ	A	E	網底	Q, H	A	B/F	
839	D3Ⅱ	A	A	"	Q	B	D		907	C4Ⅱ上	A	E	"	PL, H	A	F/H	
840	C3Ⅱ	A	A	"	Q, PL	B	D		908	C3Ⅱ	A	E	"	Q	A	F	
841	D4Ⅱ	A	A	"	Q	A	D/C		909	C3Ⅱ上	A	E	"	Q	A	B	
842	D2Ⅱ上	A	A	"	M, PL	B	F/C		910	D3Ⅱ	A	E	"	Q	A	F	
843	D3Ⅱ下	A	A	"	Q	A	F		911	D4Ⅱ	A	E	"	Q, H	B	F	
844	B	A	A	"	Q, H	B	F/G		912	C3Ⅱ	A	E	"	Q	B	F	
845	C2Ⅱ	A	A	"	Q	A	F		913	B3Ⅱ上	A	E	"	Q	A	F	
846	C4Ⅱ上	A	A	"	Q, H	A	B		914	D4Ⅱ下	A	E	"	M, PL	A	B/F	
847	C5Ⅱ	A	A	"	Q	B	D		915	B3Ⅱ下	A	E	"	Q	A	F	
848	B0	A	A	"	H, Q	B	F		916	C4Ⅱ	A	E	"	Q	A	D/C	
849	C4Ⅱ	A	A	"	Q	A	F		917	B4Ⅱ	A	E	"	Q	A	I/F	
850	D5Ⅱ	A	A	"	Q	A	H/D		918	C3Ⅱ	A	E	"	M	A	D	
851	B4Ⅱ	A	A	"	Q	B	F		919	B2Ⅱ	A	E	"	Q	B	H	
852	C3Ⅱ上	A	A	"	Q	B	D	2点接合	920	B2Ⅱ	A	E	"	Q	B	F/H	
853	C2Ⅱ下	A	A	特飾	Q	A	F		921	B2Ⅱ	A	E	"	Q	A	D	2点接合
854	C3Ⅱ	A	A	"	Q	A	F		922	C3Ⅱ下	A	E	"	Q	A	D	3点接合
855	C4Ⅱ	A	A	"	Q	A	F		923	B3Ⅱ上	A	E	木葉底	PL	A	D	
856	C4Ⅱ	A	A	"	Q	A	F		924	C2Ⅱ	A	E	条痕	Q, PL	A	B/H	
857	C5Ⅱ	A	D	メソコ	Q	A	D		925	D6Ⅱ	A	C	XXⅦ	Q, PL, H	B	D/C	
858	D5Ⅱ	A	D	"	Q	B	D		926	D6Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
859	C1Ⅱ	A	D	"	Q	A	G/H		927	D1Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	B	
860	C5Ⅱ	A	D	"	Q, PL, H	B	F/C		928	B4Ⅱ	A	ABC	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
861	D2Ⅱ	A	D	"	M, PL	A	F/B		929	D3Ⅱ上	A	C	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
862	D3Ⅱ	A	D	"	M, PL	B	D		930	D6Ⅱ	A	AC	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
863	B4Ⅱ	A	D	"	PL	A	H/C		931	D5Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
864	D3Ⅱ	A	D	"	M, PL	A	D/B		932	C4Ⅱ	A	AC	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
865	C2Ⅱ	A	D	"	PL	A	D		933	B3Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
866	D5Ⅱ	A	D	"	Q, H	A	F/H		934	B2Ⅱ上	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
867	D5Ⅱ	A	D	"	M, PL	A	B/D		935	D3Ⅱ下	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
868	D1Ⅱ	A	E	特底	Q	A	H		936	C2Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
869	D1Ⅱ	A	E	"	Q	A	H		937	D5Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
870	D1Ⅱ下	A	E	"	Q	A	H		938	D6Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
871	C2Ⅱ	A	E	"	Q	A	H		939	D4Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
872	D3Ⅱ下	A	E	"	PL	B	F		940	D5Ⅱ	A	A	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
873	C2Ⅱ	A	E	"	Q	B	F		941	B3Ⅱ	A	AB	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
874	B2Ⅱ	A	E	"	M, PL	A	H		942	B4Ⅱ	A	AC	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	
875	D2Ⅱ	A	E	"	M, Q, PL	A	F		943	D3Ⅱ	A	ABC	XXⅦ	Q, PL, H	B	D	

第18表 榎木原遺跡出土土器観察表(8)

番号	出土区	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考
944	B5Ⅲ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D		1012	B0	A	AB	XXX	Q, PL, H	B	G	I
945	D4Ⅳ上	A	AD	XXX	Q, PL, H	B	B/C		1013	B4Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	B	G	I
946	D3Ⅲ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	C/E		1014	B2Ⅳ	A	ABCD	XXX	Q, PL, H	B	D	I
947	D6Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E/B		1015	C4Ⅳ上	A	B	XXX	Q, PL, H	B	D	I
948	C3Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E/B		1016	C4Ⅳ	A	BCD	XXX	Q, PL, H	B	D	I
949	B5Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D/B		1017	D2Ⅳ上	A	BCD	XXX	Q, PL, H	B	D	I
950	B4Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D/B		1018	D5Ⅳ	A	BC	XXX	Q, PL, H	B	E/B	I
951	C3Ⅳ上	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E		1019	D2Ⅳ	A	C	XXX	Q, PL, H	B	D	I
952	D4Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	C/E		1020	C2Ⅳ	A	BC	XXX	Q, PL, H	B	G/H	I
953	B4Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1021	B3Ⅳ下	A	BCD	XXX	Q, PL, H	B	D	I
954	C6Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1022	B5Ⅳ上	A	BCD	XXX	Q, PL, H	B	E/D	I
955	B3Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	G/E		1023	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D/C	I
956	C2Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1024	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D/C	I
957	A0	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1025	D5Ⅳ下	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D/C	I
958	C3Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	C/E		1026	D4Ⅳ D3Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D/C	I
959	D3Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	C/E		1027	D5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D/C	I
960	C4Ⅳ上	A	E	XXX	Q, PL, H	B	C		1028	C5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	A/B	I
961	B4Ⅳ上	A	E	XXX	Q, PL, H	B	B/D		1029	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	E/D	I
962	D2Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1030	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I
963	D5Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	C/D		1031	D2Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I
964	B5Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1032	B4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D/E	I
965	C4Ⅳ上	A	E	XXX	Q, PL, H	B	C/D		1033	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I
966	B2Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1034	D5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I
967	D4Ⅳ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D		1035	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I
968	C4Ⅳ上	C	AB	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1036	B2Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I
969	C3Ⅳ	C	AB	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1037	B3Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	G	I
970	B4Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1038	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	G	IIA
971	D2Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1039	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E	IIA
972	A4Ⅳ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1040	D5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
973	D4Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	F	A	1041	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E/D	IIA
974	A0	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1042	D2Ⅳ下	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
975	C4Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1043	B5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
976	B5Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1044	B4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
977	B3Ⅳ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1045	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E/G	IIA
978	B3Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1046	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E/G	IIA
979	B2Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1047	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
980	D5Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1048	B5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	B/C	IIA
981	B4Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1049	C3Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E/D	IIA
982	B2Ⅳお	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1050	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	G	IIA
983	C4Ⅳ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1051	C5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	G	IIA
984	D4Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	A	1052	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
985	C2Ⅳ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1053	D5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
986	D4Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1054	C5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
987	B3Ⅳ上	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1055	D5Ⅳ上	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
988	C4Ⅳ上	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1056	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E/D	IIA
989	C2Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1057	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	G	IIA
990	A4Ⅳ	C	BC	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1058	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
991	D4Ⅳ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1059	C5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	G	IIA
992	D6Ⅳ	C	ABCD	XXX	Q, PL, H	B	C	B	1060	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E	IIA
993	B3Ⅳ上	C	ABCD	XXX	Q, PL, H	B	C/D		1061	C4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	C	IIA
994	B0	C	ABCD	XXX	Q, PL, H	B	C		1062	C5Ⅳお	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D/E	IIA
995	B4Ⅳ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C		1063	B5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
996	C4Ⅳ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C		1064	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	J	IIA
997	C3Ⅳ上	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C		1065	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	E/D	IIA
998	C5Ⅳ上	A	AC	XXX	Q, PL, H	B	E	I	1066	C5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	J	IIA
999	D2Ⅳ	A	AC	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1067	B5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1000	B3Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1068	D5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	G	IIA
1001	B3Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1069	B4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1002	B2Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1070	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1003	C3Ⅳ下	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1071	D4Ⅳ	A	D	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1004	C3Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1072	D2Ⅳ	A	C	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1005	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1073	B2Ⅳ上-B3Ⅳ上	A	CD	XXX	Q, PL, H	A	E/D	IIA
1006	C5Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	D	I	1074	B2Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	A	B	IIA
1007	D4Ⅳ	A	A	XXX	Q, PL, H	B	G	I	1075	D5Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1008	C2Ⅳ	A	AC	XXX	Q, PL, H	B	G	I	1076	D3Ⅳ	A	D	XXX	Q, PL, H	A	E/C	IIA
1009	B6Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	B	G	I	1077	B5Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1010	C2Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	B	G	I	1078	B	A	CD	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA
1011	C2Ⅳ	A	D	XXX	Q, PL, H	B	G	I	1079	B2Ⅳ	A	CD	XXX	Q, PL, H	A	D	IIA

第19表 榎木原遺跡出土土器観察表(9)

番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区層	器種	器部	分類	胎土	焼成	色調	備考
1080	B3Ⅷ上	A	D	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1148	B2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1081	B2Ⅷ上	A	D	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■	1149	B2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1082	C3Ⅷ	A	D	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■	1150	B2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1083	C4Ⅷ	A	D	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■	1151	B2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1084	B6Ⅷ	A	D	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■	1152	C4Ⅷ	C	CD	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1085	B3Ⅷ上	A	D	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■	1153	B3Ⅷ	C	BCD	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1086	D4Ⅷ	A	D	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■	1154	C2Ⅷ	B	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1087	B3Ⅷ上	A	D	XXX	Q, PL, H	B	D	■	1155	C6Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C/A	■
1088	A4Ⅷ上	A	D	XXX	Q, PL, H	B	G	■	1156	C6Ⅷ C6Ⅷ	C	ABCD	XXX	Q, PL, H	B	C/A	■
1089	C4Ⅷ	A	D	XXX	Q, PL, H	B	G	■	1157	B3Ⅷ下	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1090	C4Ⅷ上	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1158	B3Ⅷ上	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1091	C4Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1159	D4Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1092	A3Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1160	D4Ⅷ下	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	D/C	■
1093	C4Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1161	B3Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1094	B3Ⅷ下	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1162	D4Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1095	C5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1163	D5Ⅷ	C	AC	XXX	Q, PL, H	B	D/C	■
1096	C2Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1164	B6Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	A/B	■
1097	D5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D/I	■	1165	C5Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■
1098	D5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1166	B6Ⅷ	C	BC	XXX	Q, PL, H	B	D/C	■
1099	C4Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1167	B5Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1100	C3Ⅷ下	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1168	B2Ⅷ下	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1101	B2Ⅷ下	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D/C	■	1169	C5Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1102	C6Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D/I	■	1170	B6Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1103	B4Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	D/C	■	1171	C5Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	A	■
1104	B3Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1172	D4Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D/E	■
1105	B4Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1173	D4Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D/C	■
1106	C5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1174	A3Ⅷ A5Ⅷ	C	ADE	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1107	B6Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1175	B5Ⅷ	C	ABD	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1108	B4Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1176	C4Ⅷ	C	ABD	XXX	Q, PL, H	B	A	■
1109	D4Ⅷ上 D5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1177	C4Ⅷ	C	CD	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1110	C5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1178	C3Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	A	■
1111	D3Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1179	D3Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1112	C5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1180	D3Ⅷ	C	E	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1113	D4Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	G	■	1181	D4Ⅷ	C	E	XXX	Q, PL, H	B	B/D	■
1114	B3Ⅷ上	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1182	D3Ⅷ	C	E	XXX	Q, PL, H	B		■
1115	D5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	A/D	■	1183	D4Ⅷ	C	E	XXX	Q, PL, H	B	E/D	■
1116	B5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	A/E	■	1184	C4Ⅷ	C	E	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1117	B5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1185	D5Ⅷ	C	E	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1118	C5Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	F	■	1186	C4Ⅷ上	C	AD	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1119	C6Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	A/D	■	1187	C3Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1120	B0	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1188	C4Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1121	B3Ⅷ上			XXX	Q, PL, H	B	E	■	1189	C5Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1122	B2Ⅷ			XXX	Q, PL, H	B	E	■	1190	C4Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1123	C3Ⅷ	A	E	XXX	Q, PL, H	B	E	■	1191	B2Ⅷ B2Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1124	C6Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1192	D5Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	E	■
1125	D3Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1193	D6Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	F	■
1126	B4Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1194	C4Ⅷ下	C	A	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1127	D2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1195	B2Ⅷ上	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1128	B6Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1196	D2Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	C	■
1129	B4Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1197	B3Ⅷ上	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1130	B2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1198	C2Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1131	B2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1199	A4Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1132	C2Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1200	D6Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1133	B3Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1201	B5Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1134	D4Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1202	C4Ⅷ	C	A	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1135	C5Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1203	B3Ⅷ B3Ⅷ	C	F	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1136	A4Ⅷ	C	D	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1204	D4Ⅷ	B	BC	XXX	Q, PL, H	B	G	■
1137	A4Ⅷ A5Ⅷ	C	BCD	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1205	B2Ⅷ	B	C	XXX	Q, PL, H	B	D	■
1138	A6Ⅷ	C	BCD	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1206	B3Ⅷ	B	C	XXX	Q, PL, H	B	G	■
1139	C5Ⅷ	C	BCD	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1207	A4Ⅷ	B	AC	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1140	C4Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1208	D5Ⅷ	B	ABC	XXX	Q, PL, H	B	B	■
1141	D3Ⅷ上	C	ACD	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1209	B2Ⅷ	B	BCD	XXX	Q, PL, H	B	C/B	■
1142	D4Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1210	C5Ⅷ	B	ABCD	XXX	Q, PL, H	B	F	■
1143		C	F	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1211	D2Ⅷ	B	ABC	XXX	Q, PL, H	B	G	■
1144	C3Ⅷ	C	ABCD	XXX	Q, PL, H	B	D/C	■	1212	B2Ⅷ	B	C	XXX	Q, PL, H	B	G	■
1145	A4Ⅷ	C	CD	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1213	C5Ⅷ	D	AD	XXX	Q, PL, H	B	C/B	■
1146	B3Ⅷ	C	CD	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1214	C4Ⅷ	D	AD	XXX	Q, PL, H	B	J/C	■
1147	B5Ⅷ	C	ABC	XXX	Q, PL, H	B	C	■	1215	C5Ⅷ	D	AD	XXX	Q, PL, H	B	C	■

第20表 榎木原遺跡出土土器観察表(10)

番号	出土区層	器種	器部分類	胎土	焼成	色調	備考	番号	出土区層	器種	器部分類	胎土	焼成	色調		
1216	C4Ⅷ	D	AD	XXR	Q, PL, H	B	B/C	I	1284	B5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	B/D
1217	D4Ⅷ上	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C/D	I	1285	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/E
1218	B2Ⅷ上	D	AD	XXR	Q, PL, H	B	B/C	I	1286	D4Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	H/A
1219	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B	I	1287	D3Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1220	D4Ⅷ	D	AD	XXR	Q, PL, H	B	D	I	1288	C3Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/B
1221	C4Ⅷ上	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/A	I	1289	C5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1222	B2Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D/C	I	1290	D5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1223	C4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D	I	1291	B4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E
1224	B*3Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/C	I	1292	D5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1225	B5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/C	I	1293	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/B
1226	C5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D/B	I	1294	D4Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/C
1227	B3Ⅷ上	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D/C	I	1295	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1228	B3Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/C	I	1296	C5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1229	C5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C	I	1297	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/B
1230	C5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/D	I	1298	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	B/C
1231	C5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B	I	1299	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/B
1232	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B	I	1300	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/C
1233	D5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B	I	1301	D4Ⅷ下	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/C
1234	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/E	I	1302	D3Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1235	D11Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C/D	I	1303	D4Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C
1236	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C/D	I	1304	B3Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1237	C4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	I/G	I	1305	C4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1238	B5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D	I	1306	C3Ⅷ上	D	D	XXR	Q, PL, H	B	D
1239	D5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B	I	1307	D4Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/E
1240	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C	I	1308	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1241	D5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B	I	1309	D4Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1242	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/C	I	1310	D4Ⅷ下	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1243	C5Ⅷ上	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C	I	1311	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1244	A3Ⅷ	D	ABC	XXR	Q, PL, H	B	C/D		1312	B2Ⅷ下	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1245	C5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C/D		1313	B5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1246	C4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/D		1314	B5Ⅷ	D	C	XXR	Q, PL, H	B	E/D
1247	C4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C/D		1315	C5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D
1248	B2Ⅷ最下	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D									
1249	B5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C/D		1507	3土手	I	A	青磁			A
1250	C5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D		1508	D2Ⅷ下	I	A	〃			A
1251	B5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C/D		1509	B-表	I	E	〃			A
1252	C4Ⅷ C5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/C		1510	C2Ⅷ	I	E	〃			A
1253	D5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D		1511	B4Ⅷ	I	E	〃			A
1254	D2Ⅷ上	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D		1512	C-9	I	E	〃			A
1255	B5Ⅷ	D	AD	XXR	Q, PL, H	B	C/B		1513		I	E	〃			A
1256	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D		1514	D2	I	A	〃			A
1257	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B		1515	C3Ⅷ	I	A	〃			A
1258	C4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C		1516	B3土手	I	A	〃			A
1259	C4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	C		1517	C4Ⅷ	I	A	〃			A
1260	C5Ⅷ D5Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/C		1518	C2Ⅷ	I	A	〃			A
1261	B4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	B/C		1519	C3Ⅷ	I	E	〃			A
1262	B3Ⅷ	D	AD	XXR	Q, PL, H	B	C/D		1520	21毛穴	I	A	〃			A
1263	C5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/B		1521	C3Ⅷ上	D	A	〃			A
1264	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/B		1522	C4Ⅷ	D	A	〃			A
1265	C2Ⅷ D2Ⅷ	D	DE	XXR	Q, PL, H	B	C		1523		D	F	白磁			A
1266	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/B		1524		I	A	〃			A
1267	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C		1525	4表	I	ADE	〃			A
1268	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/A		1526	C2Ⅷ	I	E	〃			A
1269	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/A		1527	8表	I	A	染付			A
1270	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D		1528		I	A	〃			A
1271	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	B		1529	C3Ⅷ	I	E	〃			A
1272	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/A	I	1530	C2Ⅷ	I	E	〃			A
1273	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C	I	1531		I	E	〃			A
1274	C5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/A	I	1532	D8表	I	E	〃			A
1275	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	J/B	I	1533	C9表	D	E	〃			A
1276	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/C	I	1534	C3表			〃			A
1277	D4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/B	I	1535	C3Ⅷ	K		陶器			A
1278	B6Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D	I	1536	C3Ⅷ	J	E	〃			A
1279	D4Ⅷ	D	A	XXR	Q, PL, H	B	D/C		1537	D2Ⅷ	J	A	〃			A
1280	C4Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D		1538		J	ABC	〃			A
1281	D5Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D/E		1539	表	J	E	〃			A
1282	B6Ⅷ	D	E	XXR	Q, PL, H	B	D		1540	8段	J	E	〃			A
1283	C5Ⅷ上	D	E	XXR	Q, PL, H	B	C/D		1541	B3Ⅷ	J	E	〃			A

第21表 榎木原遺跡出土土器観察表(1)

番号	出土区画	器種	部位	色調	焼成	胎土	形態の特徴	器面調整		備考
								内面	外面	
1316	B 2 Ⅲ	E	A	H	A	Q,PI	口縁部, 胴部に刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	2点接合
1317	A 4 Ⅲ	E	A	H/F	B	Q,PL	口縁部, 胴部に刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	2点接合
1318	A 4 Ⅲ	E	A	H	B	Q,H	口縁部に刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1319	A 4 Ⅲ下	E	D	H	B	Q,H	胴部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1320	C 3 Ⅲ上	E	A	D	A	Q	口縁部, 胴部に刻目突帯	ヨコナデ	横, 縦位のハケ目	
1321	B 4 Ⅲ下	E	A	F	A	Q,H	口縁部刻目突帯, 胴部に突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	
1322	B 3 Ⅲ上	E	A	C/F	A	Q,PI,H	口縁部, 胴部に刻目突帯	ヨコナデ	ナデ	
1323	C 3 Ⅲ上	E	A	F	A	Q,H	口縁部刻目突帯, 胴部に突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	2点接合
1324	B 5 Ⅲ	E	A	G	B	H,PL	口縁部刻目突帯	不明	ナデ	
1325	B 3	E	A	F	A	PL	口縁部刻目突帯	不明	ナデ	
1326	B 5 Ⅲ	E	D	D/C	A	Q,H	胴部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1327	C 4 Ⅲ	E	A-DE	F	A	Q,H	口縁部, 胴部に2条の刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ, 縦位のハケ目	数点接合, 完形に復元
1328	B 2 Ⅲ	E	A-DE	F	A	Q,PL,H	口縁部, 胴部に2条の突帯	ナデ	ヘラミガキ, ナデ	一括出土, 完形に復元
1329	C 3 Ⅲ下	E	A	D/C	A	Q,H	口縁部刻目突帯	ナデ	ナデ	
1330	B 2 Ⅲ	E	A	D/C	A	Q,H	口縁部刻目突帯	ナデ	ナデ, 縦位のハケ目	
1331	D 2 Ⅲ	E	D	D	A	Q,H	胴部に2条の突帯(部分的に刻み)	ナデ	縦位のハケ目	
1332	C 3 Ⅲ	E	D	F	A	Q	胴部に2条の刻目突帯	ナデ, ヘラミガキ	ナデ, 横位のヘラミガキ	2点接合
1333	D 3 Ⅲ	E	D	H	A	Q	胴部に1条の刻目突帯	ナデ	不明	
1334	D 2 Ⅲ	E	D	H	A	Q	胴部に1条の刻目突帯	ナデ	ヨコナデ	
1335	D 2 Ⅲ	E	D	F	A	Q	胴部に1(2?)条の刻目突帯	ナデ	横位のヘラミガキ	
1336	C 3 Ⅲ下	E	A	F	A	Q	口縁部刻目突帯, 胴部に3条の沈線	ナデ	ナデ	
1337	B 0	E	A	H	B	Q,H	口縁部刻目突帯, 胴部に5条の沈線	ナデ	ナデ	内外面にスス付着
1338	D 2 Ⅲ	E	A	C/B	A	Q	口縁部刻目突帯	ナデ, 縦位のヘラミガキ	横, 縦位のヘラミガキ	2点接合
1339	C 2	E	A	H/C	A	Q	口縁部刻目突帯	ナデ	ヨコナデ	
1340	A 4 Ⅰ	E	A	H/F	A	Q	口縁部刻目突帯	不明	ナデ	
1341	D 2 Ⅲ	E	A	F/G	A	Q	口縁部刻目突帯	ナデ	縦位のハケ目	
1342	C 2 Ⅲ	E	A	F	A	Q	口縁部刻目突帯	ナデ	ナデ	
1343	D 10 Ⅰ	E	A	H	A	Q,H	口縁部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1344	D 3 Ⅲ	E	A	F	A	Q	口縁部刻目突帯	ナデ	ヨコナデ	
1345	B 3 Ⅲ上	E	A	B/D	A	Q	口縁部刻目突帯, 胴部に1条の突帯	ナデ, ヘラミガキ	横, 縦位のヘラミガキ	2点接合
1346	C 4 Ⅲ上	E	A	F	A	Q	口縁部刻目突帯	横位のヘラミガキ, ナデ	横位のヘラミガキ	
1347	C 3 Ⅲ	E	A	F	A	Q	口縁部, 胴部に2条の突帯	横位のヘラミガキ, ナデ	横位のヘラミガキ	3点接合
1348	C 3 Ⅲ下	E	A	F/D	A	Q	口縁部刻目突帯, 口唇部に突起	横位のヘラミガキ, ナデ	横位のヘラミガキ	
1349	D 4 Ⅲ上	E	A	D/C	B	Q,PL,H	口縁部刻目突帯, 口唇部に突起	ナデ(?)	ナデ, ヘラミガキ(?)	
1350	B 0	E	A	D	B	Q,H	口縁部刻目突帯, 口縁下に逆「ノ」字突帯	ナデ, ヘラミガキ(?)	不明	
1351	C 2 Ⅲ	E	A	H	A	M,Q	口縁部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	表土の土器と接合
1352	C 3 Ⅲ	E	A	C	A	M,Q	口縁部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1353	C 2 Ⅲ	E	A	D/C	A	Q,H	口縁部刻目突帯	ナデ	不明	
1354	D 3 Ⅲ	E	A	H	A	M,Q	口縁部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1355	A 3 Ⅲ	E	A	D	B	M,PI	口縁部刻目突帯	不明	ヨコナデ(?)	
1356	D 4 Ⅰ	E	A	F/D	A	M,PI	口縁部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1357	D 3 Ⅲ	E	A	F	A	M,PI	口縁部刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1358	C 3 Ⅲ	E	A	H	A	M,PI	「く」の字口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	
1359	C 2 Ⅲ	E	A	H	A	M,H	「く」の字口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	
1360	C 5 Ⅲ	E	D	D/F	A	M,PI	胴部に2条の突帯	不明	ヨコナデ	
1361	A 6 Ⅲ	E	D	K	B	Q,H	胴部に2条の突帯	ナデ	ナデ	
1362	C 3 Ⅲ下	E	A	D/F	A	Q	「く」の字口縁, 胴部に縦2, 横1の突帯	横位のヘラミガキ	横, 縦位のヘラミガキ	3点接合
1363	D 5 Ⅲ	E	D	H/F	A	Q	胴部に縦1, 横2の突帯	ナデ(?)	斜位のヘラミガキ	
1364	表採	E	D	D	A	Q,H	胴部(口縁付近?)に縦1, 横1の突帯	ヨコナデ	縦位のヘラミガキ	
1365	B 2 Ⅲ	E	D	D	A	Q	胴部に縦2条の突帯	ナデ	縦位のヘラミガキ	
1366	B 3 Ⅲ上	E	B	F	A	PI	「く」の字口縁の屈曲部内外に1条の突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1367	B 2 Ⅲ下	E	B	C/F	A	Q,PL	「く」の字口縁の屈曲部外側に1条の突帯	横位のヘラミガキ	横位のヘラミガキ	
1368	B 3 Ⅲ下	E	E	F	A	Q,PL,H	平底	不明	縦, 横位のヘラナデ	
1369	C 3 Ⅲ	E	E	F	A	Q,H	平底	ハケナデ	ハケナデ	
1370	C 3 Ⅲ	E	E	H	B	Q,PL,H	平底	不明	ナデ	
1371	A 4 Ⅲ	E	E	E/B	A	Q,PL	平底	不明	ナデ	
1372	B 2 Ⅲ	E	E	D	A	Q	平底	ヨコナデ	ナデ	
1373	B 4 Ⅲ	E	E	D	A	Q	平底	ナデ	ナデ	
1374	D 5 Ⅲ	E	E	D	A	M,Q	平底	ナデ	ナデ	
1375	B 2 Ⅲ	E	E	H/F	A	Q	平底	ナデ	ナデ	
1376	C 2 Ⅲ	F	A	F	A	Q	外反する口縁部の内側に突帯	横位のヘラミガキ	縦位のヘラミガキ	2点接合
1377	D 4 Ⅲ	F	A	D/B	A	Q	外反する口縁部の内側に突帯	ナデ(?)	ナデ	
1378	B 4 Ⅲ	F	A	F	A	Q	外反する口縁部の内側に突帯	横位のヘラミガキ	横位のヘラミガキ	
1379	A 3 Ⅲ	F	A	D	A	Q	外反する口縁部の内側に突帯	ヨコナデ, 横位のヘラミガキ	ナデ, ヘラミガキ(?)	
1380	C 3 Ⅲ上	F	A	D	A	Q	外反する口縁部の内側に突帯	横位のヘラミガキ	縦, 横位のヘラミガキ	2点接合
1381	B 2 Ⅲ	F	D	F/H	A	Q,H		ハケナデ, ヘラケズリ	横位のヘラミガキ	9点接合
1382	B 0	F	B-C	H	B	Q	胴部に横位の2条細沈線	不明	縦位のヘラミガキ	
1383	D 3 Ⅲ	F	C	D	A	Q	肩部に横位の3条細沈線	ナデ	ヘラミガキ	

第22表 榎木原遺跡出土土器観察表(12)

番号	出土区画	器種	部位	色調	焼成	胎土	形態の特徴	器面調整		備考
								内面	外面	
1384	B 3 Ⅲ	F	C	F	A	Q	肩部の隆起部に2本の細沈線	ナデ	縦、横ヘラミガキ	
1385	D 4 Ⅲ	F	C	H	A	Q,PI	肩部に横斜位の細沈線	ナデ	横位のヘラミガキ	
1386	B 2 表	F	C	B	A	Q	肩部に3本の細沈線	ナデ	ナデ(?)	
1387	B 3 Ⅲ	F	C	F	A	Q	肩部の隆起部に刺突文	不明	横位のヘラミガキ	
1388	C 3 Ⅲト	F	C	C	A	Q	肩部に2本の細沈線+羽状のヘラ描き文	ヘラミガキ(?)	ヘラミガキ(?)	
1389	B 2 Ⅲ	F	C	H	A	Q,H	肩部に細沈線と半截竹管による刺突文	ハケナデ	ヘラミガキ	接合(3点, 2点)
1390	B 3 Ⅲト	F	A	D/F	A	Q,H		ヨコナデ	ヘラミガキ(?)	
1391	C 4 Ⅲ	F	A	F	A	Q		ヨコナデ	ヨコナデ	2点接合
1392	B 5 Ⅲ	F	A	F	A	Q		ヨコナデ	ヨコナデ	
1393	C 4 Ⅲト	F	A	F	B	Q,H		ヨコナデ	ヨコナデ	
1394	B 3 Ⅲ	F	A	F	A	Q		ヨコナデ	ヨコナデ	2点接合
1395	D 2 Ⅲ	F	A	D	A	Q		ヨコナデ, 横位のヘラミガキ	ヨコナデ, 縦位のヘラミガキ	
1396	B 3 Ⅲ	F	A	D	A	Q		ヨコナデ, 横位のヘラミガキ	ヨコナデ, 縦位のヘラミガキ	
1397	A 3 Ⅲ	F	A	D/B	A	Q		ヨコナデ, 横位のヘラミガキ	ヨコナデ, ヘラミガキ	
1398	C 3 Ⅲ	F	A	D/C	A	Q,H		ヨコナデ, ヘラミガキ	ヨコナデ	
1399	B 3 Ⅲ	F	A	D/C	A	Q		不明	横位のヘラミガキ	
1400	C 3 Ⅲ上	F	A	F	A	Q,H	小型壺	不明	ヨコナデ	
1401	C 3 Ⅲ上	F	E	F/H	A	Q	平底(若干上げ底)	剥落が激しい	横位のヘラミガキ	2点接合
1402	C 2 Ⅲ	F	E	F	A	M	平底	ハケナデ	縦位のヘラミガキ	外面にスス付着
1403	B 3 Ⅲト	F	E	H/B	A	Q,H	平底	ナデ	ナデ	
1404	D 4 Ⅲ	F	E	B/F	A	Q,H	平底	ナデ	ナデ	
1405	B 3 Ⅲト	E	A	B/F	A	Q	外反する「く」の字口縁	ナデ	縦位のハケ目	3点接合
1406	B 3 Ⅲ上	E	A	H	A	Q	外反する「く」の字口縁	ナデ	ナデ	
1407	B 4 Ⅲ	E	A	H	A	Q,H	外反する「く」の字口縁	ナデ	ナデ	
1408	D 3 Ⅲ	E	A	D/F	A	Q	外反する「く」の字口縁	ナデ	縦位のハケ目	
1409	B 2 Ⅲト	E	A	D/F	A	Q,H	外反する「く」の字口縁	ナデ	縦位のハケ目	
1410	B 4 Ⅲ	E	A	B/F	A	Q	外反する「く」の字口縁	ナデ	ナデ	2点接合
1411	C 2 Ⅲ	E	A	H	A	Q	外反する「く」の字口縁	ナデ	縦位のハケ目	2点接合
1412	B 3 Ⅲ上	E	D	E/C/D	A	Q	上げ底	ナデ	ナデ	2点接合
1413	C 3 Ⅲト	E	A	F/H	A	Q	口縁屈曲部に絡繩突帯	ナデ	ナデ	
1414	D 3 Ⅲ上	E	A	G	A	Q	口縁屈曲部に刻目突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	
1415	A 4	E	A	G	A	Q	口縁屈曲部に刻目突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	
1416	B 3 Ⅲ	E	A	G	A	Q	口縁屈曲部に刻目突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	
1417	A 3 Ⅲ	E	B	H/B	A	Q	口縁屈曲部に刻目突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	
1418	D 3 Ⅲ	E	B	B/H	A	Q	口縁屈曲部に刻目突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	
1419	D 3 Ⅲ	E	B	F	A	Q	口縁屈曲部に刻目突帯	ヨコナデ	縦位のハケ目	
1420	C 2 Ⅲ	E	B	H	A	Q,H	口縁屈曲部に刻目突帯	ナデ	ナデ	
1421	D 4 Ⅲ	E	B	H	A	H	口縁屈曲部に刻目突帯	ナデ	ナデ	
1422	D 1 Ⅲ	E	B	B	A	Q,H	口縁屈曲部に突帯	ナデ, ヘラミガキ	ナデ, ヘラ削り	外面にスス付着
1423	C 2 Ⅲ	E	A	K	A	Q	口縁下に突帯	ナデ	ナデ, ハケ目	5点接合
1424	C 2 Ⅲト	E	A	B/D	A	Q	口縁下に絡繩突帯	ナデ	ナデ	外面にスス付着
1425	D 1 Ⅲ上	E	A	H	A	Q	口縁下に突帯	ナデ	ナデ, 縦位のハケ目	外面にスス付着
1426	D 5	E	A	F	A	Q	口縁下に絡繩突帯	横位のハケナデ	ナデ	遺物ダメ出土
1427	D 2 Ⅲト	E	A	B/H	A	Q	口縁下に絡繩突帯	ナデ	ナデ, 縦位のヘラミガキ	4点接合, 外面にスス付着
1428	D 2 Ⅲ	E	A	B/D	A	Q	口縁下に絡繩突帯	ナデ	ナデ	3点接合, 外面にスス付着
1429	D 2 Ⅲ	E	D	B/C	A	Q	口縁下に刻目突帯	ハケナデ	ナデ	外面にスス付着
1430	D 3 Ⅲ	E	E	D	A	Q	上げ底	ナデ	ナデ	
1431	D 4 Ⅲ	E	E	F	A	Q	上げ底	ナデ	縦位のハケ目	
1432	D 3 Ⅲ上	E	E	F	A	Q	底部屈曲部に突帯	ナデ	ナデ, ヘラミガキ	
1433	B 3 Ⅲト	E	E	B/C	A	Q,PL	上げ底	ヘラ削り	ナデ	3点接合
1434	B 3 Ⅲ	E	E	H	A	Q,H	上げ底, 底部屈曲部に突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1435	B 3 Ⅲ	E	E	F	A	Q	上げ底	ナデ, ヘラ削り	ヨコナデ	4点接合
1436	D 5	E	E	H	A	Q,H	上げ底	ヨコナデ	ヨコナデ	遺物ダメ出土
1437	D 5	E	E	F	A	Q	上げ底	ヨコナデ	ヨコナデ	遺物ダメ出土
1438	B 2 Ⅲト	E	E	F	A	Q	上げ底	ヨコナデ	ヨコナデ	
1439	C 2 Ⅰ	E	E	D	A	Q,PL	上げ底, 底部屈曲部に刻目突帯	ヨコナデ	ヨコナデ	
1440	B 2 Ⅲ	F	A	G	A	Q	口唇部がやや垂れ下がる	ヨコナデ	ヨコナデ	2点接合
1441	C 3 Ⅲ	F	A	H	A	Q	口唇部がやや垂れ下がる	ヨコナデ	縦位のハケ目	遺物ダメ出土
1442	D 5	F	A	B/F	A	Q	短頸	ヨコナデ, ハケナデ	縦位のハケ目	
1443	B 4 Ⅲ	F	B	D	F	A	頸部に刻目突帯	ヨコナデ, ハケナデ	縦位のハケ目	
1444	D 5	F	A	D	A	Q	頸部に刻目突帯	横位のヘラミガキ	ヘラミガキ	遺物ダメ出土
1445	D 5	F	A	H	A	Q,PL,M	外反する口縁	横位のヘラミガキ	縦位のヘラミガキ	遺物ダメ出土
1446	B 2 Ⅲ	F	A	F	B	Q,PL	外反する口縁			
1447	D 5	F	A	F	A	Q,PL	直行気味に立ち上がり, やや外傾する口縁	ナデ	ナデ	遺物ダメ出土
1448	D 1 Ⅲ	F	D	H/C	B	Q,PL,M	刻目突帯			
1449	D 5	F	D	K/F	A	Q,PL,H	頸部に突帯(竹管による押圧有)		ヘラミガキ(?)	遺物ダメ出土
1450	B 2 Ⅲ	F	D	K/F	B	Q,H	幅広突帯			
1451	D 4 Ⅲ	F	D	F	B	Q,H	幅広突帯			

第23表 榎木原遺跡出土土器観察表(13)

番号	出土区画	器種	部位	色調	焼成	胎土	形態の特徴	器面調整		備考
								内面	外面	
1452	D 5	F	A	H	A	Q	無須垂			
1453	C 2 Ⅱ	F	E	H	A	Q,H	平底		ナデ	遺物ダメ出土
1454	D 5	F	E	H/F	A	Q,H	平底			
1455	C 4 Ⅱ	F	E	H	A	Q,H	平底			遺物ダメ出土
1456	C 2 Ⅱ	F	E	H	A	Q,H	平底			
1457	B 4 Ⅱ	I	A	F/D	A	Q		ハケナデ	縦位のハケ目	
1458	B 2 Ⅱ	I	A	F/H	A	Q	口縁部肥厚(幅4.5cm)		ナデ	
1459	不明	I	F	F	A	Q,H		ナデ	ナデ	小型土器
1460	B 3 Ⅱ	I	A	H	A	Q		ナデ		小型土器
1461	B 4 Ⅱ	H	D/B	F	A	Q			ハケ目	
1462	B 2 Ⅱ	H	D	F	B	Q,PL,H	脚部下に透し孔		縦位のハケ目	
1463	D 1 Ⅱ	H	E	J	A	Q	脚上部		縦位のヘラミガキ	丹塗り
1464	B 3 Ⅱ	H	E	H	A	Q	脚上部		縦位のヘラミガキ	
1465	D 2 Ⅱ	H	E	H	B	Q	脚上部		ナデ	
1466	C 2 Ⅱ	H	E	H	B	Q	脚部	ナデ	ナデ	
1467	B 2 Ⅱ	J	D	H	B	Q,H	脚部で屈曲			
1468	C 3 Ⅱ	J	E	B/H	A	Q,H	底部に乳首状突起			
1469	D 3 Ⅱ		E	H	A	Q	上げ底	ナデ	ナデ	小型土器
1470	C 4 Ⅱ		E	H	A	Q	上げ底			小型土器
1471	C 3 Ⅱ		H/F	A	Q,H		高いの脚部を利用	ナデ	縦位のヘラミガキ	3点接合
1472	C 4 Ⅱ		K/F	A	Q					内面に敷痕有
1473	C 2 Ⅱ下		H/F	B	Q,H					
1474	A 3 Ⅱ	紡錘車	F	A	Q,H					半欠
1475	C 2 Ⅱ	K	完形	L	A		ボタン状つまみ、外面にヘラ記号有	回転ナデ調整	回転ナデ調整	12点接合
1476	C 3 Ⅱ上	K	A	L	A			回転ナデ調整	回転ナデ調整	
1477	C 5 Ⅰ	K	A	L	A		ボタン状つまみ(半欠)	回転ナデ調整	回転ナデ調整	
1478	A 3 Ⅱ	K		L	A			回転ナデ調整	回転ナデ調整	
1479	C 3 Ⅱ	K	A	D/H	A			回転ナデ調整	回転ナデ調整	
1480	D 2 Ⅱ下	G	完形	L	A			回転ナデ調整	回転ナデ調整	
1481	D 1 Ⅱ下	G	E	L	A	細粒含		回転ナデ調整+カキ目	回転ナデ調整	
1482	C 2 Ⅱ	G	E	L	A			ナデ調整	回転ナデ調整	
1483	C 4 Ⅱ		D	L	A	PL		同心円叩き	平行叩き(幅1.5ミリ)	
1484	C 2 Ⅱ		D	L	A			平行叩き(幅3ミリ)	平行叩き(幅2ミリ)+ナデ	
1485	B 4 Ⅱ下		D	L	A			同心円叩き	平行叩き(幅4ミリ)	
1486	表採		D	L	A			同心円叩き	平行叩き(幅2ミリ)+ナデ	
1487	D 2 Ⅱ		D	K	A	黒曜石含		同心円叩き	平行叩き(幅1.5ミリ)+ナデ	2点接合
1488	C 3 Ⅱ		D	L	A			同心円叩き	格子目叩き	
1489	C 2 Ⅱ		D	K	A			同心円叩き	平行叩き(幅2ミリ)	自然軸(外)
1490	C 2 Ⅱ		D	K	A	黒曜石含		同心円叩き	平行叩き(幅2ミリ)+ナデ	
1491	D 2 Ⅱ		D	K	A			同心円叩き	平行叩き(幅2ミリ)+ナデ	
1492	表採		D	L	A			同心円叩き	平行叩き(幅3ミリ)+ナデ	
1493	表採		D	L	A			同心円叩き	平行叩き(幅3ミリ)+ナデ	
1494	B 3 Ⅱ		D	K	A	黒曜石含		同心円叩き	平行叩き(幅1.5ミリ)+ナデ	自然軸(外)
1495	C 4 Ⅱ		D	L	A	Q		同心円叩き	平行叩き(幅3ミリ)+ナデ	
1496	C 2 Ⅱ		D	K	A			同心円叩き	平行叩き(幅1.5ミリ)	
1497	C 3 Ⅱ下		D	L/B	A			同心円叩き	平行叩き(幅1ミリ)	
1498	C 2 Ⅰ		D	K/L	A			同心円叩き	格子目叩き	
1499	D 4 Ⅱ		D	B	A	黒曜石含		同心円叩き	平行叩き(幅2.5ミリ)	
1500	D 2 Ⅱ		D	D/K	A			同心円叩き	格子目叩き	
1501	C 3 Ⅱ		D	D	A			平行叩き(幅3.5ミリ)	格子目叩き	
1502	B 3 Ⅱ上		D	K	A	黒曜石含		同心円叩き	平行叩き(幅2ミリ)+ナデ	
1503	C 3 Ⅱ		D	L	A			平行叩き(幅3ミリ)+ナデ	格子目叩き	
1504	D 3 Ⅱ		D	L	A			同心円叩き	格子目叩き+ナデ	
1505	C 2 Ⅱ		D	B	A			平行叩き+同心円叩き	平行叩き(幅1.5ミリ)	
1506	C 3 Ⅱ下		D	B	A	PL		同心円叩き	平行叩き(幅3ミリ)+ナデ	

器種		部位	胎土	焼成	色調								
深鉢	A	高円	H	口縁部	A	石英	Q	良	A	黒色	A	黄茶褐色	H
精製浅鉢	B	鉢	I	頸部	B	長石	PL	普通	B	黒褐色	B	橙茶褐色	I
粗製浅鉢	C	皿	J	肩部	C	金雲母	M	粗悪	C	黒茶褐色	C	赤茶褐色	J
皿	D	蓋	K	脚部	D	角閃石	H			暗茶褐色	D	灰褐色	K
甕	E	碗	L	底部	E	滑石	Ta			茶褐色	E	青灰色	L
壺	F	掛鉢	M	完形	F					明茶褐色	F		
杯	G									灰茶褐色	G		

6. 石 器

(1) 石 鏃 (第134図 1559~1574)

石鏃は16点出土している。1559~1561は平基式で1562~1574は凹基式である。この中では、1563と1565が五角形鏃になると思われる。1574は先端部の長い石鏃である。石材は黒曜石、ホルンフェルス等である。

(2) 異形石器 (第134図 1575)

黒曜石質のものである。断面は円形に近いもので形は三方に分かれている。

(3) 石 匙 (第134図 1576~1578)

この石器は1576が縦形で1577と1578は横形である。1577のつまみの部分は小さく、一度割れて、再加工したと思われる。1578のつまみは大きく、厚味もある。石材はケイ岩とホルンフェルスである。

(4) 円孔のある石器 (第134図 1579)

この石器は自然の円礫に円形の孔を通してある。円孔は両面より作り始めている。石材は砂岩である。

(5) 円盤状の石器 (第134図 1580)

この石器は扁平な礫を丸く加工したもので周囲は磨り切り調整加工をしている。石材は砂岩である。

(6) 研磨された石片 (第134図 1581・1582)

1581・1582は研磨された石の剥片と思われる。2つとも両面使用されている。石材はホルンフェルスである。

(7) 磨製石斧・磨製石器 (第135図~第137図 1583~1617)

磨製石斧は34点出土した。1583~1591は厚味のある磨製石斧で丁寧な研磨を行っている石器である。1583~1587は石斧の頭の部分が丸味があり、やや細くなっている。それに対し1588・1589の頭部は角張っている。1590・1591は刃部である。これらの刃部は非常によく研がれている。石材はホルンフェルスが多い。

1592~1602は刃部は丁寧に研磨しているがその他の部分は良く研磨されていない局部磨製石斧である。厚味はやや薄い。1592~1598は頭部が角張っているものに対し、1599~1602は頭部が細くなっている。石材はホルンフェルスが多い。

1603~1608は小形で細身の形をした磨製石斧である。1603・1604は小形であり、1606は細身で厚味がなく1607は厚味はある細身の石器である。これらの使用目的はノミの使用法と考えられる。石材はホルンフェルスが多い。1606は第ⅩⅠ層からの出土である。

1609は、磨製石斧で抉り込みのあるものである。石材はホルンフェルスである。これは尋常な状態と思われる。刃部は鋭利である。

1610~1616、これは丁寧に研磨ではなく、簡単な研磨で作られている半磨製の石器である。目的は石斧と考えられる。1610は厚味があり他はない。また完形品はなくすべて破損している。

形は頭部がやや丸味をもち、側面には剥離線の稜がみられる。1614は三条の細い削痕がみられる。石材はホルンフェルスが多い。

1617は細身のやや曲った磨製石器で刃部の部分が破損している。石材は頁岩である。

(8) 打製石斧 (第138図～第148図 1618～1687)

打製石斧は肩平に近いものから厚いものまであり、全部で70点出土している。ここではA～Kの11の形態に分けた。

A (1618・1619)

この形は細身の隅丸長方形をしたものである。

B (1620～1623)

この形は細身の隅丸長方形に若干抉り込みを両方から入れたものである。

C (1624～1632)

この形は細身の隅丸長方形に抉り込みを両方から深く入れたものである。

D (1633～1643)

この形は広幅の隅丸長方形に両方から深く抉りを入れたものである。

E (1644～1647)

この形は広幅の隅丸台形の形をしたものである。

F (1648～1655)

この形は広幅で五角形をした剥片に抉り込みを入れたものである。刃部が尖っている。

G (1656～1661)

この形は頭部が細く、刃部が幅広い形をした、抉り込みの浅いものである。

H (1662～1673)

この形は頭部が細く、刃部の幅が広い、抉り込みの深い形で、刃部は丸から尖った形をしている。

I (1674)

この形は頭部が細く、刃部の幅が広い、抉り込みの深い形で、刃部が平坦である。

J (1675～1678)

この形は細身の形で若干抉り込みがあり、やや湾曲したものである。

K (1679～1687)

この形は厚味のあるものである。自然礫を加工したもの(1677～1678)もある。

以上が打製石斧で形態上で分けた結果である。

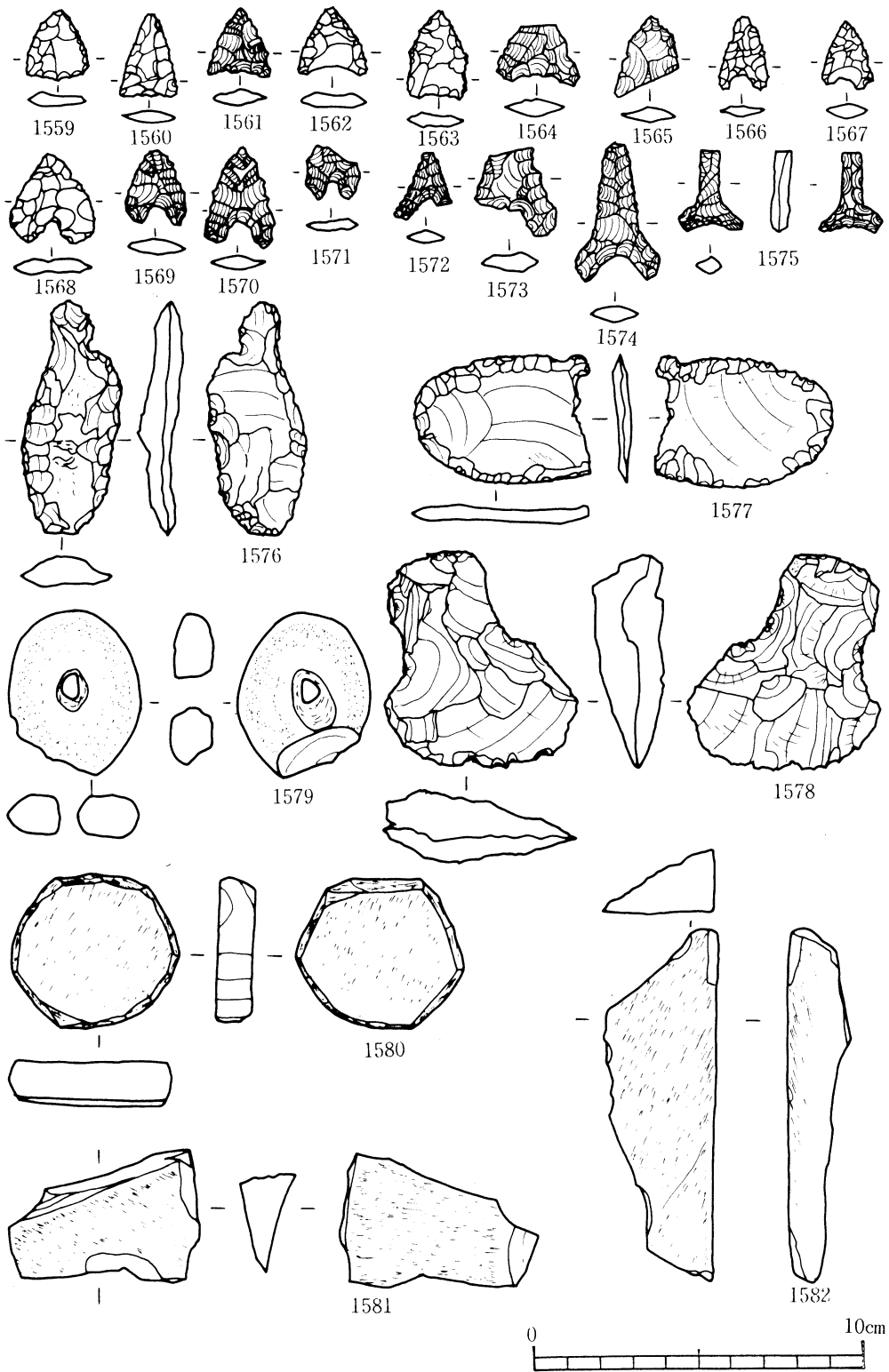
これらの石器の使用目的は樹木の伐採用にしては刃部が鋭利でなく、不整いである。したがって考えられるのは土掘具としての石器が考えられる。

(9) 扁平状の石器 (第148図 1688～1691)

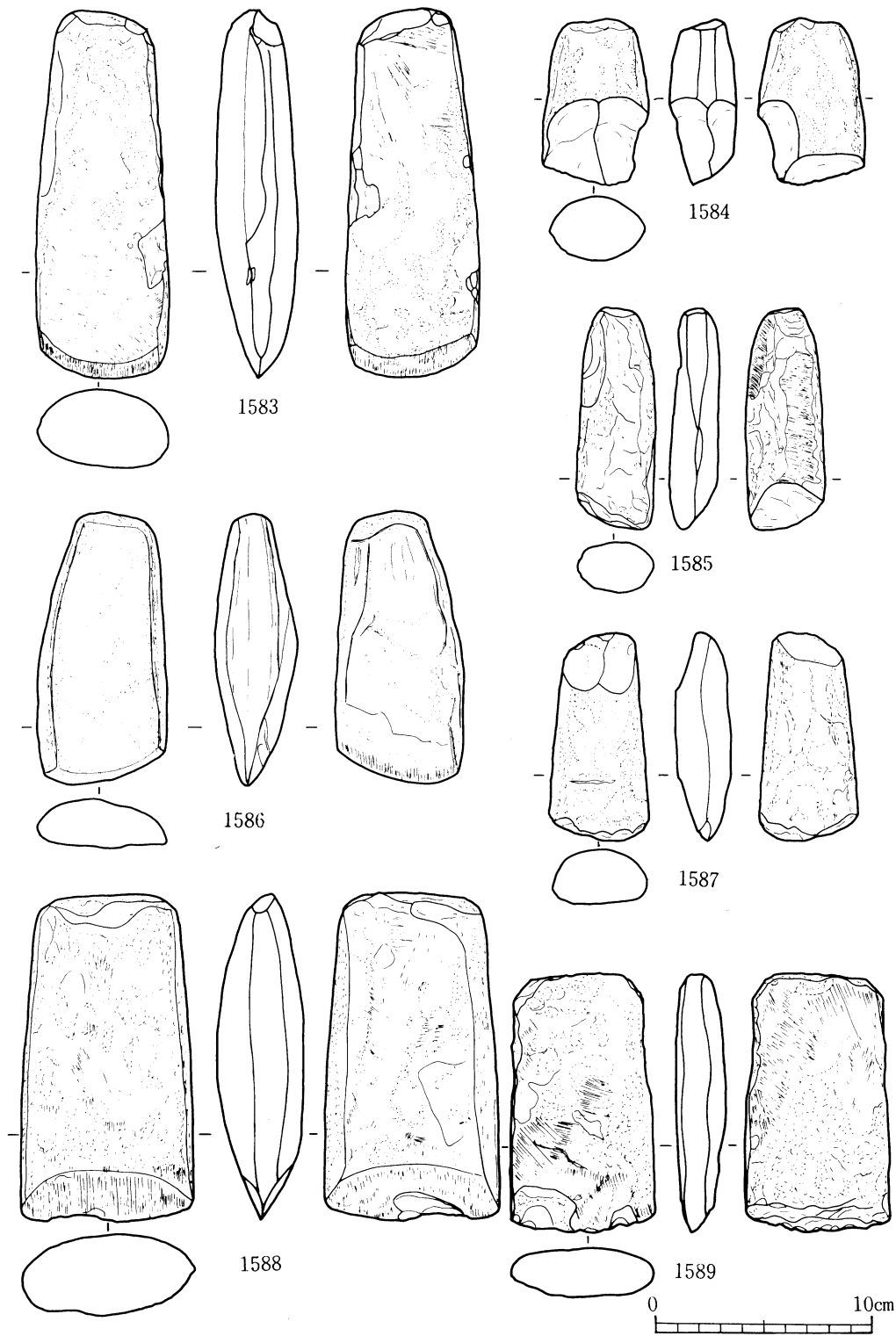
これは自然の扁平な石板で縁が尖ったものである。目的は不明。

(10) 打製石包丁状の石器 (第149図 1692～1700)

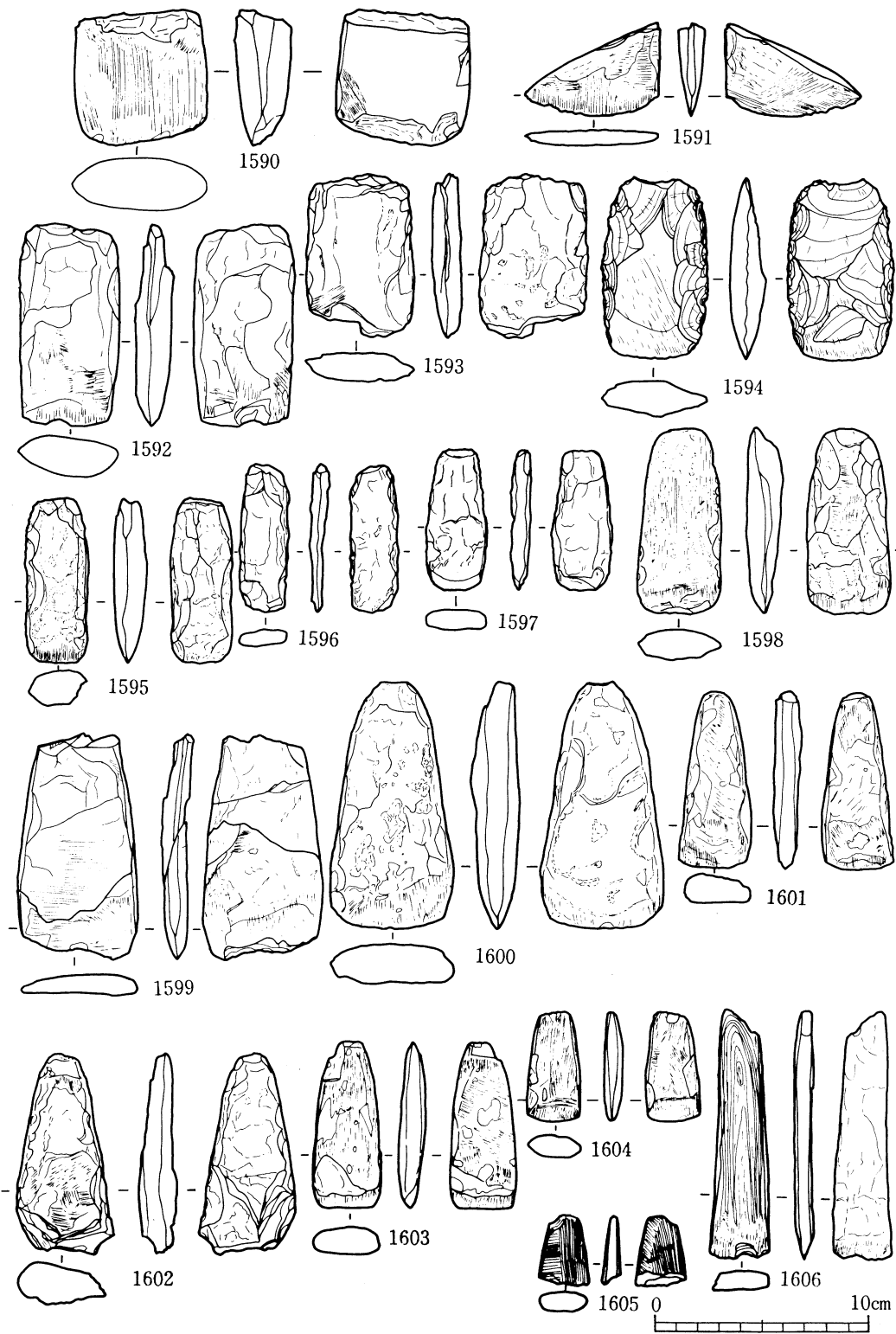
扁平な石器で隅丸長方形と半円形がある。刃部は比較的尖っている。



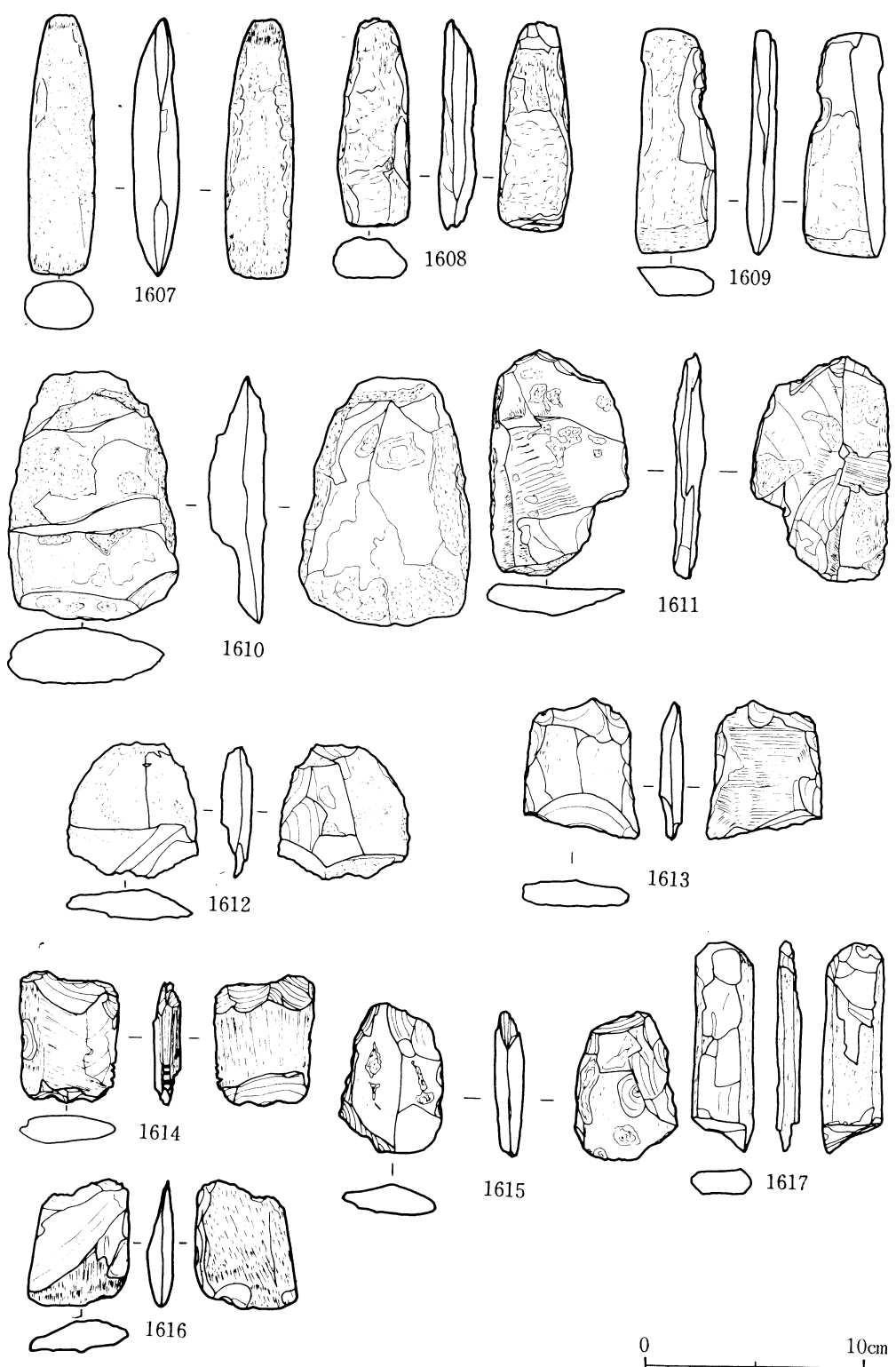
第134図 石器 (1) 石鏃・石匙他



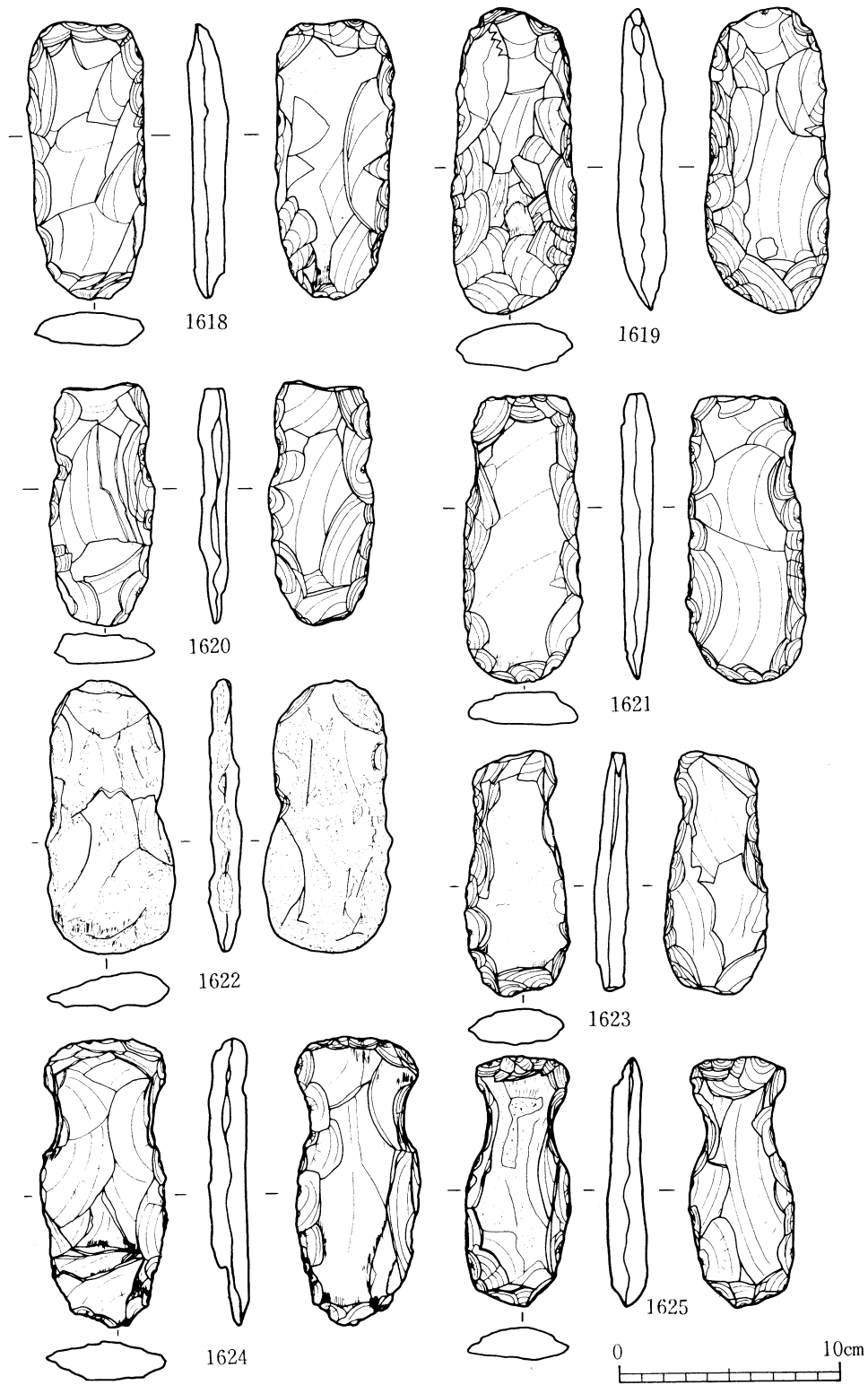
第135図 石 器 (2) 磨製石斧 1



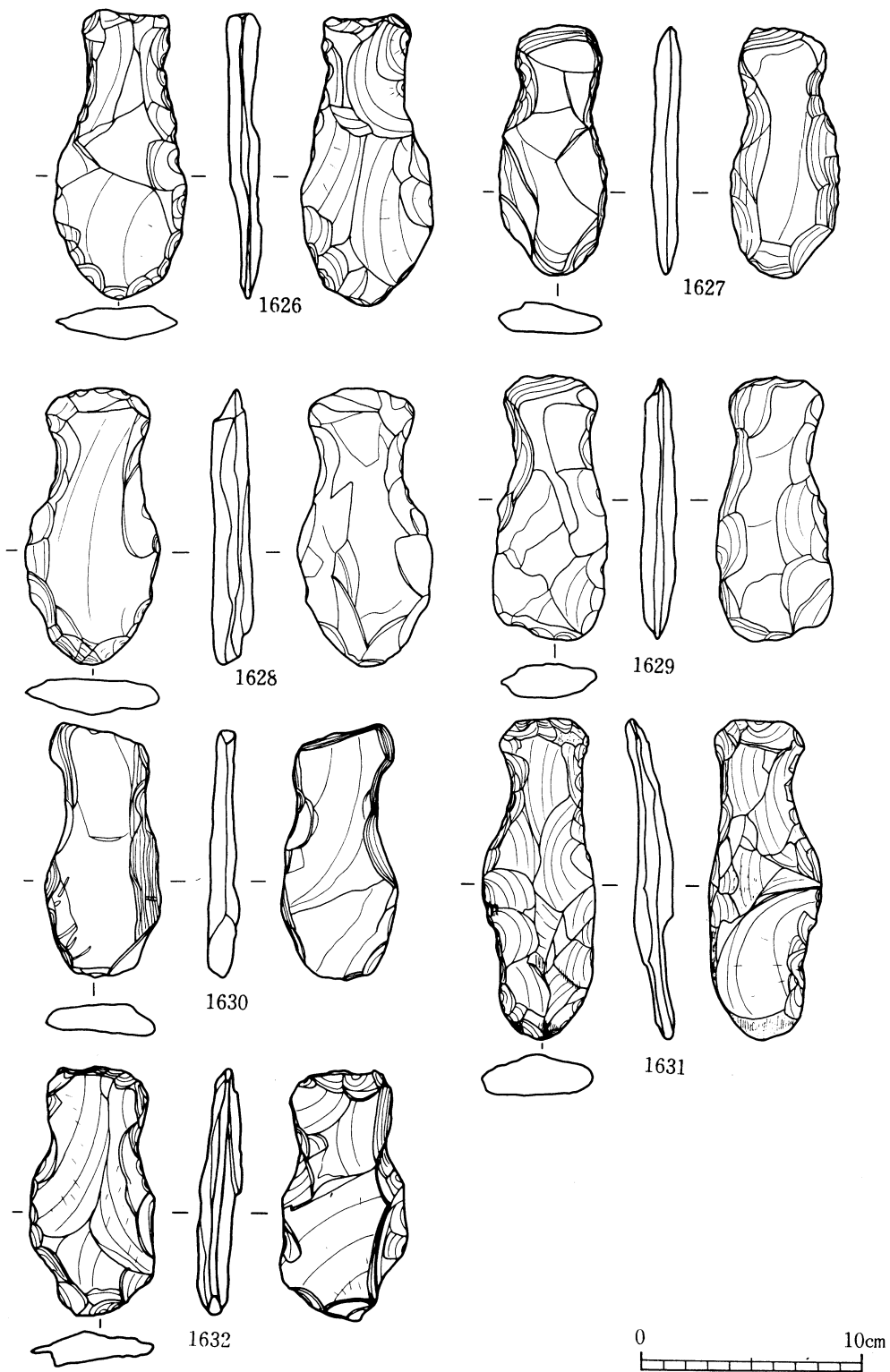
第136図 石器 (3) 磨製石斧 2



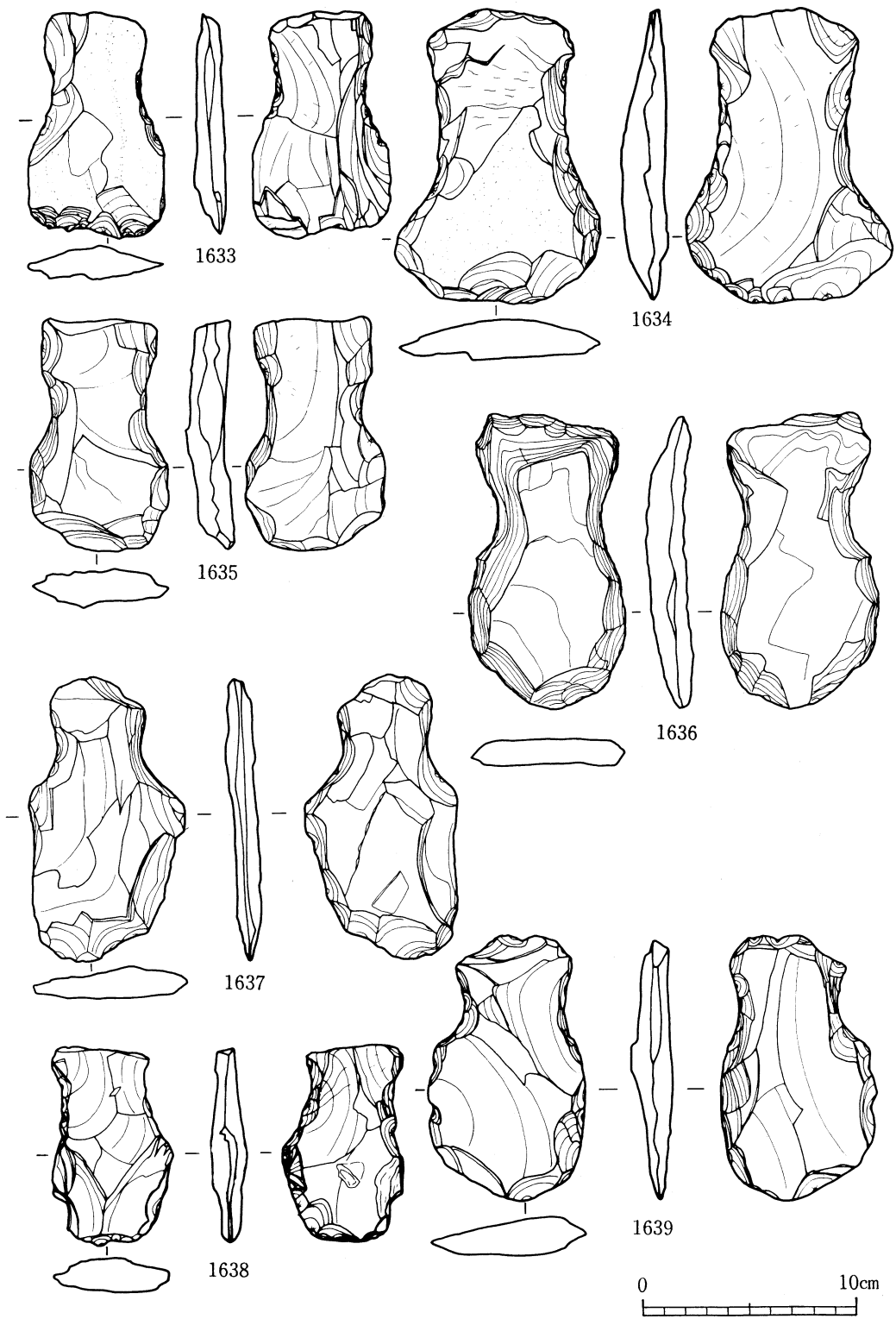
第137図 石器 (4) 磨製石斧 3



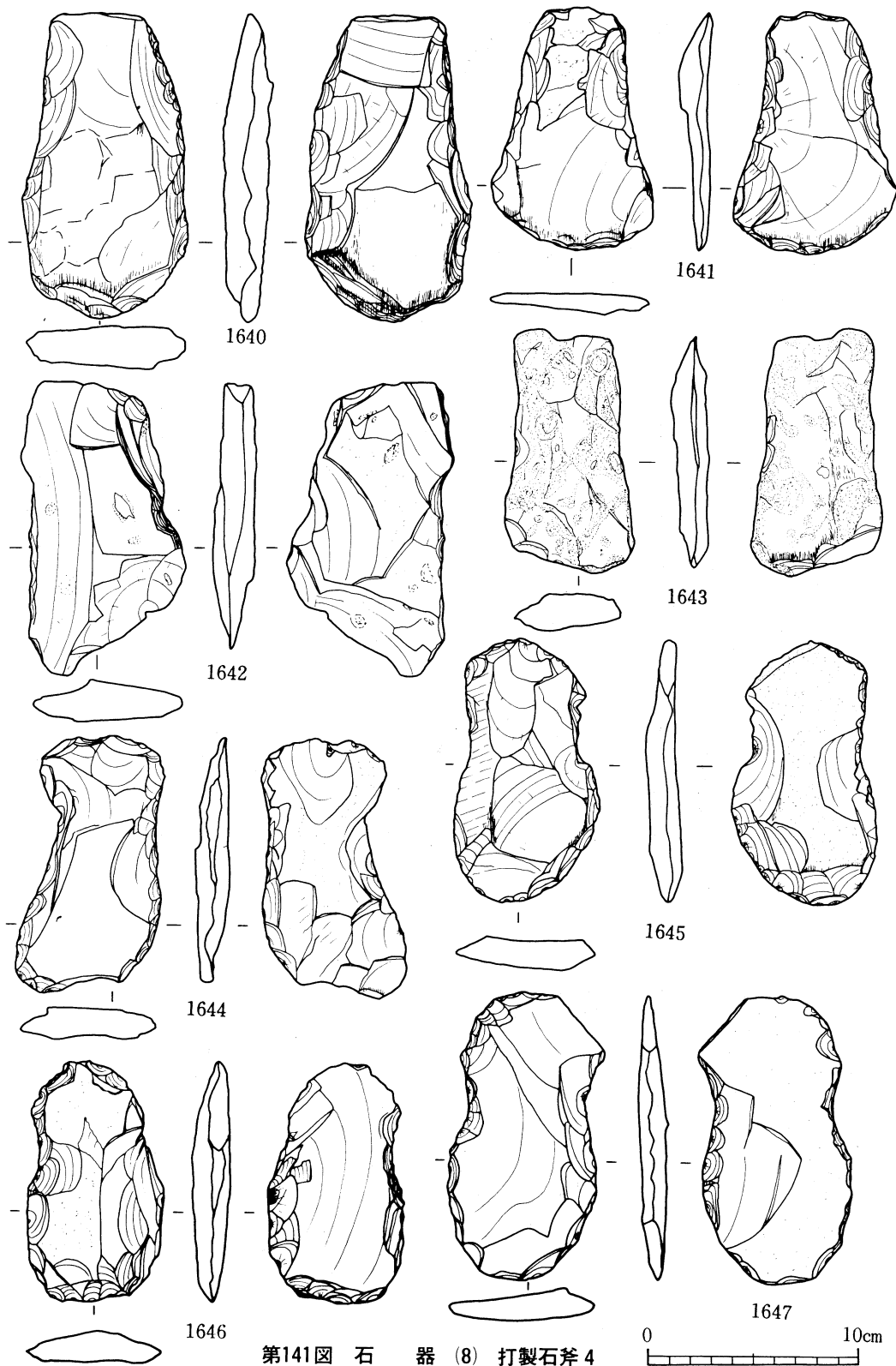
第138図 石器 (5) 打製石斧 1



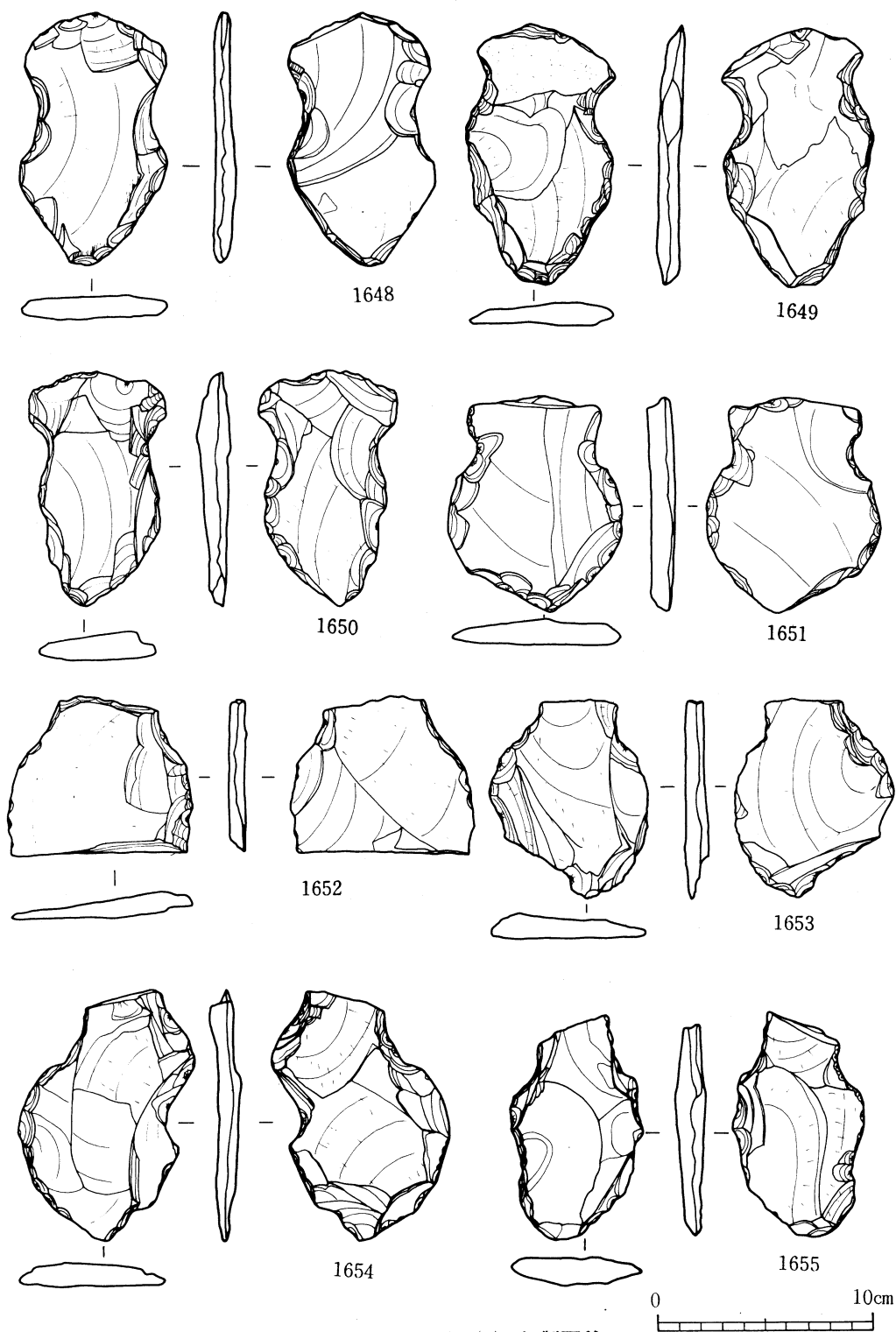
第139図 石器 (6) 打製石斧 2



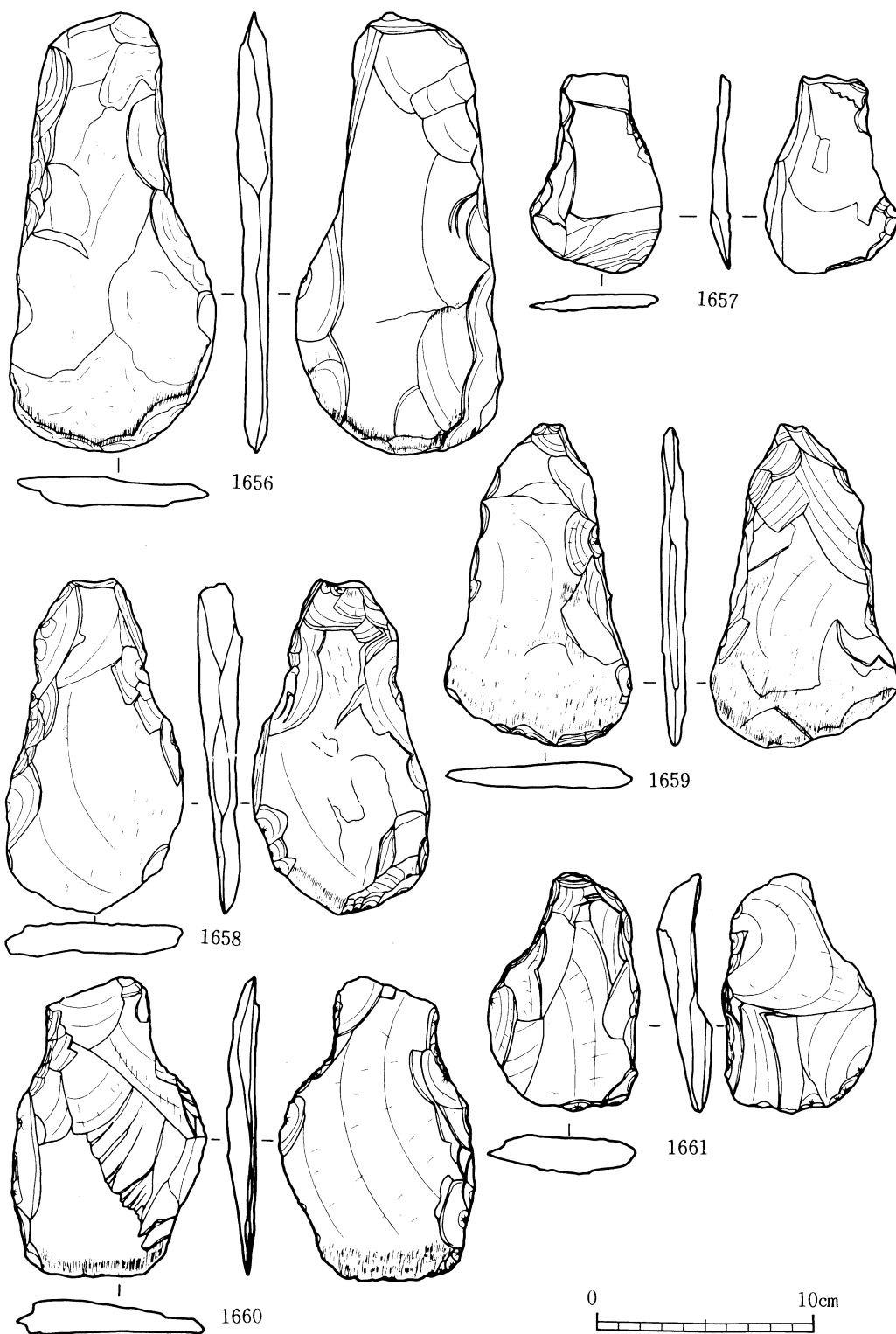
第140図 石 器 (7) 打製石斧 3



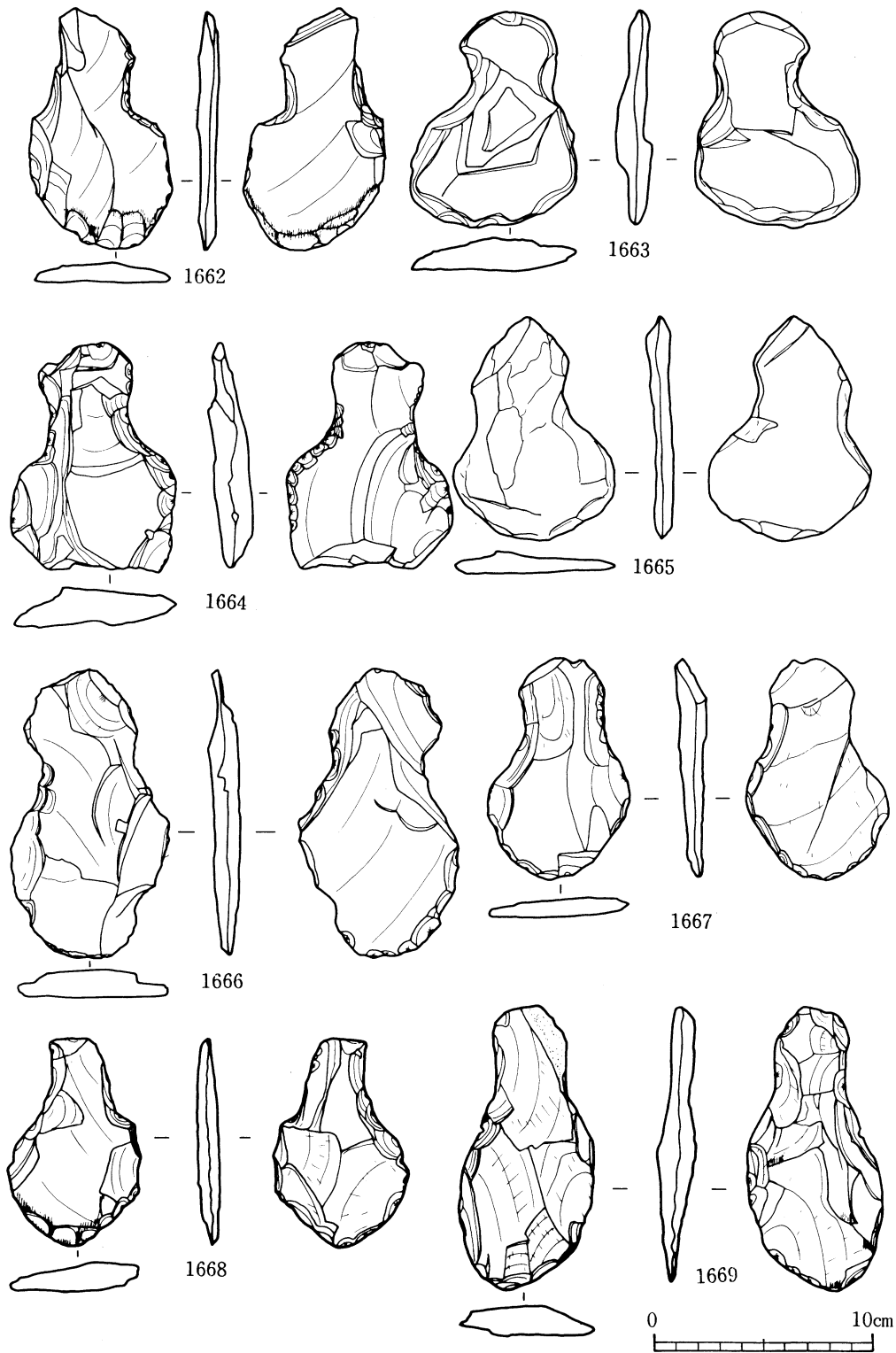
第141図 石器 (8) 打製石斧 4



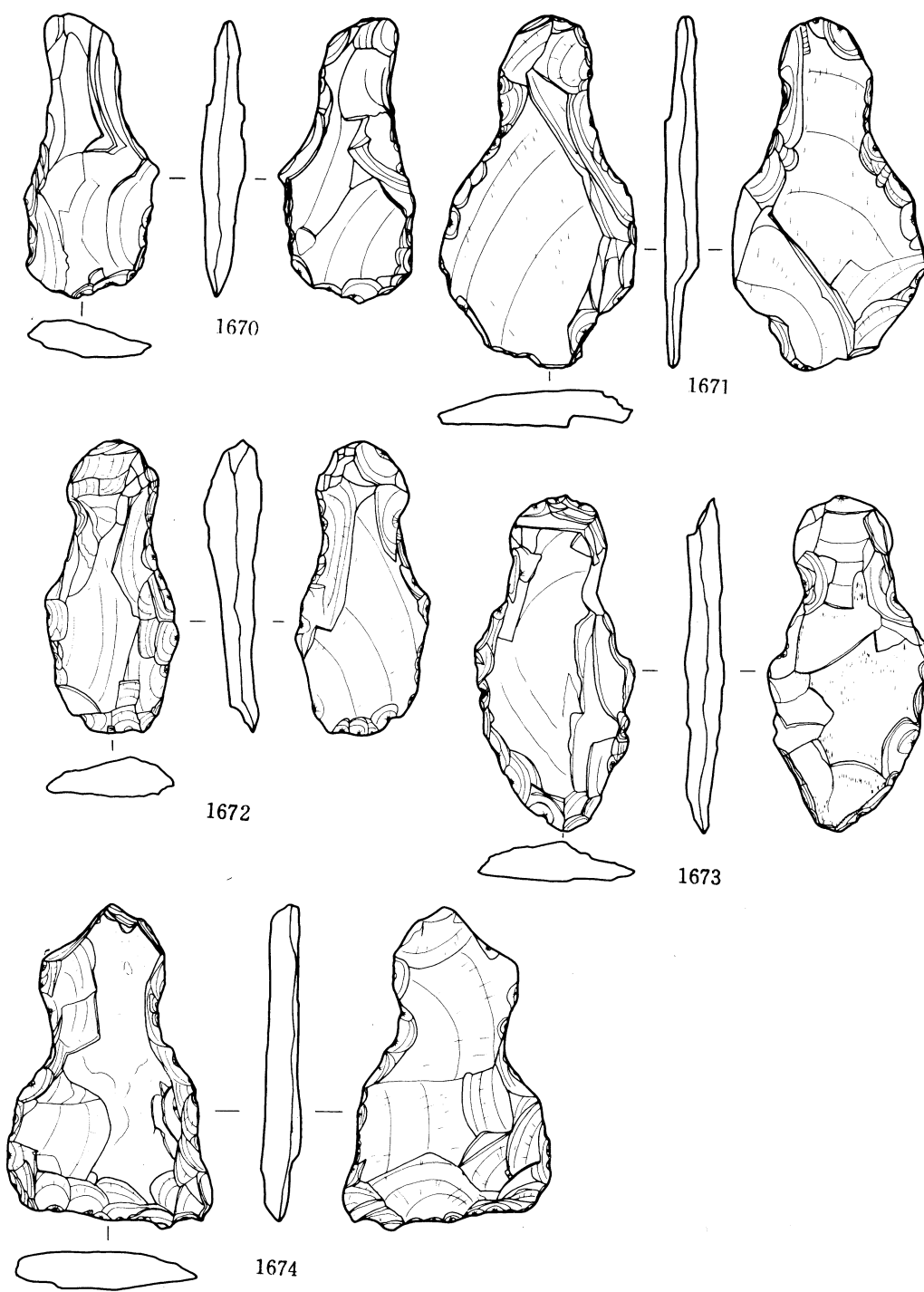
第142図 石器 (9) 打製石斧 5



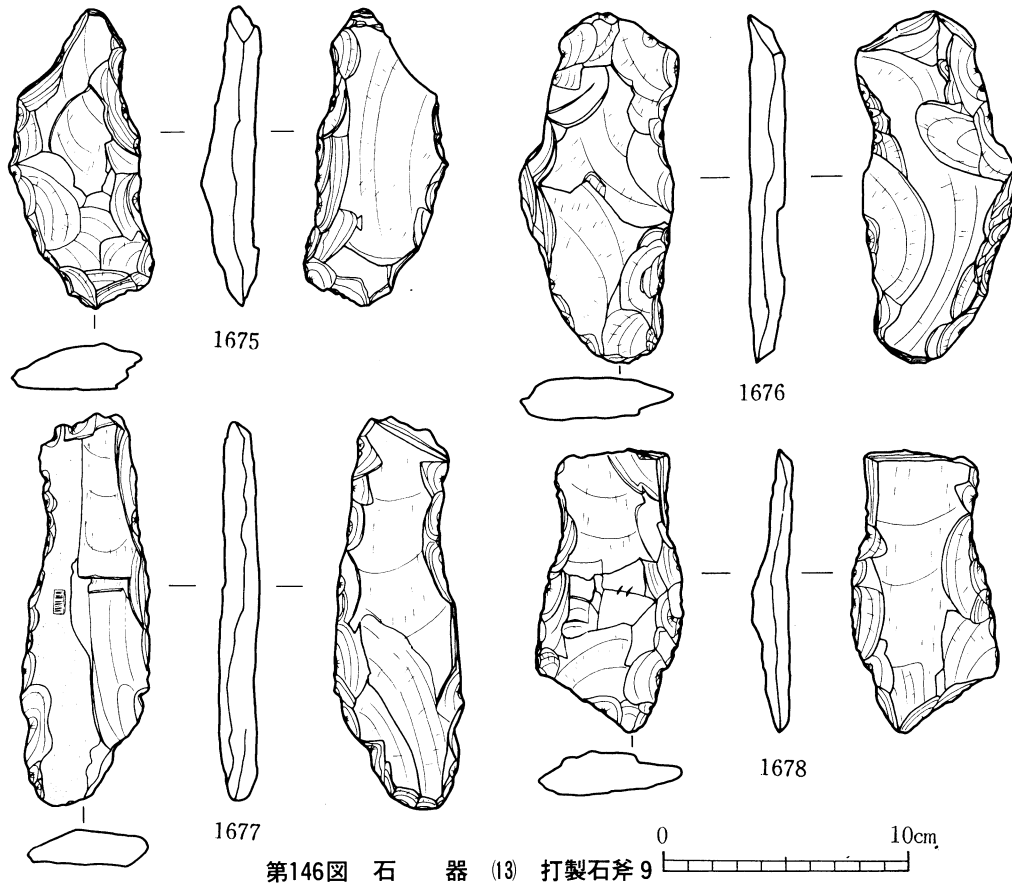
第143図 石 器 (10) 打製石斧 6



第144図 石器 (1) 打製石斧 7



第145図 石器 (2) 打製石斧 8



1692～1694は背部が平坦で刃部が尖っている隅丸長方形の形をしたものである。1696は楕円形をしたもので背部は平坦で刃部は尖っている。1595・1997～1700は半円形をしたもので1595は大形で後のものは小形である。また1595は研磨痕もみられる。刃部は尖っている。

(11) その他の打製石器 (第150図 1701～1711)

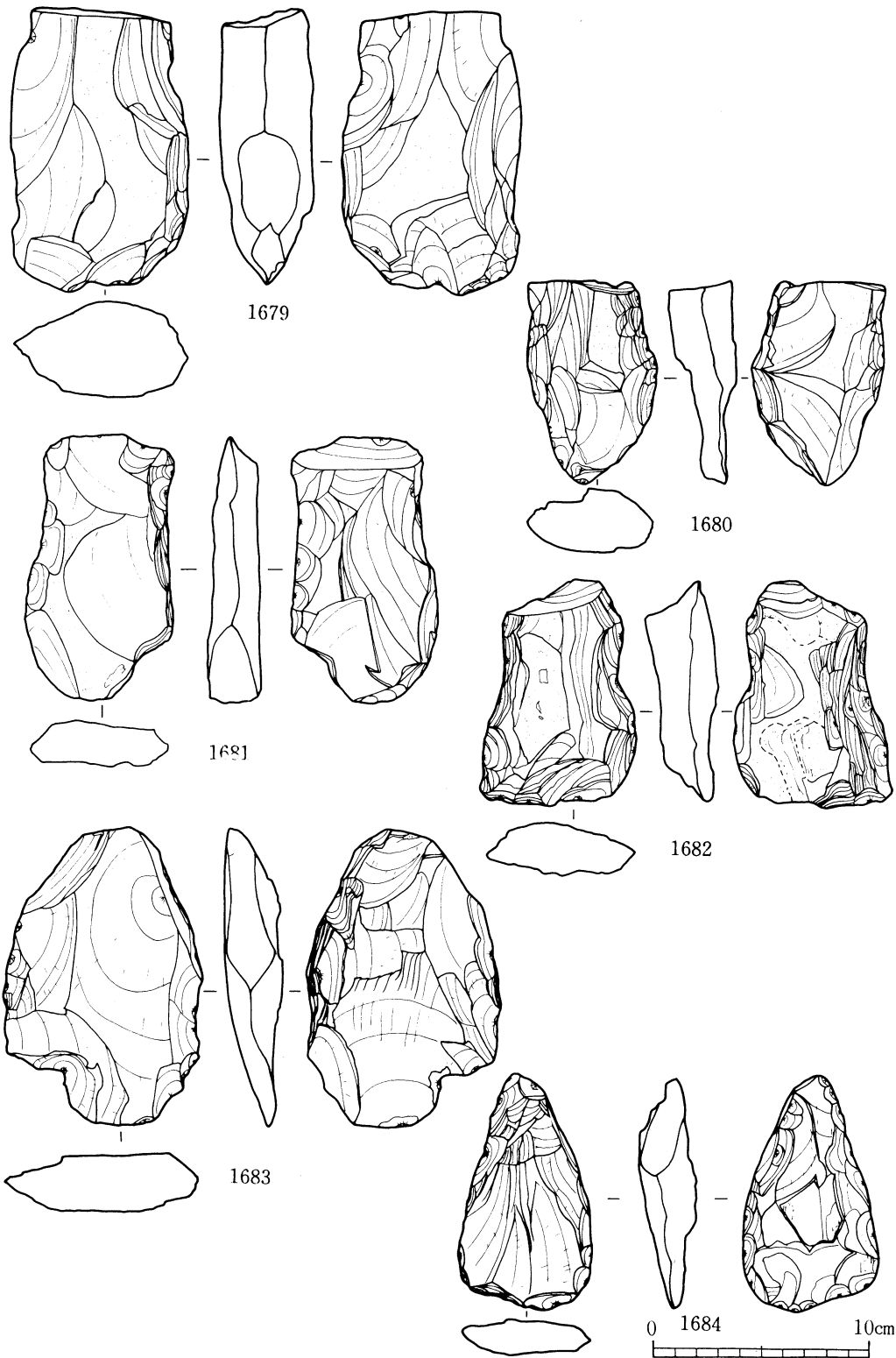
1701は薄手の剥片の頭に抉りを入れた湾曲した形の石器である。打製石斧の形をしているため、打製石斧の項に入ると思われるが、湾曲した部分に刃部と思われる部分があるので別に記載した。1702・1703は扁平な剥片に調整を加えたものである。1704は剥片の薄い部分に調整を加えたものでスクレーパーであろう。1705・1706も同じく剥片を利用したスクレーパーであろう。1707・1708は剥片を一部尖らして、ドリル的な要素をもつ石器として考えられる。1709・1710は剥片を利用したもので性格は不明。1711は、細長い片面に稜があり、厚味のある丁寧な調整をした石器である。形状は石剣に類似したもので製作途中で破棄したものと考えられる。石材は粘板岩である。

(12) 礫器 (第151図 1712～1715)

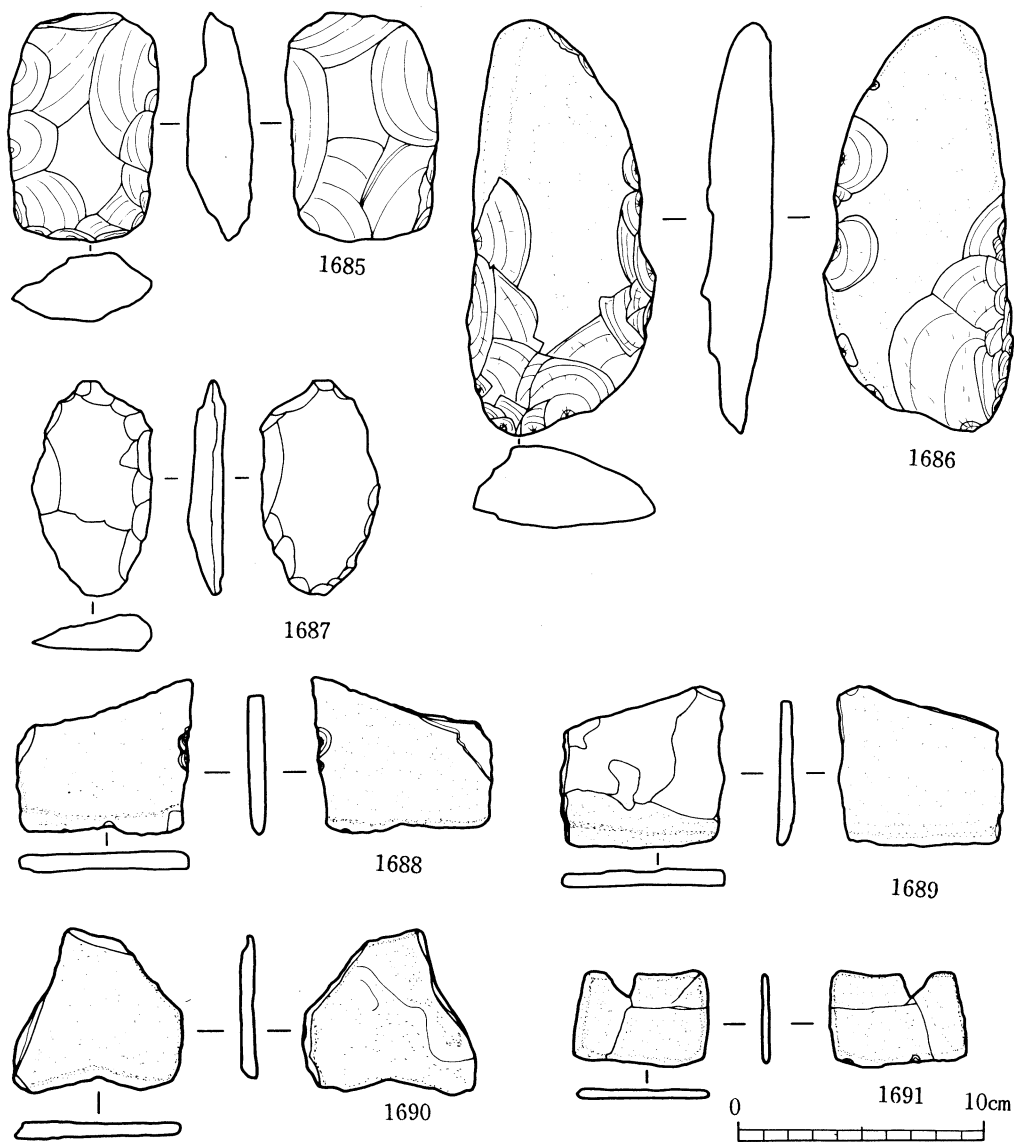
これらは円礫を剥いた礫器である。1712は両面、他は片面である。

(13) 砥石 (第152図 1716～1720, 第161図 1787～1790)

砥石は9点出土した。これらは砂石の礫に磨研の筋を入れたもので2本～7本の筋がみられ



第147図 石器 (14) 打製石斧10



第148図 石 器 (15) 打製石斧11・扁平状の石器

る。使用目的は、砥石として使用したと思われる。

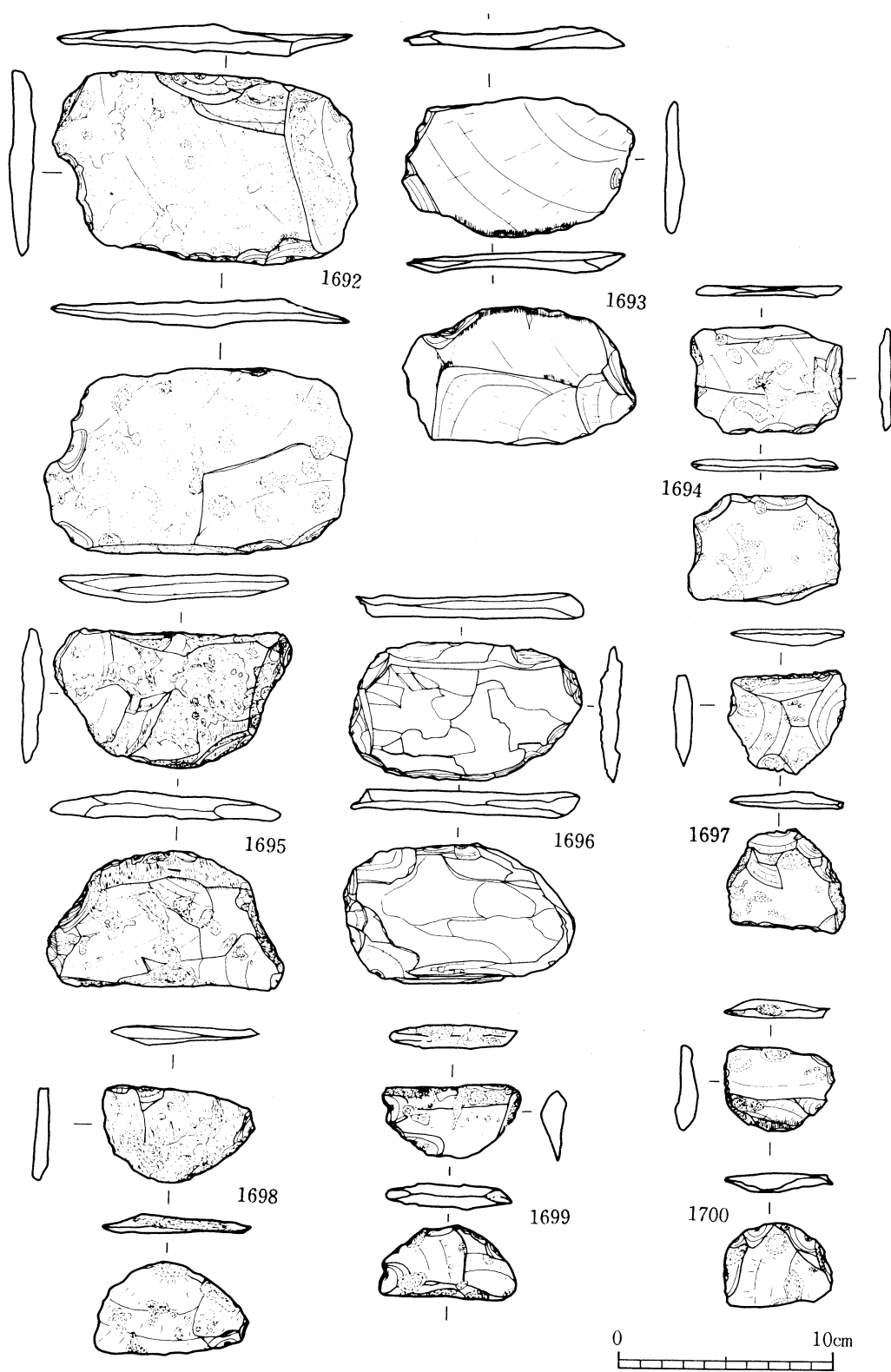
1787～1789は大形の砥石である。1787は使用面の広いもので砂岩である。1788は使用面が3面あり若干凹んで一面は筋状の凹がある砂岩である。1789は中央に細長い凹があり砂岩である。これは石皿に類似している。

(14) 軽石製加工品 (第153図 1721～1726)

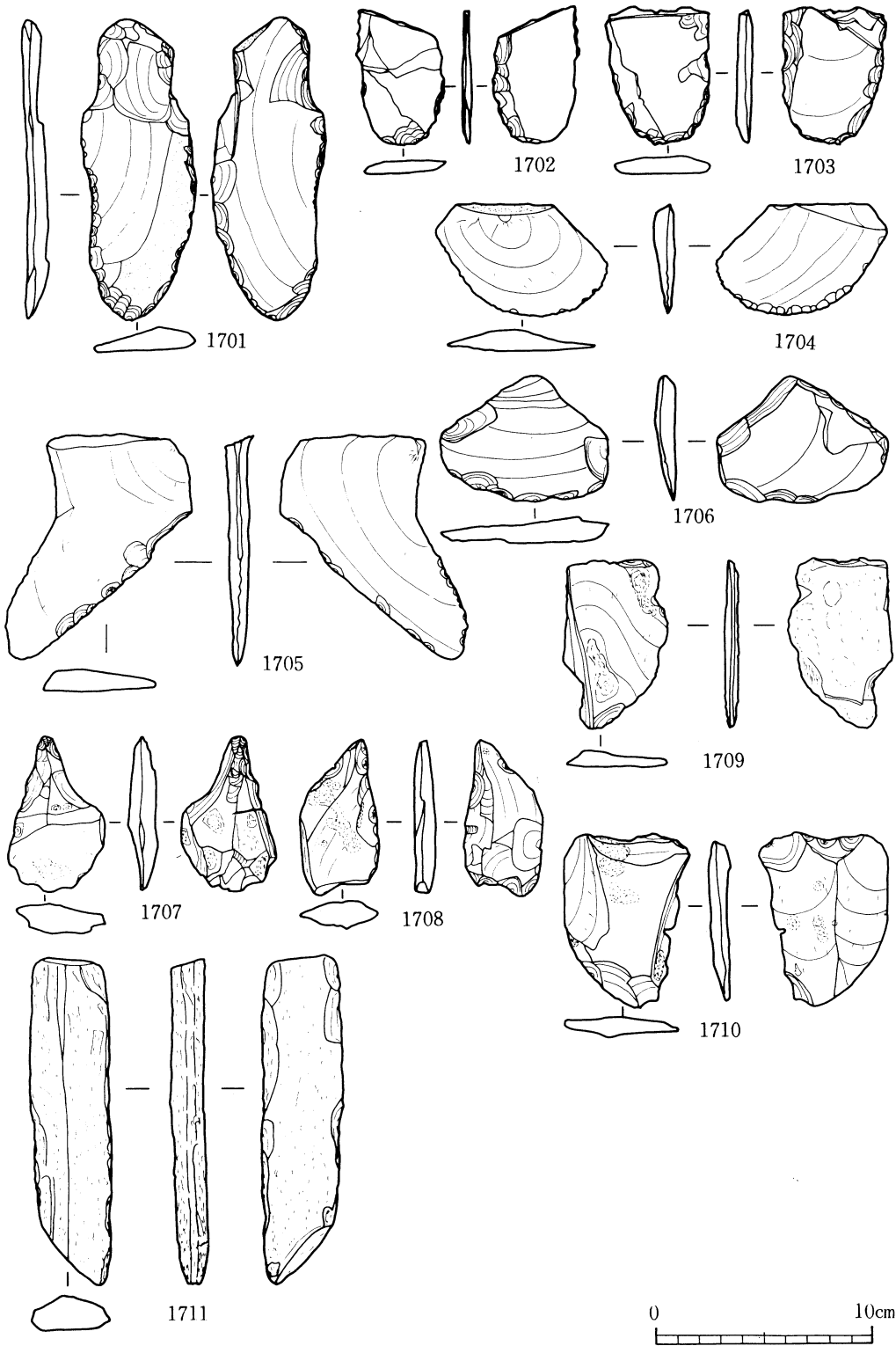
1721～1723は球状の軽石に筋状の加工痕がみられる。1724は両端が尖った扁平なものである。1726は扁平な軽石に抉り込みがみられる。これらの加工品の性格は不明である。

(15) 凹石・敲石・磨石 (第154図～第158図 1727～1780)

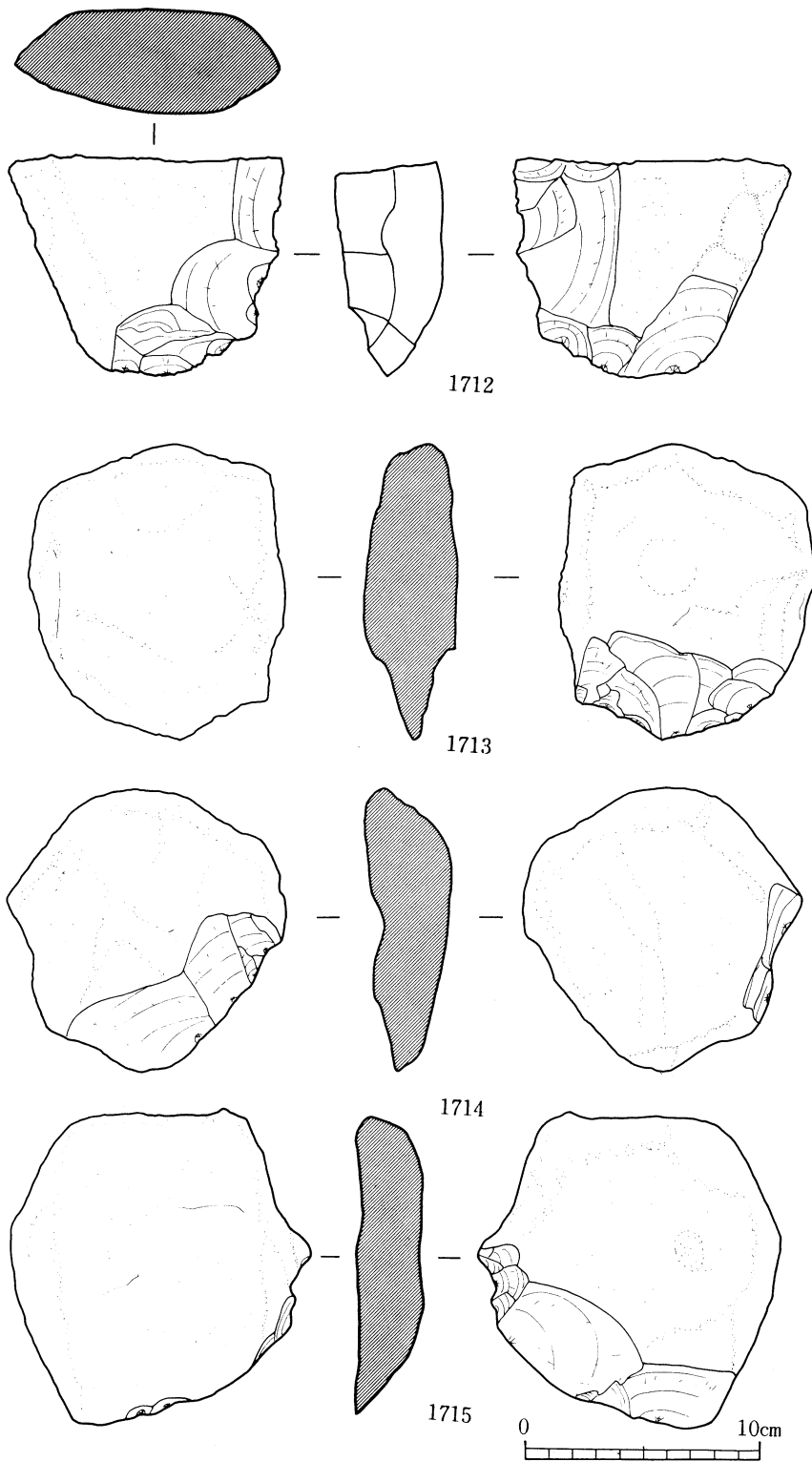
大形のもの小形のもの446点出土している。大形には凹石があるが小形にはない。磨石・敲



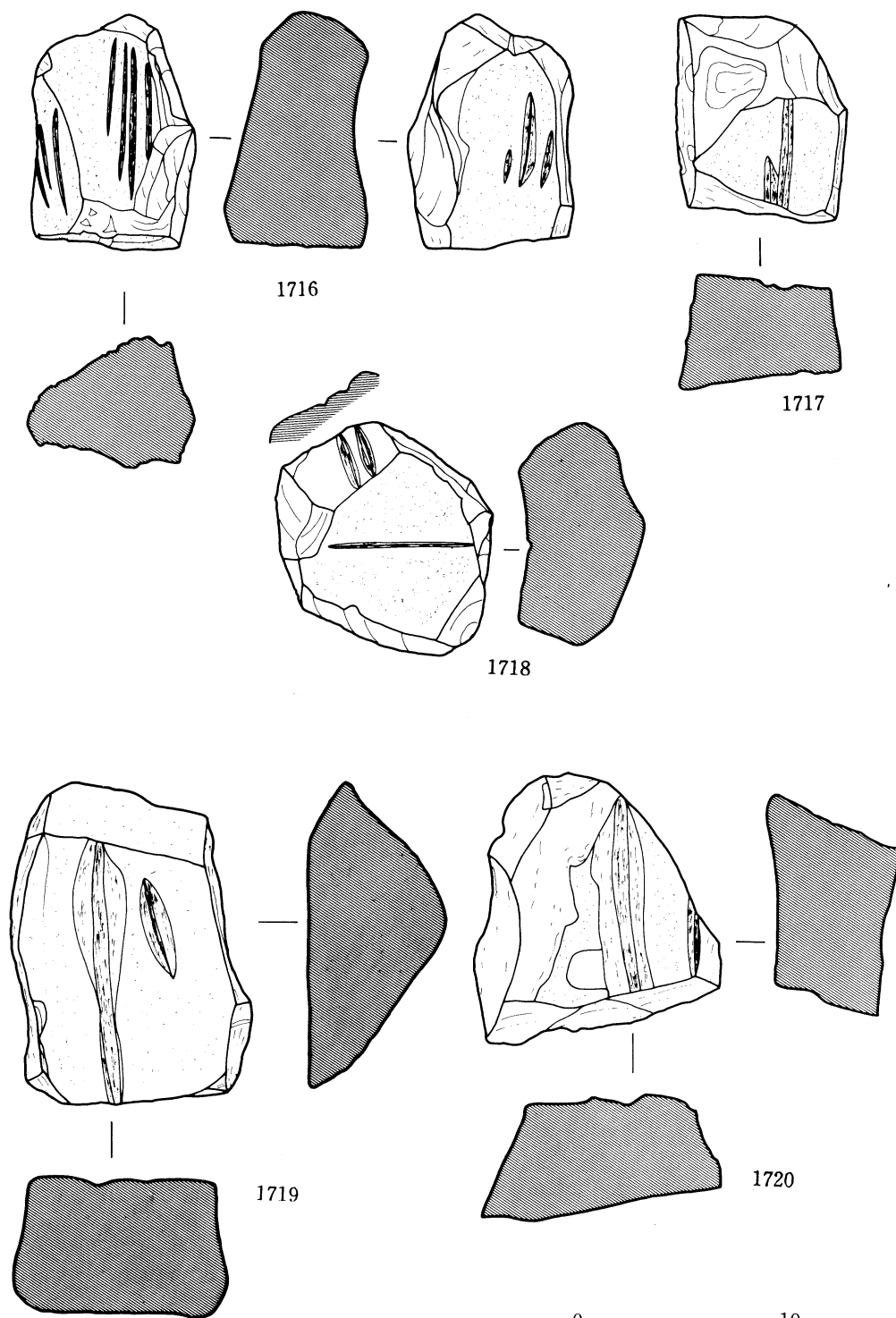
第149図 石器 (16) 打製石包丁状石器



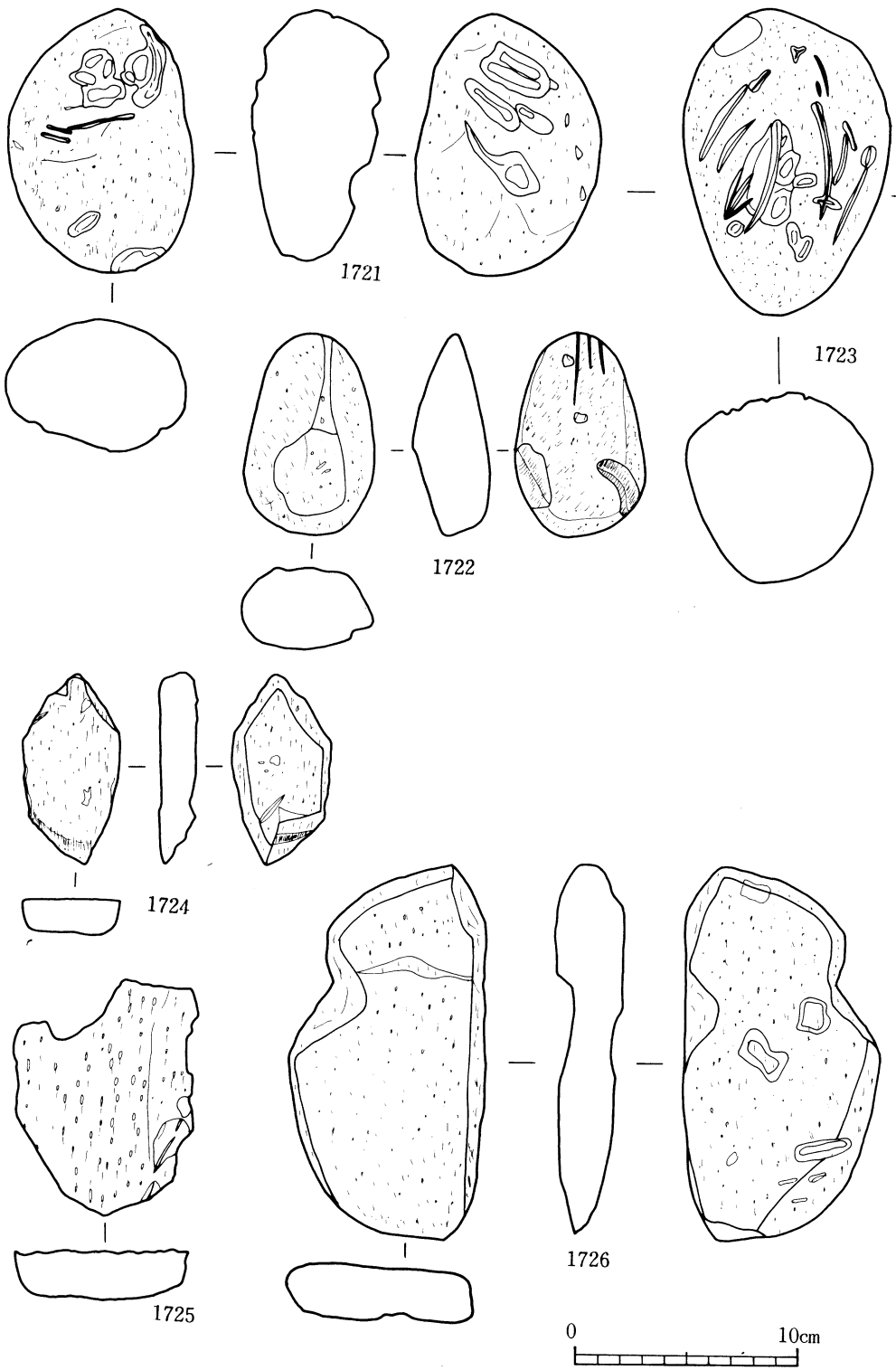
第150図 石器 (17) その他の打製石器



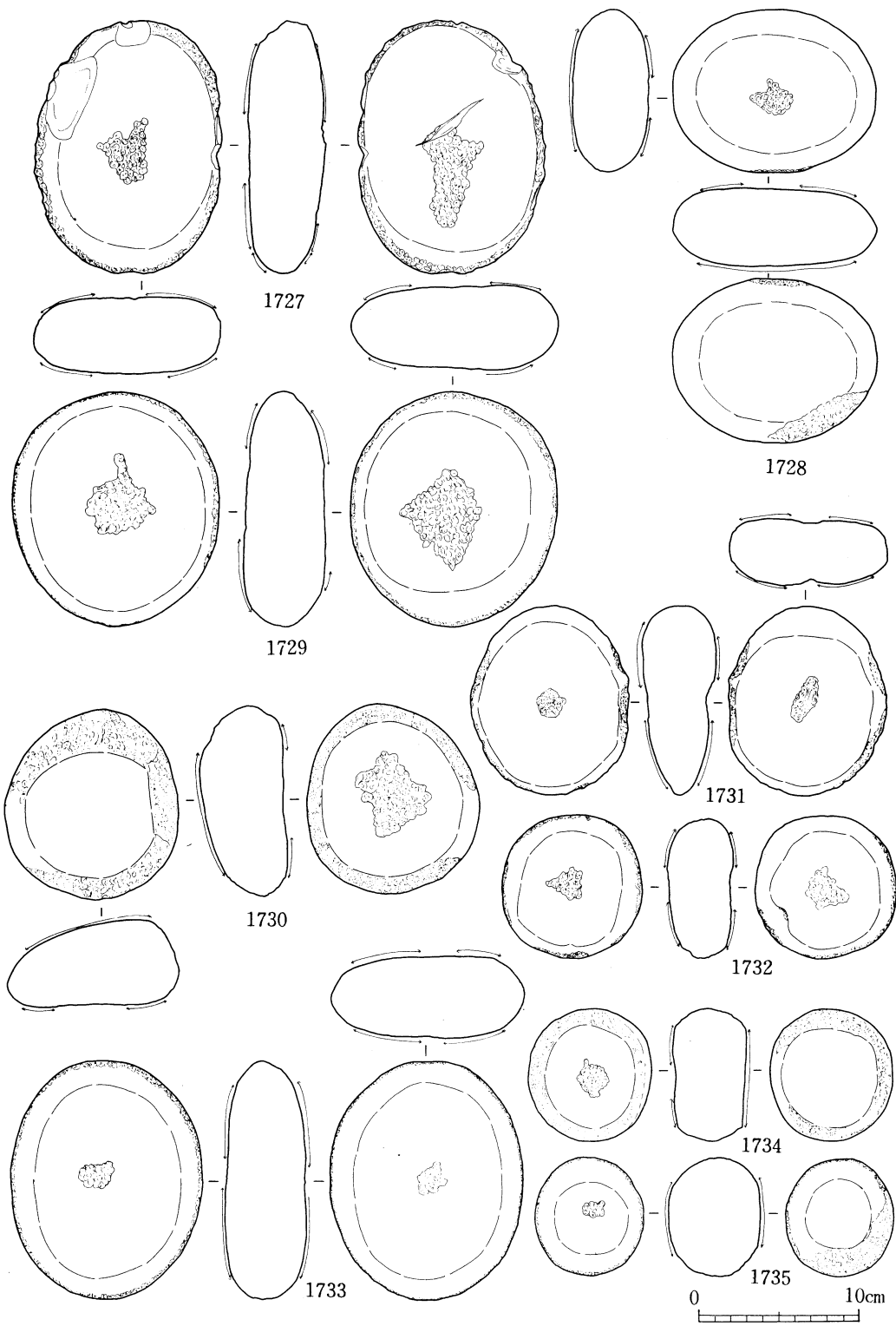
第151図 石 器 (18) 磔 器



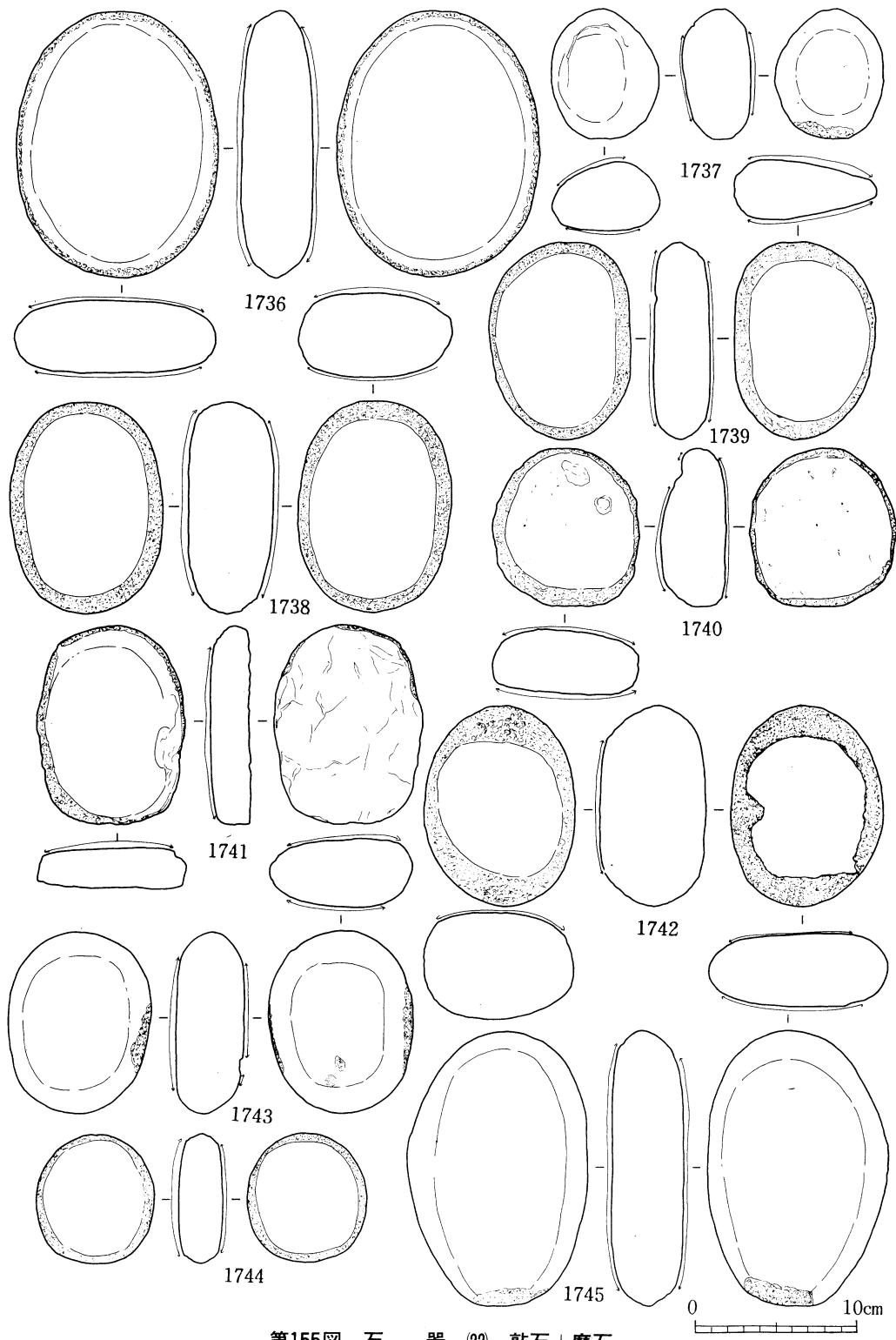
第152図 石器 (19) 砥石



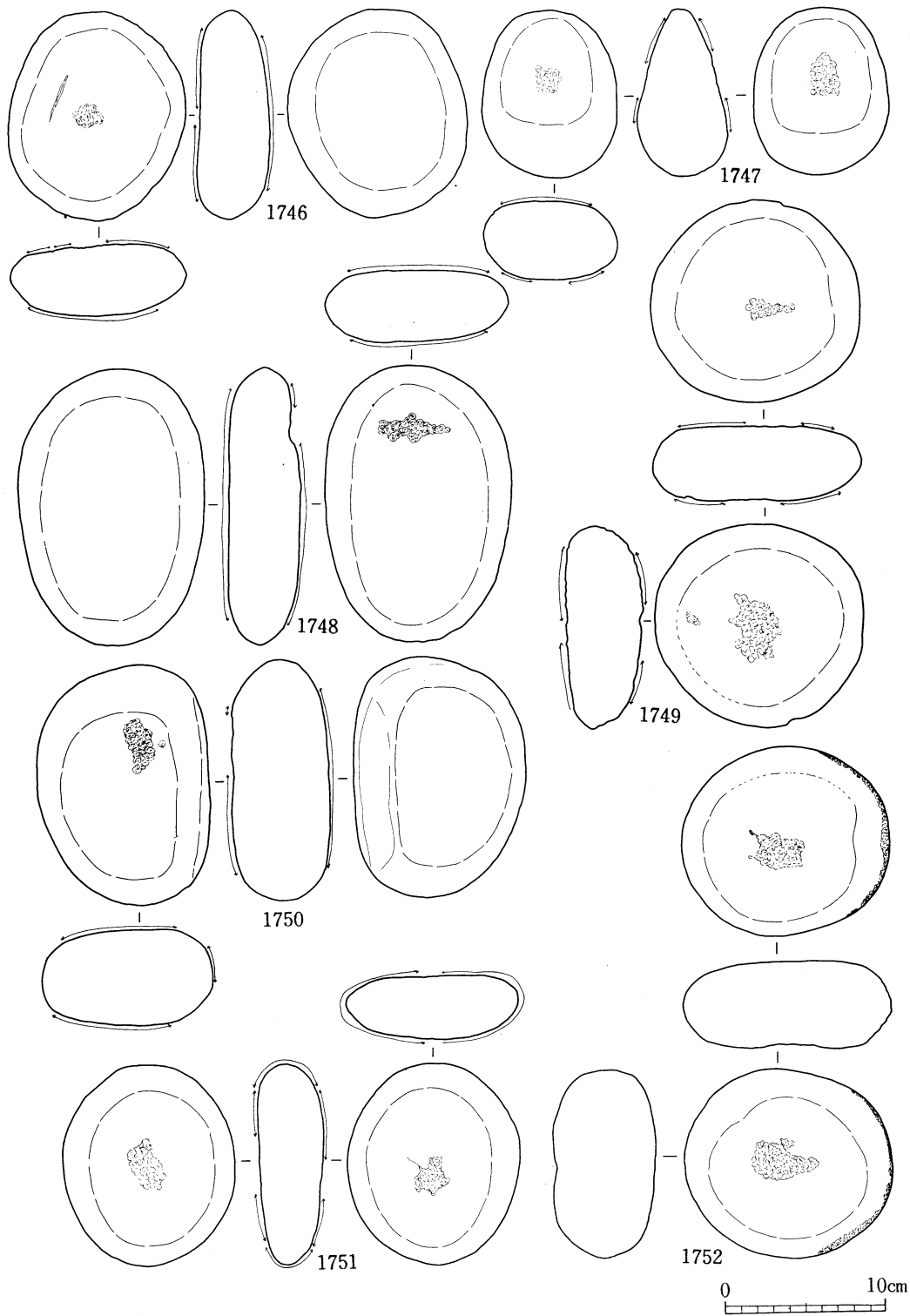
第153図 石器 (20) 軽石製加工品



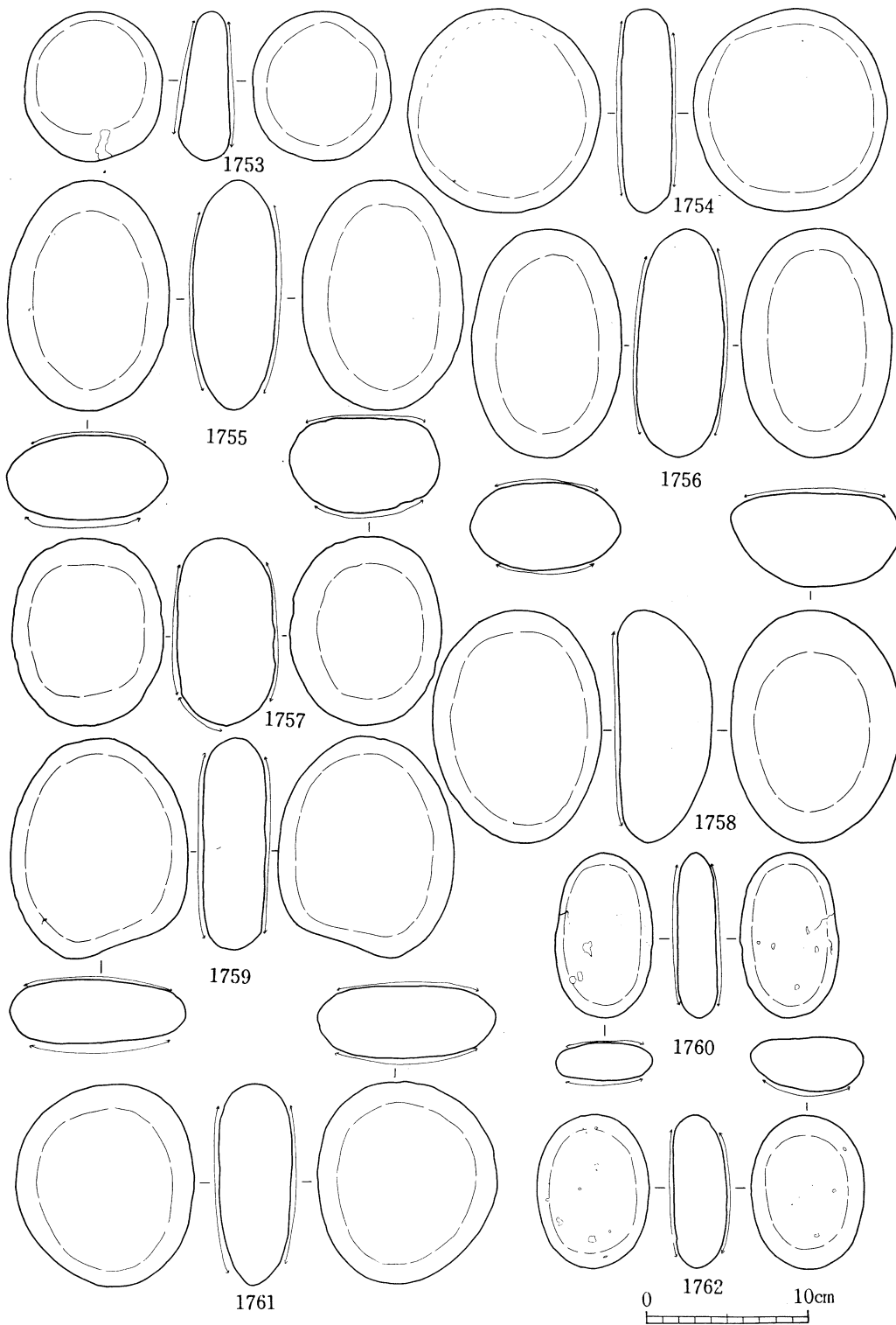
第154図 石器 (2) 凹石・磨石・敲石



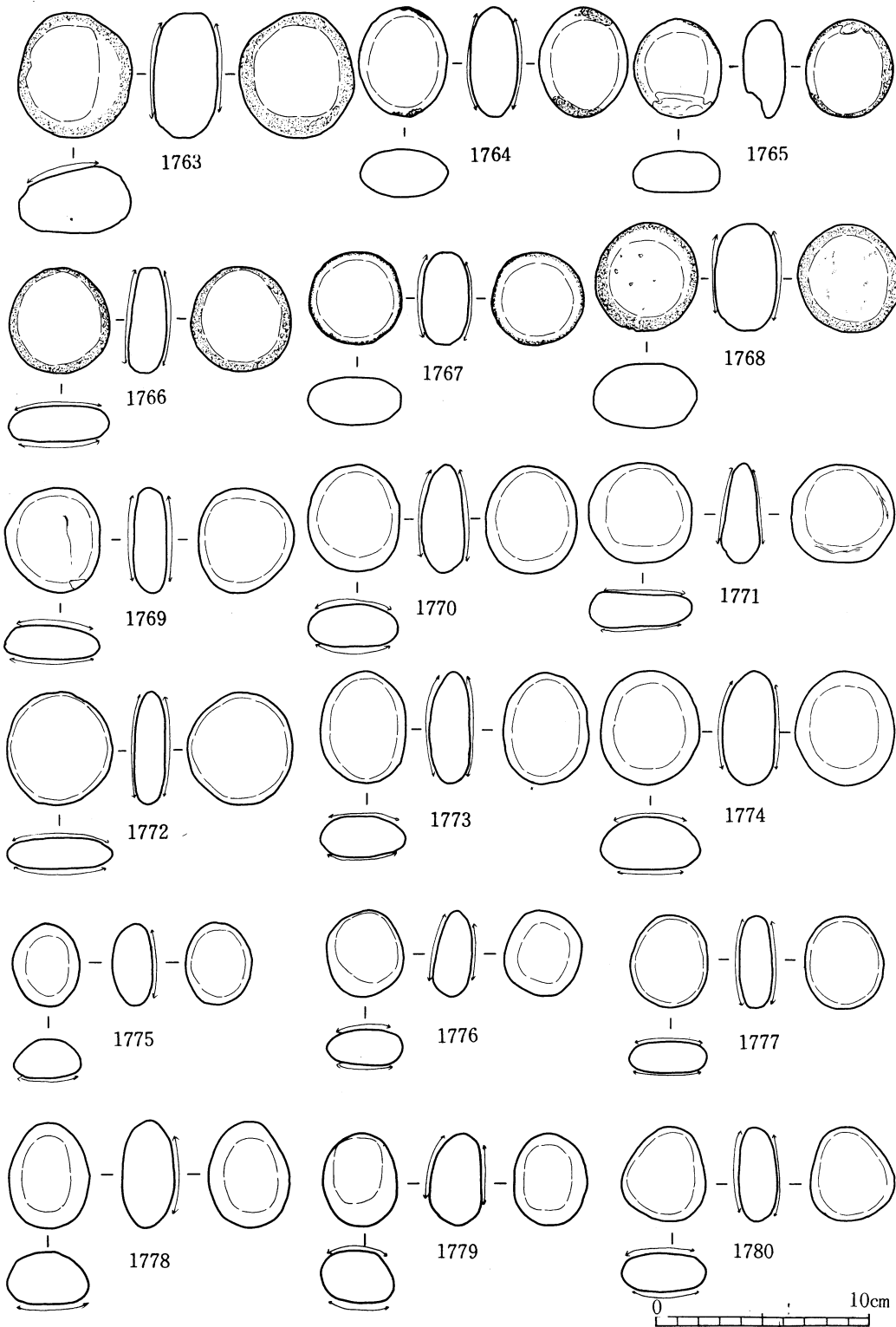
第155図 石器 (2) 敲石+磨石



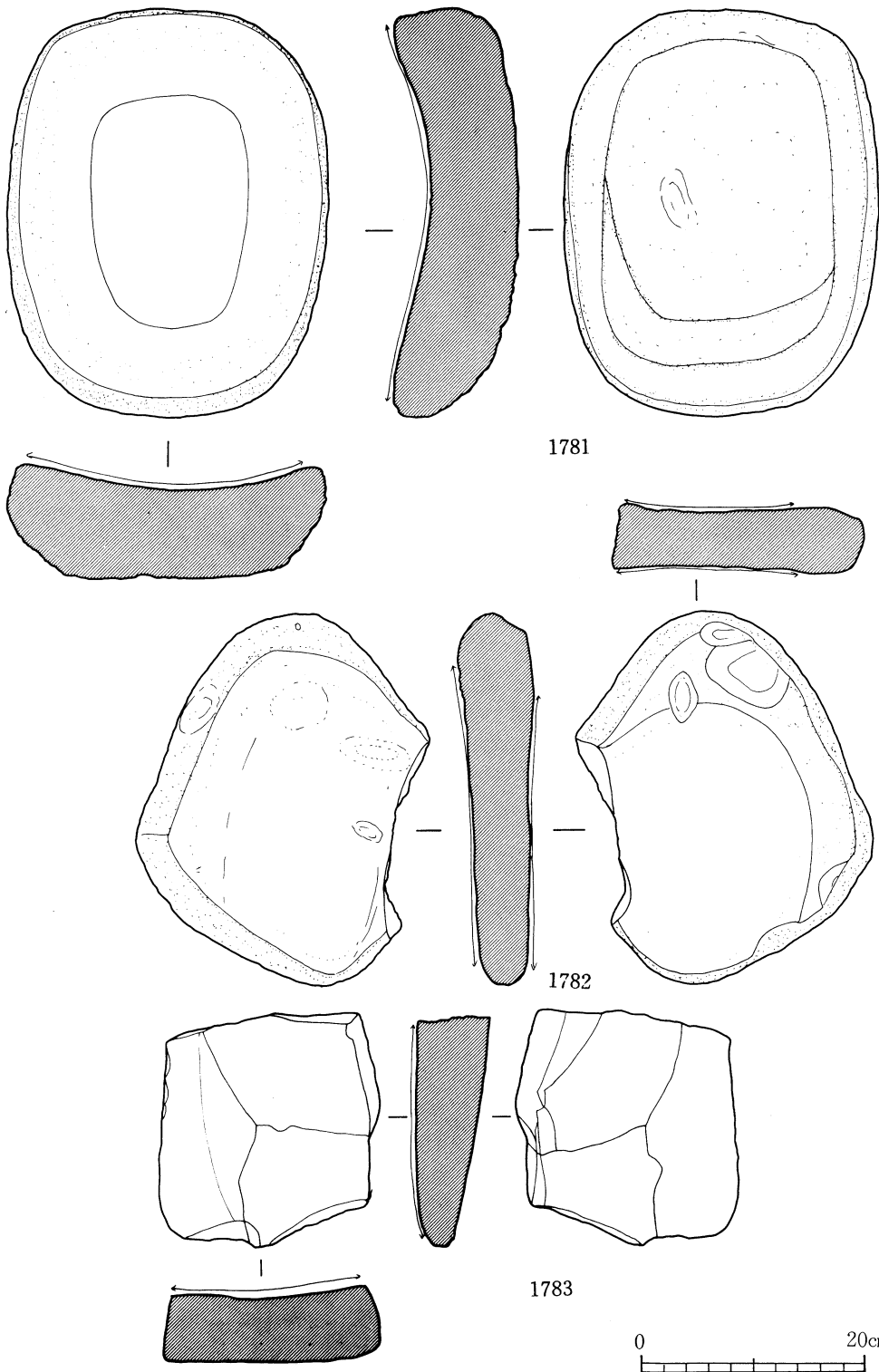
第156図 石器 (23) 凹石+磨石



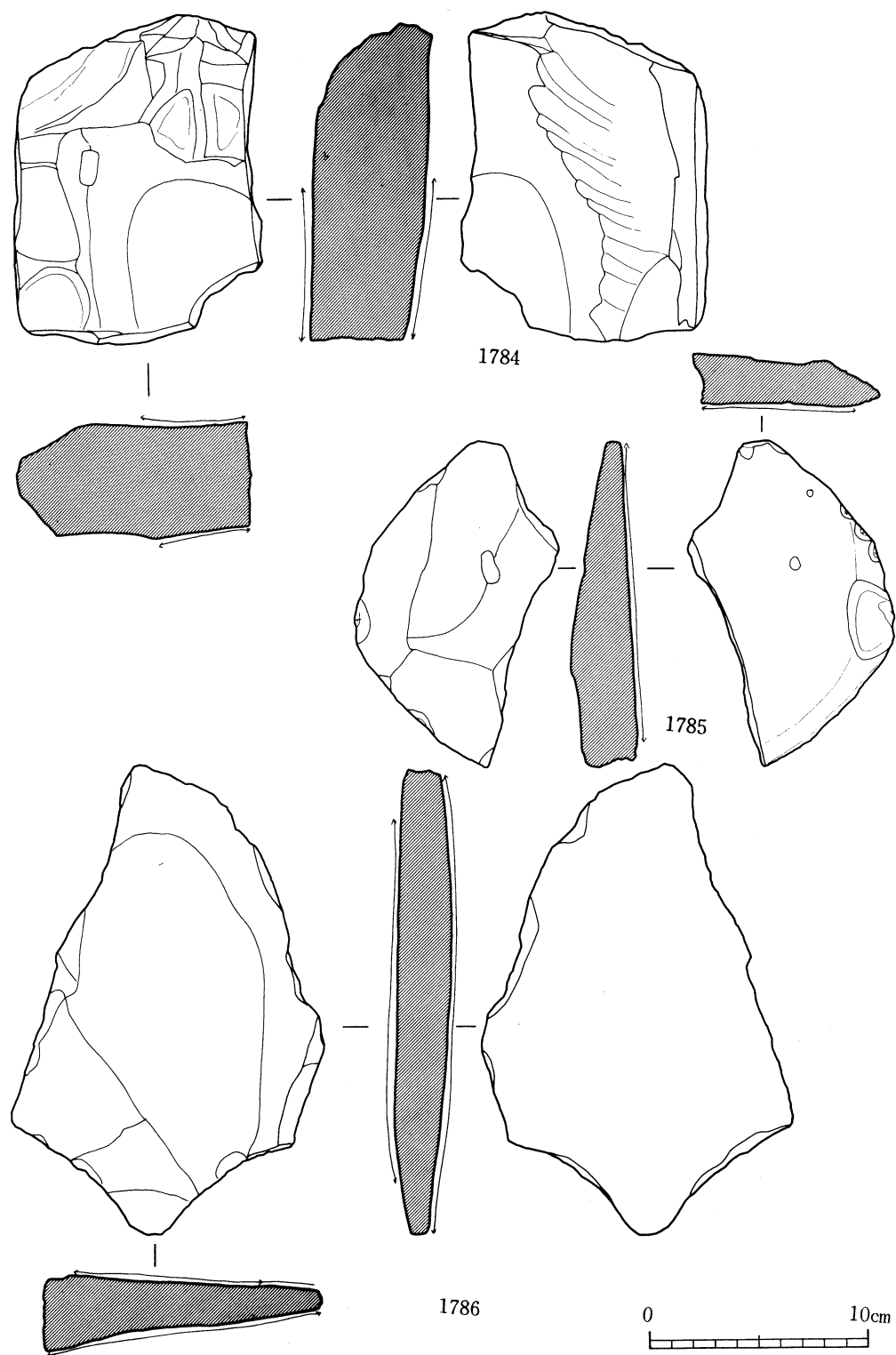
第157図 石器 (24) 磨石



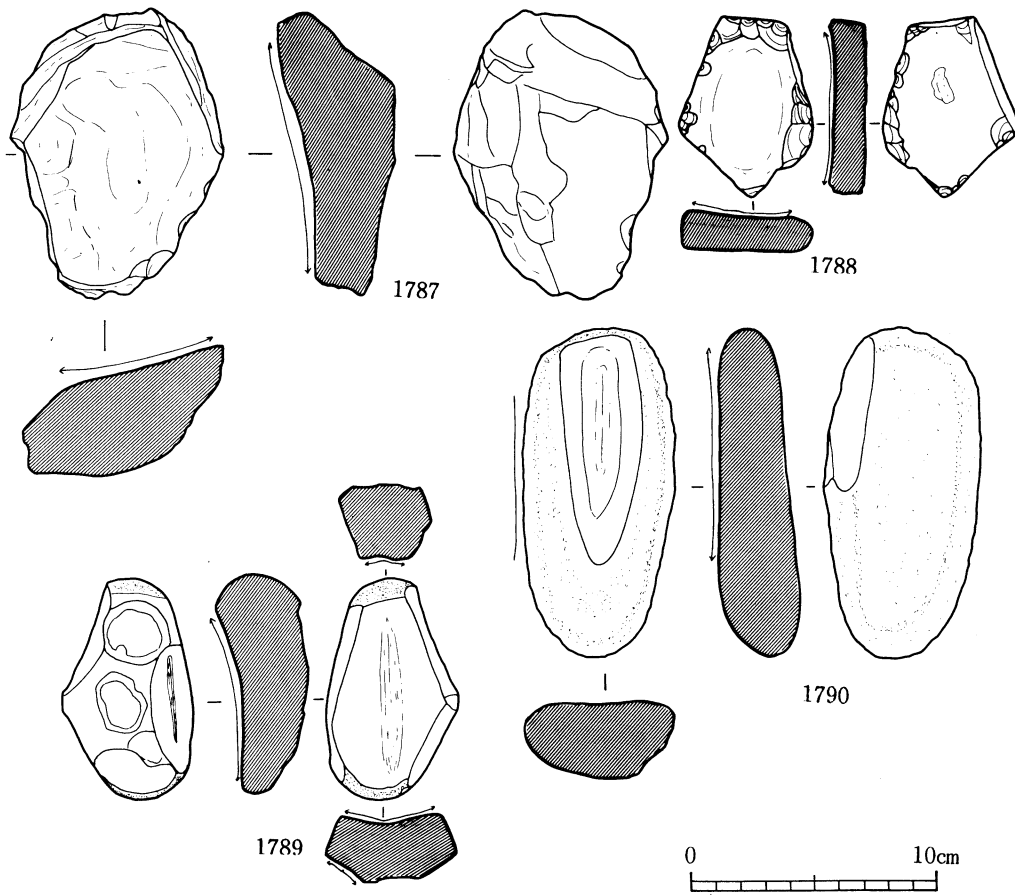
第158図 石器 (25) 小形敲石と磨石



第159図 石器 (26) 石皿 1



第160図 石器 (27) 石皿2



第161図 石 器 (28) 大形砥石

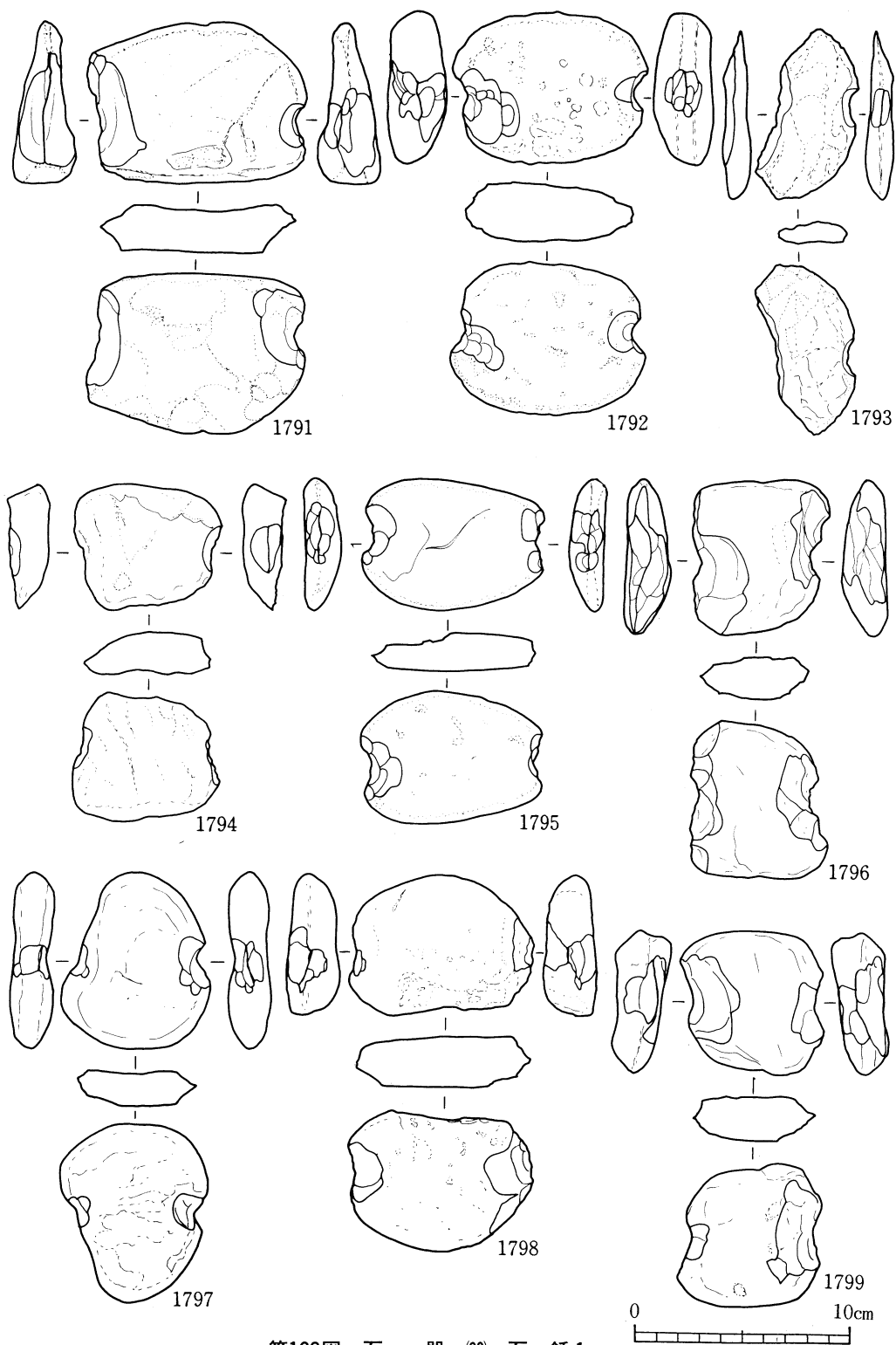
石は両方ともある。

(16) 石 皿 (第159図・第160図 1781~1786)

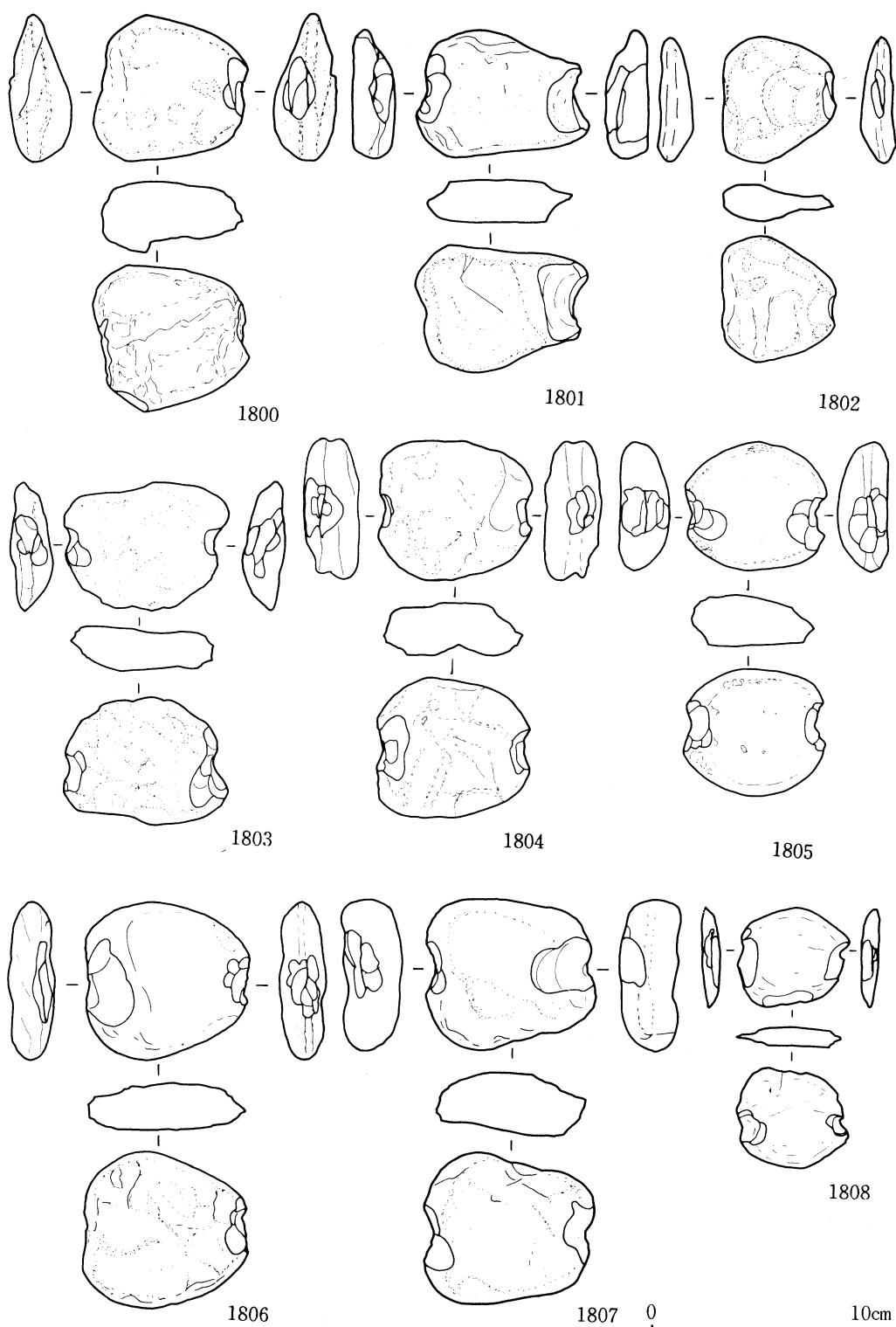
石皿は楕円形の石を使用しているもの1781・1782と角石を使用しているもの1783・1784・1787, 扁平な石を使用したもの1785・1786等がある。扁平なものは凹がなく平坦である。他のものは凹がある。石皿は101点出土した。

(17) 石 錘 (第162図~第164図 1791~1817)

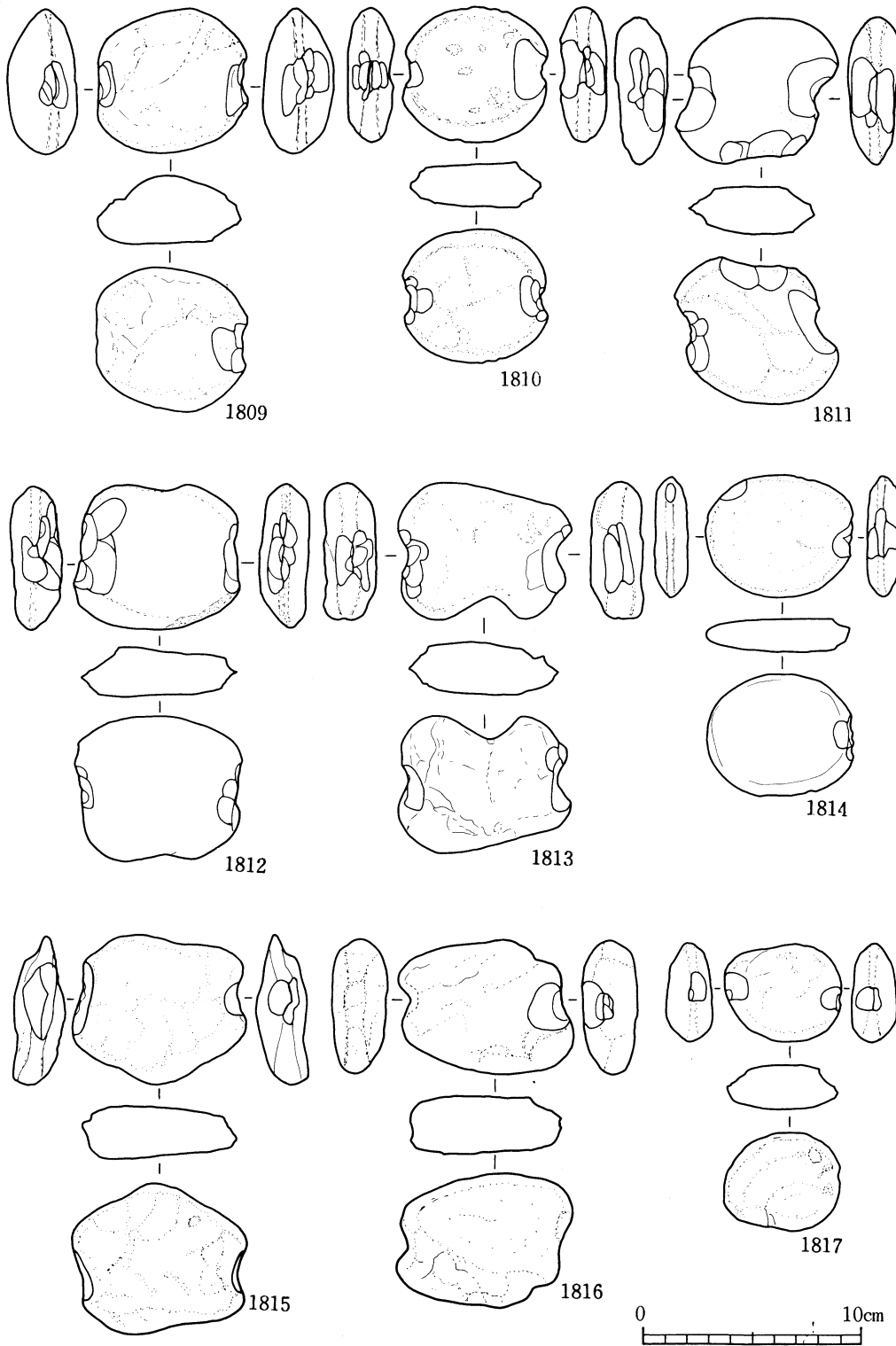
石錘は27点出土している。自然の扁平な円礫の両端を打ち欠いたもので5~8 cm程度のものがある。また片面だけ打ち欠いたものもある。



第162図 石器 (29) 石錘 1



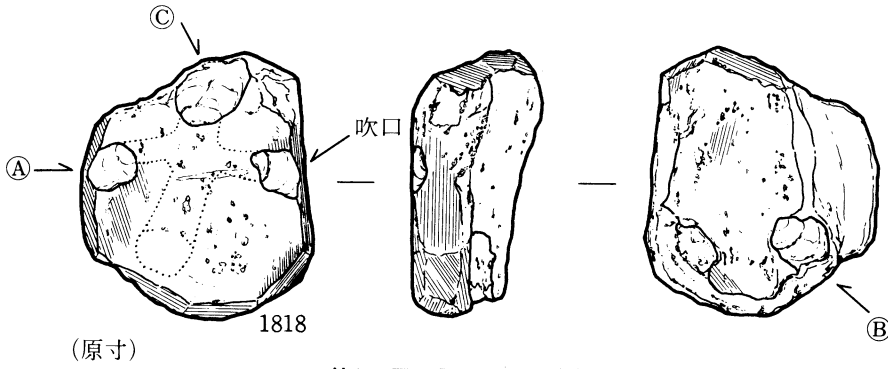
第163図 石 器 (30) 石 錘 2



第164図 石器 (3) 石 錘 3

(18) 特殊な石器 (第165図 1818)

1818は、砂岩を表材とするもので、内部で連結する4つの孔をもっている。側辺及び孔の周囲は、一部丁寧な研磨を行なっている。



第165図 石 器 (32)

(19) 榎木原遺跡出土の石笛状石器について (第165図 1818)

※ 奏法・音程

① 左手人差指にて操作

1	<ul style="list-style-type: none"> ① 全部しめる ② 〃 ③ 〃 	2	<ul style="list-style-type: none"> ① 少し開ける ② 全部しめる ③ 〃 	3	<ul style="list-style-type: none"> ① さらに少し開ける ② 全部しめる ③ 〃 	4	<ul style="list-style-type: none"> ① 全部開ける ② 全部しめる ③ 〃
---	---	---	---	---	--	---	---

8 va

② 左手親指にて操作

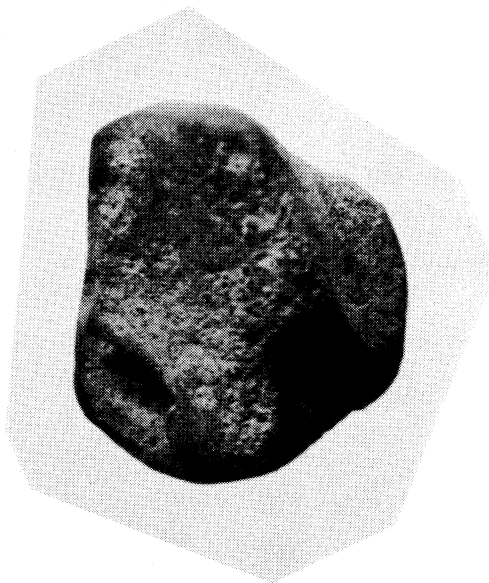
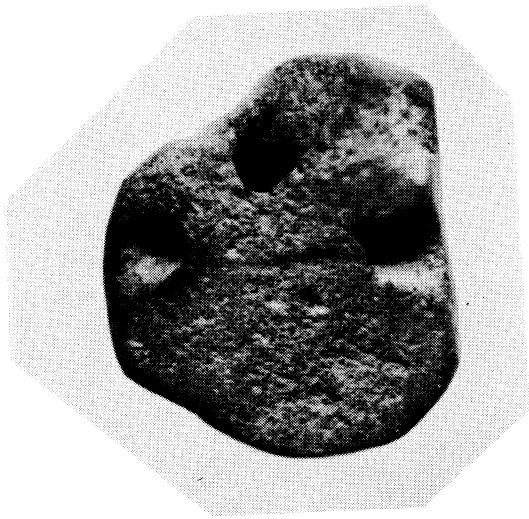
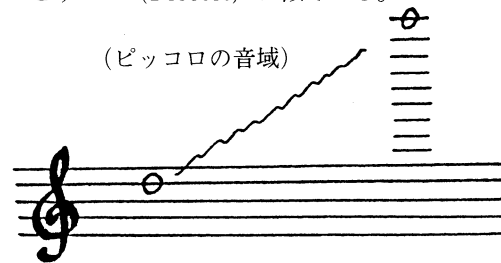
1	<ul style="list-style-type: none"> ① 全部しめる ② 少し開ける ③ 全部しめる
---	---

③ 右手人差指にて操作

※ 特徴

1. この音階はへ短調の
旋律短音階の1部とも
考えられる。(A-1,
B-1, A-3, A-4)

2. この音質・音量ともに吹奏楽器の
ピッコロ (Piccolo) に似ている。



第24表 榎木原遺跡出土石器観察表(1)

遺物番号	器種	出土区画	法量				石質	備考	遺物番号	器種	出土区画	法量				石質	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1559	石 鏃	C-5-V	1.5	1.3	0.3	0.6	ホルンフェルス	平基式	1627	打製石斧	C-3-V	11.3	4.9	1.1	105.5	頁岩	ホルンフェルス化
1560	"	B-3-V上	1.8	1.1	0.3	0.65	"	"	1628	"	D-4-V	12.6	6.2	1.7	175.0	"	"
1561	"	"	1.4	1.2	0.4	0.4	黒曜石	"	1629	"	C-4-V上	11.9	5.0	1.5	139.5	"	"
1562	"	D-4-V	1.2	1.4	0.3	0.55	ホルンフェルス	凹基式	1630	"	C-1-V	11.5	5.2	1.1	114.2	"	"
1563	"	B-2-V	1.8	1.2	0.3	0.55	黒曜石	五角形	1631	"	D-5-V	14.5	5.2	1.7	151.4	"	"
1564	"	B-5-V	1.3	1.4	0.4	0.55	ホルンフェルス	凹基式	1632	"	C-5-V	11.2	5.7	1.5	120.2	"	"
1565	"	C-3-V下	1.5	1.1	0.3	0.55	黒曜石	"	1633	"	C-5-V	10.5	6.5	1.4	133.5	"	ホルンフェルス化
1566	"	D-4-V上	1.6	0.9	0.2	0.3	"	"	1634	"	A-4-V	13.8	9.6	2.1	323.7	砂岩	"
1567	"	B-5-V上	1.5	0.9	0.3	0.35	ホルンフェルス	"	1635	"	C-5-V	10.9	6.6	1.8	195.3	頁岩	"
1568	"	D-6-V	2.0	1.7	0.3	1.04	黒曜石	"	1636	"	C-4-V	13.9	7.4	1.7	282.5	"	"
1569	"	A-5-V下	1.7	1.3	0.3	0.54	"	"	1637	"	C-3-V下	13.4	7.3	1.2	163.3	"	"
1570	"	C-3-V	2.2	1.3	0.3	0.68	"	"	1638	"	B-8-I	6.2	5.5	1.7	106.7	"	ホルンフェルス化
1571	"	C-6-表	1.2	1.1	0.2	0.25	"	"	1639	"	C-8-I	12.6	7.4	1.9	197.7	"	"
1572	"	B-3-V	1.4	0.8	0.3	0.25	ホルンフェルス	"	1640	"	B-3-V	14.7	7.7	2.2	353.5	"	"
1573	"	一般	1.9	1.3	0.4	1.05	黒曜石	"	1641	"	C-8-I	11.6	7.7	1.0	134.2	"	"
1574	"	B-4-V	3.0	0.9	0.3	1.15	ホルンフェルス	長身鏃	1642	"	D-5-V	14.1	7.5	2.0	227.2	"	"
1575	異形石器	D-4-V下	1.7	0.4	0.3	0.6	黒曜石	"	1643	"	B-2-V	11.3	6.0	1.5	148.7	"	"
1576	石 匙	C-5-V	5.0	1.9	0.6	65.4	ケイ岩	"	1644	"	C-9-I	12.0	6.5	1.7	184.7	"	ホルンフェルス化
1577	"	C-2-V上	2.9	3.6	0.3	4.8	ホルンフェルス	"	1645	"	B-8-I	12.5	6.9	1.5	169.7	"	"
1578	"	C-8-I	4.6	4.1	1.6	23.8	"	"	1646	"	B-8-I	11.5	6.5	1.8	173.0	"	"
1579	円孔のある石器	D-5-V	3.6	2.8	0.9	13.2	砂岩	"	1647	"	C-5-V	13.6	7.1	1.2	177.2	"	"
1580	円盤状の石器	D-4-V	3.3	3.7	0.8	14.78	砂岩	"	1648	"	D-2-V上	11.8	6.9	1.0	112.0	ホルンフェルス	"
1581	研磨された石片	D-1-V	2.9	4.1	0.9	14.45	頁岩	ホルンフェルス化	1649	"	B-4-V	12.5	5.7	1.0	125.0	頁岩	"
1582	"	D-3-V	7.7	2.4	1.3	22.0	砂岩	"	1650	"	D-3-V	10.9	5.6	1.3	109.8	"	ホルンフェルス化
1583	磨製石斧	C-5-V	17.1	6.2	3.8	641.0	"	"	1651	"	D-5-V	10.0	8.1	1.1	136.2	"	"
1584	"	C-5-V	7.7	4.8	3.1	160.0	"	"	1652	"	B-5-V	7.3	8.6	0.8	80.2	"	"
1585	"	C-3-V	10.3	3.6	2.1	130.5	ホルンフェルス	"	1653	"	C-4-V上	9.2	7.4	1.0	97.5	"	"
1586	"	C-7-V	12.7	6.2	3.9	430.5	"	"	1654	"	D-4-V	11.7	7.2	1.0	122.5	"	"
1587	"	C-3-V	9.6	4.4	2.6	172.7	"	"	1655	"	D-5-V	8.3	6.2	1.3	107.2	"	"
1588	"	C-3-V	15.2	8.1	4.0	851.5	"	"	1656	"	D-2-V	20.5	9.3	1.5	436.2	"	ホルンフェルス化
1589	"	C-3-V	12.0	6.7	2.3	348.7	輝綠岩	"	1657	"	B-3-V上	9.1	6.1	0.9	50.2	"	"
1590	"	C-3-V上	6.5	6.3	2.5	172.7	"	凝灰質	1658	"	"	15.5	8.3	1.8	296.2	"	ホルンフェルス化
1591	"	D-4-表	4.5	6.3	1.1	36.8	頁岩	ホルンフェルス化	1659	"	B-5-V	14.9	8.7	1.2	212.0	"	"
1592	"	C-3-V下	9.5	4.6	1.7	116.2	"	"	1660	"	"	13.9	8.9	1.4	212.8	"	"
1593	"	C-2-V	7.8	5.1	1.4	93.0	砂岩	"	1661	"	D-2-V	11.1	7.0	1.6	152.3	"	"
1594	"	C-8-I	8.6	4.9	1.7	85.5	"	"	1662	"	B-0	11.1	6.5	0.7	88.1	"	"
1595	"	C-4-V	7.8	2.8	1.6	60.8	"	"	1663	"	B-3-V下	9.9	7.6	1.5	112.3	"	"
1596	"	B-2-V	7.0	2.2	0.7	20.5	頁岩	"	1664	"	"	10.5	7.4	1.7	149.2	"	"
1597	"	C-2-V下	6.6	2.7	0.9	30.0	"	"	1665	"	C-3-V	10.3	7.4	0.8	81.5	"	"
1598	"	D-2-V上	8.9	3.8	1.6	80.0	砂岩	ホルンフェルス化	1666	"	土 4-4	13.3	7.2	1.2	135.5	"	ホルンフェルス化
1599	"	B-5-V	10.7	5.6	1.2	117.5	"	"	1667	"	D-2-V	10.2	6.5	1.0	81.5	"	"
1600	"	C-3-V上	11.7	5.9	2.3	212.8	"	"	1668	"	D-4-V	9.1	6.1	1.0	76.7	"	"
1601	"	C-2-V	8.4	3.2	1.3	52.3	"	"	1669	"	表 探	12.8	6.1	1.8	130.2	"	"
1602	"	C-5-V	9.5	4.4	1.6	91.0	頁岩	"	1670	"	D-5-V	12.8	5.5	2.0	127.5	"	"
1603	"	C-7-中	7.9	3.2	1.2	40.7	"	"	1671	"	B-0	15.9	8.8	1.5	234.5	"	"
1604	"	C-2-V	5.2	2.6	0.9	20.5	砂岩	ホルンフェルス化	1672	"	C-4-V	13.2	5.9	1.9	178.8	砂岩	"
1605	"	C-2-V下	3.3	2.3	0.8	9.5	頁岩	"	1673	"	B-5-V下	15.2	7.1	1.8	216.5	頁岩	"
1606	"	D-9-V	11.8	2.6	0.9	47.3	粘板岩	"	1674	"	C-5-V	14.4	9.0	1.6	239.5	"	"
1607	"	C-2-V上	12.0	3.1	2.1	118.8	砂岩	"	1675	"	D-5-V	12.2	5.4	2.2	147.5	"	"
1608	"	C-2-V	9.8	3.3	1.5	82.0	頁岩	"	1676	"	"	14.2	6.3	1.4	189.5	"	"
1609	"	土 4-3	10.4	5.0	1.2	78.2	粘板岩	"	1677	"	"	15.4	5.1	1.5	164.1	"	"
1610	"	A-4-V	11.5	7.7	2.5	237.5	頁岩	"	1678	"	B-8-I	11.6	5.8	1.5	115.5	"	"
1611	"	D-8 土手	10.4	6.2	1.4	101.0	"	"	1679	"	D-3-V	12.8	8.3	4.3	656.8	"	"
1612	"	D-4-V	6.1	5.9	1.4	45.8	"	"	1680	"	D-4-V	9.4	6.1	2.8	194.5	"	"
1613	"	C-5-V上	6.4	5.0	1.1	46.5	"	"	1681	"	B-2-V上	12.3	6.9	2.3	284.5	"	"
1614	"	D-4-V	5.7	4.3	1.2	45.7	ホルンフェルス	"	1682	"	C-4-V	10.3	7.1	2.8	240.2	"	"
1615	"	B-8-I	6.9	4.7	1.3	47.0	頁岩	"	1683	"	C-2-V	13.9	9.1	2.7	428.0	"	ホルンフェルス化
1616	"	C-4-V下	9.7	2.8	1.1	48.8	ホルンフェルス	"	1684	"	B-4-V上	10.7	6.2	2.6	178.0	"	"
1617	"	E-11-中	5.9	4.5	1.2	36.2	頁岩	"	1685	"	D-2-V上	9.4	5.9	2.7	192.8	"	"
1618	打製石斧	D-5	12.5	5.2	1.6	164.8	"	ホルンフェルス化	1686	"	B-4-V上	17.1	7.5	2.5	487.5	"	"
1619	"	B-5-V	13.7	5.6	1.9	221.8	"	"	1687	"	B-8-I	8.8	4.7	1.4	78.5	"	"
1620	"	C-2-V	10.8	4.7	1.1	117.5	"	"	1688	"	B-4-V	6.4	7.0	0.7	45.8	砂岩	"
1621	"	D-3-V上	13.0	5.4	1.4	159.0	"	"	1689	"	D-2-V	6.6	6.7	0.5	47.2	"	"
1622	"	D-9-V	12.4	5.7	1.3	138.8	"	"	1690	"	D-4-V	6.4	6.8	0.6	40.5	"	"
1623	"	D-8-表	10.8	4.6	1.5	119.5	"	ホルンフェルス化	1691	"	B-4-V	3.7	5.4	0.3	12.2	"	"
1624	"	D-4-V上	13.0	5.5	1.6	168.7	"	"	1692	打製石包丁状石器	D-6-V	8.9	14.0	1.2	185.8	頁岩	"
1625	"	D-4-V	11.4	4.8	1.6	109.3	"	"	1693	"	C-3-V	6.5	10.4	0.9	79.5	粘板岩	"
1626	"	B-5-V	13.0	5.9	1.4	147.7	"	"	1694	"	C-2-V	5.0	6.8	0.5	31.5	頁岩	"

第25表 榎木原遺跡出土石器観察表(2)

遺物 番号	器 種	出土区層	法 量				石 質	備 考	遺物 番号	器 種	出土区層	法 量				石 質	備 考
			長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重さ(㍉)						長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重さ(㍉)		
1695	打製石包丁状石器	B-3-V	6.5	10.9	1.2	99.8	頁岩		1763	〃	D-5-V	5.9	5.3	3.0	135.5	花崗岩	
1696	〃	C-2-V	6.5	10.7	1.0	112.2	千枚岩		1764	〃	C-3-V上	5.1	4.2	2.3	68.2	砂岩	
1697	〃	C-3-V	4.8	5.4	0.8	23.2	頁岩		1765	〃	D-5-V	4.7	4.1	2.0	58.2	安山岩	
1698	〃	C-1-V	4.4	7.1	0.9	29.0	〃		1766	〃	C-4-V	5.0	4.7	1.8	66.7	安山岩	
1699	〃	C-5-V	3.4	6.4	1.1	25.2	〃		1767	〃	B-3-V	4.4	4.4	2.2	66.7	砂岩	
1700	〃	D-3-V上	3.9	5.1	0.9	18.6	〃		1768	〃	B-4-V	5.1	4.8	3.0	104.8	安山岩	
1701	打製石器	D-3-V	13.9	5.1	1.0	84.9	砂岩	ホルンフェルス化	1769	〃	B-4-V上	5.0	4.5	1.6	58.0	砂岩	
1702	〃	B-4-V	6.2	3.8	0.5	18.5	頁岩		1770	〃	B-4-V	5.1	4.3	2.0	37.5	〃	凝灰質
1703	〃	C-4-V	6.2	4.5	0.7	35.2	〃		1771	〃	B-5-V	4.7	4.9	1.8	57.0	〃	
1704	〃	B-4-V	5.1	7.0	1.0	36.3	ホルンフェルス		1772	〃	B-5-V	5.3	5.0	1.4	61.5	〃	
1705	〃	D-4-V	10.8	6.3	1.0	88.1	〃		1773	〃	B-4-V	5.3	4.0	1.9	62.5	〃	
1706	〃	B-5-V	5.8	7.9	1.0	58.7	頁岩	ホルンフェルス化	1774	〃	C-3-V	5.4	4.7	1.4	90.3	安山岩	
1707	〃	C-2-V	7.2	4.4	1.3	35.5	〃		1775	〃	D-5-V	3.9	3.2	1.9	30.8	〃	
1708	〃	C-9-1	6.8	3.6	1.0	34.5	〃		1776	〃	D-10-	4.1	3.6	1.8	37.0	砂岩	
1709	〃	D-8	7.8	4.7	0.7	28.7	〃		1777	〃	C-3-V	4.4	3.7	1.5	36.0	〃	
1710	〃	B-10-表	7.9	5.4	0.9	45.3	〃		1778	〃	D-4-V	5.0	3.9	2.5	68.5	〃	
1711	〃	B-4-V	14.8	3.7	1.5	15.00	粘板岩		1779	〃	D-4-V上	4.4	3.5	2.5	54.5	花崗岩	
1712	礫	D-4-V	9.3	10.3	4.2	62.00	ホルンフェルス		1780	〃	C-4-V上	4.5	4.0	1.8	44.5	〃	
1713	〃	D-2-V上	12.7	10.9	3.9	713.0	〃		1781	石皿	B-3-V	37.7	28.3	8.8	14400	安山岩	
1714	〃	B-3-V	12.1	11.9	3.5	761.3	〃		1782	〃	C-4-V	33.5	24.1	6.7	8800	〃	
1715	〃		13.3	12.8	2.2	682.5	〃		1783	〃	隼石3	20.6	19.9	6.7	4500	〃	
1716	砥石		11.8	7.3	6.5	654.0	砂岩		1784	〃	D-2-V	29.7	22.5	10.5	12600	〃	
1717	〃		7.8	9.0	5.1	497.0	〃		1785	〃	D-3-V	29.8	17.5	5.9	3300	〃	
1718	〃	C-5-V	10.0	9.9	5.4	649.8	〃		1786	〃	C-5-V	43.7	26.2	4.9	7600	〃	
1719	〃	C-3-V上	14.8	10.4	6.3	1036.0	〃		1787	砥石	D-3-V上	22.8	17.7	9.0	4500	砂岩	小礫を含む
1720	〃	C-4-V	11.8	11.3	5.9	940.0	〃		1788	〃	C-3-V上	14.6	11.0	2.1	1150	〃	
1721	礫石加工品	D-4-V	12.0	8.3	5.6	168.1	軽石		1789	〃		18.1	10.6	6.8	1500	〃	
1722	〃	D-2-V	9.2	5.9	3.4	38.3	〃		1790	〃	C-4-V	26.8	12.7	6.7	3300	安山岩	
1723	〃	C-1-V	13.9	9.3	8.5	213.8	〃		1791	石鏃	C-3-V上	9.9	7.5	2.0	284.2	ホルンフェルス	
1724	〃	D-3-V	8.4	4.4	1.7	15.5	〃		1792	〃	D-5-V	9.1	7.1	2.8	192.0	安山岩	
1725	〃	C-7-	10.4	8.0	2.2	58.0	〃		1793	〃	D-4-V上	8.0	4.1	1.3	50.0	千枚岩	
1726	〃	C-4-V	17.0	8.9	3.1	140.0	〃		1794	〃	C-3-V	6.9	5.9	1.9	110.8	砂岩	(ホルンフェルス化)
1727	磨石・敲石・凹石	B-3-V	15.9	11.7	5.8	1410	安山岩		1795	〃		8.3	6.1	1.8	130.0	安山岩	
1728	〃	C-2-V	12.8	10.3	4.9	1040	〃		1796	〃	B-2-V下	6.2	7.1	2.0	133.2	砂岩	ホルンフェルス化
1729	〃	D-4-V下	14.8	13.1	5.1	1550	〃		1797	〃	D-2-V	7.0	8.3	2.0	163.2	ホルンフェルス	
1730	〃	C-2-V	12.0	10.9	5.2	1000	〃		1798	〃		8.4	6.3	2.5	205.5	〃	
1731	〃	C-6-V	12.0	9.9	4.7	780	〃		1799	〃	P, O, 492	6.5	6.6	2.6	160.5	〃	
1732	〃	B-5-V	9.0	8.8	4.1	500	〃		1800	〃		7.0	6.8	3.3	165.5	砂岩	ホルンフェルス化
1733	〃	B-3-V	15.1	12.1	5.1	1500	〃		1801	〃		7.9	5.9	2.0	146.5	頁岩	
1734	〃		8.3	7.7	4.6	510	砂岩	小礫を含む	1802	〃	C-6-V	5.3	5.9	1.7	61.5	砂岩	
1735	〃	D-5-V	7.5	6.8	5.8	500	安山岩		1803	〃		8.7	6.0	2.0	110.2	〃	
1736	〃	C-2	16.7	12.7	4.5	1430	〃		1804	〃	住3	7.1	6.5	2.6	181.5	〃	
1737	〃	C-1-V	8.1	6.7	4.3	320	花崗岩		1805	〃	D-3-V	6.6	6.0	2.3	128.2	安山岩	
1738	〃	C-7-V下	13.3	9.6	5.3	1060	〃		1806	〃		7.7	7.4	2.2	187.2	砂岩	ホルンフェルス化
1739	〃	B-5-V	12.4	8.9	3.5	620	安山岩		1807	〃		7.9	7.1	2.8	251.0	〃	
1740	〃	C-2-V	9.9	9.2	4.0	360	〃		1808	〃	C-3-V	5.0	4.5	0.9	28.5	〃	
1741	〃	B-3-V	12.5	9.3	2.5	550	頁岩		1809	〃	D-8-表探	7.0	6.6	3.2	198.1	〃	
1742	〃	C-4-V	12.5	9.5	6.7	1060	安山岩		1810	〃	B-2-V	6.6	6.2	2.1	105.2	安山岩	
1743	〃	D-5-V	11.4	9.0	4.3	620	〃		1811	〃	D-8-表探	6.9	6.5	2.4	151.2	砂岩	ホルンフェルス化
1744	〃	E-表探	8.1	7.5	2.8	290	砂岩		1812	〃	C-4-V上	7.7	6.6	2.3	179.5	〃	
1745	〃	C-4-V	17.3	11.3	4.5	1400	安山岩		1813	〃	C-8-1	8.0	6.3	2.4	178.2	ホルンフェルス	
1746	〃	C-3-V	13.1	11.2	4.5	940	〃		1814	〃	B-5-V上	6.7	5.6	1.5	90.8	砂岩	
1747	〃	B-2-V	10.5	8.6	5.6	710	〃		1815	〃		8.1	6.8	2.5	150.0	安山岩	
1748	〃	D-2-V	17.3	11.7	4.5	1500	〃		1816	〃	B-4-V	7.8	6.2	2.2	205.5	砂岩	ホルンフェルス化
1749	〃	C-5-V	13.1	12.7	4.7	1140	〃		1817	〃	表探	5.3	4.5	2.1	71.0	石英ハン岩	
1750	〃	D-3-V	15.1	10.8	6.1	1570	〃		1818	特殊な石器	D-4-V	3.6	3.0	1.4	18.0	砂岩	
1751	〃	C-3-V	12.6	10.9	4.1	860	砂岩										
1752	〃	C-4-V	13.0	12.8	5.5	1460	安山岩										
1753	〃	C-2-V	9.4	8.5	3.2	340	〃										
1754	〃	D-3-V	12.7	12.1	3.2	740	〃										
1755	〃	B-9-表	14.4	10.1	5.2	1110	砂岩										
1756	〃	D-4-V下	14.3	9.4	5.3	1040	安山岩										
1757	〃	B-3-V	11.7	9.4	6.0	900	〃										
1758	〃	B-3-V	14.5	10.5	5.9	1210	〃										
1759	〃	B-3-V	13.5	11.1	3.9	960	〃										
1760	〃	B-2-V上	10.3	6.1	2.4	220	〃										
1761	〃	B-2-V	12.6	11.1	4.6	940	〃										
1262	〃	D-5-V	9.6	6.9	3.3	320	〃										

第Ⅳ章 まとめ

榎木原遺跡は縄文早期から中・近世まで長い期間にわたり、生活の痕跡が確認された。

縄文時代

遺構

遺構は住居跡と土壇 2 基と集石遺構が検出された。住居跡は円形で 4 本柱の建物であり、遺物は入佐式土器に比定される縄文第ⅩⅩⅧ類が出土した。土壇 1・2 は黒川式土器に比定される縄文第ⅩⅩⅣ類が出土したもので円形と不定形であった。

集石遺構は 5 基検出したが明確な時期は不明であった。

遺物

本遺跡の縄文土器は、第Ⅰ類～第Ⅵ類土器が、アカホヤに比定される第Ⅹ層より下位で出土し、第Ⅶ類～第ⅩⅩⅩ類土器が、上位の第Ⅶ・Ⅷ層を中心に出土した。第Ⅶ・Ⅷ層は、弥生時代の遺物をも含んでおり、数千年間の遺物が混在していた。しかし、このような状況の下でも、層位的にある傾向を示すものもあった。本報告における縄文土器分類は、層位的出土状況、かつ形式的類似性を考慮して行った。

第Ⅰ類～第Ⅵ類土器は、縄文時代早期該当の土器と考えられる。

第Ⅰ類土器は、貝殻文円筒土器で従来前平式土器⁽¹⁾と呼ばれてきたものである。さらに文様、器形の相違から a・b 類に分けた。知覧町永野遺跡⁽²⁾、溝辺町桑ノ丸遺跡⁽³⁾等の出土状況を考慮して同一型式として捉えたものの、本遺跡における出土状況をみると、垂直・平面分布共にピークの相違があった。a 類には、口縁端部に粘土帯を貼り付けるという特異な例も存在することから、永野・桑ノ丸タイプの前平式土器とは、ある程度の時間差が存在するのかも知れない。

第Ⅱ類土器は、加世田市榊ノ原遺跡 6 類土器⁽⁴⁾、鹿児島市加栗山遺跡Ⅳ・Ⅷ類土器⁽⁵⁾と同一型式で、円筒・角筒の両方存在する。これらは、前平式、吉田式土器のいずれに属するものか問題になっている土器であるが、最近、「独立一型式として認めるべきもの⁽⁶⁾」という意見も出ている。本遺跡では、純粋な吉田式は出土していないものの、前平式に該当する第Ⅰ類土器との関係をみると、垂直・平面共に分布状況に差異があり、少なくとも第Ⅰ類との間には、時間差が存在すると考えられよう。

第Ⅲ類土器は、山形押型文土器で一点出土したのみであった。

第Ⅳ類土器は、溝辺町桑ノ丸遺跡第 3 類土器と類似するもので、近年南九州で資料の増加が著しい土器である。

第Ⅴ類土器は、新例であるが、a 類は器形と文様から、第Ⅰ b 類との関連が考えられる。

第Ⅵ類土器は、塞ノ神式土器である。二個体の出土で、a・b 類に細分した。a・b 類はそれぞれ、河口貞徳氏の塞ノ神 A a 式・A b 式⁽⁷⁾に、新東晃一氏の塞ノ神Ⅲ式・Ⅱ式⁽⁸⁾に比定できよう。これらは、約 60m の間隔をおいて出土した。

第Ⅶ類～第Ⅹ類土器は、縄文時代前期該当の土器と考えられる。

第Ⅶ類土器は、轟式系統の土器と思われる一群で、a～d類に細分した。器形は、ほぼ直行する口縁部と、尖底あるいは尖底に近い底部をもつ土器である。a類は主として内外面に貝殻条痕を残すもので、文様は施されていない。193は小型の土器で、小刻みな粘土帯の接合状況を明瞭に残している。志布志町野久尾遺跡⁹に類似する土器が出土している。b類は外面に突帯を有する土器である。突帯の形状から、さらに1～3類に分類した。b-1類は、断面三角形の突帯に刻みを施すもので、横走するものに加え縦走するものも出土している。b-2類は、ミミズ腫れ状の突帯を、b-3類は、細い突帯をそれぞれ口縁部下に貼り付けるものである。野久尾遺跡の出土土器、西之表市下剝峯遺跡¹⁰Ⅵ類土器に類似している。c類は、連点文を施すもので、志布志町片野洞穴¹¹、野久尾遺跡に類似する土器が出土している。d類は、貝殻腹縁による相交弧文を施すもので、片野洞穴¹²、加治木町日木山洞穴¹³、溝辺町石峰遺跡等から類似する土器が出土している。

第Ⅷ類土器は、型式不明のものを一括した。259は、口縁部下の刺突連点文が特徴的な土器である。260は、外面に押し引き文を有する土器で、瀬戸内地方の縄文時代前期後半の彦崎Z1式土器¹⁴との類似性が考えられる。261は、突帯に刻みを施すものであるが、内面の整形から、第Ⅺ層以下からの浮き上がりということも考えられる。

第Ⅸ類土器は、曾畑式土器である。四個体分確認することができた。なかでも280は、完形に復元するこそができたもので、口縁部から丸底を呈する底部まで、ほぼ直線的な器形を有する土器である。三本単位の短沈線で縦位の区画をつくり全面に文様を施しているものの、規則性には乱れが生じ、雑な仕上げとなっている。なお、滑石混入の曾畑式は出土していない。

第Ⅹ～第Ⅷ土器は、縄文時代中期～後期前半期に該当する土器と考えられる。

第Ⅹ類土器は、瀬戸内地方の縄文時代中期を代表する船元式土器に該当するものである。貝圧文・爪形文等の存在から、船元Ⅰ・Ⅱ式¹⁵該当の土器である。なかでも281～294は、その胎土の特徴から移入土器と考えられる。

第Ⅺ類土器は、胎土の相違からa・b類に細分した。a類は、キャリパー状の器形を呈す薄手の土器で、内外面に貝殻条痕を残す、いわゆる春日式土器である。b類も春日式土器と同様な器形を呈すが、胎土に滑石を多量に含むこと、また春日式土器に比べ沈線の幅が広く、文様帯も胴部までのびる可能性があることから、同一型式の範疇で捉え得るか若干疑問が残る。

従来、春日式土器は、縄文時代前期終末に位置付けられていたが、近年、器形・文様等の類似性から船元式土器の影響が指摘¹⁷されだし、昭和60年に発掘調査された松山町前谷遺跡¹⁸では大量の春日式土器と共に里木Ⅱ式土器等の縄文・撚糸文系の土器が出土、さらに、¹⁴C年代測定結果をふまえて、春日式土器は中期まで下がるものと報告している。本遺跡で船元式土器、しかも古段階のものが出土したことは、南九州、少なくとも大隅半島においては、早い時期から船元式土器文化が波及していたことを示しており、春日式土器の出自に何らかの影響を与えたことが予想されよう。また第Ⅺb類土器は、従来春日式土器の範疇で捉えられているタイプであるが、その沈線文様及び文様帯の在り方は、瀬戸内地方¹⁹や北九州²⁰で出土し、縄文時代中期末に

位置付けられている福田C式土器との類似性も考えられ、かつ胎土に滑石を含むという曾畑式土器以来の西九州的な様相をも含めて、再検討を要する土器であるといえる。

第XII類～第XV類土器は、阿高式系土器として捉えたものである。太形凹線の細線化、文様の単純化・直線化等を基準にして分類した。阿高式特有の滑石混入の土器は出土していない。

第XII類土器は、太形凹線で文様を構成するものである。地文に貝殻条痕を残すb類は、志布志町宮ノ前遺跡²¹⁾、末吉町宮之迫遺跡²²⁾等に類似する土器がみられる。

第XIII類～第XV類土器は、口縁部下に文様帯をもち、曲線文・直線文・凹点等で文様を構成するものである。ほとんどが丁寧なナデ調整で仕上げを行っている。田中良之氏による分類の阿高Ⅲ式期²³⁾に該当するものであろう。第XV類は、文様帯の集約化・文様の直線化が進んでおり、阿高式土器の最終形態を示すものと思われる。

第XVI類土器は、若干肥厚する口縁部、ヘラ状工具による器面調整、逆「S」文文等の諸特徴から、南福寺式土器に類するものと考えられる。

第XVII類土器は、出水式系土器と考えられるもので、文様帯は口縁直下に集約され、ヘラ状施文具で施された沈線文様は、比較的雑な仕上げを行っている。沈線+凹点文の446～447は、横川町中尾田遺跡²⁴⁾第Ⅲ類土器に類似するものがみられる。

第XVIII類土器は、地文に貝殻条痕を強く残し、瘤状突起、口縁直下の太形凹点+沈線文様といった諸特徴から、岩崎下層式土器に該当するものと考えられる。

第XIX類～第XXVI類土器は、縄文時代後期初頭から後半期に該当する土器と考えられる。

第XIX類及び第XXI類土器は、口唇部あるいは口縁端部、口縁直下に刻み、凹点を有し、それ以下に沈線文様を施すもの、あるいは刻み・凹点は持たずに同様な沈線文様を施す土器の一群で、岩崎上層式期のもと考えられる。ただ、岩崎上層式の特徴である。地文に貝殻条痕を有する土器は、第XXI類のみであり、第XIX類は、すべてナデ仕上げを行っている。第XIX類は、文様の相違、刻み・凹点の有無でa～d類に細分したが、a・b類、c・d類はそれぞれ同時期のヴァリエーションとして捉えた。志布志町中原遺跡ⅡB・ⅡC類、宮之迫遺跡L類の一部に類する土器がみられる。

第XX類土器は、突帯上に主として貝殻腹縁による連続刺突を施すものを一括した。これらの一部は、従来中期末に位置付けられている協和式土器に類似するものであるが、実態は不明である。ただ557～565等の文様構成は、突帯貼付という点を除けば、第XIXc類土器とほぼ同じであり、同時期の所産か、時期差はあっても大きなものではないと考えられる。

575～587は、阿高式系土器に伴う無文土器と考えられる。

第XXII類土器は、指宿式土器に該当するものである。本遺跡での出土量は非常に少ない。

第XXIII類土器は、市来式土器に該当するものである。本遺跡の中では、出土量の多いものである。口縁部断面形、及び文様帯の相違からa～d類に細分した。基本的には、口縁部を断面三角形に肥厚させるa～c類と、肥厚化傾向が衰退し、「く」の字状口縁を呈するd類に大別できよう。第Ⅶ層を中心に、一部第Ⅷ層からも出土しているが、層位的な傾向はつかめなかつ

た。ただ、平面分布を見ると、a～c類とd類との間には、ピークの相違があり、従来言われているような時間差を示唆する結果が得られた。

第XXV類土器は、草野式土器に該当するものである。無文土器も少量出土している。789は壺形を呈する土器で、標式遺跡である鹿児島市草野貝塚²⁸⁾に類似する土器が出土している。垂直分布は、第XXIII類土器とほぼ同様な状況を示すが、平面分布をみると一部重複するものの、ピークに相違があった。強いてあげれば、第XXIII d類の分布との類似性を指摘できよう。

第XXV類土器は、松山式土器類似の土器である。

第XXVI類土器は、櫛描きの波状沈線を施すもので、大平式土器に類似するものである。本県では、中尾田遺跡や志布志町倉園A遺跡²⁹⁾で出土している。

第XXVII類土器は、縄文時代後期該当の土器で、型式の不明瞭なものを一括した。794・795の磨消縄文土器、口縁端部に「W」字状の貼付文をもつ796・797、波状口縁をなす798は、北久根山期該当の土器と考えられる。799は、西平式土器に類似するものである。802・803は、施文具に貝殻腹縁を用いていることと、器形の類似から、第XXIII d類土器に含まれるものかも知れない。804・805も基本的には貝殻文系の土器であるが、幅の狭い口唇部を文様帯とする特徴をもっている。ただ、805は、金雲母を多く含み、大隅半島でよく見られる第XXIII d類土器の胎土に類似している。

841～852は、縄文時代後期該当と考えられる無文土器である。詳細な時期については不明であるが、843・845は、器形の類似から、第XXIII d類土器との関係が考えられる。また849・851は、熊本県黒橋貝塚³¹⁾等で出水式系の土器と伴出している無文土器に類似している。

第XXVIII類土器は、入佐式土器に比定される。

第XXIX類土器は、黒川式土器に比定される。

第XXX類土器は、夜臼式土器に比定される。

弥生時代

遺物

本遺跡の弥生土器は、形態（特に口縁部）の特徴から、甕形土器を第I～VII類に、壺形土器を第I・II類にそれぞれ分類した。これらのほとんどが第VII層から出土し、B・C-2・3区に集中していた。出土量は少ないが、前期から後期にかけての土器が出土しており、弥生時代においても、当地が選地としての条件を保持していたことを示している。中でも甕第I～IV類土器、壺第I類土器の出土は、近年調査、報告された鹿屋市水の谷遺跡³²⁾と共に大隅半島南部の弥生前期末～中期初頭の様相を検討する上で貴重な資料と言えよう。同様な土器は、水の谷遺跡の他に宮崎県高鍋町持田中尾遺跡³³⁾、宮崎市保木下遺跡³⁴⁾等で出土しているが、これらの遺跡では亀ノ甲式の甕と下城式の甕が共存しているのに対し、本遺跡では亀ノ甲式の甕のみで、この期の下城式の甕は確認できなかった。また、甕第IV類の1328のように、口唇部に粘土紐を貼付する例は、水の谷遺跡、金峰町高橋貝塚³⁵⁾、保木下遺跡等にみられる。

甕第V・VI類土器は、それぞれ吹上町入来遺跡³⁶⁾、大根占町山ノ口遺跡³⁷⁾出土の土器に類似し、

弥生中期中葉～後期初頭の土器と考えられる。甕第Ⅶ類土器は、縦位の突帯を有するもので、「く」の字口縁を呈することから、後期の所産と考えられる。また、壺第Ⅱ類も鹿屋市高付遺跡³⁸⁾出土の土器に類似しており、後期該当の土器と考えられる。

古墳時代～平安時代

遺構

溝状遺構が3条検出された。1号は紫ゴラが底面に密着していたので貞観年代には溝として窪んでいたと考えられる。他は不明。

遺物

古墳時代の土器は、いわゆる成川式土器と呼ばれている土器で、甕形土器・壺形土器・高坏等が出土している。中でも、比較的多く出土した甕及び壺形土器は、それぞれ第Ⅰ～Ⅲ類に分類した。甕第Ⅰ類土器及び壺第Ⅰ類土器は、高付遺跡の出土土器に、甕第Ⅱ・Ⅲ類土器及び壺第Ⅱ類土器は、錦江湾を隔てて、ほぼ対岸に所在する喜入町西船子遺跡³⁹⁾の出土土器に類似している。近年、成川式土器の甕形土器を整理、編年する試みが盛んになりつつあるが、本遺跡の資料は、遺構内出土ではないものの、錦江湾沿岸の、しかもこれまで公表された資料の比較的小ない大隅半島の成川式土器として、貴重な資料となろう。1471は、高坏の脚部を利用したふいごの羽口であるが、本県におけるこのような例は、指宿市尾長谷迫遺跡⁴⁰⁾に次いで2例目である。

中・近世

遺構

溝状遺構1条、土壌5基が検出された。

遺物

青磁・白磁・染付・陶器等が出土した。時期は15世紀から18世紀まで幅が広い。

(註)

- 1 a 河口貞徳 「鹿児島県における貝殻系灰文土器について」『鹿児島県考古学会紀要 第4号』鹿児島県考古学会 1955. 11
- b 河口貞徳他 「石峰遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(24)』鹿児島県教育委員会 1980. 3
- 2 a 前掲1と同じ
- b 青峰和憲他 「永野遺跡」『知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』知覧町教育委員会
- 3 新東晃一他 「西免・杉場・山神・曲迫・森ノ丸遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(7)』鹿児島県教育委員会 1977. 2
- 4 新東晃一他 「村原(榊ノ原)遺跡」『加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書』加世田市教育委員会
- 5 青峰和憲他 「加栗山・神ノ木山遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(16)』鹿児島県教育委員会 1981. 3
- 6 本田道輝 「縄文時代」『鹿児島考古 第20号』鹿児島県考古学会 1986. 6
- 7 河口貞徳 「壺ノ神式土器」『鹿児島考古 第6号』鹿児島県考古学会 1972. 12
- 8 新東晃一 「壺ノ神式土器」『縄文文化の研究 3』雄山閣 1982. 8
- 9 酒匂義明 「野久尾遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書』志布志町教育委員会 1979
- 10 新東晃一他 「赤木・下割峯・大四郎・内和遺跡」『西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書』西之表市教育委員会 1978. 3
- 11 河口貞徳 「鹿児島県片野洞穴」『日本の洞穴遺跡』平凡社 1967. 3
- 12 樋口清之他 「加治木町日本山洞遺跡」『史前学雑誌 第10巻 第2号』1938
- 13 前掲1bと同じ
- 14 間壁忠彦他 「里木貝塚」『倉敷考古館研究集報 第7集』倉敷考古館 1971. 7
- 15 前掲14と同じ
- 16 a 河口貞徳他 「鹿児島市春日町遺跡発掘調査報告」『鹿児島県考古学会紀要 第4号』鹿児島県考古学会 1955. 11
- b 前掲1bと同じ
- 17 a 長野真一他 「大畷町園田遺跡」『宮之城町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』宮之城町教育委員会 1985. 3
- b 田中良之 「北九州の縄文時代」『北九州市史 総論・先史・原史』1985. 12
- 18 中村耕治他 「前谷遺跡」『松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』松山町教育委員会 1986. 3
- 19 前掲14他
- 20 a 木村幾太郎他 「新延貝塚」『鞍手町埋蔵文化財調査会』1980. 3
- b 前川威洋他 「山鹿貝塚」山鹿貝塚調査団 1972. 3
- 21 酒匂義明 「宮ノ前遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書』志布志町教育委員会 1975
- 22 長野真一他 「宮之迫遺跡」『末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』末吉町教育委員会 1981. 3
- 23 田中良之 「阿高式土器」『縄文文化の研究 4』雄山閣 1981. 11

第四章 まとめ

- 24 新東晃一他 「中尾田遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(15)』鹿児島県教育委員会 1981.3
 25 新東晃一他 「中原遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)』志布志町教育委員会 1985.3
 26 a 前掲1bと同じ
 b 河口貞徳他 「シンボジュウム 市来式土器について」『考古月報 No1』鹿児島県考古学会 1986.9
 27 a 本田道輝他 「西之表市納曾遺跡」『鹿児島考古 第12号』鹿児島県考古学会 1978.3
 b 本田道輝 「市来式土器」『縄文文化の研究 4』雄山閣 1981.11
 28 河口貞徳 「草野貝塚発掘報告」『鹿児島県考古学会紀要 第1号』鹿児島県考古学会 1952.4
 29 新東晃一他 「倉園A遺跡・土光遺跡・風穴遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(10)』志布志町教育委員会 1985.3
 30 前川威洋 「九州後期縄文土器の諸問題」『九州縄文文化の研究』前川威洋遺稿集刊行会 1979.5
 31 西田道世他 「黒橋」『熊本県文化財調査報告 第20集』熊本県教育委員会 1976.3
 32 長野真一 「水の谷遺跡」『鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)』鹿屋市教育委員会 1986.3
 33 a 北郷泰道 「持田中尾遺跡」高鍋町教育委員会 1982.4
 b 石川悦雄 「宮崎平野における弥生土器編年試案一素描(Mk. II)」『宮崎考古 第9号』1984.2
 34 面高哲郎他 「保木下遺跡」宮崎県教育委員会 1986.3
 35 森貞次郎 「弥生文化の発展と地域性 九州」『日本の考古学 III 弥生時代』1966.1
 36 河口貞徳 「入来遺跡」『鹿児島考古 第11号』鹿児島県考古学会 1976.12
 37 河口貞徳 「山ノ口遺跡」『鹿児島県文化財調査報告書 第7集』鹿児島県教育委員会 1960.3
 38 吉永正史他 「高付遺跡」『鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』鹿屋市教育委員会 1984.3
 39 旭 慶男他 「西船子遺跡」『喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』喜入町教育委員会 1986.3
 40 a 坪根伸也他 「郡元団地1・J-9・10区(理学部1号館増築地)の発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 I』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1986.3
 b 坪根伸也 「成川式土器小考—壘型土器突帯における一試論—」『鹿大史学 第34号』鹿児島大学法文学部史学地理学教室 1987.1
 41 繁島正幸他 「尾長谷迫遺跡」『指宿市埋蔵文化財調査報告書(7)』指宿市教育委員会 1986.3

版 图



榎木原遺跡遠景（東方より）



榎木原遺跡の調査風景



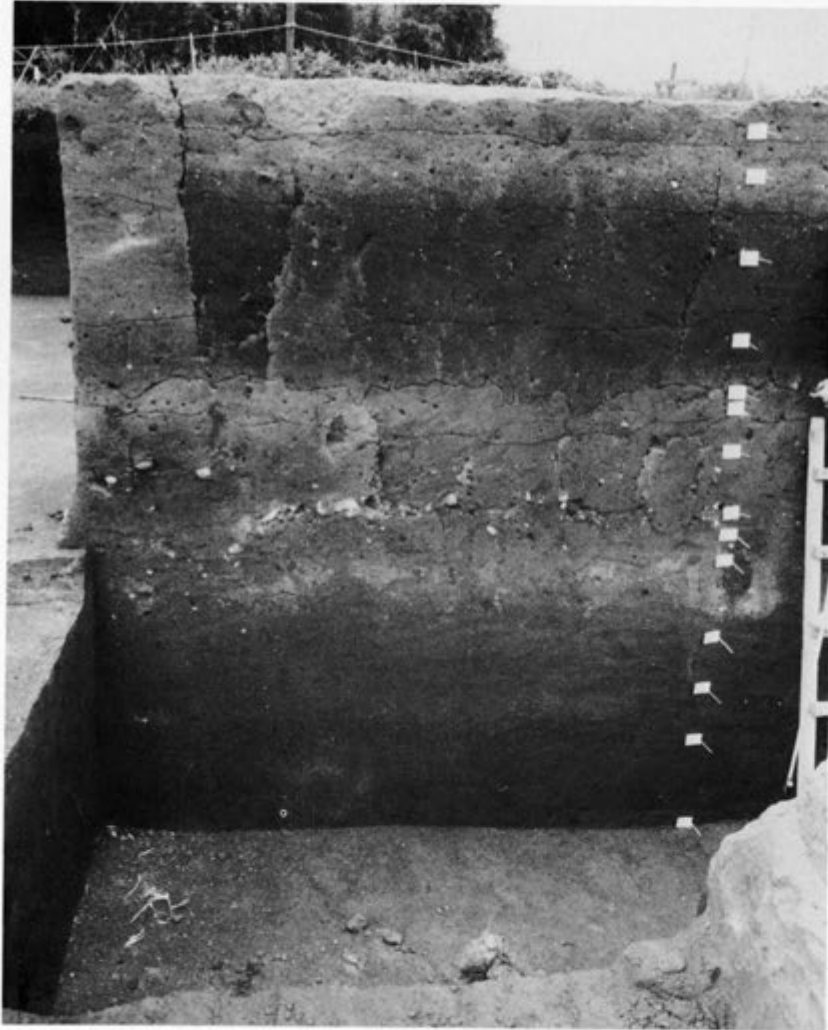
榎木原遺跡の遺物出土状況



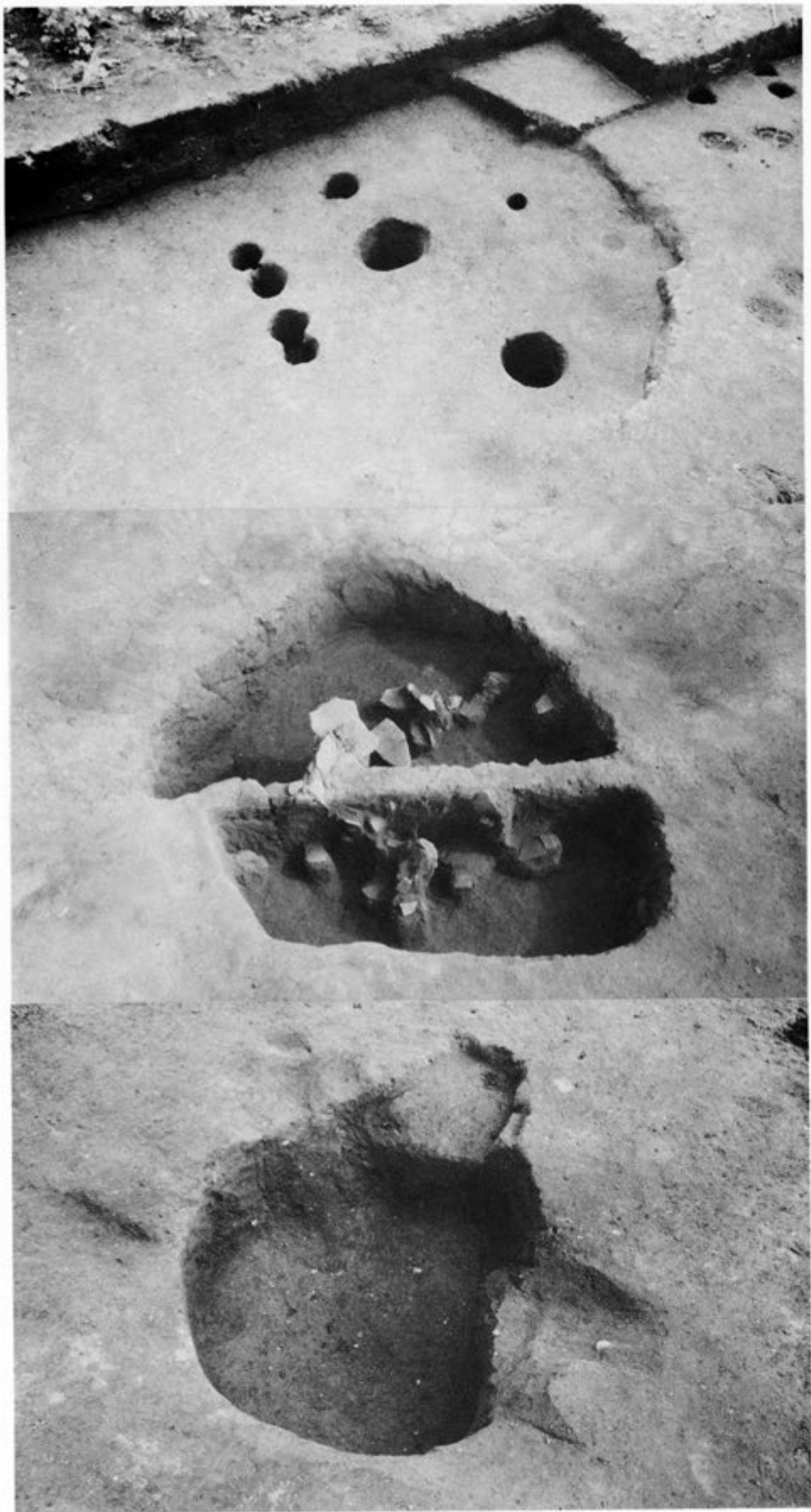
榎木原遺跡のp i t出土状況



↑ 榎木原遺跡の下層の遺物出土状況



← 榎木原遺跡の土層



榎木原遺跡の縄文時代の遺構
住居跡

土壇 2

土壇 1



↑ 集石 1 ↓



↑ 集石 2 ↓



↑ 集石 3 ↓

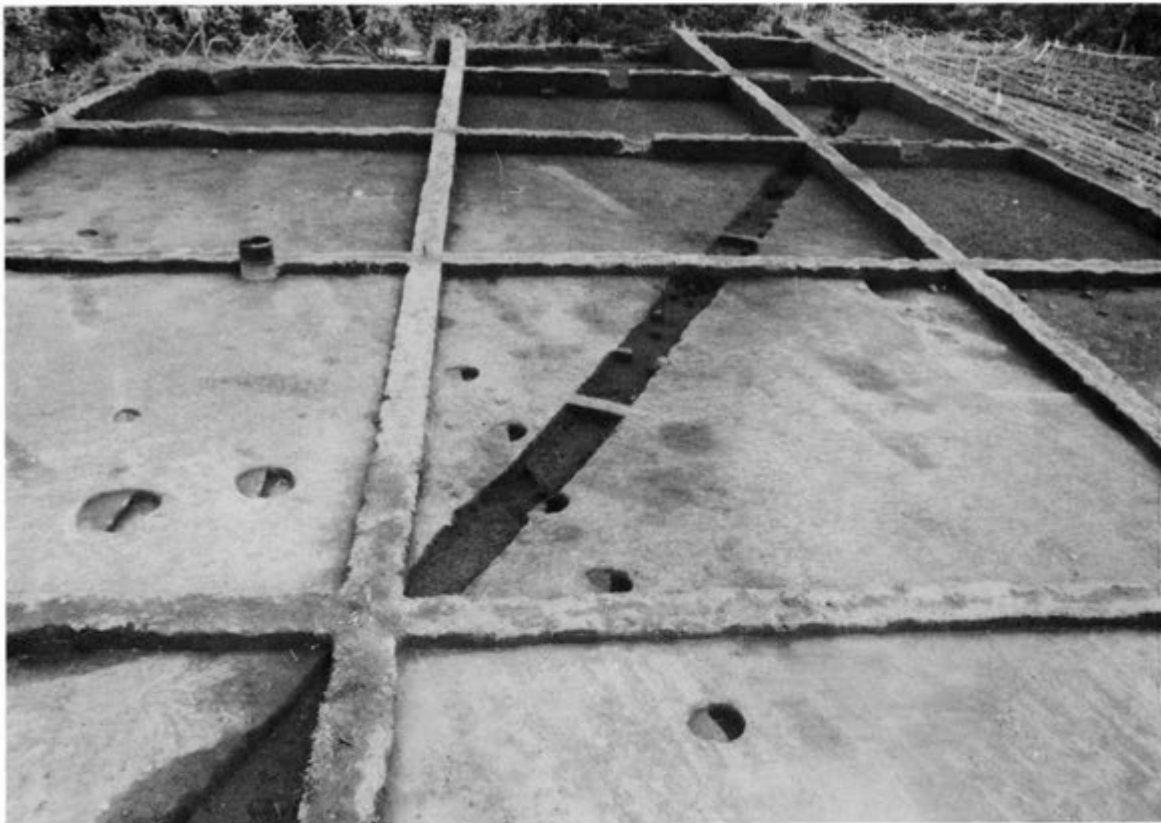


↑ 集石 4 ↓

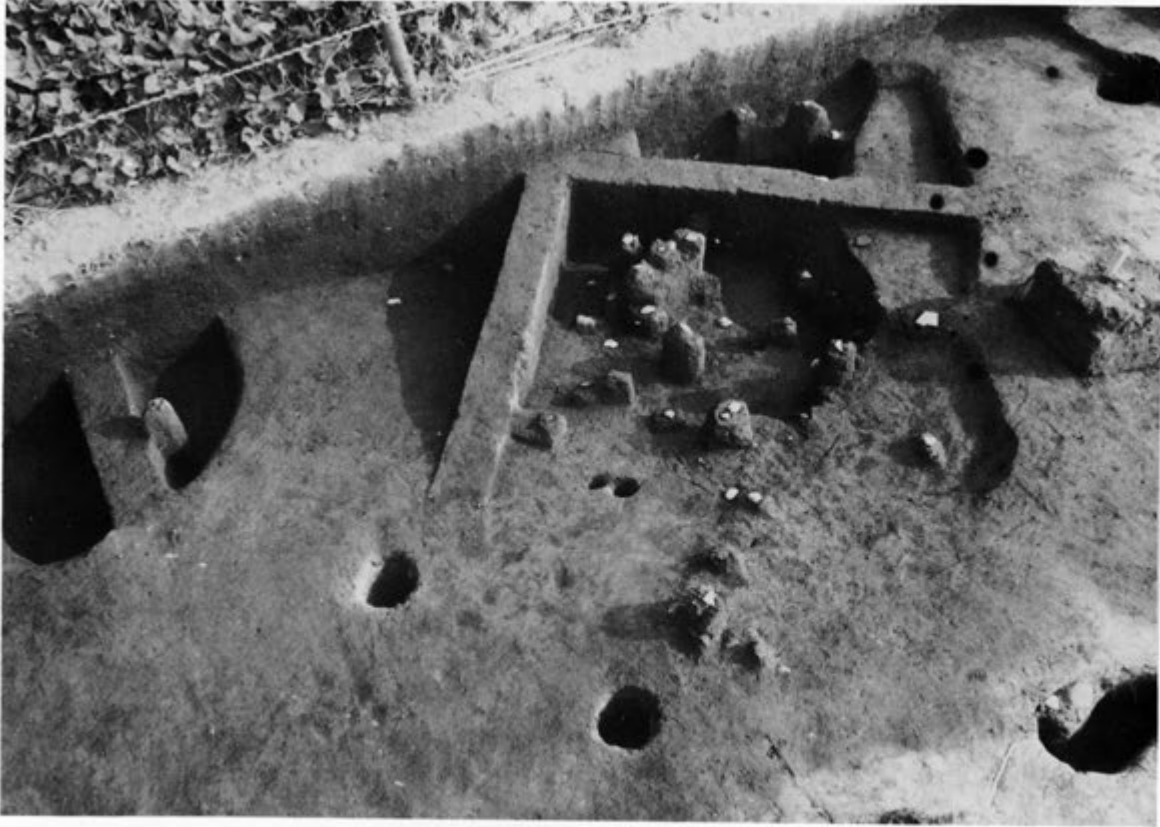
榎木原遺跡の集石遺構



集石 5



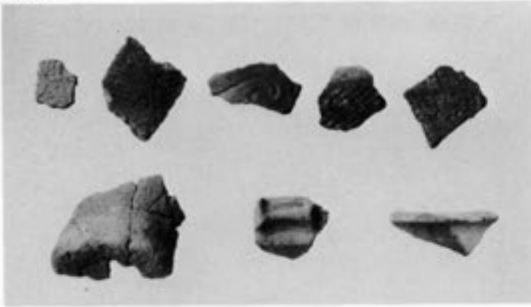
榎木原遺跡の溝 (古墳～平安)



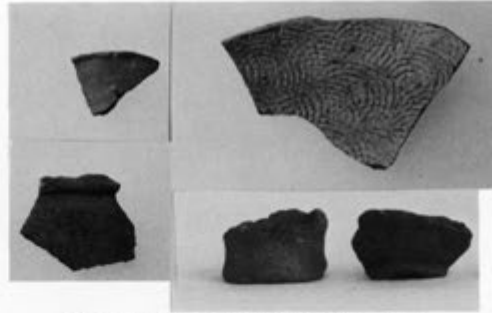
榎木原遺跡の中・近世の土壇 6・7



榎木原遺跡の中近世の土壇 4



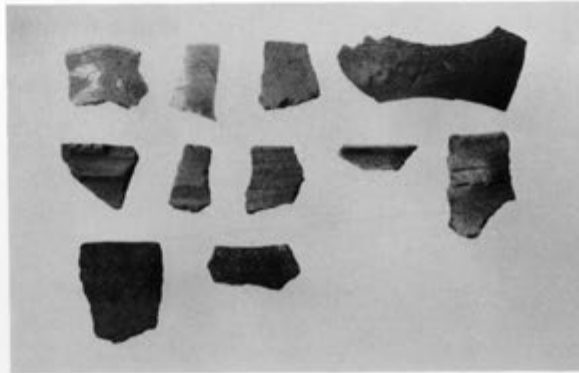
Pit内の出土遺物 (41~48)



溝状遺構内の出土遺物 (50~54)



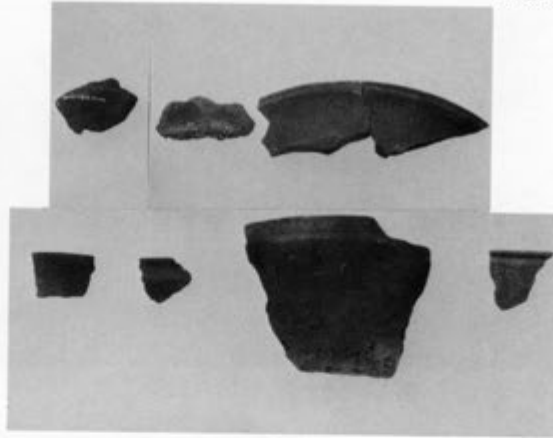
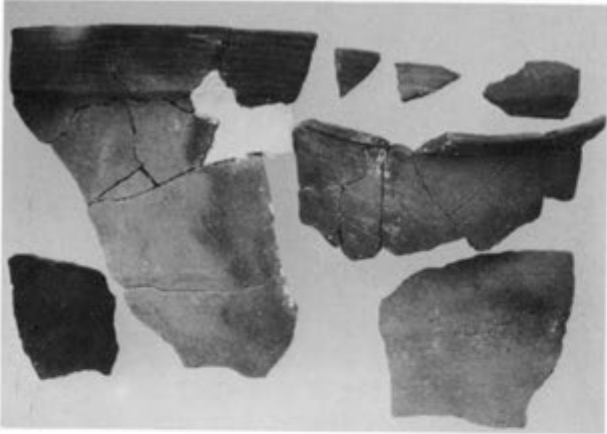
中・近世の遺構内出土遺物 (55~73)



中・近世の遺構内出土遺物 (74~87)



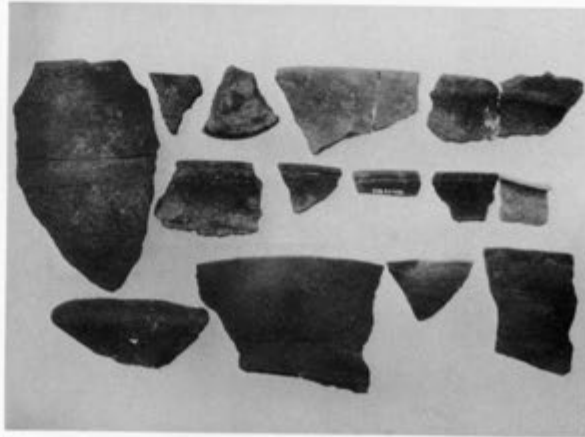
中・近世の遺構内出土遺物 (88~115)



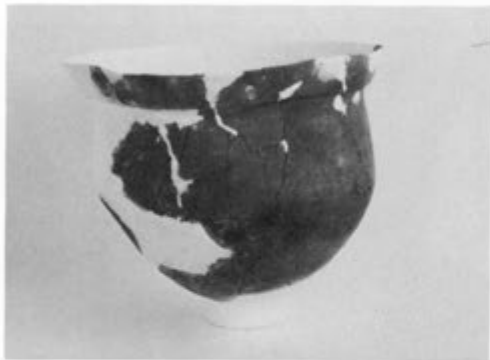
住居跡の出土遺物 (1~14)



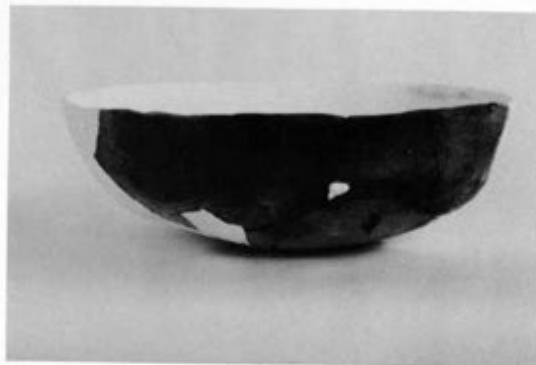
土壌 1 の出土遺物 (15~24)



土壌 2 の出土遺物 (25~39)



埋 鉢 (40)



土壌 2 の出土遺物 (38)



第 I a 類土器 (116~139)



第 I b 類土器 (140~162)



第 I 類底部 (163~171)



第 II ~ V 類土器 (172~188)



第 VI 類土器 (189~191)



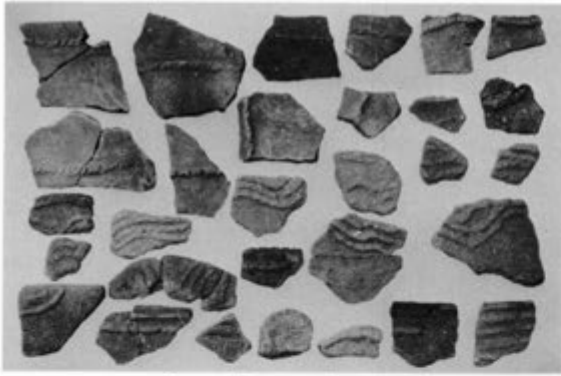
第 VI a 類土器 (192~207)



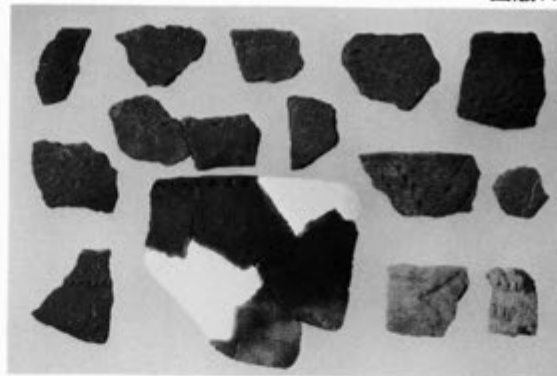
第 VII a 類土器 (208)



第 VII a 類底部 (209~217)



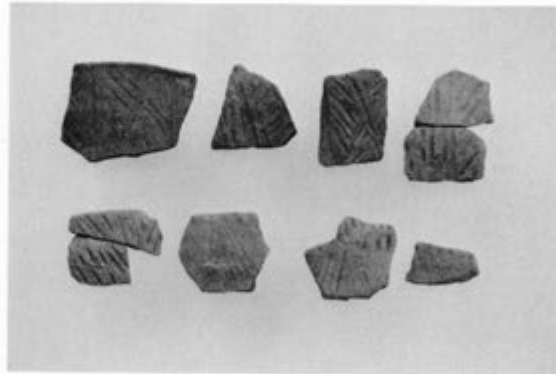
第Ⅶb類土器 (218~247)



第Ⅶc, d・Ⅷ類土器 (248~261)



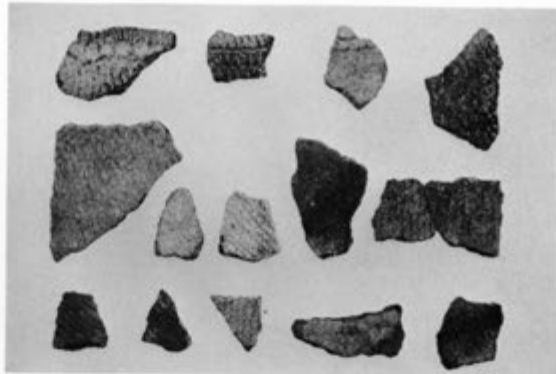
第Ⅸ類土器 (262~271)



第Ⅸ類土器 (272~279)



第Ⅸ類土器 (280)



第Ⅹa類土器 (281~294)



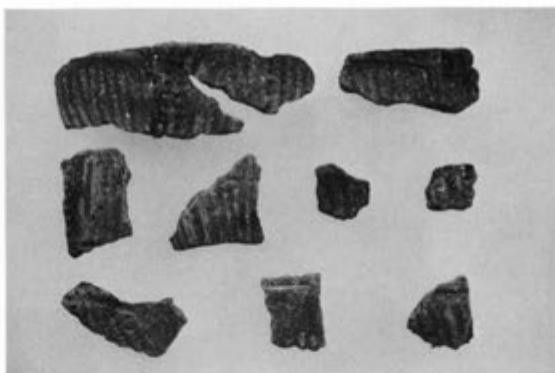
第Ⅹa類土器 (295~303)



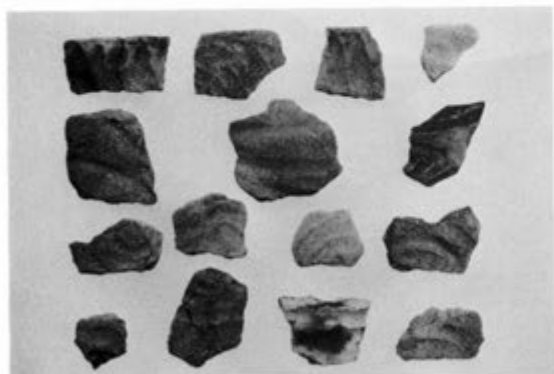
第Ⅹb類土器 (304~309)



第X I a類土器 (310~335)



第X I b類土器 (336~344)



第X II類土器 (345~359)



第X III a, b類土器 (360~372)



第X III b類土器 (372~394)



第X III c類土器 (395~402)



第X III d類土器 (403~405)



第X IV類土器 (406・407)



第XIV類土器 (408~425)



第XV類土器 (426~435)



第XVI・XVII類土器 (436~451)



第XVIII類土器 (452~456)



第IX a類土器 (457~470)



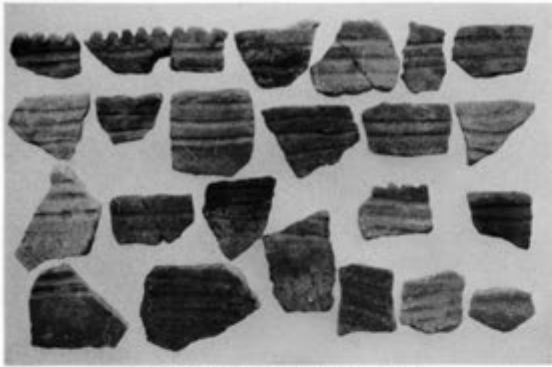
第IX b類土器 (471~491)



第IX b類土器 (491~508)



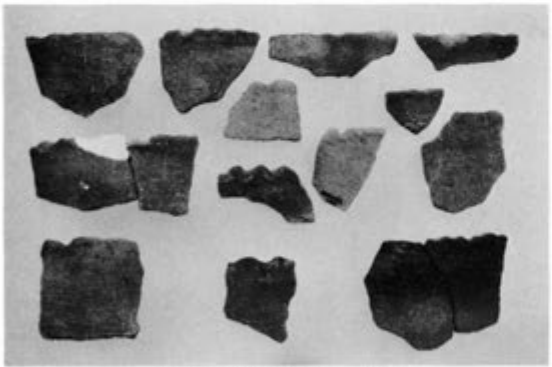
第IX c類土器 (509~533)



第XIX d類土器 (534~556)



第XX類土器 (557~574)



無文土器 1 (575~587)



第XX I類土器 (588~593)



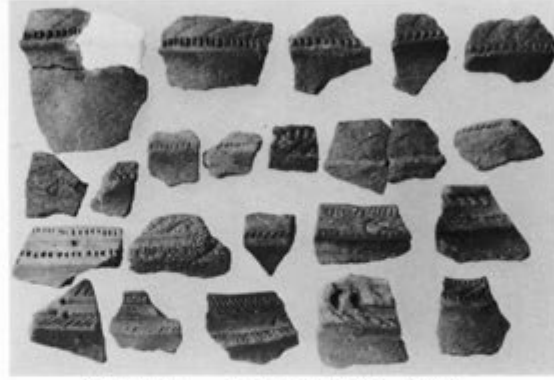
第XX II類土器 (594~598)



第XX III a - 1類土器 (599~616)



第XX III a - 1類土器 (617~634)



第XX III a - 2類土器 (635~656)



第XXIII a - 2類土器 (657~673)



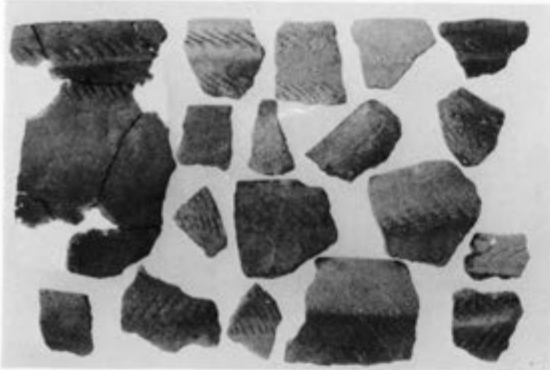
第XXIII b - 1類土器 (674~687)



第XXIII b - 2類土器 (688~699)



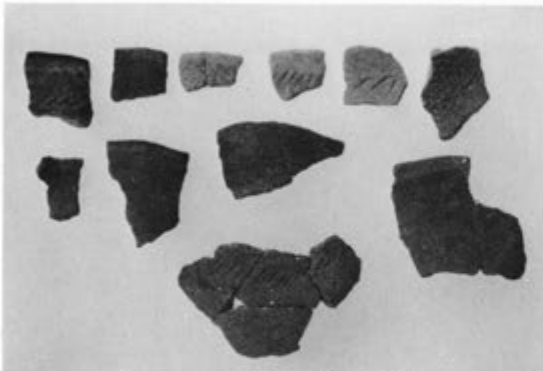
第XXIII b - 2類土器 (700~718)



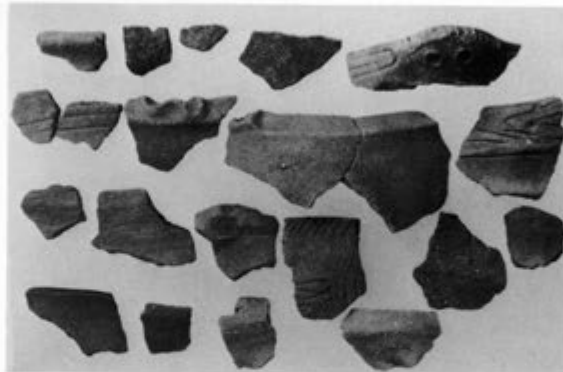
第XXIII d類土器 (742~759)



第XXIV類土器 (760~778)



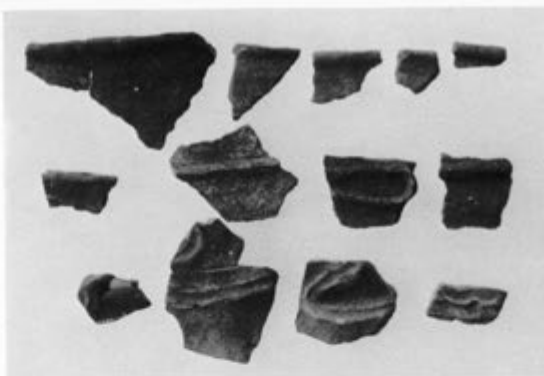
第XXIV類土器 (779~789)



第XXV・XXVI・XXVII類土器 (790~808)



第XXVII類土器 (809~824)



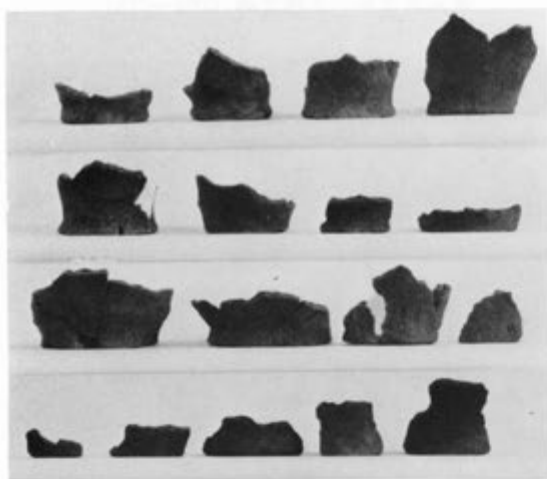
第XXVII類土器 (825~837)



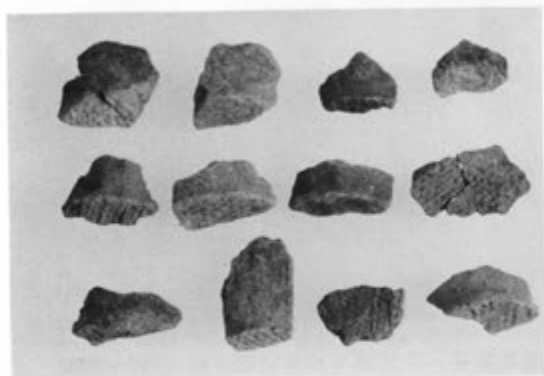
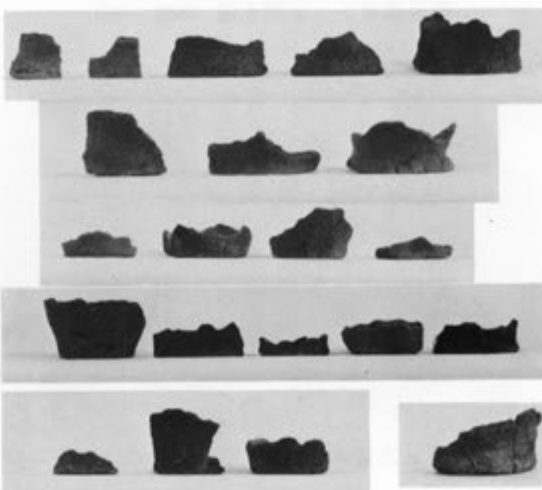
無文土器2 (838~852)



円盤状土製品他 (853~875)

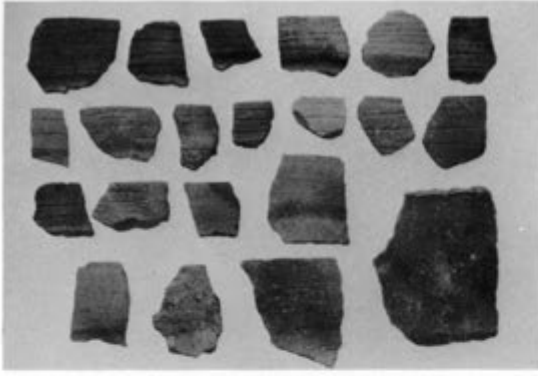


縄文後期底部 (876~905)

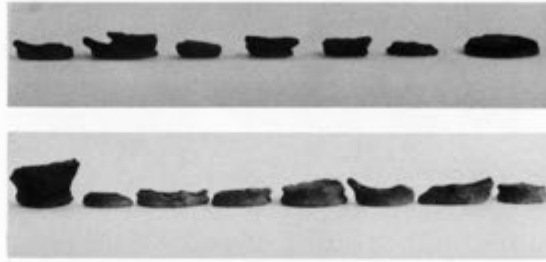


縄文後期底部 (906~924)

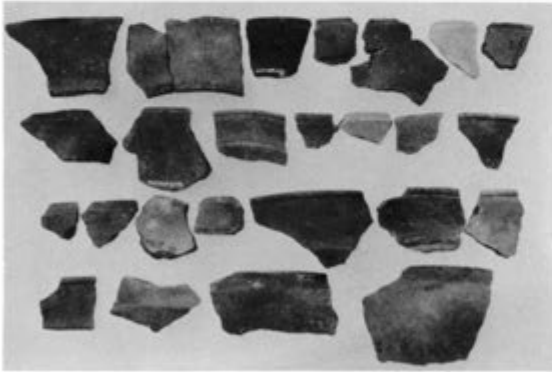




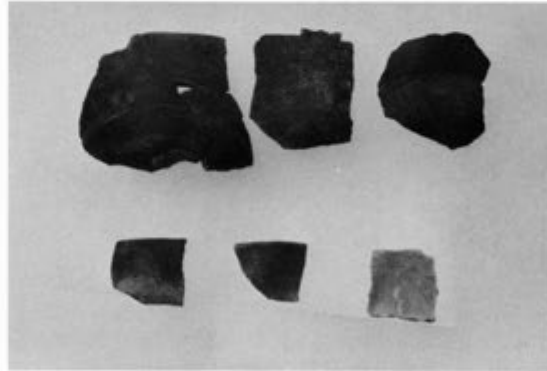
第XXVIII類 (925~945)



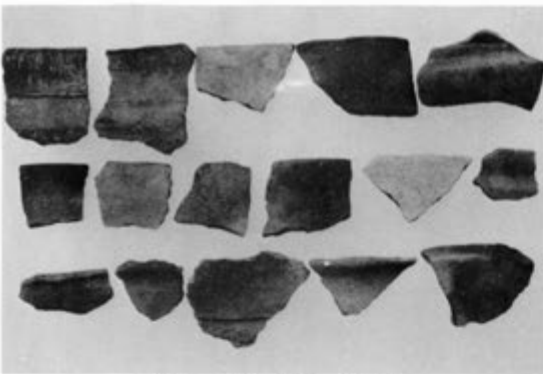
第XXVIII類 (946~952・960~967)



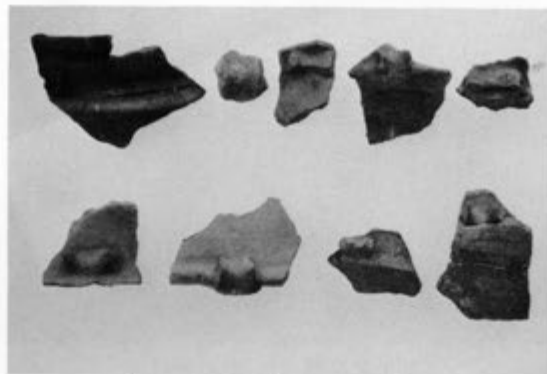
第XXVIII類 (968~992)



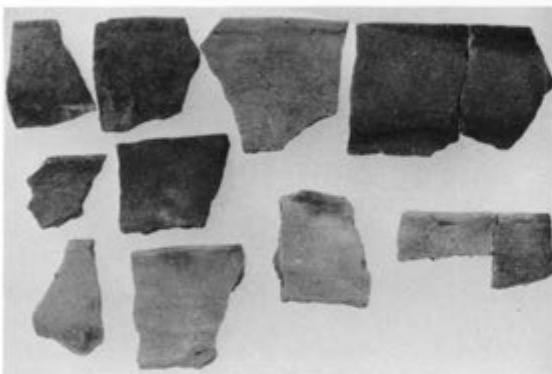
第XXVIII類 (993~997)



第XXIX類 (998~1013)



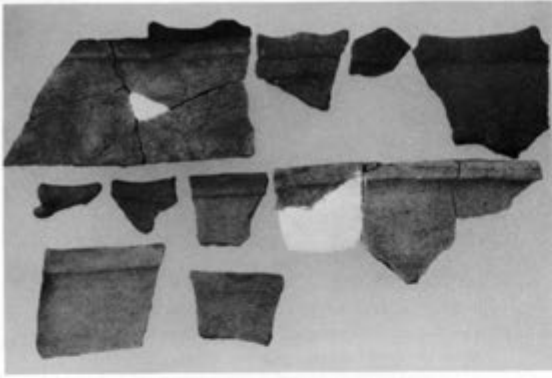
第XXIX類 (1014~1022)



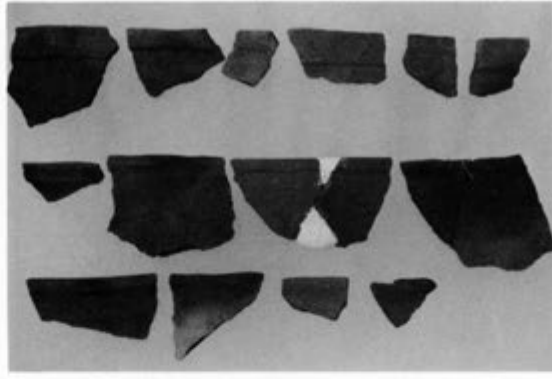
第XXIX類 (1023~1032)



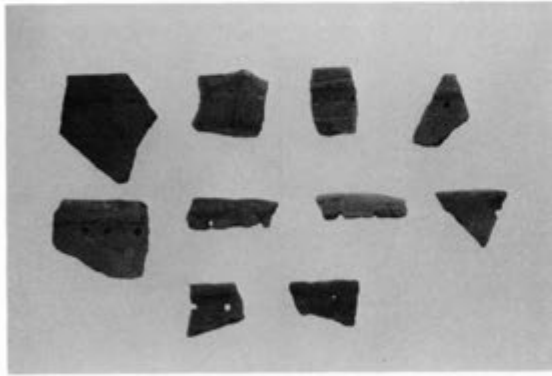
第XXIX類 (1033~1037)



第XX区類 (1038~1047)



第XX区類 (1048~1061)



第XX区類 (1062~1071)



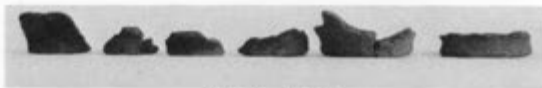
第XX区類 (1072~1077)



第XX区類 (1078~1089)



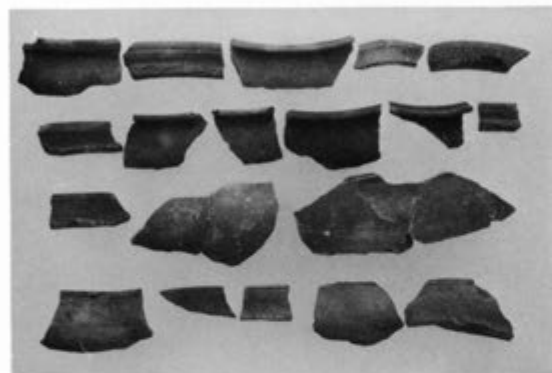
(1090~1094)



(1103~1107)



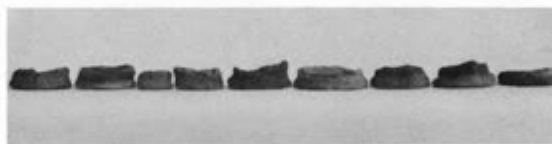
(1096~1101)



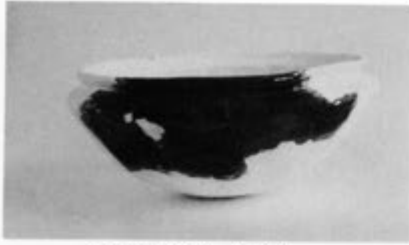
第XX区類 (1124~1142)



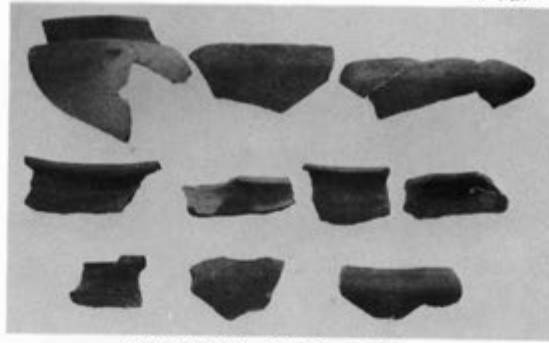
(1108~1114)



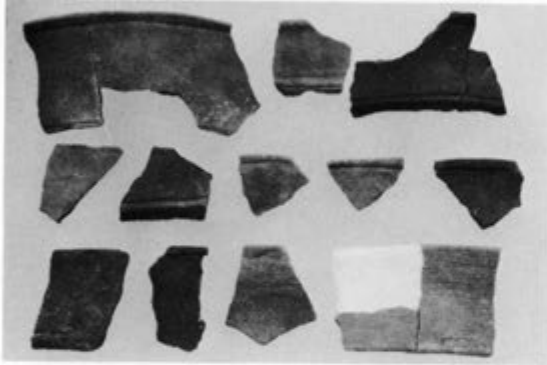
第XX区類底部 (1115~1123)



第XX区類 (1143)



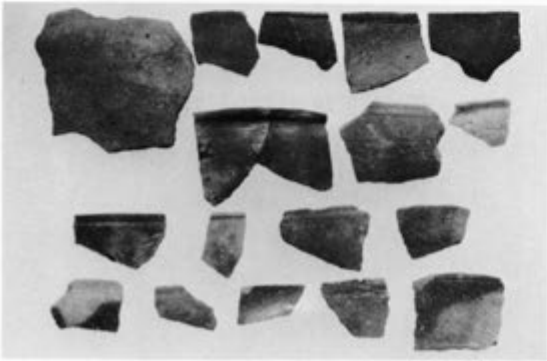
第XX区類 (1144~1153)



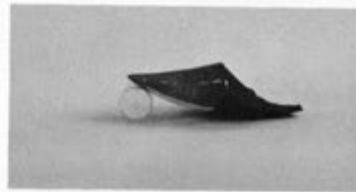
第XX区類 (1162~1173)



第XX区類 (1174~1185)



第XX区類 (1186~1202)



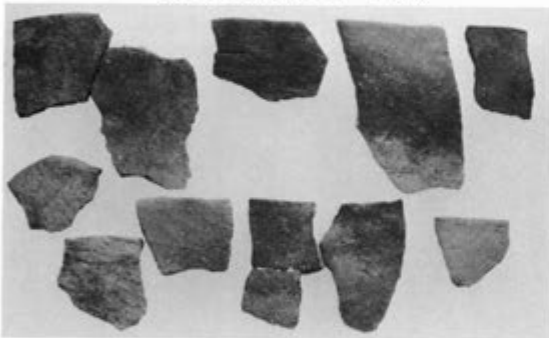
第XX区類 (1203)



第XX区類 (1204~1212)



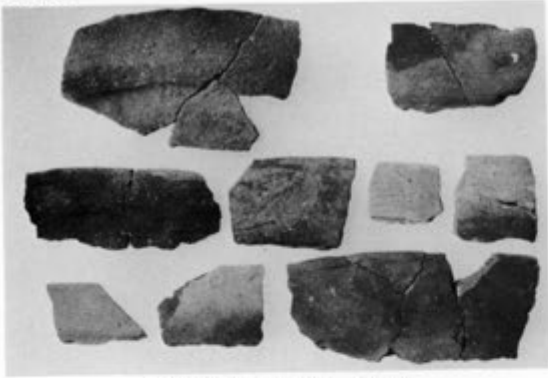
第XX区類 (1213~1217)



第XX区類 (1218~1227)



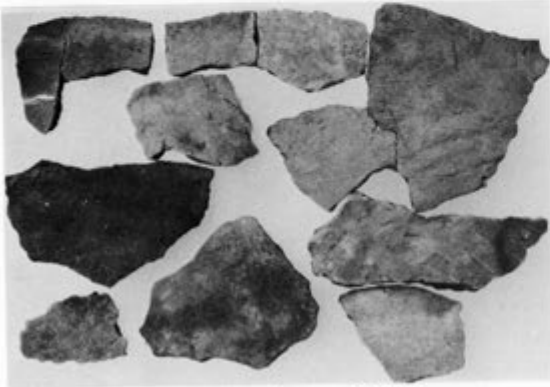
第XX区類 (1236~1243)



第XX区類 (1244~1252)



第XX区類 (1253~1262)



第XX区類 (1263~1271)



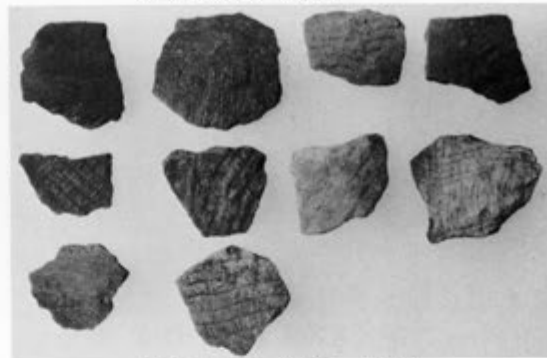
第XX区類 (1272~1277)



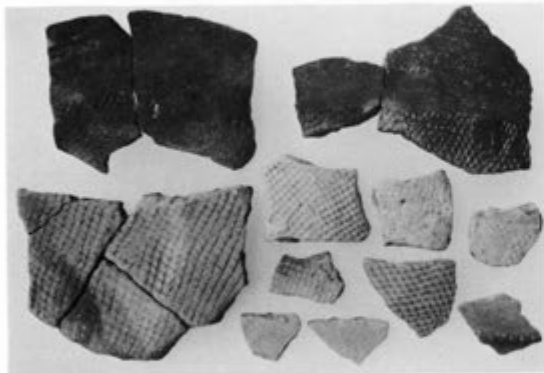
第XX区類 (1278)



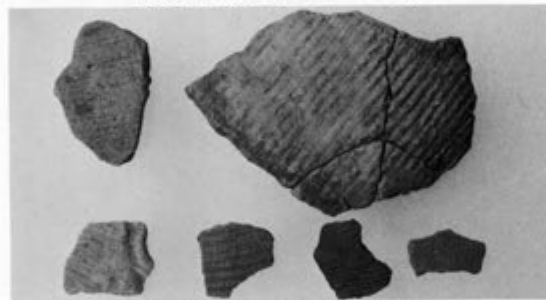
第XX区類 (1289~1298)



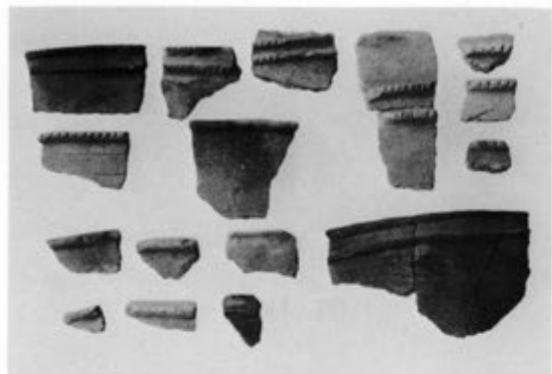
第XX区類 (1279~1288)



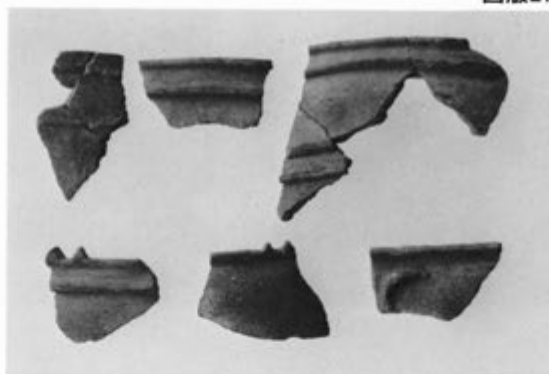
第XX区類 (1305~1314) 第XXX類 (1315)



第XX区類 (1299~1304)



弥生甕第Ⅱ～Ⅳ類土器 (1316～1338)



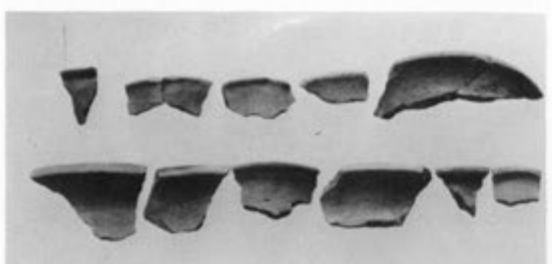
弥生甕第Ⅳ類土器 (1345～1350)



弥生甕第Ⅴ～Ⅶ類土器 (1351～1367)



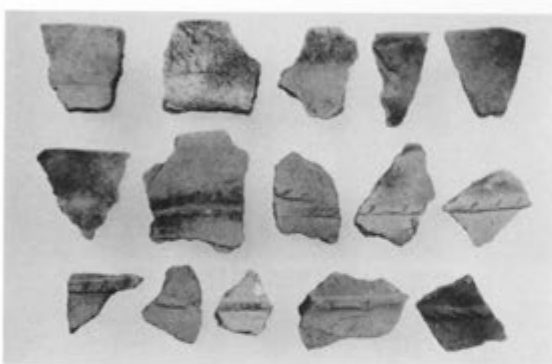
弥生壺第Ⅰ類土器 (1376～1381)



弥生壺第Ⅱ類土器 (1390～1400)



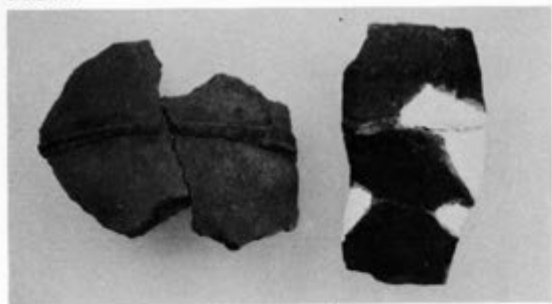
古墳甕第Ⅰ類土器 (1405～1412)



古墳甕第Ⅰ類土器 (1406～1421)



古墳甕第Ⅰ・Ⅱ類土器 (1422～1425)



(1426・1427)



(1428・1429)



古墳壺第Ⅰ類土器 (1440~1446)



古墳壺第Ⅱ・Ⅲ類土器 (1447~1452)



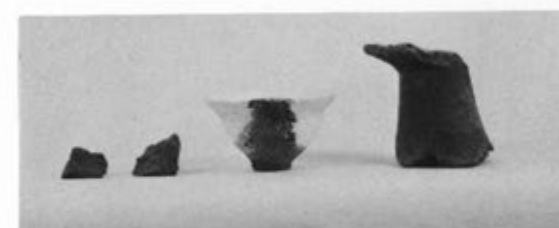
古墳鉢, 高坏他 (1457~1468)



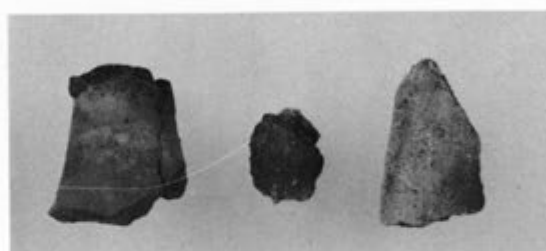
古墳壺形土器底部 (1454~1456)



古墳甕形土器底部 (1434~1437)



古墳埴他 (1459・1462・1469・1470)



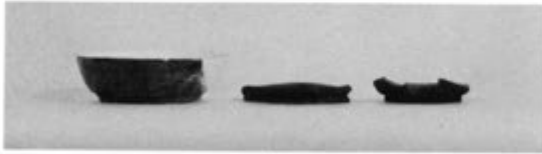
古墳ふいごの羽口 (1471~1473)



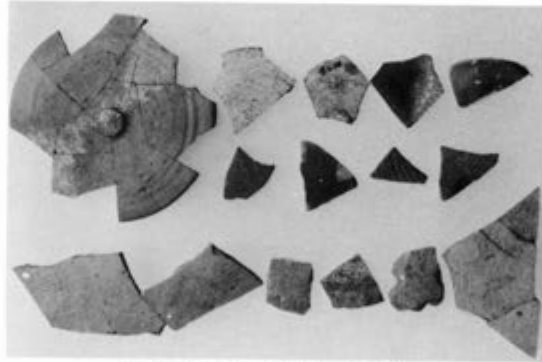
紡錘車 (1474)



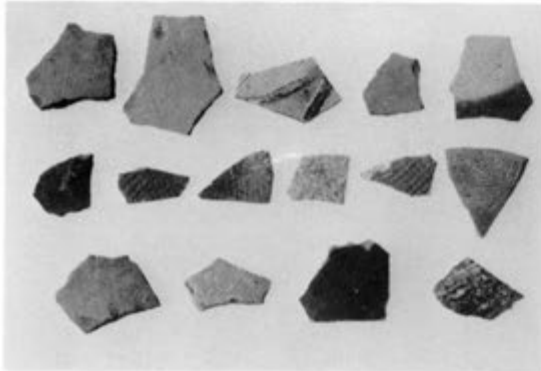
土 錘 (1542~1559)



須恵器坏 (1467~1469)



須恵器蓋他 (1475~1479)



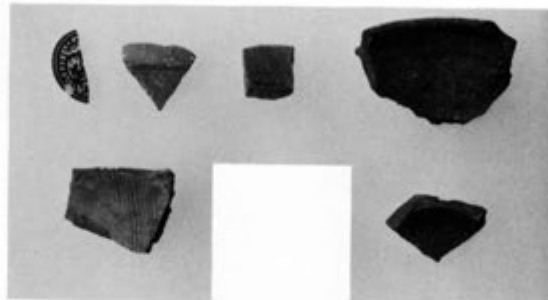
須恵器 (1480~1506)



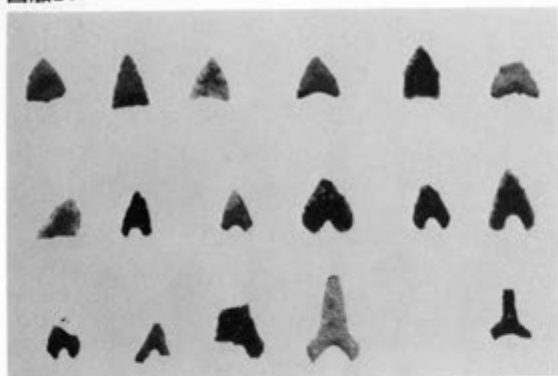
白 磁 (1525)



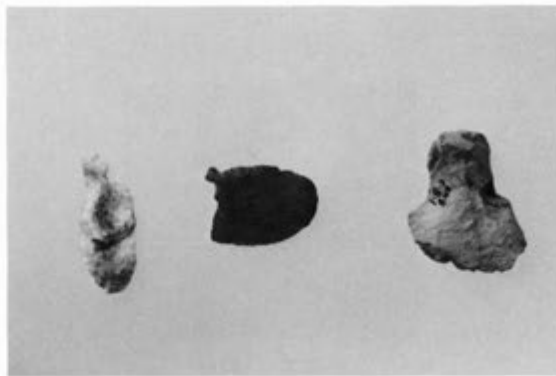
青磁, 白磁, 染付 (1526~1552)



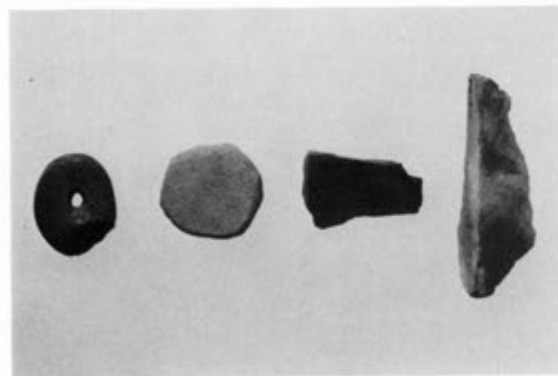
陶 器 (1553~1558)



石 鏃 (1559~1575)



石 匙 (1576~1578)



石 器 (1579~1582)



磨製石斧 (1583~1589)



磨製石斧 (1590~1606)



磨製石斧 (1607~1617)



打製石斧 (1618~1625)



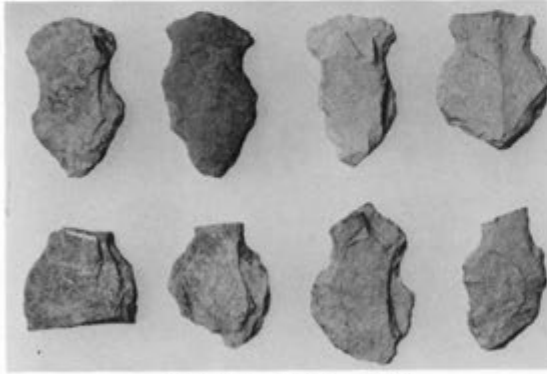
打製石斧 (1626~1632)



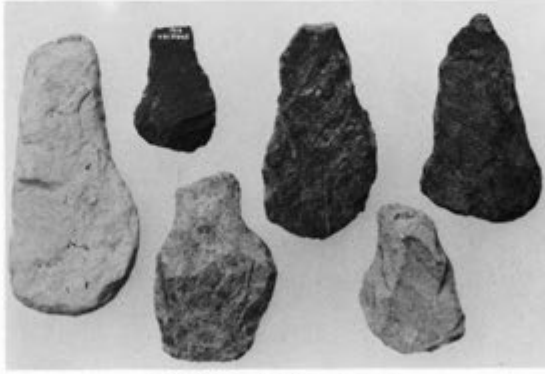
打製石斧 (1633~1639)



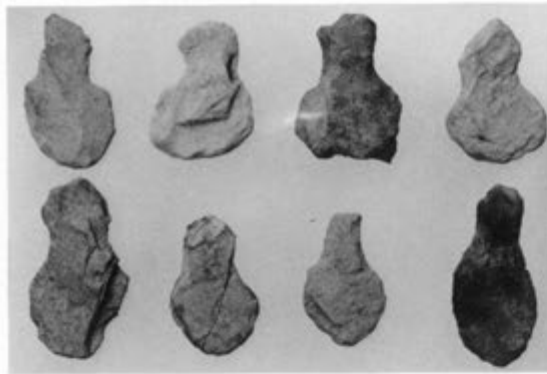
打製石斧 (1640~1647)



打製石斧 (1648~1655)



打製石斧 (1656~1661)



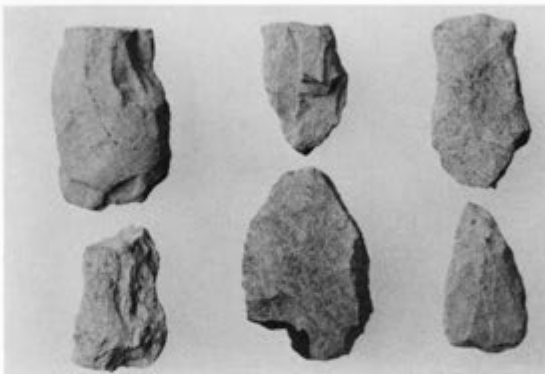
打製石斧 (1662~1669)



打製石斧 (1670~1674)



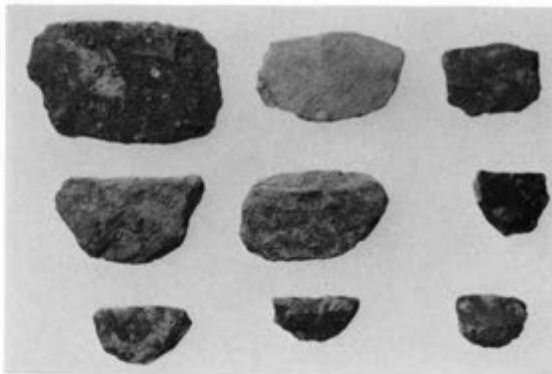
打製石斧 (1675~1678)



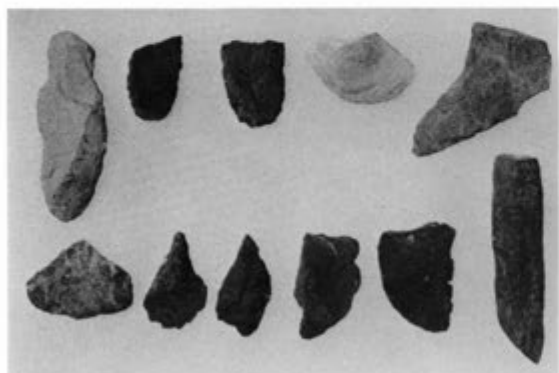
打製石斧 (1679~1684)



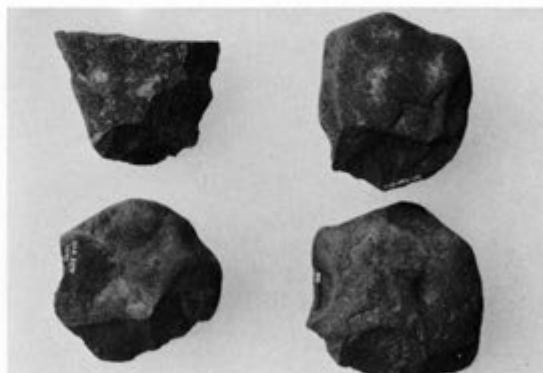
打製石斧 (1685~1687) 石器 (1688~1691)



石器 (1692~1700)



石器 (1701~1711)



石器 (1712~1715)



砥石 (1716~1720)

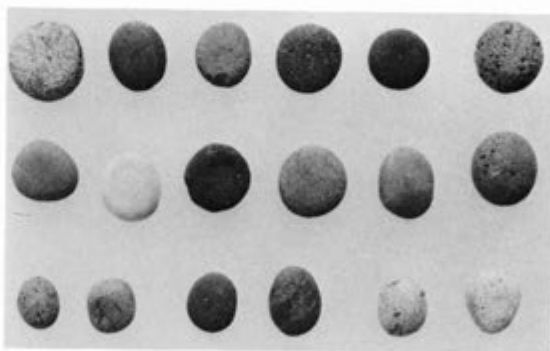


軽石加工品 (1721~1726)



凹石・敲石・磨石 (1727~1739)





凹石・敲石・磨石 (1740~1746・1753~1780)



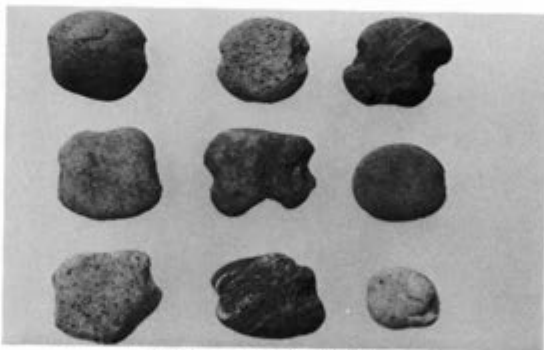
石皿 (1781~1783)

石皿・砥石 (1787~1790)



石皿 (1784~1786)

石錘 (1791~1799)



石錘 (1800~1808)

石錘 (1809~1817)

付 篇

1. 榎木原遺跡の液体シンチレーション

¹⁴C年代測定

京都産業大学 理学部 年代研究室 山田 治

2. 榎木原遺跡におけるプラントオパール分析

宮崎大学農学部 農作業管理学研究室

1. 榎木原遺跡の液体シンチレーション¹⁴C年代測定

榎木原遺跡の依頼試料の炭素年代測定結果を御報告申し上げます。

京都産業大学 理学部 年代研究室 山田 治

液体シンチレーション¹⁴C年代測定結果報告

測定番号

K S U—1218	No. 1	C—2—IV	2140±50
	No. 2	測定不能	
K S U—1219	No. 3	C—7 土壌	390±50

註1. BPは、元来は Before Present の略であります。(RADIOCARBON 誌にもそう書かれています。)しかし、Present が毎年動いては困るので、AD1950年をもって Present すなわち O BP とすることに、国際的な約束で決められております。

註2. ¹⁴Cの半減期は5568年を用いる約束になっていますので、上記の結果も5568年で計算されています。もし5730年を出したいときは、上の結果に 1,029 (=5730÷5568) を掛けてください。

註3. 年代の誤差は、1標準偏差(1シグマ)であらわされることに約束されています。数学的には、真の値が含まれる確率は次のようになっています。(普通は、真の値を含む範囲が1標準偏差の4倍を越えることは殆どありません。)

1シグマ(1標準偏差)中に68%、2シグマ中に95%、3シグマ中に99.7%

たとえば、5000±100 BPとなっているときは、4900ないし5100BPの内にある確率が68%であり、4800ないし5200BP内である確率が95%、4700ないし5300BP内である確率が99.7%であります。

註4. ¹⁴C年代が得られるとそれから年輪年代(絶対年代)が求められます。くわしくは次の文献を御覧ください。

E. K. Ralph et al. MASCA News Letter, 1973

H. N. Michael, E. K. Ralph, RADIO-CARBON, 1984

東村 武信 考古学と物理化学(学生社)

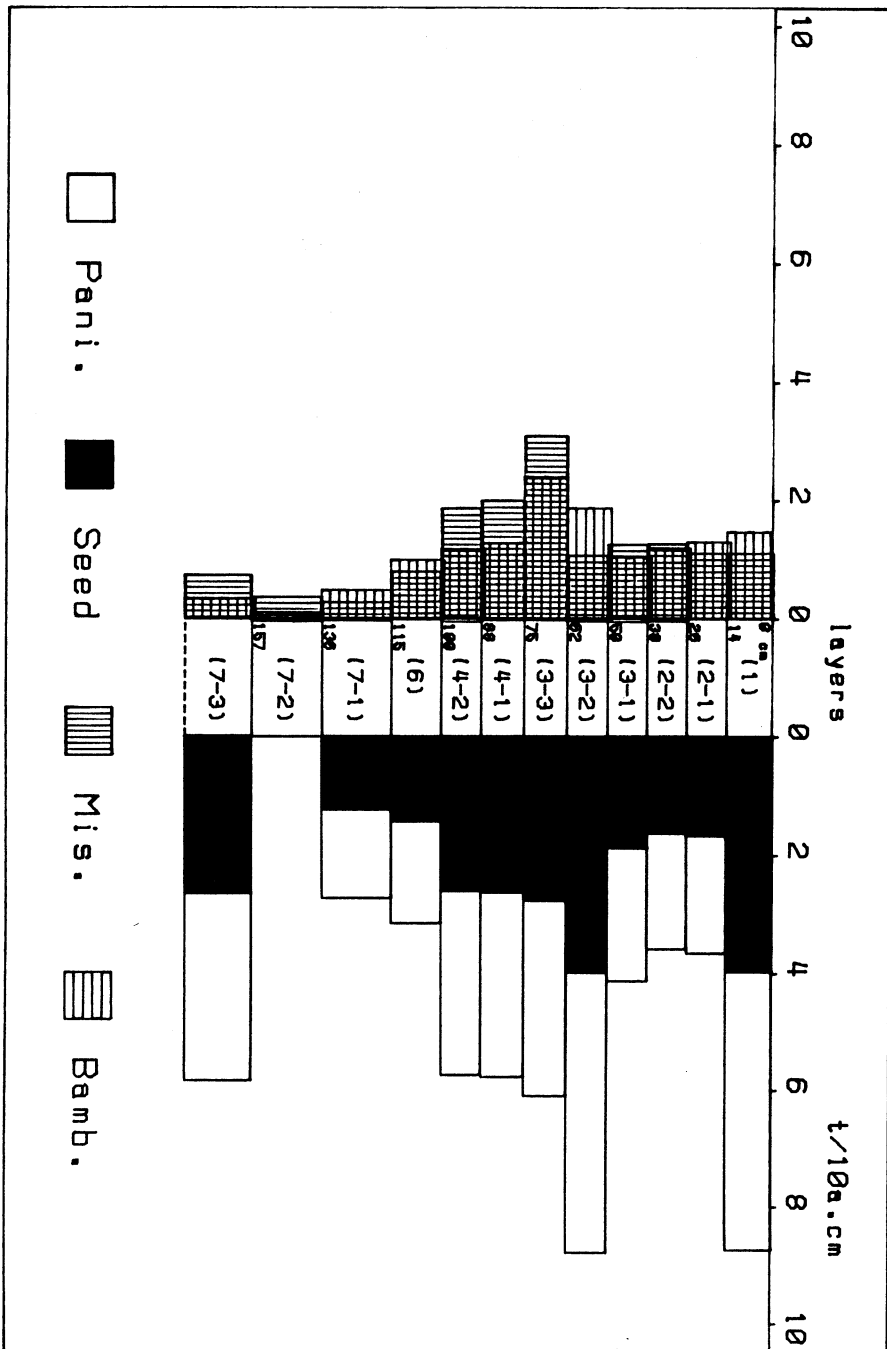
2. 榎木原遺跡におけるプラント・オパール定量分析結果

宮崎大学農学部 農作業管理理学研究室

C-2 S-WALL地点 9/27 85・サンプリング

層名	イネ (Q. sati.)	イネ (rice g.)	植物体 (Pani.)	乾重 (t/10a, cm)	キビ族種実 (Pani. seed)	ヨシ (Phrag.)	タケ亜科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andoro.)
1	3.152	1.104	8.720	3.960	0.000		1.458	1.108
2-1	0.439	0.154	3.645	1.655	0.000		1.291	1.111
2-2	0.860	0.301	3.570	1.621	1.014		1.194	1.270
3-1	1.324	0.464	4.122	1.872	0.000		1.027	1.257
3-2	1.268	0.444	8.768	3.982	0.000		1.863	1.069
3-3	1.956	0.685	6.086	2.764	0.000		2.395	3.093
4-1	0.555	0.194	5.759	2.615	0.000		1.269	1.990
4-2	0.000	0.000	5.731	2.602	0.000		1.172	1.864
6	0.000	0.000	3.143	1.427	0.000		0.989	0.799
7-1	0.000	0.000	2.717	1.234	0.000		0.481	0.276
7-2	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000		0.095	0.368
7-3	0.000	0.000	5.834	2.649	0.000		0.344	0.741

層名	深さ (cm)	層厚 (cm)	GB数/g	植物名	PO/GB	PO数/g	比重	PO数/cc (t/10a, cm)	地上部乾重 (t/10a, cm)	種実重 (t/10a)	種実生産総量
1	0	14	300760	イネ	6/200	9023	1.188	10722	3.152	1.104	15.461
				イネ	4	6015		7148	8.720	3.960	55.439
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	17	25565		30378	1.458		
				ススキ	5	7519		8935	1.108		
2-1	14	12	297436	イネ	1/228	1305	1.145	1494	0.439	0.154	1.846
				イネ	2	2609		2988	3.645	1.655	19.862
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	18	23482		26889	1.291		
				ススキ	6	7827		8963	1.111		
2-2	26	12	292575	イネ	2/226	2479	1.180	2926	0.860	0.301	3.617
				イネ	2	2479		2926	3.570	1.621	19.455
				ヨシ	1	1240		1463	1.014		
				タケ	17	21075		24875	1.194		
				ススキ	7	8678		10243	1.270		
3-1	38	12	300077	イネ	4/276	4349	1.036	4505	1.324	0.464	5.568
				イネ	3	3262		3378	4.122	1.872	22.460
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	19	20658		21397	1.027		
				ススキ	9	9785		10135	1.257		
3-2	50	12	297745	イネ	3/199	4489	0.961	4312	1.268	0.444	5.330
				イネ	5	7481		7187	8.768	3.982	47.779
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	27	40398		38810	1.863		
				ススキ	6	8977		8624	1.069		
3-3	62	13	309170	イネ	4/187	6613	1.006	6652	1.956	0.685	8.907
				イネ	3	4960		4989	6.086	2.764	35.929
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	30	49600		49887	2.395		
				ススキ	15	24800		24944	3.093		
4-1	75	13	302330	イネ	2/229	2640	0.715	1888	0.555	0.194	2.528
				イネ	5	6601		4720	5.759	2.615	33.997
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	28	36966		26435	1.269		
				ススキ	17	22444		16050	1.990		
4-2	88	12	294447	イネ	0/246	0	0.785	0	0.000	0.000	0.000
				イネ	5	5985		4697	5.731	2.602	31.228
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	26	31120		24426	1.172		
				ススキ	16	19151		15032	1.864		
6	100	15	316715	イネ	0/202	0	0.822	0	0.000	0.000	0.000
				イネ	2	3136		2576	3.143	1.427	21.410
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	16	25086		20611	0.989		
				ススキ	5	7839		6441	0.799		
7-1	115	21	283761	イネ	0/240	0	0.942	0	0.000	0.000	0.000
				イネ	2	2365		2227	2.717	1.234	25.910
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	9	10641		10022	0.481		
				ススキ	2	2365		2227	0.276		
7-2	136	21	305458	イネ	0/281	0	0.911	0	0.000	0.000	0.000
				イネ	0	0		0	0.000	0.000	0.000
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	2	2174		1981	0.095		
				ススキ	3	3261		2971	0.368		
7-3	157		304791	イネ	0/247	0	0.969	0	0.000	0.000	0.000
				イネ	4	4936		4782	5.834	2.649	
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	6	7404		7173	0.344		
				ススキ	5	6170		5977	0.741		



カノヤ エノキハ"ル

9/27'85

あ と が き

榎木原遺跡の発掘調査報告書もようやく刊行にこぎつけた。

約半年間の発掘調査が終了してから、もう一年半の歳月が流れている。現在は畑作地帯となっているこの榎木原の台地は、多くの縄文人や弥生人達の“生きた証”を我々に示してくれた。多くの人達に育まれた大地に我々は生きている。そして、我々はそのことを多くの人達に語り継いでいかなければならない。そんなことを改めて感じさせてくれた遺跡であった。

報告書作成にあたっては、できる限り詳細な記録を残すことに心がけたが、約15000点にも及ぶ膨大な資料を前に、立ち往生することもしばしばであった。不備を承知で報告しなければならないことを心苦しく思うが、今後、機会をみて修正し、活用していければ幸いである。

なお、発掘調査、報告書作成の際、多くの方々の御協力、御教示を得た。特に雨宮瑞生（筑波大学大学院生）氏には、実測等の御協力をいただいた。記して感謝の意を表する。

雨宮瑞生・池畑耕一・岡元満子・面高哲郎・上村俊雄・桑畑光博・下山 覚・瀬戸口望・坪根伸也・新田栄治・東 和幸・日高孝治・本田道輝・松園政夫・松永幸男・峯崎幸清・山口俊博・矢部喜多夫・吉本正典・井出 渉

〈発掘作業員〉

雨宮瑞生・石田シズ・大迫トミ・大坪盛蔵・柿内トシ子・鎌田フヂエ・上仮屋エミ・木山キミ・栗原勇男・坂下正・坂下松吉・下仮屋盛雄・下迫エミ子・下宮寅二・凶師ユカ・田中アサエ・田中スズ子・田中ミキ・出口ミツエ・豊倉八重子・中園サヨ・中園正道・永吉イチ子・西元美代子・東サエ子・松元正太郎・宮崎和子・森田エツ子・山上サエ子・山下ミツエ

〈整理作業員〉

後堂悦子・永野香代子・浜田幸江・岩坪千枝子・渡辺栄子・下畠節子・中原己美子・桜元雅子・木田安枝・山下治子・有留珠美

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(44)

国道269号線高須バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

榎 木 原 遺 跡

発行日 昭和62年3月

発 行 鹿児島県教育委員会 〒892 鹿児島市山下町14番50号

印刷所 中央印刷株式会社 〒892 鹿児島市春日町12番16号